

共通教育

開設科目一覽

## 前期 - 主題系列

系列 主題

分野 思想と文化

科目類型 包括

開設科目	日本の政治・経済思想史	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(工除く)	単位	2単位	曜時限	月曜日 5・6時限
担当教官	中尾訓生				
<p>授業概要 授業は民族・国家・国民・社会・市民をキ-ワ-ドとして講義します。戦中の東亞協同体、日中戦争を取り上げます。戦前と戦後を断絶させて論じる仕方が一般的ですが、断絶できないという視点から講義します。</p> <p>授業一般目標 上記のキ-ワ-ドを理解してもらうことを目標とします。ここから思想とイデオロギ-を区別して「断絶」の視点を批判します。思想は文化と表裏一体であること、イデオロギ-は政治的 権力的に国民に注入されている。日本の戦前をイデオロギ-的に塗りつぶすことはできない。文化的要素を抽出していく。</p>					

系列 主題

分野 思想と文化

科目類型 包括

開設科目	外の世界を聞く・知る・見る	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(工除く)	単位	2単位	曜時限	月曜日 5・6時限
担当教官	渡邊淳一				
<p>授業概要 5名の授業担当者の海外における生活体験や仕事上の体験を通して見た国々の事情を聞き、そこに住む人たちがどのような生き方をしているかを知り、その国・その人たちの現在の姿を見、山口大学の若い学生達が日本の外の世界に目を向ける機会を提供します。</p> <p>授業一般目標 担当者がそれぞれに長期生活経験・留学経験・勤務経験を持つイスラム文化圏の国々(パキスタン、エジプト、マレーシア)、ヒンズー教文化圏の国(インド)、仏教・儒教文化圏の国々(中国、韓国)、キリスト教文化圏の国々(アメリカ合衆国、カナダ)の(1)文化・宗教・社会習慣、(2)歴史的概要、(3)社会・政治・教育制度、(4)日本との関わり等について、担当者が交代で授業を行なう。</p> <p>成績評価方法(総合) それぞれの講義毎に課されるレポートの成績と、クラスでの貢献度、出席等を総合的に判断して学期の成績とします。</p> <p>教科書・参考書 参考書：授業の中で担当者が紹介します。</p> <p>教官連絡先 渡邊淳一：w_junichi@hotmail.com, 学内内線：5984 今井新悟：shingoimai@hotmail.com, 学内内線：5088 杉原道子：michikos@yamaguchi-u.ac.jp, 学内内線：9037 赤木彌生：yaoia@yamaguchi-u.ac.jp, 学内内線：5986 門脇薫：kkaoru@yamaguchi-u.ac.jp, 学内内線：5987</p>					

系列 主題

分野 思想と文化

科目類型 包括

開設科目	中国の思想	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(工除く)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教官	林文孝				
<p>授業概要 「中国の思想」の諸相を解説する。今回は歴史観に焦点を当てる。有名な思想家も初めて聞くような思想家も取り混ぜて、さまざまな考え方を取り上げてみたい。</p> <p>授業一般目標 1. 中国思想の特徴を説明できる。2. 現代の常識的な発想法を相対化して見ることができる。</p> <p>成績評価方法(総合) 試験 70%、コメントカード 30%の割合で評価する。コメントカードは出席確認を兼ね、欠席5回で欠格とする。</p> <p>教科書・参考書 教科書：なし。適宜プリントを配布する。/ 参考書：中国の歴史思想, 稲葉一郎, 創文社, 1999年; 中国人の歴史意識, 川勝義雄, 平凡社, 1993年; その他、適宜紹介する。</p> <p>教官連絡先 fumitaka@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部5階</p>					

系列 主題

分野 思想と文化

科目類型 包括

開設科目	仏教の思想	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(工除く)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教官	柏木寧子				
<p>授業概要 - 仏教入門 - 一冊の入門書を読み進めながら、仏教とは何か、その開祖・教説・教団について知り、理解することをめざします。仏教は日本の文化・習俗の一部として私達にとって身近な存在です。しかし、改めて仏教とは何かと云ったら、意外に基本的なことも知らない方が多いのではないのでしょうか。仏教を知ることは、私達のもの考え方の根に目を向けることでもあります。それは宗教としての仏教を受け入れる、受け入れないにかかわらず、大切なことであると考えます。たいへん読み応えのある教科書で、毎回の予習が大変かもしれませんが、皆さんの根気よい取り組みを期待します。</p> <p>授業一般目標 仏教が何を問い何を実践してきたか、最も基本的な点を知り、理解する。</p> <p>成績評価方法(総合) (1) 授業内の小レポート(論理的な思考と文章表現、および問いに対する主体的な取り組みの姿勢を求めます)、(2) 期末試験(基本的知識の習得を求めます)。なお、出席が所定の回数に満たない場合は期末試験を受けることができません。</p> <p>教科書・参考書 教科書：『仏教入門』, 高崎直道, 東京大学出版会, 1983年; 文栄堂にて販売。定価 2,310円。</p> <p>メッセージ 初回授業には必ず出席して下さい。</p> <p>教官連絡先 kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部4階410研究室</p>					

系列 主題

分野 思想と文化

科目類型 包括

開設科目	近代思想家としての夏目漱石	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(工除く)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	村上 林造				
<p>授業概要 明治から大正にかけて生きた作家夏目漱石の生涯をたどって、そこに示された近代の問題性を考察し、思想家としての彼が近代の問題とどう向かい合い、克服しようとしたかを解説する。講義時間内に、講義内容をテーマとしたレポートを数多く課す。</p> <p>授業一般目標 近代の特質と問題性を理解する。近代作家の仕事の意義を、近代の問題とのかかわりの中で理解する。</p> <p>成績評価方法(総合) 授業内レポートと期末レポートを総合的に評価する。</p>					

系列 主題

分野 芸術と表現

科目類型 包括

開設科目	日本の方言	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(工除く)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	添田建治郎				
<p>授業概要 日本語方言の形成過程やその特徴を考えながら、方言研究の意義を明らかにする。</p> <p>授業一般目標 日本語の方言とは何か、その特徴・意義を考える。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験、質問カードの内容、出席</p> <p>教科書・参考書 教科書：新しい国語学, 佐田智明、添田建治郎ほか, 朝倉書店, 1988 年</p> <p>メッセージ 日本語方言、日本語はかけがえのないことば。</p> <p>教官連絡先 研究室：人文学部 5 階(083-933-5249) オフィスアワー：火曜日 13:00~14:30</p>					

系列 主題

分野 芸術と表現

科目類型 包括

開設科目	メディアコンテンツ概論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(工・生資除く)	単位	2単位	曜時限	水曜日 3・4時限
担当教官	熊谷武洋				
<p>授業概要 メディアコンテンツの中でもエンターテインメント分野を中心事例として技術、産業、教育といった多角的な観点からメディアコンテンツに関する理解を深める。講義はインターネットや視聴覚教材を多用する。なお学生によるグループディスカッションや企画プレゼンテーションを講義中に行う。なお、端末台数以上に受講者希望者がいる場合は、選抜を行う。選抜の方法については第一回目の講義内にて説明、実施を行う。</p> <p>授業一般目標 本講義は受講者がメディアコンテンツにおける定義とその可能性について理解し、基本的な企画立案を行えることを目標としている。</p> <p>成績評価方法(総合) グループ制作による企画案のプレゼンテーション、および内容について総合的に評価する</p> <p>教科書・参考書 教科書：講義中において指示する / 参考書：講義中において指示する</p> <p>メッセージ 漫画、アニメ、ゲーム、映画などに興味があり、単なるマニアの視点ではなく多角的に分析できる客観性を持っていることが望ましい。</p> <p>教官連絡先 E-Mail:kumagai@yamaguchi-u.ac.jp 電話：083-933-5403</p>					

系列 主題

分野 社会と組織

科目類型 包括

開設科目	子どもと歴史学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(工除く)	単位	2単位	曜時限	水曜日 3・4時限
担当教官	吉川幸男				
<p>授業概要 「歴史教科書問題」など、歴史教育をめぐる諸問題については、観念的には誰でも論じられるので、さまざまな政治勢力による運動論的な主張が行われている。これに対して本講義では、子どもの認識発達やカリキュラム論の視点から、歴史教育の歩みや諸外国の動向に照らし、比較教育学的手法で歴史教育問題の基本構造を明らかにする。</p> <p>授業一般目標 教育にかかわる諸問題を「研究的」に考える視座と方法を身につけることを目標とする。そのため、(1)さまざまな歴史カリキュラム・プランに対し、その特色、教育的コンセプトをとらえる、(2)そこにおける「歴史」の概念をとらえる、(3)認知とカリキュラムの視座から歴史教育問題を考えられるようになる、ということを目指す。</p> <p>成績評価方法(総合) 毎時課す小レポート(出席を兼ねる)と、全回終了後の最終レポートによって評価する。割合は、前者が30%、後者が70%で行う。</p> <p>教科書・参考書 教科書：テキストは指定しないが参考書は随時紹介する。</p> <p>メッセージ 受講者は最大80名程度までに制限します。</p>					

系列 主題

分野 社会と組織

科目類型 包括

開設科目	知の広場 - 人と学問 -	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時間	水曜日 7・8 時限
担当教官	渡邊正				
<p>授業概要 山口大学に入学したばかりの学生が、本学およびそれぞれの部局の設立の経緯、発展の過程、現状、およびそれぞれの学問分野の概要を知ることにより、本学の学生としての自覚を持ち得るようにする。</p> <p>授業一般目標 本学におけるそれぞれの学問分野のおおよそを理解し、必要に応じてその分野の専門家や文献にアクセスできる能力を養う。また、講師自身の教育者および研究者としての体験から、それぞれの専門領域の社会的位置づけや将来への展望、さらには人間としての生き方を学ぶことも考えられる。この授業を契機として、学生が学問や社会や人間について問題意識を持つようになることが望ましい。</p> <p>成績評価方法(総合) 受講者に毎回短いコメントを提出させる。講師により最後の講義の後半で試験またはレポートを課すこともある。</p>					

系列 主題

分野 社会と組織

科目類型 包括

開設科目	情報社会と人間	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(工除く)	単位	2 単位	曜時間	木曜日 1・2 時限
担当教官	林徳治				
<p>授業概要 現代の高度情報通新社会において、人間はコンピュータなど情報機器を使い単に情報を機械的に処理する能力だけが求められているのではなく、社会を生き抜く情報社会人として個の確立による主体性、判断力、コミュニケーション能力が求められる。本科目では、現代の社会を振り返り、情報・社会・コミュニケーション活動についての教養を身に付け、実社会で役立つ内容にしたい。</p> <p>授業一般目標 高度情報通信社会を生き抜く人間としての教養を身につける。具体的な項目は以下の通りである。1. 情報とデータ表現について説明できる 2. 情報活用能力を学び、実践できる 3. コミュニケーション活動について学び、自己改善ができる 4. IT社会の光と影を学び、生活に還元できる 5. 情報倫理について学び、生活に還元できる 6. 企業で求められる人材について学び、自己学修について改善できる 7. 社会を生きる人間の心について学び、生活に還元できる 8. 国際協力と国際理解教育について学び、グローバルな視野からものごとを見ることができる 9. これからの社会について考えることができる</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験(中間試験と期末試験)、小テスト/授業内レポート、宿題/授業外レポート、出席等を総合して評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：新・情報社会人のすすめ、情報教養研究会、ぎょうせい、1997年 / 参考書：情報社会を生き抜くプレゼンテーション技術、林徳治、ぎょうせい、2000年</p> <p>教官連絡先 E-mail hayashi9@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5461, 研究室 センター 1 階</p>					

系列 主題

分野 環境と人間

科目類型 包括

開設科目	命と場	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(工除く)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	白井睦訓				
<p>授業概要 ヒトは生物界の中で単独に存在するわけではなく、それを取り巻く環境の中で相互依存の関係をもちながら生存している。その環境には、生物学的側面に加えて、ヒトが作り出した社会的側面も密接に関連している。このように、生命とその場の問題を扱う。</p> <p>授業一般目標 ヒトと生物界の生物学的側面を概略的に理解し、さらに最先端の医学研究や実際の医療現場における先端的医療に加えて、倫理の問題などの生命とそれを取り巻く社会的側面を理解して、それらを総合的に捉えてヒトとしての生命とその場としての環境の現在おかれている問題を主体的に考えることを目指す。</p> <p>成績評価方法(総合) 出席点と試験・レポートの評価が 60 点以上を合格とする。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p>メッセージ 1. 授業中は私語をしない。携帯電話の電源を切っておく。守れない場合には退室をさせ単位を与えない場合もあるので、よく留意すること。2. 質疑応答や質問など、積極的に授業に参加すること。</p> <p>教官連絡先 白井 睦訓(メール:mshirai@yamaguchi-u.ac.jp、研究室:医学部本館 3F、オフィスパワー:火曜日 17:30~19:00)</p>					

系列 主題

分野 環境と人間

科目類型 包括

開設科目	科学の中の動物	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(工除く)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教官	林、甲斐、井上、前田、加藤				
<p>授業概要 病気には多くの種類があり、またその原因も様々である。一方病気の予防や治療には実験動物を用いて病態の解明がなされてきた。そこで実験動物が科学の中で果たしてきた役割について述べるとともに、遺伝子・細胞・組織・個体レベルでの解説を平易にそれぞれの立場から講義する。</p> <p>授業一般目標 病気という視点から科学的なもの見方、考え方について講義する。</p> <p>成績評価方法(総合) 出席点とレポート</p> <p>メッセージ 学生のほとんどが一年生であること、学部も異なっていること、専門知識をほとんどが持ちあわせて無いことから、生命現象に対する興味や科学的思考法を学んで欲しい。</p>					

系列 主題

分野 環境と人間

科目類型 包括

開設科目	環境と植物	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(工除く)	単位	2 単位	曜時間	水曜日 3・4 時限
担当教官	田中秀平・竹松葉・藤井克彦				
<p><b>授業概要</b> 植物は地球環境の保全や食料生産に極めて重要な役割を果たしている。しかし、その植物もまた、周囲の環境から様々な影響を受けており、微生物や昆虫も植物に重要な影響を与えている。微生物は有機物をはじめ各種物質の分解や土壌生態系の重要な担い手として、昆虫は花粉の運搬者として植物の生活に役立っている。しかし微生物や昆虫の中には病原菌や害虫として植物の生育に悪影響を及ぼすものもある。即ち植物と環境の関係は実に多様であり、バランスのとれた生態系を守り育てることが地球環境の保全に不可欠である。一方、食料生産を目的とする農業は、植物の生育や植物と微生物・昆虫の関係を人間の都合に合わせてようとする行為であり、環境保全や食料の安全性の面で様々な問題を抱えている。農業の場にも地球環境問題の一面が見える。講義では、自然生態系および農業生態系における植物と微生物・昆虫の関わりの現状と課題について解説する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 生態系における植物、微生物、昆虫の多様性とその役割、ならびに農業や工業など人の営みが植物、微生物、昆虫などがつくる生態系に及ぼす影響について解説し、生態系が植物をはじめとするあらゆる生物の連鎖的關係によって成り立っていることを理解させることを目標とする。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 試験を行うほか、適宜レポートを課す。成績は出席30%、レポート30%、試験40%の比率で評価する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：毎回プリントを配付する。/ 参考書：参考図書は、最初の講義の時に一括紹介する。</p> <p><b>教官連絡先</b> 研究室：田中秀平(農学部 3F 331 号室)、竹松葉子(農学部 3F 327 号室)、藤井克彦(農学部 4F 418 号室)</p>					

系列 主題

分野 環境と人間

科目類型 包括

開設科目	交通と安全	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(工除く)	単位	2 単位	曜時間	木曜日 1・2 時限
担当教官	澤 喜司郎				
<p><b>授業概要</b> 本授業では、交通事故の原因の9割が私たち人間にあると言われているため、私たち人間にスポットをあて、私たちはなぜ交通事故を起こすのか、どうすれば交通事故を回避できるのかを、簡単な実験を行いつつ、交通と安全の問題について講義する。なお、人身事故や重大な交通違反は犯罪として処罰されるため、医師や看護師、獣医師、教育職員、栄養士、弁護士などを目指す者には必修科目である。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1)交通事故の現状を理解し、交通安全に関する知識を習得する。(2)交通事故を科学的に考える。(3)交通事故を起こさない、交通事故に遭わない態度を身につける。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 成績評価は、定期試験60%、出席15%、毎時間の小レポート15%、授業外レポート(宿題)10%で評価します。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：交通安全論概説(改訂版)、澤 喜司郎、成山堂書店、1998年；交通安全論概説、澤 喜司郎、成山堂書店、2003年</p> <p><b>メッセージ</b> 交通安全については間違った知識、中途半端な知識をもてば、命を落とすことがあります、その点が他の授業とは全く異なります。この授業は諸君の生命にかかわるものですから、不真面目な学生の受講を一切お断りします。また、この授業を受けていれば、事故を起こさずに済んだ学生、死傷せずに済んだ学生がいるのも事実です。</p> <p><b>教官連絡先</b> 電話 933-5553(直) 研究室 経済学部 A-419</p>					

系列 主題

分野 環境と人間

科目類型 包括

開設科目	環境と農業	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(工除く)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教官	藤間充				
<p>授業概要 今や世界の人口は 60 億を越え、21 世紀の半ばには 120 億人に達するとみられている。世界の耕地面積はほぼ限界に達し、今以上の反収増も期待できないなか、はたして地球はこれだけの人口を養っていけるのだろうか。科学技術の発達により食料・環境問題をどこまで克服できるのだろうか。先進国のなかで、もっとも食糧自給率が低いわが国の農業・農村の将来をどうしたらいいのか。持続的農業の本質および科学技術の発達と環境とのかかわりについて講述する。</p> <p>授業一般目標 現状を認識することによって、受講生に危機感をもってもらえば本講義は成功である。何らかの具体策が提言できるようになれば大成功である。</p> <p>成績評価方法(総合) 1. 授業後半時間に小レポートを課す。その内容と、出席で成績を評価する。</p>					

系列 主題

分野 自然と科学

科目類型 包括

開設科目	生命現象のいろいろ	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(工除く)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	福本哲夫				
<p>授業概要 生命現象をいろいろな医学の分野の専門の担当者が生理学的、病理学的あるいは臨床医学的な立場から最近の話題をまじえて解説を行う。</p> <p>授業一般目標 生命現象についてのいろいろな疑問や、新しい情報を耳にしているいろいろな生命現象に興味を持って更に調べてみたりするきっかけを持つ。</p> <p>成績評価方法(総合) 出席ならびに授業態度 50 %、試験の成績 50 %を基本としてこれらをもとに総合的に評価する。</p>					

系列 主題

分野 自然と科学

科目類型 包括

開設科目	地球と人間	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(工除く)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限
担当教官	金折裕司				
<p>授業概要 46 億年におよび地球史や地球で起きている様々な現象が、人間によってどのように理解されてきたのか、地球科学の礎を築いた人たちのエピソードを交えながら、地球環境問題や自然災害と人間の関わり方を講義する。</p> <p>授業一般目標 1. 地球史の中で人類誕生が持つ意味を理解する。 2. 地球環境変化と人間の営みとの関係を理解する。 3. 自然災害の発生メカニズムとその防災対策を理解する。</p> <p>成績評価方法(総合) (1) 授業の中で、5 回ほど小テストを行う。(2) 自分に関わるもしくは関心を抱いている地球科学的な現象についてレポートを作成する。(3) 最後に試験を実施する。以上について、下記の観点・割合で評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：なし。毎回授業内容に関連したプリントを配布する。/ 参考書：山口県の活断層, 金折裕司, 近未来社, 2005 年; 初回の授業で副読本を紹介する。</p> <p>メッセージ 講義内容に関して、自発的に学習する習慣を身につけて欲しい。</p> <p>教官連絡先 kanaori@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：理学部南棟 3 階 344 室 オフィスアワー 火曜日 15:00 ~ 16:00</p>					

系列 主題

分野 自然と科学

科目類型 包括

開設科目	環境とバイオテクノロジー	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(工除く)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	古賀大三				
<p>授業概要 20 世紀細大の技術といわれている遺伝子工学、バイオテクノロジーとは何かを明らかにし、この技術が現在人間、社会にどのような影響を与えており、将来与えようとしているかを考えてゆく。バイオテクノロジーとは生物のもつ機能を利用して、有用なものを作り出す技術であり、古代より酒、チーズ、醤油などの身近な食品作りに利用されてきた。1980 年代に遺伝子工学の目覚ましい発展により、インシュリン、インターフェロンなどの医薬品の開発が進み、また植物の新しい品種や品質の良い作物が作成できるようになり、さらに、バイオテクノロジーを利用した排水、排ガス処理など環境を守る技術が広く使われており、また、環境にやさしい食料生産方法や製品の開発が進められている。このような人類の健康、食料、環境問題の解決に大きな力を発揮しているバイオテクノロジーの現状と課題について講義で述べる。</p> <p>授業一般目標 生命科学の一般教養として、環境と生物の関わりと農学分野におけるバイオテクノロジーの役割について学んで欲しい。</p> <p>メッセージ ようこそバイオテクノロジーワールドへ</p> <p>教官連絡先 古賀大三(総合研究棟 6 06)、藤井克彦(農学部)、加藤昭夫(総合研究等 105)</p>					

系列 主題

分野 自然と科学

科目類型 包括

開設科目	歴史の中の動物	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(工除く)	単位	2 単位	曜時間	木曜日 1・2 時限
担当教官	田浦保穂・中尾敏彦・佐藤宏				
<p>授業概要 魚類に始まり、両生類、爬虫類、哺乳類と進化してきた脊椎動物の進化の特徴は、化石による骨の変化として捕えることが出来る。次に身近な動物と人間のかかわりあいについて述べる。人間が出現して以来、環境の大きな変化を起こさせた要因の一つに人間による動物の家畜化がある。この歴史を理解することによって、我々と環境とのかかわり合いを理解することが出来るようになるだろう。最後に、中世から現代に至る家畜との関係から、家畜が如何に我々の生活と係わり合い、その増殖に腐心してきたかが分かるであろう。</p> <p>授業一般目標 1. 三つ目は実在したか？更に、実際の犬、ミニ豚及び猿の骨をもちいて理解を深める。2. 身近な動物とヒトとの関係を環境との観点から考察する。3. 家畜の管理・生産にヒトが如何に腐心してきたかを考察する。</p> <p>成績評価方法(総合) 出席率及びレポートの成績により総合的に評価する。</p> <p>教科書・参考書 参考書：脊椎動物のからだ：その比較解剖学，”A.S. ローマー，T.S. パーソンズ著；平光 司訳”，法政大学出版局，1983 年；動物に観る人の歴史，江口保暢著，日本図書刊行会，1998 年；1. 脊椎動物のからだ（ローマン &amp; パーソンズ、法政大学出版、1993）2. 動物に見る人の歴史（江口保暢、日本図書刊行会、1998）3. 最新「乳牛の繁殖管理指針」(中尾敏彦、酪総研、2000)</p> <p>メッセージ 総合評価では、講義への出欠を重視する。</p> <p>教官連絡先 在室中は何時でも可。933-5882</p>					

系列 主題

分野 自然と科学

科目類型 包括

開設科目	火山と地震	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(工除く)	単位	2 単位	曜時間	金曜日 1・2 時限
担当教官	今岡 照喜				
<p>授業概要 日本列島は火山列島でもあり、地震列島でもある。日本列島は昔から繰り返しこのような火山噴火、地震や津波に襲われてきた。大陸縁辺の変動する大地に住んでいる以上、我々は宿命的にこうした火山噴火や地震による災害から完全にのがれることはできそうにもない。一方で、火山と隣り合わせに住む我々は観光、温泉や地熱資源など火山の恩恵に浴している。この講義では、火山や地震がどのような場所でどのような活動をするのか、火山の噴火や地震はなぜ起こるのか、両現象に因果関係があるのかないのか、火山の噴火や地震は予知できるのか、また予知のための戦略はどのようなものか、について具体例をあげながら詳述する。</p> <p>授業一般目標 1. 日本や世界の火山の発生場所、火山噴火のメカニズムについての理解を深める。2. 巨大地震、直下型地震にの発生機構についての理解を深める。3. 火山や地震による被害の現状を知り、防災について考える。</p> <p>成績評価方法(総合) 小テスト、レポートおよび期末試験の結果を下記の観点・割合で評価する。</p> <p>教科書・参考書 参考書：基礎地球科学，西村祐二郎編著，朝倉書店，2002 年；基礎地球科学，西村祐二郎ほか著，朝倉書店、2002 年出版</p> <p>教官連絡先 総合研究棟、701 号室 オフィスアワー 金曜日 15:00～17:00</p>					

系列 主題

分野 健康とスポーツ

科目類型 包括

開設科目	加齢と健康	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(看護・検査・工除く)	単位	2単位	曜時間	月曜日 5・6時限
担当教官	坂部武史ほか				
<p>授業概要 老化は人の一生の中で避けることのできないプロセスであるが、超高齢化社会をむかえるにあたって、いかに健全に年をとっていくことができるかは人生の重要な課題の一つである。このシリーズでは、各臨床医学部門のエキスパートが講師となり、加齢の持つ医学的意味について学ぶ。また、身体活動と健康についても学ぶ。</p> <p>授業一般目標 (1) 加齢が各臓器に与える影響について学ぶ。(2) 老年期特有の疾患についての知識を深める。</p> <p>成績評価方法(総合) 成績評価は最終日に行う試験と、各講義の終了時に配布される小レポートの双方を加味して行う。</p> <p>教科書・参考書 教科書：老年医学テキスト(改訂版), 日本老年医学会, メジカルビュー社, 2002年 / 参考書：神経内科学書, 豊倉康夫, 朝倉書店, 2004年; 内科学(第8版), 杉本恒明, 朝倉書店, 2003年; 老年医学テキスト(改訂版), 日本老年医学会, メジカルビュー社, 2002年</p>					

系列 主題

分野 健康とスポーツ

科目類型 包括

開設科目	健康コンディショニング	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(看護・検査・工除く)	単位	2単位	曜時間	火曜日 3・4時限
担当教官	平田牧三				
<p>授業概要 今日ほど、健康が意識され、求められている時代はありません。本講義では「大学生と健康」を key word に、学生生活での身近な問題をテーマにして、学問と実生活との接点を医学的、保健学的な見地からアプローチします。視覚的な楽しい授業を展開します。</p> <p>授業一般目標 この授業が motivation となり、「健康に生きる」ことの意味を改めて考え、「サバイバル」の視点から、生涯の健康観を形成する。また、心身ともに健康で、たくましく生き抜く力(知識)を取得する。</p> <p>成績評価方法(総合) 期末試験を実施する。小テスト・レポートを課す。スライドを使用し、視覚からの理解に重点を置くため、出席を重視する。以上を下記の観点・割合で評価する。なお、欠席が5回以上は単位を認定しない。</p> <p>教科書・参考書 参考書：学生と健康(改定第2版), 国立大学等保健管理施設協議会編, 南江堂, 2001年</p> <p>メッセージ 試験の成績判定基準としては、明確に自分の健康観を示すこと。枝葉末節なことは問わない。</p> <p>教官連絡先 E-mail: hirata@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 083-933-5161, 研究室: 保健管理センター, オフィスアワー: 10-17:00 (月・火・木)</p>					

系列 主題

分野 健康とスポーツ

科目類型 包括

開設科目	健康とアニマル・セラピー	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(看護・検査・工除く)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	早崎峯夫				
<p>授業概要 動物を介在させた障害者のケアのための活動の実際について講義する。</p> <p>授業一般目標 盲導犬、聴導犬、介助犬を中心に、活動の実際、その効果、を各種資料やビデオ資料によって講義する。</p> <p>成績評価方法(総合) 頻繁にレポートの提出を求める。それを以て理解度を採点する。</p> <p>教科書・参考書 参考書：幸せになる犬との暮らし, 林 義博監修, 幻冬社, 2003 年</p>					

前期 - 人文科学系列

開設科目	哲学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	波多江忠彦				
<p><b>授業概要</b> 人間や事物など「世界」の本質を追求するとされる哲学をその思考方法の観点から概観する。すなわち、既成の知識 / 情報の収集ではなく、それらの根拠や限界（効用を含む）を批判的に検討 / 論及する。具体的な事例として生命倫理の諸問題（たとえば、クローン、生殖補助医療、ターミナルケアなど）を採り上げる。</p> <p><b>授業一般目標</b> 「世界」に対する自分自身の信念なり確信は何処に、また何に根ざしているのか、を検討することを通じて、問題自体を発見し、あるいは提起し、できることならそれらにかんする「問題解決的思考法」を習得すること。</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 主としてペーパーテストの結果で行う（75%）が、講義中に提示するテーマに関するレポート（15%）や抜き打ち的な出席調査（10%）を併せて総合的に判断する。なお、云うまでもなく講義中の私語は厳禁で、注意喚起にも応じない場合は退席を願うこともあり得ます。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：倫理学をはじめよう：論理学からおむつ体験まで、”波多江忠彦、波多江伸子、林大悟著”，木星社，2003年；倫理学をはじめよう—論理学からおむつ体験まで，波多江 / 林他編著，木星舎，2003年 / 参考書：『生命医学倫理』，ピーチャム・チルドレス 永安・立木訳，成文社；『生命倫理学を学ぶ人のために』，加藤・加茂編，世界思想社；生命倫理学の基礎，R.M. ヴィーチ，メデイカ出版，2004年</p> <p><b>メッセージ</b> 出席 / レポートは抜き打ち的な2回で評価 講義中の私語厳禁</p> <p><b>教官連絡先</b> E-メール t.hatae158@jcom.home.ne.jp</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	哲学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	波多江忠彦				
<p><b>授業概要</b> 人間や事物など「世界」の本質を追求する学問とされる哲学をその思考方法の観点から概観する。すなわち、既成の知識 / 情報の収集ではなく、それらの根拠や限界（効用をふくむ）を批判的に検討 / 論及する。具体例として生命倫理の諸問題（たとえば、クローン、生殖補助医療、ターミナルケア）などを採り上げる。</p> <p><b>授業一般目標</b> 「世界」に対する自分自身の信念なり確信は何処に、また何にねざしているのか、を検討することを通じて、問題自体を発見し、あるいは提起し、出来ることならそれらに関する「問題解決的思考法」を習得すること。</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 主としてペーパーテストの結果で行う（75%）が、講義中に提示するテーマに関するレポート（15%）や抜き打ち的な出席調査（10%）を併せて総合的に判断する。なお、云うまでもなく講義中の私語は厳禁で、注意を喚起しても応じない場合は退席を願うこともあり得ます。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：倫理学をはじめよう—論理学からおむつ体験まで，波多江 / 林他編著，木星舎，2003年 / 参考書：『生命医学倫理』，ピーチャム・チルドレス 永安・立木訳，成文社；『生命倫理学を学ぶ人のために』，加藤・加茂編，世界思想社；生命倫理学の基礎，R.M. ヴィーチ，メデイカ出版，2004年</p> <p><b>メッセージ</b> 講義中の私語厳禁</p> <p><b>教官連絡先</b> E-メール t.hatae158@jcom.home.ne.jp</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	哲学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教官	脇條靖弘				
<p>授業概要 この授業では、現代論理学の初歩を学習します。論理学において、われわれは、自分が正しいと考える判断をどのようにして擁護すればよいか、あるいは、自分が間違っていると考える判断をどのように批判すればよいかを学ぶことができます。そして、このことは、当然ながら、どの学問分野においてもとても重要なことです。</p> <p>授業一般目標 現代の論理学で用いられる代表的な記号の意味、命題論理の基本を理解すること。さらに、できればより一般的な演繹の方法としての量理化理論まで進みたいと考えています。</p> <p>成績評価方法 (総合) 試験による。</p> <p>教官連絡先 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	倫理学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全 (生資除く)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教官	古荘真敬				
<p>授業概要 「倫理」とは何なのか。「道徳的な善悪」とはいったい何なのか。各人の「幸福」の追求と「倫理」とは、そもそも調和するものなのだろうか。「倫理」をめぐるこうした問いのうちには、私たち各人が「自由」であることのうちに潜む特有の不安が顔を覗かせている。その不安と今一度、冷静に向き合ってみよう。そして、私たち各人の魂の救いについて考えてみよう。</p> <p>授業一般目標 「倫理」「善悪」「幸福」「自由」をめぐる私たちの日常的理解の根本前提をあらためて問いなおし、人間として生き、死に逝く私たち自身の在り方についての理解を掘り下げる。</p> <p>成績評価方法 (総合) 授業内レポートと期末レポートで評価します。</p> <p>教科書・参考書 教科書：教科書は特にありません。参考書を、随時、紹介します。/ 参考書：倫理とは何か 猫のアインジヒトの挑戦, 永井 均, 産業図書, 2003 年</p> <p>メッセージ 履修希望者が 150 名を超えた場合は、初回の授業時間中にレポートを書いてもらい、その成績で履修者を決定します。したがって、初回には必ず出席してください。</p> <p>教官連絡先 furusho@yamaguchi-u.ac.jp 毎週水曜日 12:50 ~ 14:20</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	生命倫理学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工2年	単位	2単位	曜時限	水曜日 3・4時限
担当教官	谷田憲俊				
<p><b>授業概要</b> 医療には医科学で解決できない諸問題が存在することを理解し、自らが考えて判断できる基礎を築くことを目的とする。そのため、授業では医療に関する様々な課題を提供し、多様な視点からの議論を紹介する。学生には、それぞれについて意見を求め、討論をしながら授業を進めていく。さらに、課題についてのレポートを求め、自己の考えを整理しながら生命倫理に関する素養を修得できるようにする。</p> <p><b>授業一般目標</b> 医療について自らが考え・判断する能力を養い、真に人間的な幸福・豊かさを探求するための「礎」を築く。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 出席点 40%、レポート点 40%、試験結果 20%</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：脱稿しているインフォームド・コンセントに関する書が講義期間内に仕上がれば、それを教科書として使用する。/ 参考書：幸せをよぶコミュニケーション、ジャック・サロメ、行路社、2004年；講義資料はプリントとしては用意しないが、PowerPoint ファイルとして予め学生に e メールで送付することができる。</p> <p><b>メッセージ</b> PowerPoint ファイル講義資料を希望する学生は、tanida@yamaguchi-u.ac.jp までメールすること。なお、ファイルが大きいので、2M ほどの容量を要する。また、さかのぼっての送付はしないし、講義終了とともに、この受付は停止するので留意すること。</p> <p><b>教官連絡先</b> tanida@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	生命倫理学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全	単位	2単位	曜時限	木曜日 3・4時限
担当教官	谷田憲俊				
<p><b>授業概要</b> 医療には医科学で解決できない諸問題が存在することを理解し、自らが考えて判断できる基礎を築くことを目的とする。そのため、授業では生命倫理・医療倫理に関する様々な課題を提供し、多様な視点からの議論を紹介する。学生には、それぞれについて意見を求め、討論をしながら授業を進めていく。さらに、課題についてのレポートを求め、自己の考えを整理しながら生命倫理に関する素養を修得できるようにする。</p> <p><b>授業一般目標</b> 生命倫理の諸問題について自らが考え・判断する能力を養い、真に人間的な幸福・豊かさを探求するための「礎」を築く。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 出席点 40%、レポート点 40%、試験結果 20%</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：脱稿しているインフォームド・コンセントに関する書が講義期間内に仕上がれば、それを教科書として使用する。/ 参考書：幸せをよぶコミュニケーション、ジャック・サロメ、行路社、2004年；講義資料はプリントとしては用意しないが、PowerPoint ファイルとして予め学生に e メールで送付することができる。</p> <p><b>メッセージ</b> PowerPoint ファイル講義資料を希望する学生は、tanida@yamaguchi-u.ac.jp までメールすること。なお、ファイルが大きいので、大学のアドレス以外には送れない。また、さかのぼっての送付はしないし、講義終了とともに、この受付は停止するので、試験前になってから得ることはできないので留意すること。</p> <p><b>教官連絡先</b> tanida@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	生命倫理学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教官	村瀬 ひろみ				
<p><b>授業概要</b> 近年、科学技術の発展とともに、医療をめぐる技術にも大きな変化があります。また、病気の種類や治療に対する考え方も変化してきました。従来の「おまかせ医療」では、解決できない問題が出てきています。本授業では、脳死・臓器移植や、高度生殖医療などの最先端技術について倫理問題としての側面からアプローチします。医療者としてではなく、一般の医療サービスを受ける人としての立場から、技術内容、問題点を理解できるようにします。(もちろん、医療関係者の卵の方も大歓迎です)。</p> <p><b>授業一般目標</b> 近年、激動の医療現場では、さまざまな利害が衝突し、また、価値を伴う判断を迫られることになってきました。そのような場合に、判断の根拠となるものが「倫理」です。本講では、生命や医療にまつわる生命倫理学の立場から、さまざまな医療環境における問題を考える力を養うことを目的とします。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 基本的に、ペーパー試験のみとする。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：講義中に指示。プリントも使用予定。 / 参考書：医療倫理 I・II, グレゴリー・E・ペンス, みすず書房, 2000 年; 医の倫理, H・プロディ, 東京大学出版局, 1983 年; 私的所有論, 立岩真也, 勁草書房, 1997 年; 毎回、参考書を指示する。</p> <p><b>メッセージ</b> 意欲的な取り組みを期待しています。</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	日本史	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全 (獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	木部和昭				
<p><b>授業概要</b> テーマ：近代山口県産業史 本講義では、近代(明治～昭和戦前期)における山口県の諸産業の歴史について取り扱う。明治維新以後、日本が国を挙げて殖産興業政策を推し進め、産業革命を達成するなど近代化・工業化に成功したことは周知の事実である。では、明治維新発祥の地の一つである長州、すなわち山口県地域においては、それはどのような形で進行していったのであろうか。本講義では、江戸時代以来の在来産業から、洋式技術導入によって成立した近代工業までを視野に入れつつ、近代化・工業化が地域経済に及ぼした影響について言及し、あわせて山口県産業・工業の現状を規定する歴史的要因に関しても考察を加えてみたい。</p> <p><b>授業一般目標</b> ・近代における日本史の流れを復習しつつ、より踏み込んだ大学レベルの日本史について学ぶ。・山口という地域に対する理解を深める。・歴史が現在の我々の生活と深く関わっている事を認識させる。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 学期末試験は論述形式。講義中、数回程度のレポートを課す。期末試験 65%、小レポート 20%、出席 15%</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：テキストは特に指定しない。資料プリントを毎回配布する。 / 参考書：参考文献については、講義の中で適宜紹介する。</p> <p><b>メッセージ</b> 山口県の土地勘のない人は、適当な山口県地図などを入手した方が、講義を理解する上で役立つと思われる(特に1年生)。</p> <p><b>教官連絡先</b> 経済学部 C207 研究室 内線 5566 E-mail ; kibe@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	東洋史	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	横田伸子				
<p><b>授業概要</b> 第二次世界大戦後の世界システムの構造変化の中で、東アジア地域では、韓国、台湾が「東アジアの奇跡」と呼ばれる高度成長を遂げました。本講義では 1960 年代後半以降の韓国経済の発展のメカニズムを、内在的条件、国際的条件の両側面から歴史的に見ていきます。さらに、特論として、このような韓国の経済発展を支えた「開発体制」の一環としての「民族史観」と、それに対抗する新しい歴史学の動きを見ていきたいと思います。</p> <p><b>授業一般目標</b> 韓国の経済発展のメカニズムを、内在的条件、国際的条件の両側面から歴史的に捉える。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 1. 試験とレポート、講義の内容に対する質問や意見など卵を総合的に判断する。2. 出席を重視する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：なし。授業中に適宜プリントを配付する。/ 参考書：現代から見た東アジア近現代史, 中村哲編, 青木書店, 2001 年; 東アジア経済の軌跡, 堀和生他編, 青木書店, 2001 年; 東アジア経済の構造, 西口清勝他編, 青木書店, 2001 年; 変動の東アジア社会, 北原淳編, 青木書店, 2002 年; 韓国近現代史, 鄭在貞, 桐書房, 1993 年</p> <p><b>メッセージ</b> 第一回目授業の受講者が 100 人を超過した場合は抽選によって受講を制限する。</p> <p><b>教官連絡先</b> e-mail:ynobuko@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	東洋史	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	馬彪				
<p><b>授業概要</b> 本講義は、中国伝統文化史の面より前近代の東洋史を紹介するものである。その内容は中国人の担当教員として、日本人の大学生によく聞かれる「漢字」「黄河」「兵馬俑」「故宮」「孔子」「廿四史」「天子」などに関する質問に答えるように設けた。それは中国における人間文化・空間文化・時間文化のような担当教員の独創的なわく組みとする授業である。</p> <p><b>授業一般目標</b> 近年の中国における大きな社会変化は、21 世紀の中国が人類の歴史に巨大な影響を与えるということを次第にはっきりと世の人に知らしめるようになった。「一衣帯水」の隣国である日本の大学生としては、その専門を問わず、中国文化を知る必要があるといえよう。この必要に応じるため、簡潔かつ分かりやすく悠久の歴史をもつ中国文化を教えることを目標とする。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 成績評価は基本的に出席(30%)と試験(70%)で行う。</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	東洋史	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工2年	単位	2単位	曜時限	木曜日 5・6時限
担当教官	大林洋五				
<p>授業概要 中国近・現代史(19世紀半ばから20世紀末まで)に限定して講義する。中国の半植民地化の進行と、それからの脱却をめざした中国民衆の苦闘をたどる。</p> <p>授業一般目標 事実の羅列(「…があった」「…がおこった」)ではなく、「なぜ、そうなのか」「なぜ、そうなったのか」「それは何をもたらしたか」、当事者(人, 集団, 国)の意図, 原因, 結果を考えたい。とくに、日本との関係を重視する。</p> <p>成績評価方法(総合) 期末試験(小論文)を行なう。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 使用しない/ 参考書: 世界史年表(簡単なものでよい)を用意してほしい</p> <p>メッセージ 講義中, 講義後の質問歓迎。ノートを取ることで、大林の話の聞いて、そのロジックを理解し、疑問をもつようにしてほしい。</p> <p>教官連絡先 083-924-9638(自宅), FAXによる質問を歓迎する。</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	西洋史	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2単位	曜時限	月曜日 9・10時限
担当教官	藤永康政				
<p>授業概要 歴史学は暗記の術ではなく、解釈の学問である。この授業では、1960年代後半よりアメリカ史の叙述の中心のひとつになってきた、アメリカ黒人の通史を概観する。最初に新大陸にアフリカ人が住み始めてから、現代までの概史を取り扱う。</p> <p>授業一般目標 ・歴史学の方法論について理解を深める ・今日の歴史学が進んでいる方向への理解を深める ・アメリカ社会への理解を深める</p> <p>成績評価方法(総合) 授業中の質問、意見、等々の発言をもっとも高く評価する。期末に筆記試験を行う</p> <p>メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。(ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること)</p> <p>教官連絡先 メールアドレス: yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水: 11時50分から12時50分</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	西洋史	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工2年	単位	2単位	曜時間	木曜日 3・4時限
担当教官	眞木利江				
<p>授業概要 近代建築の史的展開を概観し、各時代の建築が成立した背景、建築家の設計理念、建築理論、および空間構成の手法を解説する。</p> <p>授業一般目標 (1)近代建築の史的展開を理解する。(2)各時代の建築が成立した背景、建築理論、空間意味を理解する。(3)建築家の設計理念、空間構成の手法を理解する。(4)空間デザインに対する認識を深める。</p> <p>成績評価方法(総合) 期末試験により評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：プリント配布。/ 参考書：近代建築史図集, 日本建築学会編, 彰国社, 1976年; 近代建築史, 桐敷真次郎, 共立出版, 2001年</p> <p>メッセージ 建築に関心を持つ学生の受講を希望する。</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	西洋史	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2単位	曜時間	木曜日 7・8時限
担当教官	古賀大介				
<p>授業概要 みなさんは高校生時代、教科書に書かれている「歴史」は絶対的に正しいと習ってきたと思います。しかも、みなさんにとっての「歴史」は、暗記科目であったと思います。本講義では、こうした「常識」を突き崩すことから始まります。そして、西洋史・経済史をベースとしながら、歴史的な発想・考え方を養う訓練をしていきます。最終的には、今を、そしてこれからを生きる私たちに「歴史」(歴史的考え方)が、いかなる意味を持つのか、一緒に考えてみたいと思います。</p> <p>授業一般目標 1. 高校までに習った「歴史」に対するイメージを転換する。 2. 西洋史・経済史をベースとしながら現代社会・経済の様々な問題を相対化する眼を養う。</p> <p>成績評価方法(総合) 出席(コメント票に対する評価)と、定期試験の総合評価となります。</p> <p>教科書・参考書 教科書：毎回オリジナル・レジュメを配布する/ 参考書：あなたが歴史と出会うとき, 堺憲一, 名古屋大学出版会, 1989年</p> <p>メッセージ 本講義は、ある一つのテーマ・専門領域を深く追求するといったスタイルの講義と異なります。テーマ追求型の講義スタイルを期待する方はご遠慮ください。また、歴史が嫌いな人・苦手な人はご遠慮ください。ただ、ほんとに歴史が好きの人、世の中の仕組みを真剣に知りたい人は、ぜひ受講してみてください。本講義では、史実の紹介よりも「歴史的」考え方の紹介に力点が置かれます。応募者多数の場合、やる気と、1. 人文学部・教育学部・理学部・他大学生 &gt; 2. 経済学部 &gt; 3. 工学部・その他の学部の順での選抜となります。但し、2年生以上については、この順に関わらず、優先的に受講を認めます。</p> <p>教官連絡先 経済学部 A208(古賀研究室)</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 人文科学

分野 宗教学

科目類型 総説

開設科目	宗教学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2単位	曜時限	月曜日 5・6時限
担当教官	岡村康夫				
<p>授業概要 世界の宗教、主に世界三大宗教の歴史およびその教えについて学ぶ。</p> <p>授業一般目標 世界の宗教、特に仏教、キリスト教、イスラーム教について紹介し、宗教学的観点から「宗教とは何か」を学ぶ。</p> <p>成績評価方法(総合) 毎回の授業についての理解度を見るレポートと最終試験によって評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：世界の宗教, 村上重良, 岩波ジュニア新書, 1980年</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 人文科学

分野 心理学

科目類型 総説

開設科目	心理学(子どもを科学する)	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(生資除く)	単位	2単位	曜時限	火曜日 7・8時限
担当教官	白石敏行				
<p>授業概要 心理学とはどのような学問であるのかを概説する。</p> <p>授業一般目標 心理学に関する基礎的事項について理解する。</p> <p>成績評価方法(総合) 出席、授業への参加、および学期末のテストをもとに総合的に評価する。特別な理由を除き、3回以上欠席した場合には、評価対象外とします。</p> <p>メッセージ 人数制限(上限100名程度)を設けますので、初回には必ず出席してください(特別な理由がない限り、初回の欠席者の履修は認めません)。受講態度等他の受講者の迷惑となるような行為を行った場合は、それ以降の受講を認めません。子どもの心理発達に関心のある方の受講を望みます。</p> <p>教官連絡先 連絡先:(083)933-5330 t-shira@yamaguchi-u.ac.jp 研究室:教育学部4階 白石研究室(404室)</p> <p>オフィスアワー:随時</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	心理学 (青年期までの人間発達)	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全 (生資除く)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	大石英史				
<p>授業概要 心理学の中の特に幼児期から青年期までの発達心理学及び青年期の臨床心理学に焦点を当て、講義を行う。</p> <p>授業一般目標 具体的な事例を通して、人間の成長と発達に必要なかわりと青年期不適応の心の理解がある程度できるようになることが、この授業の目標である。</p> <p>メッセージ 受講者を 100 名程度に絞ります。</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	心理学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全 (生資除く)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	恒吉徹三・福田廣				
<p>授業概要 ここを理解するための学問である心理学の諸領域の中から、いくつかのトピックスを取り上げて講義します。</p> <p>授業一般目標 (1) 人の意識体験や行動の背景となっている心を理解することが、どれほど日常の暮らしの中での行為であるかを知ること。(2) 心理学とはどのような学問であるのか、心の解明についての研究方法、心への実証的・了解的アプローチの特徴をとらえること。(3) 心その機能別に区分し、そうした領域の研究成果を示し、様々な現象についての基本的説明概念の理解を深めること。</p> <p>成績評価方法 (総合) 成績は、小テスト (前半の講義の小テスト 10 点、後半の講義の小テスト 10 点。合計 20 点) 及び期末試験 (80 点) で評価します。なお、前半の講義 (1～7 週目) および後半の講義 (8～14 週目) において、それぞれ 5 回以上の出席をし、合計 12 回以上の出席をもって期末試験の受験資格とします。私語など講義の進行の妨げとなるような行為があって 3 回の注意を行った場合を欠格条件とします。また、10 分以上の遅刻は理由を問わず入室を一切認めません。</p> <p>教科書・参考書 教科書： はじめて出会う心理学、長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦、有斐閣、2000 年 / 参考書： あなたの心理学、吉岡一郎編、北王路書房、1985 年</p> <p>メッセージ 120 名を超える場合は、初回の講義で抽選を行うので必ず本人が出席すること。抽選終了後にはいかなる理由であっても追加受講は一切認めないので留意すること。自らのことについても日常生活の中で振り返ってみてほしい。</p> <p>教官連絡先 恒吉：392 号室 (933 - 5446) 福田：378 号室 (933 - 5455)</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	心理学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(生資除く)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	福田廣・恒吉徹三				
<p><b>授業概要</b> こころを理解するための学問である心理学の諸領域の中から、いくつかのトピックスを取り上げて講義します。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) 人の意識体験や行動の背景となっている心を理解することが、どれほど日常の暮らしの中での行為であるかを知ること。(2) 心理学とはどのような学問であるのか、心の解明についての研究方法、心への実証的・了解的アプローチの特徴をとらえること。(3) 心をその機能別に区分し、そうした領域の研究成果を示し、様々な現象についての基本的説明概念の理解を深めること。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 成績は、小テスト(前半の講義の小テスト10点、後半の講義の小テスト10点。合計20点)及び期末試験(80点)で評価します。なお、前半の講義(1～7週目)および後半の講義(8～14週目)において、それぞれ5回以上の出席をし、合計12回以上の出席をもって期末試験の受験資格とします。私語など講義の進行の妨げとなるような行為があって3回の注意を行った場合を欠格条件とします。また、10分以上の遅刻は理由を問わず入室を一切認めません。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：はじめて出会う心理学、長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦、有斐閣、2000年 / 参考書：あなたの心理学、吉岡一郎編、北王路書房、1985年</p> <p><b>メッセージ</b> 120名を超える場合は、初回の講義で抽選を行うので必ず本人が出席すること。抽選終了後にはいかなる理由であっても追加受講は一切認めないので留意すること。自らのことについても日常生活の中で振り返ってみてほしい。</p> <p><b>教官連絡先</b> 福田：378号室(933 - 5455) 恒吉：392号室(933 - 5446)</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	心理学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(生資除く)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教官	堂野佐俊				
<p><b>授業概要</b> 心理学を「行動の科学」と捉え、人間の行動の原理とメカニズムを科学的方法論に立脚した具体的な研究とデータに基づいて体系的に概説する。我々の日常生活の中で体験する広範囲の興味深い心理現象について、できるだけ実証的な資料等を取り入れながら解明し、人間としての疑問や心の原理の不思議について理解する。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) 感覚・知覚や学習理論など、人間の行動の基礎について明らかにする。(2) 個性や性格など、人間のパーソナリティの構造や個人差について理解を深める。(3) 集団の中で生活する上で必要なソーシャル・スキルや複雑な人間関係の中で適応的に生きることの意義など、社会生活と適応の理論について考える。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 2回のレポートをすべて提出し、レポート及び期末試験において、適切な記述ができていることが評価される。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：原岡一馬(編)「心理学概論」、堂野佐俊・他、ナカニシヤ出版、1986年 / 参考書：その都度指示します。</p> <p><b>メッセージ</b> 日常生活において馴染みの多い体験的な心理現象についてのテーマもあると考えるので、積極的に興味・関心をもって取り組みましょう。</p> <p><b>教官連絡先</b> 堂野研究室(5449)・水曜日(10:30～12:00)</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	心理学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	看護・検査	単位	2 単位	曜時限	木曜日 9・10 時限
担当教官	清 俊夫				
<p><b>授業概要</b> ある人の行動を理解しようとする場合、その人の客観的な人柄と、その行動が起こった時の客観的な環境が理解できれば、おのずからその行動が理解できるというものではない。客観的な人柄や環境と並んで、その人が環境や自らをどう認知していたかが重要な要因となる。加えて、青年期 後期にある皆さんには、自分を知り、自分を確立していくことが重要な課題である。そのことによって初めて、私たちは安定し、自分の目標を持って生き生きと生活できるからである。この授業は、他者の理解や援助、自己の理解や形成の基礎となる心理学の基礎知識やを学ぶ。</p> <p><b>授業一般目標</b> 私たちの知(知覚, 学習, 思考など)、情(感情, 動機付け, 態度など)、人柄(パーソナリティと自己)について、心理学がこれまで明らかにしてきたものを理解し、加えて自らを振り返り、理解し、自分の人生の目標を少しでも明確にすることを目指す。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 期末試験 50%、小テスト 40%、出席 10%</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: 心理学, 岡堂哲雄, 金子書房, 1985 年</p> <p><b>メッセージ</b> 再試験はしませんので、日々の授業、小試験、定期試験に真剣に取り組んでください。</p> <p><b>教官連絡先</b> seitoshi-ygc@umin.ac.jp office phone:(0836)22-2802 授業矢会議等の時間を除き随時 office hour:随時(授業・会議等のないときはいつでも)</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	日本文学(古典精読)	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	森野正弘				
<p><b>授業概要</b> 平安時代の物語文学である『源氏物語』を読み解く。『源氏物語』は全五十四帖にわたる大作であるが、本授業ではそのうちの第三部とされる巻々に焦点を絞り、鑑賞に比重を置いた読みを試みる。</p> <p><b>授業一般目標</b> 作品の読解を通して平安貴族たちの感性や文化について学び、それらの知見と教養を培うことを目標とする。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 成績評価は中間試験と期末試験を合計して算出する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: 源氏物語 第八巻, 玉上琢弥, 角川ソフィア文庫, 1997 年 / 参考書: 源氏物語事典, 林田孝和ほか, 大和書房, 2002 年; 新編日本古典文学全集 源氏物語 全六冊, 阿部秋生ほか, 小学館, 1997 年; 新日本古典文学大系 源氏物語 全五冊, 柳井滋ほか, 岩波書店, 1993 年; 源氏物語必携事典, 秋山虔・室伏信助, 角川書店, 1998 年; 源氏物語の鑑賞と基礎知識 全 43 冊, 鈴木一雄監修, 至文堂, 2005 年</p> <p><b>メッセージ</b> 出席状況 80%未滿の者は欠格とする。授業開始後 15 分を過ぎてからの入室は出席として認めない。また、私語を交わしたり、携帯電話を使用することは厳禁である。</p> <p><b>教官連絡先</b> morino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー水曜日 5・6 時限</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 人文科学

分野 文学

科目類型 総説

開設科目	漢文	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(生資・獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	川口喜治				
<p><b>授業概要</b> 本授業では、漢文(中国古典語)で書かれた文献を精読する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 本授業は、中国および周辺諸国の文化を理解するために、中国古典語(皆さんがこれまでに「漢文」として学習してきたことば)読解の基礎力を養成することを目標とする。なお周辺諸国と書いたのは、例えば日本において、中国古典語(日本化したもの)による文学や歴史などの資料が多く存在するからである。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 期末試験を実施する。漢文読解の基礎的知識と読解力に重点を置いて問題を作成する予定である。期末試験のみによる成績評価であるが、授業中に特筆すべき学習態度などが見られた場合は、適宜評価する(但し満点は100点)。なお出席が規定の回数に満たない者は、期末試験の受験を認めず、成績評価の対象としない。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: プリントで配布する。/ 参考書: 授業中に適宜紹介する。</p> <p><b>メッセージ</b> 漢文の文章は、極めて簡潔に、つまり使用する漢字をできる限り節約して書かれているのが特徴です。漢字、一字一字をおろそかにせず、読解に挑戦してみてください。</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 人文科学

分野 言語学

科目類型 総説

開設科目	言語学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	John Phillips				
<p><b>授業概要</b> This course will present an overview of the field of Linguistics.</p> <p><b>授業一般目標</b> An understanding of what it is that linguists work on..</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 期末試験による。</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	芸術史(美術史)	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2単位	曜時限	火曜日1・2時限
担当教官	吉田貴富				

**授業概要** 【内容】造形表現を絵画作品を中心として美術史的に概観する。必ずしも通史的な扱いはしない。美術史上の造形表現方法論を用いて簡単な制作(表現)をすることによって体験的な理解をはかる。【留意事項】楽しくかつ厳しく授業を進め、お互いが不快な思いをしないようにしようと思っています。高校までの美術の経験や知識は問いません。それよりも現時点での美術に関する興味・関心・意欲を求めます。遅刻をしないという基本的な生活習慣も必要です。受動的に講義を聴くだけではありません。こちらが提示する作品について「あなたの考え」を話してもらいます。簡単な表現も試みてもらいますし、その過程や結果について語ってもらっても構いません。できるだけ対話的に進めて行こうと思っています。ほぼ毎回課題を出します。教室の容量に応じて受講者数を制限します(方法はくじ引き)。第2週からの受講はお断りします。初心者(?)向けの授業です。人文学部や教育学部で美術を専攻している方には物足りないと思います。したがって、人数制限をする場合には、まずその方からご遠慮いただきます。受講態度について具体的に指摘しなければ分からない学生が多いので、ここに一部記しておきます。飲食・私語・携帯電話は厳禁。教室内では原則として帽子は脱ぎなさい。遅れて教室に入る場合は静かに歩くこと。授業が始まってから教卓前(授業者と受講者の間)を通らないこと。眠ったり体調が優れなかったりして机に伏せなければいけないような状態ならば、欠席して自宅で寝て下さい(退出してもらいます)。課題等提出物は、所定の形式を守れない物は受け取りません。出席確認や課題提出に不正があった場合には、不正を依頼した側と依頼されて実行した側の双方の受講資格と受験資格が失われます。

**授業一般目標** 造形表現を美術史的に理解する。

**成績評価方法(総合)** 一応、下記のような評価方法を考えているが、授業の状況に応じて変更もあり得る。授業は生き物である。変更も含めて、最終的な評価の割合については、最終回の授業で説明する。遅刻は10分までは認める。それ以降の入室はお断りする(=欠席)。欠席は理由を問わず3回までは認める。4回以上欠席すると受験資格を失う。出席状況は「欠格条件」でもあるが、当然のことながら「授業態度・授業参加度」としても勘案する。

**教科書・参考書** 教科書:『図説 名画の歴史』,西岡文彦,河出書房新社,2001年;定価1890円/参考書:必要に応じて授業の中で適宜紹介する。

**教官連絡先** 研究室:教育学部南棟2階 電話&FAX:083-933-5372 E-mail:takatomi@yamaguchi-u.ac.jp メール送付の際「件名」に「授業科目名」か「自分の所属・氏名」を明記すること。見知らぬアドレスからの件名の無いメールは開かないことにしています。オフィスアワーは設けません。連絡を取ってから訪ねてくれるのが確実ですが、通りすがりにノックしてくれても構いません。

**備考** 工学部 JABEE 対応科目

開設科目	芸術実践(美術)	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(生資・獣医除く)	単位	2単位	曜時限	金曜日7・8時限
担当教官	河野令二、中野良寿				

**授業概要** 美術の分野の中で、絵画、工芸の制作と、鑑賞をとおして、美術分野の一端を理解する。絵画の分野では描写や彩色の実技をとおして絵画表現の手法を習得する。工芸の分野では竹による工芸制作をとおして、その手法を習得するとともに竹の造形文化について学ぶ。

**授業一般目標** (1)絵画の分野では描写や彩色の実技をとおして絵画表現の手法を習得する。(2)工芸の分野では竹によるものづくりと竹の造形文化について理解を深める。

**成績評価方法(総合)** (1)授業態度、授業への参加度30%(2)受講者の制作作品30%(3)出席40%

**備考** 工学部 JABEE 対応科目

前期 - 社会科学系列

系列 社会科学

分野 法学

科目類型 総説

開設科目	法学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(経除く)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	青 達朗				
<p>授業概要 この講義は、法律に関する基本的な用語・概念を理解すると共に、社会においてどのような法律が存在し機能しているかを説明することにより、教養としての法学(経済社会における法的問題に対する処理能力)の基礎を学習する。</p> <p>授業一般目標 法学の基本的な考え方、概念、実定法の体系等について理解することを目標とする。</p> <p>成績評価方法(総合) 期末試験(短答式)による。各回の講義内容から必ず1問以上出題する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：現代法学入門(第4版)、伊藤正巳他、有斐閣、2005年</p> <p>メッセージ 法学は無味乾燥であり、最初は知識を習得することから始まります。授業に出席し真面目に講義を聴くこと。全てはそこから出発です。</p> <p>教官連絡先 aoyagi@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 社会科学

分野 法学

科目類型 総説

開設科目	法学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(経除く)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	平中貫一				
<p>授業概要 法学の基礎として民法を学ぶ。</p> <p>授業一般目標 民法の基礎的知識の修得</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	日本国憲法	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工2年	単位	2単位	曜時限	
担当教官					
備考 工学部 JABEE 対応科目					

開設科目	日本国憲法	区分	講義	開設期	前期
対象学生		単位	2単位	曜時限	木曜日 5・6時限
担当教官	立山紘毅				
<p><b>授業概要</b> 2005年秋の衆議院選挙圧勝の勢に乗って、自由民主党は日本国憲法の改正試案を発表した。もちろん、こうした出来事は今に始まったことではなく、日本国憲法は常に政権与党の改憲圧力にさらされ続けてきた、という異様な過去をもつ。もちろん、憲法の基本性格が政権担当者を法の下に拘束する、というものである以上、権力者にとっては「めの上のこぶ」に等しい存在であることは古今東西を問わない。ただ、そこには一つに政治・社会風土における日本的な特質が検出され、もう一つに戦後史の影が大きく反映されている。この講義では、昨年発表された自民党憲法改正試案を出発点として、その基本性格を分析する中から、日本国憲法の本来もつべき価値を抽出し、さらに過去へ遡って憲法改正論の推移をたどろうとするものである。</p> <p><b>授業一般目標</b> 上述したとおり、憲法は生きた政治を相手にする法であるとともに、きわめて原理的な（哲学的とさえいえる）考察を必要とする法である。したがって、講義は多面的な性格をもたざるをえないが、「憲法改正論」を手がかりとして、その全貌に及ぼうとするものである。したがって、間違っても中学・高校の延長上にはない、と頭を切り替えて臨んでほしい。</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 私の講義では、基本的に定期試験での成績をほぼ100%として評価する。講義外でのレポートなども加味することはありうるが、夏期休業前に講義を全部終える、との制度「改変」のため、一冊分厚い書物を読んで、長いレポートをみっちり書いてもらう、という手法は事実上不可能となった（それに拍車をかけているのが「ハッピー・マンデー」とやらである。これも「法律上の制度」である）。また、実社会では、おおむね「結果すべての一発勝負」が「評価」であることや、「多面的な観点からの評価」のごときは「学校」の中での甘い言い訳に過ぎないことも十分承知しておかれない。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：特に指定しない / 参考書：講義の展開に応じて指示する</p> <p><b>教官連絡先</b> オフィス・アワーは設定していないが、種々の理由から、在室は不定時なので、事前に e-mail でアポイントメントを取っていただきたい。</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	日本国憲法	区分	講義	開設期	前期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6 時限
担当教官	上杉信敬				
<p>授業概要 国の基本法である日本国憲法の内容について考えていく。その際、国民主権、基本的人権の保障、権力分立、平和主義、などの主要原則について考えていく。そして、国民が主権者であることを基本として大切なことを理解していく。その際、憲法の問題は、政治と法の双方がかかわることに注意していく。</p> <p>授業一般目標 最高法規について重要なことを理解すること。</p> <p>成績評価方法 (総合) 定期試験 (中間試験と期末試験) = 60 ~ 80 % 小テスト / 授業内レポート = 20 % 未満 宿題 / 授業外レポート = 20 % 未満 出席 = 20 % 未満</p> <p>教科書・参考書 教科書：開講時に指示する。 / 参考書：開講時に指示する。</p> <p>メッセージ 最高法規に関して、権力分立、人権保障、平和主義などについて考えよう。</p> <p>教官連絡先 内線 5 5 8 8</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	政治学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全 (経・獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6 時限
担当教官	渡辺 幹雄				
<p>授業概要 本講義では、政治学の基本的な問題について、さまざまな観点から考察する。物事の善悪を問う規範的な視点、事象に即してその分析を試みる実証的な視点を織り交ぜながら、政治学 (国際関係を含む) のメイン・トピックスについて、複合的なアプローチを試みる。政治学は本来総合的な学問であるから、取り上げる問題に応じて、広く他の学問領域にも言及する。</p> <p>授業一般目標 第一に、さまざまな出来事の中で、それをとくに「政治的」にしている要因は何なのか、すなわち、政治学とは何を扱う学問であるのかを明らかにし、そこに現れるいろいろな概念 (キーワード) の意味を理解した上で、それを現実の政治現象に適用できる能力を養う。最終的には、さまざまな政治概念の由来、変容、意義をふまえて、みずからの政治的アイデンティティを問えるようにする。</p> <p>成績評価方法 (総合) 期末に行われる試験によって、さまざまな観点から総合的に判定する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：とくに指定しない。 / 参考書：講義中に適宜指示する。</p> <p>メッセージ 自分自身の頭で考えることを心がけてください。</p> <p>教官連絡先 研究室：経済学部 3 階、オフィスアワー：授業終了後</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	経済学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(経除く)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教官	陳禮俊				
<p><b>授業概要</b> 経済学とは、人々ないしは社会が、貨幣の媒介による場合、よらない場合いずれをも含めて、幾つかの代替的用途を持つ稀少性のある生産資源を使い、さまざまな商品を生産して、それらを現在及び将来の消費のために社会のいろいろな人々や集団の間に配分するうえで、どのような選択的行動をすることになるのか、ということについての研究である(ポール・A・サムエルソン『経済学』)。経済学は、限られた資源から、いかに価値を生産し分配していくかを研究する学問である。本講義では、ミクロ経済学とマクロ経済学について概説する。ミクロ経済学は、経済学が経済主体の最小単位と定義する家計(需要者)、企業(供給者)、それらが経済的な取引を行う市場をその分析対象とし、世の中に存在する希少な資源の効率的活用について研究する経済学の一分野である。ミクロ経済学の応用分野といえる金融論、公共経済学、国際経済学、産業組織論などに対して、分析の基礎理論を提供する役割を果たしている。マクロ経済学とは、個別の経済活動を集計した一国経済全体を扱う経済学である。マクロ経済変数の決定と変動に注目し、適切な経済指標とは何か、望ましい経済政策とは何かという考察を行なう。</p> <p><b>授業一般目標</b> ミクロ経済学においては、経済主体(家計、企業、政府)の行動に焦点をあて、経済主体の生産、消費などの活動を分析することにより、財・サービスの需要曲線、供給曲線を用いて、さらに市場における均衡価格、均衡数量の決定について分析が行われる。また、これらの分析をもとに、資源配分の効率性(パレート最適性)及び市場失敗の問題にも言及される。この講義では、経済学部学生にとって必要不可欠な基礎理論の一部である消費者行動と生産者行動が学習の対象となっている。マクロ経済学においては、その目標は一国全体の安定的経済成長、自然失業率の達成、適正物価の維持を達成することである。これらの項目はそれぞれ関連しており、いずれを欠いてもマクロ経済学の目標を達成することはできない。理論的目標と現実の乖離の原因は何か、それを知るには、現実の経済活動を知らなければならぬ。そこで、マクロ経済学では、国民経済計算の一部を構成する国民所得勘定を中心に講義をすすめていき、経済活動の主体である家計、企業、及び政府の役割を理解しながら一国の経済のメカニズムを理解していく。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 成績評価は基本的に、出席(40%)、課題レポート(30%)と期末試験(30%)で行う。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 参考書:「マクロ経済学II」、N.G.マンキュー著(足立・地主・中谷訳)、東洋経済新報社、1996年; 入門マクロ経済学、中谷巖、日本評論社; 入門経済学、伊藤元重、日本評論社、1998年</p> <p><b>教官連絡先</b> 研究室:経済学部 A302 室 電話:083-933-5526 E-mail:lichun@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	社会学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教官	鍋山祥子				
<p><b>授業概要</b> 人間は社会的動物である。この世に生まれ落ちた瞬間、いやそれ以前より、私たちは「関係性」の中で生きている。「わたくし個人」という存在は「自分ひとり」のことを指すようでもあり、しかしその個人を存在せしめているものは「関係性」以外の何もでもない。この関係性を基本的な視点として、講義では毎回異なる身近なテーマを設定する。私たちがこれまで「当たり前」のこととして受け容れてきた事象を社会学的に考察すると、そこにはどのような意味世界が広がっているのだろうか。テーマは、社会学とは何か・自分とは何か・家族とは何か・ジェンダーとは何か・労働とは何か・恋愛とは何か・共存(依存症)とは何か・感情とは何か・消費とは何か・高齢社会とは何か他である。</p> <p><b>授業一般目標</b> 日常生活場面を社会学的に考察することを通じて、「自分」というものがいかに環境によって定義されており、また「常識」だと思われてきたものがいかに「可変的」なものであるのかということに意識的になることを目標とする。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 出席と課題提出、学期末試験(授業内容を網羅した内容・論述あり・持ち込み不可)による総合評価。テキストを使用しない講義のため、出席を欠格条件とする。配点は、授業内外レポート 30%・定期試験 70%とする。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書:教科書は用いず、テーマの理解を深めるために必要なデータ・資料については、プリントを配付する。/ 参考書:テーマの理解を深めるための参考文献については、授業中適宜提示する。</p> <p><b>メッセージ</b> 講義内容を自分の生活に結びつけて思考する想像力が不可欠です。</p> <p><b>教官連絡先</b> E-mail:nabeyama@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー:水曜日 10:00 - 11:00</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	社会学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限
担当教官	横田尚俊				
<p>授業概要 社会学という学問の概略を説明しながら、私たちが否応なく巻き込まれつつ当事者としてその動向を左右している現代社会の諸相にアプローチしていきます。具体的には、近代化、都市化と現代の高度産業社会における変化の趨勢(情報化、グローバル化)さらには恋愛・結婚と家族の変容などについて、多くの資料を参照しながら講義します。</p> <p>授業一般目標 (1)現代社会のしくみや変化の趨勢について理解するとともに、現代社会に対する関心の幅を広げる。(2)社会学の分析視角に触れることによって、受講生各自が、それまで自明だと考えていた社会現象に対する見方を相対化したり、それらを眺める視点を深められるようにする。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験 50% 出席 40% 小テスト 10%(2~3回、簡単な小テストを実施します。詳細は、授業の中で説明します)</p> <p>教科書・参考書 教科書: 転換期日本社会の諸相 おもしろ社会学, 坂田正顕, 学文社, 1999年 / 参考書: 資料として、授業内容にかかわるプリントを配付します。また、参考文献に関しては、授業のなかで適宜紹介します。</p> <p>メッセージ (1)授業の形式にかかわる相談は、直接口頭でしてください。内容にかかわる質問は、毎回配付する所定の用紙に記入しても構いません。コミュニケーションの基本は対面的接触だという方針で、授業を進めたいと思います。(2)定期試験は、基本的に、括弧内に用語や人名、数字などを記入してもらう方式で行います(教科書、ノート等すべて持ち込み不可)(3)受講希望者が200名を越える場合には、抽選とする場合があります。初回の授業に必ず出席して下さい。</p> <p>教官連絡先 メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室は人文棟3階307室です。来室する場合は、できれば事前にメール、電話等で連絡して下さい。</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	社会学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	辻 正二				
<p>授業概要 現代の社会を理解するために社会学の基本的考え方を身につけるために、社会学の基本的な理論と現代社会が抱える諸問題を学ぶ。</p> <p>授業一般目標 (1)社会学の基本的な考え方を身につける (2)社会学の理論や概念について学び、それを使って社会現象を説明・理解できるようにする</p> <p>教科書・参考書 教科書: 資料を使いながら講義します。教科書は使いませんが、紹介する書物の1冊は自分で購入し、読んでください。 / 参考書: プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神(岩波文庫; 白(34)-209-3)改訳, マックス・ヴェーバー著; 大塚久雄訳, 岩波書店, 1989年; 社会学: 社会化の諸形式についての研究; 上・下巻, ゲオルク・ジンメル [著]; 居安正訳, 白水社, 1994年; 社会理論と社会構造, ロバート.K. マートン [著]; 森東吾 [ほか] 訳, みすず書房, 1961年; 社会学的想像力, ライト・ミルズ著; 鈴木広訳, 紀伊國屋書店, 1965年; 社会組織論: 拡大する意識の研究(現代社会学大系; 4), "クーリー著; 大橋幸, 菊池美代志訳", 青木書店, 1970年; ゲマインシャフトとゼゼルシャフト: 純粋社会学の基本概念(岩波文庫), テンニエス著; 杉之原寿一訳, 岩波書店, 1957年; コミュニティ: 社会学的研究: 社会生活の性質と基本法則に関する一試論, "R.M. マッキーヴァー著; 中久郎, 松本通晴監訳", ミネルヴァ書房, 1975年; 社会学概論(改版), 高田保馬著, 岩波書店, 1971年; M・ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』(岩波文庫) E・デュルケム『自殺論』(中央公論文庫) G・ジンメル『社会学』(上・下)(白水社) R・K・マートン『社会理論と社会構造』(みすず書房) ミルズ『社会学的想像力』(紀伊國屋書店) C・H・クーリー『社会組織論』(青木書店) F・テンニエス『ゲマインシャフトとゼゼルシャフト』(岩波文庫) マッキーバー『コミュニティ』(ミネルヴァ書房) 高田保馬『社会学概論』(岩波書店)</p> <p>メッセージ 新聞を読む習慣をつけてください。そして、なぜそういう現象が起きたかを考える習慣も身につけてください。</p> <p>教官連絡先 人文学部辻研究室(309室)</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	社会学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工2年	単位	2単位	曜時間	水曜日 5・6時限
担当教官	花野裕康				
<p><b>授業概要</b> 共通教育で社会学を受講する学生は、特に理系学部 of 学生の場合は、その講義以外に社会学系の講義を受けることはあまりないだろう。言い換えれば、当該学生は、その講義のみで社会学という学問を判断することになる。本講義では特にこの点に鑑み、共通教育ならではの社会学講義を行う。具体的には、まず最小限必要な基礎知識を押さえた上で、後は多少の無理は承知で、今まさに起こっている「なまもの」としての社会事象を取り上げ、それらについて社会学的に解説してゆく(より具体的な内容は各回の「授業計画」を参照してほしい)。なお、ここで言う「社会学的解説」とは、よくある市販のテキストに書かれてあるような無味乾燥かつ役立たずのものではない。本講義では、他のテキストなどには書かれていないような解説を旨とした講義を企図する。講義には最新の研究成果を積極的に取り入れる予定でもある。他分野学問との接続も積極的になされることと思う。社会学の「いま」を受講者に伝え、なおかつ他分野との関連も図ることを企図した講義スタイルこそが、共通教育としての社会学にふさわしいと講義者は考える。従って、本講義の受講者はそのつもりで受講して欲しい。つまり受講者は講義への積極的な参加者にならなければならないということだ。共通教育における「共通」の媒体は他でもない、受講者であるあなたなのだから。</p> <p><b>授業一般目標</b> ・社会学における必要最小限の知識を確実に押さえる ・その上で、いままさに生起している種々の社会事象を、その知識+ で理解し、思考する ( + = 「その都度の講義で追加説明する部分」 + 「受講者が自力で調べ、思考する部分」) ・よく言われる「社会学的思考の効能」がもはや役立たずであることを理解し、その先を考える ( 「役に立つ学問」の功罪も含めて ) ・超個人的な思考である社会学的思考を、常に自らに問い返す : 「では私はどうすべきか? 」の問い</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 原則として期末の試験のみで評価。出席点は設けない。場合によっては小レポートを課す場合があり、その場合はその小レポート「も」成績評価の対象とする。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: 特定の教科書は用いない。必要があれば、それに応じてプリントを配布する。 / 参考書: 多岐に渡るため、講義中適宜指示することとする。</p> <p><b>メッセージ</b> 私の大学生時代、共通教育の講義と言えば無味乾燥な講義の代名詞でした ( 山口大学出身ではありません。念のため )。本講義では、そういう「共通教育 = 無味乾燥」という図式をどうかして破壊したいと思っています。そのためには私一人で頑張っても無理で、受講者の皆さんの積極的な参加 = ノリが必要です。ノリためには講義は楽しくなければなりません。ということで、楽しい講義を心がけたいと思います ( 私が楽しいと思っても、みなさんは必ずしも楽しいとは思わないこと、実はそのことこそ、社会学的に考えるべき問題なのですが ^^ ; )</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	地理学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全 (獣医除く)	単位	2単位	曜時間	火曜日 7・8時限
担当教官	荒木一視				
<p><b>授業概要</b> インドヒマラヤに関する理解を増やすとともに、そこに展開する自然環境と人間の関わり、経済的事象、宗教や言語などの文化的事象、さらには共存する諸民族など、現代世界をみる上で共有できる視点を涵養する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 本講義ではインドヒマラヤ地域、具体的にはシッキム・ダージリン地方に焦点を当てて、現代世界の諸問題とも共有できるに地理学的なアプローチを展開する。その際、特に留意したい点は環境問題、経済格差、異なる価値観の共存である。受講生諸君には講義を通じて、インドヒマラヤを通じた世界認識と個々の問題を理解するためのフレームワークを獲得してもらいたい。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 定期試験あるいはレポートに加えて、授業時間中の質疑、討論の内容も評価に加える。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: 東ヒマラヤ山麓を訪ねて、山下幸一・雨宮智子、朱鷺書房、2004年; 初回授業時に販売予定 ( 2500円 )</p> <p><b>教官連絡先</b> 教育学部 4F arakih@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	地理学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時間	木曜日 7・8 時限
担当教官	Mikhova, Dimitrina				
<p><b>授業概要</b> THIS COURSE IS TAUGHT IN ENGLISH. It focuses on Human Geography. Starts with the origins of humanity and its diffusion over the earth. Discusses agriculture and the emergence of civilizations. Special attention is given to Europe and the rise of today's global culture. The current global geography is discussed, considering some of the problems associated with it. Finally, landscapes around the world are examined, using the cultural-historical approach.</p> <p><b>授業一般目標</b> To learn to understand the processes that create the current human mozaic around the world.</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> Attendance: 10 % Oral presentation in English: 30 % (Oral presentation is possible only if the number of students in a class is no more than 40). Final test: 60 %. (If oral presentation is not possible, the final test will make 90 % of the total score).</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Study materials will be deposited online, accessible with the respective password. <a href="http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/didi/">http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/didi/</a></p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	民俗学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時間	水曜日 1・2 時限
担当教官	湯川洋司				
<p><b>授業概要</b> この授業では、民俗学とはどのような学問であり、民俗学から何が分かるのか、ということを中心テーマとします。全体を2部構成にし、第1部「民俗学概論」では、民俗学とはどのような学問かということ解説し、第2部「各論 暮らしの方法としての民俗」では、暮らしを円滑に営む上での民俗が果たす役割をいくつかのテーマに即して具体例に基づき解説をします。そして、民俗が暮らしの知恵として私たちの日常生活に深くかかわっていることを理解します。</p> <p><b>授業一般目標</b> 1. どのようなものを民俗と言い、それはどのような性質をもっているのかを理解する。2. 民俗学とはどのようなことを考えようとする学問なのかを理解する。3. 民俗と自分との関係について考えてみる。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 1. 毎回の授業終了時に、その授業内容に関して提出したコメントの内容評価(全体の50%) 2. 期末試験の評価(全体の50%) 3. 欠席は欠格条項(全体の70%以上の出席がない場合は期末試験受験資格がありません。やむをえない欠席は届け出により認めます。)</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: 用いない。必要な資料はプリントして配付する。/ 参考書: 民俗学への招待, 宮田登, 筑摩書房(ちくま新書), 1996年; 怖さはどこからくるのか, 宮田登, 筑摩書房(ちくまプリマーブックス), 1991年; その他の参考書は、授業中に随時紹介します。</p> <p><b>教官連絡先</b> yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 人文学部棟2階210号室 オフィスアワー: 原則、毎日の昼休み。その他、いつでも随時訪ねてください</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 社会科学

分野 文化人類学

科目類型 総説

開設科目	文化人類学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教官	北西功一				
<p>授業概要 文化人類学の基本概念である文化相対主義を具体例を交えながら学ぶ。具体例として取り上げるのは、アフリカ熱帯雨林地域に居住する狩猟採集民アカである。彼らの生業活動、社会組織、結婚、自然観など社会・文化全般にわたって説明する。</p> <p>授業一般目標 文化相対主義的な考え方で異文化を見ることができるようになる。また、社会においてさまざまな部分が相互に関係を持っていることを理解する。アフリカの人々に対する認識を深める。</p> <p>成績評価方法(総合) 期末レポートと毎回課す宿題の小レポートをあわせて評価する。特別な理由もなく5回以上欠席した学生は失格とする。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 授業ではプリントを用いる。http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/kitanisi/culture04/preface.htmlが教科書となっている。/ 参考書: 講座生態人類学2 森と人の共存世界, 市川光雄・佐藤弘明, 京都大学学術出版会, 2001年; ヒトの自然誌, 田中二郎・掛谷誠編, 平凡社, 1991年; 平等と不平等をめぐる人類学的研究, 寺嶋秀明, ナカニシヤ出版, 2004年; 自然社会の人類学, 伊谷純一郎・田中二郎, アカデミア出版会, 1986年</p> <p>教官連絡先 kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 教育学部2階 266号室 オフィスアワー 随時</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 社会科学

分野 教育学

科目類型 総説

開設科目	教育学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教官	荘司泰弘				
<p>授業概要 人間にとって教育とは何かを概説し、教育の目的、教育の方法、教育の内容を歴史的にたどり、これからの教育はどのように展開するかを紹介する。</p> <p>授業一般目標 人間教育観、労作教育観、宗教教育観、平和教育観などの教育観の基礎を身につける。</p> <p>成績評価方法(総合) 出席・授業への参加をもとに総合的に判断する。</p> <p>教科書・参考書 参考書: http://froebel.child.edu.yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>メッセージ 三分の二以上出席すること。</p> <p>教官連絡先 荘司: froebel@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5443 研究室 406 OH 火 12時~15時</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	教育学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	林徳治				
<p><b>授業概要</b> 授業での教員と学習者間でのコミュニケーション(教授学習過程)について学習します。また授業で利用するプリント教材、黒板からパソコンやインターネットなどの教育メディア利用の意義や役割を学習します。また、これからの社会を生きる力として大切である情報活用能力について学習します。</p> <p><b>授業一般目標</b> 1. 授業での3方向のコミュニケーションを習得する 2. 教育メディアの意義と役割を習得する 3. 教育メディアを利用した授業事例を習得する 4. 集団学習と個を大切にしたい授業形態を習得する 5. 情報活用能力の3つの柱を習得する 6. 外国の教育事情について習得する 7. これからの学校教育を考える</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 1. 小テストまたはレポート(知識)20% 2. 定期テスト(知識)50% 3. 自主課題レポート(意欲)10% 4. 授業中の参画態度、発表(態度)10% 5. 教員とのコミュニケーション(電子メール含む)10%</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: 情報教育の理論と実践, 林徳治, 実教出版, 2002年</p> <p><b>メッセージ</b> 多くの学生が受講する講義形式の授業になりますが、電子メールやインターネットを利用して、できるだけ教員や受講生諸君とのコミュニケーションを図れるよう、ホームページなどを利用して授業を進めていきます。</p> <p><b>教官連絡先</b> 研究室内線 5461 電子メール hayashi9@yamaguchi-u.ac.jp ホームページ <a href="http://www.hayashitokuji.com">http://www.hayashitokuji.com</a></p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	教育学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教官	沖裕貴、田中均				
<p><b>授業概要</b> 前半は、主に現代の教育問題に関して、講義を行う。講義内容は、「学力低下問題」、「情報社会の影」、「教育の方法と技術」などを予定している。また、後半は「理想の学校を作ろう!」をテーマに、講義と演習・グループ発表などを行う。講義の中では社会の中で学校が果たしてきた機能、組織体としての学校を機能させるムーブメント、学校の復権・再生の展望と道筋について講義する。授業の中ではグループごとに「どんな学校を作るか」という課題について資料収集や調査研究を行いプレゼンテーション作成と発表を行う。</p> <p><b>授業一般目標</b> 現代社会のなかでの教育と学校の機能や働きを理解するとともに、学校にかかわり学校を形成する者としての在り方を考えることができる。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> (1)一人一人が作成するレポート及び講義の内容や活動の内容をまとめたポートフォリオによって個人を評価する(50点)。なお、ポートフォリオのまとめ方については、オリエンテーションで説明する。(2)ポスターセッションについては、相互評価を行いグループごとに評価する(35点)。(3)ポスターセッション優秀グループについて、研究発表のプレゼンテーションを行い、グループに特別加点を行う(特別加点15点)</p> <p><b>メッセージ</b> ただ、聴くだけの講義科目ではない。グループで議論し、制作する過程で、自ら考える態度を養い、厳しいけれど修了した者には高い理解度と満足度を保証したい。</p> <p><b>教官連絡先</b> 沖裕貴(oki@yamaguchi-u.ac.jp) 田中均(ac.tnk@yamaguchi-u.ac.jp)</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	教育学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教官	吉田香奈				
<p><b>授業概要</b> 今日、私たちは様々な機会に様々な場所で学習を行っている。小学校・中学校では9年間の義務教育を受け、義務教育終了後には高等学校、専修学校、大学・短大等で学ぶことができる。また、図書館、博物館、公民館、体育施設といった社会教育施設が整備され、子どもから大人まで誰でも利用することができる。このように私たちにとって教育は身近な存在であるが、皆さんはこれまで教育そのものについてじっくりと考えたことがあるだろうか？本授業では、教育を初めて学ぶ学生のための「入門」授業として教育の各領域について概説する。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) 教育の各領域の基本的事項を理解する。(2) 教育問題について関心を持ち、教育のあり方について主体的に考えることができる</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 1. コメントカードを毎回提出(40%)、2. 最終日に試験を実施(60%)。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：『教育の原理 - 教育学入門』, 田代直人・佐々木司編, ミネルヴァ書房, 2006年; 教科書は必ず購入すること。授業の初回到教室で配布予定。/ 参考書：参考図書は授業中に紹介する</p> <p><b>メッセージ</b> 「教育」というものに少しでも関心のある人は積極的に履修してみてください。なお、本授業は教職科目ではありませんが、教職に関心のある人の履修を大いに歓迎します。教職科目の「入門編」の位置づけになります。</p> <p><b>教官連絡先</b> ykana@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：共通教育棟2階 オフィスアワー火曜日 13:00～16:00</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	産業倫理	区分	講義	開設期	前期
対象学生	電気2年	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	只友 一行				
<p><b>授業概要</b> 我々は今まで育った家庭環境や社会生活の中で通常の倫理(常識)あるいはモラルは身に付けている。ここでは、社会における企業などの組織の持つ倫理および職業人としての倫理の基本を学習する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 複雑で激動している社会における組織とそこで働くエンジニア・科学者の倫理を対象にしているので、単純に目標が設定できるものではない。事例研究を通して考え、習得して頂きたい。強い一般化すると以下のように例示できる。(1) 自分で責任を持って行動できる誇り高きエンジニア・科学者になること。(2) 法令違反は絶対に許さない。(3) 常に正直であること。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 課題に対するレポートを各テーマに対して提出する。レポートと授業中の発表により評価する。特に出席を取らないが、発表に対する評価の中で間接的に出席が評価されることがある。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：技術者の倫理, 杉本泰治他, 丸善株式会社, 2002年</p> <p><b>メッセージ</b> 眠くならない熱気に溢れる倫理の授業にします。レポートは簡潔に丁寧に自分で考えて作成しましょう。</p> <p><b>教官連絡先</b> tadatomo@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	産業倫理	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(医学・工・獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 9・10 時限
担当教官	永崎研宣				
<p><b>授業概要</b> リコールやトラブルの隠蔽、杜撰な品質管理、甘い見通しに頼ったシステム統合のトラブルや不正な会計処理など、現在の産業社会は、様々な倫理的問題を内に抱え込んでいる。多くのケースは技術的問題と密接に関連しており、技術者にとっての工学倫理という観点から捉えられる必要がある。しかしながら、こうした問題は、同時に、政治的・経済的、その他の様々な要因を含んだものであり、しばしばそうした様々なものが複雑にからみあっている。したがってそれは、技術者のみならず、そうした問題に関わるすべての人が倫理的問題として理解していく必要がある。本講義では、産業社会におけるこうした倫理的問題について、具体的な事例をとりあげながら考えていきたい。</p> <p><b>授業一般目標</b> 講義における様々な事例の検討を通じて、倫理的問題に対して用意されている様々な基準や規制、制度等についての基本的な知識を身につけ、将来直面するであろう問題に対処していける力をつけてもらう。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 授業の中でレポートを課す。また、最後にも、理解度を確認するためのレポートを課す。なお、出席が所定の回数に満たない者は単位を与えない。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書： はじめての工学倫理第2版、齊藤了文、坂下浩司編、昭和堂、2005年； 齋藤了文 編『はじめての工学倫理』昭和堂</p> <p><b>メッセージ</b> 混み込んだ問題をきちんと整理して考えていけるような基礎力を身につけましょう。</p> <p><b>教官連絡先</b> nagasaki@yupu.jp</p> <p><b>備考</b> 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	ベンチャービジネス論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工2年	単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	向山尚志				
<p><b>授業概要</b> 一般の理工系大学生を主な対象に、技術を生かして独立した経営を行なうベンチャービジネスについての理解をもち、あわせて企業経営についての基礎的な知識を身につけるような内容の講義を行う。</p> <p><b>授業一般目標</b> ベンチャービジネスとはどのような企業か、なぜ今日それが注目されているかを理解し、技術を企業経営にどのように活用すべきかを学習するとともに、自らの進路選択の中で選択肢の一つとして考えてみるようにする。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 授業の中で小テストまたはレポートを提出する。期末レポートを1,500字程度で作成し提出する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書： 適宜、プリント等を配布する。/ 参考書： 東横インの経営術、西田憲正、日本評論社、2004年； 企業家とは何か、シュンペーター(清成忠雄・訳)、東洋経済新報社、1998年； ベンチャー企業(日経文庫)、松田修一、日本経済新聞社、2001年</p> <p><b>メッセージ</b> ベンチャービジネスの基礎を学ぶことは、企業の中で実際にどのように技術を活用しようとしているのかといった知識や方法論を知ることになり、皆さんが携わっていかようとする研究の社会とのかかわりや方向性を考える上でよい機会になります。また、実際にベンチャービジネスの経営者の方にも講義を担当してもらっており、企業経営のダイナミックな魅力にも触れる機会としていただきたいと思います。</p> <p><b>教官連絡先</b> 大学院技術経営研究科(D講義棟4F)</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	ベンチャービジネス論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(経・医学・獣医除く)	単位	2単位	曜時間	金曜日 5・6時限
担当教官	稲葉和也				
<p><b>授業概要</b> ベンチャー企業とは「リスクを恐れず新しい領域に挑戦する若い企業」のことを指します。従来 の新規開業企業と異なるのは、高い志や目標を持ち、起業家自身が高度な専門能力と困難に耐え 抜く忍耐力を持ち、創造的かつ才能のある人を集める事業を創業し、高収益で高成長する企業を 作り出すという点にあります。バブルが崩壊した後、グローバル化が進展し、情報ネットワーク 化の本格的な展開によって産業構造が変わり、新しい競争の段階を迎えています。このようなベンチャー企業に対する存立条件をどのように活用して、新しいビジネスチャンスを創出していけばよいのでしょうか。日本経済が元気を取り戻すためには、国内・国外を問わず通用する高付加 価値商品を生み出し、グローバルに新市場の開拓を図ることが必要とされます。独創性・多様 性・柔軟性・即応性に富んだ、旺盛な起業家精神を持つ人材を生み出す、多くのベンチャー企業 が生まれることが期待されます。</p> <p><b>授業一般目標</b> 日本企業では経営者的能力を持った人材が不足しています。企業が多角化、リストラをはかり、これまで経験したことのない新分野に出て行く時に求められるのはリーダーとしての経営能力で す。この講義では経営者的人材の育成を目標としています。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 受講生の理解度、意欲を高めるために事業計画の提出、レポートを課すことがあります。試験の結果、及び出席状況、レポートを加味して評価します。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：『ベンチャー企業』日経文庫843, 松田修一, 日本経済新聞社, 2001年</p> <p><b>メッセージ</b> 何か分からないことがありましたら遠慮なく聞きに来てください。</p> <p><b>教官連絡先</b> E-mail: inaba@tokuyama-u.ac.jp</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

前期 - 自然科学系列

系列 自然科学

分野 数学

科目類型 基礎

開設科目	数学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	理・医学	単位	1 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	飯寄 信保				
<p>授業概要 高等学校「数学 III」で扱われる単元のうち、関数、数列と関数の極限、微分法について講述する。</p> <p>授業一般目標 極限と微分を直感的に理解し、これらについて高等学校「数学 III」程度の計算力を身につける。</p> <p>成績評価方法(総合) 期末試験の結果により評価する。小テストの得点は、評価には加えない。ただし、小テストを2回以上欠席した受講生は不合格とする。</p> <p>教科書・参考書 教科書：山口大学共通教育数学会編のデジタル教科書「数学入門テキスト」を用いる。授業中に印刷して配布するが、山口大学ホームページのトップ 附属施設・センターのページ 大学教育センター、からリンクを張られる予定であるが、これを書いている時点ではまだ張られていない。/ 参考書：高等学校「数学 III」の教科書・参考書・問題集はどれも参考書になり得る。</p> <p>メッセージ 高校でおよそ1学期かけて学ぶ内容を、3週間で履修する現実を直視すること。</p> <p>教官連絡先 教育学部 286 室 E-mail: iiyori@yamaguchi-u.ac.jp (差出人の所属学部学科名・学年・氏名のうち、一つでも明記されていないメールは受理しない)</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 数学

科目類型 基礎

開設科目	数学入門2	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	理・医学	単位	1 単位	曜時限	金曜日 9・10 時限
担当教官	飯寄 信保				
<p>授業概要 高等学校「数学 III」で扱われる単元のうち、微分法の応用、積分法、積分法の応用について講述する。</p> <p>授業一般目標 微分と積分の概念を直感的に理解し、これらについて高等学校「数学 III」程度の計算力を身につける。</p> <p>成績評価方法(総合) 期末試験の結果により評価する。小テストの得点は、評価には加えない。ただし、小テストを2回以上欠席した受講生は不合格とする。</p> <p>教科書・参考書 教科書：山口大学共通教育数学会編のデジタル教科書「数学入門テキスト」を用いる。授業中に印刷して配布するが、山口大学ホームページのトップ 附属施設・センターのページ 大学教育センター、からリンクを張られる予定であるが、これを書いている時点ではまだ張られていない。/ 参考書：高等学校「数学 III」の教科書・参考書・問題集はどれも参考書になり得る。</p> <p>メッセージ 高校でおよそ1学期かけて学ぶ内容を、3週間で履修する現実を直視すること。</p> <p>教官連絡先 教育学部 286 室 E-mail:iiyori@yamaguchi-u.ac.jp (差出人の所属学部学科名・学年・氏名のうち、一つでも明記されていないメールは受理しない)</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 数学

科目類型 基礎

開設科目	数学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	教・看護・検査・工	単位	1 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	尼野 一夫				
<p>授業概要 微積分学は、理工系を始めさまざまな分野での基礎的な学問の一つである。この授業は、高等学校で数学IIIと数学Cを履修してこなかった人たちのために、大学での数学教育と高等学校での数学教育の架け橋として開設された微積分学への入門であり、一変数関数の微分と積分の基礎的概念を理解させ、計算方法を修得させる。</p> <p>授業一般目標 大学での数学教育の準備として、一変数の関数に関する微分、積分の基礎的な概念を理解し、微分、積分におけるさまざまな手法や応用を身につけ、正確な計算ができる能力を養う。</p> <p>成績評価方法(総合) 数学入門2とあわせて3回の試験(中間試験と期末試験)を中心として、授業内に適宜行う問題演習の取り組みを加味し、以下の割合で総合的に判定する。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 山口大学共通教育数学会編のデジタル教科書「数学入門テキスト」を用いる。山口大学ホームページのトップのページ 機構・附属施設・センター 大学教育センター デジタル教科書案内版, の順にリンクをたどれば入手可能である。</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 数学

科目類型 基礎

開設科目	数学入門2	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	教・看護・検査・工	単位	1 単位	曜時限	水曜日 9・10 時限
担当教官	尼野 一夫				
<p>授業概要 微積分学は、理工系を始めさまざまな分野での基礎的な学問の一つである。この授業は、高等学校で数学IIIと数学Cを履修してこなかった人たちのために、大学での数学教育と高等学校での数学教育の架け橋として開設された微積分学への入門であり、一変数関数の微分と積分の基礎的概念を理解させ、計算方法を修得させる。</p> <p>授業一般目標 大学での数学教育の準備として、一変数の関数に関する微分、積分の基礎的な概念を理解し、微分、積分におけるさまざまな手法や応用を身につけ、正確な計算ができる能力を養う。</p> <p>成績評価方法(総合) 数学入門1とあわせて3回の試験(中間試験と期末試験)を中心として、授業内に適宜行う問題演習の取り組みを加味し、以下の割合で総合的に判定する。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 山口大学共通教育数学会編のデジタル教科書「数学入門テキスト」を用いる。山口大学ホームページのトップ 機構・附属施設・センター 大学教育センター デジタル教科書案内版, の順にリンクをたどれば入手可能である。</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 数学

科目類型 基礎

開設科目	数学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	工(夜), 工(昼) 2年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 13・14 時限
担当教官	柳原 宏				
<p>授業概要 この講義は、昨年度に数学入門の履修が不可になった方がもう一度勉強するためのものです。</p> <p>授業一般目標 大学での数学教育の準備として、一変数の関数に関する微分、積分の基礎的な概念を理解し、微分、積分におけるさまざまな手法や応用を身につけ、正確な計算ができる能力を養う。</p> <p>成績評価方法(総合) 数学入門2とあわせて2回の試験(中間試験と期末試験)を中心として、授業内に適宜行う問題演習の取り組みを加味し、以下の割合で総合的に判定する。</p> <p>メッセージ 毎回プリントを配布して演習形式で行います。日々の努力を怠らないこと。</p> <p>教官連絡先 hiroschi@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 数学

科目類型 基礎

開設科目	数学入門2	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	工(夜) 1年, 工(昼) 2年	単位	1 単位	曜時限	水曜日 9・10 時限
担当教官	柳原 宏				
<p>授業概要 この講義は、昨年度に数学入門の履修が不可になった方がもう一度勉強するためのものです。</p> <p>授業一般目標 大学での数学教育の準備として、一変数の関数に関する微分、積分の基礎的な概念を理解し、微分、積分におけるさまざまな手法や応用を身につけ、正確な計算ができる能力を養う。</p> <p>成績評価方法(総合) 数学入門1とあわせて2回の試験(中間試験と期末試験)を中心として、授業内に適宜行う問題演習の取り組みを加味し、以下の割合で総合的に判定する。</p> <p>メッセージ プリントを配布して演習形式で行います。日々の努力を怠らないこと。</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	数理・物情	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	内藤博夫				
<p>授業概要 理工系学問の基礎である微分積分学，特に一変数関数の微分法と積分法を講義する。</p> <p>授業一般目標 一変数微分積分学の基本的概念を理解し，その計算法を習得する。微分法・積分法，合成関数の微分公式，部分積分の公式など，微分積分学における様々な概念や手法を理解し，習熟する。さらに，それらの理解と習熟のもとに，理系分野における様々な問題への数学的解決能力を養う。</p> <p>成績評価方法（総合） 中間・期末 2 回の筆記試験（60%）とレポート・宿題（40%）により判定する。なお，出席が所定の回数（初回時に注意）に満たない者には単位を与えない（欠格条件）。</p> <p>教科書・参考書 教科書：入門微分積分，三宅敏恒，培風館，2000 年</p> <p>メッセージ 宿題は原則として毎回あります。地道に取り組むことを期待します。</p> <p>教官連絡先 理学部 137 号室</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	生化・地球	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	三好 哲彦				
<p>授業概要 多くの自然科学が数学、とくに微分積分学を用いて記述され、それをもとにして現象の理解や工学的な応用が行われている。微分積分学の初歩はほとんどの学生が高校で学んでいるが、それだけでは大学での自然科学や工学を学ぶには不十分である。この授業では高校で学んだ微分積分学の復習から始めて、学部専門授業の要求に耐え得る程度の微分積分学を身に付けることを目標にする。数学 I では微分学に重点を置く。</p> <p>授業一般目標 一変数、多変数の関数の微分について学ぶ。初等関数の微分、合成関数の微分に習熟する。多変数関数の微分を学び、そのテイラー展開の公式が自在に応用できることを目指す。</p> <p>成績評価方法（総合） 主として定期試験により評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：工学・理学を学ぶための微分積分学，三好哲彦・加藤崇雄・菊政勲，共立出版</p> <p>メッセージ（教科書序文より）大学で学ぶ数学は、理解し覚えるべき内容が質、量において高校までの数学とは決定的に異なっている。すなわち、質においては格段と精緻、量においては圧倒的である。…初学者はこのようなことを十分念頭において勉学に取り組んでほしい。</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	機械 (1-45)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	久田見 守				
<p>授業概要 理工系学問の基礎である微分積分学において、一変数関数の微分と積分を理解させ、計算方法を習得させる。</p> <p>授業一般目標 一変数関数の微分積分学の基本的な概念を理解し、計算方法を習得する。微分法・積分法、合成関数の微分法、部分積分の公式など、微分積分学における様々な概念や手法を理解し、習熟する。さらに、それらの概念の理解をもとに、理系分野における様々な分野の問題を解決できるような応用力を養う。『機械工学の理系基礎および工学基礎分野において、特に数学に関する専門知識、問題解決に活用できる能力を身につけることを目標とする。』</p> <p>成績評価方法 (総合) 定期試験・演習で評価する。出席については欠格条件とする。</p> <p>教科書・参考書 教科書：微分積分概論, 高橋泰嗣・加藤幹雄, サイエンス社, 1998 年; 教科書の販売：文栄堂 (山口大学正門前) にて各自購入のこと。</p> <p>メッセージ 毎回授業の終わり 15 ~ 20 分かけて演習問題を解く時間を設ける。その日に習った内容はその日のうちに理解するように努力すること。</p> <p>教官連絡先 研究室：理学部本館南棟 1 階 129 室</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	機械 (46-)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	安藤良文				
<p>授業概要 理工系学問の基礎である微分積分学において、一変数関数の微分と積分を理解させ、計算方法を習得させる。</p> <p>授業一般目標 一変数の微分積分学の基本的な概念を理解し、計算方法を習得する。微分法・積分法、合成関数の微分法、部分積分の公式など、微分積分学における様々な概念や手法を理解し、習熟する。さらに、それらの概念の理解をもとに、理系分野における様々な分野の問題を解決できるような応用力を養う。</p> <p>成績評価方法 (総合) 定期試験・演習で評価する。出席については欠格条件とする。</p> <p>教科書・参考書 教科書：微分積分概論, 高橋泰嗣・加藤幹雄, サイエンス社, 1998 年; 教科書の販売：文栄堂 (山口大学正門前) にて各自購入のこと。</p> <p>メッセージ 毎回授業の終わり 15 ~ 20 分かけて演習問題を解く時間を設ける。その日に習った内容はその日のうちに理解できるように努力すること。</p> <p>教官連絡先 研究室：理学部本館南棟 1 階 131 室</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	電気 (1-45)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	河津 清				
<p>授業概要 理工系学問の基礎である微分積分学において、一変数関数の微分と積分を理解させ、計算方法を習得させる。</p> <p>授業一般目標 一変数の微分積分学の基本的な概念を理解し、計算方法を習得する。微分法・積分法、合成関数の微分法、部分積分の公式など、微分積分学における様々な概念や手法を理解し、習熟する。さらに、それらの概念の理解をもとに、理系分野における様々な分野の問題を解決できるような応用力を養う。</p> <p>成績評価方法 (総合) レポートと定期試験の結果を考案する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：微分積分概論, 高橋泰嗣・加藤幹雄, サイエンス社, 1998 年</p> <p>教官連絡先 kawazu@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	電気 (46-)・看護・検査	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	柏木 孝夫				
<p>授業概要 理工系学問の基礎である微分積分学において、一変数関数の微分と積分を理解させ、計算方法を習得させる。</p> <p>授業一般目標 一変数関数の微分積分学の基本的な概念を理解し、計算方法を習得する。微分法・積分法、合成関数の微分法、部分積分の公式など、微分積分学における様々な概念や、手法を理解し、習熟する。さらに、それらの概念の理解のもとに、理系分野における様々な分野の問題を解決できるような応用力を養う。</p> <p>成績評価方法 (総合) 原則として定期試験だけで評価する。出席については欠格条件とする。</p> <p>教科書・参考書 教科書：微分積分概論, 高橋泰嗣・加藤幹雄, サイエンス社, 1998 年；取扱店(大学生協) / 参考書：微分積分学についての各種演習書</p> <p>メッセージ わからないことは遠慮なく質問すること。適宜演習の時間をもつ。</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工 2 年	単位	2 単位	曜時限	月曜日 11・12 時限
担当教官	栗山 憲				
<p>授業概要 1変数の微分、積分法の講義、演習。</p> <p>授業一般目標 1変数の微積分について、基本的な概念を理解し、計算が確実にできること。将来専門科目で使うことを考えて、簡単な応用問題が解けること。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験、授業時間内の小テストの総合評価。出席は欠格条件です。(所定の回数に達しないと、自動的に不合格)</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教官	佐藤好久				
<p>授業概要 微分積分学は、理工系の分野で基本となる数学である。微分積分学にはその根底に厳密な基礎理論があり、専門の微分積分学ではその基礎理論を論じながら講義をすることになる。この科目では、専門の微分積分学を学ぶための準備とその入門的な内容を解説するために、高等学校の微分積分学を復習しながら、微分積分の基本的な考え方を理解させる。また、簡単な極限の計算や微分の計算が正確にできるように指導する。</p> <p>授業一般目標 関数の概念を正しく理解し、極限や微分の基本的な考え方を説明することができる。また、簡単な極限の計算や微分の計算が正確にできるように指導する。</p> <p>成績評価方法(総合) 2人の教員がそれぞれ、50点で成績評価し、その合計を全体の成績評価とします。授業中の小テスト(基本的に毎回実施します)や定期試験などにより、総合的に評価しますが、担当教員が最初の授業時に通知します。下記の成績評価方法(観点別)は佐藤が担当したときのものです。</p> <p>教科書・参考書 教科書：微分と積分，岡本和夫，実教出版，1998年</p> <p>教官連絡先 sato@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	医学 (1-43)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教官	柏木 孝夫				
<p>授業概要 理工系学問の基礎である微分積分学において、一変数関数と二変数関数の微分を理解させ、計算方法を習得させる。</p> <p>授業一般目標 一変数および二変数関数の微分学の基本的な概念を理解し、計算方法を習得する。合成関数の微分法など、微分積分学における様々な概念や、手法を理解し、習熟する。さらに、それらの概念の理解のもとに、理系分野における様々な分野の分野の問題を解決できるような応用力を養う。</p> <p>成績評価方法 (総合) 期末試験と講義中に適宜行う問題演習の取り組み状況により、以下の割合で総合的に判定する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：微分積分学, 三好哲彦・加藤崇雄・菊政勲, 共立出版, 2005 年; 取扱店 (大学生協) / 参考書：微分積分学についての各種演習書</p> <p>メッセージ わからないことは遠慮なく質問すること。</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	医学 (44-)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教官	三好 哲彦				
<p>授業概要 多くの自然科学が数学、とくに微分積分学を用いて記述され、それをもとにして現象の理解や工学的な応用が行われている。微分積分学の初歩はほとんどの学生が高校で学んでいるが、それだけでは大学での自然科学や工学を学ぶには不十分である。この授業では高校で学んだ微分積分学の復習から始めて、学部専門授業の要求に耐え得る程度の微分積分学を身に付けることを目標にする。数学 I では微分学に重点を置く。</p> <p>授業一般目標 一変数、多変数の関数の微分について学ぶ。初等関数の微分、合成関数の微分に習熟する。多変数関数の微分を学び、そのテイラー展開の公式が自在に応用できることを目指す。</p> <p>成績評価方法 (総合) 主として定期試験により評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：工学・理学を学ぶための微分積分学, 三好哲彦・加藤崇雄・菊政勲, 共立出版</p> <p>メッセージ (教科書序文より) 大学で学ぶ数学は、理解し覚えるべき内容が質、量において高校までの数学とは決定的に異なっている。すなわち、質においては格段と精緻、量においては圧倒的である。… 初学者はこのようなことを十分念頭において勉学に取り組んでほしい。</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	知能 (1-50)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教官	寿恵村 泰生				
<p>授業概要 自然科学の基礎である微分積分学を講義する。特に工学系の学生は微分積分の知識は必修である。高校である程度、微積分について学習していると思うが、復習をかねて進める。もちろん1変数の微分積分から始めるが、大学での微積分の本命は2変数関数の微分積分にある。そのため高校で既に習っているからと気を抜かないで1変数の微分積分もしっかり身につけてほしい。2変数の微分積分も1変数のそれが基礎になるわけだから。</p> <p>授業一般目標 学生はとにかく学生は数学と言え、問題を解くことが主な目的のように考えているが、これも今までの受験数学の勉強方法が身に付いて仕方のない面もあるが、本来の数学の勉強方法は定義、定理の意味をしっかりと理解して自分のものにして先に進んでいくものであって問題を解くことは二の次である。この本来の数学の勉強の仕方を早く身につけてほしい。</p> <p>成績評価方法(総合) 基本は定期試験、小テスト(1回)レポート、出席状況も考慮する(無断欠席を5回以上すると不可)</p> <p>教科書・参考書 教科書: 独自のプリントで進める。(今まで使用していたが、ぴったりしたものが無く、結局プリントになる)/ 参考書: 参考書を見るのも悪いことではないが、本により進め方が異なり混乱することもある。</p> <p>メッセージ あくまでも授業を理解することに専念してほしい。分からないときは質問する。</p> <p>教官連絡先 非常勤控入室</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	知能 (51-)・機材 (1-30)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教官	吉村浩				
<p>授業概要 自然科学の基礎である微分・積分(1変数)を講義する。この数学 I での1変数の微分・積分に引き続き、後期の数学 II では多変数の微分・積分を講義する。</p> <p>授業一般目標 微分・積分の厳密な理論の理解より、具体的な計算を通して基本的な概念や計算方法を習得することに重点をおく。</p> <p>成績評価方法(総合) 小テスト、中間試験、期末試験の得点の合計で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者は欠格となる。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 入門微分積分, 三宅敏恒, 培風館, 2001 年</p> <p>メッセージ 数学は、「講義の受けっぱなし」ではなかなか身につかない学問です。ともかく手を動かして数多くの計算問題を繰り返し解くことが肝要です。</p> <p>教官連絡先 研究室: 理学部 1 階 1 4 3 号室 内線 (5 6 6 2)</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 数学

科目類型 総説

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	機材 (31-)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教官	宮澤康行				
<p>授業概要 1変数関数の微分、積分およびこれに関連した事項について講義する。</p> <p>授業一般目標 1変数関数の微分、積分に関して、簡単・具体的な計算を通して基礎的な概念を理解する。得られた知識を活用していろいろな計算ができる。</p> <p>成績評価方法(総合) 試験(中間・期末)の成績により判定する。出席は欠格条件として利用する。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 授業時に指示する</p> <p>教官連絡先 理学部 134 号室</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 数学

科目類型 総説

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	感性	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教官	尼野 一夫				
<p>授業概要 理系学生にとって必要不可欠な解析学の初歩である一変数関数の微分、積分についてその概念の理解と計算方法を修得させる。</p> <p>授業一般目標 一変数関数に関する微分積分学の基本的な概念を理解し、微分法、積分法におけるさまざまな手法や応用を身につけ、正確な計算ができる能力を養う。さらに、これらを用いて、理工系各分野でのさまざまな問題を解決できる応用力を養う。</p> <p>成績評価方法(総合) 3回の試験(中間試験と期末試験)を中心として、授業内に適宜行う問題演習の取り組みを加味し、以下の割合で総合的に判定する。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 理工系の基礎微分積分, "石原繁, 浅野重初共著", 裳華房, 1997 年</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 数学

科目類型 総説

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	応化 (1-57)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教官	大城紀代市				
<p>授業概要 微分積分学は線形代数学とともにすべてのサイエンスの基礎学問であり、特に理工学系での必須の数学である。この講義では一変数の微分の定義、基本性質、更には様々な応用について講義する。</p> <p>授業一般目標 1. 微分の基本的概念に精通し、通常関数の微分の計算法を習得する。微分の様々な応用に接し、応用力を養う。2. 最終的目標は、与えられた関数の微分を自分で工夫して求めることができる解決能力を養うこと。</p> <p>教科書・参考書 教科書：微分・積分、岩谷輝生、田中正紀、学術図書、1994 年</p> <p>メッセージ 十分復習すること</p> <p>教官連絡先 理学部本館 1 4 1 号室 E-mail: oshiro@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 数学

科目類型 総説

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	応化 (58-)・社建 (1-25)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教官	重永和男				
<p>授業概要 微分積分学は自然科学を学ぶ上での基礎学問であり、特に理工系を学ぶものにとっては重要である。ここでは、1 変数関数の微分と積分について講義し、その概念を理解させ、計算方法を習得させる。</p> <p>授業一般目標 1 変数の微積分の基本的な概念を理解し、計算方法を習得する。微分の定義・意味、合成関数の微分法、逆関数の微分法、微積分の基本定理、部分積分の公式などを理解し、習熟する。また、理工学の方で生じる問題を解決できるような応用力を養う。</p> <p>成績評価方法 (総合) 2 回の試験 (中間試験と期末試験) とレポートの状況により以下の割合で総合的に判断する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p>教科書・参考書 教科書：入門微分積分学、小野英夫、山本喜則、アイケイコーポレーション</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 数学

科目類型 総説

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	社建 (26-)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教官	木内 功				
<p><b>授業概要</b> 理工系学問の基礎である微分積分学において、一変数関数の微分と積分を理解させ、計算方法を習得させる。</p> <p><b>授業一般目標</b> 一変数の微分積分学の基本的な概念を理解し、計算方法を習得する。微分法・積分法、合成関数の微分法、部分積分の公式など、微分積分学における様々な概念や手法を理解し、習熟する。さらに、それらの概念の理解をもとに、理系分野における様々な分野の問題を解決できるような応用力を養う。この科目は以下の社会建設工学科の学習・教育目標に対応します。(A) 確かな基礎力を有する技術者を目指して以下の能力を身につける。A-1 数学、自然科学、情報処理の基礎力</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 原則として定期試験だけで評価する。出席については欠格条件とする。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：微分積分概論, 高橋泰嗣・加藤幹雄, サイエンス社, 1998 年</p> <p><b>メッセージ</b> 毎回授業の終わり 15 ~ 20 分かけて演習問題を解く時間を設ける。その日に習った内容はその日のうちに理解できるように努力すること。</p> <p><b>教官連絡先</b> 研究室：理学部本館 139 号室 オフィスアワー：特に設けていないので</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 数学

科目類型 総説

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	同一曜日・時限『数学入門 1』及び『数学入門 2』単位修得者	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限 金曜日 9・10 時限
担当教官	笹井理恵				
<p><b>授業概要</b> 1 変数の微分積分学の、高等学校「数学 III」よりも進んだ理論を学ぶ。</p> <p><b>授業一般目標</b> 微分積分学に現れる様々な概念や定理の意味を直観的に理解し、専門課程で必要になる微分積分学の知識の基礎を身につける。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 中間試験と期末試験の結果により評価する。小テストの得点は、評価には加えない。ただし、小テストを 2 回以上欠席した受講生は不合格とする。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：理工系の数学入門コース 1「微分積分」, 和達三樹, 岩波書店, 1988 年</p> <p><b>メッセージ</b> 根気強い習練あってこそ上達できる。</p> <p><b>備考</b> 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	同一曜日・時限『数学入門1』及び『数学入門2』単位修得者	単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限 水曜日 9・10 時限
担当教官	尼野 一夫				
<p>授業概要 理系学生にとって必要不可欠な解析学の初歩である一変数関数の微分、積分についてその概念の理解と計算方法を修得させる。</p> <p>授業一般目標 一変数関数に関する微分積分学の基本的な概念を理解し、微分法、積分法におけるさまざまな手法や応用を身につけ、正確な計算ができる能力を養う。さらに、これらを用いて、理工系各分野でのさまざまな問題を解決できる応用力を養う。</p> <p>成績評価方法(総合) 3回の試験(中間試験と期末試験)を中心として、授業内に適宜行う問題演習の取り組みを加味し、以下の割合で総合的に判定する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：学期始めに指定する。</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	同一曜日・時限『数学入門1』及び『数学入門2』単位修得者	単位	2 単位	曜時限	火曜日 13・14 時限 水曜日 9・10 時限
担当教官	柳原 宏				
<p>授業概要 この講義は、昨年度に数学入門の履修が不可になった方がもう一度勉強するためのものです</p> <p>授業一般目標 1変数の微積分の基本的な概念を理解し、計算方法を習得する。微分の定義・意味、合成関数の微分法、逆関数の微分法、微積分の基本定理、部分積分の公式などを理解し、習熟する。また、理工学の分野で生ずる問題を解決できるような応用力を養う。</p> <p>成績評価方法(総合) ・定期試験(中間・期末試験)で70%、宿題・授業外レポートで15%、授業内の演習において15%の成績評価をする。なお、5回以上(5回も含む)欠席したものは、定期試験を受ける資格がない。すなわち、5回以上欠席したものは、本科目の単位は得られない。</p> <p>教科書・参考書 教科書：微分積分学概論, 高橋泰嗣 加藤幹雄, サイエンス社, 1998年</p> <p>教官連絡先 hiroshi@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 物理学

科目類型 基礎

開設科目	物理学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	電気・知能・機材・感性	単位	1 単位	曜時間	月曜日 5・6 時限
担当教官	仙田康浩				
<p>授業概要 大学で物理学を学ぶための心構え，物理現象を理解するための思考法などについて解説する．その後，主に力学を学ぶための考え方を説明していく．</p> <p>授業一般目標 授業科目の「物理学 I」と「物理学 II」を履修するために必要な思考方法と計算方法を身につける</p> <p>成績評価方法(総合) 授業中の演習問題のレポートと宿題レポートから成績を評価する</p> <p>教科書・参考書 教科書：「物理学 I」で使用する教科書を購入していれば持参すること</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 物理学

科目類型 基礎

開設科目	物理学入門2	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	電気・知能・機材・感性	単位	1 単位	曜時間	月曜日 5・6 時限
担当教官	仙田康浩				
<p>授業概要 「物理学入門1」に引き続いて，大学で電磁気学を学ぶための考え方を説明していく．その後，力学，電磁気学の他に，物理学ではどのようなことを学んでいくかについて説明する．</p> <p>授業一般目標 授業科目の「物理学 I」と「物理学 II」を履修するために必要な思考方法と計算方法を身につけることが目標である．</p> <p>成績評価方法(総合) 授業中の演習問題のレポートと宿題レポートから成績を評価する．</p> <p>教科書・参考書 教科書：「物理学 I」で使用する教科書を購入していれば持参すること．</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 物理学

科目類型 基礎

開設科目	物理学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	看護・検査	単位	1単位	曜時限	月曜日7・8時限
担当教官	石川敏三				
<p>授業概要 医学・医療の著しい発展の基盤のひとつである物理学について、基礎的考え方やその知識を理解させる。物理学入門1.では、物理の基礎についてその重要な項目について概説したのち、2.では保健学科の専門教育とくに生理学、看護学、医療工学、検査機器総論などの内容へ繋げることを目指し教授する。医学・医療の教育を受けるためには、基本的に科学的思考が必須である。そのためには物理学的理論と現象の知識を教授する。</p> <p>授業一般目標 1)さまざまなエネルギーの基礎的知識が身につく。2)医学・医療における生命現象や観察手段における物理学思考が身に付く。</p> <p>成績評価方法(総合) 期末試験.一部で、小テストや課題レポートの評価を加える。</p> <p>教科書・参考書 教科書：物理学入門, 石川敏三ほか, 医歯薬出版, 2005年</p> <p>教官連絡先 午後4:00~7:00</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 物理学

科目類型 基礎

開設科目	物理学入門2	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	看護・検査	単位	1単位	曜時限	月曜日7・8時限
担当教官	石川敏三				
<p>授業概要 医学・医療の著しい発展の基盤のひとつである物理学について、基礎的考え方やその知識を理解させる。物理学入門1.では、物理の基礎についてその重要な項目について概説したのち、2.では保健学科の専門教育とくに生理学、看護学、医療工学、検査機器総論などの内容へ繋げることを目指し教授する。医学・医療の教育を受けるためには、基本的に科学的思考が必須である。そのためには物理学的理論と現象の知識を教授する。</p> <p>授業一般目標 1)さまざまなエネルギーの基礎的知識が身につく。2)医学・医療における生命現象や観察手段における物理学思考が身に付く。</p> <p>成績評価方法(総合) 期末試験.一部で、小テストや課題レポートの評価を加える。</p> <p>教科書・参考書 教科書：検査学講座:物理学, 石川敏三ほか, 医歯薬出版, 2005年</p> <p>教官連絡先 午後4:00~7:00</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 物理学

科目類型 基礎

開設科目	物理学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	工(夜), 工(昼) 2年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限
担当教官	末岡 修				
<p>授業概要 高校での物理学の学習やその理解が不十分であることを考慮して、高校物理の要点と大学での物理はどのように理解すればよいのかを中心に講義を進める。身近にある現象や器物から物理を考えることに努め、できるだけ例に挙げて取り上げていく。毎時間、理解に必要な所について小テストを行う。また、簡単な宿題も課す。微分と積分の簡単なものは出来るものとする。</p> <p>授業一般目標 位置 &amp; # 8226; 速度 &amp; # 8226; 加速度の関係を表し、簡単な例題が解けるようになる。放物運動が解けるようになる。これらの過程で、ベクトルとその成分の関係を理解し、各成分の運動が独立であることを理解する。正規の講義 “物理学” が理解できるようになる。</p> <p>成績評価方法 (総合) 中間試験 + 小テストなどの平常点を総合して決める</p> <p>教科書・参考書 教科書: 2 「新物理学」, シップマン著, 学術図書出版社, 2002 年 / 参考書: 基礎物理学 (改訂版), 原康夫著, 学術図書出版, 1996 年; 「改訂版 基礎物理学」原康夫 著 学術図書出版社 1996</p> <p>教官連絡先 非常勤のため E-mail mqpbm353@yahoo.co.jp にて対応する</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 物理学

科目類型 基礎

開設科目	物理学入門2	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	工(夜), 工(昼) 2年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限
担当教官	末岡 修				
<p>授業概要 高校での物理学の学習やその理解が不十分であることを考慮して、高校物理の要点と大学での物理はどのように理解すればよいのかを中心に講義を進める。身近にある現象や器物から物理を考えることに努め、できるだけ例に挙げて取り上げていく。毎時間、理解に必要な所について小テストを行う。また、簡単な宿題も課す。微分と積分の簡単なものは出来るものとする。</p> <p>授業一般目標 電気力・電場・電位・電気的エネルギーの関係を学ぶ。オームの法則が自由に使えるようになる。</p> <p>成績評価方法 (総合) 期末試験 + 小テストなどの平常点を総合して決める</p> <p>教科書・参考書 教科書: 2 「新物理学」, シップマン著, 学術図書出版社, 2002 年 / 参考書: 基礎物理学 (改訂版), 原康夫著, 学術図書出版, 1996 年; 「改訂版 基礎物理学」原康夫 著 学術図書出版 1996</p> <p>教官連絡先 非常勤のため E-mail mqpbm353@yahoo.co.jp にて対応する</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 物理学

科目類型 基礎

開設科目	物理学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	機械・応化・社建	単位	1 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教官	増山和子				
<p><b>授業概要</b> 物理学は自然科学の中でも最も基礎的な学問のひとつであるとともに、応用を目指した学問であり、将来の専攻分野を学ぶ場合に、基礎となる物理学を十分に理解しておく必要がある。この授業は、高校で物理学を履修しなかった学生の物理学への入門として、大学で物理学を履修するために必要な思考方法と計算方法を学び、物理学の基礎を身につけることを目標とする。前期クォーター1では物理学の中で最も基礎的な「力学」を説明する。力が働く時の物体の運動がどのような法則で記述できるか、自然の中にはどのような運動があるかなどを、基礎的な事項からはじめ、具体的な例題を通じて直感的な理解が得られるように配慮して講義する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 力学の基礎を理解する。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 数回のレポート(50%)と、試験(50%)で成績評価する。また、7割以上の出席を必要とする。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：物理学入門, 原 康夫, 学術図書出版社, 2005年 / 参考書：物理学入門, 楠川絢一, 高見頼郎, 早川礼之助編修, 実教出版, 1999年; 項目ごとにまとめおよび問題のプリントを配布する。</p> <p><b>メッセージ</b> 授業に出席し、演習レポートを確実に解いて提出すること。</p> <p><b>教官連絡先</b> メールアドレス: masiyama@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 物理学

科目類型 基礎

開設科目	物理学入門2	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	機械・応化・社建	単位	1 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教官	増山和子				
<p><b>授業概要</b> 物理学は自然科学の中でも最も基礎的な学問のひとつであるとともに、応用を目指した学問である。将来の専攻分野を学ぶ場合に、基礎となる物理学を十分に理解しておく必要がある。高校で物理学を履修しなかった学生の物理学への入門として、大学で物理学を履修するために必要な思考方法と計算方法を学び、物理学の基礎を身につけることを目標とする。前期クォーター2ではクォーター1の「力学」に続き、電気及び磁気に関する物理現象を扱う「電磁気学」を学ぶ。基礎的な事項からはじめ、具体的な例題を通じて直感的な理解が得られるように配慮して講義する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 電磁気学の基礎を理解する。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 数回のレポート(50%)と試験(50%)で成績評価する。また、7割以上の出席を必要とする。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：物理学入門, 原 康夫, 学術図書出版社, 2005年 / 参考書：物理学入門, 楠川絢一, 高見頼郎, 早川礼之助編修, 実教出版, 1999年; 項目ごとにまとめおよび問題のプリントを配布する。</p> <p><b>メッセージ</b> 授業に出席し、演習レポートを確実に解いて提出すること。</p> <p><b>教官連絡先</b> メールアドレス: masiyama@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 物理学

科目類型 基礎

開設科目	物理学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	学教(教科(数・理))・情報・医学・生機・獣医	単位	1 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教官	田澤 輝武				
<p>授業概要 高校での物理学の理解が不十分である人を対象とした講義である。物理学の基礎の一つである力学の初歩すなわち運動の基礎的概念，運動の記述および運動の法則などについて講義する。</p> <p>授業一般目標 運動に関する基礎的概念と運動の法則を理解するとともに物理的な考え方を少しでも身に付けることを目指す。</p> <p>成績評価方法(総合) 試験、小テスト・授業内レポート、授業外レポートにより評価する。出席は欠格条件とする。</p> <p>教科書・参考書 教科書：市販の教科書は用いない。毎回、プリントで配付します。</p> <p>メッセージ 配付したプリントを精読するとともに、そこで与えた問題については必ず解いて理解を深めてください。</p> <p>教官連絡先 理学部本館 217 号室</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 物理学

科目類型 基礎

開設科目	物理学入門2	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	学教(教科(数・理))・情報・医学・生機・獣医	単位	1 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教官	田澤輝武				
<p>授業概要 高校での物理学の理解が不十分な人を対象とした講義である。物理学の基礎の一つである電磁気学の初歩を出来るだけやさしく講義する。より専門的な物理学の学習に進むための助けとなるものである。</p> <p>授業一般目標 現代社会において、電気、電子技術の応用は欠くことのできないものである。これらを少しでも理解できるように基礎的な知識、考え方を身に付けることを目指す。</p> <p>成績評価方法(総合) 小テスト・、授業外レポートにより評価する。欠席は欠格条件とする。</p> <p>教科書・参考書 教科書：講義内容については毎回プリントで配付します。</p> <p>メッセージ 配付したプリントを精読するとともに、そこで与えた問題を必ず解いて理解を深めてください。</p> <p>教官連絡先 理学部本館 217 号室</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 物理学

科目類型 基礎

開設科目	物理学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	理	単位	1 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教官	繁岡透				
<p>授業概要 高校での物理学の理解が不十分である人を対象とした講義である。物理学の基礎の一つである力学の初歩、運動の記述や運動の法則について講義する。</p> <p>授業一般目標 運動の法則を理解するとともに物理的な考え方を少しでも身に付けることを目指す。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期テスト、小テストおよびレポートによって評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：物理学基礎, 原 康夫, 学術図書出版社, 2004 年</p> <p>メッセージ 物理は難しいという先入観を持たないでください。積極的に取り組みれば物理の面白さがわかると思います。</p> <p>教官連絡先 E-mail shigeoka@sci.yamaguchi-u.ac.jp, 電話 083-933-5674, 研究室 理学部 2 2 8 号室</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 物理学

科目類型 基礎

開設科目	物理学入門2	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	理	単位	1 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教官	繁岡透				
<p>授業概要 高校での物理学の理解が不十分な人を対象とした講義である。物理学の基礎の一つである電磁気学の初歩を出来るだけやさしく講義する。より専門的な物理学の学習に進むための助けとなるものである。</p> <p>授業一般目標 現代社会において、電気、電子技術の応用は欠くことのできないものである。これらを少しでも理解できるように基礎的な知識、考え方を少しでも身に付けることを目指す。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期テスト、小テストおよびレポートによって評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：物理学基礎, 原 康夫, 学術図書出版社, 2004 年</p> <p>メッセージ 電磁気学を応用してものは身の回りにあふれています。これらの原理を少しでも理解できるようになると思います。</p> <p>教官連絡先 E-mail shigeoka@sci.yamaguchi-u.ac.jp, 電話 083-933-5674 研究室 理学部 2 2 8 号室</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 物理学

科目類型 基礎

開設科目	物理学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	理	単位	1 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教官	浦上直人				
<p>授業概要 高校での物理学の理解が不十分である人を対象とした講義である。物理学の基礎の一つである力学の初歩、運動の記述や運動の法則について講義する。</p> <p>授業一般目標 運動の法則を理解するとともに物理的な考え方を少しでも身に付けることを目指す。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期テスト、小テストおよびレポートによって評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：物理学基礎, 原 康夫, 学術図書出版社, 2004 年</p> <p>メッセージ 物理は難しいという先入観を持たないでください。積極的に取り組みれば物理の面白さがわかると思います。</p> <p>教官連絡先 E-mail urakami@sci.yamaguchi-u.ac.jp, 電話 083-933-5690, 研究室 理学部 333 号室</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 物理学

科目類型 基礎

開設科目	物理学入門2	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	理	単位	1 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教官	浦上直人				
<p>授業概要 高校での物理学の理解が不十分な人を対象とした講義である。物理学の基礎の一つである電磁気学の初歩を出来るだけやさしく講義する。より専門的な物理学の学習に進むための助けとなるものである。</p> <p>授業一般目標 現代社会において、電気、電子技術の応用は欠くことのできないものである。これらを少しでも理解できるように基礎的な知識、考え方を少しでも身に付けることを目指す。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期テスト、小テストおよびレポートによって評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：物理学基礎, 原 康夫, 学術図書出版社, 2004 年</p> <p>メッセージ 電磁気学を応用してものは身の回りにあふれています。これらの原理を少しでも理解できるようになると思います。</p> <p>教官連絡先 E-mail urakami@sci.yamaguchi-u.ac.jp, 電話 083-933-5690 研究室 理学部 333 号室</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	社建	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	松野好雅				
<p>授業概要 古典力学(ニュートン)力学の基礎を学ぶ。具体例をあげながら運動の3法則を説明する。講義は初歩的な事柄から始め、身近な物理現象を多く取り上げるにより、高校での物理を不得意とした学生諸君に対しても十分内容が理解できるよう努める。</p> <p>授業一般目標 1. 運動の3法則、及びその使い方を理解する。 2. 等速円運動、放物運動、単振動等の基本的な運動を理解する。 3. 運動量保存則、角運動量保存則、エネルギー保存則、及びその使い方を理解する。 4. 剛体運動の基礎を理解する。この科目は以下の社会建設工学科の学習・教育目標に対応します。(A) 確かな基礎力を有する技術者を目指して以下の能力を身に着ける。 A-1 数学、自然科学、情報処理の基礎力</p> <p>成績評価方法(総合) 中間、及び学期末試験の2回の試験で総合的に評価する。配点は各50%とする。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 改訂版基礎物理学, 原康夫, 学術図書出版社, 1996年</p> <p>メッセージ 予習、復習をきちんとやること。講義ノートをとること。</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	機材	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教官	原 哲彦				
<p>授業概要 物理学の基礎である古典力学を学びます。中心となる内容は次の3つです。(1) 位置、速度、加速度が微分・積分によって互いに結ばれていること。(2) 運動方程式(微分方程式)を解くことによって物体がどのように運動するかがわかること。(3) 運動量、運動エネルギー、仕事、位置エネルギー、角運動量などの重要な物理量についての法則が運動の3法則から自然に導き出せること。</p> <p>授業一般目標 運動の記述、運動の法則、基礎的な物理量について、初等的な微分・積分を使って論理的に見通しよく理解することが目標です。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 物理の基礎, 長岡洋介, 東京教学社, 2000年</p> <p>メッセージ 予習・復習をし、練習問題を自分で解く努力をするようにしてください。質問は歓迎します</p> <p>教官連絡先 tetuhara@c-able.ne.jp</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工 2 年	単位	2 単位	曜時限	水曜日 11・12 時限
担当教官	宮本政英				
<p>授業概要 力学についてはすでに何度か学習をしてきていると思われるが、統一的に理解するということはあまりなかったのではないかと。本講義では、古典力学をニュートンの運動法則をもとに統一的に理解できるように説明し、基本法則からさまざまな法則が現れることを示す。</p> <p>授業一般目標 ニュートンの運動法則を下に力学の全体構造を把握し、力学の考え方を日常生活における現象に具体的に応用できる能力を身に付けることを目標とする。特に様々な法則の下にある基本原理を理解する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：改訂版基礎物理学, 原康夫, 学術図書出版社, 1996 年</p> <p>メッセージ 授業中に理解を助けるため演習を行うので関数キー付き電卓を常に持参すること。</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	電気	単位	2 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教官	西岡道夫				
<p>授業概要 力学は物理学の中で最も基礎的な学問の一つであり、広い範囲の関連分野に力学の手法や結果が応用されている。講義では力学を中心とし、重要な概念と法則を丁寧に説明する。例を豊富に使って法則とその使い方の理解を深め、法則・現象に適切なイメージが描けるようにする。</p> <p>授業一般目標 1) 運動の表し方を学ぶ。 2) 運動法則を理解する。 3) 円運動・放物線運動・抵抗力がある場合の運動の定式化ができる。 4) 振動現象の解析を学ぶ。 5) エネルギー・運動量・角運動量の保存則を理解する。 6) 剛体の釣り合い・回転運動の取り扱いを学ぶ。</p> <p>教科書・参考書 教科書：改訂版基礎物理学, 原康夫, 学術図書出版社, 1996 年</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	感性	単位	2 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教官	原 哲彦				
<p>授業概要 物理学の基礎である古典力学を学びます。中心となる内容は次の3つです。(1)位置、速度、加速度が微分・積分によって互いに結ばれていること。(2)運動方程式(微分方程式)を解くことによって物体がどのように運動するかがわかること。(3)運動量、運動エネルギー、仕事、位置エネルギー、角運動量などの重要な物理量についての法則が運動の3法則から自然に導き出せること。</p> <p>授業一般目標 運動の記述、運動の法則、基礎的な物理量について、初等的な微分・積分を使って論理的に見通しよく理解することが目標です。</p> <p>教科書・参考書 教科書：物理の基礎, 長岡洋介, 東京教学社, 2000年          メッセージ 予習・復習をし、練習問題を自分で解く努力をするようにしてください。質問は歓迎します。          教官連絡先 tetuhara@c-able.ne.jp          備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	機械	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教官	田之上健一郎				
<p>授業概要 物理学の中でも最も基礎的な古典力学について説明する。高校までの物理と違い、微分・積分を使って、論理的に見通し良く、基本原理からさまざまな法則が導けることを示す。また、具体的な問題に法則を適用して自分で解く力を養う。</p> <p>授業一般目標 機械工学の理系基礎および工学基礎分野において、特に に関する専門知識、問題解決に応用できる能力を身につけることを目標とする。物理学の中でも最も基礎的な古典力学を学習する。ニュートンの運動方程式を自分でたてることができ、微分・積分を使って、具体的な問題を論理的に自分で解く力を養う。</p> <p>成績評価方法(総合) 期試験の結果およびレポートをもとに力学の知識・理解および解析に必要な数学力を評価する。また、小テストによる予習確認により意欲を、レポートにより思考・判断の評価を行う。4回以上欠席した学生には単位を与えない。</p> <p>教科書・参考書 教科書：基礎 力学, 永田一清, サイエンス社, 1997年 / 参考書：参考となるホームページ・物理のための数学 <a href="http://doraneco.pos.to/physics/column/column.html">http://doraneco.pos.to/physics/column/column.html</a> # butsurikougi ・微積を使って力学の世界を見る <a href="http://doraneco.pos.to/physics/column/bisekir.html">http://doraneco.pos.to/physics/column/bisekir.html</a></p> <p>メッセージ シラバスを参考に教科書の関連箇所の予習をして講義に臨むこと。また、講義後は講義内容の理解度を自己評価し、復習のうえ次回の講義に臨むこと。機械工学の基礎 = (1) 熱力学, (2) 材料力学, (3) 流体工学, (4) 機械力学, (5) 制御工学, これらのさらに基礎となるのが力学である。専門科目受講までにはしっかり基礎を身に付けておくこと。</p> <p>教官連絡先 tano@yamaguchi-u.ac.jp          備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	応化	単位	2 単位	曜時間	木曜日 3・4 時限
担当教官	山本惺史				
<p>授業概要 古典力学(ニュートン力学)の基本的な事柄を概説する。</p> <p>授業一般目標 物理学の基礎である古典力学(ニュートン力学)を学ぶ。運動の記述,運動の法則などについて,微分・積分やベクトルなどの数学的手段を活用して理解する。また,日常生活の中の現象や自然現象を古典力学の立場から理解する態度を養う。</p> <p>成績評価方法(総合) 1.授業の中で小テストを随時行う。2.レポートを1回課す。これは欠格条件とする。3.期末試験を実施する。</p> <p>教科書・参考書 教科書:改訂版基礎物理学,原康夫,学術図書出版社,1996年 メッセージ 質問や意見など遠慮無く。 教官連絡先 E-mail: seiy@haginet.ne.jp 備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	学教(教科(数・理))・情報・理・生機・獣医	単位	2 単位	曜時間	金曜日 3・4 時限
担当教官	西井淳				
<p>授業概要 古典力学(ニュートン力学)は目に見える大きさの物体の運動を扱います。そこには,位置,速度,加速度,運動エネルギー,位置エネルギー,運動量,角運動量といった物理に不可欠な概念が現れます。また,いくつかの基本法則から,いろいろな物理量の間になり立つ関係を導く過程は,物理の議論の進め方のお手本となるものです。ただ,話を聞くだけでは身につかないので,演習問題を自分で解くことが大事です。</p> <p>授業一般目標 物理学の基礎である古典力学(ニュートン力学)を学ぶ。運動の記述,運動の法則などについて,微分積分やベクトルなどの数学的手段を活用して,論理的に見通し良く理解する。</p> <p>成績評価方法(総合) (1)ほぼ毎回小テストをおこなう。(2)小テストの提出が7割に満たないものには単位を与えない。(3)小テストの総合得点が90%以上,80%以上90%未満,70%以上80%未満の成績をそれぞれS,A,Bとし,残念ながら70%に満たない方は追試になります。追試の場合,「小テスト30点+追試70点」の総点を成績とします。</p> <p>教科書・参考書 教科書:物理の基礎,長岡洋介,東京教学社,2000年 メッセージ 第1回は,同じ時間帯に開かれる物理学I(鍋木修先生担当)のクラスとの間で人数調整をします。 教官連絡先 居室;総合研究棟303号室,E-mail;nishii@yamaguchi-u.ac.jp 備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 物理学

科目類型 総説

開設科目	物理学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	理 (地球除く)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教官	鍋木修				
<p>授業概要 物理学の基礎である古典力学を学びます。特に、物理現象を数式で表現し、数学的演算によって論理思考を展開する方法を身につけてもらいます。中心となる内容は次の3つです。1)位置、速度、加速度が、互いに微分・積分によって結ばれていること。2)運動方程式(微分方程式)を解くことによって、物体の運動を決めること。3)運動量、運動エネルギー、仕事、位置エネルギー、角運動量などの重要な物理量についての法則が、運動の3法則から自然に導きだせること。</p> <p>授業一般目標 古典力学の基礎をしっかりと身に付け、物理学の他の分野を学ぶための足場を固めること。</p> <p>成績評価方法(総合) 中間と期末の2回のテストを中心に評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 物理の基礎, 長岡洋介, 東京教学社, 2000年; 販売店: 生協</p> <p>教官連絡先 理学部201号室、内線(5671)</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 物理学

科目類型 総説

開設科目	物理学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	医学	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教官	山本隆				
<p>授業概要 物理学の中でも、最も早く完成した古典力学(ニュートン力学)の基礎的な概念とその取り扱いを、例題を通して教授する。</p> <p>授業一般目標 古典力学は、自然科学の雛形で、もっとも美しく数学的に纏め上げられている。この講義では、古典力学が如何に豊富な内容を有し、自然界の森羅万象をうまく説明しているかを理解する。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 力学, 川村清, 裳華房, 1998年</p> <p>教官連絡先 理学部本館335室 オフィスアワー 月曜 13:00 - 15:00</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 物理学

科目類型 総説

開設科目	物理学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	知能	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教官	平林晃				
<p>授業概要 前半は高校物理で学んだ力学の問題を論じていきますが、そのために微分方程式を用います。後半ではビデオ教材を用いながら、(特殊)相対性理論の導入を口述し、日常では考えられない現象の世界をのぞいてみることにします。</p> <p>授業一般目標 1. 微分方程式を用いて力学系の問題を解決できるようになること。 2. 特殊相対性理論で現れる現象を理解すること。</p> <p>成績評価方法(総合) 中間試験40点+期末試験60点=合計100点</p> <p>教科書・参考書 教科書: プリントを適宜配布する。</p> <p>メッセージ 1. 高校時代は使わなかった微分・積分を力学の解析に用いることの有用性を理解してください。 2. 今年は相対論の発表からちょうど100周年にあたります。タイムリーなこのときに、日常ではありえない現象を説明するこの理論に興味をもってもらえればと思います。</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 化学

科目類型 基礎

開設科目	化学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	工(夜)2年, 工(昼)2年	単位	1 単位	曜時限	月曜日 9・10 時限
担当教官	松崎浩司				
<p>授業概要 工学を学ぶ学生を対象として、化学に関する理解が不十分な学生に対して、工学を学ぶ学生にその専門にかかわらず化学の基礎知識の重要性を認識させるとともに将来的に化学について関係しなくなると時に勉強するための初歩の知識について、身のまわりの現象などと関連付けながらやさしく解説する。</p> <p>授業一般目標 大学で工学を学ぶ者にとって、化学の基礎知識の重要性を認識すること。化学を勉強するに当たって特に化学Iを学ぶ前提としての導入的な初歩の知識を理解すること。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験および講義中の演習レポートにより総合的に評価する。演習を重視するので、必然的に出席が非常に重要になる。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 化学入門, 大野幸一、妹尾 学、今任稔彦、高木 誠、福田 豊、池田 功, 共立出版, 1997 年 / 参考書: やりなおし高校の化学, 斎藤勝裕, ナツメ社, 2005 年</p> <p>メッセージ よく復習をすること。</p> <p>教官連絡先 ko-matsu@c-able.ne.jp</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 化学

科目類型 基礎

開設科目	化学入門2	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	工(夜)2年, 工(昼)2年	単位	1単位	曜時限	月曜日 9・10時限
担当教官	松崎浩司				
<p>授業概要 工学を学ぶ学生を対象として、化学に関しての理解が不十分な学生に対して、工学を学ぶ学生にその専門にかかわらず化学の基礎知識の重要性を認識させるとともに将来的に化学について関係しなくなればならなかった時に勉強するための初歩の知識について、身のまわりの現象などと関連付けながらやさしく解説する。</p> <p>授業一般目標 大学で工学を学ぶ者にとって、化学の基礎知識の重要性を認識すること。化学を勉強するに当たって特に化学IIを学ぶ前提としての導入的な初歩の知識を理解すること。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験および講義中の演習レポートにより総合的に評価する。演習を重視するので、必然的に出席が非常に重要になる。</p> <p>教科書・参考書 教科書：視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録(新課程用), 数研出版編集部, 数研出版, 2003年; 化学入門,, 大野幸一、妹尾学、今任稔彦、高木誠、福田豊、池田功、立出版, 1997年 / 参考書：やりなおし高校の化学, 斎藤勝裕, ナツメ社, 2005年</p> <p>メッセージ よく復習をすること。</p> <p>教官連絡先 ko-matsu@c-able.ne.jp</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 化学

科目類型 基礎

開設科目	化学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	学教(教科(理))・理・農	単位	1単位	曜時限	木曜日 9・10時限
担当教官	横山和平				
<p>授業概要 化学の基礎的事項の修得</p> <p>授業一般目標 化学Iの履修に必要な化学の原理や考え方を理解する。</p> <p>成績評価方法(総合) 知識・理解を測定する定期試験・小テストを主とし、思考・判断をはかる演習・レポートを従とする。出席は欠格事項として扱う。</p> <p>教科書・参考書 教科書：教科書については講義の冒頭で紹介する。 / 参考書：参考書については講義の冒頭で紹介する。</p> <p>教官連絡先 農 417</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 化学

科目類型 基礎

開設科目	化学入門2	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	学教(教科(理))・理・農	単位	1 単位	曜時間	木曜日 9・10 時限
担当教官	横山和平				
<p>授業概要 化学の基礎的事項を修得する。</p> <p>授業一般目標 化学 II の履修に必要な化学の原理や考え方を理解する。</p> <p>成績評価方法(総合) 知識・理解を測定する定期試験・小テストを主とし、思考・判断をはかる演習・レポート を従とする。出席は欠格事項として扱う。</p> <p>教科書・参考書 教科書：講義の冒頭で紹介する。 / 参考書：講義の冒頭で紹介する。</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 化学

科目類型 基礎

開設科目	化学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	機械・応化・社建・電気	単位	1 単位	曜時間	木曜日 9・10 時限
担当教官	阿部憲孝				
<p>授業概要 高校で化学を履修しなかった学生を対象に、化学の基礎を解説する。</p> <p>授業一般目標 自然科学系列化学分野の化学 I の履修するために必要な原理や考え方を理解し、基礎知識を身に付ける。</p> <p>成績評価方法(総合) 知識・理解をそくしている定期試験・小テストを主とし、思考・判断をはかる演習・レポート を従とする。出席は欠格条件。</p> <p>教科書・参考書 教科書：化学入門, 大野公一、妹尾学ら, 共立出版, 1997 年</p> <p>メッセージ 小テストの結果が成績判定に関わります。化学は基礎から考えると理解し やすいので、最初が肝心です。手を動かして、図を書き、計算しましょう。</p> <p>教官連絡先 研究室：理学部南棟 4 階 438 号室。随時研究室で、できるかぎり対応します。</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 化学

科目類型 基礎

開設科目	化学入門2	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	機械・応化・社建・電気	単位	1 単位	曜時間	木曜日 9・10 時限
担当教官	阿部憲孝				
<p>授業概要 高校で化学を履修しなかった学生を対象に、化学の基礎を解説する。</p> <p>授業一般目標 化学 II の履修に必要な化学の原理や考え方を理解し、基礎知識を身に付ける。</p> <p>成績評価方法 (総合) 知識・理解を測定する定期試験・小テストを主とし、思考・判断をはかる演習・レポートを従とする。出席は欠格条件。</p> <p>教科書・参考書 教科書：化学入門, 大野公一、妹尾学ら, 共立出版, 1997 年</p> <p>メッセージ 小テストの結果が成績判定に関わります。化学は基礎から考えると理解しやすいので、最初が肝心です。手を動かして、図を書き、計算しましょう。</p> <p>教官連絡先 研究室：理学部南棟 4 階 438 号室。随時研究室で、できるかぎり対応します。</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 化学

科目類型 基礎

開設科目	化学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	看護・検査	単位	1 単位	曜時間	金曜日 7・8 時限
担当教官	田中経彦				
<p>授業概要 医学部保健学科看護学専攻学生で高等学校で化学を専攻してこなかった学生、プレテストで化学の基礎を復習する必要性が指摘された保健学科学生に対し開講する。この入門 講義の後、化学 II 化学 I を受講できる。目標にも書くが、看護師に必要な化学常識を育成 ための講義である。化学を専門にする学生に対する講義とは内容を変える。前期前半に 化学入門1 と 2 を終了し、前期後半に化学 II (有機化学主) を学ぶ。時間は限られているし、科学全般に苦手意識があると思うので、高校化学の必要な知識をゆっくり勉強する。</p> <p>授業一般目標 看護師は医療の現場で多くの薬品を取り扱う。薬品の取り扱いを間違えれば重大な医療事故につながる。最近あった事故ではカルシウムをカリウムと間違え、点滴して死亡させた例がある。当然、業務上過失致死として、訴追された。事故を防ぐためには判断力が必要である。判断力をつけるには考える材料として化学の知識が必須である。化学の専門家を目指す人に必要な化学ではなく、素養となる化学を理解するために必要な基本知識を教える。</p> <p>成績評価方法 (総合) 授業内レポートにより評価する</p> <p>教科書・参考書 教科書：フォトサイエンス化学図録, 数研出版編集部編, 数研出版, 1998 年；フォトサイエンス化学図録 (数研出版)</p> <p>メッセージ 化学を高校時代に選択した人が、学力不足でないのに受講する必要はありません</p> <p>教官連絡先 <a href="http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/tatehiko/po-login/index.html">http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/tatehiko/po-login/index.html</a> ここから質問とその回答を掲載したページへ行けるようにします。授業の終わりに質問を受け付けるつもりですが、不足であれば金曜日の昼休みに後日連絡する教室に質問受付のためにいます。メール連絡先：tatehiko@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 化学

科目類型 基礎

開設科目	化学入門2	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	看護・検査	単位	1 単位	曜時限	金曜日 9・10 時限
担当教官	田中経彦				
<p>授業概要 講義概要 医学部保健学科学生の内、化学を高校で履修していない者及び化学プレテストで基礎の復習が必要と判断された者に対し、化学入門1とセットで行われる。特に有機化合物 - 炭素でできた化合物(例、砂糖、でんぷん、たんぱく質、脂肪等)の性質を理解するのに必要な基礎知識を与える。</p> <p>授業一般目標 講義目標 高校での化学履修者と同程度の化学知識の理解。</p> <p>成績評価方法(総合) 授業内レポートで評価する</p> <p>教科書・参考書 教科書: フォトサイエンス化学図録, 数研出版編集部編, 数研出版, 1998年; フォトサイエンス化学図録(数研出版)</p> <p>教官連絡先 <a href="http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/tatehiko/po-login/index.html">http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/tatehiko/po-login/index.html</a> ここから質問とその回答を掲載したページへ行けるようにします。授業の終わりに質問を受け付けるつもりですが、不足であれば金曜日の昼休みに後日連絡する教室に質問受付のためにいます。メール連絡先: <a href="mailto:tatehiko@yamaguchi-u.ac.jp">tatehiko@yamaguchi-u.ac.jp</a></p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 化学

科目類型 基礎

開設科目	化学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	情報・知能・機材・感性	単位	1 単位	曜時限	金曜日 9・10 時限
担当教官	和泉研二				
<p>授業概要 化学Iの履修に必要な化学の原理や考え方を理解する。具体的には、物質の構造、状態、平衡、化学変化などについて学習する。</p> <p>授業一般目標 高校レベルの化学の内容を確認しながら、物質の理解に必要な基本的な原理や考え方を確実に理解・習得し、共通・専門教育で開講されている化学関連の授業を受講するための基礎を身につける。</p> <p>成績評価方法(総合) (1)最終テストの実施。(2)毎回の小テスト。(3)レポート課題提出。以上を下記の観点・割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p>教科書・参考書 教科書: なし。適宜プリントを配付する。</p> <p>メッセージ 化学の辞典、化学の入門書、高校の教科書等を参考にして、関連項目・専門用語について、確実に理解すること。</p> <p>教官連絡先 <a href="mailto:bec20@yamaguchi-u.ac.jp">bec20@yamaguchi-u.ac.jp</a>、研究室: 教育学部1階</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 化学

科目類型 基礎

開設科目	化学入門2	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	情報・知能・機材・感性	単位	1 単位	曜時限	金曜日 9・10 時限
担当教官	和泉研二				
<p><b>授業概要</b> 化学 I の履修に必要な化学の原理や考え方を理解する。具体的には、有機化合物と高分子化合物を中心に学習する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 高校レベルの化学の内容を確認しながら、物質の理解に必要な基本的な原理や考え方を確実に理解・習得し、共通・専門教育で開講されている化学関連の授業を受講するための基礎を身につける。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> (1) 最終テストの実施。(2) 毎回の小テスト。(3) レポート課題提出。以上を下記の観点・割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：なし。適宜プリントを配付する。</p> <p><b>メッセージ</b> 化学の辞典、化学の入門書、高校の教科書等を参考にして、関連項目・専門用語について、確実に理解すること。</p> <p><b>教官連絡先</b> bec20@yamaguchi-u.ac.jp、研究室：教育学部 1 階</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 化学

科目類型 総説

開設科目	化学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	知能	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	川俣純				
<p><b>授業概要</b> 化学は生体をも含めた全ての物質の成り立ちと状態、物質の変化や新しい物質の創製を研究する学問です。この講義では、反応熱、およびその温度・圧力との関係、化学平衡、物質の三態など身近なことを話題とします。</p> <p><b>授業一般目標</b> 高校の化学で学習した「物質の状態」、「化学反応と熱」、「反応の早さと平衡」などの概念を系統立てて習得し、日常体験する様々な現象に化学がどのように関与しているのかを理解する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 1. 中間試験・期末試験の成績を重視する。2. 小テスト・授業内レポートに現れた思考力や関心・学習態度も評価に加味する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：入門 化学熱力学, 松永義夫, 朝倉書店, 2001 年 / 参考書：相律と状態図, 吉岡甲子郎, 共立出版, 1984 年; 現代の物理化学, 松永義夫, 三共出版, 1990 年</p> <p><b>メッセージ</b> 単に知識を覚えるのではなく、化学という学問の根底を流れる考え方を学ぶ姿勢で授業に参加して下さい。</p> <p><b>教官連絡先</b> 理学部本館 434 号室 j_kawa@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 化学

科目類型 総説

開設科目	化学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	機材	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	松 浩司				
<p><b>授業概要</b> モルの概念、原子の構造、電子配置、化学結合、分子の形、化学平衡、酸・塩基、酸化・還元など物理化学の初歩の内容である。高校での化学とのつながりに注意を払い、専門科目に必要な基本的事項について講述する。配布演習問題や小テストなどを通じて、自学を促しながら進める。</p> <p><b>授業一般目標</b> 無機化学や物理化学の基礎を習熟し、実際の身の回りの現象を化学的(科学的)に説明できることを目標とする。また専門科目への橋渡しとしての必要な概念も習得させる。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 期末試験と出席状況で総合評価する。毎回小テストを行うが、これは講義内容の理解度を把握するとともに、学生への自学を促すものである。よって評価の対象とはしないが、出席状況の判断に用いる。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：大学生の化学(第2版)、大野惇吉、三共出版、2005年；(文栄堂大学前店で販売)/参考書：物質化学の基礎、多賀光彦・中村博・吉田登、三共出版、1993年；化学の基礎、竹内敬人、岩波書店、1996年；化学が見えてくる、岩本悦郎、江頭直義、柿並孝明、日色和夫、三共出版、2005年；演習問題を配布する。</p> <p><b>メッセージ</b> 化学は機能材料工学科の学生にとっては専門科目の基礎として重要な科目であり、高校での履修から専門科目への橋渡しの役割をしています。よって、単なる暗記ではなく、内容をよく理解し物の本質が見抜けるような態度で取り組んでもらいたい。</p> <p>教官連絡先 ko-matsu@c-able.ne.jp 備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 化学

科目類型 総説

開設科目	化学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	感性	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	青島均				
<p><b>授業概要</b> 原子の電子配置を説明した上で、原子が集まってどのように分子が作られるか述べる。次に分子の間の平衡、酸化還元、反応速度などについても述べる。</p> <p><b>授業一般目標</b> 私たちを取り巻く物質を物理化学的法則に基づいて、新しい観点からより深く理解することを旨とする。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 下記の方法で評価します。小テストにより出席をとります。欠席が多い場合は不可とします。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：ライフサイエンス基礎化学、青島均・右田たい子、化学同人、2000年/参考書：図書館に多くの参考書があるから利用すること。</p> <p><b>メッセージ</b> 大学は自分で勉強するところです。受身にならず自主的、積極的に取り組んでください。</p> <p>教官連絡先 理学部北棟403号室、電話：5762、e-mail:aoshima@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：会議などの用事がなければいつでも対応します。できれば前もって電話、メールでご連絡ください。</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 化学

科目類型 総説

開設科目	化学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	生機・獣医	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	右田たい子				
<p>授業概要 化学は物質そのものを対象とする学問であり、あらゆる物質についてその本性を統一的に理解することを目的としている。この講義では化学の基本的な事項について学び、物質の成り立ちと性質の関係、変化の仕方を決める要因などについて考え、物質を科学の原理に立って理解する、とはどういうことなのかを学ぶ。</p> <p>授業一般目標 無機系化学(無機化学、物理化学、分析化学等に関係する分野)の基礎を理解する。</p> <p>成績評価方法(総合) 知識・理解を測る定期試験、中間試験、小テストを主とし、思考・判断を測る演習・レポートを従とする。</p> <p>教科書・参考書 教科書: ライフサイエンス基礎化学, 青島均・右田たい子, 化学同人, 2000年; 熟読すること。欄外には、高校で物理学を履修しなかった学生のために、理解に必要な事項(単位系等)を解説して有るので、参考にすること。例題をしっかりと理解し、章末問題が自力で解答できれば十分合格点に達している。/ 参考書: 生命科学のための基礎化学、無機物理化学編, M. M. Bloomfield, 丸善, 1995年; カステラン物理化学, G. W. Castellan 目黒・田中・今村訳, 東京化学同人, 1986年; 物理化学(下)第6版, P. W. Atkins, 東京化学同人, 2003年</p> <p>メッセージ 化学 I は、化学の基礎部分に当たるので、生命科学を学ぶすべての学生にとって、必修の内容を含んでいる。高年次のさまざまな専門科目の履修の基礎となるので、まじめに取り組むこと。</p> <p>教官連絡先 ctmigita@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 農学部本館南 4 階 420 オフィスアワー: 月曜日 15:00-17:00</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 化学

科目類型 総説

開設科目	化学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	学教(教科(理))・情報・数理・物情・地球・生資	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	青島均				
<p>授業概要 原子の電子配置を説明した上で、原子が集まってどのように分子が作られるか述べる。次に分子の間の平衡、酸化還元、反応速度などについても述べる。</p> <p>授業一般目標 私たちを取り巻く物質を物理化学的法則に基づいて、新しい観点からより深く理解することを旨とする。</p> <p>成績評価方法(総合) 下記の方法で評価します。小テストにより出席をとります。欠席が多い場合は不可とします。</p> <p>教科書・参考書 教科書: ライフサイエンス基礎化学, 青島均・右田たい子, 化学同人, 2000年 / 参考書: 図書館に多くの参考書があるから利用すること。</p> <p>メッセージ 大学は自分で勉強するところです。受身にならず自主的、積極的に取り組んでください。</p> <p>教官連絡先 理学部北棟 403号室、電話: 5762、e-mail: aoshima@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: 会議などの用事がなければいつでも対応します。できれば前もって電話、メールでご連絡ください。</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	化学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	応化	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	森田昌行				
<p>授業概要 原子の構造，電子配置，化学結合，化学平衡，反応速度など物理化学の基礎となる内容が中心である．高校化学の復習から始め，将来専門科目を学ぶ上で必要な基本的事項について詳しく解説する．いくつかの項目については演習を行う．</p> <p>授業一般目標 化学量論や物質量の表し方など，まず高校の化学をおさらいする．次に専門科目の履修に不可欠ないくつかの基礎的概念を使えるようになるまでマスターする．</p> <p>成績評価方法（総合） (1) 中間試験，期末試験を行う．(2) 授業中に小テストを随時実施する．(3) 宿題（レポート）を課す．(4) 出席状況は欠格条件となる（80 %以上の出席が必要）．以上を下記の観点・割合で評価する．</p> <p>教科書・参考書 教科書：化学入門，下井 守，村田 滋，東京化学同人，2005 年；高校で使用した教科書は復習のため必要です．/ 参考書：物質化学の基礎，多賀光彦・中村 博・吉田 登，三共出版，1993 年；大学生の化学，大野惇吉，三共出版，2001 年；大学の化学への招待，井上 亨，ほか 3 名，三共出版，1996 年</p> <p>教官連絡先 morita@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：工学部本館南側 4 階 (Rm # 411)</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	化学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	社建	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教官	中野 昭夫				
<p>授業概要 化学の基礎原理（化学基礎及び物理化学分野）を中心に学ぶ。分子の成り立ちを原子のレベルから学ぶ。さらに化学物質の状態や、変化（反応）を理解する。又、健康や環境と化学の関わりについて講義する。</p> <p>授業一般目標 この世の中の全ての物が、化学物質であることを再認識し、身の回りのさまざまな現象を分子レベルで理解して戴く。そのため専門知識として必要となる基礎化学を、化学 I と化学 II を通じて理解して戴くことを最終目標とするが、本講義（化学 I）では、分子理解の基礎になる原子構造と化学の基礎原理を理解して戴く。より健康的でかつ地球に優しい生き方を志して戴く為、化学へ興味を持って戴くことを主目標とする。</p> <p>成績評価方法（総合） 出席点（出席回数）、平常点（毎回の試験結果）、レポート（数回分）、及び期末試験を総合的に評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：生活の基礎化学 増補訂正，神谷功著者代表，東京教学社，2000 年 / 参考書：図表で学ぶ化学，”大城芳樹，平嶋恒亮著”，化学同人，1999 年</p> <p>メッセージ 出席を重視します。最終講義でノートチェックを行います。期末試験にノート、テキスト持ち込み可とします。</p> <p>教官連絡先 Email:a-nakano@toua-u.ac.jp</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	化学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	機械	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教官	本多 謙介				
<p>授業概要 化学は、物質の構造や性質、およびその変化を研究することを目的とした学問であり、無機化学、有機化学、物理化学の三分野に分けられる。本講では、化学の基本概念を総括して学習する。</p> <p>授業一般目標 物質の性質、構造、反応性を支配する基本法則を系統的に理解することを目指す。このため、小テスト・演習をまじえながら講義を行なう。</p> <p>教科書・参考書 教科書：わかりやすい基礎化学 材料・環境・生体へのアプローチ，神戸 哲，講談社サイエンスティフィック，1998 年</p> <p>メッセージ 講義内容を理解するためには、予習・復習を欠かさず行うこと。特に、教科書の章末問題を解くことによって化学の基本知識の理解を深めて欲しい。</p> <p>教官連絡先 理学部本館 4 階 441 号室</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	化学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	電気	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教官	伊原 靖二				
<p>授業概要 (1) 化学の基礎: 化学の歴史、原子、周期律、化学結合の基礎概念及び物質の状態と物理的性質を学ぶ。(2) 化学反応: 反応速度、平衡状態及び電離平衡の概念を質量作用の法則及び速度論から学び、物質の化学現象を理解する。(3) 物質の性質: 熱力学的性質、化学結合、酸・塩基の概念及び材料、エネルギー、環境、生命の化学の基礎を学ぶ。</p> <p>授業一般目標 化学は特に物質の変化すなわち現象を理解する学問であり、我々の身近な現象は化学と深くかかわりをもっている。この化学 I においてはこれらの化学現象を理解するための基礎的概念及び理論について、物理化学の立場から体系的に学習する。</p> <p>成績評価方法 (総合) (1) 授業の終わりに、10 回程度講義の理解度の判定のため、小テストを行う。(2) 期末試験の実施、(3) 出席点の重視、以上を下記の観点・割合で成績を総合的に判定する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：現代化学の基礎, 柏野節夫 他, 培風館, 2000 年</p> <p>メッセージ 再試験は実施しませんので、きちんと試験の準備をしてください。</p> <p>教官連絡先 ihara@yamaguchi-pu.ac.jp</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	化学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	医学	単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6 時限
担当教官	小崎 紳一				
<p>授業概要 化学では物質を主な研究対象とするので、化学は物質科学の中心となる学問分野といえる。この講義では、大学で学ぶ理科系学生にとり共通して必要と考えられる現代化学の基礎をとりあげていく。各回の講義内容は、物質の構造、性質（物性）、変化（反応）を理解するうえで基礎となる概念や理論について、おおむね教科書の順序にしたがって下記のようにする予定である。</p> <p>授業一般目標 物質の構造・性質・変化についての基礎的な理解を深める。</p> <p>成績評価方法（総合） 中間試験と期末試験で評価する。中間試験の日程などについては授業時に連絡する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：ライフサイエンス基礎化学, 青島均・右田たい子, 化学同人, 2000 年；山口大学生協ブックセンターにて販売</p> <p>教官連絡先 金曜 午後</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	化学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工 2 年	単位	2 単位	曜時限	金曜日 11・12 時限
担当教官	竹中俊介				
<p>授業概要 1．原子の構造と性質、周期律表 2．化学結合 3．物質の状態の熱力学 4．無機化学の初歩 等</p> <p>授業一般目標 ・マクロな物質の性質を分子レベルで理解する。 ・原子・分子の中で電子の果たす役割を理解する。 ・化学式を用いて化学反応を理解する。 ・熱力学においては、式を用いて定量的な扱いができる。 ・無機化合物の多様性を系統的に理解する。</p> <p>成績評価方法（総合） 中間試験と定期試験、及び小試験とレポートを以下の観点・割合で評価する。特別な理由なしに 3 回以上欠席すると単位を認定しない。</p> <p>教科書・参考書 教科書：現代化学の基礎 - 物質科学へのアプローチ, 渡辺 啓, サイエンス社, 1995 年</p> <p>メッセージ 欠席しないように努力して欲しい。</p> <p>教官連絡先 e-mail: takenaka@yamaguchi-u.ac.jp 電話：0836-85-9640 研究室：工学部本館北棟 4 階</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	化学 II	区分	講義	開設期	前期
対象学生	看護・検査	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教官	田中 経彦				
<p><b>授業概要</b> 医学部保健学科検査技術学専攻学生のみを対象に開講する必修講義です。看護の学生は途中でやめる人が続出したのでお断りします。有機化合物の官能基の反応性や化合物の命名法を主体に学習し、現代医学の基礎となっている生化学が理解できる基礎知識を習得する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 後期に履修する生化学及びそれに続く検査学科目を理解するために必要な有機化学知識 を活用できることを目指す。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 小テスト及び定期試験による</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：「ハート基礎有機化学 3 訂版」, H. ハート, L.E. クレーン, D.J. ハート共著 ; 秋葉欣哉, 奥彬共訳, 培風館, 2002 年 ; 教科書 教科書 ハート基礎有機化学 培風館 3900円</p> <p><b>メッセージ</b> 構造式は、漢字の書き取りと一緒に、4～5 回も書けば覚えられます。いや漢字に比べれば楽なものかもしれません。関連科目の生化学、薬理学、生理学では物質の構造式は必須です。昨年は、必修でなかったので、受講しなかった人達がいいましたが、後悔すると思います。</p> <p><b>教官連絡先</b> <a href="http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/tatehiko/po-login/index.html">http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/tatehiko/po-login/index.html</a> ここから質問とその回答を掲載したページへ行けるようにします。小テスト、参考資料等もここから入手できるようにします。保健学科シラバスからもいけます。<a href="http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/pmt2001/po-login/Syllabus/index.htm">http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/pmt2001/po-login/Syllabus/index.htm</a> この URL はお気に入りに追加して下さい。ここで、教官ホームページをクリックして下さい。検査を選び田中化学をクリックすれば到達します。授業の終わりに質問を受け付けるつもりです。メール連絡先：tatehiko@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	化学 II	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	同一曜日・時限『化学入門1』及び『化学入門2』単位修得者	単位	2 単位	曜時限	金曜日 7・8・9・10 時限
担当教官	田中経彦				
<p><b>授業概要</b> 医学部保健学科看護学専攻学生を対象に有機化学を主に講義する。有機化学とは、炭素を含んだ物質の性質を調べる化学である。生物を構成する物質の大半は炭素を成分とする有機化合物である。生命活動のエネルギーは糖、脂肪、たんぱく質などの有機化合物を酸化することで得ている。生命活動は多種の有機化学反応の組み合わせによって構成されている。人間も同じである。人間が病気になるのは体の有機物質の質的または量的異常のせいである。健康状態を維持するには栄養素である有機化合物の理解が必要である。有機化学の知識がなければ現代医学は理解できない。</p> <p><b>授業一般目標</b> 講義目標 医学の基本である生化学や、薬理学で出てくる多数の有機化合物の名前や構造式にパニックにならないように、事前に顔見知りになることを目的にします。生化学は、時間数が少なく消化不良に陥りがちですが、この化学の授業で準備をします。また身の回りの化学物質について知識を深めることは、意義があるでしょう。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：コ・メディカル領域の化学：健康・医療と化学のかかわり, 津波古充朝 [ほか] 共著, 三共出版, 1989 年 ; コ・メディカル領域の化学 (三共出版)</p> <p><b>教官連絡先</b> <a href="http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/tatehiko/po-login/index.html">http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/tatehiko/po-login/index.html</a> ここから質問とその回答を掲載したページへ行けるようにします。授業の終わりに質問を受け付けるつもりですが、不足であれば金曜日の昼休みに後日連絡する教室に質問受付のためにいます。メール連絡先：tatehiko@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 生物学

科目類型 基礎

開設科目	生物学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	理・工	単位	1 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教官	室伏 擴				
<p>授業概要 生物学の基礎的な考え方について説明する。</p> <p>授業一般目標 高等学校で生物を履修して来なかった学生に対して、授業内容を理解出来るような生物学の知識を学ばせる。</p> <p>教官連絡先 いつでも可 理3号館107号室 tel 083-933-5715, e-mail murofusi@sci.yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 自然科学

分野 生物学

科目類型 基礎

開設科目	生物学入門2	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	理・工	単位	1 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教官	井上慎一				
<p>授業概要 高等学校で生物を履修してこなかった学生に生物学の基礎となる科学の進歩、生物の身体構造と機能、生物活動を支える化学反応、生命の連続性および生物集団の成り立ちなどについてわかりやすく解説します。地球上の生命はどこで生まれ、どこから来たのか？そしてどこへゆくのか？地球以外の世界には生命はあるのか？等の身近な問題から生物学の基礎を解説します。</p> <p>授業一般目標 生物学に親しみと興味を持たせること 生命の仕組みの不思議さを伝えること 新聞などの登場する生物の話題がわかるようになること</p> <p>成績評価方法(総合) 高等学校で習った生物の内容を大急ぎで、基本と考えられる部分だけを教科書に従って説明する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：図説生物、久力誠ほか、東京書籍、2004年；高等学校で使用されている「生物IB」の教科書 / 参考書：図説現代生物学(改訂5版)、新津恒良[ほか]著、丸善、1994年；図説現代生物学、新津恒良、丸善、平成6年</p> <p>メッセージ 社会人として必要な生物学の知識を身につけよう。</p> <p>教官連絡先 井上慎一：inouye@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour 月曜日 15:00-17:00</p>					

開設科目	生物学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	医	単位	1 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教官	渡部省二				
<p><b>授業概要</b> 高等学校で生物学を履修していない学生を対象として、生物学の全体像を把握することを目的とする。入門1では、まず生物の多様性について学び、この多様な生物をいかにして整理、分類するか、それぞれの生物の構造がどうなっているのか、どのような機能をもっているのか、について概説する。そして、この多様な生物が、その基本的な営みにおいて驚くべき共通性をもっていることを理解する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 生物学 I、II を学ぶための生物学の基礎知識を修得する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> *授業外レポート(宿題)を課すが、評価には加えず、欠格条件とする(未提出の場合は単位を与えない)。ただし、提出した場合でも課題にまじめに取り組んでいないレポートは未提出と判定することもあり得る。また、全く同じレポートが二人から提出された場合は双方とも未提出とする。*出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: 視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録, 数研出版編集部, 数研出版, 1997 年</p> <p><b>メッセージ</b> 講義の資料はホームページに掲載されているので参照すること。URL は、<a href="http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/shwatabe/po-login/menus/nyumon.htm">http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/shwatabe/po-login/menus/nyumon.htm</a> わからないことをわからないままにしておかず、すぐに質問すること。メールによる質問も可。</p> <p><b>教官連絡先</b> shwatabe@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	生物学入門2	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	医	単位	1 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教官	渡部省二				
<p><b>授業概要</b> 高等学校で生物学を履修していない学生を対象として、生物学の全体像を把握することを目的とする。入門2では生物の多様性に焦点をあてて、この多様性がどのようにして形成されたかを発生、遺伝のしくみ、生物の進化を中心に講義する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 生物学 I、II を学ぶための生物学の基礎知識を修得する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> *期末試験を行う。*授業外レポート(宿題)を課すが、評価には加えず、欠格条件とする(未提出の場合は単位を与えない)。ただし、提出した場合でも課題にまじめに取り組んでいないレポートは未提出と判定することもあり得る。また、全く同じレポートが二人から提出された場合は双方とも未提出とする。*出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: 視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録, 数研出版編集部, 数研出版, 1997 年</p> <p><b>メッセージ</b> 講義の資料はホームページに掲載されているので参照すること。URL は、<a href="http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/shwatabe/po-login/menus/nyumon.htm">http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/shwatabe/po-login/menus/nyumon.htm</a> わからないことをわからないままにしておかず、すぐに質問すること。メールによる質問も可。</p> <p><b>教官連絡先</b> shwatabe@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 自然科学

分野 生物学

科目類型 基礎

開設科目	生物学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	学教(教科(理))・情報・理・医・工・農	単位	1 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教官	遠藤克彦				
<p><b>授業概要</b> 高等学校で生物を勉強していない学生を対象とした授業です。高等学校の教科書に沿って、授業を行います。この授業は、生物を形作っている細胞の構造と働き、生命の連続性についてわかり易く解説します。</p> <p><b>授業一般目標</b> 高等学校で生物を勉強して来なかった学生が、この授業を受けることによって、共通教育の「生物学Ⅰ」及び「生物学Ⅱ」の講義の内容を理解できるようになることが目標です。また、自分(人間も生物です)を含めた身近な生物に興味をもち、それを基本に生物学が理解できればと考えています。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 出席とレポートおよび試験による総合評価、レポートでは、他人の文章を引用するのではなく、自分の考え方をまとめてください。</p> <p><b>メッセージ</b> 出席とレポートに書かれた自分の考え方を重視します。授業をサボらないようにしてください。</p> <p><b>教官連絡先</b> 山中 明助教授(総合研究棟 5階:933-5710)</p>					

系列 自然科学

分野 生物学

科目類型 基礎

開設科目	生物学入門2	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	学教(教科(理))・情報・理・医・工・農	単位	1 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教官	遠藤克彦				
<p><b>授業概要</b> 「生物学入門Ⅰ」に続いた生物学の基礎を理解するための内容を解説します。この授業では、生物個体の営みと生物間の相互の係わりについて、生物学の基礎をわかり易く解説します。目標は、共通教育の「生物学Ⅰ」と「生物学Ⅱ」の授業の内容を理解できるようになることを目標としています。</p> <p><b>授業一般目標</b> 生物個体の複雑な営みとそれを支える機構についてわかり易く解説します。また、生物と環境との関わりについても解説します。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 授業への出席及びレポートの内容を重視して成績を決める予定です。レポートでは、自分の考え方を述べてください。</p> <p><b>メッセージ</b> 授業を欠席しないようにしてください。</p>					

開設科目	生物学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	学教(教科(理))・情報・農	単位	1 単位	曜時限	木曜日 9・10 時限
担当教官	伊藤真一				
<p>授業概要 高校で生物を履修していない人に対して、大学での生物学の授業に最低限必要な基礎知識と考え方を講義します。前半期の授業では生物の物質的成り立ち、細胞の構造と機能、遺伝のしくみについて学びます。</p> <p>授業一般目標 1. 生命の成り立ちを物質とエネルギーの観点から理解する。2. 動物と植物の体の基本構造と機能を理解する。3. 細胞の基本構造と機能を理解する。4. 遺伝のしくみ、遺伝子のはたらきについて理解する。</p> <p>成績評価方法(総合) 出席点を重視する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録, 数研出版編集部, 数研出版, 1997年; 教科書は講義の際に必ず持参すること。/ 参考書：分子生物学講義中継 part 1, 井出利憲, 羊土社, 2002年; 生物学超入門, 大石正道, 日本実業出版社, 2002年</p> <p>教官連絡先 メール shinsan@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー 木の午後4時から7時</p>					

開設科目	生物学入門2	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	学教(教科(理))・情報・農	単位	1 単位	曜時限	木曜日 9・10 時限
担当教官	伊藤真一				
<p>授業概要 生物学入門1に引き続きおこなわれる講義。教科書に従って出来るだけ平易に説明するが、最低限のレベルを想定した演習も行う。</p> <p>授業一般目標 高等学校時に生物学の基礎的な知識を得ていない学生に対して、後期に学ぶ「生物学」の学習の手助けになる程度の知識を与える事を目標にして設定されている。</p> <p>成績評価方法(総合) 全体的な理解度を診るために簡単な試験を実施する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録, 鈴木孝仁, 数研出版, 2003年</p> <p>教官連絡先 農学部生物資源環境科学科(分子植物病理学)農学部332号室 Tel : 083-933-5846 E-mail : shinsan@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー木曜日16時から19時</p>					

開設科目	生物学 II	区分	講義	開設期	前期
対象学生	生資・生機 2 年	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教官	真野純一				
<p><b>授業概要</b> 生物は生きている間はずっと外部から物質とエネルギーを取り込み、不要な物質・エネルギーを排出し続けている。この物質とエネルギーの「流れ」が代謝である。この授業では生きている状態を「流れ」としてとらえる視点から生物の成り立ちを学ぶ。エネルギー代謝、物質代謝を理解するために基礎的な化学の知識が必要である。</p> <p><b>授業一般目標</b> 1. 細胞のエネルギー代謝による生命の成り立ちを理解する。 2. エネルギーと物質が、生物と生物との間、生物と環境の間でやりとりされる姿を理解する。</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 出席：欠格事項（6割以上の出席が必要）期末試験により成績を評価する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：授業のウェブページにより予習復習を行うこと。参考資料としてプリントを配付します。/ 参考書：Biochemistry, Berg 他, Freeman, 2002 年；Essential 細胞生物学, 中村桂子他, 南江堂, 1998 年；農学部生物機能科学科 3 年生は、上記「Biochemistry」を他の授業でも使いますので早めの購入を勧めます。</p> <p><b>メッセージ</b> わかりにくいときは積極的に質問してください。化学が苦手な人、生物学が苦手な人にはそれぞれ適当な参考書を紹介します。</p> <p><b>教官連絡先</b> 総合科学実験センター アイソトープ分析施設 mano@yamaguchi-u.ac.jp 平日午後 1 時 30 分から午後 5 時まで</p>					

開設科目	地球科学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工 2 年	単位	2 単位	曜時限	月曜日 1・2 時限
担当教官	溝田忠人				
<p><b>授業概要</b> 最初に、化石と地球の歴史、地震波の伝播と地球の内部構造、地球の重力や大気圏外の状態、マグマから生成する岩石とその風化、堆積過程、造岩鉱物の種類と同定法等について知識を深める。その後、人類の生活に不可欠な金属やエネルギーの塊である地下資源の産状や採掘法、岩盤の力学や掘削、地球環境の問題について解説する。さらに、地震によって発生する自然災害の本質、さらに人間社会との係わり、およびその軽減対策について、特に新しい事例を取り上げることで理解を深める</p> <p><b>授業一般目標</b> 1. 人類が生活している地球の表面および地球の中心から宇宙への広がりを理解する。 2. 人類と地球・宇宙等の環境との関わりを理解できる。</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 講義の後に小レポート（50%）と課題レポート（50%）で評価する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：基礎地球科学, 西村祐二郎ほか, 朝倉書店, 2002 年 / 参考書：生命と地球の歴史, 丸山茂徳・磯崎行雄, 岩波新書, 1998 年</p> <p><b>メッセージ</b> 我々人類は地球上で生存していますが、地球がどのように進化し、人類と係わりでどのような問題が生じているかを学びます。</p>					

開設科目	地球科学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・農	単位	2 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教官	早川誠而・深田三夫				
<p><b>授業概要</b> 地球科学は実に幅広く面白い学問である。この講義では、地球の生い立ち、地球の内部構造、変動する大地、プレートの離合集散、日本列島の生い立ち、天変地異と環境破壊について講義し、生きている地球を実感し、そしてダイナミックな地球科学の醍醐味を味わってもらいたいと思っている。</p> <p><b>授業一般目標</b> 宇宙の中に存在する太陽系の第 3 惑星である地球を概観し、人間活動によって地域的・局所的であった自然環境の悪化が地球規模の広がりを見せ、さまざまな悪影響をもたらしていることを講義を通じて理解し、地球を大切にする気持ちを抱く。新たな知見や今日的なテーマを含めて解説し、テレビや新聞・雑誌の地球に関するニュースに関心を持つ。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 成績は中間試験、期末試験およびコメント票の内容で判定します。出席は授業の終わりに小テストあるいはコメント票を提出してもらって確認します。3 回以上無届で欠席した場合は単位はありません。遅刻を 3 回以上した場合は 1 回欠席とみなします。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 参考書：授業の中で紹介する。</p> <p><b>メッセージ</b> 私語は厳重に注意する。質問にはできるだけ答えるようにする。講義内容についてメールによる質問に答えますが、出席状況や成績についてはメールではお答えできません。</p> <p><b>教官連絡先</b> hayakawa@yamaguchi-u.ac.jp、内 5861、総合研究棟 205 号室、 オフィスアワー : 随時 mfukada@yamaguchi-u.ac.jp、内 5830、 オフィスアワー :</p>					

開設科目	地球科学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	理・看護・検査	単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6 時限
担当教官	三浦 保範				
<p><b>授業概要</b> 宇宙・銀河・太陽系天体(地球・月・火星・小惑星など)の基礎的な最新知識情報から、自然科学的な思考方法により、これまでと現在そしてこれからの世界を考え、これらを通して地球惑星の成り立ちを循環システムとして広く理解する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 地球の成り立ちを科学的に広い循環システムとして理解することを目標とする。そのために、宇宙・銀河・太陽系天体(地球・月・火星・小惑星など)の基礎科学的思考による知識情報を広く学ぶ。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 定期試験で主な評価(70%)をし、小テスト・レポートの評価を加味する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：教材は、プリントで毎回配布する。/ 参考書：地球・環境・惑星系(パリティブックス ポップサイエンス), Richard Fifield [編]; 土井恒成訳, 丸善, 1991 年; 地球のしくみ, 浜野洋三, 日本実業出版社, 1995 年; 宇宙のしくみ, 磯部秀三, 日本実業出版社, 1999 年; 参考書資料として、「スペースアトラス」(図書出版、河島信樹監) CD-ROM: 「小さな星大きな謎」(NHKBS1) などがある。</p> <p><b>メッセージ</b> 定期試験が主な評価であるが、毎回の小テスト演習のまとめが学期末定期試験であるので、バランスよくきちんと勉強すること。</p> <p><b>教官連絡先</b> 連絡先：理学部 1 号館北棟 343 号室; Tel/Fax:(083)933-5746; E-mail:yasmiura@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：金曜日 15:00~17:00</p> <p><b>備考</b> 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学概論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	生資	単位	2 単位	曜時間	月曜日 3・4 時限
担当教官	西山壮一				
<p>授業概要 農学における実際の課題を、数学を用いて解決しようとするときその手法の序説を講義する。手法はプログラムを作りコンピュータを使って解く方法である。</p> <p>授業一般目標 授業の例題程度が参考書でも見ながらアルゴリズムができ、実際の農学の課題について、解決しようとする意欲が持てる程度までぐらいを目標としている。簡単な問題は参考書なしでプログラムが書けること。</p> <p>成績評価方法(総合) 計算機を用いて、数学の課題を解く手法を講義している。コンピュータによる解析に習熟は実技である。したがって、出席は重要である。試験も重要である。出席率が75%以下のものは、試験ができて単位を認めない。</p> <p>メッセージ 初歩的なことから講義します。割とゆっくり進みます。ほとんどの学生がついてこれると思います。</p>					

開設科目	数学概論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	生機・獣医	単位	2 単位	曜時間	月曜日 3・4 時限
担当教官	深田・荊木・早川				
<p>授業概要 農学は物理学、化学、生物学などを基礎とする応用学問ですが、様々な現象を数式で記述しその変化の傾向をとらえる事が重要になってくる場合が多くあります。また、いろいろな観測、調査に基づいたデータや、実験室でとったデータを整理して解析し、定量的な評価をする場合などに数学は重要になってきます。この講義では数学を通して自然の成り立ち、自然の奥深さを理解することを目的としています。</p> <p>授業一般目標 自然界に生起する現象は場所や時間に依存して変化するので2つの変数や3つの変数で表されるのがほとんどで、現象の時間的変化や場所的变化を記述する数学的手法が必要となってきます。また、最近では解析にコンピュータは不可欠な道具であり、コンピュータによる分析や解析を念頭においた講義を行います。物質やエネルギー輸送、化学反応などを記述する手法としての微分方程式、多変数をもつ物理量の演算を扱う「行列と行列式」、取得したデータの傾向をみる微分方程式や乱数発生による「シミュレーションの基礎」等の講義を行います。</p> <p>成績評価方法(総合) 小テスト/授業内レポート=40 宿題/授業外レポート=20 出席=40</p> <p>教科書・参考書 教科書：シラバス入力時点(2月5日)で未定、決まり次第通知する。/参考書：科学技術者のための基礎数学(新版), 矢野健太郎, 石原繁共著, 裳華房, 1982年; 参考書：科学技術者のための基礎数学, 矢野健太郎・石原繁, 裳華房, 2000年</p> <p>メッセージ 入学時に購入したPCを用いて演習を行う。使用する日はあらかじめ連絡する。</p> <p>教官連絡先 深田：E-mail mfukada@yamaguchi-u.ac.jp 荊木：E-mail ibaraki@yamaguchi-u.ac.jp 早川：E-mail hayakawa@yamaguchi-u.ac.jp ご用件はメールで問い合わせてください。</p>					

開設科目	数学概論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	経 (191-)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教官	渋谷綾子				
<p><b>授業概要</b> 高等学校で学んだ数学を基礎に、経済分野で必要になる数学を学ぶ。様々な関数、微分、最適化、統計、線形代数、確率に関わる一般的な知識を身につけ、思考力を養う。</p> <p><b>授業一般目標</b> 次のことを理解する。・1次関数 ・2次関数 ・指数、対数 ・関数とグラフの関係 ・方程式について ・微分について ・関数の形状と解法について(最適化問題の解法) ・統計に関わる一般的知識 ・線形代数の基礎 ・不確実性と確率の関係について</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 定期試験60%、小テスト・授業内レポート40%を目安に、総合的に成績を決定する。小テスト・授業内レポートは予告なしに授業時間内に実施するので、欠席すると減点になることがある。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 参考書：講義プリントを配布する予定です。</p> <p><b>メッセージ</b> 関数、グラフ、方程式、微分、最適化、統計、線形代数、確率</p> <p><b>教官連絡先</b> shibuya@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは授業中にお知らせします</p>					

開設科目	数学概論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	経 (1-190)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教官	柏木芳美				
<p><b>授業概要</b> 高等学校と大学の数学の橋渡しとミクロ経済学の理解のために、基本的な事柄と1変数関数の微分について概説する。微分というのは関数の性質を調べるための強力な道具である。ミクロ経済学に限らず、金融工学なども含めて後で数学が必要になる人がいる。そういう人は数学概論程度の予備知識は持っていた方がよい。応用として最後に国家公務員試験の簡単な解説も行う。公務員試験の理解のためにもこの数学概論程度の微分や偏微分くらいは知っていた方がよい。</p> <p><b>授業一般目標</b> 微分は関数を調べる強力な道具である。その基本をしっかりと身につけて、ある程度の計算ができることがこの授業の目標である。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 中間試験と期末試験の平均が60点以上が合格。演習問題には詳しい解説を付けてあるので毎回出す宿題をしっかりと解いておくように。解けない問題は授業又はオフィスアワーで質問すること。小テストは、周りの人と相談してもよく、授業内容の理解の確認が目的である。遅刻・欠席をしないように心懸けること。尚、テキストの誤植指摘に最大20点の点数を与える。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：数学概論改訂版、柏木芳美、2004年；生協で販売する。</p> <p><b>メッセージ</b> 演習問題を解くことが一番重要。分からないところは遠慮なく質問すること。その為にオフィスアワーもある。</p> <p><b>教官連絡先</b> E-mail:kashi-y@yamaguchi-u.ac.jp、電話:933-5595、研究室:経済学部 C213。オフィスアワーは授業開始時点で伝える。</p>					

開設科目	現代化学総説	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経	単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教官	西口 毅				
<p><b>授業概要</b> 本講では、大競争時代を生きるのに有効性を持つと同時に、「自然について学ぶことの面白さ」が伝わる授業をめざしたい。それができるためには、高いレベルを保ちつつも、高校で化学を履修していない人でも理解できる分かりやすさと、新しい発見とが必要であろう。日常的現象、生命現象、環境問題、社会的諸問題などを、「それはなぜ起こるのか」という観点から解説する。最も身近な化学反応である燃焼については、毎回行う演示実験によって学ぶ。最も身近な化学反応である燃焼については、毎回行う演示実験によって学ぶ。すべての授業はパソコンからスクリーンに出力しながら行う。授業で使ったスライドは、全て Web ページ ( w2.to/chem ) からダウンロードできるので、予習、復習に役立てて欲しい。学生諸君の質問 ( 日頃の疑問など ) にもできるだけ答えたい。電子メールによる質問にも答える。メール画面は、Web ページに付いている。</p> <p><b>授業一般目標</b> 多くの人にとって、これからの時代に必要なものは、できるだけ広い範囲の職務内容に 対応できる幅広い知識と常識であろう。いま必要だと言われる「生きる力」とは何か。私は「豊かな常識 + 行動力」だと思う。この講義の目的も、自然科学的常識を豊かに することである。そして、その目的を達成するには、自然科学的常識の必要性を学生 諸君に納得してもらうことが必要であろう。授業では、授業内容に関連する練習問題を提示するので、それらを解いてみるのが望ましい。授業の終了時には、問題を出し、その答を紙に書いてもらう。授業中に理解できなかったことを、その解答用紙に書いておくと、次回の授業開始時にそれについての 解説が行われるであろう。この授業では、疑問を残さないようにしてもらいたい。また、学生諸君が、社会人になったときに自信をもって生きられるようにすること、つまり、自信をもって生きるために必要な能力と価値観の習得の手助けをすることが、教育でめざすべきものであると思うので、授業に時間的余裕があれば、これに関連すること ながらについての個人的意見も話す。それらも批判的に検討してもらいたい。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 成績は、主として、期末テストの点数に基づいて評価する。希望者が過半数を超えれば中間テストも行う。中間テストを行った場合には、期末テストと中間テストの比重は 1 : 1 である。テストの成績が合否のボーダーラインに近い人には、出席点を考慮することもある。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：現代の生活と物質, 西口 毅, 化学同人, 1996 年 ; プリントを数種類配布する。</p> <p><b>メッセージ</b> 学生諸君にとって重要なことは、単位を取るのではなく、将来に備えること であろう。このような観点から、時間的余裕があれば、諸君が生きる時代 についての私見を話すこともある。</p>					

開設科目	現代生物学総説	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経	単位	2 単位	曜時限	金曜日 7・8 時限
担当教官	祐村稔子				
<p><b>授業概要</b> ヒトを含め、すべての生物は「細胞」という共通の基本単位から構成されています。一方、「細胞」を構成する部品：細胞小器官は生体分子の集合体であり、すでに生きてはいません。このように「細胞」は、「生命」と「物質」の境界をなす「生命の最小単位」といえます。本講義ではこのような「細胞」の構造と機能について、分子レベルでの解説を行ないます。加えて、近年驚くべき進歩をみせるバイオテクノロジーの基礎知識についても、身近な話題を中心に紹介し解説します。</p> <p><b>授業一般目標</b> 「細胞」に関する分子レベルの知識は、生命を理解する上で必要不可欠な基礎知識となります。加えて今日では、医療、農業、工業とさまざまな分野にわたり、日常生活の隅々にまで浸透しつつある多くのバイオ関連技術と日常に氾濫するバイオ関連情報を、正しく理解し田植えで評価するのもにも必須です。本講義では、生命科学の進歩をいたずらに恐れる事なく、正しい知識に基づいて、何が有益で何が危険なのかを自ら考え判断し、未来を見極める知識、能力を身につけることを目標とします。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 期末試験 ( テキスト、ノート、プリント参照可 ) 80% 宿題レポート 20%</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：いきものからくり, 中村和行・高橋進, 培風館</p> <p><b>メッセージ</b> 古典的生物学にとどまらず、物理学、化学、地球科学などを含む自然科学全般の知識に基づいて生命を理解することに興味と意欲を持つみなさんの受講を希望します。</p> <p><b>教官連絡先</b> メールアドレス : discoideum@yahoo.co.jp</p>					

開設科目	現代地球科学総説	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	永尾隆志				
<p>授業概要 私たちは、半径 6400km の地球の上に住んでいる。しかし、そのことを実感することはあまりない。この授業では、私たちが体験したりマスコミで報道される地震や火山噴火を とおして地球の構造や運動のしくみについて学習する。</p> <p>授業一般目標 日ごろ接する情報から地球のダイナミクスを理解するための基礎的な力を身につける。</p> <p>成績評価方法 (総合) (1) 授業の内容に関するレポートの提出をもとめそれを評価する。(2) 試験。以上を下記の観点・割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たないものは単位をあたえない。</p> <p>教科書・参考書 教科書：特に指定しない。/ 参考書：授業の中で紹介する。</p> <p>教官連絡先 理学部 340 号室, e-mail: tngao@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	現代地球科学総説	区分	講義	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	金曜日 7・8 時限
担当教官	君波和雄				
<p>授業概要 地球は生きた天体であり、地球内部や太陽からのエネルギーを源として様々な変動を繰り返しながら進化してきた。地球科学は、こういった地球の表面や内部における変動を解析し、地球の発展過程を明らかにすることを目的としている。この講義では、地球上部の主要な変動を説明するための理論であるプレートテクトニクスの基本的骨格やプレートテクトニクスと地質との関連などについて解説する。</p> <p>授業一般目標 この講義をとおして、地球科学における時間の感覚を把握するとともに、プレートテクトニクスの基本骨格を理解し、ダイナミックに変動する地球についての理解を深めることを目標とする。</p> <p>成績評価方法 (総合) 成績評価は、期末試験 80%、小テスト・レポート 20%とする。</p> <p>教科書・参考書 教科書：なし。適宜プリントを配布する。</p> <p>教官連絡先 kimik@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：理学部 4 階 445 室 オフィスアワー：時間があるときはいつでも。</p>					

開設科目	物理学通説	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・生資	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教官	増山博行				
<p>授業概要 17世紀のガリレオやニュートンの時代から19世紀にかけて、自然に対する科学的認識は飛躍的に深まり、物理学の基礎が確立した。これは、力学、熱力学、振動・波動論、光学、電磁気学と呼ばれている古典物理学の分野である。さらに20世紀にはいと原子などの微視的世界を記述する量子論が誕生した。授業では古典物理学の基礎を中心に講義し、量子論の誕生についてもふれる予定。</p> <p>授業一般目標 (1) 古典物理学の基礎を理解する。(2) 物理学の発展過程を知るとともに、他の学問との関わりを理解する。(3) 量子論の見方を知る。(4) 物理学の課題や社会との関わりについて考察する。</p> <p>成績評価方法(総合) 下記の観点別評価割合は目安であり、試験結果をもとに総合的判断を加える。なお、欠席回数が多い者は単位を与えない。</p> <p>教科書・参考書 教科書：2「新物理学」、シップマン著、学術図書出版社、2002年 / 参考書：物理学入門、原康夫、学術図書出版社、2005年</p> <p>メッセージ 初修の人は、特に予習・復習を行ってください。既習の人は数学力を伸ばしてください。3年生以上には現代物理学総説の読替科目となります。</p> <p>教官連絡先 増山：理学部本館南棟 238 室 e-mail: mashi@sci.yamaguchi-u.ac.jp URL <a href="http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/mashi/">http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/mashi/</a></p>					

開設科目	生物学の考え方	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	人・教・経	単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	阿部弘和・北沢千里				
<p>授業概要 身近に存在する生命現象を題材に、生物とはどのようなものかについて解説します。</p> <p>授業一般目標 近年関心の高まる環境問題や、クローン動物、遺伝子組換え食品などを題材に、生命現象について関心を持つとともに、生物学の基礎知識を身につける。</p> <p>成績評価方法(総合) レポート、出席を総合的に判断し評価する。</p> <p>教科書・参考書 参考書：ダイナミックワイド 図説生物総合版、東京書籍、2005年；随時プリント配付。</p> <p>教官連絡先 阿部弘和：E-mail: <a href="mailto:habe@yamaguchi-u.ac.jp">habe@yamaguchi-u.ac.jp</a> 北沢千里：E-mail: <a href="mailto:chisak@yamaguchi-u.ac.jp">chisak@yamaguchi-u.ac.jp</a> 水曜日 13：00-14：30</p>					

系列 自然科学

分野 自然科学実験

科目類型 総説

開設科目	物理学実験A	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	物情・生化・地・獣医	単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8・9・10 時限
担当教官	朝日孝尚, 未定				
<p>授業概要 力学、光学、熱力学、電磁気学等の分野に渡って設定された基礎的な実験テーマについて、自らの手で実験を行い、測定結果の処理、解析をし、その結果について考察を加え、実験レポートを作成する力を養うことを目指している。実験は原則として二人一組で行い、また、実験は授業計画の所に記したA～Mの13テーマをローテーション表(ガイダンス後に掲示)に従い、毎回1テーマずつ行うという形で実施する。</p> <p>授業一般目標 ・様々な物理現象を実験的に検証することを通して、物理学に対する基礎知識を習得し、深く物理現象を理解する。 ・実験に必要な基礎的な技術や解析方法を修得し、レポートにまとめて報告する力を養う。</p> <p>成績評価方法(総合) 単位の認定は、出席率が80%以上であること、実施したテーマの全レポートが提出されていること。出席していてもレポートが提出されなければ、そのテーマは欠席と見なす。授業態度・授業への参加度は、実験中の見回り及び当日の実験結果の報告等を通して判断する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：実験テキストを販売する。販売方法は学期初めに掲示するので、ガイダンスまでに必ず購入しておくこと。</p> <p>メッセージ 次のテーマについての予習を必ずしておき、手際よく実験を行うこと。</p> <p>教官連絡先 朝日孝尚；理学部 242 号室，hcc30@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 自然科学実験

科目類型 総説

開設科目	物理学実験B	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	機械・応化・社建	単位	1 単位	曜時限	金曜日 5・6・7・8 時 限
担当教官	佐伯壮一				
<p>授業概要 物理学実験と化学実験は対になっている。6回ずつ物理学実験と化学実験を交互に行う。物理学実験では、高等学校俺ベルの物理学の知識をもとに、力学・熱力学・光学・電磁気学などの基礎分野から6テーマの実験を行って、実験データの解析とレポートの作成を行う。</p> <p>授業一般目標 物理学実験では、力学・熱力学・光学・電磁気学の分野における基本トけいな物理現象や原理・概念を説明できるようにするとともに、「ものづくり」のための基礎技術と初歩的な技術作文の書き方を身につけることを目標とする。</p> <p>成績評価方法(総合) 成績は実験の出席とレポートで評価する。単位修得の必要最低条件は、すべての実験に出席し、すべてのレポートを提出することである。病気入院などの事情により欠席せざるを得ない場合は、事前にその旨を申し出ること。無断欠席した場合は、不合格とする。</p> <p>教科書・参考書 教科書：オリエンテーション時にて説明を行う。</p> <p>メッセージ 物理学実験ホームページ <a href="http://w-phys.liberal.cc.yamaguchi-u.ac.jp/">http://w-phys.liberal.cc.yamaguchi-u.ac.jp/</a></p> <p>教官連絡先 連絡先は、共通教育事務室まで</p>					

開設科目	物理学実験B	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	工(夜)2年	単位	1単位	曜時限	金曜日3・4・5時限 (夜間)
担当教官	荻原千聡				
<p><b>授業概要</b> 種々の分野にわたる基本的な物理学実験をグループに分けて実施させ、物理学実験一般に関する基礎知識、実験器具操作法、報告書作成要領等を修得させる。</p> <p><b>授業一般目標</b> 各種測定機器の動作原理、使用法、計算機によるプログラミングと計算実行の手順など、実験的な研究を行う上で必要となる知識を身につける。適切な測定法の選択、測定上の工夫を実行でき、データの適切な解析と図表化、正しい誤差の取り扱いができ、十分な考察に基づく報告書を書けるようになる。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> (1) 実験を終了したグループは、実験の内容と結果について担当教官に報告し完了のチェックを受け、その際に授業への参加度としての得点が記録される。通常は合否のみの判定であるが、マナー、参加度の不良が認められる場合は減点する。(2) 実験ノートを授業時にチェックし、最後の授業の1週間後に提出する。必要事項が記載されているか、図表化が適切か、考察の内容は十分かどうかを中心に採点する。なお、与えられた6テーマの実験を完了し、かつノートを提出した者以外には単位を与えない。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：実験テキストを使用する。「応用物理学実験(物理学実験B)」(山口大学工学部共通講座編著)過去の年度の履修者ですでに入手済みなら新規購入は不要。過去に入手していない学生、紛失した学生には第1回授業(ガイダンス)もしくは掲示により通知する。</p> <p><b>メッセージ</b> この科目の常盤キャンパスでの開講は平成19年度以降は予定していません。必修科目なので単位取得できるように教員側もできる限りの努力をするので途中で放棄しないように。ただし、単位取得のためには必要回数の実験が不可欠ですので無断欠席だけはどうにもなりません。もし今回単位取得できなければ、昼間に山口キャンパスでの受講が必要になることが予想されます。</p> <p>教官連絡先 荻原 0836-85-9811、月9-10時限</p>					

開設科目	化学実験A	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	物情・地球・生機・獣医	単位	2単位	曜時限	木曜日5・6・7・8時限
担当教官	藤井寛之 梶原忠彦, 松崎浩司, 中野昭夫, 外山博英				
<p><b>授業概要</b> 本実験では、有機化学実験、分析化学実験I、II、物理化学実験、および総合実験の五つの実験から指定された四つを行う。一つの実験は各々三日間で行う。有機化学実験では化粧石けん、色素、ピニロン等の合成を、分析化学実験ではセミマイクロ定性分析法による金属陽イオンの分析を、物理化学実験ではコンピュータを用いた計算とグラフや分子構造の図形表示を行う。総合実験では身のまわりにある物質の化学的性質や反応を調べる。</p> <p><b>授業一般目標</b> これらの実験を行う過程で、試薬や器具の扱い方を体験し、実験操作の意味や化学反応の背後にある化学の考え方に触れるとともに、実験開始までに準備しておくべきこと(フローチャートの作成や問いの答えの記入など)実験中の心がまえ、実験報告書の書き方を学ぶ。文献調査も必須である。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 宿題/授業外レポート = 40~60% 授業態度や授業への参加度 = 20%未滿 受講者の発表(プレゼン)や授業内での製作作業(作品) = 20%未滿 出席 = 40~60%</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：化学実験テキスト 2004年度 販売店：共通教育講義棟売店 / 参考書：現代の生活と物質(4刷)、西口毅著、化学同人、2000年；ライフサイエンス基礎化学、青島均、右田たい子著、化学同人、2000年；セミマイクロ無機定性分析、林謙次郎、中間碩一郎、鈴木光泰著、東京化学社、1981年；無機半微量分析(分析ライブラリー/日本分析化学会編；1)第2版、松浦二郎、西川勝、栗村芳実著、東京化学同人、1978年；現代の生活と物質、西口毅、化学同人、1996年；ライフサイエンス基礎化学、青島均・右田たい子、化学同人、2000年；セミマイクロ無機化学定性分析、林・中間・鈴木、東京化学社、1981年；無機半微量分析第2版、松浦・西川・栗村、東京化学同人、1978年</p> <p><b>メッセージ</b> 参考書の貸し出しを行っているので、活用して欲しい。毎回予習をして実験に臨み、期限までにレポートや課題を提出すること。提出しなければ欠席として処理する。理由のいかんを問わず、3回以上欠席すると成績は不可とする。</p> <p>教官連絡先 農学部 311号室 内5859 随時 備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	化学実験B	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	機械・応化・社建	単位	1 単位	曜時限	金曜日 5・6・7・8 時限
担当教官	吉本信子, 星田尚司, 遠藤宣隆, 山崎鈴子, 徳光隆雄, 西口 毅				
<p><b>授業概要</b> 本実験では、有機化学実験、分析化学実験 I, II, 物理化学実験および総合実験の 5 つの実験から指定された 2 つを行う。1 つの実験は各々 3 日間で行う。有機化学実験では化粧石けん、色素、ピニロン等の合成、分析化学実験ではセミマイクロ定性分析法による金属陽イオン分析を、物理化学実験ではコンピュータを用いた計算とグラフや分子構造の図形表示を行う。また、総合実験では身の回りにある物質の化学的性質や反応を調べる。</p> <p><b>授業一般目標</b> これらの実験を行う過程で、試薬や器具の扱い方を体験し、実験操作の意味や化学反応の背後にある化学の考え方に触れるとともに、実験開始前までに準備しておくべきこと（フローチャートの作成や予習問題の解答など）、実験中の心がまえ、実験報告書の書き方を学ぶ。文献調査も必須である。</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 予習（フローチャートの作成）、実験、レポートにより評価する。なお 2 回以上の欠席で不可とする。課題やレポートは次週火曜日の 13 時までに化学実験室入り口の提出ボックスに提出すること。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：化学実験テキスト（2005 年度版）を共通教育売店で販売します。なお毎年更新しますのでガイダンス時までには必ず購入して下さい。/ 参考書：セミマイクロ無機化学定性分析、林・中間・鈴木、東京化学社、1981 年；現代の生活と物質、西口 毅、化学同人、1996 年；物理化学の基礎、柴田茂雄、共立出版、1999 年；ライフサイエンス基礎化学、青島均・右田たい子、化学同人、2000 年；毎回、予習問題や課題を課しますので、図書館で調べて解答してください。</p> <p><b>メッセージ</b> 他人のレポートを写した場合は、両者とも不可にします。実験には多くの労力とお金をかけています。実験は社会で働くときと同じように、準備、作業、調査、報告を含んでいます。自分でやることにより、社会に出たときの力となります。毎回、何かひとつでも喜び（楽しみ）を見出しながら実験をしてください。</p> <p><b>教官連絡先</b> 複数の教員で分担して実験を行いますので、実験に関する質問は担当となった教員に直接質問するか、事務室の実験担当の方を通して質問してください。レポートの提出などの事務的なことは、事務室の実験担当の方に聞いてください。</p>					

開設科目	生物学実験	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	物情・生化	単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8・9・10 時限
担当教官	渡辺雅夫、堀学、岩橋昭博、上野秀一				
<p><b>授業概要</b> いろいろな方法で生命現象を科学的に研究していく態度や基礎的な知識の修得を目指し、解剖学、細胞組織学、生理学、生化学、生態学などの分野にわたる実験実習を行い、毎回レポート作成する。毎回の実験の目的、方法については、プリントを配布して説明を行うほか、視聴覚機器を通じて資料を提示して経験密度を高めてもらう予定である。</p> <p><b>授業一般目標</b> これらの実験を行うなかで機器や器具の基本的な扱い方、観察・研究の姿勢、実験結果のまとめ方、レポート作成の仕方を修得することを目的とする。</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 毎回のスケッチ、レポートの評価（宿題、学習課題を含む）および定期試験（理解度テスト）の成績を下記のような割合で合計し、総合評価とする。遅刻や欠席は減点対象とする。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：資料プリントを配付する予定。/ 参考書：授業時間に紹介する</p> <p><b>教官連絡先</b> 渡辺雅夫 E-mail : masao.w@yamaguchi-u.ac.jp, 内線 5767, オフィスアワー：月曜 14:30～16:00</p>					

系列 自然科学

分野 自然科学実験

科目類型 総説

開設科目	生物学実験	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	生資	単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8・9・10 時限
担当教官	小林淳・伊藤真一・田中秀平・執行正義・竹松葉子・山内直樹				
<p>授業概要 生物に関わる学問分野では様々な生き物を教育研究に用い、それを通じて地球上の生命全体に関わる学問の進展に寄与しています。新入生諸君は今それらの入り口にいます。諸君がこれから教育を受けていく学問分野の多くは、実験を行い確かめ新たな問題点を発見していく実証の科学です。ここで言う実験は、これから農業教育を受けていくに当たって、あらかじめ触れておくと思いわれることがらです。</p> <p>授業一般目標 本実験は、生物の形態、発育、体内成分、代謝生理および分子遺伝の教育を受けるのに必要な基本的実験手法を修得し、これらの実験を通じて生命現象の科学的アプローチの仕方を会得することを目的としています。実験は微生物、昆虫、植物について行います。</p> <p>成績評価方法 (総合) 出席回数、レポート、実験中の態度などを総合して評価する。</p> <p>メッセージ 白衣着用のこと。携帯電話の電源を OFF にしておくこと。実験中は携帯電話を使用しないこと。最初に説明をするので遅刻しないこと。 実験終了後は実験に使用した物や消しゴムのかすなどを残さないこと。丸イスを実験台にのせること。</p>					

系列 自然科学

分野 自然科学実験

科目類型 総説

開設科目	地球科学実験	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	物情・獣医	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6・7・8 時 限
担当教官	鎌田祥仁				
<p>授業概要 地球科学は、地球上で発生する現在および過去の自然現象を解明する分野であることから、地層・岩石、化石などを扱いながら、これらの観察の基礎実習を行う。本実験では室内作業だけでなく野外実習も行う。</p> <p>授業一般目標 地球科学に関する基礎的な実験・演習を通して、地球科学に対する理解を深めると共に、室内の実験方法および野外での観察方法を取得する。</p> <p>成績評価方法 (総合) 毎回提出するレポートにより理解度、技能・表現などを、出席と授業中の参加態度から関心・意欲を評価する。なお、出席が所定の回数に満たないものには単位を与えない。</p> <p>教官連絡先 研究室：理学部 4 階 446 号室</p>					

前期 - 应用科学系列

系列 応用科学

分野 統計学

科目類型 総説

開設科目	社会科学のためのやさしい統計学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・平成 17 年度以前入学者の 経	単位	2 単位	曜時間	金曜日 5・6 時限
担当教官	橋本 寛				
<p>授業概要 統計学の初歩的事項について、社会科学分野で必要と思われるものを平易に紹介する。</p> <p>授業一般目標 統計学における基本的な概念や手法について学ぶ。</p> <p>成績評価方法(総合) 期末試験による。</p> <p>教科書・参考書 教科書：使用しない。/ 参考書：適宜紹介する。</p> <p>教官連絡先 経済学部 A227、オフィスアワーを設定する予定。</p>					

系列 応用科学

分野 統計学

科目類型 総説

開設科目	理工学のための統計学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・農	単位	2 単位	曜時間	水曜日 5・6 時限
担当教官	中村秀明				
<p>授業概要 然科学、社会科学を問わず、世の中にはさまざまなデ - タが溢れている。統計学はこのようなデ - タの中から有用な情報を抽出する手法である。本講義では、初めて統計学の講義を聴く学生が、統計学の基礎を理解し、統計計算の方法が身につけられるように、実例を交えながらわかりやすく説明する。</p> <p>授業一般目標 本講義では、統計に対して正しい理解を得ることを最大の目的とし、統計学の基礎を理解し、統計計算の方法を身につけることを目標とする。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験(中間試験と期末試験) = 75 % 授業内レポート = 20 % 授業外レポート = 15 % 出席 = 欠格条件</p> <p>教科書・参考書 教科書：教科書は、特に指定しない。毎回プリントを配布する。/ 参考書：図解雑学 統計, 今野 紀雄, ナツメ社, 1999 年; 図解でわかる統計解析, 前野昌弘、三國 章, 日本実業出版, 2000 年</p> <p>メッセージ 授業では、パソコンを用いた Excel での演習を行うことがあるので、ノ - トパソコンを持っていることが望ましい。必要に応じてプリントを配布します。授業に関する情報は、下記のホ - ムペ - ジに掲載します。  <a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/nakahide/moodle/">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/nakahide/moodle/</a></p> <p>教官連絡先 nakahide@yamaguchi-u.ac.jp 電話：0836-85-9531 研究室：常盤キャンパス 工学部総合研究棟 8 階 オフィスアワ - : 月曜日 13:00 ~ 17:00</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	理工学のための統計学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・農	単位	2 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教官	糸原義人				
<p><b>授業概要</b> 自然科学ではただ単なるデータを如何に意味ある情報にするかが大切です。そしてそうした情報を作り、信頼性を与える一つの方法に統計学があります。本講では、統計学の意義と基本的考えを学ぶと共に、データの統計的処理や理論的検討を通じて、実際に利用できる統計学を目指します。そのために、演習・復習を課します。授業には、各自出題を解くことができるように、毎時間電卓、定規、レポート用紙の準備をお願いします。</p> <p><b>授業一般目標</b> 授業は基本的に次の3つのテーマからなります。1. データ処理と情報作成、2. 確率と確率分布、3. 統計的推定と検定 授業内容を暗記するのではなく、要は統計処理が必要になったとき、どこに何が書いてあって、それをどのように利用すればよいかを学んで頂きたいと思えます。そのためには、統計とは何か、統計処理は何故必要か、といったところをよく理解することが大切です。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 成績評価は基本的に毎週出す宿題(演習の続き)を中心とします。100点満点で、宿題のレポートを40%、定期試験を40%、授業内レポートを10%、出席を10%とします。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：基本統計学(第3版)、宮川公男著、有斐閣、1999年；宮川公男「基本統計学第3版」有斐閣 基本統計学と共に、毎週プリントを配布し、テキストとして利用します。/ 参考書：統計学のはなし(改訂新版)、蓑谷千鳳彦著、東京図書、1997年；統計解析のはなし、石村貞夫著、東京図書、1989年；初等統計学(第4版)、P.G. ホーエル著；浅井晃、村上正康共訳、培風館、1981年；蓑谷千鳳彦「統計学のはなし」東京図書 石村貞夫「統計解析のはなし」東京図書 P.G. ホーエル著、浅井晃他訳「初等統計学」培風館</p> <p><b>メッセージ</b> 基本的に毎時間レポート提出を求めます。継続は力です。諦めることなく、最後まで頑張って下さい。</p> <p><b>教官連絡先</b> gbb50@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp 研究室：農学部2階 オフィスアワー：水曜日午後</p> <p><b>備考</b> 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	情報処理概論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・経・工	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	北本卓也				
<p><b>授業概要</b> 計算機における情報の表現方法とそれを用いた情報処理について概説する。また、最近の話題となっているインターネットに代表されるような情報通信ネットワークの基礎やその周辺について紹介する。主な項目は以下のとおりである。(1) 計算機における情報の表現方法。(2) 計算機の仕組み(ハードウェア)。(3) 計算機における情報処理の方法。(4) 計算機ネットワークの基礎と利用法。</p> <p><b>授業一般目標</b> 計算機とそれを用いた情報処理及び情報通信ネットワークについて、一般的な新聞・雑誌等の記事を読み解くことができるレベルまで理解を深める。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 中間・期末試験の結果と毎回の授業で課す課題を総合的に評価する。なお、情報処理技術者試験合格者は加点するので申し出ること。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：2006年度版 基本情報 [午前] 問題と解説、福嶋宏訓、新星出版社、2005年 / 参考書：2006年度版 基本情報 [午前] 完全合格教本、福嶋宏訓、新星出版社、2005年；2006年度版 初級シスアド 完全合格教本、ノマド・ワークス、新星出版社、2005年</p>					

系列 応用科学

分野 情報処理概論

科目類型 総説

開設科目	情報処理概論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・経・工	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教官					

系列 応用科学

分野 医療福祉

科目類型 総説

開設科目	社会福祉学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	看護・検査 2 年	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教官	三輪直之				
<p>授業概要 社会においては、さまざまな人びとの生活実態やニーズがあり、その生活を支えるしくみや取り組みもまた多様である。この授業では社会福祉の総論について講義するが、社会福祉は世相との関連が強いことから、特に社会福祉の変遷については、当時の世相や時代背景も交えて講義していく。また、わが国においては少子高齢化の一層の進展と共に福祉・医療・保健分野においてもさまざまな改革が行われており、なかでもそれらの統合・連携が注目されているところである。医療職として他の職種とどのような連携をとるべきかについても講義する。</p> <p>授業一般目標 社会福祉の基礎理念・歴史・思想等について学ぶ。 現代における社会福祉およびその関連分野の諸問題を自ら発掘し考察していく力を身につけ、それら諸問題を医療職という立場からどのような視点で解決にあたるかについて学ぶ。 福祉・医療・保健といった分野からのそれぞれのアプローチとそれらが統合された形での連携のありようについて学ぶ。</p> <p>教科書・参考書 教科書： 系統看護学講座 社会保障と生活者の健康 社会福祉, , 医学書院, 2003 年</p>					

開設科目	科学史	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	川崎勝				
<p><b>授業概要</b> 本講義では、われわれが知る形での「科学技術」が形成されていった歴史を、時代的・国家的文脈を重視しながら概観します。主な舞台となるのは、18 世紀末から現代にかけての西洋社会です。それ以前と比較したとき、この時代・地域の最大の特徴は、それまではごく一部の特権層でのみ享受されていた自然に関する知識が公共化かつ制度化し、技術と結びついたことです。これにより、科学は経済的にも軍事的にも現代社会において支配的な力を発揮するようになり、最終的に国家の支柱となっていきます。このプロセスに関して、国別の社会的文脈に留意しながら、なぜそのようなことが生じたのかに重点をおいて授業を進めていきます。</p> <p><b>授業一般目標</b> 高度科学技術社会（ハイテク社会）で主体的な生活者として生きていくために、現代の科学技術が成立する経緯に関する必須の基本知識を習得し、主体的かつ客観的に考察する態度を涵養する。さらには、歴史に対して「なぜ」という疑問を発することができる能力を養うこと、近未来の科学技術社会への洞察力を養うことが全体を通じての影の大きな目標である。</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 学期末に行う論述式の筆記試験がメインとなりますが、「質問・感想カード」の内容を元にして「参加点」を加味します。また、任意提出のレポート課題を出します。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：科学の社会史（増訂版）、古川安、南窓社、2000 年 / 参考書：ハイテク社会を生きる、調麻佐志・川崎勝他、北樹出版、2003 年</p> <p><b>メッセージ</b> 歴史は決して「暗記物」ではありません。むしろ「想像力」の学問です。人工的な文理の壁を越え、歴史好きな方を歓迎します。なお、もし受講希望者が 100 名を超えた場合には、「受講動機」などの簡単なレポートに基づくセレクションを行いますので、受講希望者は必ず初回に参加してください。授業に関する情報を随時 Web 上の「kawasaki's room」(<a href="http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/kawasaki/index.html">http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/kawasaki/index.html</a>)に掲載します。参照してください。</p> <p><b>教官連絡先</b> <a href="mailto:kawasaki@yamaguchi-u.ac.jp">mailto:kawasaki@yamaguchi-u.ac.jp</a>（上記アドレスにメールを送る際には、できるだけケイタイからのメールは避けてください。また、適切な件名を付けるとともに、自分が誰であるのかを名乗ってください）研究室 医学部（小串キャンパス）時間帯は相談に乗りますので、上記アドレスにメールをお送り下さい。</p>					

開設科目	技術概論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工（昼・夜）4 年	単位	2 単位	曜時限	月曜日 1・2 時限（夜間）
担当教官	古川浩平, 田村洋一, 濱田純夫				
<p><b>授業概要</b> 本講義は、建設技術の基礎を英語で習得するためのものである。</p> <p><b>授業一般目標</b> この講義は土木工学の概観ばかりでなく、社会・環境との連繋の有り方を学ぶことを目標とする。 (C) 実務への応用力と倫理観のある技術者を目指して以下の能力を身につける。 ・ C-1 実務上の問題点や課題を理解し、適切に対応する能力 ・ C-2 土木技術者の関与するプロジェクトが社会や自然環境に及ぼす影響を理解する能力（技術者倫理・環境倫理） (D) 豊かな教養と多面的な視点を持つ技術者を目指して以下の能力を身につける。 ・ D-1 技術、人類、文明、地域、自然の相互の係わりを理解する能力 ・ D-2 基礎的な国際コミュニケーション能力</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 全回出席を条件とする。ただし、やむを得ない事情があった場合には、次回の講義までに必ず担当教官に届け出る。毎回レポートを課すので、必ず全て提出すること。評価は、最終的に課したレポートの内容により判定する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：プリント配布 / 参考書：プリント配布</p> <p><b>メッセージ</b> 18 年度は濱田・関根が講義を行う。テキストはプリントとする。また、文章は英語で記述されている。</p> <p><b>教官連絡先</b> 濱田純夫：E-mail <a href="mailto:shamada@yamaguchi-u.ac.jp">shamada@yamaguchi-u.ac.jp</a>, 電話 0836-85-9347, 研究室 施設材料工学</p>					

開設科目	技術概論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(工・農除く)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	岡村吉永, 森岡弘, 古賀和利				
<p><b>授業概要</b> 技術とは何だろうか。よく聞く言葉ではあるが、その意味や内容は多様である。本授業では、はじめに「技術」という言葉およびその用法について考察し、この後さまざまな分野における技術の変遷や事例について概説する。主な分野および内容は、身近にある技術、伝統的な技術としての手加工(木材を中心とした加工)と最近の木材利用技術、現代西洋技術の先端であるコンピュータ、メカトロに代表される機械の制御技術などである。</p> <p><b>授業一般目標</b> 本授業は、人と技術、人間社会と技術、環境と技術など、総合的な関わりの中で技術をとりえる必要を知り、自分なりの技術をみる目すなわち技術論の形成ができるようになることを目的とする。</p> <p><b>メッセージ</b> 身近な技術に対する関心を高めてもらうため、受講者の興味・関心によって内容を変更する場合があります。</p> <p><b>教官連絡先</b> 岡村吉永 (okasun@yamaguchi-u.ac.jp)・金 12:40～14:00 森岡弘 (morioka@yamaguchi-u.ac.jp) 古賀和利 (koga@inf.edu.yamaguchi-u.ac.jp)</p>					

開設科目	生命科学概論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(理・看護・検査除く)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教官	村上柳太郎, 井上慎一				
<p><b>授業概要</b> 人間は生き物であり、全ての生物がそうであるように、種が有する固有の性質に従って生きている面が意外なほど多い。生物の性質は、設計図である遺伝子が決定しているのだが、そのような遺伝子がどのような経緯で生じたものか、また、人生のさまざまな局面において、生き物としての性質がどのような様相を示すのか、など、生き物としての人間について、現代生命科学の視点から洞察する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 人間の性質や行動、人類として抱えるさまざまな問題を“生物”という観点から理解する。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 出席・2回(井上, 村上)のレポートの評価による。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 参考書: 生命科学はこんなにも面白い。柳田充弘著。日本経済出版社(2000) 生命科学と人間, 中村桂子著, NHK ブックス (1989) Science as a way of knowing, by John A. Moore, Harvard (1993)</p> <p><b>教官連絡先</b> 村上柳太郎: ryu@yamaguchi-u.ac.jp 内線 5696 井上慎一: inouye@yamaguchi-u.ac.jp 内線 5711</p>					

系列 応用科学

分野 応用科学

科目類型 総説

開設科目	生命科学概論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(理・看護・検査除く)	単位	2単位	曜時限	木曜日 3・4時限
担当教官	和田直己・山本芳実・森本将弘				
<p>授業概要 3人の教官が分担してそれぞれの専門分野から生命科学全般について講義を行う。</p> <p>授業一般目標 進化、DNA、Locomotion、脊椎動物、ウイルスの講義を通して生命とは何かと考える。</p> <p>成績評価方法(総合) 出席とレポートを評価する。</p>					

系列 応用科学

分野 応用科学

科目類型 総説

開設科目	生命科学概論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工(夜)2年,工(昼)2年	単位	2単位	曜時限	木曜日 11・12時限
担当教官	中村和行・篠田晃・柳井章江・藤永竜太郎・中村彰治・坂田義行				
<p>授業概要 クローン人間や遺伝子工学など生命科学の知識はよく耳にするようになりました。21世紀は生命科学の時代といわれ、社会生活を行う上で必須の常識となりつつあります。そこで、生命の誕生から病気や死に至るまでの種々の生命現象を取り上げ、様々な角度から科学的に検討し、学生諸君の新しい視点の構築の助けとなることを目指します。</p> <p>授業一般目標 複雑な生命現象や医学的問題のうちトピックスをとりあげ、科学的にどのようにして解析され、どこまで解明されているかについて理解する。</p> <p>成績評価方法(総合) 出席40%、授業態度や授業への参加度10~20%、小テスト10~20%、課題レポート20~40%程度で、総合評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：必要に応じて資料の配付を行う。/ 参考書：生きもののからくり(改訂版), 中村和行 他, 培風館, 2006年</p> <p>メッセージ 授業中は携帯電話の電源を切る(又はマナーモード)。自分の頭で考えよう。関連ホームページ：  <a href="http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/legal/">http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/legal/</a></p> <p>教官連絡先 医学部生化学第一教室 中村和行 (e-mail:nakamura@yamaguchi-u.ac.jp)</p>					

開設科目	環境学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工 2 年	単位	2 単位	曜時間	月曜日 1・2 時限
担当教官	今井剛、中田幸男、高海克彦				
<p><b>授業概要</b> 我々は食料、資源・エネルギー、水資源、廃棄物、環境ホルモンなど解決すべき難問を抱えたまま、21世紀を迎えた。人類の持続的生存のために、地球規模での資源・環境制約条件の下で、新しい生活のあり方、社会のあり方、科学技術のあり方が求められている。本講義では、環境問題、社会基盤整備、リサイクルに関わる内容の講義を通して、重要なキーワードを学び、理解する。地球環境を保全し、健全な生活環境を確保しつつ、人類が持続的発展をしていくためには人間として、技術者としてこれから何をすべきかについてともに考える。</p> <p><b>授業一般目標</b> 1. 環境問題、社会基盤整備、リサイクルに関わる内容の講義を通して、重要なキーワードを学び、理解する。 2. 地球環境を保全し、健全な生活環境を確保しつつ、人類が持続的発展をしていくためには人間として、技術者としてこれから何をすべきかについて考える力を養う。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 小テスト・授業内レポート (0 ~ 20%) 及び宿題・授業外レポート (80 ~ 100%) により評価します。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：基礎環境学, 田中修三 編著, 共立出版, 2003 年 / 参考書：必要に応じてプリントを配布する。</p> <p><b>メッセージ</b> 出席は欠格条件です。やむを得ず欠席する場合は欠席届を提出すること。なお、席指定があります。</p> <p><b>教官連絡先</b> imait@yamaguchi-u.ac.jp 教官室：総合研究棟 4 F、4 1 3 号室</p>					

開設科目	人間環境論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工 2 年	単位	2 単位	曜時間	月曜日 1・2 時限
担当教官	中尾勝實				
<p><b>授業概要</b> 1972 年の国連人間環境会議 (ストックホルム会議) では、次のような人間環境宣言が採択されている。「環境衛生の考え方は、余りにも人間中心である。人間も地球上に生存する生物の一種であって、自然界は生物と無生物との複雑で、しかも精巧な調和によって成り立っている。人間もその調和の中においてのみ生存を続けることができる。したがって、人間が生存を続けてゆくためには、自然環境を保全してゆかなければならない。」身近な地域の大气汚染、水質汚濁、廃棄物処理から酸性雨、オゾン層破壊、地球温暖化などの地球環境問題に至るまで、様々な環境問題は、工業化、都市化及び人口増、換言すれば大量生産、大量消費、大量廃棄という現在の私達の生活のあり方に起因している。そのため、社会経済システムやライフスタイルのあり方を見直し、持続的発展が可能な環境への負荷の少ない循環型社会を築くことが、今日私達一人ひとりの責務となっている。本講義では、まず地域及び地球環境問題の概要について触れ、ついで持続可能な社会の発展を保障する一つの方策として、自然環境に調和した工業生産システム - すべての物質が大気圏、水圏及び地圏という環境中を、そこに存在するあらゆる生物に何ら影響を及ぼすことなく、太陽をエネルギー源として循環しているシステム - を構築していくことの必要性と可能性について述べる。</p> <p><b>授業一般目標</b> 私達の日常生活及び産業活動の基盤である自然環境を健全で恵み豊かなものとして保全し、創造することが、持続可能な社会の構築にとって不可欠であることを理解する。そのために、あらゆる人間活動が自然環境 (生態系) における生命現象と調和することが極めて重要であることを理解する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 定期試験 = 70% 宿題 / 授業外レポート = 30% 出席 = 欠格条件</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：プリント配布 / 参考書：地球温暖化を考える, 宇沢弘文, 岩波新書 403, 岩波書店, 1995 年; 平成 16 年版環境白書, 環境省編, ぎょうせい, 2004 年; エコトピア - 環境調和型社会の提案, 内藤正明, 日刊工業新聞社, 1992 年</p> <p><b>メッセージ</b> 環境の保全と改善のために意識を高め自主的に実践できるようになってほしい。</p>					

系列 応用科学

分野 応用科学

科目類型 総説

開設科目	運動健康科学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教官	上地 広昭				
<p>授業概要 行動科学の視点から、運動行動と健康の関係について説明し、運動行動を決定する要因、および運動行動を説明する理論・モデルを紹介する。また、グループワークにおいて、運動行動を促進させるためのプログラム開発に取り組む。</p> <p>授業一般目標 運動行動が健康に果たす役割、運動行動の決定因、および運動行動に関する理論・モデルの理解</p> <p>成績評価方法 (総合) 出席率と定期試験の成績により評価する(ただし、欠席3回未満の学生のみを評価対象とする)。</p> <p>教官連絡先 教育学部 体育・スポーツ心理学研究室</p>					

系列 応用科学

分野 応用科学

科目類型 総説

開設科目	運動健康科学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教官	青木邦男				
<p>授業概要 大学生を送る中で身近に起こる健康・体力についての問題や話題を中心にして、将来にわたって健康的で行動的な日常生活を送るために必要な健康・スポーツ関連諸科学の基本的で科学的な知見や実践的な身体活動(運動・スポーツ)の諸方法を解説する。</p> <p>授業一般目標 (1)健康・体力の保持増進のために必要である基本的で科学的な健康・スポーツ諸科学の知見を説明できる。(2)健康・体力の保持増進や生活習慣病の予防のための運動実践の方法を処方できる。</p> <p>成績評価方法 (総合) (1)毎回の授業において短いレポートを課す。(2)中・期末試験を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p>教科書・参考書 教科書：毎回プリントを配布する。/ 参考書：田口貞善、山地啓司 編著・近代科学社「若いときを知っておきたい運動・健康とからだの秘密」</p> <p>メッセージ 履修希望者が80名を越えた場合には、抽選を行うので初回には必ず出席すること。</p> <p>教官連絡先 aoki@yamaguchi-pu.ac.jp</p>					

開設科目	運動健康科学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工	単位	2 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教官	河合洋祐				
<p><b>授業概要</b> 機械化、動力化、情報化による急速な生活環境の変化は我々のライフスタイルを変え、日常の身体活動量を大きく減少させた。これは体力を低下させるとともに、食生活の変化と相俟って生活習慣病の危険因子をも招来しやすくしている。一方、適切な運動習慣は体力を向上させ、ある種の病気を予防したり、免疫力を高める可能性も明らかになってきた。今後到来すると予想される高度情報化社会において身体運動の重要性は一層高まるものと考えられる。本講義では運動が身体諸機能に及ぼす影響と健康づくりを可能にする身体運動の意義を概説する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 生活習慣と健康の関わりについて学ぶとともに、運動が身体諸機能に及ぼす影響と健康づくりを可能にする身体運動の意義を理解し、健康にとって望ましいライフスタイルの確立を促すことを目的とする。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 1. 期末試験を実施する。2. 授業の進度に応じて小テストあるいはレポートを課す。以上を下記の観点・割合で評価する。期末試験の受験資格は欠席回数4回以内で小テスト、レポート課題を終了した者とする。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：毎回配布するプリントを使用する。/ 参考書：講義の中で紹介する。</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (硬式テニス)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	学教2年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限
担当教官	塩田正俊				
<p><b>授業概要</b> テニスは技術(ラケット・ワーク)、体力(フット・ワーク)そして精神力(ヘッド・ワーク)を要求される、かなりタフなスポーツである。しかし、老若男女をとわず体力、年齢に応じて楽しめるスポーツである。生涯スポーツとして、健康の保持増進に十分寄与するスポーツである。この授業では、基本技術をマスターし、ゲームおよびゲーム進行(審判法)を学習する。また、テニス特有のマナーなどについても学習する。</p> <p><b>授業一般目標</b> テニスは生涯スポーツとして、健康の保持増進に十分寄与するスポーツである。テニス技術は一見簡単にマスターできるように見えるが、実際コートにたつてプレーをしてみるとなかなか思いどおりにならない。まずは基本的な技術をマスターすることから始め、最終的には楽しくゲームができるまでをねらいに行う。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 欠席4回以上は評価しない。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：必要に応じてプリントを配布 メッセージ 天候や皆さんの習熟度に応じて授業内容を変更することがあります。</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (バスケットボール)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	学教2年	単位	1単位	曜時限	火曜日 1・2時限
担当教官	中嶋 健				
<p><b>授業概要</b> 本授業では、チームスポーツ種目であるバスケットボール特有の楽しさや難しさを理解することを目的とし、オフェンス・ディフェンス技術練習を基礎から応用へと発展させると同時に毎回出来るだけ多くのゲームを行う。スポーツをする楽しみに加えて見る・応援する楽しみ、審判を含めたゲームオフィシャルなどを互いに協力して進める協調性や自発性、コミュニケーション能力を高めることも参加学生達には期待したい。</p> <p><b>授業一般目標</b> オフェンス、ディフェンスの基礎技術を習得する。 ゲームを行うための最低限必要なルールを学習し、理解する。 チームゲームに必要な応用技術並びに戦術を学習し、理解する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 授業への出席 (欠席4回以上の者は失格とする) 授業記録ノートの内容によって評価する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: 必要に応じてプリント、資料を配付する。</p> <p><b>メッセージ</b> 積極性、自発性、協調性、自律性を持って明るく、楽しく、激しくバスケットボールをやろう。</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (エアロビクス)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	学教2年	単位	1単位	曜時限	火曜日 1・2時限
担当教官	矢野道代				
<p><b>授業概要</b> エアロビックダンスは、ジョギングや水泳、サイクリングの代わりにダンスの要素を取り入れたリズムカルな有酸素運動である。プログラムは、初級レベルでウォームアップ (準備運動)、ステップ・メインダンス (有酸素運動)、コンディショニング (筋力強化運動)、クーリング・ダウン (整理運動) を含む60分前後で構成される。終始音楽に合わせて展開され、全体学習、グループ学習を取り入れながら基礎的な身体づくりをしていく。</p> <p><b>授業一般目標</b> エアロビックダンスの特性を知ること。基本ステップの修得を通して、健康・体力づくりを目的に、全身持久力、筋肉の柔軟性、筋持久力、調整力を高め、リズムにあわせて動くことの楽しさ、喜びを追求する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 出席、グループ創作、意欲、参加度によって総合的に評価する。欠席4回は欠格とする。</p> <p><b>メッセージ</b> 共に動くことの楽しさを発見して欲しい。心と身体を解放して、しなやかな表現のできる身体をつくりましょう。</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (フィットネス)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	学教	単位	1 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教官	曾根涼子				
<p><b>授業概要</b> フィットネスの概念は、アメリカで生まれ、ただ単に病気がない状態ばかりではなしに、日常の生活が活動的に行われることを想定して、その能力を表す言葉として用いられてきた。定期的に身体運動を繰り返していると、その運動刺激に対して身体が適応していく。本コースでは、この身体の適応性を利用してフィットネスを高めていくためのトレーニング、いわゆるフィットネストレーニングを実際に行いながら、その原則、方法などについて学習する。</p> <p><b>授業一般目標</b> フィットネスを高めていくためのトレーニング、いわゆるフィットネストレーニングを実際に行いながら、その原則、方法などについて学び、実践能力を修得してもらうことを目標とする。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 宿題、実習書への記入状況など 40%、授業態度や授業への参加度 60% (出席は 15%)、出席が 4 回以上の者には単位を与えません。実習書 (授業時に配布) は学期の授業の最後に提出していただきます。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: 資料および記録用紙を配付する。</p> <p><b>メッセージ</b> 授業開始時の出席確認時に不在の場合、欠席として扱う。形態・体力測定があります。</p> <p><b>教官連絡先</b> 連絡先: 教育学部 101-1 あるいは 101-2 (083-933-5389) sone@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: 水曜日 9 時 ~ 12 時</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (バスケットボール)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	学教	単位	1 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教官	中嶋 健				
<p><b>授業概要</b> 本授業では、チームスポーツ種目であるバスケットボール特有の楽しさや難しさを理解することを目的とし、オフェンス・ディフェンス技術練習を基礎から応用へと発展させると同時に毎回出来るだけ多くのゲームを行う。スポーツをする楽しみに加えて見る・応援する楽しみ、審判を含めたゲームオフィシャルなどを互いに協力して進める協調性や自発性、コミュニケーション能力を高めることも参加学生達には期待したい。</p> <p><b>授業一般目標</b> オフェンス、ディフェンスの基礎技術を習得する。ゲームを行うための最低限必要なルールを学習し、理解する。チームゲームに必要な応用技術並びに戦術を学習し、理解する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 授業への出席 (欠席 4 回以上の者は失格とする) 授業記録ノートの内容によって評価する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: 必要に応じてプリント、資料を配付する。</p> <p><b>メッセージ</b> 積極性、自発性、協調性、自律性を持って明るく、楽しく、激しくバスケットボールをやろう。</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (エアロビクス)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	学教	単位	1 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教官	矢野道代				
<p><b>授業概要</b> エアロビックダンスは、ジョギングや水泳、サイクリングの代わりにダンスの要素を取り入れたリズムカルな有酸素運動である。プログラムは、初級レベルでウォームアップ（準備運動）、ステップ・メインダンス（有酸素運動）、コンディショニング（筋力強化運動）、クーリング・ダウン（整理運動）を含む60分前後で構成される。終始音楽に合わせて展開され、全体学習、グループ学習を取り入れながら基礎的な身体づくりをしていく。</p> <p><b>授業一般目標</b> エアロビックダンスの特性を知ること。基本ステップの修得を通して、健康・体力づくりを目的に、全身持久力、筋肉の柔軟性、筋持久力、調整力を高め、リズムにあわせて動くことの楽しさ、喜びを追求する。</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 出席、グループ創作、意欲、参加度によって総合的に評価する。欠席4回は欠格とする。</p> <p><b>メッセージ</b> 共に動くことの楽しさを発見して欲しい。心と身体を解放して、しなやかな表現のできる身体をつくりましょう。</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (ハンドボール)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	全 (教除く)	単位	1 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教官	森田俊介				
<p><b>授業概要</b> ヨロッパで盛んに行われているハンドボールは、走・投・跳の運動基本動作を利用して、ボールをパス・キャッチ・ドリブルしながら相手ゴールに投げ込むチームスポーツである。比較的小さなボールを手で扱うため、誰でもが参加して気楽に楽しむことができる反面、個々のメンバーにはコンビネーションプレーに必要なスピード、スタミナが要求される。この授業ではボールを使って体力づくりを行いながら、ハンドボールの基本的な技能を身につけ、それらをチーム戦術の中で生かすことができるようになることを目的とする。</p> <p><b>授業一般目標</b> この授業ではボールを使って体力づくりを行いながら、ハンドボールの基本的な技能を身につけ、それらをチーム戦術の中で生かすことができるようになることを目標とする。</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 参加度（50%）、習熟度（30%）、意欲度（20%）などから総合的に評価する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 参考書：必要に応じて授業中にプリントを配布する。</p> <p><b>メッセージ</b> 各自はコンディショニングに最大の配慮をすること。</p> <p><b>教官連絡先</b> 電話 933-5385</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (ターゲットバードゴルフ)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	全 (教除く)	単位	1 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教官	宮田浩文				
<p>授業概要 ターゲットバードゴルフは、羽根つきのボールを普通のゴルフクラブで打つ、ミニゴルフの一種である。羽根が付いているために、強打しても 20～30m しか飛ばず、狭いコースでもフルスイングができる。そのため、初心者にも、爽快感があり、適度な技術的難度性も有しているレクリエーションスポーツである。ターゲットバードゴルフは運動量があまり多くないので、各時間の最初 20 分ぐらいは、ウォーミングアップを兼ねてランニング、補強運動等を行う。</p> <p>授業一般目標 1) 基本的なルールの理解 2) 基本的なグリップ、スイングの習得 3) 簡易コースでのラウンドに必要な知識と技術の習得</p> <p>成績評価方法 (総合) 授業中の態度と出席状況の総合評価</p> <p>教科書・参考書 教科書: プリントを配布する。</p> <p>メッセージ 時間厳守</p> <p>教官連絡先 月曜日午前中</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (エアロビクス)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	全 (教除く)	単位	1 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教官	田中富美子				
<p>授業概要 「エアロビクス」は米国のケネス・H・クーパー博士により 1967 年初めて提唱された運動処方理論から発し、1970 年ジャッキー・ソーレンソンによるダンスの要素を加えた「エアロビクス・ダンス」が生まれ、現在では健康スポーツ・生きがいスポーツの性格を持つ生涯スポーツとして、幅広い年齢層に普及している。本授業では、エアロビクス理論の理解を深め、生涯スポーツへつなげる実践を行う。</p> <p>授業一般目標 音楽に合わせて、身体を動かすことによって、呼吸・循環系に適度な刺激を与え、また全身の柔軟性や筋力・筋持久力の向上を目的とする。個々の体力に合わせて、運動強度を自覚するとともに、人との係わりの中でコミュニケーションをとりながら表現する力を高め、創作活動を行う。</p> <p>成績評価方法 (総合) 4 回以上の欠席は、欠格とする。出席と実技への参加度・意欲度を総合的に評価する。</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (サッカー)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	全 (教除く)	単位	1 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教官	海野勇三				
<p><b>授業概要</b> ここでは、サッカーを教材に、チームを編成して共同的な学習を展開していく。リーグ戦を中心として、チームごとに練習計画に沿った活動を進めていき、ゲームを分析しながら、戦術理解とチーム力を高めていきたい。また、スポーツとしてのサッカーの発生と発展の歴史についても学習する。</p> <p><b>授業一般目標</b> チームでの役割分担に基づいて、共同的な学習活動を展開することができる。また、練習とゲーム分析を通じて、攻撃と防御の技能を向上させ、戦術理解を深めることができる。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 出席状況、課題レポート、およびグループでの共同的な取り組みの状況等をもとに総合的に評価する。</p> <p><b>メッセージ</b> グループで共同しながら、自主的な運営のもとに練習とゲームを進めていきます。</p> <p><b>教官連絡先</b> メールアドレス: yunno@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (バドミントン)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	実践・情報・健康・総文2年	単位	1 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	三好洋二				
<p><b>授業概要</b> バドミントンというスポーツの楽しさは、その発生から考えてラリーを続けることにある。この授業では、このラリーを続けるという楽しみを味わいながら、ゲームに必要な技術を習得し、バドミントンというスポーツの実践能力を養います。</p> <p><b>授業一般目標</b> 本授業では、バドミントンの基本的な個人的技能 (ストローク、サービス)、ゲームでのフォメーション、基本的ルールを学習・習得するとともに、生涯にわたってスポーツを実践する態度を養う。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 授業態度や授業への出席状況から評価する。なお、欠席が4回以上の者には単位を与えない。</p> <p><b>メッセージ</b> 授業の性格からして、きちんと出席し実践することが大切です。それによって初めてスポーツの楽しさ、おもしろさを感じ取ることができます。</p> <p><b>教官連絡先</b> ymiyoshi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 教育学部162番室 オフィスアワ - 金曜日 15:00 ~ 18:00</p>					

開設科目	スポーツ運動実習(硬式テニス)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	実践・情報・健康・総文2年	単位	1単位	曜時限	水曜日3・4時限
担当教官	丹信介				
<p><b>授業概要</b> テニスは、生涯を通して楽しめるスポーツの一つである。このようなテニスのゲームを楽しむようになるためには、最低限の基礎技術の習得が必要となる。この授業では、初心者、初級者を対象の主体とし、テニスのゲームが楽しめるようになるための基礎技術の習得、特にグランドストロークでラリーが行えるようになることを授業の主な目標のひとつとして、授業を進める。授業の後半では、習得した基礎技術実践の場であるゲームを中心に授業を展開する。</p> <p><b>授業一般目標</b> テニスのゲームを楽しむために必要な基礎技術の習得、特にグランドストロークでラリーが行えるようになることを授業の主要な目標のひとつとする。また、ダブルス(シングルス)のゲームが楽しめるよう、ゲームの進め方、ルールを理解し、実際に行えることも目標のひとつとする。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 小テスト/授業内レポート = 20~40% 授業態度や授業への参加度 = 60~80% 出席 = 欠格条件</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：必要に応じて、授業時にプリントを配布する。</p> <p><b>メッセージ</b> テニスシューズを必ず用意して下さい。ラケットは、授業時に貸し出しますが、各自用意したものを使ってもかまいません。</p> <p><b>教官連絡先</b> 丹 信介 Email: tan@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp 電話: 933-5388 研究室: 教育学部 436-2 オフィースアワー: 月 12:50~14:20</p>					

開設科目	スポーツ運動実習(エアロビクス)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	実践・情報・健康・総文2年	単位	1単位	曜時限	水曜日3・4時限
担当教官	田中富美子				
<p><b>授業概要</b> 「エアロビクス」は米国のケネス・H・クーパー博士により1967年初めて提唱された運動処方理論から発し、1970年ジャッキー・ソーレンソンによるダンスの要素を加えた「エアロビクス・ダンス」が生まれ、現在では健康スポーツ・生きがいスポーツの性格を持つ生涯スポーツとして、幅広い年齢層に普及している。本授業では、エアロビクス理論の理解を深め、生涯スポーツへつなげる実践を行う。</p> <p><b>授業一般目標</b> 音楽に合わせて、身体を動かすことによって、呼吸・循環系に適度な刺激を与え、また全身の柔軟性や筋力・筋持久力の向上を目的とする。個々の体力に合わせて、運動強度を自覚するとともに、人との係わりの中でコミュニケーションをとりながら表現する力を高め、創作活動を行う。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 4回以上の欠席は、欠格とする。出席と実技への参加度・意欲度を総合的に評価する。</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (バスケットボール)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	全 (教除く)	単位	1 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教官	杉浦崇夫				
<p><b>授業概要</b> バスケットボールは、冬期の体育の時間に、室内で楽しく克つ活発に行えることを目的にアメリカの J. A. Naismith によって、1891 年に創案されたスポーツである。その特色は、集団対集団のスポーツであること、ボールを持って自由に動けない中でボールを 投げたり捕ったりしなければならないこと、相手の身体には触れないこと、ゴールが小さく高い所にあることなどにより、危険が少なくスリルに富みそのうえルールの枠内でプレーヤーの自由で創造的活動の出来るゲームであることなどである。本授業では、ゲームを通してバスケットボールの基本的な個人的技能 (パス・キャッチ・ドリブル・シュートなど) と集団的技能 (ディフェンス・オフェンスなど) を学習する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 本授業では、バスケットボールの基本的な個人的技能 (パス・キャッチ・ドリブル・シュートなど)、集団的技能 (ディフェンス・オフェンスなど)、基本的ルールを学習・修得するとともに、バスケットボールに必要な体力要素を向上させることを通して、生涯スポーツにつながる実践を行う。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 授業態度や授業への出席状況から評価する。なお、欠席が 4 回以上の者には単位を与えない。</p> <p><b>メッセージ</b> 自分勝手な行動は、慎む。雨天時には、場所の関係から他の種目を実施することもある。実技のできる服装ならびに体育館履きを各自用意する。</p> <p><b>教官連絡先</b> E-mail takahito@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 083-933-5387 研究室 教育学部 H484-1 オフィスアワー 在室時は、いつでも</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (エアロビクス)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	全 (教除く)	単位	1 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教官	田中恵美子				
<p><b>授業概要</b> エアロビックダンスは、ジョギングや水泳、サイクリングのかわりにダンスの要素を取り入れたリズムカルな有酸素運動である。プログラムは、初級レベルでウォームアップ (準備運動)、ステップ・メインダンス (有酸素運動)、コンディショニング (筋力強化運動)、クーリング・ダウン (整理運動) を含む 60 分前後で構成される。終始音楽に合わせて展開され、全体学習、グループ学習を取り入れながら基礎的な身体づくりをしていく。</p> <p><b>授業一般目標</b> エアロビックダンスの特性を知ること。基本ステップの修得を通して、健康・体力づくりを目的に、全身持久力、筋肉の柔軟性、筋持久力、調整力を高め、リズムに合わせて動くことの楽しさ、喜びを追求する。そして、体脂肪測定や運動強度心拍測定実験を通してエアロビックダンスの効果を考える。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 出席、グループ創作、意欲、参加度によって総合的に評価する。欠席 4 回は欠格とする。</p> <p><b>メッセージ</b> 動くことの楽しさを実感し、心と身体を理解してのびのびとそしてしなやかに表現できる身体を作っていきましょう。</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (ニュースポーツ)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	全 (教除く)	単位	1 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教官	松本耕二				
<p><b>授業概要</b> 「いつでも・どこでも・だれに(と)でも」楽しめるニュースポーツを紹介する。ニュースポーツは、(1)近年新しく開発された種目、(2)既存種目のルール・用具を対象者に 応じて改変した種目、(3)これまでわが国において紹介されることが少なかった外国の種目等を総称している。実習では、「ニュースポーツ」と呼ばれる数種目を実践・体験し、基礎技術の習得と ルールの理解、そしてスポーツの持つ本来的楽しさを共有し、スポーツの多様性と本質 的意味の理解、また各ライフステージに応じた運動・スポーツ活動実践のための視点を 養うことを目的としている。</p> <p><b>授業一般目標</b> 実習では、スポーツの持つ本来的楽しさを共有するために「ニュースポーツ」数種目を 積極的に体験・実践する。その中で種目の基礎技術の習得と基本的ルールの把握、さら に種目特性を理解する。そしてスポーツの多様性と本質的意味、さらに各ライフス テージに応じた運動・スポーツ活動実践のための視点を養うことを目標とする。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 出席 (60 %)、授業態度や授業への参加度 (20 ~ 40 %)、レポート (20 % 未満) 等にて総合的に 評価する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：ニュー・スポーツ百科 (新訂版), "清水良隆, 紺野晃編", 大修館書店, 1997 年; 生涯ス ポーツ実践論：生涯スポーツを学ぶ人たちに, "川西正志, 野川春夫編著", 市村出版, 2002 年; ニュー・スポーツ百科, 水 良隆 紺野晃, 大修館書店, 1997 生涯スポーツ実践生涯スポーツ論 - 生涯スポーツを学ぶ人たちへ - 川西正 志・野川春夫 編 著, 市村出版, 2002</p> <p><b>メッセージ</b> これまでに体験したことのないいろいろなゲーム&amp;スポーツを体験したい人、運動・スポーツがちょっと 苦手な人、みんなと積極的に交流したい人にお 勧め。実施種目は、施設の状況、天候等により変更することがある。</p> <p><b>教官連絡先</b> Email : kmatsu@yamaguchi-pu.ac.jp 研究室 : 山口県立大学 (本館 3 F)</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (バレーボール)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	全 (教除く)	単位	1 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教官	渡壁 史子				
<p><b>授業概要</b> スポーツは文化の一つとして捉えることができるが、中でもバレーボールは近代に入っ て意図的に作られた スポーツ種目である。本授業では、バレーボールの楽しさを追求し ていくとともにバレーボールの運営、技術、戦略に ついて理解していく。さらにバレーボールを含めたスポーツを「体力や健康の維持・増進」という面のみでなく、「人間 として豊かに生きる」という観点から実践することを求めている。 また、今日ではスポーツは授業で行ったり、大学 のクラブで行ったりするだけではなく、大学を卒業してからも地域や企業内のクラブ等で続けることが求められる。し かし、現在そこには多くの問題が内包されている。そして、それらが解決できないために、スポーツ教室やクラブを続 けられないという状況もたくさん生まれている。この授 業では、そのようなことを踏まえ、生涯、スポーツと十分に関 わるためにどのような知 識や技能・技術が必要なのかということを考えながら実技を行う。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) スポーツをするための必要条件である、「人とかかわる能力」を一層身につける ため、運営に必 要なグループ作りやある程度のルール作りを受講者が話し合いながら決 めていく。(2) ゲームを軸に、バレーボール の戦術・戦略・審判法を経験を通して学ぶ。(3) バレーボールをするために必要な場作りを実技を通して学ぶ。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 出席及び実技試験の成績等による総合評価で行う。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：授業時に資料を配布する。/ 参考書：授業時に紹介する。</p> <p><b>メッセージ</b> 話し合いながら授業を進めていくので、自分の意見が言え、人の意見が聞ける能力を身につけて欲しい。</p> <p><b>教官連絡先</b> メールアドレス : watakabe@yamaguchi-jc.ac.jp</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (バドミントン)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	実践・情報・健康・総文	単位	1 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教官	上田真寿美				
<p><b>授業概要</b> 健康を保持・増進するには、継続的な運動の実施は必要不可欠である。本授業では、社会体育でも積極的に活動が行われているバドミントンを実習し、生涯にわたってスポーツを楽しむ方法を学習する。バドミントンのルールはもちろんのこと、バドミントンによって得られる運動生理・心理学的な効果についても学習する。</p> <p><b>授業一般目標</b> バドミントンの基礎的技術、具体的にはダブルスのゲームが可能な範囲までを習得する。そしてルールを学び、自主的にゲームの運営が実施できるようになることを目標とする。さらにバドミントンによって得られる運動生理・心理学的な効果についても確認しながら実施することを目標とする。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 授業態度や授業への出席状況から評価する。なお、出席が 4 回以上の者には単位を与えない。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：適宜、資料等を配布する。</p> <p><b>メッセージ</b> 履修者が 50 名を越えた場合は抽選を行うことがあるので、初回は必ず出席のこと。運動のできる服装と上履きを準備すること。グループ学習形式を採っており、遅刻は他学生へも迷惑がかかるため厳禁とする。</p> <p><b>教官連絡先</b> メールアドレス：masumi-u@yamaguchi-u.ac.jp、通常は宇部キャンパス(医学部医学科医療環境学講座研究室)にいます。</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (エアロビクス)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	実践・情報・健康・総文	単位	1 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教官	田中恵美子				
<p><b>授業概要</b> エアロビックダンスは、ジョギングや水泳、サイクリングのかわりにダンスの要素を取り入れたリズムカルな有酸素運動である。プログラムは、初級レベルでウォームアップ (準備運動)、ステップ・メインダンス (有酸素運動)、コンディショニング (筋力強化運動)、クーリング・ダウン (整理運動) を含む 60 分前後で構成される。終始音楽に合わせて展開され、全体学習、グループ学習を取り入れながら基礎的な身体づくりをしていく。</p> <p><b>授業一般目標</b> エアロビックダンスの特性を知ること。基本ステップの修得を通して、健康・体力づくりを目的に、全身持久力、筋肉の柔軟性、筋持久力、調整力を高め、リズムに合わせて動くことの楽しさ、喜びを追求する。そして、体脂肪測定や運動強度心拍測定実験を通してエアロビックダンスの効果を考える。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 出席、グループ創作、意欲、参加度によって総合的に評価する。欠席 4 回は欠格とする。</p> <p><b>メッセージ</b> 動くことの楽しさを実感し、心と身体を理解してのびのびとそしてしなやかに表現できる身体を作っていきましょう。</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (バレーボール)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	実践・情報・健康・総文	単位	1 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教官	牧野共明				
<p><b>授業概要</b> スポーツは現代に生きる人間にとって教養の一つである。それは、「体力や健康の維持・増進」という面のみでなく、スポーツを「人間として豊かに生きる」という観点から実践することを求めている。そして、そのためにはスポーツの価値をトータルにとらえることが必要となってくる。また、スポーツは授業で行ったり、大学のクラブで行ったりするだけでなく、大学を卒業してからも地域や企業内のクラブ等で続けることが求められる。しかし、現在そこには多くの問題が内包されている。そして、それらが解決できないために、スポーツ教室やクラブを続けられないという状況もたくさん生まれている。この授業では、そのようなことを踏まえ、生涯、スポーツと十分に関わるためにどのような知識や技能・技術が必要なのかということを考えながら、「バレーボールそのものの面白さ」も追求しつつバレーボールの実技を行う。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) スポーツをするための必要条件である、「人とかかわる能力」を一層身につけるため、グループ作りやある程度のルール作りを受講者が話し合いながら決めていく。(2) 実技においては、ゲーム中心に行い、バレーボールの戦術・戦略を経験を通して学ぶ。(3) スポーツをするために必要な場作りを実技を通して実際に学習する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 出席及び実技試験の成績等による総合評価で行う。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：授業時に資料を配布する。/ 参考書：授業時に紹介する。</p> <p><b>メッセージ</b> 授業では討議をする場が設定されている。みんなの前で自分の意見を積極的に言ってほしい。</p> <p><b>教官連絡先</b> メールアドレス：makino@yamaguchi-jc.ac.jp</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (ニュースポーツ)	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	実践・情報・健康・総文	単位	1 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教官	松本耕二				
<p><b>授業概要</b> 「いつでも・どこでも・だれに(と)でも」楽しめるニュースポーツを紹介する。ニュースポーツは、(1) 近年新しく開発された種目、(2) 既存種目のルール・用具を対象者に 応じて改変した種目、(3) これまでわが国において紹介されることが少なかった外国の種目等を総称している。実習では、「ニュースポーツ」と呼ばれる数種目を実践・体験し、基礎技術の習得とルールの理解、そしてスポーツの持つ本来的楽しさを共有し、スポーツの多様性と本質的意味の理解、また各ライフステージに応じた運動・スポーツ活動実践のための視点を養うことを目的としている。</p> <p><b>授業一般目標</b> 実習では、スポーツの持つ本来的楽しさを共有するために「ニュースポーツ」数種目を積極的に体験・実践する。その中で種目の基礎技術の習得と基本的ルールの把握、さらに種目特性を理解する。そしてスポーツの多様性と本質的意味、さらに各ライフステージに応じた運動・スポーツ活動実践のための視点を養うことを目標とする。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 出席 (60%)、授業態度や授業への参加度 (20~40%)、レポート (20%未満) 等にて総合的に評価する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：ニュー・スポーツ百科 新訂版, "清水良隆, 紺野晃編", 大修館書店, 1997年; 生涯スポーツ実践論: 生涯スポーツを学ぶ人たちに, "川西正志, 野川春夫編著", 市村出版, 2002年; ニュー・スポーツ百科, 水良隆 紺野晃, 大修館書店, 1997 生涯スポーツ実践生涯スポーツ論 - 生涯スポーツを学ぶ人たちに - 川西正志・野川春夫 編著, 市村出版, 2002</p> <p><b>メッセージ</b> これまでに体験したことのないいろいろなゲーム&amp;スポーツを体験したい人、運動・スポーツがちょっと苦手な人、みんなと積極的に交流したい人にお勧め。実施種目は、施設の状況、天候等により変更することがある。</p> <p><b>教官連絡先</b> Email : kmatsu@yamaguchi-pu.ac.jp 研究室：山口県立大学(本館3F)</p>					

開設科目	行動科学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	医学	単位	2 単位	曜時間	木曜日 5・6 時限
担当教官	上田真寿美				
<p><b>授業概要</b> 本授業では行動科学とはどのような学問かを概説する。そして医療、保健分野における行動科学について基本事項を説明し、本分野における行動科学の必要性と課題を考える。</p> <p><b>授業一般目標</b> 1. 行動科学とはどのような学問かを理解する。2. 医療、保健分野における行動科学について理解し、本分野における行動科学の必要性と課題を説明できる。3. 健康、疾病をめぐる人間の行動の理解を深める。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 1. 授業内レポートを数回行う。2. グループディスカッションのまとめのレポートを提出する。3. 関心のある医療問題や行動科学についてレポートを提出する。4. 最後に試験を実施する。以上を以下の観点、割合で評価する。出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 参考書：プリント資料を配布する</p> <p><b>メッセージ</b> グループ学習形式を採っており、遅刻は他学生へも迷惑がかかるため厳禁とする。</p> <p><b>教官連絡先</b> メールアドレス：masumi-u@yamaguchi-u.ac.jp、通常は宇部キャンパス(医学部医学科医療環境学講座研究室)にいます。</p>					

開設科目	生活科学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(数理・物情除く)	単位	2 単位	曜時間	月曜日 9・10 時限
担当教官	五島淑子・澤本章・星野裕之				
<p><b>授業概要</b> 衣・食・エネルギー・環境をテーマに、身近な生活にある諸問題を例にあげ、生活問題意識の向上と、生活様式の改善への働きかけをする。具体的には、「食と生活」、「ものリサイクルの必要性」、「エネルギーの大切さ」、「衣と生活および環境負荷」について学習する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 身近な生活を科学の視点で捉えられるとともに、よりよい生活行動を考えられる態度を養う。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 出席状況と3回のレポートで評価する。なお、3回のレポートが提出されなければ単位を与えない。</p> <p><b>メッセージ</b> 各週の講義の順番は変更されることがあります。教室の大きさに応じて、受講制限をします。</p> <p><b>教官連絡先</b> 五島研究室 教育学部C棟4階422号室 083 - 933-5410 goto@yamaguchi-u.ac.jp 金曜日 16:10 ~ 17:40</p>					

開設科目	生活科学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全(数理・物情除く)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教官	山本善積、山田次郎、入江和夫				
<p>授業概要 この授業では、生活科学の因子の中から、日常生活に極めて関りの深いものとして、「食物」「水・空気」「住生活」を取り上げる。具体的には、「食品の安全性」、「水の汚染と室内空気汚染」、「住生活の環境問題」について学習する。</p> <p>授業一般目標 身近な生活科学を健康、環境、科学の視点から捉え、自分の生活様式の改善に向けた態度を養う。</p> <p>成績評価方法(総合) 授業は3人の教員が担当し、評価は小テスト+レポート提出、レポート提出のみの場合に分かれる。出席が70%未満の場合は単位を与えない。</p> <p>教科書・参考書 教科書： 随時プリントを配布する。、 / 参考書： ・「水の環境戦略」、中西準子、(岩波新書); ・随時プリントを配布する。、</p> <p>メッセージ 授業に参加し、自らの意志で考え、自分の意見や考えを構築すること。</p> <p>教官連絡先 ・山本善積：E-mail: yoshizum@yamaguchi-u.ac.jp 電話 083-933-5411、研究室、教育学部、264号室、オフィスアワー 木曜日 10～12時 ・山田次郎：E-mail: jyamada@yamaguchi-u.ac.jp 電話 083-933-5407、研究室、教育学部、412号室 ・入江和夫：E-mail: kirie@edu.yamaguchi-u.ac.jp 電話 083-933-5412、研究室、教育学部、306号室、オフィスアワー 水曜日 10～12時</p>					

## 前期 - 初期教育系列

開設科目	基礎セミナー (人文)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	人社A	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教官	滝野正二郎				
<p>授業概要 1. 文章の書き方について簡単に説明する。 2. 物事を認識し、知ることに関する本を読み、それについての「感想文」を書く。 3. それらについて滝野が滝野なりの解説を行う。 4. 最終的に原稿用紙十枚程度の論文を書いてもらう。</p> <p>授業一般目標 物事について根本的に考え、それを文章で表現する方法を習得する。</p> <p>成績評価方法 (総合) 授業内レポートと期末レポート。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 子ども のための哲学, 永井均, 講談社現代新書, 1996 年; 新しい科学論, 村上陽一郎, 講談社ブルーバックス, 1979 年; 歴史とは何か, E. H. カー, 岩波新書, 1962 年; 日本語の作文技術, 本多勝一, 朝日新聞社, 1982 年; 知的生産の技術, 梅棹忠夫, 岩波新書, 1969 年</p> <p>教官連絡先 研究室: 人文学部 517、内線 5229、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: 木曜日 5/6 時限</p>					

開設科目	基礎セミナー (人文)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	人社B	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教官	中村友博				
<p>授業概要 日本語論述 来年度、皆さんはいずれかのコースに所属して専門研究にとりかかり、それぞれに卒業論文のテーマを考えていくこととなります。コースが異なれば、論文執筆の具体的手順にも自ずから異なる点があるでしょう。けれども、どのコースに進むにしても、そもそもその前に、文章を書く能力が必要となります。この授業は、日本語で文章を書くことを学びます。</p> <p>授業一般目標 わかりやすく平明な文章が書けるようになること。これがこの授業の目標です。それではわかりやすい文章とは、いったいどのようなものでしょうか。このことを作文を繰り返しながら学んでゆきます。</p> <p>成績評価方法 (総合) 毎回の授業の課題文をもって、評価します。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 必要に応じてプリントを配布する。 / 参考書: 文章法については作家のもの、科学者のものいろいろあります。ぜひ自分の好みに合う図書を見つけ、卒論までに一読することをお勧めします。</p> <p>メッセージ ・原稿用紙 (A4 版・400 字) を持参すること。 ・筆記用具・国語辞典 (電子辞書可) を持参すること。</p> <p>教官連絡先 tomo@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー 月曜日 16:10~17:40</p>					

開設科目	基礎セミナー (人文)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	人社C	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教官	藤川哲				
<p>授業概要 美術史学を通して人文学を考える演習です。1. 芸術とは何か 2. 歴史とは何か 3. 人文学とは何か 美術史的に代表的な作品を紹介します。1～3の問いに対して各自なりの答えを見つけてください。</p> <p>授業一般目標 1. 美術史上の代表作に対する理解 2. 美術史学の方法論に対する理解 3. 芸術論を出発点とした人文学に対する理解</p> <p>成績評価方法 (総合) 毎回講義の後半に意見・感想・質問等を記入したオピニオン・シートを提出してもらいます。シートの提出によって出席点、態度点等を積算し、期末試験の点数と合算したものを成績評価とします</p> <p>教科書・参考書 教科書：特にありません / 参考書：適宜、講義の中で紹介します</p> <p>メッセージ 人文学部へようこそ。これから4年間、少しでも多くの読書経験を積んで卒業して欲しいな、と思います。読書だけでなく、美術館へも関心を持って足を運んでもらえるようになると、なお幸いと考えこの演習を開講します。</p> <p>教官連絡先 E-mail fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後</p>					

開設科目	基礎セミナー (人文)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	言語A	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教官	湯川洋司				
<p>授業概要 希望を持って山口大学へ入学された皆さんは、これからさまざまな経験を積み重ねながら大学生活を送ることと思います。この基礎セミナーでは、これからの大学生活に欠かすことのできない知識と技能の基礎的な力を養成することを目的にします。まず、これから皆さんにとって大事な場になる山口大学をよりよく活用できるように、まず山口大学についてよく知ることを目指します。次いで、今後必須になるレポート作成の実際的方法を理解し実践できるように、文章(文献)を読んでその内容を整理しレポートを作成する実習を行います。</p> <p>授業一般目標 1. 山口大学についてよく知り、山口大学で学ぶ自分の目標を確認する。 2. 用意された文章(文献)を2つ読み、その内容を理解し整理して、自らの学習成果を交えてレポートを書き上げる。</p> <p>成績評価方法 (総合) 出席と授業への取組姿勢(積極性)を重視して評価します。レポートを書き上げて提出することが大切です。</p> <p>教科書・参考書 教科書：読む文献はプリントして配付します。 / 参考書：学校の怪談, 常光徹, 角川書店(ソフィア文庫), 2002年; 妖怪談義, 柳田國男, 講談社(学術文庫), 1977年</p> <p>メッセージ この基礎セミナーが、山口大学へ慣れるための良き道案内になるようにしたいと思います。</p> <p>教官連絡先 yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部棟 2階 210号室 オフィスアワー：原則、毎日の昼休み。その他、いつでも随時訪ねください。</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	基礎セミナー (人文)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	言語 B	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教官	磯部佳宏				
<p>授業概要 ~現代日本語の文字と表記~            授業一般目標 現代日本語の文字と表記に関する基礎知識を身に付けるとともに、現代日本語の文字と表記に関する諸問題について考える。            成績評価方法 (総合) 期末試験を主たる評価の対象とする。毎回、授業時に用紙を配布し、出席の確認を兼ねて、指示する内容について記入してもらう。            教科書・参考書 教科書：日本語概説, 加藤彰彦他, おうふう, 1989 年; 教科書は生協で取り扱う。</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	基礎セミナー (人文)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	言語 C	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教官	林 伸一				
<p>授業概要 仲間内での助け合いの基礎を学び、日常生活への応用力と実践力をつけることを主眼におく。人間関係に必要なコミュニケーションのとり方をグループ活動形式で検討し、グループごとのシェアリングを通して、自己理解と他者理解を促進する。育てるカウンセリングの方法論である構成的グループ・エンカウンターエクササイズを人間関係づくりとコミュニケーション論の立場から検討したい。            授業一般目標 このゼミでは、話し言葉と書き言葉における表現能力、自分の意見を発表できる能力の養成を目指す。            成績評価方法 (総合) 出席と提出されたレポートに基づいて、受講生の成績を評価する。            教科書・参考書 教科書：ピアヘルパーハンドブック, 日本教育カウンセラー協会, 図書文化, 2001 年 / 参考書：エンカウンターで学級が変わる・ショートエクササイズ集, 林伸一他, 図書文化, 1999 年            メッセージ 参加体験型のセミナーを経験して欲しい            教官連絡先 e-mail address: hayashix@yamaguchi.ac.jp Office: 人文棟 2 階 210 - 2、オフィスアワー：木曜 11 - 12 時</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	フレッシュマンセミナー (新入生合宿)	区分	演習	開設期	通年 (前期, 後期)
対象学生	教	単位	0 単位	曜時限	
担当教官	学務厚生部、各教室教員				
<p>授業概要 山口大学教育学部で学生生活を始めるにあたっての心構え、知っておくべきこと、手続きや授業などについてのいろいろな情報の入手方法、各コースにおける授業履修の注意事項などを伝え、新入生がとまどうことなくスタートがきれるように支援する。また、個人情報保護やセクハラ等の問題についても説明する。学部全体に共通する点については学部担当者が、各選修・コースの詳細については各教室担当者が実施する。二日目には、メンタルヘルスや防犯意識のガイダンスをおこなう。</p> <p>授業一般目標 山口大学および山口大学教育学部の教育システムについて、基本的なことを理解する。大学生活を始めるにあたって自分がなすべきことを理解する。教員や上級生、同級生など、大学生活を送るための支援を得られる人間関係を築く。個人情報保護やセクハラ、メンタルヘルスの問題に対する認識を深める。防犯意識を向上する。</p> <p>成績評価方法 (総合) プログラムへの出席・参加状況によって可否を評価する。</p> <p>備考 集中授業</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	学教 (教科 (国))	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教官	吉村誠 長崎伸仁 中野伸彦 藤原マリ子 南部英彦				
<p>授業概要 国語教育教室に所属することになった新入生諸君を対象として、大学における知とは何かを、大学生活を始めるに当たって伝達することを目的とする授業である。同時に、学生と教官との相互理解、交流をも目的とする。</p> <p>授業一般目標 それぞれの教官の専門分野における知の伝達を通して、国語教育教室において新入生諸君が自分に適応した知の世界を発見できれば幸いである。</p> <p>成績評価方法 (総合) 基本的には、レポートによる評価を行うが、出席度や授業態度も参考にする。</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	学教(教科(社))	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教官	貞方昇, 荒木一視, 岩崎好成, 岩本光悦, 外山英昭, 山本薫子, 森下徹, 吉川幸男, 松原幸恵				
<p>授業概要 社会科教育教室教員全員が年度始めに新入生の要望を取り入れながら半期のセミナープログラムを作成し、それによって研修する。</p> <p>授業一般目標 社会科諸分野の初歩的な学習を学生の活動を取り入れながら実施する。</p> <p>成績評価方法(総合) 本授業の諸活動の全体を総合的に判断して評価する。</p> <p>教官連絡先 社会科教育教室主任: 岩崎好成 ( iwasaki@yamaguchi-u.ac.jp) 他 8 名教員</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	学教(教科(数))	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教官	河津清、関口靖広、佐藤好久、笠井伸一				
<p>授業概要 新入生のためのガイダンスを行う。</p> <p>授業一般目標 大学において数学等を学ぶためには どうしたらよいかについて学ぶ。</p> <p>成績評価方法(総合) 態度 出席状況</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	学教(教科(理))	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教官					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	学教(教科(音))	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教官	成川ひとみ 他				
<p>授業概要 大学生生活を始めるにあたって、「履修の手引き」の読みとり方、履修登録のポイント、また、基本的な生活上の注意、専門教育の分野別概要等を解説する。</p> <p>授業一般目標 教員の話の意図を、十分に理解する。</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	学教(教科(美))	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教官	福田隆真、吉賀將夫、菊屋吉生、吉田貴富、河野令二、中野良寿				
<p>授業概要 授業の概要 大学教育及び美術教育についての導入に関する授業を行う。授業の一般目 美術と美術教育に関して大学において学ぶべき内容を考える。</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	学教(教科(保))	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教官	海野勇三				
<p>授業概要 所属教室のカリキュラムをはじめとして、行事等の年間スケジュール・学生及び教員スタッフ等についての紹介と説明を行い、大学生としての学習と生活になれることをめざす。また、各種の行事を通じてメンバー相互の親睦を図り連帯感を育む。</p> <p>授業一般目標 所属教室のカリキュラム(専門性・系統性・体系性)とこれからの履修の方法について理解する。新入生相互、また在校生・教員との間の親睦を深め、教室メンバーとしての一体感を育む。</p> <p>成績評価方法(総合) セミナーへの参加度を考慮して判定する。</p> <p>教官連絡先 メールアドレス: yunno@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	学教(教科(技))	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教官	澤本章、某、岡村(吉)、森岡、古賀、糸長、野村、北本				
<p>授業概要 技術教室では、「技術科教育法」、「木材加工」、「金属加工」、「機械」、「電気」、「栽培」及び「情報とコンピュータ」などを学びます。これらの各分野の概略を説明します。また、ホームページ作成のための演習を行います。</p> <p>授業一般目標 自分の専門とする学問領域の概略を理解し、以後の就学や学生生活に必要な基本的事項を身に付けることを目標とする。また、ホームページを作成できる技術を習得する。</p> <p>成績評価方法(総合) 出席、授業中の態度、レポート、ホームページの作成状況をもとに総合評価します。レポートは必ず締め切り期日までに提出してください。また、作成したホームページも必ず締め切り期日までに提出し、担当教員の評価を受けてください。レポート及びホームページの提出が無い場合は、単位が与えられません。また、提出が遅れると減点されます。</p> <p>教科書・参考書 教科書：必要に応じてプリントを配布します。/ 参考書：なし、</p> <p>メッセージ ホームページ作成には、ノートパソコンが必要です。レポートは必ず締め切り期日までに提出してください。また、作成したホームページも必ず締め切り期日までに提出し、担当教員の評価を受けてください。レポート及びホームページの提出が無い場合は、単位が与えられません。また、提出が遅れると減点されます。</p> <p>教官連絡先 毎週木曜日 10:20～11:50、山口大学教育学部技術教育 澤本章、TEL/FAX 083-933-5395、E-mail sawamoto@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	学教(教科(家))	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教官					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	学教(教科(英))	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教官	高橋俊章				
<p>授業概要 英語教育教育選修の学生として、これから専門教育を受ける上での基礎事項、心構えを、各分野の教官よりテーマごとに講義をする。</p> <p>授業一般目標 英語教育教育選修の学生として、これから専門教育を受ける上での基礎事項を確認し、心構えについてのオリエンテーションをおこなう。</p> <p>教官連絡先 bld10@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	学教(幼児)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教官	白石敏行・荘司泰弘・原昭徳				
<p>授業概要 幼児教育コースの概要を紹介し、履修指導を行う。</p> <p>授業一般目標 幼児教育コースのスタッフと新入生の親睦を図る。</p> <p>成績評価方法(総合) 出席、授業や合宿研修への参加、および授業内での保育参加レポートをもとに総合的に評価する。</p> <p>教科書・参考書 参考書：履修の手引き、シラバス</p> <p>メッセージ 学外研修ならびに保育参加は必ず参加すること。</p> <p>教官連絡先 白石敏行：t-shira@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5330 研究室 404 OH 随時 荘司泰弘：froebel@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5441 研究室 406 OH 火 12:00-15:00 原昭徳：kuwahara@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5441 研究室 402 OH 金 11:50-12:40</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	学教(障害)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教官	吉田一成				

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	学教(国理)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教官	石井由理、小粥良				

**授業概要** 国際理解教育コースの新入生セミナーは、( 1 )学部・講座・コース案内、( 2 )専門研究入門セミナーを中心として、教室教員 2 名がそれぞれのテーマで分担して実施する。

**授業一般目標** 1 ) 国際理解教育コースの学生たちが、当コースの位置づけ、目標、学習内容・研究方法・将来展望の概略を明確に理解し、当コースの学生としてふさわしい学究態度を早急に身につけ、意欲的な学生生活を歩みだせるように指導し、激励すること。( 2 ) 専門的な研究への基礎的な訓練( 研究所の読み方、情報の収集や整理法、発表・レポート・討議の仕方等)を実施して、将来の学習や研究の効果を上げること。( 3 ) 少人数教育による教師と学生の人間的な触れ合い。

**成績評価方法(総合)** 2 人の担当者が与える課題に対する評価と、授業内でのプレゼンテーションに対する評価を総合して出す。欠席は欠格条件としてのみ扱い、3 分の 2 以上の出席がなければ成績評価を出さないものとする。

**教官連絡先** 石井研究室、小粥研究室

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	実践(人間)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教官	佐々木司				

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	実践(心理)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教官	熊谷信順				
<p>授業概要 このセミナーの目的は、教育心理学コースの学生が、広い視野から心理学を学ぶことによって、心理学に対する関心の幅を広げることにある。さらに、大学生活を送る上で必要なことがらについても学ぶことを目的としている。具体的には(1)教育心理学コースのカリキュラムや4年間の学生生活を送るために必要な事柄について説明する。(2)将来、心理学に関連した職業につくことを希望する学生のために、認定心理士、学校心理士、臨床心理士などの資格取得および、心理学が生かせる職場についても、その概要を説明する。(3)「心理学と自分」というタイトルの元に、教育心理学教室の各教官の専門領域や研究内容について講義する。(4)夏季研修を実施する。</p> <p>授業一般目標 心理学についての理解の幅をひろげ、大学生活において必要な事項について学ぶことが、本セミナーの目標である。</p> <p>成績評価方法(総合) 出席を重視する。講義のうち7回はレポートを翌週までに提出する。さらに、夏季研修への参加により評価する。出席し講義へも積極的に参加すること。この夏季研修への出席が単位取得には必要である。</p> <p>教科書・参考書 教科書：指定しない。必要に応じてプリントを配布する。/ 参考書：適宜紹介する。</p> <p>メッセージ 積極的な講義への参加を期待します。</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	情報(表現)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教官	古賀和利				

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	情報(数情)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教官	糸長雅弘, 渡邊正, 野村厚志, 飯寄信保, 北本卓也, 鷹岡亮				

**授業概要** 高校生と異なり, 大学生は一人前の大人として扱われる。校則のような細かな制約がない代わりに, 自己責任が問われる。履修の仕方, 本人に任される。単なる情報の受け手ではなく, 発信者となることが求められる。本授業は, このような違いを認識させ, 高校生から大学生への円滑な移行を手助けする。

**授業一般目標** 大学生としての責任と, 自分が何を学び, 何を指すかを自覚し, 何をすることも必要な自己表現力を身に付ける。

**成績評価方法(総合)** 出席率, 授業外レポート, 公開したホームページの内容を総合的に評価する。出席率 80% 未満の場合は, 不合格になる。

**メッセージ** 大学生活のルールを身に付けるということから, 正当な理由なしに欠席しないこと。後半のホームページ作成では, ノートパソコン必携。

**教官連絡先** E-mail: itonaga@yamaguchi-u.ac.jp, 電話: 083-933-5350, 研究室: 教育学部 224 号室, オフィスアワー: 水曜 10:20-11:50

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	健康(スポ健)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教官	森田俊介、塩田正俊、杉浦崇夫、丹信介、曾根涼子				
<p><b>授業概要</b> この授業は以下の2部門から構成されている。第1部 今後の専門授業の学習効果を高めるために、(1)図書館の利用方法、文献検索の方法、(2)レポートの書き方、(3)コンピュータを用いた統計処理の方法、などを教授する。また(4)運動時の生体反応の実習を通して、実際にレポートの作成を行い、添削・指導を行う。第2部 健康づくりや生きがいづくりを実践している学外スポーツ・健康づくり施設を見学することで、身体運動が健康づくりに果たす役割、各施設における地域住民との関わり、などを解説する。</p> <p><b>授業一般目標</b> この授業は以下の2部門から構成されている。第1部 今後の専門授業の学習効果を高めるために、(1)図書館の利用方法、文献検索の方法、(2)レポートの書き方、(3)コンピュータを用いた統計処理の方法、などを学習する。また(4)運動時の生体反応の実習を通して、実際にレポートの作成を行う。第2部 健康づくりや生きがいづくりを実践している学外スポーツ・健康づくり施設を見学することで、身体運動が健康づくりに果たす役割、各施設における地域住民との関わり、などを体験・学習する。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 原則として全出席であること。レポート(70%)と学習意欲(30%)より総合的に判断する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 参考書：必要に応じて紹介する。</p> <p><b>教官連絡先</b> オフィスアワーは教官によって異なるので各教官に問い合わせること。</p>					

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	健康(生活)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教官	山田次郎、五島淑子、山本善積 星野裕之				
<p><b>授業概要</b> 生活健康科学コースの履修プログラムや学生生活の注意事項等を説明するとともに、履修する各分野の入門について述べる。次いで受講生によるグループ演習とその成果のプレゼンを行う。</p> <p><b>授業一般目標</b> 本コースで履修する諸分野の入門講義のポイントを述べるができる。また、学習への関心を広げて、仲間と協力して調査を行い、結果をまとめることができる。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 成績は、入門講義等に関するレポート、グループ学習の成果発表、出席状況を総合的にみて評価する。</p> <p><b>メッセージ</b> この授業は、健康科学入門として、受講生の皆さんと教員とでつくる授業です。積極的に参加して、健康科学を学ぶ意義や楽しさをつかんで下さい。</p> <p><b>教官連絡先</b> 授業に関する問い合わせは山田まで(2006年度の担当) E-mail:jyamada@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	総文(国文)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教官	来島浩, 岡村康夫, MIKHOVADIMITRINAJORDANOVA, 北西功一				
<p>授業概要 大学生として必要な能力に、レポート作成能力とプレゼンテーション能力がある。この授業ではこの二つの能力の基礎的な部分を身につける。</p> <p>授業一般目標 大学生として適切なレベルのレポートを書く能力を身につける。プレゼンテーションの初歩的な能力を身につける。</p> <p>成績評価方法(総合) 各自の作成したレポートと、プレゼンテーションによって評価する。特別な理由なく2回以上欠席したものは失格とする。</p> <p>教官連絡先 kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー 随時</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	新入生セミナー	区分	演習	開設期	前期
対象学生	総文(文芸)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教官	増田 勉他 5 名				
<p>授業概要 文芸・芸能教室新入生を対象に、当教室で学ぶそれぞれの学問領域についての概説的な講義を行います。</p> <p>授業一般目標 文芸・芸能教室に所属する教官が順番に講義を行います。詳細なスケジュールは開講時に配布します。</p> <p>成績評価方法(総合) 出席回数およびレポートなどで評価を行なう。</p> <p>教科書・参考書 教科書：教科書は使用しません。必要に応じてプリントを配布します。</p> <p>メッセージ 全回数出席を必須とします。成績評価は主に出席回数によって行ないます。出席不足により単位がとれなかった場合、次年度再び全授業に出席しなければなりません。</p> <p>教官連絡先 各教員がオリエンテーション時に伝達します。</p>					

開設科目	基礎セミナー(経済)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	塚田広人				
<p>授業概要 内容は二つあります。 I 3冊ほどの新書版の本を読みます。(これまでの例) 1、『シンプル人生の経済設計』森永卓郎、中公新書、2002年 2、『パパラギ』立風書房、1981年 3、『社会認識の歩み』内田義彦、岩波新書、1971年 4、『豊かさとは何か』暉峻淑子、岩波新書、1989年 5、『豊かさの条件』暉峻淑子、岩波新書、2003年 読み方は順番に何ページかずつ読んできて、その内容をみなに説明するというものです。そのために、いくつかの班に分かれて、割り当てられたところを班で読み、感想などを出し合い、発表内容をまとめてきます。 II 時事問題を考えます。時事問題とは毎日のニュースのことです。新聞が主な材料になります。ゼミナールの授業の中で、15分から20分ぐらいをこのための時間にあてます。毎回二人が新聞記事から紹介をし、それについての意見交換をします。</p> <p>授業一般目標 Iの目標 社会をどう考えたらいいかを考える 今の日本経済の状況について考えます。(「経済って何だろう?」) 現在の日本社会・現代社会の進む方向について考えます。(「社会の進歩とは何だろう?」) 社会を理解する方法について考えます。(「社会ってどうしたら理解できるんだろう?」) IIの目標 今の社会でどんな問題が起こっているかを知る。大学入学までは、広い知識を身に付けました。こんどはその使い方を考えるときです。そのために、今私たちの周りでは何が問題なのかを知りましょう。15週で30のトピックに触れることができます。</p> <p>成績評価方法(総合) 出席、報告、議論参加を総合します。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 授業開始時に購入方法を指示します。</p> <p>メッセージ 入学おめでとう! これからの大学生活の4年間、楽しみながら、じっくりと考えてください。人間を、社会を、人生を。</p> <p>教官連絡先 933 - 5558 ht@yamaguchi-u.ac.jp A棟 424号室 水曜日 1時半-3時 (在室時はいつでも可) 参考ページ <a href="http://ds0.cc.yamaguchi-u.ac.jp/ht/mypage2.htm">http://ds0.cc.yamaguchi-u.ac.jp/ht/mypage2.htm</a></p>					

開設科目	基礎セミナー(経済)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	馬田哲次				
<p>授業概要 全世界で1500万部以上売れている「7つの習慣」という本を読み、自分自身をよく知り、自分が達成したい目標・目的を明確にし、それを実現するために日々実践できるようにします。それ以外に3冊の本を読み、レポートを提出します。</p> <p>授業一般目標 1.自分が大切と思う価値観を明確にする。 2.自分の目標・目的を明確にする。 3.それらを達成するように日々実践する。 4.読書をする習慣を身につける。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 7つの習慣, スティーブン・R・コヴィー, キング・ベアー出版, 1996年 / 参考書: 第8の習慣, スティーブン・R・コヴィー, キング・ベアー出版, 2005年</p> <p>教官連絡先 umada@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	基礎セミナー(経済)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	山田正雄				
<p>授業概要 大学に入ってから、自分の考えを発表し、相手に伝えるということが、とても大切になってきます。この授業では、発表をする際の道具である PowerPoint の使い方をマスターし、それを使って発表の練習をしていきます。</p> <p>授業一般目標 PowerPoint をマスターし、プレゼンテーションの技術を身につける。</p> <p>成績評価方法(総合) 発表、参加姿勢などにより評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：できる PowerPoint 2003, プロジェクト A &amp; できるシリーズ編集部, インプレス, 2004 年 メッセージ PowerPoint がインストールされたノートパソコンを用意してください。</p>					

開設科目	基礎セミナー(経済)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	古川澄明				
<p>授業概要 授業の概要：経営とは、何か、経営学とは、何であろうか。この授業では、企業の経営に関わる種々の問題を取り上げます。企業には、多くの人々が組織を形成してその構成員として働き、給与を得ています。その企業は、家族的な小さな企業から、世界各国において事業活動を展開する大企業まであります。事業分野も、金融業から、家電、PC、食品、水産、鉄鋼、商業など、多岐にわたります。国の経済・産業を支えるとともに、自らの存続のために、国内はもとより、国際市場で、日夜、存亡をかけた競争をしています。皆さんは、最近、ニュースで「ライブドア」や、その他の企業問題を知っていると思います。そこには、どのような経営問題があるのでしょうか。授業では、そうした企業の経営に関する基礎知識を学ぶために、「経営理論」、「経営戦略」、「組織」、「イノベーション」、「日本の経営」、「年功システム」、「女性の勤労問題」など、多様な問題を取り上げます。</p> <p>授業一般目標 授業の目標 経営学の基礎知識を学びます。グループ・ディスカッション方式で、賑やかに、楽しく学ぶ方式を採ります。将来、ビジネス社会、あるいは公務員として、活躍するための基礎的な経営学知識を習得できるように。とくに「公認会計士」、「税理士」、「中小企業診断士」など、ビジネスに関わる国家資格を取得したい方に役立つでしょう。そうした資格取得者は、社会的にも、企業に入っても、高い評価を得ています。本授業では、「中小企業診断士」受験者向けのテキストを利用します。そうした資格を取得したいと希望する学生に役立つでしょう。多くの資格取得者が学生時代に資格を得ています。もっとも多くの取得者はビジネスマンです。この資格は、会社で高い評価が得られるからでしょう。成果は自分の努力量に応じて得られます。単なる関心で受講を希望する方は遠慮して頂きたい。真剣に資格でも取ってやろうと意欲と実行力をもつ学生に受講して頂きたい。単なる腰掛的受講者、席を暖めるだけの受講者には、厳しい試練となるでしょう。逆に、勉学に燃える受講者には、その燃え上がる意欲に油が注がれるものとなるでしょう。自分の将来を自覚し、大学卒業後に有力企業に入って活躍したいという夢をもって、大学時代にそのための「自分への投資」をしたいと考える方、ご参加ください。</p> <p>成績評価方法(総合) 3人チームを作り、毎回、1チームがテキストをまとめて報告し、討論をする。報告、討論参加回数、出欠がすべて点数で、毎回、評価され、当該授業日の評価点となる。成績は、毎回の評価点の平均点。試験は、実施しない。</p> <p>教科書・参考書 教科書：『2006年度版 中小企業診断士 スピードテキスト 1 企業経営理論』コード番号：1658、定価 2,310 円(本体価格+税) / 参考書：授業開始後に指示します。</p> <p>メッセージ 楽しく、自分を育てる意識で学ぼう。</p> <p>教官連絡先 事前アポで、常に、面談可能。</p>					

開設科目	基礎セミナー(経済)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	柳田卓爾				
<p>授業概要 企業経営に関する諸問題を、理論的に把握するための枠組みを検討する。具体的には、下記のようなテーマを想定している。なぜ牛丼の価格を 280 円に下げたのか 伊勢丹のカードサービスのメリット 後発組の大正製薬、佐藤製薬の価格戦略 松下、資生堂、トヨタ、キリンの流通チャネル戦略 ローソンとセブン-イレブンの違い なぜソニーはハリウッドの会社を買収したのか 保険業界から生まれた 2 つのコンセプト なぜ地方百貨店の店構えは大きいのか 百貨店における激しい買収合戦 花王は「棚のコントロール」を目指す 1 泊朝食付きで 4900 円の箱根の旅館 ドトールコーヒーとスターバックス 等々</p> <p>授業一般目標 企業経営についての諸問題を知り、理論的に捉えるための枠組みを理解する。</p> <p>成績評価方法(総合) 担当箇所の報告(プレゼンテーション) 30% クラスへの貢献度 20% 期末試験 50% 出席は欠格条件(80%以上の出席が、期末試験の受験資格である)</p> <p>教科書・参考書 教科書: ビジネス・エコノミクス, 伊藤元重, 日本経済新聞社, 2004 年 / 参考書: ゼミ中に、適宜、紹介する。</p> <p>メッセージ 初回に、セミナーの進め方等について、詳しく説明します。報告の担当箇所も決めるので、必ず出席して下さい。</p>					

開設科目	基礎セミナー(経済)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	李 海峰				
<p>授業概要 国際経済についての基礎を学習する。いまの世界経済システムや経済状況がどのようになっているのか、グローバル経済、情報とテクノロジー、戦争と民族、環境破壊と再生、開発と人間などのテーマについて、「世界地図」で全体的に、体系的に勉強する。</p> <p>授業一般目標 世界経済システムや経済状況の変化についての分析、演習を通して、4 年間の大学での勉強方法などについて習得させる。</p> <p>成績評価方法(総合) 出席が 50% , 授業中の発表が 50% 。</p> <p>教科書・参考書 参考書: 第一回目の講義の際に指示する</p> <p>メッセージ 「千里の道は一步から」「大志を抱きましょう」</p> <p>教官連絡先 研究室</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	基礎セミナー(経済)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時間	水曜日 1・2 時限
担当教官	濱島清史				
<p><b>授業概要</b> 労働経済論、社会政策論の内容を行なう。具体的には、若年労働(フリーター、ニート)、女性労働(男女の仕事と家庭の両立、パート労働等)、少子高齢化、年金・介護などのテーマから、グループを作ってもらって、レポート作成、プレゼンテーション(パワーポイントでの発表)、ディスカッション(円陣を組んで議論)、ディベート(賛成反対に分かれて討論)などを行っていきたい。</p> <p><b>授業一般目標</b> 将来、社会に出てから有益な知識を得て、コミュニケーション能力を向上させること。将来のキャリアビジョンを描けるように、その前に充実した大学生活を送るために、何をなすべきか、獲得していくか、目標を決めて実現していく一助となるセミナーとしたい。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> レポート、グループ発表で評価。ディスカッション、ディベートなども評価に入る。ただし、結局は期末レポートの比重が最も大きくなるだろう。評価基準は、開講後、改めて明瞭に示す。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：仕事の経済学, 小池和男, 東洋経済新報社, 2005 年 / 参考書：随時、指示する。</p> <p><b>メッセージ</b> 知識はどこまでも伸びやかで優しいものです。</p> <p><b>教官連絡先</b> hamakiyo@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	基礎セミナー(経済)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時間	水曜日 1・2 時限
担当教官	中田範夫				
<p><b>授業概要</b> 企業会計全般について勉強することを目標とする。会計には家庭で使用されている家計簿のようなものもあれば営利企業で利用されている会計もあれば、また税務申告用の会計もあります。このようにすべての組織では会計が利用されています。具体的には、簿記、財務会計、管理会計、原価計算、税務会計、監査などの基礎を勉強します。</p> <p><b>授業一般目標</b> 会計が社会の中でどのような役割を果たしているかを理解することが目標です。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 出席・報告および授業への積極的参加度。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：まなびの入門会計学, 中田信正、徐龍達、小林哲夫, 中央経済社, 2002 年</p> <p><b>教官連絡先</b> 後に指示する。</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	基礎セミナー(経済)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教官	柳澤旭				
<p>授業概要 日常生活における法の役割について、テレビ、新聞記事などを素材にして検討する。</p> <p>授業一般目標 新聞記事等の法律問題が理解できるようになる。</p> <p>成績評価方法(総合) 成績評価は基本的に、毎週の報告・討論に基づいて行う。</p> <p>教官連絡先 電話：083-933-5552 E-mail：noboru@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	基礎セミナー(経済)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	仲間 瑞樹				
<p>授業概要 勝ち組と負け組、下流社会、ニートやフリーターなどといったように、この数年、日本社会を取り巻く問題は、暗い話題ばかりです。しかし国・大人・他人が悪いなどと嘆いてばかりでは、問題解決になりません。そこでこの基礎セミナーでは、日本社会の現状を読みやすく分析した本をネタに、日本社会の抱える問題点、問題解決の糸口をみんな考えてみたいと思います。</p> <p>授業一般目標 人前で抵抗なく発表できる。人前で自身・グループの考えを話せること。資料作成・パワーポイントを利用した発表に慣れること。</p> <p>成績評価方法(総合) 発表、質問、資料作成、パワーポイントの利用法、レポート課題を踏まえて評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：下流社会, 三浦 展, 光文社, 2005 年</p> <p>メッセージ 内容はともかく、いろいろ話したい、最近の日本社会の様子に興味がある、グループ作業を楽しみたい、じっくり物事を考えたい、いろんなタイプの1年生の参加をお待ちしています。</p> <p>教官連絡先 mnnakama@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	基礎セミナー(経済)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	長谷川光圀				
<p>授業概要 本セミナーでは、「経営学をやさしく学ぶ」をテキストに輪読しながら、身近な題材を用いて経営的な問題を取上げます。</p> <p>授業一般目標 本セミナーを経営学入門のまたその入門と位置づけます。体系的・抽象的な学習ではなく、個別事例から学ぶことを目指します。</p> <p>成績評価方法(総合) セミナーの出席度を重視します。また発言・質問を評価します。</p> <p>教科書・参考書 教科書：経営学をやさしく学ぶ, 山大経済学部経営学科編, 中央経済社, 2005年; 教材等はその都度配布します。/ 参考書：参考資料等はその都度配布します。</p> <p>メッセージ 1. 大学生活は最初が肝心。本セミナー半期分を残りの3年半にめいっぱい役立ててやる! という積極性を忘れずに。2. 欠席が避けられないときは事前に直接連絡することをルールとします。</p> <p>教官連絡先 研究室:経済学部A棟5542、オフィスアワー水曜日 10:20 11:50。</p>					

開設科目	基礎セミナー(経済)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	豊 嘉哲				
<p>授業概要 ヨーロッパ経済に関するテキストを輪読する。テキスト内容を発表した上で、それに対する自分の意見を述べてもらう。</p> <p>授業一般目標 ヨーロッパ経済に関する基礎知識を身につける。</p> <p>成績評価方法(総合) 発表内容で評価する。欠席は欠格条件。</p> <p>教科書・参考書 教科書：第1回授業でテキストを指示する。</p> <p>メッセージ 自分の意見を積極的に述べてください。</p> <p>教官連絡先 yyutaka@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	基礎セミナー(経済)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	正宗 聡				
<p>授業概要 「映像」の諸問題を材料にして、自ら問題を発掘し研究、まとめることについて練習する。経済学には直接関係はしないものの、「映像」が現代社会に占める大きさを考えると、有意義ではないでしょうか。</p> <p>授業一般目標 「映像」についての基本問題を知ると同時に、問題を自ら見つけていく経験をもつこと。</p> <p>成績評価方法(総合) 授業への参加、報告、質疑応答及びレポートによる。</p> <p>教科書・参考書 教科書：講義の中で適宜紹介する。</p> <p>メッセージ 映画あるいは写真に関心があり、積極的に参加できる者を対象とする。</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	基礎セミナー(経済)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	安里全勝				
<p>授業概要 新聞、テレビ、ラジオから日々種々の事件が報道されています。それらの事件を知る度に痛ましく思いますが、犯罪はどうして無くならないのでしょうか。全く残念でなりません。ところで、犯罪は法律上その定義があり、また成立要件があります。一定の犯罪行為に対して一定の刑罰が科せられますが、法律に犯罪と刑罰が規定されているからこそ一定の犯罪行為を処罰することができることとなります。犯罪と刑罰を規定する法律が刑法です。この授業では、刑法とはどういう法律であるかをみながら、犯罪と刑罰について考えていきたいと思えます。</p> <p>授業一般目標 犯罪と刑罰について勉強していくわけですが、使用テキストに従い授業を進めていきます。また、時には新聞等に出てくる記事をも見ながら授業を進めます。具体的事案を採り上げて、受講生が関心の持てる授業にしていきたいと思っております。</p> <p>成績評価方法(総合) 出席と授業態度、レポートによって評価します。</p> <p>教科書・参考書 教科書：刑法総論講義案, 安里全勝著, 成文堂, 2005年; 上記著書をテキストとして使用します。</p> <p>教官連絡先 極力月・火に研究室にきて下さい。</p>					

開設科目	基礎セミナー(経済)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	中村美紀子				
<p><b>授業概要</b> 本セミナーでは、経済法学科志望フレッシュマンを対象に、身近な題材を用いて法的な問題を扱います。提示された題材について、担当者による報告にもとづき質疑応答を行います。具体的な題材としては判例、時事問題等にとどまらず、視聴覚教材等も使い、ときには現場の臨場感にも触れる機会をもちたいと考えています。</p> <p><b>授業一般目標</b> 授業内容の目標としては、プレゼンテーションやディベートの練習を行いつつ、法的な観点に慣れ親しむこと掲げます。他方、大学生活は最初が肝心、それを円滑に進めていくマナーを修得するため、本セミナーでは出欠管理等を厳格にします。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> (1) 割り当て箇所の報告をどのように工夫して行ったか、(2) レジユメの作成についての工夫および提出期限の遵守、(3) 討論への参加の度合い、について自主性(各 15%×3)と発展性の観点(各 15%×3)から評価し、そこにゼミへの貢献度(10%)を加味します。遅刻は3回で1回欠席とみなし、出席70%以上が単位認定要件です。</p> <p><b>メッセージ</b> (1) 本セミナー半期分を残りの3年半にめいっぱい役立ててやる!という積極性を忘れずに。(2) ゼミは無欠席・無遅刻が当たり前。欠席が避けられない場合は事前に連絡することをルールとします。</p> <p><b>教官連絡先</b> 研究室C棟209, オフィスアワー火曜日 10:20 11:50。</p>					

開設科目	基礎セミナー(経済)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	陳禮俊				
<p><b>授業概要</b> 今日では、人類の生産力(対自然支配力)はかつてなく巨大な水準に到達している。そのため、自然環境の状態は、自然生態系によって決まるというよりは、人間活動のあり方如何によって大きく規定されるという歴史的段階に突入している。それゆえ、人間活動の設計を一步誤るならば、人間活動の基盤そのものを崩壊させてしまうような環境破壊を招く危険性もかつてなく飛躍的に高まっているといわなければならない。こうした現代の環境破壊をめぐる現実とその危険性の一層の高まりは、実は現代の経済学に対する大きな挑戦でもある。ここに新しい学問としての「環境経済学」が誕生せざるを得ない強い現実的要請がある。</p> <p><b>授業一般目標</b> 本演習は、環境経済学の分野において、それに関わる文献を輪読し、ゼミ参加者における理解、分析能力を高め、行うべき政策に関して自ら評価できるような水準まで、必要な知識を身に付けることを目標にしている。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 成績評価は基本的に、出席(40%)、課題レポート(30%)と報告(30%)で行う。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: 『環境経済学』、植田和弘、岩波書店、1996年; 『アジア環境白書 1997-1998』、日本環境会議「アジア環境白書編集委員会」、東洋経済新報社、2000年</p>					

開設科目	基礎セミナー(経済)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	篠原淳				
<p><b>授業概要</b> 入学時には、卒業して多くの学生が就職する企業についてどのような活動を行っているかなどほとんどイメージがわからないと思われる。また経済・経営といったこれから学んでいく学問についてもどのように勉強していいのかわからないか、また関心を持てるのか不安な状況ではないかと思う。こうした不安を解消するために基礎セミナーで皆さんの身近に起こっている事柄に焦点をあてて学問がそこにどのように生かされているのかを学んでもらいたい。</p> <p><b>授業一般目標</b> ある事柄について何が問題なのか、そしてそれを解決するにはどうしたらいいのかといった考え方を身に付けていきましょう。いろいろな文献や資料の調べ方なども身に付けて大学で大いに学べるようになりましょう。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> レポート、発表、出席、討論への参加等を総合的に評価します。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：経済・経営を楽しむ35のストーリー、学習院大学経済学部、東洋経済新報社、2000年；経営学をやさしく学ぶ、山口大学経済学部経営学科、中央経済社、2005年；その他については、適宜指示します。</p> <p><b>メッセージ</b> 大学では楽しんで学びましょう</p> <p><b>教官連絡先</b> a.shino@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	基礎セミナー(理)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	数理	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	吉村浩				
<p><b>授業概要</b> 高校での数学とこれから皆さんが学ぶ大学での数学の大きな違いは、扱う数学の対象がより抽象化され、その数学的内容が論理的により厳密に表現されることです。その基礎となるのが「集合」と「論理」です。「集合」と「論理」は、大学で数学を学んでいくためには、どうしても必要となるものなのです。この授業では、「論理」と「集合」の基本的事項を学びます。</p> <p><b>授業一般目標</b> この授業では、セミナーを取り入れた授業形式で、「論理」と「集合」の基本的事項を身につけることを目標とします。また、最初の授業では、数理科学科の教育内容、カリキュラム、授業形態、単位の取り方、時間割、数理科学科の授業支援等についての解説も行います。各自、時間割を組むための参考にしてください。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 中間・期末2回の筆記試験(60%)と演習・レポート(40%)により判定します。なお、出席が所定の回数に満たないものは欠格とします。詳細は初回の授業で説明します。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 参考書：プリントを配布する。</p> <p><b>メッセージ</b> 毎回授業に出て、手を動かし演習・レポートに取り組むことが肝要です。</p> <p><b>教官連絡先</b> 理学部143号室</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	基礎セミナー(理)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	物情	単位	2 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限
担当教官	各担当教員				

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	基礎セミナー(理)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	物情	単位	2 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限
担当教官	白石清				
<p>授業概要 日本語による基本的な作文法を学習する。論理的な筋道で物事を説明するための基本作文技術を習得する。与えられたテーマに対して、自分の意見をまとめて作文する。また、与えられたテーマに関してのディスカッションを行い、グループ内の他の人の異なる意見を知るとともに、相互の理解を深める。</p> <p>授業一般目標 ・自分の考えていることを作文することによって、日本語の読み書き能力の向上をはかる。 ・ディスカッションにより、自分の意見を話す能力、特に論理的な筋道で説明する能力を身につける。 ・他人の意見を聞き、理解し、自分の意見と比較分析する能力を身につける。</p> <p>成績評価方法(総合) レポートで評価する。</p> <p>教科書・参考書 参考書：論文・レポートのまとめ方, 古郡延治, ちくま新書; 例題で学ぶ原稿の書き方, 八木和久, 米田出版</p> <p>メッセージ 出席して積極的に作文等に取り組むこと。</p> <p>教官連絡先 野崎浩二(理学部 236 室) nozaki@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：随時 川村正樹(総合研究棟 408 号室) オフィスアワー：随時</p>					

開設科目	基礎セミナー (理)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	生化	単位	2 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限
担当教官	祐村恵彦, 岩尾康宏, 岩楯好昭, 松村澄子, 渡辺雅夫, 藤島政博, 堀学, 宮川勇, 上野秀一, 山中明, 室伏擴				
<p><b>授業概要</b> 近年の生命科学の急速な進展により、生物・化学を学ぶために必要な知識量も著しく増大している。常にこれら分野の発展に伴う新しい知識の集積に注意を払いつつ学ぶ必要があるが、大学の授業にその全てを盛り込むことは不可能である。言い換えれば、大学において生物・化学の基礎を学ぶためには、自主的な選択による情報や資料の収集・解析能力、文章表現力や他の人と議論する能力が必要である。</p> <p><b>授業一般目標</b> この授業は、最近の生物・化学の先端的研究に触れると同時に、大学での自主的な学習の進め方について理解を深めることを目的としている。授業を通して、各自が科学する面白さを理解し、自主的に学習できるようになることを目指す。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 宿題/授業外レポート = 80 100 %未満 出席 = 20 %未満 出席回数 80 %以上を単位取得の必要条件とする。</p> <p><b>メッセージ</b> 最初のオリエンテーションにおいて講義計画・到達目標・成績評価について説明する。教官の講義内容、担当日を変更することがある。</p> <p><b>教官連絡先</b> 祐村恵彦 yumura@yamaguchi-u.ac.jp 岩尾康宏 iwao@yamaguchi-u.ac.jp 松村澄子 batmatsu@yamaguchi-u.ac.jp 渡辺雅夫 masao.w@yamaguchi-u.ac.jp 藤島政博 fujishim@yamaguchi-u.ac.jp 堀学 mhori@yamaguchi-u.ac.jp 宮川勇 miyakawa@yamaguchi-u.ac.jp 上野秀一 suenoscb@yamaguchi-u.ac.jp 山中明 yamanaka@yamaguchi-u.ac.jp 室伏擴 murofusi@yamaguchi-u.ac.jp 岩楯好昭 iwadate@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	基礎セミナー (理)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	生化	単位	2 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限
担当教官	石黒勝也, 井上慎一, 上野秀一, 佐々木義明, 杉原美一, 谷誠治, 原田由美子, 藤井寛之, 藤島政博, 本多謙介, 村上柳太郎, 山崎鈴子, 祐村恵彦, 渡辺雅夫				
<p><b>授業概要</b> 生物・化学科(生物学コース・化学コース)の教育内容と研究内容を分かり易く解説するとともに、高校での教育から大学での教育へ早期に転換できるように、幅広く、かつ多くの学生が興味のもてる内容のテーマを設定し、それについて詳しく解説する。先端的研究に触れると同時に、大学での自主的な学習の進め方について理解を深め、問題提起や討論を行いながら、自主的な選択による情報や資料の収集・解析能力、文章表現力や他の人と議論する能力などを身につける。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) 生物・化学科(生物学コース・化学コース)の教育内容と研究を理解する。(2) 高校教育と大学での教育の違いを理解する。(3) 科学する面白さを理解し、自分で積極的に学問に取り組む姿勢を身に付ける。(4) 自分の頭で考え、自主的に学習し、問題提起や議論ができるようにする。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 授業内での小テスト・演習や授業外の宿題・レポート、授業態度、出席から総合的に評価する。</p> <p><b>メッセージ</b> 高校教育から大学の教育に早く慣れ、自分で考え自分の判断で行動できるようになってください。</p>					

開設科目	基礎セミナー(理)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	地球	単位	2 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限
担当教官	教授/助教授				
<p>授業概要 地球圏システム科学科の教育内容と第一線の研究内容をわかり易く解説するとともに、高校での教育から大学での教育へ早期に転換できるように、幅広く、かつ多くの学生が興味をもてる内容のテーマを設定し、それについて詳しく解説し、問題提起や議論を活発に行う。</p> <p>授業一般目標 (1)化学・地球科学(化学コース、地球科学コース)の教育内容と第一線で研究を理解する。(2)高校教育と大学での教育の違いを理解する。(3)自分で積極的に学問に取り組む姿勢を見につける。(4)自分の頭で考え、問題提起や議論ができるようにする。</p> <p>成績評価方法(総合) 各教官から提示された課題による学習態度とレポートを対象として、以下の観点・割合で評価する。</p> <p>メッセージ 高校教育から大学の教育に早く慣れ、自分で考え自分の判断で行動できるようになってください。</p> <p>教官連絡先 学科長</p>					

開設科目	医学入門Ⅰ	区分	演習	開設期	前期
対象学生	医学	単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	川崎勝 他 15 名				
<p>授業概要 医学科全 85 名の入学生は担任教官が所属する基盤系講座に所属し、少人数(5, 6 名)で日本語論述を主体としたセミナーを行う。</p> <p>授業一般目標 今後、医学とコミュニケーション技法を学ぶ上で必須のリテラシー能力を養うために、日本語論述と小グループでのディスカッションを中心に演習を行うことを通じて高度な日本語運用能力を修得する。</p> <p>成績評価方法(総合) 真にやむを得ない事情がある場合を例外として、原則として全回出席していることを成績評価の前提とし、各自の演習への積極的な参加態度と小レポートの内容を中心に評価する。</p> <p>教科書・参考書 参考書: 実践・言語技術入門, 言語技術の会, 朝日新聞社; 日本語の作文技術, 木下是雄, 中央公論新社, 1981 年</p> <p>メッセージ 医学入門Ⅰの内容は、前期毎週火曜夕方に設けられた「フレックスタイム」の時間帯に補足されます。</p> <p>教官連絡先 各自、オリエンテーション時に担任教官に確認すること。</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	基礎セミナー(保健)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	看護	単位	2 単位	曜時間	火曜日 7・8 時限
担当教官	塚原正人				
<p>授業概要 人間と医療との関わり、医療の現状、医療の質の変遷と展望、及び医療人としてのあり方を考える</p> <p>授業一般目標 現代医療の抱えるさまざまな問題について、看護師を目指す者として、自ら問い、考える 基盤を築くことを目標とする。</p> <p>成績評価方法(総合) レポート、試験、出席率などによる(単位認定の最低条件:総授業数の2/3以上の出席およびレポート提出)</p> <p>教科書・参考書 教科書: 標準看護学講座1 医療学総論-ケアを科学する-, 広井良典 他, 金原出版, 2000年 / 参考書: 講義の中で紹介</p> <p>メッセージ 知識の習得ではなく、自分の問題として考えて欲しい。日常の中の医療問題に関心を向けて欲しい。</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	基礎セミナー(保健)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	検査	単位	2 単位	曜時間	火曜日 7・8 時限
担当教官	山田治, 服部幸夫				
<p>授業概要 21世紀になり、日本は今までにない長寿社会を迎えている。そのため現在の医学は、医の倫理、患者の権利、インフォームドコンセント(説明と同意)、病名告知に始まり、遺伝子治療、脳死、臓器移植、終末期医療まで幅広い領域で多くの問題を抱えている。本講義では、これらのテーマを含めながら、医学の歴史、現代医学の構成、医学検査の役割、現代医学の問題点などを学び、臨床検査技師として他の医療従事者とのチーム医療を行うために必要となる、知識とモラルを学ぶことを目的とする。さらに、自分の考えを人に伝えるための文章表現法、発表方法を紹介する。</p> <p>授業一般目標 日本の医療システムの歴史と現状を知り、その問題点を指摘できる。人のライフスタイルや環境が健康におよぼす影響をの部、その予防・啓発を行うことができる。医療従事者の役割を知りチームワークに必要な事項と問題点を指摘できる。与えられた課題に対して、限られた時間内に正確な言葉で解説、論述および自分の考えを文章で表すことを修得する。</p> <p>成績評価方法(総合) 【全体】毎回セミナーとタイトルを提示しグループディスカッションを行いますので、その時の参加態度を評価します。また、一部は期末試験で評価します。【観点別】知識の理解度および思考の判断力は発表内容と期末試験で評価します。関心・態度、表現力は発表内容から評価します。</p> <p>教科書・参考書 参考書: 理科系の作文技術, 木下是雄, 中央公論新書 624, 2000年; 学生のための医療概論, 千代豪 昭黒田研二, 医学書院, 1999年</p> <p>メッセージ 疑問に思ったら、自分の意見を述べながら質問して下さい。</p> <p>教官連絡先 山田治: E-mail は osamuymd@yamaguchi-u.ac.jp、電話は 0836-22-2803。服部幸夫: E-mail は hattori-ygc@umin.ac.jp、電話は 0836-22-2807</p>					

開設科目	基礎セミナー(工)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	機械	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	小嶋直哉、和田憲造、田中佐、小河原加久治、斎藤俊、合田公一				
<p><b>授業概要</b> 授業の概要：本授業は機械工学の導入教育の一環として位置付けられているもので、機械工学における基礎、心構えなどを教える。学生のやる気を喚起し、工学を学ぶに際しての動機付けに主眼を置く。各個人及び、グループごとにテーマを選定させ、調査活動を行う。調査計画書を作成させ、文章力、表現力、まとめる能力を身につけさせる。パワーポイント等によるプレゼンテーション等の手法及び討論に積極的に参加する姿勢を身につける。機械工学を機械エネルギー、機械システム、設計生産の3大分野に分けて解説し、機械工学を構成する学問分野を理解する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 機械工学の入門科目である「基礎セミナー」において、学問としての機械工学を認識させることを目的とする。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 成績は授業への取り組みの姿勢、課題レポート、報告会・発表会における発表及び質疑応答、調査報告書(調査計画書含む)の合計で評価する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する</p> <p><b>メッセージ</b> 自ら興味を持って積極的に取り組んでください</p> <p><b>教官連絡先</b> 工学部機械・社建棟 5 階 ・月曜日午後 Tel:0836-85-9111 e-mail:n-kojima@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	基礎セミナー(工)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	応化	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	上村明男、鬼村謙二郎、森田昌行、山本修一、堤 宏守				
<p><b>授業概要</b> さまざまな方式で大学における学習の意味と目的を理解するためのセミナーです。オリエンテーションとしては、どのように講義・演習を履修して卒業していくのか、あるいは、学科の目標目的さらには、技術者として社会にどのように貢献していくかなどについても学びます。与えられた課題について調査してレポートを作成し、プレゼンテーションをしますが、そのための外部施設見学も実施します。工学部の研究室や研究施設も見学します。また、少人数で工学基礎についての学習もします。</p> <p><b>授業一般目標</b> 工学部応用化学工学科の学習目的・目標を理解する。技術者として社会にどのように貢献していくかを理解する。与えられた課題について調査してプレゼンテーションとレポートを作成しますが、外部施設も見学します。工学部の研究室や研究施設も見学します。また、少人数で工学基礎についての学習もします。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：教科書は、特に使用しないが、必要に応じてプリント配布などを行う。また、講義時間内に、指示する場合もある。</p> <p><b>メッセージ</b> 毎週、工学部へバスで来てもらいます。規則正しい生活を身につける良い機会と思います。遅刻しないように、欠席しないように頑張ってください。なお、遅れた場合は、事故などの無いように気をつけて工学部のキャンパスに来てください。また、授業に関する連絡などを、共通教育の掲示板などに掲示することもあるので、掲示板を必ず毎日確認するようにして下さい。</p>					

開設科目	基礎セミナー(工)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	社建	単位	2 単位	曜時間	水曜日 3・4 時限
担当教官	関根雅彦, 中田幸男, 榊原弘之				
<p><b>授業概要</b> 大学の学習において重要な、日本語による的確な表現力とは何かについて説明し、それを身につけるための実習を実施する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 大学でさまざまな内容を学習していく上で重要な日本語による表現力を身につける。具体的には (1) レポート・レジュメ作成に必要な文章力 (2) 内容をわかりやすく口頭で説明する表現力を身につける。本科目は、本プログラムの学習・教育目標のうち、以下の目標に対応している。(A) 確かな基礎力を有する技術者を目指して以下の能力を身につける A-3 日本語による的確な表現力</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 本講義は演習を重視しており、授業内外のレポート及び定期試験の総合演習によって成績を評価する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：日本語表現のレッスン 文章技法からイベント・プレゼンの企画と実施まで, "長沼行太郎, 入部明子, 幸田国広, 青島康文, 向後千春", 教育出版, 2003 年</p> <p><b>教官連絡先</b> 関根:ms@env.civil.yamaguchi-u.ac.jp 榊原:sakaki@yamaguchi-u.ac.jp 中田:nakata@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	基礎セミナー(工)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	電気	単位	2 単位	曜時間	木曜日 3・4 時限
担当教官	内藤裕志, 田中幹也, 他				
<p><b>授業概要</b> ノート・パソコンを活用した文書作成やネットワークを利用した情報検索を基礎として、与えられた課題をまとめ、プレゼンテーションを行う。少人数グループに分かれ、倫理教育、最新技術の紹介、関連事項の調査、発表などを行う。</p> <p><b>授業一般目標</b> このセミナーは、電気電子工学の分野を今から学ぼうとする学生を対象としたフレッシュマン・セミナーであって、この分野の学問を学ぶ上で必要となるインセンティブを育てることを目的としている。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 定期試験(20%程度) 小テスト・授業内レポート(20%程度) 宿題・授業外レポート(20%程度) 授業態度・授業への参加度(20%程度) 受講者の発表(プレゼン)(20%程度)</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：必要に応じてプリントを配布する。/ 参考書：必要に応じて適宜指示する。ノート PC 利用のためのマニュアルは必要に応じて、各自購入すること。</p> <p><b>メッセージ</b> ・意欲的に授業に参加することを望む。・多くの授業時間外の作業を必要とする。・やむを得ず休む場合は、事前にメールにて担当教官に連絡をすること。</p> <p><b>教官連絡先</b> 内藤裕志：E-mail naitou1@plasma.eee.yamaguchi-u.ac.jp 田中幹也：E-mail ktanaka@eee.yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	基礎セミナー (工)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	知能	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	木戸尚治				
<p><b>授業概要</b> 本講義は当学科に関係のあるトピックスを通して、専門科目に対する興味を深めることを目的としている。少人数クラスに分かれて受講生と教師との密な接触を通して、当学科に入学した動機付けを確固たるものにすると共に今後の専門科目に対する積極的な取り組み方等を事例を通して習得する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 与えられた課題について自ら調査・整理して、その結果を多くの人々の前で発表する訓練を行う。また、今後の専門科目に取り組むための基礎的な知識を Java 言語を通して習得する。本科目は、知能情報システム工学科の学習・教育目標のうち、以下の項目に該当する：(A)の(1)種々の歴史、文化、習慣、価値観、風土、経済などに関する知識を修得し、これらにより幸福・福祉や豊かさなどの概念が多岐にわたることを認識する。(E)の(2)論理的にコミュニケーションし、必要に応じて説明と討論が自由にできる能力を身につける</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 成績の評価はレポート、授業態度、プレゼンテーションの内容を総合的に判断して決定する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：やさしい Java 第3版, 高橋麻奈, ソフトバンクパブリッシング, 2005年 / 参考書：画像でわかる私のからだ, 川上憲司, 講談社, 1996年; 医学・生物学におけるフラクタル, 松下貢 編著, 朝倉書店, 1992年; ITが地球環境を救う「情流」がもたらす環境革命, 松田晃一監修, 天野一哉著, ダイヤモンド社; スローなパソコンライフのすすめ - 循環型社会をめざして, 近藤龍太郎著, マイクロマガジン社, 2004年; Javaでなぜつくるのか, 米持幸寿, 日経BP, 2005年</p> <p><b>メッセージ</b> 専門科目に対するよう興味を深めて欲しい。また活発な討論をとおして、論理的思考法やプレゼンテーション能力を身につけて欲しい。</p> <p><b>教官連絡先</b> 木戸 kido@ai.csse.yamaguchi-u.ac.jp 火 17:00-19:00 村上 hitomim@yamaguchi-u.ac.jp 火 17:00-19:00 山口 shingo@yamaguchi-u.ac.jp 水 10:20 ~ 11:50</p>					

開設科目	基礎セミナー (工)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	機材	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教官	山本節夫ほか				
<p><b>授業概要</b> 情報化社会において「ものづくり」にたずさわるエンジニアとして巣立つためには、自分の考えていることを誤りなく相手に伝えられること、および相手が伝えたいことを理解できること、が必要である。この授業では、このようなコミュニケーションの基礎的事項(発表能力、日本語論述、数値的理解・表現)について学ぶことにより、高年次における勉学に対するモチベーションを高揚したい。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1)日本語による文章表現方法の基本を身に付ける。(2)自分の意見を口頭で発表する方法を体得する。(3)数値データを表現する方法を身に付ける。(4)与えられた課題について資料を収集しまとめる方法を知る。(5)パソコンを使用して口頭発表する方法を体得する。授業の到達目標</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 授業内レポート = 約 25 % 宿題 / 授業外レポート = 約 25 % 授業態度や授業への参加度 = 約 25 % 受講者の発表(プレゼン) = 約 25 % 尚、出席が所定の回数(80%)に満たない者には単位を与えない。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：適宜資料を配布する。、 / 参考書：適宜講義の中で紹介する。、</p> <p><b>メッセージ</b> 受け身の講義ではない。一人一人が積極的に発表や議論に参加することを望む。</p> <p><b>教官連絡先</b> 質問等は授業中に示す電子メールアドレスで対応する。急病等で欠席する場合は、機能材料工学科事務室(0836-85-9600)へ電話すること。</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	基礎セミナー(工)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	感性	単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6 時限
担当教官	河中正彦				
<p>授業概要 前半と後半の2部に分かれる。1回目のオリエンテーション、2回目の文献検索のための図書館案内を序盤におき、前半の6回は主にクラスを3のグループに分けて、与えられたテーマをめぐって、グループ・ディスカッションを行う準備とその実践に割く。後半はレポートの書き方を全般篇と自然科学篇に分けて指導し、最後に進路の指導をする。</p> <p>授業一般目標 高校生から大学生になるために必要なリテラシー(ネットの検索、レポートの書き方)を指導し、また自分の意見を持ち、それを発表する技術を身に付ける。</p> <p>成績評価方法(総合) 5つのユニットごとにレポートを提出してもらい、それぞれ配点を20点ずつとして、<math>20 \times 5 = 100</math>点。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 理科系の作文技術, 木下是雄, 中央公論新書 624, 2000年; 論文の書き方, 澤田昭夫, 講談社文庫 153, 2002年; 教科書は文栄堂で購入。/ 参考書: なし。</p> <p>メッセージ 必ず出席して単位を取ること。宇部では開港されないで、これを落とすと大変なことになる。</p> <p>教官連絡先 933-5089 河中研究室 共通教育・研究1号館314号室 金曜4時半から6時</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	基礎セミナー(農)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	生資	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教官	進藤晴夫, 山本晴彦, 執行正義, 宇佐見晃 一				
<p>授業概要 基礎セミナーでは、専門教育への自覚ならびに素材づくりを目指し、生命科学、環境科学等を含む、広い意味での農学に関連した諸問題について分かりやすく解説するとともに、最新のトピックスを紹介する。</p> <p>授業一般目標 講義を通して、農学専門教育の一端に触れるとともに、農学にまつわる諸問題に対して、主体性を持って自分で考える習慣を体得することを目的とする。</p> <p>教科書・参考書 教科書: プリント / 参考書: プリント</p> <p>教官連絡先 農学部 326 号室 (代表 進藤)</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	基礎セミナー(農)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	生機(1-25)	単位	2単位	曜時限	火曜日7・8時限
担当教官	山田守, 内海俊彦				
<p>授業概要 専門教育への自覚ならびに素地づくりをめざし、生命科学および生命環境科学に関連した諸問題について最新のトピックスを中心に討論する。特に、バイオテクノロジーの有効性と技術的な問題点、環境の問題点とその生物を利用した解決策、生命科学に関連した科学技術の功罪について各自で調査し、発表する。</p> <p>授業一般目標 生命科学および生命環境科学に関連した諸問題について理解を深めると同時に、この授業の過程で、資料作成、発表、討論によって、口頭発表の仕方、技術等を身につけさせ、主体性をもって自分で考え研究するスタイルを身につけさせることを目指す。</p> <p>教科書・参考書 教科書：適宜紹介するとともに、一部プリントを使用する</p> <p>教官連絡先 山田守：電話 933-5869, オフィスアワー 17時-18時 内海俊彦：電話 933-5856, オフィスアワー 17時-18時</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	基礎セミナー(農)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	生機(26-)	単位	2単位	曜時限	火曜日7・8時限
担当教官	松下一信、松富直利				
<p>授業概要 専門教育への自覚ならびに素地づくりをめざし、生命科学および生命環境科学に関連した諸問題について解りやすく解説するとともに、最新のトピックを紹介する。さらに、バイオテクノロジーの有効性と技術的な問題点、環境の問題点とその生物を利用した解決策、生命科学に関連した科学技術の功罪について各自で調査し、発表する。</p> <p>授業一般目標 この授業の過程で、資料作成、発表、討論で議論を深めるとともに、口頭発表の仕方、技術等を身につけさせるとともに、主体性をもって自分で考え研究するスタイルを身につけさせることを目指す。</p> <p>成績評価方法(総合) 発表の方法、内容、そして討論への参加状況から判断する</p> <p>教科書・参考書 教科書：適宜紹介するとともに、一部プリントを使用する</p> <p>教官連絡先 月～金 10～17時</p>					

系列 初期教育

分野 初期教育

科目類型 総説

開設科目	基礎セミナー(農)	区分	演習	開設期	前期
対象学生	獣医	単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6 時限
担当教官	岩田祐之・音井威重・利部聡				
<p>授業概要 獣医学一般における基礎的な知識について学び、獣医学倫理を考える。授業形態としては、講義、意見発表、討論、レポート作成などを行い、自分の考えを論理的に発表あるいは論述する訓練も併せて行う。</p> <p>授業一般目標 獣医学を学ぶものとしての自覚を持たせるとともに、論理的思考を習得させることを目的とし、獣医学で学ぶべきこと、獣医師の社会における活動分野、学際領域における獣医学、獣医学と自然・社会・文化・環境保全、人と動物の関係学などについて学ぶ。</p> <p>成績評価方法(総合) 小テスト/授業内レポート 授業態度や授業への参加度 出席</p> <p>教科書・参考書 教科書：一部プリント使用</p> <p>メッセージ 意見発表・討論は積極的に行う。レポートは推敲した文章とする。</p> <p>教官連絡先 岩田祐之 5899, vhg467@yamaguchi-u.ac.jp 音井威重 5904,otoi@yamaguchi-u.ac.jp 利部聡 5910,espero@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 初期教育

分野 情報処理

科目類型 総説

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	人社	単位	2 単位	曜時限	木曜日 9・10 時限
担当教官	ジュマリ・アラム				
<p>授業概要 この授業は高度情報化社会に必要なコンピュータ・リテラシーの修得をめざす。</p> <p>授業一般目標 大学4年間あるいはその後の将来において必要と思われるコンピュータの知識・操作および大学でのネットワークに繋がれたコンピュータを使う場合に守らなければならないルールを身につける。</p> <p>成績評価方法(総合) 宿題/授業外レポート = 40~60% 出席 = 40~60%</p> <p>教科書・参考書 教科書：WEB 情報処理テキスト</p> <p>教官連絡先 djumali@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 初期教育

分野 情報処理

科目類型 総説

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	人社	単位	2 単位	曜時限	木曜日 9・10 時限
担当教官	尾崎千佳				
<p>授業概要 この授業は高度情報化社会に必要なコンピュータ・リテラシーの修得をめざす。授業形態は4～5名のグループごとに分かれて行う。</p> <p>授業一般目標 大学4年間あるいはその後の将来において必要と思われるコンピュータの知識・操作および大学でのネットワークに繋がれたコンピュータを使う場合に守らなければならないルールを身につける。</p> <p>成績評価方法(総合) 宿題/授業外レポート = 40～60% 出席 = 40～60%</p> <p>教科書・参考書 教科書: WEB 情報処理テキスト 2004 年度版</p> <p>教官連絡先 研究室; 人文 508 電話; 933-5257 E-mail; ozaki@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー; 木曜 14:30-16:00</p>					

系列 初期教育

分野 情報処理

科目類型 総説

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	人社	単位	2 単位	曜時限	木曜日 9・10 時限
担当教官	縄田 陽介				
<p>授業概要 この授業は高度情報化社会に必要なコンピュータ・リテラシーの修得をめざす。授業は4～5名のグループごとにわかれて行う。</p> <p>授業一般目標 大学4年間、あるいはその後の将来において必要と思われるコンピュータの知識・操作、および大学でネットワークにつながれたコンピュータを使う場合に守らなければならないルールを身につける。</p> <p>成績評価方法(総合) 宿題・授業外レポート 50% 出席 50%</p> <p>教科書・参考書 教科書: 教科書(参考書欄に明記した資料)を使用するかどうかについては、皆さんと相談の上、最初の授業で指示します。/ 参考書: WEB 情報処理テキスト。</p> <p>メッセージ 受講生の熟練度などを見た上で、場合によっては、授業計画を変更する場合があります。基本的には初歩から基礎的な操作までを学んでいきますので、パソコンに習熟している人にとっては退屈かもしれませんが、そういう人は班のリーダーとなって、不慣れな人の指導をしてあげてください。なお、授業では折に触れて情報化社会への適応だけでなく、情報化社会を批判的に検討する話題にも言及しながら「『人文学』部の情報処理演習」を目指します。みなさんの意欲ある取り組みと授業への協力を期待します。</p> <p>教官連絡先 メール・アドレス x069ab@yahoo.co.jp 普段学外にいますので、連絡や質問、意見があるときは上記メール・アドレスまでお願いします。</p>					

系列 初期教育

分野 情報処理

科目類型 総説

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	言語	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教官	坪郷英彦				
<p>授業概要 この授業は、高度情報化社会に必要なコンピュータ・リテラシーの修得をめざす。授業形態は、4～5名のグループごとに分かれて行う。</p> <p>授業一般目標 大学4年間あるはその後の将来において必要と思われるコンピュータの知識・操作および大学でのネットワークに繋がれたコンピュータを使う場合に守らなければならないルールを身につける。</p> <p>成績評価方法(総合) 宿題/授業外レポート=40～60パーセント 出席=40パーセント</p> <p>教科書・参考書 教科書：WEB 情報処理テキスト、</p>					

系列 初期教育

分野 情報処理

科目類型 総説

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	言語	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教官	豊澤 一				
<p>授業概要 この授業は高度情報化社会に必要なコンピュータ・リテラシーの修得をめざす。授業は4～5名のグループごとにわかれて行う。</p> <p>授業一般目標 大学4年間、あるいはその後の将来において必要と思われるコンピュータの知識・操作、および大学でネットワークにつながれたコンピュータを使う場合に守らなければならないルールを身につける。</p> <p>成績評価方法(総合) 宿題・授業外レポート 50% 出席 50%</p> <p>教科書・参考書 教科書：教科書(参考書欄に明記した資料)を使用するかどうかについては、皆さんと相談の上、最初の授業で指示します。/ 参考書：WEB 情報処理テキスト、</p> <p>メッセージ 受講生の熟練度などを見た上で、場合によっては、授業計画を変更する場合があります。基本的には初歩から基礎的な操作までを学んでいきますので、パソコンに習熟している人にとっては退屈かもしれませんが、そういう人は班のリーダーとなって、不慣れな人の指導をしてあげてください。</p> <p>教官連絡先 メール・アドレス toyosawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室は人文棟4階409号室です。来室する場合には、できれば事前にメール、電話等で連絡して下さい。</p>					

系列 初期教育

分野 情報処理

科目類型 総説

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	言語	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教官	乾秀行				
<p>授業概要 この授業は高度情報化社会に必要なコンピュータ・リテラシーの修得をめざします。授業は4～5名のグループに分かれて行ないます。</p> <p>授業一般目標 大学4年間、あるいはその後の将来において必要と思われるコンピュータの知識・操作、および大学でネットワークに繋がれたコンピュータを使う場合に守らなければならないルールを身につける。</p> <p>教科書・参考書 教科書：web 情報処理テキスト,,</p> <p>教官連絡先 f1566@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 初期教育

分野 情報処理

科目類型 総説

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	学教(教科(国・社・音・美))・総文(文芸)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	吉村誠				
<p>授業概要 情報機器の取り扱いに慣れる</p> <p>授業一般目標 ワード、エクセル、パワーポイントの基本を習得する</p>					

系列 初期教育

分野 情報処理

科目類型 総説

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	学教(教科(数・理))・情報(数理)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 9・10 時限
担当教官	野村、林川				
<p>授業概要 ノートパソコンの使い方の基礎を学ぶ。            授業一般目標 ノートパソコンが自由に使えるようになる。            成績評価方法(総合) 出席(50%)と期末試験(50%)により行う。            教科書・参考書 教科書: WEB上のテキストを用いる。            教官連絡先 教育学部 226号室/anomura@yamaguchi-u.ac.jp/水曜日 13時~15時</p>					

系列 初期教育

分野 情報処理

科目類型 総説

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	学教(教科(保・英)・国理)・実践	単位	2 単位	曜時限	月曜日 9・10 時限
担当教官	永久洋治				
<p>授業概要 電子メール, 情報検索などインターネットの基本的な利用方法と, ワープロおよび表計算について勉強する            授業一般目標 電子メール, 情報検索, ワード, エクセルが利用できるようになること。            教科書・参考書 教科書: 未定            メッセージ 兎に角出席すること</p>					

系列 初期教育

分野 情報処理

科目類型 総説

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	学教(教科(技))・健康(スポ健)・総文(国文)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限
担当教官	系長雅弘, 林川基治				
<p>授業概要 情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日、「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。情報リテラシーとは、一言で言えば、コンピュータを道具として利用・活用する能力のことである。Windows OS 上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、ホームページ作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。</p> <p>授業一般目標 情報化社会を生きる上で最低限必要となる情報リテラシーと情報伝達力、自己表現力を修得する。</p> <p>成績評価方法(総合) 出席率 80 %未滿を欠格条件とし、授業内レポート、授業外レポート、公開されたホームページ、グループ課題の発表内容を総合的に評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：山口大学「情報処理テキスト Web 版」</p> <p>メッセージ 受講者のパソコンに対する知識は仮定せず、初めてパソコンを使うものとして授業を行う。ノートパソコンを持参すること。</p> <p>教官連絡先 E-mail: itonaga@yamaguchi-u.ac.jp, 電話: 083-933-5350, 研究室: 教育学部 224 号室, オフィスアワー: 水曜 10:20 - 11:50</p>					

系列 初期教育

分野 情報処理

科目類型 総説

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	学教(教科(家)・幼児・障害)・健康(生活)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 9・10 時限
担当教官	中田充				
<p>授業概要 ワード, エクセル, メール, Web 等のコンピュータの基礎演習を行う。</p> <p>授業一般目標 コンピュータ操作に関する基礎知識を身につける。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 追って指示する。 / 参考書: 追って指示する。</p> <p>メッセージ 欠席は原則として認めない。</p> <p>教官連絡先 授業中に通知する。</p>					

系列 初期教育

分野 情報処理

科目類型 総説

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	情報(表現)	単位	2単位	曜時限	水曜日 1・2時限
担当教官	葛崎偉				
<p>授業概要 コンピュータの基本ソフトウェアの一つであるUNIXの基本コマンド、エディタの使い方、メールやニュース等のインターネットの利用法、また種々のアプリケーション・ソフトウェアの使い方を学ぶ。</p> <p>授業一般目標 本講義は高度情報化社会に必要なコンピュータの基本操作法とソフトウェアの利用法を身につけることを目標とする。</p> <p>成績評価方法(総合) 出席状況、履修状況、レポートなどで総合評価する。 = 100%</p>					

系列 初期教育

分野 情報処理

科目類型 総説

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2単位	曜時限	月曜日 5・6時限
担当教官	陳建平				
<p>授業概要 パソコン操作の基本から、日本語ワープロ、表計算、プレゼンテーションなどのソフトの使い方を勉強し、そして電子メールやインターネットの利用の仕方にも慣れ親しんでもらう。</p> <p>授業一般目標 パソコンを利用して、勉強や日常の生活に役立てることが目標。</p> <p>成績評価方法(総合) 出席、宿題、期末試験を総合して評価する。</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	山根 悟				
<p>授業概要 パソコンの操作を基礎から応用までを修得する。Windowsの基礎、タイプ練習日本語入力、表計算ソフト(Excel)をデータ入力し、関数の使用方法やデータの分析の方法などを基礎から応用まで学習する。また、プレゼンテーション用ソフトを利用し、インターネットからの情報を取り入れ、実際に発表する。検索キーワード パソコンの基礎から応用、タイプ練習、Windows、表計算</p> <p>授業一般目標 表計算ソフト(Excel)を使用した検定試験の模擬試験を行い、受講者全員が情報処理検定2級程度の資格を取れるように演習を行う。学生生活でも社会に入ってから役立つパソコンの操作方法を修得する。</p> <p>成績評価方法(総合) 模擬検定試験を2回行い、この正確性と迅速性で評価する。プレゼンテーションの表現方法や独創性、積極性で評価点を付加する。</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教官	成富敬				
<p>授業概要 講義や演習をとおして、コンピュータの概要やワープロソフト、表計算ソフトの使い方を体得するとともに、個人情報やネットワークを利用する際のエチケットについても学習する。また、コンピュータを使った手紙のやりとり(電子メール)、インターネットによる情報検索、プレゼンテーションソフトを用いた発表についても体験する。</p> <p>授業一般目標 コンピュータを使って文書作成ができるようになるとともに、インターネットを利用した情報伝達、情報収集ができるようになる。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験(40%)、レポート(20%)、出席(40%)の割合で成績を評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：資料を配布する。</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6 時限
担当教官	兵藤 隆				
<p>授業概要 授業の概要を学ぶ対象について示すと、次の通りである。パーソナル・コンピュータの基本操作 日本語入力とワードプロセッサ 電子メールとインターネット 表計算ソフトとプログラミングの初歩 プレゼンテーション・ソフト 毎回、授業内容を電子ファイルで配布し、これに基づいて進める。授業毎回の出席状況と2～3つの課題報告提出とにより判断する。演習授業のため、出席しなければ意味がなく、欠席は3回を超えると単位を認めない。</p> <p>授業一般目標 大学教育を受ける上で最低限必要となってきた情報リテラシーを身につけ、さらに、経済学部生の専門教育面や社会人になってからも役立つと思われる情報処理能力を習得することを目指している。大学生生活や授業で日常的に使える程度に、コミュニケーションや電子情報取得、論文やレポートの作成、簡易なビジネス用表の能力を習得出来たと判断出来る者に単位を認める。</p> <p>成績評価方法(総合) 宿題/授業外レポート = 60～80% 授業態度や授業への参加度 = 20%未滿 演習 = 20%未滿 出席 = 欠格条件</p> <p>教科書・参考書 教科書：毎回授業内容を電子ファイルで配布する。</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	経	単位	2 単位	曜時限	金曜日 7・8 時限
担当教官	藤田 智丈				
<p>授業概要 最近は高校卒業までの間にパソコンの基本的な操作は一通り習っているはずですが、大学では単に文書を作成するだけでなく、表計算ソフトで統計処理をしたり、プレゼンテーションソフトでプレゼンをしたりするなど、多様な使い方を身につける必要があります。この講義では、そのような利用の基礎となる使い方や考え方を身につけてもらうために、各自に演習してもらいながら授業を進めていきます。</p> <p>授業一般目標 2年生以降のゼミで必要となるパソコン処理の基礎を身につける。具体的には、インターネットで必要な情報を収集したり、それを文書としてまとめ、さらに自分の考えをプレゼンテーション資料として作成する。また表計算ソフトを用いて簡単な分析をできるようになる。</p> <p>成績評価方法(総合) 授業中に提出してもらったミニ課題と、成績評価の中心となるレポート課題(おそらく3回)を考慮して成績評価をします。定期試験は行いません。</p> <p>教科書・参考書 教科書：指定無し / 参考書：ソフトの操作ガイドについては多くの書籍が出版されているので、必要であれば参考にしてください。</p>					

系列 初期教育

分野 情報処理

科目類型 総説

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	数理	単位	2 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限
担当教官	菊政 勲				
<p>授業概要 コンピュータに慣れさせ、コンピュータに触れる中で、高年次における情報処理教育や実社会に必要な基礎知識・技能を理解・修得させる。</p> <p>授業一般目標 コンピュータを使う上での基本操作や概念を理解する。コンピュータやネットワークについての基礎的な知識を習得するとともに、実際にソフトウェアを用い、様々な情報処理の技法を修得する。</p> <p>成績評価方法(総合) 出席、小テスト、期末試験、レポート等により総合的に判定する。これらは予定であり変更される可能性がある。なお、一定レベルのタイピングの能力を期末試験の受験資格とするので注意すること。</p> <p>教科書・参考書 教科書：授業時に指示する。</p> <p>メッセージ 毎回出席してコンピュータに触れる機会を多くしましょう。</p> <p>教官連絡先 理学部本館1階145号室</p>					

系列 初期教育

分野 情報処理

科目類型 総説

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	物情	単位	2 単位	曜時限	水曜日 9・10 時限
担当教官	吉川学				
<p>授業概要 初心者を対象に、コンピュータの基本的操作を学び、Windows-NT 上で動作する種々のソフトウェアの使い、文書の作成、表計算の仕方、情報社会でのインターネットの利用法 などについてパソコンを使った実習を行う。</p> <p>授業一般目標 基本的なパソコンの使い方を身につけ、簡単な文書の作成や表作成、表計算やメールの送受信が行えることを目標にする。</p> <p>教科書・参考書 教科書：「情報処理入門」山口大学情報処理教育研究会編</p> <p>メッセージ 毎回必ず出席し、まじめに演習に取り組むこと。演習室での携帯電話の電源は必ず切ること。全授業回数のうち3分の2以上出席し、課題の提出を行っていることを単位習得の必要条件とする。初回の授業には、ユーザーIDとパスワードが印刷されたカードを必ず持ってくること。</p> <p>教官連絡先 オフィスアワー：随時</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	生化	単位	2 単位	曜時間	水曜日 1・2 時限
担当教官	原田由美子				
<p>授業概要 初心者を対象に、コンピュータの基本的操作を学び、Windows-NT 上で動作する種々のソフトウェアの使い、文書の作成、表計算の仕方、情報社会でのインターネットの利用法 などについてパソコンを使った実習を行う。</p> <p>授業一般目標 基本的なパソコンの使い方を身につけ、簡単な文書の作成や表作成、表計算やメールの送受信が行えることを目標にする。</p> <p>教科書・参考書 教科書：「情報処理入門」山口大学情報処理教育研究会編</p> <p>メッセージ 毎回必ず出席し、まじめに演習に取り組むこと。演習室での携帯電話の電源は必ず切ること。全授業回数のうち3分の2以上出席し、課題の提出を行っていることを単位習得の必要条件とする。初回の授業には、ユーザー ID とパスワードが印刷されたカードを必ず持ってくること。</p> <p>教官連絡先 連絡先：e-mail yharada@yamaguchi-u.ac.jp、総合研究棟 703 ( 東 ) 号室 オフィスアワー：随時</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	地球	単位	2 単位	曜時間	月曜日 9・10 時限
担当教官	福地 龍郎				
<p>授業概要 初心者を対象に、コンピュータの基本的操作を学び、Windows およびその上で動作する種々のソフトウェアの使い、文書の作成・表計算ソフトの利用方法・情報社会でのインターネットの利用法などについてパソコンを使った実習を行う。</p> <p>授業一般目標 基本的なパソコンの使い方を身につけ、データの管理、文書や表の作成や、メールの送受信、および簡単な表計算が行えることを目標にする。</p> <p>成績評価方法 (総合) 毎回必ず出席し、全ての課題を達成し、提出を行っていることを単位習得の必要条件とする。受講態度および提出された課題により成績を評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：山口大学情報処理教育研究会編「情報処理入門」</p> <p>メッセージ 初回の授業には、ユーザー ID とパスワードが印刷されたカードを必ず持ってくること。</p> <p>教官連絡先 連絡先：e-mail fukuchi@yamaguchi-u.ac.jp、理学部本館 449 号室 オフィスアワー：随時</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	医学 (1-43)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教官	奥田昌之				
<p><b>授業概要</b> 高等教育や業務などにおいてパソコン、インターネットの活用が一般的に求められるようになってきている。さらにネットワーク上の情報交換は広く日常的になっており、パソコンの基本動作、基本的なソフトの活用は必須となっている。パソコンおよびその上で使われる基本的ソフトの使い方を修得し、情報ネットワークに対応できる知識、およびツールを学び、電子情報の活用の基本を身につける。</p> <p><b>授業一般目標</b> パソコンの使用方法、ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトの基本的な使い方、インターネット上で用いる基本ツールの利用方法、ネットワークの仕組みについて修得する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 演習中の積極性、態度および、レポート、発表により評価します。演習のため、遅刻するとそれまでの部分がわからなくなりますので注意して下さい。レポートにおいては、他者のコピーとわかるものはいずれも0点と評価します。、 演習 = 欠格条件 出席 = 欠格条件</p> <p><b>教科書・参考書 教科書:</b> 演習の内容により、必要に応じて資料を配布する。</p> <p><b>メッセージ</b> 講義時間を有効に活用して、基本ソフトの使い方をマスターください。また、ネットワーク環境など大学であるからこそ使いやすい機能と危険性を理解してください。出席は必ずしてください。理解度、レポート、作成したものを評価対象とします。</p> <p><b>教官連絡先</b> E-mail : okuda@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	医学 (44-)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教官	唐澤肇				
<p><b>授業概要</b> 現代社会において、パソコンやインターネットを利用できるという能力はもはや特別な ものではなくなり、むしろ全ての人間にとって必要不可欠なものとなってきている。この講義では、学生個人のパソコンをネットワークに接続させ、それを使った実習を通してパソコンやネットワークの基本的な仕組みと利用方法、また、ネットワーク上でのモラルについて説明する。講義と実習の難易度は初級～中級者レベルで行なう。</p> <p><b>授業一般目標</b> ネットワークの仕組みを理解し、ネットワークの利用法を修得する。さらに、ネットワーク上のモラルを理解する。また、パソコンの初歩的使用法を修得する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 各回の課題・レポートにて実習内容の要素毎の理解度・達成度を判断、最終レポートにて総合的理解度を判断する。遅刻、早退および課題の提出期限遅れは減点する。</p> <p><b>教科書・参考書 教科書:</b> 必要に応じて資料を配布する。 / <b>参考書:</b> 情報処理入門, 山口大学情報処理研究会, ; WEB情報処理テキスト</p> <p><b>メッセージ</b> 授業の際は必ずノートパソコンを持参すること。課題およびレポートは必ず提出すること。期末試験は行なわない。</p> <p><b>教官連絡先</b> E-mail:kara@yamaguchi-u.ac.jp URL:<a href="http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/kara/index.html">http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/kara/index.html</a></p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	看護 (1-60)	単位	2 単位	曜時間	木曜日 7・8 時限
担当教官	篠原				
<p><b>授業概要</b> 大学生活はもちろんのこと、実社会、家庭においてもコンピュータを「電子文房具」として扱うことが当然のことのようにになっている。ワープロソフトを使った文書作成、表計算ソフトを使ったデータ処理、メールや WWW を通じて情報のやりとり。本授業を通じてこのような能力「情報リテラシー」を身につけてもらいたい。ワードプロセッサ、表計算ソフト、メールソフトの使いかたを解説し、数多くの実践的課題をこなしてもらう。</p> <p><b>授業一般目標</b> 1. メールやりとりが出来る 2. ワープロソフトを使って、文書が作成できる 3. 表計算ソフトを使ってデータの加工、グラフ化が出来る 4. インターネットから必要な情報を引出すことが出来る。またインターネットに自分の考えを発信することが出来る 5. セキュリティやネチケットに関する問題を指摘することができる</p> <p><b>教科書・参考書</b> 参考書: 参考:web 版情報処理テキスト <a href="http://mis.edu.yamaguchi-u.ac.jp/daikyo/gakunai/web_text/">http://mis.edu.yamaguchi-u.ac.jp/daikyo/gakunai/web_text/</a> そのほか、市販のワード、エクセルのテキスト 資料は授業中適宜配布</p> <p><b>教官連絡先</b> 課題: 篠原紀幸 <a href="http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/nshino">http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/nshino</a> (提出先: <a href="mailto:soarer@yamaguchi-u.ac.jp">soarer@yamaguchi-u.ac.jp</a>)</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	看護 (61-), 検査	単位	2 単位	曜時間	木曜日 5・6 時限
担当教官	篠原				
<p><b>授業概要</b> 大学生活はもちろんのこと、実社会、家庭においてもコンピュータを「電子文房具」として扱うことが当然のことのようにになっている。ワープロソフトを使った文書作成、表計算ソフトを使ったデータ処理、メールや WWW を通じて情報のやりとり。本授業を通じてこのような能力「情報リテラシー」を身につけてもらいたい。ワードプロセッサ、表計算ソフト、メールソフトの使いかたを解説し、数多くの実践的課題をこなしてもらう。</p> <p><b>授業一般目標</b> 1. メールやりとりが出来る 2. ワープロソフトを使って、文書が作成できる 3. 表計算ソフトを使ってデータの加工、グラフ化が出来る 4. インターネットから必要な情報を引出すことが出来る。またインターネットに自分の考えを発信することが出来る 5. セキュリティやネチケットに関する問題を指摘することができる</p> <p><b>教科書・参考書</b> 参考書: 参考:web 版情報処理テキスト <a href="http://mis.edu.yamaguchi-u.ac.jp/daikyo/gakunai/web_text/">http://mis.edu.yamaguchi-u.ac.jp/daikyo/gakunai/web_text/</a> そのほか、市販のワード、エクセルのテキスト 資料は授業中適宜配布</p> <p><b>教官連絡先</b> 課題: 篠原紀幸 <a href="http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/nshino">http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/nshino</a> (提出先: <a href="mailto:soarer@yamaguchi-u.ac.jp">soarer@yamaguchi-u.ac.jp</a>)</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	機械	単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教官	渡邊哲陽, 安田利貴				
<p><b>授業概要</b> インターネットによって雑多な情報が広範囲かつ瞬時に伝わるようになり、必要な情報を探し出す技能や、得た情報を適切に加工し表現する技能を身につけることが求められており、工学分野では道具としてのコンピュータ利用が日常茶飯事である。この授業では、そこで問題となるセキュリティ、ネチケットの理解およびコンピュータ利用技術を身につけることを目的として、WEB ブラウザ、ワードプロセッサ、プレゼンテーションソフト、表計算ソフトの利用法について説明し、実際にその活用法について演習を行う。</p> <p><b>授業一般目標</b> コンピュータの基本操作、続いて日本語入力およびワープロ操作について学ぶ。パスワード管理の重要性を認識した上で、電子メールやインターネットの活用法を学び、ネチケット（ネットワーク・エチケット）を習得する。パワーポイントによる自己紹介を実施し、プレゼンテーション法の習得と、プレゼンテーション能力を養う。学習や研究に必要なソフトウェアの利用法を学ぶ。</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 小テスト / 授業内レポート = 20 % , 宿題 / 授業外レポート = 20 % , 授業態度や授業への参加度 = 20 % , 受講者の発表（プレゼン）や授業内での製作作業（作品） = 20 % , 演習 = 20 % で評価する。出席は欠格条件。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：情報処理テキスト（web 版）を利用する。</p> <p><b>メッセージ</b> コンピュータは道具であり、その活用法の習得には自分で作業をしてみるしかないので、積極的な受講態度で臨むこと</p> <p><b>教官連絡先</b> 渡邊哲陽 E-mail: t-wata@yamaguchi-u.ac.jp 安田利貴 E-mail: tyasuda@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	応化	単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	小淵茂寿				
<p><b>授業概要</b> コンピュータを利用して情報を作成・取得し、編集（変換）して表現することを学習する。ここではコンピュータリテラシーとよばれる「文具としてのコンピュータ」の使用方法（ワードプロセッシング、表計算、グラフ表示、電子メールやブラウザ）、情報通信ネットワークやマルチメディアが普及した社会における情報の種類、検索、活用方法などメディアリテラシー（メディアを操る能力）、プレゼンテーションソフトによるわかりやすい発表方法について学ぶ。また、ネットワークの構造およびネットワーク社会における規範について考える。なお、演習の進行状況により内容・項目は変更になる場合もある。</p> <p><b>授業一般目標</b> コンピュータを利用して情報を作成・取得し、編集（変換）して表現できるようにする。具体的にはワードプロセッシング、表計算、グラフ表示、電子メールやブラウザなどのアプリケーションを理解して使用できるようにする。特定のアプリケーションの使用法を覚えるのではなく、その動作原理を理解する。さらに、国際的な情報通信ネットワークやマルチメディア社会における情報の種類、検索、活用方法などメディアリテラシー（メディアを操る能力）を身につける。ネットワークの構造および国際ネットワーク社会における規範について理解する。プレゼンテーションソフトによるわかりやすい発表方法について理解する。</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 小テスト・授業内レポート、宿題・授業外レポートおよび受講者による発表（プレゼン）を総合的に評価します。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：プリントを配布する。</p> <p><b>メッセージ</b> 宇部で開講します。毎回の出席を基本としていますので、欠席しないように。</p> <p><b>教官連絡先</b> 授業の最初に説明いたします。</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	社建	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教官	今井剛, 榊原弘之				
<p><b>授業概要</b> 道具としてのコンピュータおよびネットワーク利用の観点から、ノートパソコンの基本操作、ワードプロセッシング、表計算、ファイル管理、およびネットワークを利用した電子メール、ブラウザを利用した様々な情報入手方法の実習を中心に講義する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 道具としてのコンピュータおよびネットワーク利用の観点から、ノートパソコンの基本操作、ワードプロセッシング、表計算、ファイル管理、およびネットワークを利用した電子メール、ブラウザを利用した様々な情報入手方法の修得し、道具としてのコンピュータを使いこなすことができるようになる。この科目は以下の学習・教育目標に対応する。社会建設工学コース（A）確かな基礎力を有する技術者を目指して以下の能力を身につける。A-1 数学、自然科学、情報処理の基礎力</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 1. 演習講義には毎回出席し課題をすべて提出すること（出席は欠格条件です。ただし、病気などやむを得ない理由で欠席した場合には必ず次の講義時に担当教官へ欠席届を提出し、指示（欠席分に相当する課題を課す）を受けること。）2. レポート課題を 40%、期末試験を 60%として成績を評価し、60 点以上（100 点満点）を合格とする。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：ホームページ上で公開されている情報処理テキストを使います。/ 参考書：適宜プリントを配布します。</p> <p><b>メッセージ</b> ・この講義には、ノートパソコンが必要です。・いろいろな機能について、実際に試して、体得して下さい。</p> <p><b>教官連絡先</b> 今井：imait@yamaguchi-u.ac.jp 榊原：sakaki@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	電気	単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	甲斐綾子、浅田				
<p><b>授業概要</b> (1) パソコンの基本操作 - コンピュータ初心者进行想定したパソコン入門編である。パソコンの立ち上げから始めて、メール、インターネットや、ワープロ (Word) と表計算ソフト (Excel) の演習を行う。(2)UNIX コマンドの体験 - Windows と共に代表的なオペレーティングシステム (コンピュータの基本ソフト) である UNIX を利用する。telnet により UNIX システムにログインし、基本 コマンドを入力する。(3) C 言語プログラミング - 標準的なプログラミング言語である C 言語を用いて、プログラムを作成・コンパイルして実行する。判断と分岐や繰り返しの処理など、ごく基本的な内容をプログラミングする。</p> <p><b>授業一般目標</b> 本演習の目標は、パソコンを携帯電話と同じように身近な道具として違和感なく利用できるようなことである。本演習を通して、情報処理技術 (ハード・ソフトの操作とプログラム作成) の基礎を身につける。「習うより慣れよ」を肝要とし、課題演習に重点を置いて授業を進める。</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 小テストあるいは授業外レポート (30%)、中間試験 (30%)、期末試験 (40%) による総合評価</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：ザ・C、戸川隼人、サイエンス社、1997 年</p> <p><b>メッセージ</b> 現在、PC を使わないですむ仕事は殆どありません。これからの自分のために、授業で課されたレポートは、必ず自分で演習して、全部提出すること。ティーチングアシスタントもいるので、わからないところは聞いて、自分のパソコン力を向上させることが一番重要です。</p> <p><b>教官連絡先</b> wakasa@eee.yamaguchi-u.ac.jp 研究室：工学部電気電子工学科棟 5 階</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	知能	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教官	村上ひとみ				
<p><b>授業概要</b> コンピュータとインターネットは広く社会や家庭にも普及し、日々の仕事や生活に欠かせないものとなっている。この授業では工学部で共同購入を勧めているノートパソコンを中心に、学内ネットワークへの接続、電子メールの使い方、情報検索の方法等を実践的に学ぶ。また、図表を入れた効果的な文書作成やホームページの試作を通じて、自らの意見や学習成果を発信するツールとしてのコンピュータの活用法を体験する。また、本学科では2年目からLinuxによる実験演習が基本となるので、この授業ではイントロダクションとして、大演習室のLinuxシステムのコンピュータを利用して、ファイルシステムの基本とエディタの使い方を紹介する。</p> <p><b>授業一般目標</b> ノートパソコンを情報コンセントに接続してメールの送受信、ネットワークの検索ができる。パソコンによる文書作成、図表作成、ファイル管理がスムーズにできる。ネットワークの仕組みの基本を理解し、セキュリティと情報倫理に十分留意した行動がとれる。Linuxのファイルシステムを理解し、簡単なコマンドやエディタの操作ができる。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 授業内レポート40%、授業外レポート60%により総合評価する。なお、80%以上の出席が必要条件である。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：WEB 情報処理テキスト 2006 年度版, , 2004 年</p> <p><b>メッセージ</b> コンピュータを使い慣れている学生は、WEB テキスト等を活用して、自学自習によりさらに高い知識技術を身につけてほしい。また、クラスには初心者もいるので、助け合って学びましょう。</p> <p><b>教官連絡先</b> 工学部総合研究棟 5 1 5 室 TEL: 0836-85-9537 e-mail: mrkm@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	機材	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	田中一宏・小松隆一				
<p><b>授業概要</b> パーソナルコンピュータを用いて情報を読み・書き・処理できる能力を身につけるための演習を行います。Windows2000 システムを用いて実習します。</p> <p><b>授業一般目標</b> パソコンの操作法、文字入力、ワープロ文書作成、山口大学におけるコンピュータシステムおよびネットワークシステムの概略、個人情報の管理方法、電子メールによる情報交換、インターネット WWW による情報収集、表計算ソフトによる・グラフ作成・数値処理、初歩的な数値処理プログラミング・表・グラフ作成などについて、習熟することを目指す。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 演習の実施内容の電子メールによるレポート、授業外レポート、などを総合的に評価します。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：WEB 情報処理テキスト、情報処理教育会, , 2003 年； <a href="http://mis.edu.yamaguchi-u.ac.jp/kaisetu/note_text_2003/index.html">http://mis.edu.yamaguchi-u.ac.jp/kaisetu/note_text_2003/index.html</a></p> <p><b>メッセージ</b> 情報処理技術は大学でも就職後も重要です。しっかり予習・復習して、実力をつけましょう。1 年次開講「基礎セミナー」の後半に、ノートパソコンを用い、インターネットによる課題調査およびプレゼンテーションを行います。 「情報処理演習」の講義内容の理解と習熟を前提としています。</p> <p><b>教官連絡先</b> 田中一宏：E-mail <a href="mailto:tnkkzhr@yamaguchi-u.ac.jp">tnkkzhr@yamaguchi-u.ac.jp</a>, 電話 0836-85-9662, 研究室 化学工学棟 3 階, オフィスアワー 随時、電子メールにて 小松隆一：e-mail, <a href="mailto:r-komats@yamaguchi-u.ac.jp">r-komats@yamaguchi-u.ac.jp</a>, 0836-85-9631(tel &amp; fax), 研究室 工学部本館 334, オフィスアワー、随時、電子メール可</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	感性	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	長篤志、水上嘉樹、山本正幸、三池秀敏、一川誠				
<p><b>授業概要</b> この講義は、現代の科学技術を支える情報処理の入門として位置付けられています。感性デザイン工学を専門として勉学する皆さんには、建築デザイン、映像情報デザインあるいは感性工学いずれの分野に進んだとしても、コンピュータの基本的な知識や操作方法、種々のソフトウェアを使いこなす力が必要となります。</p> <p><b>授業一般目標</b> CAD、CGあるいはプログラミングによる高度なコンピュータ利用への第一段階として、パソコンの構造、基本ソフト（OS）の概念、情報理論の基礎、及びアプリケーションソフトとしてのパワーポイントを用いたプレゼンテーションの基本を学びます。また、世界中に広がったコンピュータネットワーク（WWW）を利用するマナー、電子メールの利用法、そして簡単なプログラミングの考え方について基本を学びます。大切なのは、自分の手で1つ1つ覚えていくことです。各人1台購入するノートパソコンを最大限活用し、皆さんの最大の武器となるよう努力して下さい。</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 中間試験と期末試験により判定する。ただし、出席点を20%考慮する。</p> <p><b>メッセージ</b> 授業中だけでなく、毎日コンピュータと仲良くして下さい。</p> <p><b>教官連絡先</b> 長篤志：E-mail osaa@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	生資	単位	2 単位	曜時限	月曜日 9・10 時限
担当教官	鈴木賢士				
<p><b>授業概要</b> 現代の高度情報化社会においては、インターネット等のネットワークが急速に広まり、コンピュータの利用は必要不可欠のものになっている。また、高年次の専門課程においては実験、観測、調査によって取得したデータの解析、その解析結果の可視化が重要になってくる。このためにはコンピュータは必要不可欠なツールであり、この授業ではネットワークの利用ならびにコンピュータによる分析、解析や報告書の作成を念頭におき、ネットワーク環境下のパソコンを使用しながら授業を進める。ただし、生物機能科学科クラスと一緒に習熟度に応じて再度クラス編成を行う場合がある。</p> <p><b>授業一般目標</b> 情報処理に関する基礎知識、技術・手法の習得、またコンピュータネットワークの基礎的視知識とその利用方法を習得する。</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 項目ごとの課題提出、レポート、出席および期末課題により評価を行う。</p> <p><b>教官連絡先</b> E-mail：kenis@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：随時</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	生機	単位	2 単位	曜時限	月曜日 9・10 時限
担当教官	荊木康臣				
<p>授業概要 情報処理に関する基礎知識および技術の修得、主にコンピュータとインターネットの利用に関する基礎的な技術の修得を目的とする。コンピュータおよびインターネットの利用は、高年次の専門課程での学習、研究における情報収集、データ解析、レポート作成等に不可欠である。本講義では、ワープロソフト、表計算ソフト、翻訳ソフト、プレゼンテーション用ソフトを実際に利用し課題をこなしていく過程で、学習、研究の場面でのコンピュータ利用に関する実践的な能力を身につけていく。なお途中で、生物資源環境科学科と共に、習熟度に応じたクラス再編成を行う場合がある。</p> <p>授業一般目標 情報処理に関する基礎知識および技術、主にコンピュータとインターネットの利用に関する基礎的な技術を修得する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：資料は授業時に配布します。</p> <p>メッセージ 毎回ノートパソコンを使用します。</p> <p>教官連絡先 ibaraki@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：総合研究棟 2 階 206 号室または農学部 1 階 131 号室 オフィスアワー：随時</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	獣医	単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	山根 悟				
<p>授業概要 パソコンの操作を基礎から応用までを修得する。Windowsの基礎、タイプ練習、日本語入力、表計算ソフト（Excel）をデータ入力し、関数の使用方法やデータの分析の方法などを基礎から応用まで学習する。また、プレゼンテーション用ソフトを利用し、インターネットからの情報を取り入れ、実際に発表する。キーワード パソコンの基礎から応用、タイプ練習、Windows、表計算</p> <p>授業一般目標 表計算ソフト（Excel）を使用した検定試験の模擬試験を行い、受講者全員が情報処理検定 2 級程度の資格を取れるように演習を行う。学生生活でも社会に入ってから役立つパソコンの操作方法を修得する。</p> <p>成績評価方法（総合） 模擬検定試験を 2 回行い、この正確性と迅速性で評価する。プレゼンテーションの表現方法や獨創性、積極性で評価点を付加する。</p>					

系列 初期教育

分野 日本事情

科目類型 総説

開設科目	日本事情中級A	区分	講義	開設期	前期
対象学生	外国人留学生	単位	2 単位	曜時限	月曜日 1・2 時限
担当教官	今井新悟				
<p>授業概要 日本社会・文化について理解し、異文化に対して、バランスの取れた感覚をもって対応できるように、情報を集め、資料を読み、理解し、自分の意見を述べ、参加者と意見交換します。</p> <p>授業一般目標 現代の日本事情、現代日本社会の風俗・習慣、日本人の行動様式について、その理解を深めます。山口の地域固有の文化・社会についての情報を収集し、その理解を深め、収集した資料をまとめ報告する力を身につけます。日本や自国の文化学習を通して、地球社会の多様な文化を相対的に見なす能力を培い、グローバルなコミュニケーションができる能力を養います。</p> <p>成績評価方法(総合) 小テスト、定期試験、出席</p> <p>教科書・参考書 教科書：日本事情入門、佐々木瑞枝、アルク、2001年</p> <p>教官連絡先 共通教育棟 325号室、Tel. (083)933-5088 オフィスアワー 月曜日 13:00-14:00</p>					

系列 初期教育

分野 日本事情

科目類型 総説

開設科目	日本事情中級A	区分	講義	開設期	前期
対象学生	外国人留学生	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	門脇 薫				
<p>授業概要 中級前半レベルを終了した人を対象にします。 様々なテーマについて自分の国と他の国(日本も含む)と比較しながら、自分の 意見を日本語で表現できるような練習をします。</p> <p>授業一般目標 *テーマに関連する読み物や資料を参考にして、自分の意見が表現できる。(ディスカッション、発表、作文等) *自国と他の国について比較でき、考察できる。 *必要な情報について自分で調べることができる。</p> <p>成績評価方法(総合) *テーマごとの課題 *発表 *レポート</p> <p>教科書・参考書 教科書：トピックによる日本語総合演習、安藤節子他、スリーエーネットワーク、2001年</p> <p>教官連絡先 kkaoru@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	日本事情上級A	区分	講義	開設期	前期
対象学生	外国人留学生	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教官	渡辺淳一				
<p>授業概要 現代の日本事情、現代社会の風俗・習慣、日本人の行動様式について、その理解を深めます。</p> <p>授業一般目標 1．現代の日本文化・社会を観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較し、考察します。 2．現代の日本社会の風俗・習慣、日本人の行動様式を理解します。 3．日本社会の中に積極的に入り、文化・社会体験を深めます。</p> <p>成績評価方法（総合） 与えられたテーマに基づいてレポートを提出していただきます。そのレポートの評価によって学期の成績の評価をします。</p> <p>教科書・参考書 教科書：日本への招待, 近藤安月子他,, 東京大学出版会, 2001 年</p> <p>教官連絡先 メールアドレス: junichiw@yamaguchi-u.ac.jp 電話番号: 9 3 3 - 5 9 8 4 オフィスアワー: 金曜日、2 : 0 0 ~</p>					

前期 - 外国語教育系列（英語）

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	学教(教科(国・社・数・理・音))	単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	岩部浩三				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分の45分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> ・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況(課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど)をもとに欠席回数(-0.25回)に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります(小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド&amp;問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ(発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書(『TOEIC 公式ガイド&amp;問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>教官連絡先 iwabe@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	学教(教科(美・保・技・家・英)・幼児)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	岡紘一郎				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分の45分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> ・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況(課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど)をもとに欠席回数(-0.25回)に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります(小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド&amp;問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ(発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書(『TOEIC 公式ガイド&amp;問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	学教(障害・国理)・実践	単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	池園宏				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半部分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> ・2 回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況(課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど)をもとに欠席回数(-0.25 回)に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります(小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド&amp;問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ(発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書(『TOEIC 公式ガイド&amp;問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	情報	単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	尊田望				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半部分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> ・2 回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況(課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど)をもとに欠席回数(-0.25 回)に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります(小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド&amp;問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ(発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書(『TOEIC 公式ガイド&amp;問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>教官連絡先 TEL (083)932-0038 FAX (083)932-0089 携帯 (090) 4654-8264 個人メール: <a href="mailto:sonda.nozomu@ybb.ne.jp">sonda.nozomu@ybb.ne.jp</a></p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	健康	単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	河野庸二				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半部分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。 ・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。 ・ TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書 教科書:</b> Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / <b>参考書:</b> TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。 ・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・遅刻をしないでください</p> <p><b>教官連絡先</b> 個人的な質問がある場合は、授業の直後に申し出てください。</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	総文	単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	堤千佳子				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半部分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。 ・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。 ・ TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書 教科書:</b> Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / <b>参考書:</b> TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。 ・この授業と自習課題の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・遅刻をしないでください</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	医学 (1-35)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	正宗聡				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分の45分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況(課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど)をもとに欠席回数(-0.25回)に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります(小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド&amp;問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書(『TOEIC 公式ガイド&amp;問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>教官連絡先 未定</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	医学 (36-70)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	武井暁子				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分の45分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況(課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど)をもとに欠席回数(-0.25回)に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります(小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド&amp;問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書(『TOEIC 公式ガイド&amp;問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>教官連絡先 akitaakei@yamaguchi-u.ac.jp 水曜昼休み 上記以外面談希望はアポイントメントを取る</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	医学 (71-)・看護 (1-20)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	正宗 聡				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。 ・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。 ・ TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。 ・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・遅刻をしないでください</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	看護 (21-55)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	増田勉				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。 ・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。 ・ TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。 ・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・座席は固定とします (初回の授業で決めます)。 ・遅刻をしないでください</p> <p>教官連絡先 教育学部 2 階増田研究室 電話 933-5425 月曜日 14:30-17:30</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	看護 (56-)・検査 (1-10)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	高橋俊章				

**授業概要** この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。コンピュータを用いて演習を行うため、各自ヘッドセット（ウォークマン等に付属のものでよい）を準備して授業に出席すること。また、大学のメールを読むために必要なログイン名とパスワードも授業前日までにメディア基盤センターで確認しておくこと（コンピュータのログインに必要になります）

**授業一般目標** (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。

**成績評価方法（総合）** ・2 回以上（欠席届による公欠を含む）欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況（課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど）をもとに欠席回数（- 0.25 回）に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる（この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ）。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります（小テストを宿題とする場合など）。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。

**教科書・参考書** 教科書：Circuit Training for the TOEIC(R) Test（TOEIC(R) テストサーキットトレーニング）、Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書：TOEIC 公式ガイド & 問題集：日本語版, The Chauncey Group International 著；国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ（発売）、2000 年；市販の TOEIC 図書（『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など）Smart\_HTML 教材, Video on Demand による「英会話」番組（使用については、図書館の情報リテラシー係へ）

**メッセージ** ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください

教官連絡先 bld10@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	検査 (11-)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	中村幸士郎				

**授業概要** この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。

**授業一般目標** (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。

**成績評価方法（総合）** ・2 回以上（欠席届による公欠を含む）欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況（課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど）をもとに欠席回数（- 0.25 回）に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる（この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ）。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります（小テストを宿題とする場合など）。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。

**教科書・参考書** 教科書：Circuit Training for the TOEIC(R) Test（TOEIC(R) テストサーキットトレーニング）、Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書：TOEIC 公式ガイド & 問題集：日本語版, The Chauncey Group International 著；国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ（発売）、2000 年；市販の TOEIC 図書（『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など）ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組（使用については、図書館の情報リテラシー係へ）

**メッセージ** ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください

教官連絡先 メール：ishinkouen@yahoo.co.jp 非常勤控室、授業直後か予約による昼食時

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	経 (1-35)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	宮崎充保				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半部分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。 ・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。 ・ TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。 ・この授業と自習課題の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・遅刻をしないでください</p> <p>教官連絡先 mmiy@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 (経済 A323)</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	経 (36-70)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	正宗 聡				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半部分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。 ・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。 ・ TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。 ・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・遅刻をしないでください</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	経 (71-105)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	高橋俊章・猫田和明				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半部分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。 ・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。 ・ TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。 ・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・遅刻をしないでください</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	経 (106-140)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	岩部浩三				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半部分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。 ・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。 ・ TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。 ・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・遅刻をしないでください</p> <p>教官連絡先 iwabe@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	経 (141-175)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	宮崎 充保				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分の45分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況(課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど)をもとに欠席回数(-0.25回)に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります(小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド&amp;問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000年; 市販の TOEIC 図書(『TOEIC 公式ガイド&amp;問題集1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業と自習課題の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>教官連絡先 未定</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	経 (176-210)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	前田 満				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分の45分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況(課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど)をもとに欠席回数(-0.25回)に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります(小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド&amp;問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000年; 市販の TOEIC 図書(『TOEIC 公式ガイド&amp;問題集1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	経 (211-245)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	高橋 博美				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。 ・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。 ・ TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。 ・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・遅刻をしないでください</p> <p>教官連絡先 hiromi.t@c-able.ne.jp</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	経 (246-280)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	猫田和明				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。コンピュータを用いて演習を行うため、各自ヘッドセット (ウォークマン等に付属のものでよい) を準備して授業に出席すること。また、大学のメールを読むために必要なログイン名とパスワードも授業前日までにメディア基盤センターで確認しておくこと (コンピュータのログインに必要になります)</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) コンピューターを用いて、TOEIC テストの問題に取り組むことにより、TOEIC の出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、授業中にコンピュータ上で行う TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。 ・ 授業中行う演習の量と正解率を評価し算入致します。 ・ 自習課題および担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。 ・ TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ) Smart-HTML 形式の問題については、<a href="https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jp/onecampus/elrnloginservlet">https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jp/onecampus/elrnloginservlet</a> 参照 (URL は変更になる可能性があります)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「e-mail」を利用してください。 ・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・コンピュータを用いて行う授業ですので授業前に教室に入り、ログインして授業の開始に備えて下さい。</p> <p>教官連絡先 nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 内線 5417</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	経 (281-315)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	武井暁子				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半部分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。 ・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。 ・ TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p>教官連絡先 akitahei@yamaguchi-u.ac.jp 水曜昼休み 上記以外に面会希望はアポイントメントを取る</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	経 (316-355)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	渡辺朱実				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半部分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。 ・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。 ・ TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・ この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。 ・ この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・ 遅刻をしないでください</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	経 (356-)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	池園宏				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半部分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。 ・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。 ・ TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。 ・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・遅刻をしないでください</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	生資 (1-35)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	中村幸士郎				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半部分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。 ・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。 ・ TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。 ・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・遅刻をしないでください</p> <p>教官連絡先 メール: ishinkouen@yahoo.co.jp 非常勤控室、授業終了後</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	生資 (36-)・生機 (1-15)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	尊田望				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半部分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>教官連絡先 TEL (083)932-0038 FAX (083)932-0089 携帯 (090) 4654-8264 個人メール: sonda_nozomu@ybb.ne.jp</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	生機 (16-)	単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	岡紘一郎				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半部分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	獣医	単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	河野庸二				

**授業概要** この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半部分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。

**授業一般目標** (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。

**成績評価方法 (総合)** ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。 ・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。 ・ TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。

**教科書・参考書 教科書:** Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / **参考書:** TOEIC 公式ガイド & 問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)

**メッセージ** ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。 ・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・遅刻をしないでください

**教官連絡先** 個人的な質問がある場合は、授業の直後に申し出てください。

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	人社 (1-35)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	宮崎 充保				

**授業概要** この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半部分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。

**授業一般目標** (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。

**成績評価方法 (総合)** ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。 ・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。 ・ TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。

**教科書・参考書 教科書:** Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / **参考書:** TOEIC 公式ガイド & 問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)

**メッセージ** ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。 ・この授業と自習課題の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・遅刻をしないでください

**教官連絡先** 経済 A323 mmij@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	人社 (36-70)	単位	1 単位	曜時間	火曜日 5・6 時限
担当教官	宮原一成				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認するために、TOEIC テストの全貌について学ぶ。そのテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施される、最初の半分が45分のListening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。なおこのクラスは、鴨川教員のクラスと合併して授業を行う。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を各自設定する。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> ・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況(課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど)をもとに欠席回数(-0.25回)に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: 市販の TOEIC 図書(『TOEIC 公式ガイド&amp;問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は必ず予習しておいてください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。「TOEIC の問題形式や実用文に慣れること」が目標で、何らかの水準点を目指す授業ではありません。それよりも、基本的な聞き取り、読み取りの地道な鍛錬を目指しています。・言わずもがなだが、遅刻厳禁。無断での途中退席厳禁。これらはちゃんと1回分出席したとは見なさない。</p> <p>教官連絡先 初回の授業で通知します。</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	人社 (71-)	単位	1 単位	曜時間	火曜日 5・6 時限
担当教官	鴨川 啓信				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認するために、TOEIC テストの全貌について学ぶ。そのテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施される、最初の半分が45分のListening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。なおこのクラスは、宮原教員のクラスと合併して授業を行う。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> ・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況(課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど)をもとに欠席回数(-0.25回)に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります(小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド&amp;問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ(発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書(『TOEIC 公式ガイド&amp;問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>教官連絡先 e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 経済 A207</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	言語 (1-35)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	島 越郎				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分の45分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況(課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど)をもとに欠席回数(-0.25回)に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります(小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド&amp;問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000年; 市販の TOEIC 図書(『TOEIC 公式ガイド&amp;問題集1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業と自習課題の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>教官連絡先 eshima@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	言語 (36-70)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	松谷緑				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分の45分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週6日1日1時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら6月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・2回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況(課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど)をもとに欠席回数(-0.25回)に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります(小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド&amp;問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000年; 市販の TOEIC 図書(『TOEIC 公式ガイド&amp;問題集1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>教官連絡先 mmatsu@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	言語 (71-)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	田中晉				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半部分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。 ・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。 ・ TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。 ・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・遅刻をしないでください</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	数理 (1-40)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	倉増 泰弘				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半部分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。 ・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。 ・ TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。 ・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・遅刻をしないでください</p> <p>教官連絡先 yas_u_kura0707@yahoo.co.jp</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	数理 (41-)・物情 (1-25)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	太田聡				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半部分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。・ TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業および自習課題の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>教官連絡先 ohta@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	物情 (26-)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	中村幸士郎				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半部分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。・ TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>教官連絡先 メール: ishinkouen@yahoo.co.jp 非常勤控室、授業終了後</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	地球	単位	1 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	皆尾 麻弥				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半部分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。 ・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。 ・ TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書 教科書:</b> Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / <b>参考書:</b> TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。 ・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・遅刻をしないでください</p> <p><b>備考</b> 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	生化 (1-40)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	矢野紀子				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半部分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。 ・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。 ・ TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書 教科書:</b> Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / <b>参考書:</b> TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。 ・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・遅刻をしないでください</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	生化 (41-)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	石井由理				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半部分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。 ・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。 ・ TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。 ・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・遅刻をしないでください</p> <p>教官連絡先 教育学部 200 - 1 研究室</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	機械 (1-40)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	太田聡				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半部分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。 ・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。 ・ TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。 ・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・遅刻をしないでください</p> <p>教官連絡先 ohta@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	機械 (41-80)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	鴨川 啓信				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認するために、TOEIC テストの全貌について学ぶ。そのテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施される、最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。なおこのクラスは、宮原教員のクラスと合併して授業を行う。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・ 2 回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況(課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど)をもとに欠席回数(-0.25 回)に換算して評価する。・ TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります(小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド&amp;問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書(『TOEIC 公式ガイド&amp;問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>教官連絡先 e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 経済 A207</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	機械 (81-)・応化 (1-30)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	宮原一成				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認するために、TOEIC テストの全貌について学ぶ。そのテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施される、最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。なおこのクラスは、鴨川教員のクラスと合併して授業を行う。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を各自設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・ 2 回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況(課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど)をもとに欠席回数(-0.25 回)に換算して評価する。・ TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: 市販の TOEIC 図書(『TOEIC 公式ガイド&amp;問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は必ず予習しておいてください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。「TOEIC の問題形式や実用文に慣れること」が目標で、何らかの水準点を目指す授業ではありません。それよりも、基本的な聞き取り、読み取りの地道な鍛錬を目指しています。・言わずもがなだが、遅刻厳禁。無断での途中退席厳禁。これらはちゃんと 1 回分出席したとは見なさない。</p> <p>教官連絡先 初回の授業で通知します。</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	応化 (31-70)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	矢野紀子				

**授業概要** この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半部分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。

**授業一般目標** (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。

**成績評価方法 (総合)** ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。・ TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。

**教科書・参考書 教科書:** Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / **参考書:** TOEIC 公式ガイド & 問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)

**メッセージ** ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	応化 (71-)・社建 (1-15)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	田中晉				

**授業概要** この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半部分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。

**授業一般目標** (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。

**成績評価方法 (総合)** ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。・ TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。

**教科書・参考書 教科書:** Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / **参考書:** TOEIC 公式ガイド & 問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)

**メッセージ** ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	社建 (16-55)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	倉増 泰弘				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半部分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。 ・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。 ・ TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。 ・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・遅刻をしないでください</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	社建 (56)・電気 (1-10)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	松谷 緑				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半部分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。 ・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。 ・ TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。 ・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・遅刻をしないでください</p> <p>教官連絡先 mmatsu@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	電気 (11-50)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	宮崎 充保				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・ 2 回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況(課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど)をもとに欠席回数(-0.25 回)に換算して評価する。・ TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります(小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド&amp;問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書(『TOEIC 公式ガイド&amp;問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業と自習課題の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください</p> <p>教官連絡先 経済 A323 mmiy@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	電気 (51)・知能 (1-5)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	猫田和明				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。コンピュータを用いて演習を行うため、各自ヘッドセット(ウォークマン等に付属のものでよい)を準備して授業に出席すること。また、大学のメールを読むために必要なログイン名とパスワードも授業前日までにメディア基盤センターで確認しておくこと(コンピュータのログインに必要になります)</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) コンピューターを用いて、TOEIC テストの問題に取り組むことにより、TOEIC の出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、授業中にコンピュータ上で行う TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・ 2 回以上(欠席届による公欠を含む)欠席した学生の成績は不可となる。・ 授業中行う演習の量と正解率を評価し算入致します。・ 自習課題および担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況(課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど)をもとに欠席回数(-0.25 回)に換算して評価する。・ TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる(この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題以外の課題を宿題として課すこともあります(小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド&amp;問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書(『TOEIC 公式ガイド&amp;問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ) Smart-HTML 形式の問題については、<a href="https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jp/onecampus/elrnloginservlet">https://shtml.cc.yamaguchi-u.ac.jp/onecampus/elrnloginservlet</a> 参照 (URL は変更になる可能性があります)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「e-mail」を利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・コンピュータを用いて行う授業ですので授業前に教室に入り、ログインして授業の開始に備えて下さい。</p> <p>教官連絡先 nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 内線 5417</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	知能 (6-45)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	石井由理				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半部分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。 ・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。 ・ TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。 ・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・遅刻をしないでください</p> <p>教官連絡先 教育学部 200 - 1 研究室</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	知能 (46-)・機材 (1-10)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	前田 満				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半部分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。 ・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。 ・ TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。 ・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・遅刻をしないでください</p> <p>教官連絡先 mmiy@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 (経済 A323)</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	機材 (11-50)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	皆尾 麻弥				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半部分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。 ・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。 ・ TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。 ・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・遅刻をしないでください</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	機材 (51-)・感性 (1-10)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	池園宏				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半部分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。 ・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。 ・ TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書: TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。 ・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。 ・遅刻をしないでください</p>					

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	感性 (11-)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	高橋俊章				

**授業概要** この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。コンピュータを用いて演習を行うため、各自ヘッドセット（ウォークマン等に付属のものでよい）を準備して授業に出席すること。また、大学のメールを読むために必要なログイン名とパスワードも授業前日までにメディア基盤センターで確認しておくこと（コンピュータのログインに必要になります）

**授業一般目標** (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。

**成績評価方法（総合）** ・2 回以上（欠席届による公欠を含む）欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況（課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど）をもとに欠席回数（- 0.25 回）に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる（この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない）。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります（小テストを宿題とする場合など）。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。

**教科書・参考書** 教科書：Circuit Training for the TOEIC(R) Test（TOEIC(R) テストサーキットトレーニング）、Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書：TOEIC 公式ガイド & 問題集：日本語版, The Chauncey Group International 著；国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ（発売）、2000 年；市販の TOEIC 図書（『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など）Smart\_HTML 教材, Video on Demand による「英会話」番組（使用については、図書館の情報リテラシー係へ）

**メッセージ** ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください

教官連絡先 bld10@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	医・工 2 年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限
担当教官	内海 俊祐				

**授業概要** この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半分が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。

**授業一般目標** (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。

**成績評価方法（総合）** ・2 回以上（欠席届による公欠を含む）欠席した学生の成績は不可となる。・自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況（課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど）をもとに欠席回数（- 0.25 回）に換算して評価する。・TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる（この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われない）。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります（小テストを宿題とする場合など）。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。

**教科書・参考書** 教科書：Circuit Training for the TOEIC(R) Test（TOEIC(R) テストサーキットトレーニング）、Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / 参考書：TOEIC 公式ガイド & 問題集：日本語版, The Chauncey Group International 著；国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ（発売）、2000 年；市販の TOEIC 図書（『TOEIC 公式ガイド & 問題集 1・2』など）ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組（使用については、図書館の情報リテラシー係へ）

**メッセージ** ・この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・遅刻をしないでください

開設科目	TOEIC 準備	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	医・工2年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 11・12 時限
担当教官	唐下 笑美子				
<p><b>授業概要</b> この授業では、TOEIC テストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認する。そのために、TOEIC テストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文（話し言葉、書き言葉）に慣れる。TOEIC テストは「聞く」「読む」という2つのスキルについてのみ実施されるが、他の「話す」「書く」というスキルも間接的なスキルとして評価される。TOEIC テストの最初の半が 45 分の Listening Comprehension に当てられるため、特にこの授業では聞き取りに力を入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) TOEIC テストの出題形式に慣れ、パートごとに問題への対応の仕方を理解する。特に、スピーディーな英語を聞き取り、情報を処理することに慣れる。(2) 自習課題を通して、「自学自習」の習慣を身につける。Listening Comprehension に慣れるため、自習課題を通して、少なくとも週 6 日 1 日 1 時間の英語の「自学自習」の習慣を身につける。(3) 自習課題の成績や、TOEIC の各パートの正答率などをもとに自己の英語力を確認し、受講者自ら 6 月 TOEIC IP テストでの目標点を設定する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・ 2 回以上 (欠席届による公欠を含む) 欠席した学生の成績は不可となる。・ 自習課題ノートおよび担当者から指示されたその他の課題は、課題の実行状況 (課題をきちんとやっているか、復習をきちんとやっているかなど) をもとに欠席回数 (- 0.25 回) に換算して評価する。・ TOEIC IP 試験を受験しなかった学生は、成績保留となる (この授業科目に関しては、TOEIC の得点による単位認定は行われぬ)。自主課題ノート以外の課題を宿題として課すこともあります (小テストを宿題とする場合など)。その場合には、その課題の提出も評価の対象となります。</p> <p><b>教科書・参考書 教科書:</b> Circuit Training for the TOEIC(R) Test (TOEIC(R) テストサーキットトレーニング), Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2005 年 / <b>参考書:</b> TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売), 2000 年; 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> ・ この授業は忙しい授業です。そのために、教科書の説明は予習しておいてください。質問やアドバイスは「自習課題ノート」にある質問・感想のページを利用してください。・ この授業の「目的」「意義」をよく理解して授業に臨んでください。・ 遅刻をしないでください</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	2 年	単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	石井由理				
<p><b>授業概要</b> TOEIC350 点取得を目標に、基本的な単語の学習と TOEIC reading section 形式の練習問題の課題を毎回課し、その解答、解説を中心に授業を進める。</p> <p><b>授業一般目標</b> TOEIC350 点取得に必要なとされる基本的な単語を修得する。TOEIC の練習問題を通して、基本的な文法事項を学習する。TOEIC の練習問題を通して、英語の文章の読み取り能力を向上させる。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> TOEIC350 点以上を合格とする。それ以外の評価は、課題に対する取り組み状況による。</p> <p><b>教科書・参考書 教科書:</b> 練習問題を適宜プリントで配布する。</p> <p><b>教官連絡先</b> 教育学部 200 - 1 室 オフィスアワーは初回授業時に指示</p> <p><b>備考</b> 理学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 基礎

開設科目	TOEIC 指導 B	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	2 年	単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	猫田和明				
<p>授業概要 TOEIC の PART1,2,5,6 を中心に、リスニング演習と基本的な語彙・文法演習を行う。</p> <p>授業一般目標 TOEIC300 点以上をとれる力をつける。</p> <p>成績評価方法(総合) 原則として TOEIC のスコアによる。宿題や授業への参加度を加味することがある。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 「TOEIC 準備」の教科書及びその他のプリント教材を用いる。</p> <p>教官連絡先 nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 933-5417 研究室(教育 A354)</p>					

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 基礎

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	2 年	単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	増田勉				
<p>授業概要 構文・語彙は簡単でも知的レベルの高い英文で大学英語の基礎固めを図る。</p> <p>授業一般目標 TOEIC 400 点以上の力の養成。</p> <p>成績評価方法(総合) 授業時発表、ワークシートまたは小テスト、出席状況等を総合して評価。2 回欠席したらその時点で欠格とする(単位は認定しない)</p> <p>教科書・参考書 教科書: First Things First, 藤井 哲郎, マクミラン・ランゲージ・ハウス, 2004 年</p> <p>メッセージ 予習を前提として授業を進めます(予習してくる気のない人は受講を遠慮してください)。出席していても、居眠りをしている場合は欠席扱いとします。辞書は必ず持参すること。</p> <p>教官連絡先 教育学部 2 階研究室 TEL.933-5425 月曜日 16:00-17:00</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	医・工 2 年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限
担当教官	池田 守				
<p><b>授業概要</b> この授業では TOEIC 受験を前提とした授業を行う。TOEIC 試験でスコアを上げ、コミュニケーション能力を高めるため、リスニング及びリーディングの力を身に付けさせる。特に、TOEIC 試験パート 1(写真描写問題)、パート 2(応答問題)、パート 5(単文穴埋め問題)、パート 6(長文穴埋め問題)に答えられる英語力を養う。</p> <p><b>授業一般目標</b> TOEIC テストにおいて 350 点以上を取ることを目標とする。英語の文法の基本を理解し、語彙を拡大する。英語を聞き取り、内容を正しく判断する力を育てる。速読直解の習慣を身に付ける。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> TOEIC スコアに基づき算出する。(2 回以上の欠席は認められない。)</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Total Strategy for the TOEIC Test, Takayuki Ishii et al., 成美堂, 2006 年; 「Total Strategy for the TOEIC Test」, 石井隆之・他著、成美堂。/ 参考書: TOEIC Test 英文法出るところだけ, 小石裕子, アルク, 2003 年; 「TOEIC Test 英文法でるところだけ」, 小石裕子著、アルク。</p> <p><b>メッセージ</b> 予習をして授業に出よう。英語の CD を毎日聞いて、リスニングの力を伸ばそう。</p> <p><b>教官連絡先</b> E-mail: ikeda@frontier-u.jp</p>					

開設科目	TOEIC 指導 B	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	医・工 (平成 14・15 年度入学者)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 11・12 時限
担当教官	宮原一成				
<p><b>授業概要</b> TOEIC で 350 点を取れなかった学生のための補習的授業である。だが、試験対策だけの授業ほど大学にそぐわないものはない。よって、この授業では単なる TOEIC 形式の問題演習や、TOEIC 受験ノウハウ習熟に特定した訓練は行わない。地道な復習と訓練を行う。</p> <p><b>授業一般目標</b> ・高校 1 年生まで程度の文法項目を復習する。・英語の短文を聞き取る力を、TOEIC350 点に相応しいレベルにする。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・TOEIC で 350 点を取ることが、この授業の合格の要件となる。(下の「その他」項目に該当)(ちなみに、2002 年度 TOEIC-IP の高校 2 年生の平均点は、358 点である。標準的な高 2 レベルに達すれば、TOEIC350 はクリアできるだろう。)・TOEIC で 600 を超えれば秀、500 を超えれば優、400 を超えれば良、350 点以上で可。それ未満は不可。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: (1) 『TOEIC テスト 3 ヶ月トレーニング 350 点編』, 千田潤一・他, SS コミュニケーションズ, 2001 年; (2) 『スーパーシグマ これでわかる英語 I』, 文英堂編集部, 文英堂, 1994 年; 教科書購入は二冊とも必須。/ 参考書: 『TOEIC TEST 英単語・イディオム直前 350』, 安河内哲也, Jリサーチ出版, 2002 年</p> <p><b>メッセージ</b> ・真剣に地道な反復練習をする気のない人、「今さら高校英語なんて」と考える人は、受講しないこと。・TOEIC 形式の問題演習で訓練したいという人も、別の教官による「TOEIC 指導 A」に乗り換えてください。</p> <p><b>教官連絡先</b> 初回の授業時に、受講生に知らせる。</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	河野庸二				
<p>授業概要 TOEIC 350 点以上の力をつけるよう学習する。</p> <p>授業一般目標 TOEIC 350 点を突破するべく、これまでの学習を点検し、補強すると共に、更に 各分野で力をつけていく。</p> <p>成績評価方法 (総合) TOEIC のスコア、授業への参加度、出席状況等総合的に評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書： Essential Skills, 村川久子, 金星堂, 2006 年</p> <p>メッセージ TOEIC においては自分が努力しなければ絶対に力がかからないことを肝に銘じておくこと。</p> <p>教官連絡先 個人的な質問があれば、授業終了直後に申し出てほしい。</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 B	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	岡 紘一郎				
<p>授業概要 TOEIC テストのスコア アップを目指してリスニングとリーディングのレッスンを交互に行う。受講者は時間をかけて予習をしておく。リスニングの章では章毎に「音の短読」などの問題点をテーマとして扱う。読解の章でも文法の問題点などに注目する。</p> <p>授業一般目標 リスニング力及び、語彙・文法知識も含めて読解力を身につけ、スコア アップを目指す。リーディングにおいては文の趣旨を素早く把握し、キーワードに注目する力を養う。</p> <p>成績評価方法 (総合) TOEIC 形式のテストのスコアによる。段々出席しなくなる受講者がいるが、出席も重視するので、たとえスコアが良くても、評価が低くなることもある。</p> <p>教科書・参考書 教科書： Navigator for the TOEIC Test, Donald Beaver 他, 南雲堂, 2006 年</p> <p>メッセージ 予習、復習を十分にすること。授業に毎回出席すること。欠席者が合格する割合はほとんど皆無である。</p> <p>教官連絡先 個人的な質問がある場合は、授業終了直後に申し出てほしい。</p>					

開設科目	TOEIC 指導 B	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	堤 千佳子				
<p><b>授業概要</b> この授業は TOEIC 300 点を旨とする内容で進めていく。ただし、基礎的な内容をしっかり習得しておかなければ、目標のスコアを獲得することは難しい。したがって TOEIC 形式の問題にあたりながらも、英語の基礎をしっかりと確認していく。</p> <p><b>授業一般目標</b> TOEIC 300 点を旨とする。また、英語の基礎をしっかりと確認し、さらにコミュニケーションに使える表現を習得していくことを旨とする。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> TOEIC 300 点。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: First Things First, 藤井哲郎, マクミランランゲージハウス, 2004 年</p> <p><b>メッセージ</b> 目的意識をしっかりと持ち、自己の動機付けをしっかりとすること。リスニングを授業のはじめに行うので、遅刻しないこと。</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	宮崎充保				
<p><b>授業概要</b> この授業では、共通教育主催の TOEIC テストで 300 点の目標に到達しなかった学習者に対して、各自に TOEIC での目標を設定してもらいながら、TOEIC のどのパートに力を入れたがその人にはよいのかを勘案しながら、TOEIC テストに取り組むための、コツとそこに用いられる英語をできるだけわかりやすく説明しながら練習をする。それぞれに違った苦手や不得意のところがあるので、できるだけ学習者ひとりひとりに対してカウンセリングを行う。これは、授業外の場合も多い。それを通して、“なるほどそうか”という言葉が一言出てくれば、その学習者は必ず登り階段を登り始めたことになる。やり方によっては、いきなり、500 点以上にもなりうるので、楽しみながら学習するように授業を進めたい。</p> <p><b>授業一般目標</b> TOEIC テストで、300 点以上のスコアを獲得することを目標とする。そのために、1. 単語を 500 語以上習得する 2. 基本的な文法を課題をやることによって学ぶ。そして、履修者全員で喜びを分かち合い、励みと弾みを得て、次の目標へ向かう意欲を持つようになる。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 8 月に行われる、共通教育主催の TOEIC テストを受験して、スコア 300 点以上取れば、「認定」となる。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC(R) Test, Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2004 年; 特に、毎週配布した“ハンドアウト”を使用する。/ 参考書: TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集: 日本語版, The Chauncey Group International 著; 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会編, 国際コミュニケーションズ (発売); 市販の TOEIC 図書 (『TOEIC 公式ガイド &amp; 問題集 1・2』など) ALC NetAcademy, Video on Demand による「英会話」番組 (使用については、図書館の情報リテラシー係へ)</p> <p><b>メッセージ</b> 本気になってください。いちばん問題なのは、就学する意欲と動機です。それが無い限り、この授業は意味がありません。単位に必要なから、などという低い志ではなく、英語を使ってコミュニケーションを実践しようという意欲を持ってください。</p> <p><b>教官連絡先</b> e-mail: mmiy@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p><b>備考</b> 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	中村 幸士郎				
<p><b>授業概要</b> TOEIC 350～400 点以上を目指す基礎指導充実クラスで、レベルに合わせた丁寧な指導を行う。リスニングや読解の基礎力を身に着けると共に、TOEIC の各パートの攻略法を修得する。テキストは海外旅行や海外生活の様々な場面で必需となる会話表現や語彙を中心に、興味深い実用的な内容となっている。将来必ず役立つ表現を確実に習得できるので、意欲的に楽しく取り組んでほしい。</p> <p><b>授業一般目標</b> 1. TOEIC 350～400 点以上を獲得する実力を養成する。2. 各パート毎の各自の攻略法を習得し、目標点を決める。3. 海外旅行や海外生活の様々な場面で必需となる実用的な会話表現や語彙を楽しく習得する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 1. 出席、課題、授業貢献、TOEIC テストの点数の総合判断。2. TOEIC の点数が 350 点以上の場合のみ、単位を認める。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Kick Off for the TOEIC Test, 松岡 昇, 金星堂, 2006 年 / 参考書: Get Score 450, Larry Knipfing, 創育, 1997 年; TOEIC テスト 450 点対策攻略本, Park Deuk-Woo &amp; Choi Byong-Gil, 旺文社, 2004 年</p> <p><b>メッセージ</b> TOEIC 受験の目標点数を各自明確にしよう。海外旅行や海外生活に必要な英会話表現や語彙を確実に習得しよう。英語学習を日常生活に楽しく取り入れる工夫をしよう。</p> <p><b>教官連絡先</b> 非常勤控室、授業直後、ishinkouen@yahoo.co.jp</p> <p><b>備考</b> 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	尊田 望				
<p><b>授業概要</b> TOEIC350 点未満で、以下の学部生を対象とする: 医学部・経済学部・人文学部・工学部(昼間)・農学部(生物機能科学科・獣医学科)・理学部(化学・地球学科)。TOEIC スコアを上げるための特訓クラスで、TOEIC 準備コースを引き継ぐコースである。TOEIC のパート 1, 2, 5, 6 に焦点を置きつつ、全パートを復習する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 1. Part 1 が 80% 以上理解できるようになる。2. Part 2 が 70% 以上理解できるようになる。3. Part 3 が 60% 以上理解できるようになる。4. Part 4 が 50% 以上理解できるようになる。5. Part 5 が 70% 以上理解できるようになる。6. Part 6 が 60% 以上理解できるようになる。7. Part 7 が 50% 以上理解できるようになる。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 1. 出席 + 課題 + 参加態度 (=100%, それぞれ 3 分の 1 ずつ) 2. TOEIC 点数 (最終的にはこちらが優先します)</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC Test, Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2004 年 / 参考書: Get Score 450, Larry Knipfing, 創育, 1997 年; TOEIC テスト 450 点対策攻略本, Park Deuk-Woo &amp; Choi Byong-Gil, 旺文社, 2004 年; TOEIC テスト・パーフェクト模試 600 問, アンドレア・マイヤーズ &amp; オリブカンパニー, ナガセ, 2000 年; 英検準 2 級全問題集, 旺文社, 2005 年</p> <p><b>メッセージ</b> 課題をきちんとこなし、授業には毎回出てください。</p> <p><b>教官連絡先</b> TEL(083)932-0038 FAX(083)932-0089 E-mail: sonda_nozomu@yahoo.co.jp</p> <p><b>備考</b> 理学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 基礎

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	河野庸二				
<p>授業概要 TOEIC の PART1,2,5,6 を中心に、リスニング演習と基本的な語彙・文法演習を行う。</p> <p>授業一般目標 TOEIC350 点以上をとれる力をつける。</p> <p>成績評価方法(総合) 原則として TOEIC のスコアによる。宿題や授業への参加度を加味することがある。</p> <p>教科書・参考書 教科書: Making Progress with the TOEIC Test, 小島加奈子他, 金星堂, 2006 年</p> <p>教官連絡先 個人的な質問等がある場合は授業の直後に申し出てもらうと対処できる。</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 基礎

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	渡辺朱実				
<p>授業概要 TOEIC スコア 200 点前後の学生を対象とするクラスであり、英文法の基礎から指導を行う。</p> <p>授業一般目標 英文法の基礎知識を身につけることを目標とする。</p> <p>成績評価方法(総合) 出席、参加態度、TOEIC のスコア、等を総合的に判断する。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 「英文法のトリセツ」(阿川イチロヲ著、アルク出版社)を使用する予定。第1週目の講義にて指示するのでそれまでは購入しないように。/ 参考書: 英文法、TOEIC 関連の参考書・問題集</p> <p>メッセージ ゆっくり一緒に学びましょう。一夜漬けならぬ短期集中型の取り組みは一瞬のものでしかないので、現時点の TOEIC 取得点数、英語力に一喜一憂せず、継続して努力してください。</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 基礎

開設科目	TOEIC 指導 B	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	岡 紘一郎				
<p>授業概要 TOEIC テストノスコア アップを目指してリスニングとリーディングのレッスンを交互に行う。受講者は時間をかけて予習しておく。リスニングの章では章毎に「音の短読」などの問題点をテーマとして扱う。読解の章でも文法の問題点などに注目する。</p> <p>授業一般目標 リスニング力及び、語彙・文法知識も含めて読解力を身につけ、スコア アップを目指す。読解においては文の趣旨を素早く把握し、キーワードに注目する力を養う。</p> <p>成績評価方法(総合) TOEIC のスコアに基づき算出する。</p> <p>教科書・参考書 教科書: Navigator for the TOEIC Test, Donald Beaver 他, 南雲堂, 2006 年 / 参考書: 授業中に紹介</p> <p>メッセージ 授業前後の予、復習を十分にやること。授業に毎回出席すること。欠席者が合格する割合はほとんど皆無である。</p> <p>教官連絡先 授業前後に連絡すること。</p>					

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 基礎

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	岡 紘一郎				
備考 理学部 JABEE 対応科目					

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 基礎

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	矢野 紀子				
<p>授業概要 TOEIC のスコアを高めるための指導を行う。特に、リスニングパート 1, 2, 3 とリーディングパート 5, 6 に重点を置いた演習を行う。</p> <p>授業一般目標 TOEIC で 350 点以上の成績を収める。</p> <p>成績評価方法 (総合) TOEIC のスコア (合格基準点 350 点) に基づき、算出する。</p> <p>教科書・参考書 教科書: プリント配布。</p> <p>メッセージ 次の週に、前の週の授業で学んだ内容の理解度を確認する小テスト (10 問程度) を行うので必ず復習してきてください。</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 基礎

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	倉増泰弘				
<p>授業概要 TOEIC のスコアを高めるための指導をする。主に、TOEIC のパート 1, 2, 5, 6 を中心に演習を行うが、必要に応じて他のパートの演習も行う。</p> <p>授業一般目標 TOEIC で 350 点以上の成績を収める。</p> <p>成績評価方法 (総合) TOEIC のスコア (合格基準点 350 点) に基づき、算出する。</p> <p>教科書・参考書 教科書: TOEIC 準備のテキスト。必要に応じてプリント配布。</p> <p>メッセージ 出された課題はきちんとこなし、授業は集中して受けましょう。</p> <p>教官連絡先 yasukura0707@yahoo.co.jp</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 B	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	鴨川 啓信				
<p><b>授業概要</b> 例えば TV ドラマ等で、初回を見逃したら 2 回目以降の内容にうまくついて行けないものがある。英語にもこのことは当てはまる。前提となるべき事実関係が分かっていなければ、個別の内容を細かく学んでも、全体として何が起きているのかよく分からないままである。そこで、この授業は所謂「初回の内容」を補うためのものとする。一見遠回りにも見えるかもしれないが、「急がば回れ」という諺があるように、英語の基礎をはっきりと理解し、確かな力を身に付けることは、目標を達成する有効な手段である。</p> <p><b>授業一般目標</b> 英語の基礎を理解し、TOEIC で基準スコア (300) を超える。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 期末に受験する TOEIC のスコアに基づき算出する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：教材はプリントにて配布</p> <p><b>メッセージ</b> 言語を身に付けるのは、楽な作業ではありません。相応の努力を惜しまないで下さい。</p> <p><b>教官連絡先</b> e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 経済 A207</p>					

開設科目	TOEIC 指導 B	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	高橋 博美				
<p><b>授業概要</b> TOEIC テストで 300 点に到達しなかった学生を対象とする。TOEIC テストの問題に準じて、リスニング力と読解力を養う。また、必要に応じて、英文法の基本的事項についても理解を徹底させる。</p> <p><b>授業一般目標</b> TOEIC テストで、300 点以上のスコアを獲得することを目標とする。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> TOEIC のスコアに基づき算出する。ただし、授業での学習状況も加味する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：プリント配布 / 参考書：プリント配布</p> <p><b>メッセージ</b> 英語の学習を通して、理解力や想像力を深めて下さい。</p> <p><b>教官連絡先</b> hiromi.t@c-able.ne.jp</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	鴨川 啓信				
<p>授業概要 例えば TV ドラマ等で、初回を見逃したら 2 回目以降の内容にうまくついて行けないものがある。英語にもこのことは当てはまる。前提となるべき事実関係が分かっていなければ、個別の内容を細かく学んでも、全体として何が起きているのかよく分からないままである。そこで、この授業は所謂「初回の内容」を補うためのものとする。一見遠回りにも見えるかもしれないが、「急がば回れ」という諺があるように、英語の基礎をはっきりと理解し、確かな力を身に付けることは、目標を達成する有効な手段である。</p> <p>授業一般目標 英語の基礎を理解し、TOEIC で基準スコア (350) を超える。</p> <p>成績評価方法 (総合) 期末に受験する TOEIC のスコアに基づき算出する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：教材はプリントにて配布</p> <p>メッセージ 言語を身に付けるのは、楽な作業ではありません。相応の努力を惜しまないで下さい。</p> <p>教官連絡先 e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 経済 A207</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	高橋俊章				
<p>授業概要 TOEIC のスコアを高めるための指導を行う。特に、パート 1, 2, 5, 6 及び 7 に重点を置いた演習を行う。</p> <p>授業一般目標 TOEIC の基準点 (300, 350, 400) の獲得。</p> <p>成績評価方法 (総合) TOEIC の基準点 (300, 350, 400) の獲得が必須。出席率、提出物、授業への参加度を加味する。</p> <p>メッセージ 予習と課題を必ずしてください。Smart-HTML という e-learning ソフト (『英文法徹底トレーニング』など) で予習・復習を行って下さい。</p> <p>教官連絡先 bld10@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 基礎

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	高橋 博美				
備考 理学部 JABEE 対応科目					

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 基礎

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	正宗 聡				
<p>授業概要 TOEIC のスコアを高めるための指導を行う。特に、パート 4 と 7 に重点を置いた演習を行う。</p> <p>授業一般目標 TOEIC で 350 点以上の成績を収める。</p> <p>成績評価方法 (総合) TOEIC のスコア (合格基準点 350 点) に基づき、算出する。</p> <p>教科書・参考書 教科書: TOEIC テスト最短最速攻略テク, 山根 和明, 二見書房, 2005 年; 上記テキストを購入しておくこと。/ 参考書: 随時、紹介する。</p> <p>メッセージ TOEIC と言えども、辞書を必ず持ってきてください。</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 基礎

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	岡 紘一郎				
備考 理学部 JABEE 対応科目					

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 基礎

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	高橋博美				
<p>授業概要 TOEIC のスコアを高めるための指導を行う。特に、パート 1, 2, 5, 6 に重点を置いた演習を行う。</p> <p>授業一般目標 TOEIC で 350 点以上の成績を収める。</p> <p>成績評価方法 (総合) TOEIC のスコア (合格基準点 350 点) に基づき、算出する。</p> <p>教科書・参考書 教科書: TOEIC 準備のテキスト。その他プリント配布。</p> <p>メッセージ 予習と課題を必ずしてください。</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 基礎

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	倉増泰弘				
<p>授業概要 TOEIC のスコアを高めるための指導をする。主に、TOEIC のパート 1, 2, 5, 6 を中心に演習を行うが、必要に応じて他のパートの演習も行う。</p> <p>授業一般目標 TOEIC で 350 点以上の成績を収める。</p> <p>成績評価方法 (総合) TOEIC のスコア (合格基準点 350 点) に基づき、算出する。</p> <p>教科書・参考書 教科書: TOEIC 準備のテキスト。必要に応じてプリント配布。</p> <p>メッセージ 出された課題はきちんとこなし、授業は集中して受けましょう。</p> <p>教官連絡先 yasukura0707@yahoo.co.jp</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 基礎

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	医・工 2 年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限
担当教官	池田 守				
<p>授業概要 この授業では TOEIC 受験を前提とした授業を行う。TOEIC 試験でスコアを上げ、コミュニケーション能力を高めるため、リスニング及びリーディングの力を身に付けさせる。特に、TOEIC 試験パート 1(写真描写問題)、パート 2(応答問題)、パート 5(単文穴埋め問題)、パート 6(長文穴埋め問題) に答えられる英語力を養う。</p> <p>授業一般目標 TOEIC テストにおいて 350 点以上を取ることを目標とする。英語の文法の基本を理解し、語彙を拡大する。英語を聞き取り、内容を正しく判断する力を育てる。速読直解の習慣を身に付ける。</p> <p>成績評価方法 (総合) TOEIC スコアに基づき算出する。(2 回以上の欠席は認められない。)</p> <p>教科書・参考書 教科書: TOEIC Test: Subjects and Strategies, Jim Knudsen &amp; Kei Mihara, 南雲堂, 2006 年 / 参考書: TOEIC Test 英文法出ることだけ, 小石裕子, アルク, 2003 年</p> <p>メッセージ 予習をして授業に出よう。英語の CD を毎日聞いて、リスニングの力を伸ばそう。</p> <p>教官連絡先 E-mail: ikeda@frontier-u.jp</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	医・工 2 年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限
担当教官	正宗聡				
<p>授業概要 TOEIC SCORE 400 を目指して、少しでも英語について、関心を抱くようにするための演習型授業。            授業一般目標 この授業を受ける前よりは、ほんのわずかでも英語というものについて自信が増すようにする。            成績評価方法 (総合) 授業態度 + 最終回に行うまとめのテスト            教科書・参考書 教科書: TOEIC Circuit Training (TOEIC 準備で用いたテキスト) を持参してください。 / 参考書: なし。            メッセージ どうか、辞書を忘れないでもってきてください。辞書はこの授業に乗るための「乗車券」です。            教官連絡先 未定</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	医・工 2 年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 11・12 時限
担当教官	唐下 笑美子				
<p>授業概要 TOEIC350 点未満の学生を対象に、スコアを 350 点以上にするを目的とする。7 週という短期間なのでこの授業では TOEIC PartI(写真描写問題),PartII(応答問題),PartIII(会話問題),PartIV(説明文問題) に的を絞ってリスニングと語彙の強化に努め、確実にスコアアップすることを目指します。            授業一般目標 毎回テストをする前にウォーミングアップとして、リスニングの基本的な注意点(音の連結、脱落、同化等々)を学び、聞き取りのヒントを読んだ後に”Warming-up Exercise”で簡単なディクテーションを行います。その後 TOEIC Listening Part に準じた練習問題を行ってトピックのリスニング・パートの問題形式に慣れることと語彙の強化を目標にします。            成績評価方法 (総合) TOEIC のスコアに基づき算出する。            教科書・参考書 教科書: Essential Listening for the TOEIC Test, Hiroko Matsuura, 金星堂, 2005 年; Essential Listening for the TOEIC Test (金星堂)            メッセージ 予習、復習、出席が重要です。            教官連絡先 emikotg@nifty.com            備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 B	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	医・工 (平成 14・15 年度入学者)	単位	1 単位	曜時間	火曜日 11・12 時限
担当教官	唐下笑美子				
<p>授業概要 トーイックのパート 1 からパート 7 までの練習問題を、一步一步細かく分析しながら慣れるようにトレーニングを行う。特に Part 7 をしっかりとやる。</p> <p>授業一般目標 トーイックに必要な語彙や文法の知識の強化を図るとともに、リスニングと読解問題になれることを目標とする。</p> <p>成績評価方法 (総合) TOEIC のスコア、出席、授業内の小テストによる。</p> <p>教科書・参考書 教科書: Hello!! TOEIC Test, Masanao Ikeuchi, 朝日出版社, 2006 年</p> <p>メッセージ 授業には必ず出席して下さい。予習、復習をして目標に向かってください。</p> <p>教官連絡先 emikotg@nifty.com</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	前期
対象学生	医・工 2 年	単位	2 単位	曜時間	月曜日 9・10 時限
担当教官	尊田望				
<p>授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中 90 分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行っていただきます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p>授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。</p> <p>成績評価方法 (総合) ・2 回以上 (欠席届による公欠を含フクむ) 欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBT による自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出 1 回につき、1 回の欠席として扱われる (2 回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の (A) と (B) の総合計により評価を行う。(A) 授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B) WBT を利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p>メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気とします。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p>教官連絡先 HP:<a href="http://www.eigodaigaku.com">http://www.eigodaigaku.com</a> でのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	前期
対象学生	2年	単位	2単位	曜時限	水曜日 5・6時限
担当教官	渡辺朱実				
<p><b>授業概要</b> この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身に付ける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身に付ける。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p><b>教科書・参考書 教科書:</b> 武本ティモシー著、仮題『English Speaking ー山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p><b>メッセージ</b> 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気とします。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p><b>教官連絡先</b> HP:<a href="http://www.eigodaigaku.com">http://www.eigodaigaku.com</a>でのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	前期
対象学生	医・工2年	単位	2単位	曜時限	水曜日 7・8時限
担当教官	FARRAR, DAVID HANSON				
<p><b>授業概要</b> この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身に付ける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身に付ける。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p><b>教科書・参考書 教科書:</b> 武本ティモシー著、仮題『English Speaking ー山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p><b>メッセージ</b> 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気とします。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p><b>教官連絡先</b> HP:<a href="http://www.eigodaigaku.com">http://www.eigodaigaku.com</a>でのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	前期
対象学生	医・工2年	単位	2単位	曜時限	水曜日 9・10時限
担当教官	尊田望				
<p><b>授業概要</b> この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行っていただきます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身に付ける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身に付ける。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p><b>教科書・参考書 教科書:</b> 武本ティモシー著、仮題『English Speaking ー山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p><b>メッセージ</b> 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気とします。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p><b>教官連絡先</b> HP:<a href="http://www.eigodaigaku.com">http://www.eigodaigaku.com</a>でのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	前期
対象学生	2年	単位	2単位	曜時限	金曜日 5・6時限
担当教官	武本ティモシー				
<p><b>授業概要</b> この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行っていただきます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身に付ける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身に付ける。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p><b>教科書・参考書 教科書:</b> 武本ティモシー著、仮題『English Speaking ー山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p><b>メッセージ</b> 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気とします。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p><b>教官連絡先</b> <a href="mailto:tim@yamaguchi-u.ac.jp">tim@yamaguchi-u.ac.jp</a> 研究室: 経済4階,HP:<a href="http://www.eigodaigaku.com">http://www.eigodaigaku.com</a>でのウェブカムを見てチャットルームも訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	前期
対象学生	2年	単位	2単位	曜時限	金曜日 7・8時限
担当教官	CHRIST, Alan Robert				
<p><b>授業概要</b> この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p><b>教科書・参考書 教科書:</b> 武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p><b>メッセージ</b> 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気とします。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p><b>教官連絡先</b> HP:<a href="http://www.eigodaigaku.com">http://www.eigodaigaku.com</a>でのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	前期
対象学生	2年	単位	2単位	曜時限	金曜日 7・8時限
担当教官	GARDNER, Stephen				
<p><b>授業概要</b> この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p><b>教科書・参考書 教科書:</b> 武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p><b>メッセージ</b> 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気とします。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p><b>教官連絡先</b> HP:<a href="http://www.eigodaigaku.com">http://www.eigodaigaku.com</a>でのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	実践総合英語	区分	講義	開設期	前期
対象学生	3年(平成14・15年度入学者)	単位	2単位	曜時間	木曜日 5・6時限
担当教官	細木 孝雄				
<p><b>授業概要</b> Students will work on the four skills of speaking, listening, reading and writing in English. Attention will be given to vocabulary, grammar and reading comprehension.</p> <p><b>授業一般目標</b> Students will learn various reading skills such as skimming, scanning and vocabulary enhancement techniques.</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> class participation (10%), assignment (30%), final exam (60%)</p> <p><b>メッセージ</b> Let's study English just for fun!</p>					

開設科目	実践総合英語	区分	講義	開設期	前期
対象学生	医・工3年(平成14・15年度入学者)	単位	2単位	曜時間	火曜日 11・12時限
担当教官	池田守				
<p><b>授業概要</b> この授業では英語でコミュニケーションを図る際に必要とされる本格的なリスニング力や読解力を養う授業を行う。英語による写真説明、応答や会話を聞き、内容を正しく判断する力を身に付けさせる。また、英語の文法理解を深めると共に、語彙を拡大させる。さらに、英文の速読直解力を向上させる。</p> <p><b>授業一般目標</b> 英語の文法を理解すると共に、ネイティブによる会話、応答、写真描写の説明を聞き、英語が使われている状況を正しく判断できる能力を身に付ける。英文の音読及び速読直解を通し、実践的コミュニケーション能力を高める。この授業では、TOEICテストの400点以上に相当する英語力を身に付けることを目標とする。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 試験は中間及び期末の2回実施する。授業の中で小テストを2回実施する。レポートを1回課す。出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書： Making Progress with the TOEIC Test, Kanako Kojima / Robert J. Trader, 金星堂, 2006年 / 参考書： TOEIC TEST 英文法出るとこだけ! : 出題パターンを見抜く鉄則 32, 小石裕子著, アルク, 2003年</p> <p><b>メッセージ</b> ・受講にあたり、自分の持つTOEICスコアを提示すること。 ・成績評価は「成績評価方法(総合)」欄で記したことの他、与えられた課題を学習し終え、期間中に受験したTOEICテストで、スコアの伸びが50点以上あった場合、合格とする。</p> <p><b>教官連絡先</b> E-mail: ikeda@frontier-u.jp</p>					

開設科目	実践総合英語	区分	講義	開設期	前期
対象学生	3年(平成14・15年度入学者)	単位	2単位	曜時限	月曜日5・6時限
担当教官	岡本 嶺男				
<p>授業概要 アメリカの大企業について書かれたテキストを使ってリーディング、リスニングを主としながら、ボキャブラリー、イディオム、英文表現などにも目を配って、英語の総合能力の向上をはかり、TOEIC 500点以上をめざす。3週に1回 Review Test を実施し理解度を確認しつつ授業をすすめる。</p> <p>授業一般目標 英語総合能力の向上をめざす。特にリーディング、リスニングに重点を置く。又英語の背景にある文化を理解し、教養的・知的思考力を養う。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験 80 出席 10 小テスト 10</p> <p>教科書・参考書 教科書: Big Names in American Business, Tom Goodier, Yoshinobu Takesue, 南雲堂</p>					

開設科目	英語リーディング	区分	講義	開設期	前期
対象学生	2年	単位	2単位	曜時限	水曜日3・4時限
担当教官	武井 暁子				
<p>授業概要 ハリーポッターの第1作を読む</p> <p>授業一般目標 学校英語では習わなかった英語らしい表現を学ぶ イギリス文化に親しむ</p> <p>成績評価方法(総合) 成績評価は出席率・授業発表・期末試験を総合して行なう。</p> <p>教科書・参考書 教科書: Harry Potter and the Philosopher's stone, J. K. Rowling, Bloomsbury, 1997年; テキストは UK 版ペーパーバックを使用 / 参考書: 興味のある人は Rowling のオフィシャルサイトを見ること <a href="http://www.jkrowling.com">http://www.jkrowling.com</a></p> <p>メッセージ 毎回、1章を4人で分担してあらすじをまとめてきたものをもとにして、授業をすすめる。発表担当になった学生は絶対に休まないこと。</p> <p>教官連絡先 akitakei@yamaguchi-u.ac.jp 水曜昼休み 上記以外に面談希望はアポイントメントを取る</p>					

開設科目	英語リーディング	区分	講義	開設期	前期
対象学生	2年	単位	2単位	曜時限	水曜日 3・4時限
担当教官	谷國晶洋				
<p>授業概要 ますます複雑化する世界情勢の背景を扱ったエッセイを題材に、精密な英文講読を行う。</p> <p>授業一般目標 英文講読を通して読解力を高め、さらに関連する練習問題によって語彙力、聴解力を含む総合的な英語力の養成を図ると共に、世界情勢に関する論理的な思考力と鋭敏な感受性を身に付ける。</p> <p>成績評価方法(総合) 授業への参加度(出席 2/3 以上、発表点)及び、定期試験による総合評価。</p> <p>教科書・参考書 教科書: New Issues for Global Change and Challenges., 廣田典子 他, 金星堂, 2006 年</p> <p>メッセージ 辞書をしっかりと引いて、予習を十分にしておいて下さい。</p> <p>教官連絡先 blakist@ezweb.ne.jp</p>					

開設科目	英語リーディング	区分	講義	開設期	前期
対象学生	2年	単位	2単位	曜時限	金曜日 3・4時限
担当教官	皆尾麻弥				
<p>授業概要 清少納言の『枕草子』を英語で読む。</p> <p>授業一般目標 海外でも高く評価されてきた『枕草子』をあえて英語で読むことによって、この作品を新たな視点から概観する。あわせて基本的な英文法や、日本文化を説明する際に役立つ英語表現もこのテキストから学ぶ。</p> <p>成績評価方法(総合) 期末試験の結果に平常点を加味する。出席が所定の回数に満たない者には受験資格を与えない。</p> <p>教科書・参考書 教科書: The Pillow Book of Seishonagon, , Penguin</p>					

開設科目	英語ライティング	区分	講義	開設期	前期
対象学生	2年	単位	2単位	曜時限	水曜日 5・6時限
担当教官	谷國晶洋				
<p><b>授業概要</b> これまで習った文法的なルールをもう一度整理し、ルールを自在に使いこなして英語で表現できるように訓練していく。</p> <p><b>授業一般目標</b> 大学生に身近な話題から社会問題まで、様々なトピックについて英語で表現できるように、口語表現と文法事項を学びながら、英語によるコミュニケーション能力を身に付ける。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 授業への参加度(出席 2/3以上、発表点)及び、定期試験による総合評価。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Let's Talk and Communicate!, 青木・江利川, 金星堂, 2005年</p> <p><b>メッセージ</b> 必ず予習をして授業に臨むこと。</p> <p><b>教官連絡先</b> blakist@ezweb.ne.jp</p>					

開設科目	英語ライティング	区分	講義	開設期	前期
対象学生	医・工2年	単位	2単位	曜時限	水曜日 11・12時限
担当教官	JOHNSONJUDITHANN				
<p><b>授業概要</b> This course is for students who want to learn and improve skills in writing for science and technology (lab reports, abstracts, summaries, and research papers). Students who take this class must have a TOEIC score of 400 or higher.</p> <p><b>授業一般目標</b> 1) Students will perform fundamental tasks such as completing a job application, and writing correspondence, instructions, summaries and a short research paper in English. 2) Students will practice using, vocabulary, grammar patterns and diverse writing styles to enhance the readability of their written English. 3) Students will write about topics related to themselves, society, science and technology.</p> <p><b>メッセージ</b> Bring your dictionary to EVERY CLASS. Anyone who is absent more than 3 times CANNOT pass this course.</p>					

開設科目	英語ライティング	区分	講義	開設期	前期
対象学生	2年	単位	2単位	曜時限	金曜日 3・4時限
担当教官	松田理				
<p>授業概要 適切な英語で自己表現ができるよう、文章作成能力を養成する。</p> <p>授業一般目標 日常生活で実際に使用できる英語を用いた、現実的文章作成能力を身につける。</p> <p>成績評価方法(総合) 5回以上欠席した学生の成績は不可となる。演習 20%、期末試験 80%の割合で評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書: Let's Write about Japan, 斉藤 ほか, 誠美堂, 1995年; 文栄堂書店で販売</p> <p>メッセージ 私語は許さない。</p>					

開設科目	英語特別演習	区分	演習	開設期	前期
対象学生	2年	単位	2単位	曜時限	金曜日 3・4時限
担当教官	前田 満				
<p>授業概要 この授業では、TOEIC テストリスニング力アップを目指した授業である。私が念頭においている対象学生は、すでにある程度リスニング力を備えており、しかもさらに高得点をめざすためにリスニング力を高めたいと考えている学生諸君である。したがって、内容も課題を中心にすえた自主学習に重きをおいた授業を計画している。またリスニング力アップの1つの策として、日常会話の表現(単語・常套句)についても学習していきたい。例えば、みなさんには You can say that again という表現の意味はもちろんわかるだろうが、それがどんな場面で使われるかわかりだろうか(「ごもっとも」と相槌を打つ)。ひょっとするとダイアローグの意味がわからない理由は表現の意味がわからないからではないだろうか。なお、TOEIC テストの出題形式は皆さんが『TOEIC 準備』を受けたときからすでに変わっているので、あまり旧来の形式にこだわりすぎないように工夫する。</p> <p>授業一般目標 リスニング力を涵養し、とくにダイアローグ・リスニングの力を身につける。</p> <p>成績評価方法(総合) 現段階では、課題の提出および小テストあたりを考えているが、詳しくは最初の講義で指示する。</p>					

開設科目	Comprehensive English Fundamental	区分		講義		開設期		前期	
対象学生	2年	単位	2単位	曜時限	月曜日 5・6時限				
担当教官	Higgins, Michael Leo								
<p><b>授業概要</b> This course is for students with a TOEIC score of more than 400. Students with a TOEIC score of more than 450 are allowed to take Comprehensive English Pre-Intermediate courses, but are free to take this course if they wish. 1) Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills. 2) Students will broaden their understanding of the world and their responsibility to society. 3) Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national and global problems. 4) Students will also work on and improve their pronunciation though working with a special text designed specifically for Japanese university students.</p> <p><b>授業一般目標</b> The students will develop their communication skills in English.</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> Final Evaluation (50 % of total grade): Speaking: 40 %; Listening: 20 %; Writing: 20 %; Content: 10 %; Pronunciation (Sound Approach): 10 %. Internal/External Criteria (50 % of total grade): Group/class work (classroom assignment, on-line quizzes, or activity scores): 35 %; Class Participation: 20 %; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35 %; Attendance: 10 %.</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Comprehensive English Fundamental Course Book A, by Johnson &amp; Higgins Sound Approach Revised Pronunciation Book, by Higgins / 参考書: Please try to use an English-English dictionary if you can, but always have a dictionary with you.</p> <p><b>メッセージ</b> This course also requires students to be on-line for some of their homework and for 4 on-line quizzes.</p> <p><b>教官連絡先</b> My office hours are Monday from 2:30 to 4:00. My office is room 304 in the 研究1号館.</p>									

開設科目	Comprehensive English Fundamental	区分		講義		開設期		前期	
対象学生	医・工2年	単位	2単位	曜時限	火曜日 9・10時限				
担当教官	JOHNSONJUDITHANN								
<p><b>授業概要</b> This course is for students with a TOEIC score of more than 400. Students with a TOEIC score of more than 450 are allowed to take Comprehensive English Pre-Intermediate courses, but are free to take this course if they wish. 1) Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills. 2) Students will broaden their understanding of the world and their responsibility to society. 3) Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national and global problems. 4) Students will also work on and improve their pronunciation though working with a special text designed specifically for Japanese university students.</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> Final Evaluation (50 % of total grade): Speaking: 40 %; Listening: 20 %; Writing: 20 %; Content: 10 %; Pronunciation (Sound Approach): 10 %. Internal/External Criteria (50 % of total grade): Group/class work (classroom assignment, on-line quizzes, or activity scores): 35 %; Class Participation: 20 %; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35 %; Attendance: 10 %.</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Comprehensive English Fundamental Course Book B, by Johnson &amp; Higgins Sound Approach Revised Pronunciation Book, by Higgins</p> <p><b>メッセージ</b> This course also requires students to be on-line for some of their homework and for 4 on-line quizzes.</p>									

開設科目	Comprehensive English Fundamental	区分		講義		開設期		前期	
対象学生	2年	単位	2単位	曜時限	水曜日 5・6時限				
担当教官	GARDNER, Stephen								
<p><b>授業概要</b> This course is for students with a TOEIC score of more than 400. Students with a TOEIC score of more than 450 are allowed to take Comprehensive English Pre-Intermediate courses, but are free to take this course if they wish. 1) Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills. 2) Students will broaden their understanding of the world and their responsibility to society. 3) Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national and global problems. 4) Students will also work on and improve their pronunciation though working with a special text designed specifically for Japanese university students.</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> Final Evaluation (50 % of total grade): Speaking: 40 %; Listening: 20 %; Writing: 20 %; Content: 10 %; Pronunciation (Sound Approach): 10 %. Internal/External Criteria (50 % of total grade): Group/class work (classroom assignment, on-line quizzes, or activity scores): 35 %; Class Participation: 20 %; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35 %; Attendance: 10 %.</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Comprehensive English Fundamental Course Book A, by Johnson &amp; Higgins Sound Approach Revised Pronunciation Book, by Higgins / 参考書: Try to use an English-English dictionary if you can, but always have a dictionary with you.</p> <p><b>メッセージ</b> This course also requires students to be on-line for some of their homework and for 4 on-line quizzes.</p>									

開設科目	Comprehensive English Fundamental	区分		講義		開設期		前期	
対象学生	2年	単位	2単位	曜時限	水曜日 7・8時限				
担当教官	GARDNER, Stephen								
<p><b>授業概要</b> This course is for students with a TOEIC score of more than 400. Students with a TOEIC score of more than 450 are allowed to take Comprehensive English Pre-Intermediate courses, but are free to take this course if they wish. 1) Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills. 2) Students will broaden their understanding of the world and their responsibility to society. 3) Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national and global problems. 4) Students will also work on and improve their pronunciation though working with a special text designed specifically for Japanese university students.</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> Final Evaluation (50 % of total grade): Speaking: 40 %; Listening: 20 %; Writing: 20 %; Content: 10 %; Pronunciation (Sound Approach): 10 %. Internal/External Criteria (50 % of total grade): Group/class work (classroom assignment, on-line quizzes, or activity scores): 35 %; Class Participation: 20 %; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35 %; Attendance: 10 %.</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Comprehensive English Fundamental Course Book A, by Johnson &amp; Higgins Sound Approach Revised Pronunciation Book, by Higgins</p> <p><b>メッセージ</b> This course also requires students to be on-line for some of their homework and for 4 on-line quizzes.</p>									

開設科目	Comprehensive English Pre-Intermediate	区分		講義		開設期		前期	
対象学生	2年	単位	2単位	曜時限	水曜日 3・4時限				
担当教官	Higgins, Michael Leo								
<p><b>授業概要</b> This course is open to students with a TOEIC score of over 450 but is especially recommended for students who have a TOEIC score of 500 or higher or who have completed the Comprehensive English Fundamental Course. 1) Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills. 2) Students will broaden their understanding of the world and their responsibility to society. 3) Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national and global problems. 4) Students will also work on and improve their pronunciation though working with a special text designed specifically for Japanese university students.</p> <p><b>授業一般目標</b> To improve the student's English communication skills.</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> Final Evaluation (50 % of total grade): Speaking: 40 %; Listening: 20 %; Writing: 20 %; Content: 10 %; Pronunciation (Sound Approach): 10 %. Internal/External Criteria (50 % of total grade): Group/class work (classroom assignment, on-line quizzes, or activity scores): 35 %; Class Participation: 20 %; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35 %; Attendance: 10 %.</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Comprehensive English Lower Intermediate Course Book A, by Johnson &amp; Higgins; Sound Approach Revised Pronunciation Book, by Higgins / 参考書: Try to use an English-English dictionary if you can, but always have a dictionary with you.</p> <p><b>メッセージ</b> This course also requires students to be on-line for certain homework assignments and for 4 on-line quizzes.</p> <p><b>教官連絡先</b> My office hours are Monday from 2:30 to 4:00. My office is room 304 in the 研究1号館.</p>									

開設科目	Comprehensive English(By Native Speakers[1])	区分		講義		開設期		前期	
対象学生	3年(平成14・15年度入学者)	単位	2単位	曜時限	月曜日 3・4時限				
担当教官	Higgins Michael Leo								
<p><b>授業概要</b> This course is for students with a TOEIC score of between 300-395. 1) Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills. 2) Students will broaden their understanding of the world and their responsibility to society. 3) Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national and global problems. 4) Students will also work on and improve their pronunciation though working with a special text designed specifically for Japanese university students.</p> <p><b>授業一般目標</b> To improve the student's English communication skills</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> Final Evaluation (50 % of total grade): Speaking: 40 %; Listening: 20 %; Writing: 20 %; Content: 10 %; Pronunciation (Sound Approach): 10 %. Internal/External Criteria (50 % of total grade): Group/class work (classroom assignment, quizzes, or activity scores): 35 %; Class Participation: 20 %; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35 %; Attendance: 10 %.</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Comprehensive English Volume 2, Johnson and Higgins, IEI, Inc., 2002年; Sound Approach Pronunciation Book, Higgins, Higgins, Shima, IEI, Inc., 2005年 / 参考書: Try to use an English - English dictionary if you can, but always have a dictionary with you.</p> <p><b>メッセージ</b> This course also requires students to be on-line for some homework and for 4 on-line quizzes.</p> <p><b>教官連絡先</b> My office hours are Monday from 2:30 to 4:00. My office is room 304 in the 研究1号館.</p>									

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 包括

開設科目	海外語学研修 (英語)	区分	講義	開設期	前期
対象学生		単位	4 単位	曜時限	
担当教官	国際センター、英語分科会、事前研修担当者				
<p><b>授業概要</b> 約 4 週間の英語圏 (リジャイナ [カナダ]、あるいはニュー・カッスル [オーストラリア]) での語学研修プログラム (研修費等は受講者が負担) に参加して、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。また同時に、滞在先の人々との交流を通じて、異文化理解を深める。この科目の単位を取得するためには、海外研修出発前に学内での事前研修 (7 コマ分) を受講しなければならない。(注意! 事前研修を受講しなければ、語学研修プログラムに参加しても、単位は認められません。) 海外語学研修プログラムは、リジャイナ、ニュー・カッスル共に夏と春に実施される。それぞれ 5 月頃、10 月頃に国際センター主催の説明会が開かれるので、プログラムの詳細はそちらを参照すること。事前研修は語学研修プログラムに合わせて 8 月上旬、2 月上旬に集中講義形式で開講される。詳しい開講時期等の情報は、掲示にて連絡する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 海外 (英語圏) での語学研修プログラムで学習することにより、また現地での生活の中で、実践的英語コミュニケーション能力を身に付ける。滞在先の地域文化に触れ、現地の人々との交流を通じて、国際的な視野を広める。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 事前研修での出席状況、授業態度、英語習熟度と、海外語学研修プログラムでの成績評価を合わせて、総合的に評価する。</p> <p><b>メッセージ</b> 海外短期語学研修プログラム説明会の案内や、事前研修の開講案内は、掲示等にて行います。履修希望者は注意しておいて下さい。</p> <p><b>教官連絡先</b> 海外短期語学研修プログラムについては国際センターに問い合わせる。事前研修については共通教育係に問い合わせる。</p> <p><b>備考</b> 集中授業</p>					

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 包括

開設科目	海外語学研修 (英語)	区分	講義	開設期	前期
対象学生		単位	4 単位	曜時限	
担当教官	国際センター、英語分科会、事前研修担当者				
<p><b>授業概要</b> 約 4 週間の英語圏 (リジャイナ [カナダ]、あるいはニュー・カッスル [オーストラリア]) での語学研修プログラム (研修費等は受講者が負担) に参加して、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。また同時に、滞在先の人々との交流を通じて、異文化理解を深める。この科目の単位を取得するためには、海外研修出発前に学内での事前研修 (7 コマ分) を受講しなければならない。(注意! 事前研修を受講しなければ、語学研修プログラムに参加しても、単位は認められません。) 海外語学研修プログラムは、リジャイナ、ニュー・カッスル共に夏と春に実施される。それぞれ 5 月頃、10 月頃に国際センター主催の説明会が開かれるので、プログラムの詳細はそちらを参照すること。事前研修は語学研修プログラムに合わせて 8 月上旬、2 月上旬に集中講義形式で開講される。詳しい開講時期等の情報は、掲示にて連絡する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 海外 (英語圏) での語学研修プログラムで学習することにより、また現地での生活の中で、実践的英語コミュニケーション能力を身に付ける。滞在先の地域文化に触れ、現地の人々との交流を通じて、国際的な視野を広める。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 事前研修での出席状況、授業態度、英語習熟度と、海外語学研修プログラムでの成績評価を合わせて、総合的に評価する。</p> <p><b>メッセージ</b> 海外短期語学研修プログラム説明会の案内や、事前研修の開講案内は、掲示等にて行います。履修希望者は注意しておいて下さい。</p> <p><b>教官連絡先</b> 海外短期語学研修プログラムについては国際センターに問い合わせる。事前研修については共通教育係に問い合わせる。</p> <p><b>備考</b> 集中授業</p>					

開設科目	海外語学研修(英語)	区分	講義	開設期	前期
対象学生	医・工2年	単位	4単位	曜時間	
担当教官	国際センター、英語分科会、事前研修担当者				
<p><b>授業概要</b> 約4週間の英語圏(リジャイナ[カナダ]、あるいはニュー・カッスル[オーストラリア])での語学研修プログラム(研修費等は受講者が負担)に参加して、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。また同時に、滞在先の人々との交流を通じて、異文化理解を深める。この科目の単位を取得するためには、海外研修出発前に学内での事前研修(7コマ分)を受講しなければならない。(注意!事前研修を受講しなければ、語学研修プログラムに参加しても、単位は認められません。)海外語学研修プログラムは、リジャイナ、ニュー・カッスル共に夏と春に実施される。それぞれ5月頃、10月頃に国際センター主催の説明会が開かれるので、プログラムの詳細はそちらを参照すること。事前研修は語学研修プログラムに合わせて8月上旬、2月上旬に集中講義形式で開講される。詳しい開講時期等の情報は、掲示にて連絡する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 海外(英語圏)での語学研修プログラムで学習することにより、また現地での生活の中で、実践的英語コミュニケーション能力を身に付ける。滞在先の地域文化に触れ、現地の人々との交流を通じて、国際的な視野を広める。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 事前研修での出席状況、授業態度、英語習熟度と、海外語学研修プログラムでの成績評価を合わせて、総合的に評価する。</p> <p><b>メッセージ</b> 海外短期語学研修プログラム説明会の案内や、事前研修の開講案内は、掲示等にて行います。履修希望者は注意しておいて下さい。</p> <p><b>教官連絡先</b> 海外短期語学研修プログラムについては国際センターに問い合わせる。事前研修については共通教育係に問い合わせる。</p> <p><b>備考</b> 集中授業</p>					

開設科目	医学英語1b	区分	講義	開設期	前期
対象学生	医学3年	単位	2単位	曜時間	月曜日5・6時限
担当教官	谷田憲俊				
<p><b>授業概要</b> 医学・生命科学に関する英文の著書や論文などを読解し、討論して医学の基礎知識を習得し、英語力を高めるとともに最新の医学研究成果を学ぶ。</p> <p><b>授業一般目標</b> 英文の著書や論文などから基本的な医学用語や生命科学用語を学び医学英語の語彙数、読解力、作文力を高めるとともに、最新の医学情報を得て医学・生命科学に対する知識及び理解を深め、それらの学習した知識を基盤として、さらには会話能力の向上にも繋がり国際感覚を身につけられるような指導を目標とする。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 小テスト・授業内レポート = 20~40% 授業態度や授業への参加度 = 20~40% 受講生の発表(プレゼン)や授業内での製作作業(作品) = 20~40% 出席 = 20~40% 観点別成績評価法は主な視点を示し、評価割合は上記のそれぞれから適宜合計して成績とする。なお、出席は欠格条件である。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 参考書: 医学英和大辞典, 加藤 勝治, 南山堂, 2000年; Words of Science, ,</p> <p><b>メッセージ</b> 原則、全回出席のこと。英和辞典・医学英語辞典を持参のこと。継続は力なり、頑張りましょう。英語で話すことを恐れずに、積極的に参加しよう。</p>					

開設科目	医療英語	区分	講義	開設期	前期
対象学生	検査 2 年	単位	2 単位	曜時間	月曜日 5・6 時限
担当教官	服部幸夫				
<p><b>授業概要</b> 「英辞郎」を用いて、医療一般に関する英文(デジタル化)を速読します。その英文要旨を作成し、レポートとして e-mail で教官へ送ってもらいます。毎回、前回に読んだ文章に出た英単語をリスニング形式で小テストを行い、医療英単語の獲得を図ります。</p> <p><b>授業一般目標</b> 医療一般に関する知識を英文速読で得る。医療英単語の獲得を図る。読んだ文章の英文要旨の作り方を獲得する。理解した英文のリスニングにより、英語リスニング力を高める。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 本試験(英単語) 小試験、レポート</p> <p><b>メッセージ</b> IT 授業なので、パソコン必携です。</p> <p><b>教官連絡先</b> hattori-ygc@umin.ac.jp</p>					

開設科目	医療英語	区分	講義	開設期	前期
対象学生	看護 (1-40) 2 年, 看護 (編入学者 1-5) 3 年	単位	2 単位	曜時間	木曜日 1・2 時限
担当教官	S. テュラーリ				
<p><b>授業概要</b> Medical terms can be best understood if they are analysed into their roots, prefixes and suffixes, and then integrated. In this class students will gain understanding and utilization of approximately 101 basic components of medical English terms, and their use in various combinations in everyday health situations. Students will have exposure to these terms by a native speaker, and will learn to pronounce them accordingly.</p> <p><b>授業一般目標</b> Students will learn the basic components of medical English terms and their application in everyday health and nursing conversation.</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> The Responsibilities of Students: 1. This is a Medical English conversation course, so all students are expected to actively converse using as much English as possible in class. 2. Every student is expected to undertake lesson reading(s) from the required texts before each class as requested by the Professor 3. Progressive learning in this course is important, so an emphasis will be placed on regular quizzes to determine progress. 4. Students are expected to attend all classes: Absences of five (5) or more days will result in automatic Fail Grade (D); Absences of four (4) days or less require emergency or medical reasoning. Gradings: A: 80-100 %, B: 70-79 %, C: 60-69 %, and D: Fail Grade Below 60 % If you fail this course the decision to give one compensatory examination rests with the Professor teaching the course. It is not automatic that a compensatory examination is given. Students will be Assessed by: Verbal and Written Quizzes 60 % Final Exam 40 %</p> <p><b>教科書・参考書 教科書</b> : Bailli &amp; # 279;re 's Nurses Dictionary, Weller, B. (Ed.), Elsevier Science, Edinburgh, 2002 年 ; Medical Terminology, Noreau, R., ELS, Tokyo, 2002 年</p> <p><b>教官連絡先</b> e-mail: sturale@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	医療英語	区分	講義	開設期	前期
対象学生	看護(41-)2年,看護(編入学者6-)3年	単位	2単位	曜時限	金曜日5・6時限
担当教官	S. テュラーリ				
<p><b>授業概要</b> Medical terms can be best understood if they are analysed into their roots, prefixes and suffixes, and then integrated. In this class students will gain understanding and utilization of approximately 101 basic components of medical English terms, and their use in various combinations in everyday health situations. Students will have exposure to these terms by a native speaker, and will learn to pronounce them accordingly.</p> <p><b>授業一般目標</b> Students will learn the basic components of medical English terms and their application in everyday health and nursing conversation.</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> The Responsibilities of Students: 1. This is a Medical English conversation course, so all students are expected to actively converse using as much English as possible in class. 2. Every student is expected to undertake lesson reading(s) from the required texts before each class as requested by the Professor 3. Progressive learning in this course is important, so an emphasis will be placed on regular quizzes to determine progress. 4. Students are expected to attend all classes: Absences of five (5) or more days will result in automatic Fail Grade (D); Absences of four (4) days or less require emergency or medical reasoning. Grading: A: 80-100 %, B: 70-79 %, C: 60-69 %, and D: Fail Grade Below 60 % If you fail this course the decision to give one compensatory examination rests with the Professor teaching the course. It is not automatic that a compensatory examination is given. Students will be Assessed by: Verbal and Written Quizzes 60 % Final Exam 40 %</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Bailli &amp; # 279;re 's Nurses Dictionary, Weller, B. (Ed.), Elsevier Science, Edinburgh, 2002年; Medical Terminology, Noreau, R., ELS, Tokyo, 2002年</p> <p><b>教官連絡先</b> e-mail: sturale@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	基礎医療英会話	区分	講義	開設期	前期
対象学生	検査3年	単位	2単位	曜時限	木曜日1・2時限
担当教官	Amy Azuma				
<p><b>授業概要</b> Students will learn to communicate in English simply and affectively with non-Japanese patients and their family members.</p> <p><b>授業一般目標</b> The student will be able to :1. Converse in English, in pairs or groups, about a health care/nursing practice issue.2. Correctly define, spell, and pronounce English terms relating to nursing and health care issue.3. Understand and translate English words and phrases.</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 1. Ask question right away when you don't know or understand something, maybe a good half of your classmates don't know it also. 2. This is an English conversation class, student must converse in English actively. 3. Students are required to turn in their original written assignments at the beginning of each class. All assignments must be legible and use correct grammar and spelling. 4. Students are required to read the weekly text lesson before each sessions. 5. 5 absences result in automatic Fail (D) grade. All absences require medical/emergency reasoning Grading: Homework 15 % ( 5 points X 6 = 30 points) Written assignment 10 % ( 20 points) Role play 10 % (10 points X 2 = 20 points) Midterm 25 % ( 50 points) Final exam 40 % ( 80 points) (観点別) Method for evaluating results (classified by specific points)</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Christine's Easy English Conversation for Nurses, Christine's Easy English Conversation for Nurses Christine Lee Chinen, ; English-Japanese / Japanese-English dictionary, book or electronic</p>					

系列 教養外国語科目

分野 教養英語

開設科目	教養英語(再)	区分	講義	開設期	前期
対象学生	全3年(平成13年度以前入学者)	単位	2単位	曜時限	月曜日5・6時限
担当教官	前出泰司				
<p>授業概要 平易な英文を読み、イディオムとコロケーションを学ぶ。            授業一般目標 (1) 英文を速読する。(2) イディオム、コロケーションを学ぶ。            成績評価方法(総合) 期末試験の結果に平常点(出席状況・受講態度)を加味して評価する。            教科書・参考書 教科書: ストーリーで学ぶイディオムとコロケーション, 岩崎里子, 成美堂, 2006年            備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 教養外国語科目

分野 教養英語

開設科目	教養英語(再)	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工3年(平成13年度以前入学者)	単位	2単位	曜時限	月曜日7・8時限
担当教官	JOHNSON JUDITH ANN				
<p>授業概要 This is an advanced course for the students who have scored OVER 400 ON THE TOEIC. The course focus is on making scientific and technical presentations in English.            授業一般目標 1) Students will understand the basics of making a clear and well-organized presentation. 2) Students contribute creatively and regularly, in English, to collaborative in-class activities. 3) Students will use the necessary knowledge, skills and confidence to design and make a clear and well-organized presentation on a science or technical topic, in English.            メッセージ Bring your dictionary to every class. Anyone with more than 3 absences will not pass this course.            教官連絡先 Wednesday 14:00 - 16:00            備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 基礎外国語科目

分野 英語

開設科目	基礎英語 (再)	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工3年 (平成13年度以前入学者)	単位	1単位	曜時限	火曜日 9・10時限
担当教官	唐下笑美子				
<p>授業概要 リスニング、リーディングを通して英文法の基礎を身に着けるためのトレーニングをしていく。</p> <p>授業一般目標 英語の語彙の増強をはかり、今一度英文法の基礎をしっかりと復習し、簡単なコミュニケーションが出来るまでにする。</p> <p>成績評価方法 (総合) 授業への参加度、授業中の小テスト及び期末テストの成績による。</p> <p>教科書・参考書 教科書: A Complete College English Program, Takehisa Tsuchiya, 金星堂, 2006年</p> <p>教官連絡先 emikotg@nifty.com</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 基礎外国語科目

分野 英語

開設科目	英語 II	区分	講義	開設期	通年 (後期, 前期)
対象学生	医学6年	単位	1単位	曜時限	月曜日 9・10時限
担当教官	日野田裕治				
<p>授業概要 実践的な医学英語を学ぶ。</p> <p>授業一般目標 医学論文の読解などを通して臨床および研究に関する医学英語を理解する。</p> <p>成績評価方法 (総合) 出席、レポートによる。</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語 II	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工3年(平成13年度以前入学者)	単位	1 単位	曜時限	金曜日 7・8 時限
担当教官	JOHNSONJUDITHANN				
<p>授業一般目標 1) Students will read and discuss articles concerning current global issues. 2) Students will identify the pros and cons of specific technology with regard to social welfare and economic development 3) Students will assess differences in global technological progress in terms of region, country, culture and economy 4) Students will express their ideas, feelings, opinions about topics related to themselves, Japan and other countries, science, and technology. 5) Working collaboratively, students will use the Internet to research topics related to technology and the global society. 6) Students will present their research findings orally, using visual aids</p> <p>成績評価方法(総合) In-class activities; Computer assignments; Tests; Research Project; Oral Presentation; Written Evaluation</p> <p>メッセージ Bring your dictionary to every class. Anyone who is absent more than 3 times, will not pass the course.</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

前期 - 外国語教育系列（初習外国語）

開設科目	ドイツ語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時間	月曜日 5・6 時限
担当教官	坂本貴志				
<p>授業概要 ドイツ語の最も基本的な文法と語彙を学び、併せてごく初歩的なドイツ語実用能力の訓練を行う。</p> <p>授業一般目標 ドイツ語の最も基本的な文法と語彙を身につけ、そしてそれらの基礎の上に、ごく初歩的なドイツ語を聞き、話し、読み、書けるようにする。</p> <p>成績評価方法(総合) 小テスト、課題(宿題) 期末テストの点数により評価する。出席は欠格事項としてのみ扱う。</p> <p>教科書・参考書 教科書：コピーを配布する。/ 参考書：独和辞典は必ず一冊購入してください。(出版社は指定しません。独和・和独の入った電子辞書でも可。)</p> <p>メッセージ 教育テレビや教育ラジオのドイツ語講座も録画、録音して利用することをお勧めします。(語学学習は反復して聞くことが大変重要です。)</p>					

開設科目	ドイツ語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時間	月曜日 5・6 時限
担当教官	田野 武夫				
<p>授業概要 教科書を用いた文法項目、副教材による初歩的会話・語彙の学習を行う。教科書では、文法項目の解説と本文の解説ならびに発音指導をする。また語学学習に並行して、歴史、文化、経済、政治、大学生活などドイツ全般に関する情報を提供する。ドイツ語はEU公用語の中で最も多く使用されている言語である。(ドイツ語24%、フランス語16%、英語16%)またドイツは、EUのGDPの約三分の一を占める欧州最大の経済大国であり、欧州における日本の最大の貿易相手国でもある。学問、芸術、産業などあらゆる分野で日本と歴史的につながりの深いドイツ語を学ぶことは、大変重要である。</p> <p>授業一般目標 基本的な文法項目と日常表現に習熟することが第一の目標である。またドイツ社会一般に関する理解を深め、旅行、留学など実際にドイツに触れる意欲を高めることも目標とする。また前学期でドイツ語検定4級、後期でドイツ語検定3級程度のドイツ語力を目安とする。</p> <p>成績評価方法(総合) 授業毎の小テスト(50%) 期末試験(50%)</p> <p>教科書・参考書 教科書：Deutschlernen durch Konversation スケッチで学ぶドイツ語、リヒター・山田・識名、同学社、2006年/ 参考書：アポロン独和辞典、根本、恒吉他、同学社、2000年</p> <p>メッセージ 受講者多数の場合、受講者数を制限します。授業選択の動機をアンケートに書いてもらい、数日後に受講可能者を発表します。テキストは2回目から使用します。(1回目の授業では使いません。)1回目の授業の後、受講可能者のみ購入してください。</p> <p>教官連絡先 授業中に提示します。</p>					

開設科目	ドイツ語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時間	月曜日 7・8 時限
担当教官	坂本貴志				
<p>授業概要 ドイツ語の最も基本的な文法と語彙を学び、併せてごく初歩的なドイツ語実用能力の訓練を行う。</p> <p>授業一般目標 ドイツ語の最も基本的な文法と語彙を身につけ、そしてそれらの基礎の上に、ごく初歩的なドイツ語を聞き、話し、読み、書けるようにする。</p> <p>成績評価方法(総合) 小テスト、課題(宿題) 期末テストの点数により評価する。出席は欠格事項としてのみ扱う。</p> <p>教科書・参考書 教科書: コピーを配布する。/ 参考書: 独和辞典は必ず一冊購入してください。(出版社は指定しません。独和・和独の入った電子辞書でも可。)</p> <p>メッセージ 教育テレビや教育ラジオのドイツ語講座も録画、録音して利用することをお勧めします。(語学学習は反復して聞くことが大変重要です。)</p>					

開設科目	ドイツ語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時間	月曜日 7・8 時限
担当教官	田野 武夫				
<p>授業概要 教科書を用いた文法項目、副教材による初歩的会話・語彙の学習を行う。教科書では、文法項目の解説と本文の解説ならびに発音指導をする。また語学学習に並行して、歴史、文化、経済、政治、大学生活などドイツ全般に関する情報を提供する。ドイツ語は EU 公用語の中で最も多く使用されている言語である。(ドイツ語 24%、フランス語 16%、英語 16%) またドイツは、EU の GDP の約三分の一を占める欧州最大の経済大国であり、欧州における日本の最大の貿易相手国でもある。学問、芸術、産業などあらゆる分野で日本と歴史的につながりの深いドイツ語を学ぶことは、大変重要である。</p> <p>授業一般目標 基本的な文法項目と日常表現に習熟することが第一の目標である。またドイツ社会一般に関する理解を深め、旅行、留学など実際にドイツに触れる意欲を高めることも目標とする。また前学期でドイツ語検定 4 級、後期でドイツ語検定 3 級程度のドイツ語力を目安とする。</p> <p>成績評価方法(総合) 授業毎の小テスト(50%) 期末試験(50%)</p> <p>教科書・参考書 教科書: Deutschlernen durch Konversation スケッチで学ぶドイツ語, リヒター・山田・識名, 同人社, 2006 年 / 参考書: アポロン独和辞典, 根本、恒吉他, 同人社, 2000 年</p> <p>メッセージ 受講者多数の場合、受講者数を制限します。授業選択の動機をアンケートに書いてもらい、数日後に受講可能者を発表します。テキストは 2 回目から使用します。(1 回目の授業では使いません。) 1 回目の授業の後、受講可能者のみ購入してください。</p> <p>教官連絡先 授業中に提示します。</p>					

開設科目	ドイツ語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時間	火曜日 3・4 時限
担当教官	Hintereder-Emde, Franz 他				
<p><b>授業概要</b> ドイツってどういう国なんだろう？何でドイツからはベートーベン、バッハ、ワーグナーなど有名な作曲家が大勢出ているんだろう？ノイシュヴァーンシュタインってどこにあるの？グリム童話ってドイツ文学？初習外国語は何語にしたらいいんだろう？ドイツ語は難しいのでは？このような疑問を持った新生に、ドイツ語とドイツ語圏の文化を様々な角度から紹介します。語学も勉強しますが、授業の中心はむしろ文化の学習です。簡単なドイツ語会話の練習を行うとともに、ドイツ文化の魅力について様々なテーマでお話ししていきます。自分の感想・意見をどんどん発言するなど、積極的な授業参加を期待しています。</p> <p><b>授業一般目標</b> ドイツ語を文化的・歴史的に位置づけられる。ドイツ語の基礎的な構造や文化的な背景が理解できている。後期からは、ドイツ語の学習に入る。ドイツ文化について学んだことに踏まえて、ドイツ語の基礎的な文法と語彙を勉強する。</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 出席（10％）と参加（10％）、授業内（20％未満）と授業外のレポート（60％未満）によって、評価する。各担当教官ごとに課題を出し、100点満点で成績をつける。マネージャーがそれを取りまとめ、計算し最終成績とする。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：授業中に適宜に資料を配布する。/ 参考書：必要に応じて授業で紹介する。</p> <p><b>メッセージ</b> 文化を通じて、外国語の発見！</p> <p><b>教官連絡先</b> 担当者代表：mail: emde@yamaguchi-u.ac.jp tel/fax: 933-5287 office hour：木曜日 3・4（10：20～11：50）</p>					

開設科目	ドイツ語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時間	火曜日 5・6 時限
担当教官	能木敬次				
<p><b>授業概要</b> ドイツ語の基礎的な読解能力を養成する。まずはドイツ語を発音しドイツ語の短文を音読することに力点を置く。同時に基本文型の作文を繰り返し練習することによって、簡単なドイツ語の文章を書くことに慣れるように努める。宿題も積極的に利用しながら、集中的に授業展開をしてゆきたい。</p> <p><b>授業一般目標</b> 近年、ドイツの世界経済・政治における役割の増大には目をみはるものがある。工業技術や医療技術、また福祉政策や環境政策においてドイツは世界をリードしている。近代日本の政治・教育文化・科学技術の発展におけるドイツの貢献度の大きさは言うまでもない。本講義はドイツ語文を「読む」ための第一段階の知識を提供する。将来、英語とともに第二の情報収集手段として、また研究の為にドイツ語文献の読解に役立ててほしい。</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 受講態度・出席率・小テスト・定期テスト等全てを考慮する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：『ミステリアスなドイツ文法』、荻野蔵平 / Andrea Raab, 朝日出版, 2006年 / 参考書：新アポロン独和辞典（第4版）、根本道也 [ほか] 編集執筆, 同学社, 2003年；『新アポロン独和辞典』根本他著、周学社（辞書は他のものでも構わないが必携のこと。）</p>					

開設科目	ドイツ語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時間	火曜日 7・8 時限
担当教官	Dobrab Felicitas				
<p><b>授業概要</b> 本授業は、まず第一に基礎的なコミュニケーション能力を身につけさせることを目的とする。文型が提示される。これらの文型は、学生によって練習され、学生の生活に関連する 文例によって補強される。教科書の文章は、ドイツ事情を伝える内容である。各課の終わりに、日本語による文法の説明がある。</p> <p><b>授業一般目標</b> 学生は提示された文型に従って、簡単な会話を行える程度の知識を習得することができる。話すことと発音練習がこの授業の重点である。文法は授業の目的ではないが、目標に 到達するために通らねばならぬ道である。したがって、各課の文法も教授され、習得されたかどうか吟味される。文法は、コミュニカティブに有意義な練習を通じて伝えられる。学生は教科書の中に描写されたいくつかのシチュエーションによって、文化間の相違を確認することができる。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書： Szenen integriert 1, Shuko Sato/ Kyoko Shimoda/ Heike Papenthin/Gesa Oldehaver, Sanshusha, 2006 年； Szenen integriert 1. CD 付きスツェネン 1 場面で学ぶドイツ語 佐藤修子 / 下田恭子 / ハイケパペンティン / ゲ - サオルデハ - バル 東京：三修社、2006、87 ペ - ジ。 ISBN4-384-12244-6 C1084 ¥ 2.900E / 参考書： 授業中に紹介します。</p> <p><b>教官連絡先</b> 授業のあといつでもいいです / dobra@yamaguchi-u.ac.jp 宇部医学部の研究室の電話番号：( 月 / 金 ( 0 8 3 6 ) 2 2 - 2 1 8 7 山口吉田研究室：水曜日 1 2 : 3 0 時 ~ 1 4 : 0 0 時</p>					

開設科目	ドイツ語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時間	火曜日 7・8 時限
担当教官	能木敬次				
<p><b>授業概要</b> ドイツ語の基礎的な読解能力を養成する。まずはドイツ語を発音しドイツ語の短文を音読 することに力点を置く。同時に基本文型の作文を繰り返し練習することによって、簡単な ドイツ語の文章を書くことに慣れるように努める。宿題も積極的に利用しながら、集中的 に授業展開をしてゆきたい。</p> <p><b>授業一般目標</b> 近年、ドイツの世界経済・政治における役割の増大には目をみはるものがある。工業技術 や医療技術、また福祉政策や環境政策においてドイツは世界をリードしている。近代日本 の政治・教育文化・科学技術の発展におけるドイツの貢献度の大きさは言うまでもない。本講義はドイツ語文を「読む」ための第一段階の知識を提供する。将来、英語とともに第二の情報収集手段として、また研究の為のドイツ語文献の読解に役立ててほしい。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 受講態度・出席率・小テスト・定期テスト等全てを考慮する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書： 『楽しいドイツ語トレーニング』, 大田隆士 他, 三修社 / 参考書： 新アポロン独和辞典 (第4版), 根本道也 [ほか] 編集執筆, 同学社, 2003 年； 『新アポロン独和辞典』根本道也他著、同学社 (辞書は他のものでも構わないが必携のこと。)</p>					

開設科目	ドイツ語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教官	野口達人				
<p><b>授業概要</b> 本授業ではドイツ語を話したり、聴いたりする基礎的な能力を養成する。そのために、基本的な発音の規則と文法事項を説明し、実際の会話の練習、パートナー練習、聴き取り練習、学習した文法事項についての練習などを課す。</p> <p><b>授業一般目標</b> ドイツ語の発音の基本を習得し、正しい発音ができるようになる。動詞の人称変化、名詞・冠詞の性数・格変化などを習得することにより、ドイツ語の文法体系を理解する。さらに重要単語や表現を覚えて、簡単なドイツ語を話したり、聴いたりすることができるようになる。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> (1)各課の練習問題を口頭または板書にて行い、これを演習として評価。(2)授業の中で小テストを随時行う。(3)筆記試験を定期試験期間中に行う。以上を下記の観点・割合で評価する。なお、総授業数の80%以上の出席を必須要件とする。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：アクティブに使うドイツ語, 三宅恭子, Michaela Koch, 三修社, 2006 年</p> <p><b>メッセージ</b> 授業への積極的な参加と自主的な反復練習が要求される。授業には必ず独和辞典を携行すること。</p>					

開設科目	ドイツ語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教官	野口達人				
<p><b>授業概要</b> 本授業ではドイツ語を話したり、聴いたりする基礎的な能力を養成する。そのために、基本的な発音の規則と文法事項を説明し、実際の会話の練習、パートナー練習、聴き取り練習、学習した文法事項についての練習などを課す。</p> <p><b>授業一般目標</b> ドイツ語の発音の基本を習得し、正しい発音ができるようになる。動詞の人称変化、名詞・冠詞の性数・格変化などを習得することにより、ドイツ語の文法体系を理解する。さらに重要単語や表現を覚えて、簡単なドイツ語を話したり、聴いたりすることができるようになる。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> (1)各課の練習問題を口頭または板書にて行い、これを演習として評価。(2)授業の中で小テストを随時行う。(3)筆記試験を定期試験期間中に行う。以上を下記の観点・割合で評価する。なお、総授業数の80%以上の出席を必須要件とする。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：アクティブに使うドイツ語, 三宅恭子, Michaela Koch, 三修社, 2006 年</p> <p><b>メッセージ</b> 授業への積極的な参加と自主的な反復練習が要求される。授業には必ず独和辞典を携行すること。</p>					

開設科目	ドイツ語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工2年	単位	2単位	曜時間	木曜日 5・6時限
担当教官	江波 昌子				
<p><b>授業概要</b> この授業では、基礎的なドイツ語を読み、書き、話し、聞く力を養う。そのために、基礎的な文法事項を説明する。また、くり返しドイツ語を聞いて、発音やイントネーション、言葉のリズムを身につけ、基本的な表現を覚えて実際に使えるように、練習問題や暗唱など様々な課題を与える。</p> <p><b>授業一般目標</b> ドイツ語の発音の基本を習得する。名詞、冠詞、人称代名詞、動詞等の品詞の理解を通して、ドイツ語文法の基礎構造を認識する。また、いろいろなフレーズを覚えて、簡単な日常会話が表現できると同時に、平易なドイツ語を聞き取れるようになる。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 1. 出席と小テストを含めた平常点を平常点を 50 %とし、定期試験の 50 %と合わせて評価する。2. 宿題は授業中に成果を発表することで、平常点として評価する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：新・問いかけるドイツ語 改訂版, 大谷弘道他著, 三修社, 2006年 / 参考書：「自分にとって使いやすい」と思う独和辞典を用意すること。出版社は特に指定しない。</p> <p><b>メッセージ</b> 語学を学ぶということは、新しい世界を知ることです。楽しく学習しましょう。辞書は毎回、必ず持参してください。</p>					

開設科目	ドイツ語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工2年	単位	2単位	曜時間	木曜日 7・8時限
担当教官	江波昌子				
<p><b>授業概要</b> この授業では、基礎的なドイツ語を読み、書き、話し、聞く力を養う。そのために、基礎的な文法事項を説明する。また、くり返しドイツ語を聞いて、発音やイントネーション、言葉のリズムを身につけ、基本的な表現を覚えて実際に使えるように、練習問題や暗唱など様々な課題を与える。</p> <p><b>授業一般目標</b> ドイツ語の発音の基本を習得する。名詞、冠詞、人称代名詞、動詞等の品詞の理解を通して、ドイツ語文法の基礎構造を認識する。また、いろいろなフレーズを覚えて、簡単な日常会話が表現できると同時に、平易なドイツ語を聞き取れるようになる。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 1. 出席と小テストを含めた平常点を 50 %とし、定期試験の 50 %と合わせて評価する。2. 宿題は授業中に成果を発表することで、平常点として評価する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：新・問いかけるドイツ語 改訂版, 大谷弘道他著, 三修社, 2006年 / 参考書：「自分にとって使いやすい」と思う独和辞典を用意すること。出版社は特に指定しない。</p> <p><b>メッセージ</b> 語学を学ぶということは、新しい世界を知ることです。楽しく学習しましょう。辞書は毎回、必ず持参して下さい。</p>					

開設科目	ドイツ語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時間	金曜日 1・2 時限
担当教官	Watanabe-Berger, Angelika				
<p>授業概要 英語を話せて当たり前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をA B Cから学び、日本以外の国に関心を持って、いろんなメディアを通じてドイツを”体験”し、身近に感じてもらうのが狙いです。</p> <p>授業一般目標 ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。</p> <p>教科書・参考書 教科書：Keikos praktikum in M・nchen, 矢羽々崇著, 朝日出版社, 2003年；ドイツ語一年生・ケイコのミュンヘン(2500円+税)1回目の授業のときに教室で販売します。/参考書：プリント等配布</p> <p>メッセージ 毎回ドイツへ行った気分で、恥ずかしがらずに会話や歌、ロールプレイ etc. に挑戦しましょう。</p> <p>教官連絡先 E-mail: palette@c-able.ne.jp</p>					

開設科目	ドイツ語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時間	金曜日 3・4 時限
担当教官	Watanabe-Berger, Angelika				
<p>授業概要 英語を話せて当たり前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をA B Cから学び、日本以外の国に関心を持って、いろんなメディアを通じてドイツを”体験”し、身近に感じてもらうのが狙いです。</p> <p>授業一般目標 ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。</p> <p>教科書・参考書 教科書：Keikos praktikum in M・nchen, 矢羽々崇著, 朝日出版社, 2003年；ドイツ語一年生・ケイコのミュンヘン(2500円+税)1回目の授業のときに教室で販売します。/参考書：プリント等配布</p> <p>メッセージ 毎回ドイツへ行った気分で、恥ずかしがらずに会話や歌、ロールプレイ etc. に挑戦しましょう。</p> <p>教官連絡先 E-mail: palette@c-able.ne.jp</p>					

開設科目	フランス語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限
担当教官	Emde Angelika				
<p>授業概要 このコースではフランス語の根本的な構造を理解し、自力で簡単な文書を作り、日常的な会話をこなせることがねらいです。</p> <p>授業一般目標 様々なコミュニケーションの場面に応じて、基本的なパターンを練習します。必要な文法を説明し、多くの例を応用しながら、身に付けます。語彙はそれぞれの分野に合わせて導入し、段階的に増やします。聞く力や発音を特に鍛えます。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験(中間・期末試験) 50%、小テスト・授業内レポート 20%、宿題・授業外レポート 20%、授業態度・授業への参加態度 10%</p> <p>教科書・参考書 教科書: 教材のプリントを授業で配付します。</p>					

開設科目	フランス語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教官	ボシィール ジャン・クロード				
<p>授業概要 この授業では、会話を取り入れながらフランス語の基本的な文法事項を学習します。毎回授業の終わりには「フランス雑学コーナー」を設けてシャンソン、漫画、フランス映画等を紹介します。授業は主に日本語で行います。</p> <p>授業一般目標 簡単な挨拶から徐々に基礎フランス語を習得し会話を中心に総合的なレベルアップを目指します。</p> <p>成績評価方法(総合) 授業の出席状況、授業態度、試験の成績で総合的に評価します。</p> <p>教科書・参考書 教科書: SALUT, YASUKO TANABE その他, SURUGADAI</p>					

開設科目	中国語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	苞山武義				
<p><b>授業概要</b> 改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p> <p><b>授業一般目標</b> 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 定期試験の成績：70% 小テスト・授業内レポート：20% 授業態度・授業への参加度：10% 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：スリム版 表現する中国語、楊凱栄・張麗群、白帝社、2005年；販売：文栄堂山大前店 / 参考書：辞書については、授業中に紹介する。</p> <p><b>メッセージ</b> 初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席のこと。後期からの履修クラスの変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。</p>					

開設科目	中国語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	月曜日 9・10 時限
担当教官	苞山武義				
<p><b>授業概要</b> 改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p> <p><b>授業一般目標</b> 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 定期試験の成績：70% 小テスト・授業内レポート：20% 授業態度・授業への参加度：10% 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：スリム版 表現する中国語、楊凱栄・張麗群、白帝社、2005年；販売：文栄堂山大前店 / 参考書：辞書については、授業中に紹介する。</p> <p><b>メッセージ</b> 初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席のこと。後期からの履修クラスの変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。</p>					

開設科目	中国語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時間	火曜日 3・4 時限
担当教官	梁蕾				
<p><b>授業概要</b> 改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p> <p><b>授業一般目標</b> 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 定期試験の成績：70% 小テスト・授業内レポート：20% 授業態度・授業への参加度：10% 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：スリム版 表現する中国語、楊凱栄・張麗群、白帝社、2005年；販売：文栄堂山前店 / 参考書：辞書については、授業中に紹介する。</p> <p><b>メッセージ</b> 初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席のこと。後期からの履修クラスの変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。</p>					

開設科目	中国語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時間	火曜日 5・6 時限
担当教官	陳鳳展				
<p><b>授業概要</b> 改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p> <p><b>授業一般目標</b> 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 定期試験の成績：70% 小テスト・授業内レポート：20% 授業態度・授業への参加度：10% 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：スリム版 表現する中国語、楊凱栄・張麗群、白帝社、2005年；辞書については、授業中に紹介する。</p> <p><b>メッセージ</b> 初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席のこと。後期からの履修クラスの変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。</p>					

開設科目	中国語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	李海英				
<p><b>授業概要</b> 改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p> <p><b>授業一般目標</b> 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 定期試験の成績：70% 小テスト・授業内レポート：20% 授業態度・授業への参加度：10% 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：スリム版 表現する中国語、楊凱栄・張麗群、白帝社、2005年；販売：文栄堂山大前店 / 参考書：辞書については、授業中に紹介する。</p> <p><b>メッセージ</b> 初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席のこと。後期からの履修クラスの変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。</p>					

開設科目	中国語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限
担当教官	苞山武義				
<p><b>授業概要</b> 改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p> <p><b>授業一般目標</b> 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 定期試験の成績：70% 小テスト・授業内レポート：20% 授業態度・授業への参加度：10% 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：スリム版 表現する中国語、楊凱栄・張麗群、白帝社、2005年；販売：文栄堂山大前店 / 参考書：辞書については、授業中に紹介する。</p> <p><b>メッセージ</b> 初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席のこと。後期からの履修クラスの変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。</p>					

開設科目	中国語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教官	宇芳				
<p><b>授業概要</b> 改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p> <p><b>授業一般目標</b> 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 定期試験の成績：70% 小テスト・授業内レポート：20% 授業態度・授業への参加度：10% 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：スリム版 表現する中国語、楊凱栄・張麗群、白帝社、2005年；販売：文栄堂山大前店 / 参考書：辞書については、授業中に紹介する。</p> <p><b>メッセージ</b> 初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席のこと。後期からの履修クラスの変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。</p>					

開設科目	中国語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教官	李海英				
<p><b>授業概要</b> 改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p> <p><b>授業一般目標</b> 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 定期試験の成績：70% 小テスト・授業内レポート：20% 授業態度・授業への参加度：10% 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：スリム版 表現する中国語、楊凱栄・張麗群、白帝社、2005年；販売：文栄堂山大前店 / 参考書：辞書については、授業中に紹介する。</p> <p><b>メッセージ</b> 初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席のこと。後期からの履修クラスの変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。</p>					

開設科目	中国語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	水曜日 9・10 時限
担当教官	宇芳				
<p><b>授業概要</b> 改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p> <p><b>授業一般目標</b> 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 定期試験の成績：70% 小テスト・授業内レポート：20% 授業態度・授業への参加度：10% 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：スリム版 表現する中国語、楊凱栄・張麗群、白帝社、2005年；販売：文栄堂山前店 / 参考書：辞書については、授業中に紹介する。</p> <p><b>メッセージ</b> 初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席のこと。後期からの履修クラスの変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。</p>					

開設科目	中国語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	医・工2年	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教官	李海英				
<p><b>授業概要</b> 改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p> <p><b>授業一般目標</b> 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 定期試験の成績：70% 小テスト・授業内レポート：20% 授業態度・授業への参加度：10% 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：スリム版 表現する中国語、楊凱栄・張麗群、白帝社、2005年；販売：工学部生協 / 参考書：辞書については授業で紹介する</p> <p><b>メッセージ</b> 初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席のこと。後期からの履修クラスの変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。</p>					

開設科目	中国語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教官	杉本知栄子				
<p><b>授業概要</b> 改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p> <p><b>授業一般目標</b> 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 定期試験の成績：70% 小テスト・授業内レポート：20% 授業態度・授業への参加度：10% 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：スリム版 表現する中国語、楊凱栄・張麗群、白帝社、2005年；販売：文栄堂山大前店 / 参考書：辞書については、授業中に紹介する。</p> <p><b>メッセージ</b> 初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席のこと。後期からの履修クラスの変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。</p>					

開設科目	中国語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	木曜日 9・10 時限
担当教官	秋山淳				
<p><b>授業概要</b> 改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p> <p><b>授業一般目標</b> 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 定期試験の成績：70% 小テスト・授業内レポート：20% 授業態度・授業への参加度：10% 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：スリム版 表現する中国語、楊凱栄・張麗群、白帝社、2005年；販売：文栄堂山大前店 / 参考書：辞書については、授業中に紹介する。</p> <p><b>メッセージ</b> 初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席のこと。後期からの履修クラスの変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。</p>					

開設科目	中国語入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	金曜日 9・10 時限
担当教官	張玲				
<p><b>授業概要</b> 改革開放政策の深化により社会が激変した中国は、21世紀、アジアと世界にどのような影響を与えていくのか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で入門期には、多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジアに目を向ける窓口となることを願う。</p> <p><b>授業一般目標</b> 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 定期試験の成績：70% 小テスト・授業内レポート：20% 授業態度・授業への参加度：10% 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：スリム版 表現する中国語、楊凱栄・張麗群、白帝社、2005年；販売：文栄堂山前店 / 参考書：辞書については、授業中に紹介する。</p> <p><b>メッセージ</b> 初回授業で定員を上回る場合、抽選になるので、必ず出席のこと。後期からの履修クラスの変更は認めないので、後期配当科目に注意すること。</p>					

開設科目	ハングル入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教官	和田学				
<p><b>授業概要</b> この授業では、韓国/朝鮮語の文字と発音を中心にしながら、基本的なあいさつの表現、初歩的な構文を学びます。</p> <p><b>授業一般目標</b> この言語の文字と発音の正確な習得と、発音の規則、初歩的な文法を習得し、簡単な会話ができるようにします。この目的のため、毎回授業の内外で課題を課します。また、基礎語彙を習得も課し、不定期に試験を行います。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> (1) 定期試験と(2) 不定期の小テストで成績を評価します。(3) 欠席、宿題の未提出が所定の回数を超えた場合には単位を与えません。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：コスモス朝和辞典、菅野裕他、白水社、1988年；「聞いて覚える初級朝鮮語」、河村光雅・田星姫、白水社、2002年；辞書については授業中に指示します。</p> <p><b>教官連絡先</b> 連絡先：wadagaku@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室：人文棟2階、オフィスアワー：木曜日 10:00-17:00</p>					

開設科目	ハンゲル入門1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教官					
<p><b>授業概要</b> この授業では、韓国/朝鮮語の文字と発音を中心にしながら、基本的なあいさつの表現、初歩的な構文を学びます。</p> <p><b>授業一般目標</b> この言語の文字と発音の正確な習得と、発音の規則、初歩的な文法を習得し、簡単な会話ができるようになります。この目的のため、毎回授業の内外で課題を課します。また、基礎語彙を習得も課し、不定期に試験を行います。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> (1) 定期試験と (2) 不定期の小テストで成績を評価します。(3) 欠席、宿題の未提出が所定の回数を超えた場合には単位を与えません。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：コスモス朝和辞典、菅野裕臣他、白水社、1988年；「聞いて覚える初級朝鮮語」、河村光雅・田星姫、白水社、2002年；辞書については授業中に指示します。</p> <p><b>教官連絡先</b> 連絡先：wadagaku@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室：人文棟2階、オフィスアワー：木曜日 10:00-17:00</p>					

開設科目	ドイツ語初級1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限 木曜日 3・4 時限
担当教官	Hintereder-Emde Franz				
<p><b>授業概要</b> ドイツ語の基本的な構造を理解し、日常的な会話や読書をこなし、そして簡単な文書を書けることがこのコースのねらいである。必要な語彙を自由自在に使えるように練習を重ねる。目標はおよそ375語のドイツ語の単語である。文法の基礎パターンをよく理解した上に、直感的に利用できるために、パターンドリル、パートナー練習等をする。オーディオ教材で自宅でも常に練習し、発音や聞く力をさらに高めることができる。週2回コースですので以下の内容は週毎(2コマ)に記されている。</p> <p><b>授業一般目標</b> ドイツ語の基本的な初級レベルを目標にする。簡単な会話や文章理解に必要な文法や語意を習得する。さらに、ドイツ語を通じて、ドイツ文化圏の今日的な情報や歴史的な背景も把握できることが大事である。語学学習と合わせて、適宜インターネットを利用し、様々な情報を収集し、発表する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：問題発見のドイツ語 Modelle 1, Riessland / 藁谷 / 木村 / 平高, 三修社, 2005年 / 参考書：授業で紹介する。</p> <p><b>メッセージ</b> 外国語は一言一言自分の身に付かないかぎり、成果はない。最初の授業に人数が多すぎると、人数を調整することがある。</p> <p><b>教官連絡先</b> mail: emde@yamaguchi-u.ac.jp tel/fax: 933-5287 office hour: 木曜日 3・4 (10:20~11:50)</p>					

開設科目	ドイツ語初級1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	4単位	曜時限	月曜日7・8時限 水曜日3・4時限
担当教官	小粥 良				
<p>授業概要 ドイツ語の初歩を丁寧に学ぶ。文法を体系的に学ぶ。ビデオ等を用いて、ドイツの文化についても紹介する。</p> <p>授業一般目標 ドイツ語の初級文法を一通り学習するとともに基礎語彙を習得し、そしてそれらの基礎の上に初歩的なドイツ語読解力を身につける。またドイツ語圏の国々の文化等について知識を深める。</p> <p>成績評価方法(総合) レポート、期末テストの点数により評価する。出席は欠格事項としてのみ扱い、全授業の3分の2以上の出席を必要とする。</p> <p>教科書・参考書 教科書：身につくドイツ語・初級, 前田良三、高木葉子, 郁文堂, 2006年 / 参考書：辞書は必携。授業開始時に紹介する。電子辞書の独和・和独付きのものでよい。</p> <p>メッセージ CD付きの教科書なので、家でCDをよく聞くようにしてください。予習・復習をしっかりと行ってください。NHK ラジオ第二放送のドイツ語講座をタイマー録音して聞くことをお勧めします。</p> <p>教官連絡先 教育学部2階 200-4 番の研究室。オフィスアワーは木曜 16:00-17:00。</p>					

開設科目	ドイツ語初級1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	4単位	曜時限	火曜日1・2時限 金曜日5・6時限
担当教官	本田義昭				
<p>授業概要 本授業では、現代ドイツ語を読み、書き、話すことができるための基礎的な能力を養います。そのために、発音を身につけ、骨組みとなる文法を学びながら、語彙力をつけて、実際に運用できるよう様々な練習を行ないます。EU(ヨーロッパ連合)の牽引車の一つであるドイツの言語を学んで、国際的な視野を拓けましょう。</p> <p>授業一般目標 現代ドイツ語の発音の基本を習得する。名詞の変化・動詞の現在形などの文法項目を学習することで、ドイツ語の基礎構造を認識する。さらに、平易な表現を憶えて、簡単な日常会話ができるようになる。</p> <p>成績評価方法(総合) 中間試験(35%) + 期末試験(35%) + 授業への積極的な参加度(30%)で評価します。出席率が8割未満の場合は失格とします。</p> <p>教科書・参考書 教科書：CD付き 自己表現のためのドイツ語1, 板山真由美, 三修社, 2004年 / 参考書：第1回目の授業で、初級用の独和辞典をいくつか紹介します。</p> <p>メッセージ こつこつ頑張れば、誰でもかなりのレベルに到達します。継続は力なり！将来はドイツ留学も夢ではありません。</p> <p>教官連絡先 honda@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	ドイツ語初級1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限 木曜日 5・6 時限
担当教官	下寄正利				
<p>授業概要 ドイツ語文法の初歩を勉強します。</p> <p>授業一般目標 ドイツ語の初歩を身につけている。</p> <p>成績評価方法(総合) 授業中の演習、中間テスト、期末テストを総合して成績をつける。</p> <p>教科書・参考書 教科書：親切なドイツ文法, 橋本郁夫, 和田達宜, 伊藤真, 第三書房</p>					

開設科目	ドイツ語初級1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限 金曜日 7・8 時限
担当教官	河中正彦				
<p>授業概要 大学に入って英語以外の外国語にチャレンジしてみようという人には、オススメのクラスです。「丁寧に楽しく」をモットーに、ビデオを見たり、ドイツの歌を歌ったりしながら、ドイツ語を徹底的に学べます。週2回同じ先生が教えますから、進度と習熟度は抜群です。昨年度の受講者からも楽しかったという多くの声が寄せられました。受講者は必ず、火曜日 7・8 時限 金曜日 7・8 時限 の両方を受講してください。受講者は上限 40 名とします。</p> <p>授業一般目標 ドイツ語の発音から入って、まずドイツ語の発音がちゃんとできるようになること。さらに文法事項を習得して、簡単な文を辞書なしで読み書きできるようになること。また簡単な会話ができるようになることを目指します。これは後期のことになりますが、ドイツ語検定試験 4 級の全員合格を目指します。</p> <p>成績評価方法(総合) 各課の終わりに練習問題・読章がついているからそれをレポートで提出してもらい、レポート点を 100 点のなかの 20 点に換算して評価します。試験は中間と期末の 2 回で、40 点ずつです。</p> <p>教科書・参考書 教科書：ドイツ語とのランデヴー, 河中正彦, 郁文堂, 2001 年；一人歩きのドイツ語・自遊自在, 黒澤明夫, JTB, 2003 年；教科書は「文栄堂」で購入してください。辞書は最初の授業で紹介するから、まだ買わないように。/ 参考書：ゼロから始めるドイツ語, 在間 進, 三修社, 2002 年；参考書は希望者のみが、文栄堂で購入してください。ただし持っておいたほうが良いことは、もちろんです。</p> <p>メッセージ 受講者は必ず、火曜日 7・8 時限 金曜日 7・8 時限 の両方を受講してください。初習外国語は一度でも欠席するとダメージは大きいので、全出席のつもりで始めてください。発音が終わったら、週 2 回課題をレポートで出してもらいます。これはかなりきついので、覚悟しておいてください。</p> <p>教官連絡先 E-mail kawanaka@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5089, 研究室 共通教育・研究 1 号館 314 室, オフィス アワー 水 pm4 : 30 ~ 6 時</p>					

開設科目	ドイツ語会話1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	DOBRA FELICITAS VIKTORIA URSULA				
<p><b>授業概要</b> 本授業は、まず第一に基礎的なコミュニケーション能力を身につけさせることを目的とする。文型が提示される。これらの文型は、学生によって練習され、学生の生活に関連する 文例によって補強される。教科書の文章は、ドイツ事情を伝える内容である。各課の終わりに、日本語による文法の説明がある。</p> <p><b>授業一般目標</b> 学生は提示された文型に従って、簡単な会話を行える程度の知識を習得することができる。話すことと発音練習がこの授業の重点である。文法は授業の目的ではないが、目標に 到達するために通らねばならぬ道である。したがって、各課の文法も教授され、習得され たかどうか吟味される。文法は、コミュニカティブに有意義な練習を通じて伝えられる。教科書では、文法事項は「Bausteine」という見出しの下に現れる。学生は教科書の中に描写されたいくつかのシチュエーションによって、文化間の相違を確認することができる。次年度にも更にドイツ語を継続して学習することを希望している学生のために、次年度には同じ教科書の第二部を使用することを指摘しておく。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：Farbkasten Deutsch 2. Situationen. Informationen., Mayumi ITAYAMA/Ursula SH-IOJI/Yuko MOTOKAWA/ Takako YOSHIMITSU, Sanshusha, 2003 年；CD 付き自己表現のためのドイツ語2 / 板山真由美、潮路ウルズラ / 本河裕子 / 吉みつたか子 / 東京：三修社、2003、ISBN4-384-13074-0 C1084 2.700 円</p>					

開設科目	ドイツ語中級1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教2年	単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	DobraFelicitas				
<p><b>授業概要</b> 本授業は、まず第一に基礎的なコミュニケーション能力を身につけさせる、言い換えれば、一年目に学んだことを復習し、確かなものにするを目的とする。文型は、より意識的に応用されなければならない。これらの文型は、学生によってパートナー練習やグループ練習の中で練習され、学生の生活やさまざまなコミュニケーションの状況に関連する 文例によって補強される。教科書の文章は、ドイツ事情を伝える内容である。各課の終わりに、日本語による文法の説明がある。</p> <p><b>授業一般目標</b> 学生は提示された文型に従って、簡単な会話を行える程度の知識を習得することができる。話すことと発音練習がこの授業の重点である。文法は授業の目的ではないが、目標に 到達するために通らねばならぬ道である。したがって、各課の文法も教授され、習得され たかどうか吟味される。文法は、コミュニカティブに有意義な練習を通じて伝えられる。学生は教科書の中に描写されたいくつかのシチュエーションによって、文化間の相違を確認することができる。授業の重点は、教科書の題名に示唆されている「問題発見」にある。学生は、これまでに学んできたことを思い出しながら、世界についての自己の知識を活用して、比較的最近に学んだ新しい言語で言い表すことができる。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 期末試験：筆記テスト(L.6)と会話テスト(Lektion 1-5)(どちらも定期試験期間中に実施)</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：Szenen neu 2, Shuko Sato/ Kyoko Shimoda/Heike Papenthin/Gesa Oldehaver, Sanshusha, 2005 年；シエネン 2 Szenen neu 2. 佐藤修子 / 下田恭子 / ハイケパペンティン / ゲ - サ オルデハ - バル / 東京：三修社、2005 年 / ISBN4-384-13078-3 C1084/2.900 円</p> <p><b>教官連絡先</b> 授業のあといつでもいいです / dobra@yamaguchi-u.ac.jp 宇部医学部の研究室の電話番号：(月/金(0836)22-2187 山口吉田研究室：水曜日12：30時から14：00時まで</p>					

開設科目	フランス語初級 1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限 木曜日 7・8 時限
担当教官	平山豊				
<p>授業概要 現代フランス語を読み、書き、話すことができるようになるための基礎的な能力を養います。そのために文法の諸規則を説明し、発音やイントネーションを身につけ、基本単語の語彙や語形変化を憶えて実際に運用できるよう様々な練習を課します。</p> <p>授業一般目標 動詞の現在形を用いた挨拶や日常の簡単な会話ができる基礎固めをします。</p> <p>成績評価方法 (総合) 定期試験 70%、宿題 10%、授業参加 20%</p> <p>教科書・参考書 教科書：アミカルマン(改訂版)、澤田直之、ほか、駿河台出版社、2005年</p>					

開設科目	フランス語初級 1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限 木曜日 5・6 時限
担当教官	武本雅嗣				
<p>授業概要 最初に、フランスとはどのような国で、フランス語とはどのような言語であるかを概説します。前期は週2回、パリを舞台にしたビデオ教材を使って、フランス語の基本文法を学びます。そして後期は、同じく週2回、フランスの地方を舞台にしたビデオ教材を使って、「読み・書き・聴き・話す」能力を高めていきます。1年間勉強すれば、フランスの文化やフランス人の習慣がかなり把握できているはずですが、フランス語と英語はいわばいとこ同士の間柄ですが、両言語の間には実に多くの共通点があります。ですから、英語の知識を活用して、英語との異同に注意しながらフランス語を勉強していくのが効率的です。英語以外の外国語を学ぶと、言語や文化の多様性と共通性が少しずつ見えてきます。様々な発見の喜びが得られるような授業を行いたいと思っています。</p> <p>授業一般目標 フランス語の文法体系を習得し、基本的なフランス語運用能力を身につけることを目標とします。</p> <p>成績評価方法 (総合) 期末試験：60% 小テスト：20% 出席：20%</p> <p>教科書・参考書 教科書：『彼女は食いしん坊!』、藤田裕二、朝日出版；1年間履修する人は、後期(フランス語初級2)のテキスト『彼女は食いしん坊! 2』も必要です。4月に学生会館の生協で、あらかじめ合わせて2冊購入しておいて下さい。/ 参考書：『クラウン仏和辞典』、天羽 均、三省堂(紀伊国屋にて販売)；『デイク仏和辞典』、中條屋 進、白水社；『プチ・ロワイヤル仏和辞典』、田村 毅、旺文社；学生会館の生協にて販売。</p> <p>メッセージ ほぼ毎回小テストを行うので、休まず出席すること。</p> <p>教官連絡先 研究室 人文 612、オフィスアワー 木曜日 3:00-4:30</p>					

開設科目	フランス語初級 1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	月曜日 9・10 時限 木曜日 3・4 時限
担当教官	井上三朗				
<p>授業概要 ビデオの付いた、比較的やさしい教科書を用いて、フランス語をできるだけ楽しく学習したい。ビデオの映像をとおして、フランス語とフランス文化をより身近に感じることができたらと願っている。基礎的なフランス語を学ぶことによって、読む、聞く、話す、書くという四つの能力を総合的に養成する。また、文法の教科書を併用する。この教科書を用いることにより、読解、会話などのために必要な、基本的な文法事項を学ぶ。</p> <p>授業一般目標 文法の教科書を用いることによって、フランス語の基礎的な文法事項の理解を目標とすることはもちろんであるが、ビデオの付いた教科書の各課には、会話から成り立つ本文と練習問題が付けられているので、フランス語の初歩的な読解力、会話能力、運用能力の養成を目指したい。読む、聞く、話す、書くという四つの能力が総合的に養成されれば幸いである。</p> <p>成績評価方法 (総合) 試験は定期試験をふくめて、2 度おこないたいと思っているが、その試験の点数と、平常点との総合で、成績評価をおこなう。</p> <p>教科書・参考書 教科書：新フランス文法要説、石井洋二郎、朝日出版社、2004 年；ミニ・ボンジュール・パリ、中山真彦・杉山利恵子、白水社、2005 年 / 参考書：『クラウン仏和辞典』、天羽 均、三省堂（紀伊国屋にて販売）；『プチ・ロワイヤル仏和辞典』、田村 毅、旺文社</p> <p>メッセージ 授業への積極的な参加を望む。</p> <p>教官連絡先 月曜日 14：30 - 16：00 . 人文学部 6 1 3 研究室</p>					

開設科目	フランス語会話 1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教官	Emde Angelika				
<p>授業概要 この授業では会話が中心です。日常的な場面を簡単な言い方や文法のパターンで訓練します。フランスの音楽、映画や生活文化も紹介します。</p> <p>授業一般目標 様々なコミュニケーションの場面に応じて、基本的なパターンを練習します。必要な文法を説明し、多くの例を応用しながら、身に付けます。語彙はそれぞれの分野に合わせて導入し、段階的に増やします。聞く力や発音を特に鍛えます。</p> <p>成績評価方法 (総合) 試験やテストは行いませんが、定期的な出席と積極的な参加により評価します。出席：50%、参加や授業への貢献：20%、宿題・授業外レポート：30%。</p> <p>教科書・参考書 教科書：教材のプリントを授業で配付します。</p> <p>メッセージ 出席は非常に大事で、積極的な参加は、成功へのカギです。</p>					

開設科目	フランス語中級1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教2年	単位	2単位	曜時限	月曜日9・10時限
担当教官	末松壽				
<p>授業概要 1.初級文法の復習 2.構文練習 3.基礎的な口語表現(会話)の訓練 以上を同時平行的におこなう。</p> <p>授業一般目標 オウムのように喋るのではなく、文盲者のように文字を持たないのでもなく、学生が教室をはなれたあとも、自ら辞書を用いて文書を読み、あるいは外国人とつき合い、あるいは映画その他のメディアを通じて自立して学び考え実践してゆく力を身につけさせることを目指す。</p> <p>成績評価方法(総合) 意欲や熱意のみならず、実際の運用能力を評価するなら、出席をノートし、平素の練習や発表における進歩を観察し、最終的には筆記試験をおこなって、総合的に判定する。</p> <p>教科書・参考書 教科書:セラヴィ(1),倉片、ジュンタ、トルード,早美出版社/参考書:スタンダード仏和辞典,, ; クラウン仏和辞典,, ; ロワイヤル仏和辞典,, ; デイコ,, ; 上記のいずれかの辞書</p>					

開設科目	中国語初級1 a	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2単位	曜時限	月曜日5・6時限
担当教官	苞山武義				
<p>授業概要 20年来の改革開放政策により社会が激変した中国、WTO加入により世界に窓を開いた中国、GDP世界第6位の経済大国、「世界の工場」と呼ばれる中国は、21世紀中葉、世界第3位GDPを有する国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p> <p>授業一般目標 中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験(中間試験と期末試験)や、小テスト/授業内レポート、宿題/授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>教科書・参考書 教科書:中国語スタンダード(文型・表現編),齊藤匡史、何曉毅、田梅,白帝社,2003年;販売:文栄堂山大前店/参考書:辞書などガイダンス時に指示する。</p> <p>メッセージ ・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					

開設科目	中国語初級 1 a	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	齊藤匡史				
<p><b>授業概要</b> 20 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、WTO 加入により世界に窓を開いた中国、GDP 世界第 6 位の経済大国、「世界の工場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、世界第 3 位 GDP を有する国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p> <p><b>授業一般目標</b> 中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 定期試験 (中間試験と期末試験) や、小テスト / 授業内レポート、宿題 / 授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：中国語スタンダード (文型・表現編), 齊藤匡史、何曉毅、田梅, 白帝社, 2003 年; 販売: 文栄堂山大前店 / 参考書：辞書などガイダンス時に指示する。</p> <p><b>メッセージ</b> ・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					

開設科目	中国語初級 1 a	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	月曜日 9・10 時限
担当教官	富平美波				
<p><b>授業概要</b> 20 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、WTO 加入により世界に窓を開いた中国、GDP 世界第 6 位の経済大国、「世界の工場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、世界第 3 位 GDP を有する国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p> <p><b>授業一般目標</b> 中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 定期試験 (中間試験と期末試験) や、小テスト / 授業内レポート、宿題 / 授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：中国語スタンダード (文型・表現編), 齊藤匡史、何曉毅、田梅, 白帝社, 2003 年; 販売: 文栄堂山大前店 / 参考書：辞書などガイダンス時に指示する。</p> <p><b>メッセージ</b> ・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					

開設科目	中国語初級 1 a	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	富平美波				
<p><b>授業概要</b> 20 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、WTO 加入により世界に窓を開いた中国、GDP 世界第 6 位の経済大国、「世界の工場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、世界第 3 位 GDP を有する国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p> <p><b>授業一般目標</b> 中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 定期試験 (中間試験と期末試験) や、小テスト / 授業内レポート、宿題 / 授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：中国語スタンダード (文型・表現編), 齊藤匡史、何曉毅、田梅, 白帝社, 2003 年; 販売: 文栄堂山大前店 / 参考書: 辞書などガイダンス時に指示する。</p> <p><b>メッセージ</b> ・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					

開設科目	中国語初級 1 a	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	苞山武義				
<p><b>授業概要</b> 20 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、WTO 加入により世界に窓を開いた中国、GDP 世界第 6 位の経済大国、「世界の工場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、世界第 3 位 GDP を有する国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p> <p><b>授業一般目標</b> 中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 定期試験 (中間試験と期末試験) や、小テスト / 授業内レポート、宿題 / 授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：中国語スタンダード (文型・表現編), 齊藤匡史、何曉毅、田梅, 白帝社, 2003 年; 販売: 文栄堂山大前店 / 参考書: 辞書などガイダンス時に指示する。</p> <p><b>メッセージ</b> ・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					

開設科目	中国語初級 1 a	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限
担当教官	更科慎一				
<p><b>授業概要</b> 20 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、WTO 加入により世界に窓を開いた中国、GDP 世界第 6 位の経済大国、「世界の工場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、世界第 3 位 GDP を有する国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p> <p><b>授業一般目標</b> 中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 定期試験 (中間試験と期末試験) や、小テスト / 授業内レポート、宿題 / 授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：中国語スタンダード (文型・表現編), 齊藤匡史、何曉毅、田梅, 白帝社, 2003 年; 販売: 文栄堂山大前店 / 参考書：辞書などガイダンス時に指示する。</p> <p><b>メッセージ</b> ・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					

開設科目	中国語初級 1 a	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教官	一木達彦				
<p><b>授業概要</b> 20 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、WTO 加入により世界に窓を開いた中国、GDP 世界第 6 位の経済大国、「世界の工場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、世界第 3 位 GDP を有する国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p> <p><b>授業一般目標</b> 中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 定期試験 (中間試験と期末試験) や、小テスト / 授業内レポート、宿題 / 授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：中国語スタンダード (文型・表現編), 齊藤匡史、何曉毅、田梅, 白帝社, 2003 年; 販売: 文栄堂山大前店 / 参考書：辞書などガイダンス時に指示する。</p> <p><b>メッセージ</b> ・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					

開設科目	中国語初級 1 a	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教官	一木達彦				
<p><b>授業概要</b> 20 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、WTO 加入により世界に窓を開いた中国、GDP 世界第 6 位の経済大国、「世界の工場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、世界第 3 位 GDP を有する国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p> <p><b>授業一般目標</b> 中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 定期試験 (中間試験と期末試験) や、小テスト / 授業内レポート、宿題 / 授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：中国語スタンダード (文型・表現編), 齊藤匡史、何曉毅、田梅, 白帝社, 2003 年; 販売: 文栄堂山大前店 / 参考書：辞書などガイダンス時に指示する。</p> <p><b>メッセージ</b> ・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					

開設科目	中国語初級 1 a	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	水曜日 9・10 時限
担当教官	一木達彦				
<p><b>授業概要</b> 20 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、WTO 加入により世界に窓を開いた中国、GDP 世界第 6 位の経済大国、「世界の工場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、世界第 3 位 GDP を有する国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p> <p><b>授業一般目標</b> 中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 定期試験 (中間試験と期末試験) や、小テスト / 授業内レポート、宿題 / 授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：中国語スタンダード (文型・表現編), 齊藤匡史、何曉毅、田梅, 白帝社, 2003 年; 販売: 文栄堂山大前店 / 参考書：辞書などガイダンス時に指示する。</p> <p><b>メッセージ</b> ・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					

開設科目	中国語初級 1 a	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教官	杉本知栄子				
<p><b>授業概要</b> 20 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、WTO 加入により世界に窓を開いた中国、GDP 世界第 6 位の経済大国、「世界の工場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、世界第 3 位 GDP を有する国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p> <p><b>授業一般目標</b> 中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 定期試験 (中間試験と期末試験) や、小テスト / 授業内レポート、宿題 / 授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：中国語スタンダード (文型・表現編), 齊藤匡史、何曉毅、田梅, 白帝社, 2003 年; 販売: 文栄堂山大前店 / 参考書: 辞書などガイダンス時に指示する。</p> <p><b>メッセージ</b> ・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					

開設科目	中国語初級 1 a	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教官	根ヶ山徹				
<p><b>授業概要</b> 現代中国語の発音、基本的な文系や文法を習得するための授業。</p> <p><b>授業一般目標</b> 中国語 1a・2a・1b・2b と合わせて履修することにより、入門期に必要な中国語の理解・運用能力を養成する。また、中国語との出会いと交流を通じて、異文化を受け入れるこころを養い、国際社会への責任感を培う。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 定期試験の成績を 100 % として成績評価を行う。出席は欠格条件。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：北京の風 (改訂版), 木村英樹・小野秀樹・陳蓉, 白帝社, 2002 年</p> <p><b>メッセージ</b> 「中国語は同じ漢字表記なので楽だ」と考えがちであるが、それなりの努力をしなければ習熟することは難しいので、真剣に取り組んで欲しい。なお、上記の授業計画は予定であり、進捗ならびに授業日程により、変更されることがある。</p>					

開設科目	中国語初級 1 a	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教官	秋山淳				
<p><b>授業概要</b> 20 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、WTO 加入により世界に窓を開いた中国、GDP 世界第 6 位の経済大国、「世界の工場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、世界第 3 位 GDP を有する国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p> <p><b>授業一般目標</b> 中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 定期試験 (中間試験と期末試験) や、小テスト / 授業内レポート、宿題 / 授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：中国語スタンダード (文型・表現編), 齊藤匡史、何曉毅、田梅, 白帝社, 2003 年; 販売: 文栄堂山大前店 / 参考書：辞書などガイダンス時に指示する。</p> <p><b>メッセージ</b> ・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					

開設科目	中国語初級 1 a	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教官	杉本知栄子				
<p><b>授業概要</b> 20 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、WTO 加入により世界に窓を開いた中国、GDP 世界第 6 位の経済大国、「世界の工場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、世界第 3 位 GDP を有する国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p> <p><b>授業一般目標</b> 中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 定期試験 (中間試験と期末試験) や、小テスト / 授業内レポート、宿題 / 授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：中国語スタンダード (文型・表現編), 齊藤匡史、何曉毅、田梅, 白帝社, 2003 年; 販売: 文栄堂山大前店 / 参考書：辞書などガイダンス時に指示する。</p> <p><b>メッセージ</b> ・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					

開設科目	中国語初級 1 a	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教官	更科慎一				
<p><b>授業概要</b> 20 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、WTO 加入により世界に窓を開いた中国、GDP 世界第 6 位の経済大国、「世界の工場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、世界第 3 位 GDP を有する国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p> <p><b>授業一般目標</b> 中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 定期試験 (中間試験と期末試験) や、小テスト / 授業内レポート、宿題 / 授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：中国語スタンダード (文型・表現編), 齊藤匡史、何曉毅、田梅, 白帝社, 2003 年; 販売: 文栄堂山大前店 / 参考書: 辞書などガイダンス時に指示する。</p> <p><b>メッセージ</b> ・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					

開設科目	中国語初級 1 a	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教官	秋山淳				
<p><b>授業概要</b> 20 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、WTO 加入により世界に窓を開いた中国、GDP 世界第 6 位の経済大国、「世界の工場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、世界第 3 位 GDP を有する国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p> <p><b>授業一般目標</b> 中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 定期試験 (中間試験と期末試験) や、小テスト / 授業内レポート、宿題 / 授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：中国語スタンダード (文型・表現編), 齊藤匡史、何曉毅、田梅, 白帝社, 2003 年; 販売: 文栄堂山大前店 / 参考書: 辞書などガイダンス時に指示する。</p> <p><b>メッセージ</b> ・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					

開設科目	中国語初級 1 a	区分	講義	開設期	前期
対象学生	医・工 2 年	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教官	李海英				
<p><b>授業概要</b> 20 年来の改革開放政策により社会が激変した中国、WTO 加入により世界に窓を開いた中国、GDP 世界第 6 位の経済大国、「世界の工場」と呼ばれる中国は、21 世紀中葉、世界第 3 位 GDP を有する国になるとみられる中国は、アジアと世界にどのような影響を与えていくのだろうか。中国から発信される情報を受けとめ、膨大なネットワークにアクセスするには中国語の学習が必要である。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、入門期には多くの時間をこの習得にかけなければならない。しかし文法は簡潔であり、表現、文型の学習を積み重ねるうちに自然とことばの法則が見えて来る。中国語の学習がアジア社会に目を向ける窓口となることを願う。</p> <p><b>授業一般目標</b> 中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語運用能力を養成する。あわせて中国理解を深める。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 定期試験 (中間試験と期末試験) や、小テスト / 授業内レポート、宿題 / 授業外レポート、授業態度や授業への参加度などによる総合評価 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：中国語スタンダード (文型・表現編), 齊藤匡史、何曉毅、田梅, 白帝社, 2003 年; 販売: 工学部生協 / 参考書: 辞書などガイダンス時に指示する。</p> <p><b>メッセージ</b> ・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					

開設科目	中国語初級 1 b	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	呉靱				
<p><b>授業概要</b> この授業は「中国語初級 1a, 2a」とあわせて受講するものである。「b」科目は、中国人教官の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。</p> <p><b>授業一般目標</b> 発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 出席や、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：中国語スタンダード (コミュニケーション編), 何曉毅 ほか, 白帝社, 2005 年; 販売: 文栄堂山大前店 / 参考書: 辞書を用意すること。辞書は授業中に紹介する。</p> <p><b>メッセージ</b> 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					

開設科目	中国語初級 1 b	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	呉 勲				
<p><b>授業概要</b> この授業は「中国語初級 1a, 2a」とあわせて受講するものである。「b」科目は、中国人教官の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。</p> <p><b>授業一般目標</b> 発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 出席や、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：中国語スタンダード (コミュニケーション編), 何曉毅 ほか, 白帝社, 2005 年; 販売: 文栄堂山大前店 / 参考書：辞書を用意すること。辞書は授業中に紹介する。</p> <p><b>メッセージ</b> 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					

開設科目	中国語初級 1 b	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	呉 勲				
<p><b>授業概要</b> この授業は「中国語初級 1a, 2a」とあわせて受講するものである。「b」科目は、中国人教官の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。</p> <p><b>授業一般目標</b> 発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 出席や、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：中国語スタンダード (コミュニケーション編), 何曉毅 ほか, 白帝社, 2005 年; 販売: 文栄堂山大前店 / 参考書：辞書を用意すること。辞書は授業中に紹介する。</p> <p><b>メッセージ</b> 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					

開設科目	中国語初級 1 b	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教官	陳鳳展				
<p><b>授業概要</b> この授業は「中国語初級 1a, 2a」とあわせて受講するものである。「b」科目は、中国人教官の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。</p> <p><b>授業一般目標</b> 発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 出席や、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：中国語スタンダード (コミュニケーション編), 何曉毅 ほか, 白帝社, 2005 年; 販売: 文栄堂山大前店 / 参考書：辞書を用意すること。辞書は授業中に紹介する。</p> <p><b>メッセージ</b> 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					

開設科目	中国語初級 1 b	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	李海英				
<p><b>授業概要</b> この授業は「中国語初級 1a, 2a」とあわせて受講するものである。「b」科目は、中国人教官の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。</p> <p><b>授業一般目標</b> 発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 出席や、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：中国語スタンダード (コミュニケーション編), 何曉毅 ほか, 白帝社, 2005 年; 販売: 文栄堂山大前店 / 参考書：辞書を用意すること。辞書は授業中に紹介する。</p> <p><b>メッセージ</b> 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					

開設科目	中国語初級 1 b	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	陳鳳展				
<p>授業概要 この授業は「中国語初級 1a, 2a」とあわせて受講するものである。「b」科目は、中国人教官の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。</p> <p>授業一般目標 発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい</p> <p>成績評価方法(総合) 出席や、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価</p> <p>教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(コミュニケーション編), 何曉毅 ほか, 白帝社, 2005年; 販売: 文栄堂山大前店 / 参考書: 辞書を用意すること。辞書は授業中に紹介する。</p> <p>メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					

開設科目	中国語初級 1 b	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教官	張玲				
<p>授業概要 この授業は「中国語初級 1a, 2a」とあわせて受講するものである。「b」科目は、中国人教官の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。</p> <p>授業一般目標 発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい</p> <p>成績評価方法(総合) 出席や、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価</p> <p>教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(コミュニケーション編), 何曉毅 ほか, 白帝社, 2005年; 販売: 文栄堂山大前店 / 参考書: 辞書を用意すること。辞書は授業中に紹介する。</p> <p>メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					

開設科目	中国語初級 1 b	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教官	陳鳳展				
<p><b>授業概要</b> この授業は「中国語初級 1a, 2a」とあわせて受講するものである。「b」科目は、中国人教官の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。</p> <p><b>授業一般目標</b> 発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 出席や、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：中国語スタンダード (コミュニケーション編), 何曉毅 ほか, 白帝社, 2005 年; 販売: 文栄堂山大前店 / 参考書: 辞書を用意すること。辞書は授業中に紹介する。</p> <p><b>メッセージ</b> 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					

開設科目	中国語初級 1 b	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教官	李海英				
<p><b>授業概要</b> この授業は「中国語初級 1a, 2a」とあわせて受講するものである。「b」科目は、中国人教官の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。</p> <p><b>授業一般目標</b> 発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 出席や、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：中国語スタンダード (コミュニケーション編), 何曉毅 ほか, 白帝社, 2005 年; 販売: 文栄堂山大前店 / 参考書: 辞書を用意すること。辞書は授業中に紹介する。</p> <p><b>メッセージ</b> 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					

開設科目	中国語初級 1 b	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教官	田梅				
<p><b>授業概要</b> この授業は「中国語初級 1a, 2a」とあわせて受講するものである。「b」科目は、中国人教官の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。</p> <p><b>授業一般目標</b> 発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 出席や、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：中国語スタンダード (コミュニケーション編), 何曉毅 ほか, 白帝社, 2005 年; 販売: 文栄堂山大前店 / 参考書: 辞書を用意すること。辞書は授業中に紹介する。</p> <p><b>メッセージ</b> 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					

開設科目	中国語初級 1 b	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	水曜日 9・10 時限
担当教官	張玲				
<p><b>授業概要</b> この授業は「中国語初級 1a, 2a」とあわせて受講するものである。「b」科目は、中国人教官の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。</p> <p><b>授業一般目標</b> 発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 出席や、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：中国語スタンダード (コミュニケーション編), 何曉毅 ほか, 白帝社, 2005 年; 販売: 文栄堂山大前店 / 参考書: 辞書を用意すること。辞書は授業中に紹介する。</p> <p><b>メッセージ</b> 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					

開設科目	中国語初級 1 b	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教官	梁蕾				
<p><b>授業概要</b> この授業は「中国語初級 1a, 2a」とあわせて受講するものである。「b」科目は、中国人教官の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。</p> <p><b>授業一般目標</b> 発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 出席や、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：中国語スタンダード (コミュニケーション編), 何曉毅 ほか, 白帝社, 2005 年 / 参考書：辞書を用意すること。辞書は授業中に紹介する。</p> <p><b>メッセージ</b> 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					

開設科目	中国語初級 1 b	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教官	梁蕾				
<p><b>授業概要</b> この授業は「中国語初級 1a, 2a」とあわせて受講するものである。「b」科目は、中国人教官の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。</p> <p><b>授業一般目標</b> 発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 出席や、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：中国語スタンダード (コミュニケーション編), 何曉毅 ほか, 白帝社, 2005 年; 販売：文栄堂山大前店 / 参考書：辞書を用意すること。辞書は授業中に紹介する。</p> <p><b>メッセージ</b> 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					

開設科目	中国語初級 1 b	区分	講義	開設期	前期
対象学生	医・工 2 年	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教官	田梅				
<p><b>授業概要</b> この授業は「中国語初級 1a, 2a」とあわせて受講するものである。「b」科目は、中国人教官の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。</p> <p><b>授業一般目標</b> 発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 出席や、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：中国語スタンダード(コミュニケーション編), 何曉毅 ほか, 白帝社, 2005 年; 工学部生協 / 参考書：辞書を用意すること。辞書は授業中に紹介する。</p> <p><b>メッセージ</b> 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					

開設科目	中国語初級 1 b	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教官	何曉毅				
<p><b>授業概要</b> この授業は「中国語初級 1a, 2a」とあわせて受講するものである。「b」科目は、中国人教官の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。</p> <p><b>授業一般目標</b> 発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 出席や、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：中国語スタンダード(コミュニケーション編), 何曉毅 ほか, 白帝社, 2005 年; 販売：文栄堂山大前店 / 参考書：辞書を用意すること。辞書は授業中に紹介する。</p> <p><b>メッセージ</b> 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					

開設科目	中国語初級 1 b	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	金曜日 7・8 時限
担当教官	張玲				
<p><b>授業概要</b> この授業は「中国語初級 1a, 2a」とあわせて受講するものである。「b」科目は、中国人教官の指導による授業である。この授業ではより多く中国語による指導が行われる。</p> <p><b>授業一般目標</b> 発音練習と表現学習を積み重ね、中国語の発音、アクセント、基本的な表現を習得し、簡単な日常会話が可能程度の中国語コミュニケーション能力の養成を目指す。また中国事情や中国文化の紹介を通じ、発展著しい中国の現状を認識、理解してもらいたい</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 出席や、期末試験、授業の参加度、小テストなどによる総合評価</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：中国語スタンダード (コミュニケーション編), 何曉毅 ほか, 白帝社, 2005 年; 販売：文栄堂山大前店 / 参考書：辞書を用意すること。辞書は授業中に紹介する。</p> <p><b>メッセージ</b> 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。・初回授業で定員を上回る場合、抽選を行うので必ず出席すること。抽選後の履修は認めない。・後期からの履修変更は認めない。後期開設科目に注意して履修すること。・全てのクラス抽選にもれた学生を対象に後日、履修相談をおこなうので掲示に注意すること。なお、シラバスはすべて予定であること。学習状況により調整することがある。</p>					

開設科目	中国語初級会話 1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教	単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教官	宇 芳				
<p><b>授業概要</b> 本授業では 中国語の発音とアクセント、基本的な文型パターンを勉強して、簡単な日常会話できるのを図る。</p> <p><b>授業一般目標</b> 本授業は発音、基礎的な文型及び基本文法の習得を目指す。やさしい挨拶言葉から日常における様々な会話の場面を通して、中国語による話す、聞く能力を養成できるようになることを目標とする。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 定期試験 (中間試験と期末試験) = 60~80 % 小テスト / 授業内レポート = 10 % 未満 宿題 / 授業外レポート = 10 % 未満 授業態度や授業への参加度 = 10 % 未満 出席 = 10~20 %</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：中国語はじめの一步, 尹 景春 竹島 毅, 白水社, 2005 年; 販売：文栄堂山大前店</p>					

開設科目	中国語中級 1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教 2 年	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	一木達彦				
<p>授業概要 中級レベルの中国語を学習する。</p> <p>授業一般目標 中級レベルの中国語を総合的な習得を目指す、特に読解力を身につけることに重点を置いて習得する。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験の成績を 80%、小テストの成績を 20%として成績評価を行う。小テストによる評価は、教員の裁量により、宿題や授業への参加度(与えられた課題に対する解答など)による評価によって替えることができる。出席は欠格事項とする</p> <p>教科書・参考書 教科書: 授業中にプリント等を配布 / 参考書: 中日辞典</p> <p>メッセージ この授業を受講するためには、中日辞典を準備する必要があります。</p> <p>教官連絡先 yimu@yahoo.co.jp</p>					

開設科目	中国語中級会話 1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教 2 年	単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教官	張玲				
<p>授業概要 異文化間のコミュニケーションの手段として中国語を学ぶ。中級会話の完成を目指す。実際に中国で日常に用いられる会話を自然な速度で話せるようになるまで指導する。併せて中国文化、中国事情の紹介に努める。</p> <p>授業一般目標 主に話す能力と聞く能力をマスターさせる。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験及び小テスト、受講態度により総合評価</p> <p>教科書・参考書 教科書: 新版 中国語さらなる一歩, 尹景春など, 白水社, 2002 年; 販売: 文栄堂山前店</p> <p>メッセージ 予習復習が必要です。単語と文型を覚え、そして繰り返し練習してください。</p> <p>教官連絡先 zhangling414@ybb.ne.jp</p>					

開設科目	中国語閲読 1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教 2 年	単位	2 単位	曜時限	月曜日 9・10 時限
担当教官	高木智見				
<p><b>授業概要</b> 20世紀の中国を代表する古代文明研究者、李学勤氏、李零氏、呂思勉氏などの著作から、受講生と相談してテキストを決める。いずれも、極めて明確な現代中国語の書き手であるが、中には様々な原史料が引用されており、この授業を受けることにより、現代中国語は言うまでもなく、中国の考古学、歴史学、思想、文学、要するに古代文明に関する全体的な知識を身につけることができる。</p> <p><b>授業一般目標</b> 一年間の中国語学習を前提にして、より高度な文章を、正確にかつ迅速に読むことが出来るようになるのが、第一の目標である。それに加えて、中国古代文化、さらには中国 そのものについての総合的な知識を身につける。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 日常的な受講態度、分担したときの出来具合、授業外レポートの出来具合などを総合的に判定する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：プリントを配布します。 / 参考書：授業の中でお知らせします。</p> <p><b>メッセージ</b> 中国に関する興味を持ち、ちょっと専門的なものをのぞいてみたいという人を歓迎します。重要なことは、現在の能力ではなく、中国語、中国文化を理解したいという意欲だけです。</p> <p><b>教官連絡先</b> 人文学部五階 510 研究室 火曜日十五時から十六時</p>					

開設科目	ハングル初級 1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限 金曜日 1・2 時限
担当教官	和田学				
<p><b>授業概要</b> この授業では、韓国語/朝鮮語の文字、発音、初歩的な文法、及び語彙を学ぶ。この言語は、語順をはじめとして、様々な点において日本語と類似した点が多い。しかし、文字や発音は大きく違い、それらを習得する初歩の段階ではかなり難しい言語と言える。週 2 回の授業なので、ペースは速く、また、毎回宿題を出すので、まじめな態度でのぞまなければついてくるのが難しいであろう。</p> <p><b>授業一般目標</b> 前期の目標は、文字と発音を習得するのに加え、簡単な自己紹介ができるまでのレベルを目標とする。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> (1) 定期試験と (2) 不定期の小テストで評価します。(3) 出席、宿題の提出が所定の回数に満たないものには単位を与えません。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：「聞いて覚える初級朝鮮語」, 河村光雅・田星姫, 白水社, 2002 年</p>					

開設科目	ハングル初級1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限 木曜日 5・6 時限
担当教官	桂林春				
<p>授業概要 この授業では、韓国語/朝鮮語の文字、発音、初歩的な文法、及び語彙を学ぶ。この言語は、語順をはじめとして、様々な点において日本語と類似した点が多い。しかし、文字や発音は大きく違い、それらを習得する初歩の段階ではかなり難しい言語と言える。週2回の授業なので、ペースは速く、また、毎回宿題を出すので、まじめな態度でのぞまなければついてくるのが難しいであろう。</p> <p>授業一般目標 前期の目標は、文字と発音を習得するのに加え、簡単な自己紹介ができるまでのレベルを目標とする。</p> <p>成績評価方法(総合) (1) 定期試験と(2) 不定期の小テストで評価します。(3) 出席、宿題の提出が所定の回数に満たないものには単位を与えません。</p> <p>教科書・参考書 教科書：「聞いて覚える初級朝鮮語」, 河村光雅・田星姫, 白水社, 2002 年</p>					

開設科目	ハングル初級1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限 木曜日 5・6 時限
担当教官	山田 寛人				
<p>授業概要 この授業では、韓国語/朝鮮語の文字、発音、初歩的な文法、及び語彙を学ぶ。この言語は、語順をはじめとして、様々な点において日本語と類似した点が多い。しかし、文字や発音は大きく違い、それらを習得する初歩の段階ではかなり難しい言語と言える。週2回の授業なので、ペースは速く、また、毎回宿題を出すので、まじめな態度でのぞまなければついてくるのが難しいであろう。</p> <p>授業一般目標 前期の目標は、文字と発音を習得するのに加え、簡単な自己紹介ができるまでのレベルを目標とする。</p> <p>成績評価方法(総合) (1) 定期試験と(2) 不定期の小テストで評価します。(3) 出席、宿題の提出が所定の回数に満たないものには単位を与えません。</p> <p>教科書・参考書 教科書：「聞いて覚える初級朝鮮語」, 河村光雅・田星姫, 白水社, 2002 年</p>					

開設科目	ハングル初級1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限 木曜日 7・8 時限
担当教官	山田寛人				
<p>授業概要 この授業では、韓国語/朝鮮語の文字、発音、初歩的な文法、及び語彙を学ぶ。この言語は、語順をはじめとして、様々な点において日本語と類似した点が多い。しかし、文字や発音は大きく違い、それらを習得する初歩の段階ではかなり難しい言語と言える。週2回の授業なので、ペースは速く、また、毎回宿題を出すので、まじめな態度でのぞまなければついてくのが難しいであろう。</p> <p>授業一般目標 前期の目標は、文字と発音を習得するのに加え、簡単な自己紹介ができるまでのレベルを目標とする。</p> <p>成績評価方法(総合) (1) 定期試験と(2) 不定期の小テストで評価します。(3) 出席、宿題の提出が所定の回数に満たないものには単位を与えません。</p> <p>教科書・参考書 教科書：「聞いて覚える初級朝鮮語」, 河村光雅・田星姫, 白水社, 2002 年</p>					

開設科目	ハングル初級会話1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教	単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教官	桂林春				
<p>授業概要 本授業では、いわゆる日常的な基礎会話を「正確な発音」の練習を通じて学習していきます</p> <p>授業一般目標 「ハングル」の学習と韓国語でのコミュニケーション能力を身に付けること、そして、それらを通じて近隣国、韓国に関する知識を修得することです。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験・小テスト・出席による総合評価。</p> <p>教科書・参考書 教科書：「使える朝鮮語」, 曾我祐典・池 貞姫, 白水社, 2006 年 / 参考書：授業中その都度紹介。</p> <p>メッセージ 中身のある「韓流」を作って行こう!</p> <p>教官連絡先 gyelc0926@yahoo.co.jp</p>					

系列 外国語教育

分野 ハングル

科目類型 展開1

開設科目	ハングル中級1	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教2年	単位	2単位	曜時限	木曜日7・8時限
担当教官	和田学				
<p>授業概要 この授業では1年次の初級の授業で学んだことを更に定着させると共に、更に多様な表現を学びます。同時に、語彙についてもより高度な語彙を身に付けます。この目的のために、毎回、授業の内外での課題を課します。</p> <p>授業一般目標 基本となる文法事項を確実にし、更に、多様な構文を学びます。また、語彙力をつけることにより、簡単な文章なら辞書の助けがほとんどなくとも、読めるようにします。また、様々な場面での会話ができるようになります。</p> <p>教科書・参考書 教科書：韓国語中級, 李昌圭, 白帝社, 2000年</p> <p>教官連絡先 連絡先:wadagaku@yamaguchi-u.ac.jp、研究室:人文棟2階、オフィスアワー:木曜日10:00-17:00</p>					

系列 外国語教育

分野 日本語

科目類型 総説

開設科目	日本語上級A	区分	講義	開設期	前期
対象学生	外国人留学生	単位	2単位	曜時限	月曜日3・4時限
担当教官	杉原道子				
<p>授業概要 大学での講義を聞き、勉学や研究を行うための言語活動に必要な日本語能力を養う。講義を聞く、資料を読むなどの「受信型スキル」を伸ばすだけでなく、資料収集、発表などを通して、主体的にその場の状況を考えて、コミュニケーションしたり発表する「発信型スキル」を獲得する。</p> <p>授業一般目標 1.課題文や語彙の表現を理解する。2.テーマに関する資料を収集し、問題点を指摘できる。3.自ら選択したテーマに関してプレゼンテーションができる。</p> <p>成績評価方法(総合) 期末試験、授業外レポート、プレゼンテーション等で総合的に判断して成績評価をする。</p> <p>教科書・参考書 教科書:大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ, 佐々木, Japan Times, 2003年/参考書:新聞記事</p> <p>教官連絡先 水曜日16:00~17:30 木曜日16:00~17:30 TEL:083-933-5985 e-mail:michikos@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	日本語中級A	区分	講義	開設期	前期
対象学生	外国人留学生	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	門脇薫				
<p>授業概要 本授業では、日本語の中級前半レベルの総合的な能力を養う。特に読解練習を中心にを行い、中級前半レベルの語彙・文法事項を習得し、運用できるような様々な4技能の練習も行う。</p> <p>授業一般目標 日本語の中級前半レベルの語彙・文法事項を習得し、日常生活・大学生活において運用できる。様々なテーマの文章を読み、内容や書き言葉について理解ができる。それぞれのテーマについて考え、自分の考えを日本語で表現できるようになる。</p> <p>成績評価方法(総合) 小テスト、定期テストで習ったことを習得しているかを評価する。「書く」タスクは宿題として提出する。4技能に関する様々な練習やタスクを課し、演習として評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：ニューアプローチ中級日本語基礎編(改訂版)、日本語研究者教材開発室、日本語研究社、2005年</p> <p>教官連絡先 kkaoru@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	日本語中級A	区分	講義	開設期	前期
対象学生	外国人留学生	単位	2 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教官	今井新悟				
<p>授業概要 論理的な文章の書き方の基本的なルールを学び、課題作文を通して、論理的な文章の書き方を身に着けます。</p> <p>授業一般目標 句読点・記号などの規則を学びます。段落や論理性などの文章作成のルールについて学びます。文章を読み、論理性を検証します。自分でたくさんの文章を書きます。他の人の文章を批判的に検証します。文章を推敲します。</p> <p>成績評価方法(総合) 総合的に判断して成績評価をする。</p> <p>教科書・参考書 教科書：留学生のための論理的な文章の書き方、二通信子、佐藤不二子、スリーエーネットワーク、2001年</p> <p>教官連絡先 電話番号：083-933-5088 オフィスアワー：月曜日 13：00-14：00</p>					

開設科目	日本語上級A	区分	講義	開設期	前期
対象学生	外国人留学生	単位	2 単位	曜時間	水曜日 3・4 時限
担当教官	赤木弥生				
<p><b>授業概要</b> 大学での講義に必要なスキル(講義を聞き取る、教科書を読みとる、感想を述べる、レポートを書く、意見を述べる)を養成する。リーディングおよびライティング・ストラテジー、ディスカッションの方法などについて学び、演習形式でグループや個別に練習する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 大学での講義を理解する聴解、読解、講義の感想や発表ができるスピーチ能力、試験、レポートを書くことができるライティング能力など総合的に日本語能力を伸ばす。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 出席、練習問題、課題文、課題レポートを総合して判断する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ 佐々木瑞枝著・The Japan Times・2001 / 参考書：留学生のための論理的な文章の書き方, 二通信子ほか, スリーエーネットワーク, 2003 年</p> <p><b>メッセージ</b> 大学の講義を理解するためには、「聞く、話す、読む、書く」を総合的に伸ばす必要がある。このため、課題が多く、また要求も高くなるが、日本語の最終段階なのでがんばってやりましょう。質問などはメールで問い合わせてください。</p> <p><b>教官連絡先</b> オフィスアワー:木曜日午後 14 時 30 分~ 15 時 30 分 電話 083 - 933 - 5986 E-mail: yayoia@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	日本語上級A	区分	講義	開設期	前期
対象学生	外国人留学生	単位	2 単位	曜時間	木曜日 3・4 時限
担当教官	門脇 薫				
<p><b>授業概要</b> 本授業では大学で求められる基礎的な書く(レポート、論文を書く)力を養う。書き言葉や説明的な文章の構成について、読解練習と組み合わせて説明を行なう。練習問題及び「書く」課題を課し、それについてのフィードバックを与える。</p> <p><b>授業一般目標</b> 説明的な文章を読み、内容や文章の構成について考察する。文章の展開方法を理解し、構成に気をつけて自分の考えが日本語で書ける。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 各課の課題、最終レポート</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：改訂版 留学生のための論理的な文章の書き方, 二通信子, スリーエーネットワーク, 2003 年</p> <p><b>教官連絡先</b> kkaoru@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	日本語中級A	区分	講義	開設期	前期
対象学生	外国人留学生	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教官	渡辺淳一				
<p>授業概要 この授業は「漢字」と「文章の書き方」の二つの部分からできています。「漢字」では、日本語中級レベルの漢字の書き方と読み方を学び、その漢字を使った熟語とその意味と使い方を学びます。「文章の書き方」では、レポートの書き方の基本的なルールを学び、実際に書かれた文章例を読み、レポートの書き方を練習します。</p> <p>授業一般目標 「漢字」では、中級レベルの基礎漢字 500 字の書き方、読み方を身につけ、漢字熟語の意味・使い方を理解します。「文章の書き方」では、様々な文体の違い、句読点・各種記号の使い方、段落や起承転結などの文章作成のルールについて学び、具体的な文章例を読みそのルールの検証を行い、自分でレポートを書き、提出します。</p> <p>成績評価方法（総合） 期末試験、漢字クイズ、提出作文評価、出席等を総合的に判断して成績評価をする。</p> <p>教科書・参考書 教科書：『留学生のための論理的な文章の書き方』, 二通信子・佐藤不二子, スリーエーネットワーク, 2000 年</p> <p>教官連絡先 メールアドレス：junichiw@yamaguchi-u.ac.jp 電話番号：9 3 3 - 5 9 8 4</p>					

前期 - 一般系列

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	パソコンSOS1	区分	その他	開設期	前期
対象学生	人・教2年，経・理3年	単位	2単位	曜時限	月曜日 11・12時限
担当教官	糸長雅弘，西口毅				
<p><b>授業概要</b> 大学教育の問題点の一つは，学生自らが「発見し，はぐくみ，かたちにする」機会の乏しさである。受身の授業だけでは，問題探求・解決能力を育てることができない。本授業では，学生がパソコンSOSセンターにおけるパソコンユーザ支援に主体的に取り組み，その活動を通して「発見し，はぐくみ，かたちにする」ことを実体験する。</p> <p><b>授業一般目標</b> パソコンSOSセンターの学生スタッフとしての活動・体験を通して，パソコンのスキルを向上させ，問題解決能力，文書作成能力，自己表現力を身に付ける。また「パソコンSOS2」の既修得者はSA（ステューデントアシスタント）として，履修者の指導を行い，指導能力を身に付ける。</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 出席率80%未満を欠格条件とし，毎回のレポート作成と学期末の報告書作成を総合的に評価する。</p> <p><b>メッセージ</b> パソコン相談員として活動するので，誰でも受講できるというわけではありません。受講希望者に対して，初回に能力診断テストを行い，パソコンに関するスキルが一定の水準以上の学生に履修を認めます。「パソコンSOS2」の既修得者については，無条件に履修を認めます。パソコンのトラブルなどで悩んでいる人の役に立ちたいという意欲を持つ学生を歓迎します。なお，授業の性格から，パソコン相談を行うことが授業への出席となります（曜日は希望に応じて決定）。</p> <p><b>教官連絡先</b> E-mail: itonaga@yamaguchi-u.ac.jp，電話: 083-933-5350，研究室: 教育学部224号室，オフィスアワー: 水曜 10:20 - 11:50</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	大学で学ぶこと，論文の書き方	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教2年，経・理・農3年	単位	2単位	曜時限	火曜日 1・2時限
担当教官	松井範惇				
<p><b>授業概要</b> 大学では何を学ぶのか，如何に学ぶのか，これらを一緒に考えてみよう。自分の身の回り，社会の動き，世界の出来事などに興味を持ち，なぜだろうか，どうして，誰が，何を，こんなことが起きるのか，論理的な説明は出来るのか。納得するまで考えてみませんか。そうすると，大学では何を学ぶのかが見えてくるかもしれない。如何に学ぶと面白いのかが見えてくるかもしれない。アメリカの大学を例にします。その発見を文章にまとめるにはどうしたらよいのか。レポート，論文にするにはどんな書き方があるのだろうか。こんなことを勉強します。</p> <p><b>授業一般目標</b> 自分で考えること，何でも疑ってみること，論理的な説明が出来るかどうか考える習慣を養います。文章を書く訓練をします。筋道のたった文章，論文を書くのに，億劫がらずに取り組みたい人は，頑張ってみてください。きっと役に立ちますよ。</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 出席と討論： 15% 研究企画提案書作成： 25%（アメリカの大学について研究します）ミニ論文（1）： 30% ミニ論文（2）： 30%</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：これから論文を書く若者のために，酒井聡樹，共立出版，2002年；リベラル教育とアメリカの大学，松井 範惇，西日本法規出版，2004年</p> <p><b>教官連絡先</b> 内線5530 npmatsui@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	環境と生物	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教2年, 経・理・農3年	単位	2単位	曜時限	火曜日 3・4時限
担当教官	早川誠而外				
<p><b>授業概要</b> 私たちが限りない豊かさ、利便さを追い求めた結果として、社会システムは大量生産、大量消費、大量廃棄型となり、地球自身の環境許容能力を上回り、地球環境に大きな負荷を与えるようになった。今世紀は、この限りある地球環境を守るために、与えられた自然条件(土、水、大気)に対し、生物と地球生態系との最適な組み合わせによる循環型の持続的発展を目指した知識、理論に加え、新たなテーマや今日的なテーマも含めて解説する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 地球環境問題は、問題の特殊性、関係裾野の広さから、どのように対処すべきかはっきりと決められているわけではなく、それぞれに判断をゆだねなければならない面もある。この様に複雑で多様化する環境問題に対処するため、多岐にわたる専門分野から講義を行い、環境問題に関する多くの幅広い知識を取得することに目標を置く。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 講義の終わりの小テストあるいは課せられたレポートをもとに成績評価を行う。</p> <p><b>メッセージ</b> 概要、目的を読んで、本当に興味を持つ熱意のある学生を望む。</p> <p><b>教官連絡先</b> 早川誠而、オフィスアワー、随時 OK, 総合研究棟 205、</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	食料生産の理論と実践	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・経・理3年	単位	2単位	曜時限	火曜日 3・4時限
担当教官	藤間充 ほか 8名				
<p><b>授業概要</b> 21世紀において地球規模で解決すべき課題は、人口、食料、環境であると言われている。わずか50年前には食べることにすらまならぬ時代があったことを忘れ去り、飽食になれきった日本人にとって21世紀ではどのような試練が待ち受けているのか? その21世紀を担う学生諸君に食料生産の科学と重要性を学習し、理解を深めてもらうと同時に、食料生産に関わる作業行程の一部を体験してもらう。</p> <p><b>授業一般目標</b> 授業では、日本の最も重要かつ特徴的な作物である水稲を中心に、食料生産の理論と技術およびそれを取り巻く環境について講義を行う。体験実習では、手植えによる田植えのほか、野菜の収穫、果樹の管理を予定しており、実際に食料生産の一部を体験する。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 授業毎の小テスト、レポートなどによる理解度の評価と、出席を総合して判定する。</p> <p><b>メッセージ</b> 体験実習を行うために、受講者数を40名に制限する。受講希望者が多数の場合は、初回に抽選を行うので、必ず出席すること。</p> <p><b>教官連絡先</b> 連絡先: 農学部附属農場 オフィスアワー: 火、木曜日 12:00-12:50 メールアドレス: &lt; a href="mailto:mtoma@yamaguchi-u.ac.jp" &gt; mtoma@yamaguchi-u.ac.jp &lt;/a &gt;</p>					

開設科目	キャリアと就職	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教2年, 経・理・農3年	単位	2単位	曜時間	火曜日5・6時限
担当教官	植村高久				
<p><b>授業概要</b> キャリアとは、職業経験、働く力。仕事にかかわる人生経路を意味する言葉である。学生は皆、大学を卒業（あるいは大学院を修了）して新たな活躍のステージへと移行するが、自分自身の将来のキャリアを考えて進路選択をすることが望ましい。その最初の活動が大学生の就職活動であり、大学院への進学を含む進路選択活動である。本講義は、「自分のキャリアは自分で考える」ための考え方を理解するとともに、働くための基礎知識を得ることを目的とするものであり、経済・社会、企業、そして自己理解のための理論および現実を学ぶことで、将来のキャリア選択や、現実問題として直面する就職活動に役立つ知識と方法論の習得をめざす。（技術者としてのキャリア形成の考え方や大学院で学ぶことの意義、工学部学生の就職活動の進め方など工学部独自のメニューを盛り込みながら講義を進める。）【工学部のみ】授業は講義形式で行うが、一人一人が自分の問題としてキャリアを考えることができるように、宿題レポートを多数とり入れた実践的な講義をめざしている。学んだことは自分の就職活動にいかしてほしい。なお、本講義は山口県若者就職支援センターの協力により実施する</p> <p><b>授業一般目標</b> 自分のキャリアを考えることの重要性を理解し、その方法論習得する 働く前に知っておくべき経済・社会・企業に関する基礎知識を習得する キャリア意識を高め、学業ならびに就職活動への意欲を増す</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 毎回提出を求めるミニレポートのほか、課題レポート（宿題）にて評価する。レポートは「キャリアインタビュー」「キャリアシート」「キャリアモデル」「企業研究きりぎり発見」「就活インタビュー（または技術人材インタビュー）」「キャリアプラン」の6回を予定している</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：講義中に資料を配布する / 参考書：講義中に紹介する</p> <p><b>メッセージ</b> 総合科目「キャリアと就職」は、前期火曜日3・4限、火曜日5・6限、水曜日5・6限の3コマを吉田キャンパスで開講、後期は常盤キャンパスで水曜日3・4限、水曜日5・6限の2コマ開講する。基本的には同じ内容であり、履修できるのはいずれか一つである。第一回目の講義で希望をとるので必ず出席すること。なお、受講者多数の場合は上学年を優先する。</p>					

開設科目	キャリアと就職	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教2年, 経・理・農3年	単位	2単位	曜時間	火曜日3・4時限
担当教官	平尾元彦				
<p><b>授業概要</b> キャリアとは、職業経験、働く力。仕事にかかわる人生経路を意味する言葉である。学生は皆、大学を卒業（あるいは大学院を修了）して新たな活躍のステージへと移行するが、自分自身の将来のキャリアを考えて進路選択をすることが望ましい。その最初の活動が大学生の就職活動であり、大学院への進学を含む進路選択活動である。本講義は、「自分のキャリアは自分で考える」ための考え方を理解するとともに、働くための基礎知識を得ることを目的とするものであり、経済・社会、会社、そして自己理解のための理論および現実を学ぶことで、将来のキャリア選択や、現実問題として直面する就職活動に役立つ知識と方法論の習得をめざす。授業は講義形式で行うが、一人一人が自分の問題としてキャリアを考えることができるように、宿題レポートを多数とり入れた実践的な講義をめざしている。学んだことは自分の就職活動にいかしてほしい。なお、本講義は山口県若者就職支援センターの協力により実施する</p> <p><b>授業一般目標</b> 自分のキャリアを考えることの重要性を理解し、その方法論習得する 働く前に知っておくべき経済・社会・企業に関する基礎知識を習得する キャリア意識を高め、学業ならびに就職活動への意欲を増す</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 毎回提出を求めるミニレポートのほか、課題レポート（宿題）にて評価する。レポートは「キャリアインタビュー」「キャリアシート」「キャリアモデル」「企業研究きりぎり発見」「就活インタビュー」「キャリアプラン」の6回を予定している</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：講義中に資料を配布する / 参考書：講義中に紹介する</p> <p><b>メッセージ</b> 総合科目「キャリアと就職」は、前期火曜日3・4限、火曜日5・6限、水曜日5・6限の3コマを吉田キャンパスで開講、後期は常盤キャンパスで水曜日3・4限、水曜日5・6限の2コマ開講する。基本的には同じ内容であり、履修できるのはいずれか一つである。第一回目の講義で希望をとるので必ず出席すること。なお、受講者多数の場合は上学年を優先する。</p> <p>教官連絡先 e-mail:hirao@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	国際交流論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教2年, 経・理・農3年	単位	2単位	曜時限	火曜日 9・10時限
担当教官	何暁毅 ほか				
<p><b>授業概要</b> 日本の歴史はまさに国際交流史ともいえる。昔は中国や東アジアの国々、近代ではヨーロッパやアメリカなど西洋諸国との交流によって、今日の日本の基礎ができたといっても過言ではない。現在では、ボーダーレス社会の基本として地域にも根づいてきた。この科目ではその意義・考え方や人権問題等を折り込み、国際理解・開発教育の観点から実践中心型のカリキュラムを行い、国際交流についての理解を深める。</p> <p><b>授業一般目標</b> 国際交流の意義・考え方や人権問題等を理解し、地域社会でも十分実践できる国際交流の技術を習得する。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 受講態度(出席、グループ討議の参加など)、レポートなどによる総合評価</p> <p><b>教科書・参考書</b> 参考書: 草の根の国際交流と国際協力, 明石書店, 2003年</p> <p><b>メッセージ</b> 項目などはあくまで予定である。ゲストなどの都合により時間など変更することがある。</p> <p><b>教官連絡先</b> 何暁毅研究室 研究一号館 310 中野メール: 383630@pnet.energia.co.jp</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	キャリア形成とコミュニケーション	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教2年, 経・理・農3年	単位	2単位	曜時限	水曜日 3・4時限
担当教官	平尾元彦				
<p><b>授業概要</b> コミュニケーション能力は、企業が新入社員に求める能力の第一にあげられる基本的な能力であり、これから職業社会に乗り出す学生にとってコミュニケーションスキルの獲得は重要な課題となっている。本講義は、キャリア形成の基本的な考え方を理解した上で、職業人として必要なコミュニケーション能力の向上を目的とするものであり、一部にグループ学習をとりいれた実践形式で講義を行う。学んだことは就職活動にいかしてほしい。なお、この授業は山口県若者就職支援センターの協力により実施する。グループワークを行うため受講者を30名以内とし、希望者多数の場合は抽選を行う。</p> <p><b>授業一般目標</b> キャリア形成の重要性を理解し、自己表現力を向上させる</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 授業への参加、授業中のプレゼンテーションで評価する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: 講義中に資料を配布する / 参考書: 講義中に紹介する</p> <p><b>メッセージ</b> この講義はコミュニケーションを学ぶものであり、当然ながら授業においてもコミュニケーション能力が求められる。現段階において得意である必要はないが、講義に積極的に参加して能力を高めたいという強い意欲は必要である。時間内に小グループでのグループワークを行う。はじめて出会う学生との集団作業に積極的に取り組まなければならない。必ずすべての回に出席すること。</p> <p><b>教官連絡先</b> hirao@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	キャリアと就職	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教2年，経・理・農3年	単位	2単位	曜時限	水曜日5・6時限
担当教官	平尾元彦				
<p><b>授業概要</b> キャリアとは、職業経験、働く力。仕事にかかわる人生経路を意味する言葉である。学生は皆、大学を卒業（あるいは大学院を修了）して新たな活躍のステージへと移行するが、自分自身の将来のキャリアを考えて進路選択をすることが望ましい。その最初の活動が大学生の就職活動であり、大学院への進学を含む進路選択活動である。本講義は、「自分のキャリアは自分で考える」ための考え方を理解するとともに、働くための基礎知識を得ることを目的とするものであり、経済・社会、会社、そして自己理解のための理論および現実を学ぶことで、将来のキャリア選択や、現実問題として直面する就職活動に役立つ知識と方法論の習得をめざす。授業は講義形式で行うが、一人一人が自分の問題としてキャリアを考えることができるように、宿題レポートを多数とり入れた実践的な講義をめざしている。学んだことは自分の就職活動にいかしてほしい。なお、本講義は山口県若者就職支援センターの協力により実施する</p> <p><b>授業一般目標</b> 自分のキャリアを考えることの重要性を理解し、その方法論習得する 働く前に知っておくべき経済・社会・企業に関する基礎知識を習得する キャリア意識を高め、学業ならびに就職活動への意欲を増す</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 毎回提出を求めるミニレポートのほか、課題レポート（宿題）にて評価する。レポートは「キャリアインタビュー」「キャリアシート」「キャリアモデル」「企業研究きらり発見」「就活インタビュー」「キャリアプラン」の6回を予定している</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：講義中に資料を配布する / 参考書：講義中に紹介する</p> <p><b>メッセージ</b> 総合科目「キャリアと就職」は、前期火曜日3・4限、火曜日5・6限、水曜日5・6限の3コマを吉田キャンパスで開講、後期は常盤キャンパスで水曜日3・4限、水曜日5・6限の2コマ開講する。基本的には同じ内容であり、履修できるのはいずれか一つである。第一回目の講義で希望をとるので必ず出席すること。なお、受講者多数の場合は上学年を優先する。</p> <p>教官連絡先 e-mail:hirao@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	山と谷	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教2年，経・理・農3年	単位	2単位	曜時限	木曜日3・4時限
担当教官	加納 隆，武田賢治，金折裕司，田畑直彦，田中和広，大和田正明，山本真弓，上田 豊，久野 武				
<p><b>授業概要</b> 郷土の山や谷は日本人と日本文化のふるさとである。そうした山や谷はどうしてできたのか、どのように利用され、またどのような文化が生まれてきたか。本講義では、地質学をベースとして、山と谷をめぐる人と自然に関わる問題（すなわち環境に関する諸問題）を様々な視点から紹介する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 1. 山や谷はどうしてできたのか、自然科学の立場を学ぶ。 2. 山や谷を人はどのように利用してきたか、その功罪を考える。 3. 山や谷に人はどのように住み、文化を育んできたか学ぶ。 4. ちがった自然環境の下にどのような文化が生まれるか学ぶ 5. 自然と人間との関係に関わる問題（すなわち環境問題）に関する様々な視点を学ぶ。</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 毎回のレポートあるいは授業中の課題についての提出物により総合判定。無断欠席1/3以上は不可。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 参考書：授業中、随時紹介される。</p> <p><b>メッセージ</b> 山や谷は、人それぞれの好みと年齢や体力・能力に応じて楽しみを与えてくれる。知識が深まると、それに応じてよりいっそうアウトドアの楽しみが増える。講師にはその分野のエキスパートが多い。どうか楽しんで聞いてもらいたい。</p> <p>教官連絡先 コンピーナー：加納 隆（理学部447号室，内線5745）kano@yamaguchi-u.ac.jp，随時対応します。</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	食・農・環境教育概論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教2年，経・理・農3年	単位	2単位	曜時限	金曜日3・4時限
担当教官	早川誠而他				
<p><b>授業概要</b> 農学部の研究領域として「地球生態系レベル」から「遺伝子レベル」までと実に幅広いが、21世紀を人口・食料・環境の危機的意識を持つ時代とするならば、全学部の結びつきを強化することによって、つなぎめのない学問として、更に実学として農学や環境学を多くの学生に紹介したい。また、地球規模での環境問題を背景に、2005年には温室効果ガス排出削減目標を定めた京都議定書が発行されたことも記憶に新しい。更に、多くの地方自治体に見られる、少子高齢化問題や中山間地問題といった地域問題を背景に、新しい食料・農業・農村基本計画に基づいたさまざまな施策が2007年度から導入される。このような状況を背景に、学生に環境問題や食・農業問題の基礎を認識・理解させ、自らが考え、見えないモノを見る力を養い、マージナルゾーンと呼ばれる世代の学生たちの感性を引き出すための一助として、「食・農業・環境教育概論」の開講を提案する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 山口大学は地域社会との多様な連携・協働が推進されているが、学生自身も地域社会の一員として様々な活動に誘い参画することが望まれる。そこで、学生に環境問題や食・農業問題の基礎を認識・理解させ、自らが考え、見えないモノを見る力を養い、マージナルゾーンと呼ばれる世代の学生たちの感性を引き出すための一助とすることを目標とする。</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> この授業は実践型授業として考えており、自らが考え、見えないモノを見る力を養い、学生自身も地域社会の一員として様々な活動に誘い参画することが出来る力などを総合的に判断する。</p> <p><b>メッセージ</b> 自然に興味のある人、農学に興味のある人、地域活動に興味のある人、前向きに取り組む人</p> <p><b>教官連絡先</b> 早川誠而：総合研究棟205号室 嘉村則男：農学部附属農場 いつでも結構です。</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	中国・四国地区国立大学間共同授業 - 中国・四国地方の文化・芸術を学ぶ 合う	区分	講義	開設期	前期
対象学生	人・教・工2年，経・理・農3年	単位	2単位	曜時限	
担当教官	植村高久				
<p><b>授業概要</b> 夏休み中に行う、SCS（衛星通信システム）を利用した遠隔授業（集中講義）であり、詳細は別途掲示する。</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 評価は出席と提出レポートに基づいて行う。</p> <p><b>備考</b> 集中授業</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	総合科目 (医療環境論 I)	区分	講義	開設期	前期
対象学生	看護 2 年, 医学・検査 3 年	単位	4 単位	曜時限	月曜日 1・2・3・4 時 限
担当教官	星野晋				
<p>授業概要 医学・医療の前提をなす自然・社会・文化的環境すなわち「医療環境」の全体像を、地球環境、身体、科学、歴史、社会文化的多様性等の概念・軸を用いて理解し、その中における医学・医療の位置づけを把握する。そのことによって、よき医療者になるために必要な、人間の病と健康をめぐるさまざまな問題を総合的に捉える視点と態度を身につける。授業は、話題提供としての講義とそれに関わるスモール・グループ・ディスカッションで構成される。</p> <p>授業一般目標 医学・医療の前提をなす自然・社会・文化的条件すなわち「医療環境」について、医学以外の諸分野の視点と方法を取り入れながら理解を深め、人間の病と健康をめぐるさまざまな問題を総合的に捉え解決する視点と態度を身につける。</p> <p>成績評価方法 (総合) 毎回の出席 (小レポートによる) グループ・ディスカッションの報告内容、小論文などから総合的に評価する。</p> <p>教官連絡先 水曜日午後</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	医療環境論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	看護 2 年, 医学・検査 3 年	単位	4 単位	曜時限	月曜日 1・2・3・4 時 限
担当教官	星野晋				
<p>授業概要 医学・医療の前提をなす自然・社会・文化的環境すなわち「医療環境」の全体像を、地球環境、身体、科学、歴史、社会文化的多様性等の概念・軸を用いて理解し、その中における医学・医療の位置づけを把握する。そのことによって、よき医療者になるために必要な、人間の病と健康をめぐるさまざまな問題を総合的に捉える視点と態度を身につける。授業は、話題提供としての講義とそれに関わるスモール・グループ・ディスカッションで構成される。</p> <p>授業一般目標 医学・医療の前提をなす自然・社会・文化的条件すなわち「医療環境」について、医学以外の諸分野の視点と方法を取り入れながら理解を深め、人間の病と健康をめぐるさまざまな問題を総合的に捉え解決する視点と態度を身につける。</p> <p>成績評価方法 (総合) 毎回の出席 (小レポートによる) グループ・ディスカッションの報告内容、小論文などから総合的に評価する。</p> <p>教官連絡先 水曜日午後</p>					

## 後期 - 主題系列

系列 主題

分野 思想と文化

科目類型 包括

開設科目	外の世界を聞く・知る・見る	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(工除く)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	渡邊淳一				
<p><b>授業概要</b> 5名の授業担当者の海外における生活体験や仕事上の体験を通して見た国々の事情を聞き、そこに住む人たちがどのような生き方をしているかを知り、その国・その人たちの現在の姿を見、山口大学の若い学生達が日本の外の世界に目を向ける機会を提供します。</p> <p><b>授業一般目標</b> 担当者がそれぞれに長期生活経験・留学経験・勤務経験を持つイスラム文化圏の国々(パキスタン、エジプト、マレーシア)、ヒンズー教文化圏の国(インド)、仏教・儒教文化圏の国々(中国、韓国)、キリスト教文化圏の国々(アメリカ合衆国、カナダ)の(1)文化・宗教・社会習慣、(2)歴史的概要、(3)社会・政治・教育制度、(4)日本との関わり等について、担当者が交代で授業を行なう。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> それぞれの講義毎に課されるレポートの成績と、クラスでの貢献度、出席等を総合的に判断して学期の成績とします。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 参考書: 授業の中で担当者が紹介します。</p> <p><b>教官連絡先</b> 渡邊淳一: w_junichi@hotmail.com 学内内線: 5984 今井新悟: shingoimai@hotmail.com 学内内線: 5088 杉原道子: michikos@yamaguchi-u.ac.jp 学内内線: 9037 赤木彌生: yaoia@yamaguchi-u.ac.jp 学内内線: 5986 門脇薫: kkaoru@yamaguchi-u.ac.jp 学内内線: 5987</p>					

系列 主題

分野 思想と文化

科目類型 包括

開設科目	性をめぐる今日の状況	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(工除く)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	山本真弓				
<p><b>授業概要</b> 「性」は誰もが自分の問題として考えることのできるテーマであり、また、時代により、文化によりその捉えかたが異なるものでもあります。この講義は、「性」をテーマに同じ題材の映画を鑑賞し、議論を通じて互いの考え方の違いを認識・理解するとともに、学生相互を一定の基準のもとで互いに評価するという授業です。人間社会には数字による評価が馴染まないものがあります。人文社会科学系の学問の多くはそのような分野です。「性」にまつわる価値観は地域、時代によって実に多様であり、そこに「正しさ」を見出すことはできません。</p> <p><b>授業一般目標</b> この授業はいわゆる講義を中心とするものではありません。性に関連する分野で扱われている諸概念については、最低限紹介するにとどめ、むしろ、学生たちが性について等身大に考えること、そしてそれを文章にすること、さらに、他の学生の文章を読んで異なる意見を理解すること、そのうえで、自らの意見を再考すること、を目標としています。さらに、学生たちが相互評価をするために「評価とは、なにか」について考え、その経験を通して、多様な価値や文化に基づく事象をどのように捉え、自らと異なる他者(例えば、性的他者)を自分のなかでどう位置づけるかを学ぶことも目指しています。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 出席、学生同士の相互評価と期末試験の結果の総合</p> <p><b>メッセージ</b> 相互評価方式を取り入れた学生相互の討論を行なうため、受講生を30名未満に制限する。2回欠席で受講資格を失う。</p>					

系列 主題

分野 芸術と表現

科目類型 包括

開設科目	イメージの解釈学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(工・生資除く)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6 時限
担当教官	奥津聖				
<p>授業概要 イメージという言葉の意味は多義的です。従来のイメージの解釈学は、造形芸術におけるイメージの意味内容の解釈にその主題は限定されていました。この講義では、現代芸術一般を対象とすることの可能な広義の「イメージの解釈学」の構築を目指します。</p> <p>授業一般目標 ルネッサンス以降の、視覚芸術の諸問題を考察することを通じて現代芸術に親しむための基礎を身につける。</p> <p>教科書・参考書 教科書：教科書 プリントを配布。ホームページ上に随時資料を掲載。 / 参考書：参考書 参考文献は、講義中に提示する。</p> <p>メッセージ 教科書は無い。プリント資料を配布。</p> <p>教官連絡先 okutsu@c-able.ne.jp <a href="http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html">http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html</a></p>					

系列 主題

分野 社会と組織

科目類型 包括

開設科目	わかる授業入門 - 学校教授学の試み	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(工除く)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 1・2 時限
担当教官	くわ原昭徳				
<p>授業概要 わが国の学校教育制度の入り口である初等教育に関する法令や規則などを概観し、近代日本の初等教育の歩みと実態を紹介する。さらに、学校の役割、教師の仕事、子どもの遊びや授業などの活動の意味や構成の仕方について、実践をもとに論述する。受講者には、これまでの自分自身の被教育者の立場と、これからなるかも知れない教育者の立場を比較しながら参加すると有意義な学修となるであろう。</p> <p>授業一般目標 わが国の初等学校教育の制度や現在の姿を正しく知る。教育に関する基本的な法令や規則や文書の内容を理解できる。教師の仕事を理解するとともに、自分なりの理想の教師象をもつことができる。</p> <p>成績評価方法(総合) 出席回数、受講態度、毎回のミニレポートの内容を総合して評価する。授業での発言内容やレポートも加算する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：わかる授業をつくる先生、桑原昭徳、；子どもの学習力、桑原昭徳、桑原研究室刊、2004年 / 参考書：授業の中で紹介する。</p> <p>メッセージ 教職に感心のある学生は受講してみてください。とくに、これまでの被教育者としての体験の中で、教育に失望している人も、まじめな気持ちでうけて欲しいと思っています。きっと教職に希望が持てるはずす。</p>					

系列 主題

分野 社会と組織

科目類型 包括

開設科目	個人の財務設計	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(工除く)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	城下賢吾				
<p>授業概要 個人の将来設計にかかわるお金の話をします。そこでは、将来計画、税金、年金、貯蓄、投資、保険など皆さんが将来生活する上で必要とされる知識の習得を目指します。</p> <p>授業一般目標 将来設計を立てる上で必要な基礎知識の習得</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験、レポート、出席</p> <p>教科書・参考書 教科書：生活とファイナンス(仮題), 榊原, 中央経済社, 2006 年</p> <p>教官連絡先 sirosita@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 主題

分野 社会と組織

科目類型 包括

開設科目	地域と出会う ボランティアと自主活動	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(工除く)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 9・10 時限
担当教官	植村高久				
<p>授業概要 大学を出て出て地域の人たちと出会う。地域には様々な人たちがいて、金儲けを目指さないいろいろな活動を行っています。そういう活動が学生にとってどんな意味があるのか、感動や喜びを体験者に語ってもらい。実際の活動にも触れてもらいます。</p> <p>授業一般目標 ・ 地域の自主活動に関する基本的な事項について理解する ・ 地域の自主活動の各領域の概要と課題を説明できる ・ 自主活動について関心・意欲を持つことができる</p> <p>成績評価方法(総合) 毎回のレポート(感想)60% + 最後の報告会の報告 40% で評価します。</p> <p>教官連絡先 uemura@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 主題

分野 社会と組織

科目類型 包括

開設科目	世界の大企業	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(工除く)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	河野眞治				
<p><b>授業概要</b> 世界の大企業について、歴史や世界戦略、企業行動、M &amp; A、などを説明する。取り上げる企業は、自動車( Ford、GM )、石油( Exxon-Mobil、Shell )、コンピュータ( IBM)、Microsoft、航空、軍需企業、スーパー、携帯電話、などである。</p> <p><b>授業一般目標</b> 大企業の行動様式を理解すること。さらにその社会的役割について批判的に検討する。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 毎回の小レポート( 60 % )、最終レポート( 40 % )で評価する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：教科書は使わない。 / 参考書：1 回目の講義で指示する。</p>					

系列 主題

分野 社会と組織

科目類型 包括

開設科目	戦略的思考	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(工除く)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	寺地伸二				
<p><b>授業概要</b> 世の中において、さまざまな駆け引きに直面することがあります。その際に、物事を「戦略的」にとらえる必要があります。この授業では、「戦略的」に考えるための道具として、ゲーム理論の初歩を学びます。</p> <p><b>授業一般目標</b> ゲーム理論の初歩を身につける。ゲーム理論を現実の問題に応用できるようになる。</p> <p><b>メッセージ</b> 授業で分からないことがあれば、必ず質問しましょう。</p>					

系列 主題

分野 社会と組織

科目類型 包括

開設科目	暮らしの中の年金と医療	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(工除く)	単位	2単位	曜時限	木曜日 5・6時限
担当教官	石田成則				
<p><b>授業概要</b> 21世紀の新時代に入り、わが国経済社会は大きな転換期を迎えている。長期にわたる不況と高齢社会への突入により、雇用不安や老後生活への不安感も醸成されている。こうした現況を打破するための構造改革そして財政再建のなかで、国家財政による社会保障は縮小または見直しの機運にある。また、企業経営においても、国際競争力の強化のために、財務のスリム化そして人員の削減が断行されており、退職給付による老後保障や医療保障の役割は縮小傾向にある。こうしたなかで、金融機関・保険会社による個人年金保険や医療保険の販売が伸長し、私的保障の役割が拡張傾向にある。こうした状況を概観しながら、生活への影響や私的保障に固有の問題点を考察していく。</p> <p><b>授業一般目標</b> 公的年金の給付削減、退職金の廃止・賃金化のなかにあつて、長期化する老後への資金準備の必要性が高まっている。自己責任に基づく資産管理には、保険を中心とした経済的保障策や資金管理、資産運用のための知識が不可欠である。また金融商品にまつわる不正や詐欺行為から自己防衛するためには、金融消費者・投資家そして契約者保護を目的とした制度を理解しておく必要もある。個人のお金や医療行為にまつわる知識・情報を分かりやすく解説することで、賢い金融・医療消費者を目指すとともに、社会人としての自己責任原則を体得してもらう。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> レポート、出席点、平常点</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：キーワード解説 保険・年金・ファイナンス, 石田重森・庭田範秋, 東洋経済新報社, 2005年</p>					

系列 主題

分野 社会と組織

科目類型 包括

開設科目	マーケティング概論	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(工除く)	単位	2単位	曜時限	木曜日 5・6時限
担当教官	武居奈緒子				
<p><b>授業概要</b> この講義では、すべての企業活動をマーケティングの観点から組織化して考察する。企業行動全体をマーケティング的発想で考えることの一例を製品開発で示してみよう。製品開発を行う時、できるだけ品質の良い商品をコストダウンで開発しようとするのは、企業の論理である。これに対して、製品開発をマーケティング的発想で考えると、マーケティング・リサーチを行うことで、消費者ニーズを分析し、消費者の求めている商品を作るように生産現場に指示を出すというものである。つまり、新製品開発にあたっては、新しい消費者の判断基準を盛り込まないと、企業の業績拡大につながらないという点がポイントである。もっとというと最近では、マーケティングの適応範囲は拡張され、社会のニーズも無視できなくなっている。それに適合する商品・サービスを提供するためにも必要不可欠なスキルであると考えられるようになってきている。例えば、ごみの分別回収が一般化している現代において、マーケティング的発想で、製品開発を考えると、処分する時に消費者が、分別しやすい製品を開発段階から考えることが必要となってくる。この講義を通じて、マーケティングの基本知識を修得し、理解を深めてもらうとともに、消費者と社会のニーズを取り込んで、マーケティング的発想で考える能力を養ってもらえればと思う。</p> <p><b>授業一般目標</b> 1. マーケティングの基本的知識を習得し、理解を深める。 2. 企業行動をマーケティング的発想で考える能力を養う。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：消費行動, 武居奈緒子, 晃洋書房, 2000年</p>					

系列 主題

分野 社会と組織

科目類型 包括

開設科目	大学論	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(工除く)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教官	吉田香奈				
<p><b>授業概要</b> 現代の日本では、大学を取り巻く政治的、社会的、経済的、国際的な状況がかつてないほどに大きく変動している。大学はもはや「知の聖域」として存続することが難しく、社会の変化とともに大きく変わらざるを得ない状況にある。本授業では、日々私たちが学習活動や課外活動を行っている「大学」という社会組織について概説し、各領域の課題についてグループディスカッションを行う。授業の最後にグループ発表を行う。なお、授業で取り上げる内容は次のとおりである。1) 一年次教育、2) 共通教育とカリキュラム、3) 授業評価、4) 学生生活と学生支援</p> <p><b>授業一般目標</b> 「大学」という組織に関する基本的な事項について理解するとともに、大学そのものを様々な角度から考察し、問題点や改善策の検討を行うことを通じて課題探求能力や問題解決能力を向上させる。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> (1) コメントカードを毎回提出(20%)、(2) グループディスカッション・作業への貢献(20%)、(3) グループ発表(30%)、(4) グループ発表のまとめをレポートとして提出(30%)。なお、出席が所定の回数に満たない場合は単位を与えない。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：参考資料は授業内で配布する。資料は必ず読んでから授業に参加すること。/ 参考書：『高等教育概論 - 大学の基礎を学ぶ -』、有本章・羽田貴史・山野井敦徳編著、ミネルヴァ書房、2005年；『大学教育学』、京都大学高等教育研究開発推進センター編、培風館、2003年；『岐路に立つ大学』、館昭・岩永雅也、放送大学教育振興会、2004年</p> <p><b>メッセージ</b> 本授業は異なる学部の学生がグループになって「大学」という身近な話題をディスカッションするところに特徴があります。ディスカッションの苦手な人でも参加できるように工夫していますので、積極的に受講してください。なお、希望者が40名を超えた場合には抽選を行うので初回には必ず出席してください。</p> <p><b>教官連絡先</b> ykana@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：共通教育棟2階 オフィスアワー火曜日 13:00-16:00</p>					

系列 主題

分野 社会と組織

科目類型 包括

開設科目	ミュージアムの現在と未来	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(工除く)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 7・8 時限
担当教官	長畑実				
<p><b>授業概要</b> 全国には7000近い博物館が存在し、利用者総数は年間3億人近くに達するなど、日本は世界有数の「ミュージアム大国」へと発展してきた。市民の間でも文化的価値を大切に、心の豊かさを求める志向が強まる中、地域の生涯学習拠点としての博物館への期待が高まっている。しかし、その一方で来館者の低落傾向、財政難、市町村合併等を理由とした国立博物館の独立行政法人化、職員の削減、博物館の閉館など、博物館は存亡に関わる厳しい状況に置かれている。この講義では、自然と人類の知の宝庫である博物館の歴史を概観するとともに、歴史博物館、科学館、美術館、動物園、水族館など多様な博物館の目的、社会的機能等について基本的理解を図るとともに、博物館の置かれた現状分析を通してミュージアムの未来を考察、議論する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 人間社会におけるミュージアムの意義と役割を理解し、主体的な博物館利用の態度を確立する。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 出席状況、講義への参加態度、レポート提出(毎講義時及び最終レポート)を総合して行う。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：使用しない。必要に応じてプリント等を配布する。/ 参考書：授業の中で紹介する。</p> <p><b>メッセージ</b> (1) 講義を中心とするが随時ビデオなどを利用するとともに、受講生との討議を通して講義内容の理解を深める。また、毎回講義内容についての感想・意見・質問を自由に記入するコミュニケーション・カードの提出(メール利用)を求める。(2) 博物館と積極的に関わろうとする意欲と姿勢を求める。履修を希望する学生は前期期間中の週末、夏休み等を利用してできるだけ多くの博物館を見学し、展示、普及活動の現状や来館者の様子、博物館活動の問題点・改善点などをよく観察しておくこと。講義内で各自テーマを決め、発表させる。(3) 私語をするものは退場させる。</p> <p><b>教官連絡先</b> 研究室：共通教育1号館3階 電話：933-5082 E-mail：nagahata@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 主題

分野 社会と組織

科目類型 包括

開設科目	キャリアデザイン	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(工除く)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 9・10 時限
担当教官	平尾元彦				
<p><b>授業概要</b> キャリアデザインとは、人生設計。とくに「職」にかかわる自分の未来への道を描くこと。本講義では、自分を知り、仕事を知り、そして、なるための道を知るために必要となる、(1) 自己分析の方法、(2) 企業研究の方法、(3) 就職活動の方法を解説する。また、この講義では山口大学の卒業生数名をゲストとして招く予定である。先輩方の大学生から社会人への道筋をケーススタディとしながら、キャリアデザインを考えていきたい。</p> <p><b>授業一般目標</b> 先輩の学業から就業への接続過程の話を参考にしつつ、自分自身のキャリアデザインを考えて、大学の目標を明確にすることを、この授業目標とする</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：適宜資料を配布する / 参考書：授業内で紹介する</p> <p><b>メッセージ</b> 山口大学の卒業生を中心に会社で活躍する先輩方をゲスト講師にお招きする。大学に居ながらにしてOBOGの話をお聞きすることができるチャンスである。社会人の先輩方の経験談のなかから自分に必要なものを学びとってほしい。なお、本年度は公務員として働く先輩もお招きする予定である</p> <p><b>教官連絡先</b> hirao@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 主題

分野 環境と人間

科目類型 包括

開設科目	宇宙環境と人間	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(工除く)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限
担当教官	糸長雅弘				
<p><b>授業概要</b> 地球には生命を育む大気と水がある。地球誕生から 45 億年にわたる歴史が作った環境である。太陽から放射される光のエネルギーは、地球の大気や水を循環させ、全ての生命の源となっている。一方、太陽から放射される強烈な紫外線は、上空のオゾン層で吸収され地上に届かない。地上は過酷な宇宙の環境から守られ、宇宙空間は遠い存在であった。しかし、現在では、宇宙空間が実利用の場となり、宇宙環境が人口衛星に搭載した機器や人体に与える影響が大きな問題となっている。本授業では、太陽から地球の超高層大気に至る宇宙環境とその利用について解説する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 宇宙環境の基礎的な知識を習得し、宇宙環境と人間の関わりを理解する。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 出席率 80%未満を欠格条件とし、毎回の授業内レポートと 2 回の授業外レポート、期末試験を総合的に評価する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 参考書：オーロラ 太陽からのメッセージ, 上出洋介, 山と溪谷社, 1999 年</p> <p><b>メッセージ</b> 物理的な内容に触れることもあるが、文系の人にも分かるようにコンセプトを説明するので、毛嫌いせず学び、それらの知識に基づいて、宇宙環境と人間の関わりを考えることができるようになって欲しい。</p> <p><b>教官連絡先</b> E-mail: itonaga@yamaguchi-u.ac.jp, 電話: 083-933-5350, 研究室: 教育学部 224 号室, オフィスアワー: 水曜 10:20 - 11:50</p>					

系列 主題

分野 環境と人間

科目類型 包括

開設科目	香り人間	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(工除く)	単位	2単位	曜時限	水曜日3・4時限
担当教官	渡辺雅夫				
<p><b>授業概要</b> この講義では、香りサンプルを提示しながら、「香り」と人間のかかわりを歴史的、生理学的、心理学的な面から考えていく。嗅覚生理学を基礎にして講義が組み立てられているが、香りの效用と利用について解説していく予定である。</p> <p><b>授業一般目標</b> 我々の生活環境にある香りへの認識を深め、香りの作用について科学的な知識を持ち、香りとの上手なつきあい方を考えてもらうことを目的とする。また地域環境(文化を含めた)の保全を目指した、環境省の「かおり風景100選」事業(2001年秋選定)への理解を深めることを目的とする。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 授業内に設問に答えてもらう小テスト、宿題/授業外レポート、期末試験1回を行う。下記の割合で総合的に評価する。授業の出席状況について、75%以上であること。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: 資料プリントを配付する予定。/ 参考書: 毎回の授業で紹介する。</p> <p><b>メッセージ</b> 教室の都合により人数制限することがある。多人数講義となることが予想されるが、遅刻をせず、私語を慎み、携帯電話の電源を切るなど受講マナーを守ること。</p> <p><b>教官連絡先</b> E-mail: masao.w@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 理学部3号館113号室(内線5767) オフィスアワー 月曜日14:30~16:00</p>					

系列 主題

分野 環境と人間

科目類型 包括

開設科目	人間と植物	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(工除く)	単位	2単位	曜時限	木曜日1・2時限
担当教官	高橋肇, 山内直樹				
<p><b>授業概要</b> 人間は、植物を作物として栽培することで食料の安定供給を実現し、人口の急速な増加とともに現在の繁栄の礎を作ってきた。食料に関する科学は、高度な文明を身につけた人間にとって、もはや生産量の増加のみにとどまらず、品質、流通、貯蔵といった商品としての経済性にまで及んでいる。一方、植物は食料として利用されるだけでなく、人間の生活に溶け込み、人間の心に働きかけている。農業においても、従来の食料生産という枠を飛び出し、アグリビジネスという新分野が生まれている。本講義では、このような人間と植物との関係を、農業を中心に両当事者がそれぞれの見方で論じる。</p> <p><b>授業一般目標</b> 本講義では食料の生産とその後の流通・貯蔵に関して講義することにより、人間と植物、特に農作物との係わりについて理解することを目標とする。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 成績評価は山内50, 高橋50で評価し、その合計で示す。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: 使用しない</p> <p><b>教官連絡先</b> yamauchi@yamaguchi-u.ac.jp, tadashi@agr.yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 農学部3階330号室, 農学部1階128号室 オフィスアワー: 山内 金曜日 午後1時~5時 高橋 月~金曜日 午前7時~8時 月・火・木・金曜日 12時~12時30分</p>					

系列 主題

分野 環境と人間

科目類型 包括

開設科目	暮らしの中の動物	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(工除く)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教官	水野拓也, 中市統三, 木曾康郎, 那須哲之				
<p>授業概要 農学部獣医学科の各教官の専門分野の立場から、われわれの暮らしに係る動物について、さまざまな角度から平易に解説・考察し、動物に対する興味と理解を深めると共に、命の不思議さ、尊さ、人と動物の共存の重要性等を考える。</p> <p>授業一般目標 家畜から提供される肉、卵、乳は私たちの食生活の必需品です。伴侶動物は私たちの心を豊かにしてくれます。また、野山には野生動物が暮らしています。この授業を通じて動物と人間の共存についての考えを深めてもらいたい。</p>					

系列 主題

分野 環境と人間

科目類型 包括

開設科目	教育, 人間, 環境及び科学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(工除く)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6 時限
担当教官	澤本章				
<p>授業概要 日本が今後発展するには教育の力が必要とされています。そこで、日本の教育の実状について考え、今後どのようにすべきかを探ってみます。また、英国の教育の実状についても概説し、日本の教育の場合と比較します。さらに、世界の環境問題や日本の科学技術についても考えてみます。</p> <p>授業一般目標 日本の教育の実状、環境問題、技術的問題を把握し、これからの日本を発展させるためには、いかにすべきであるかを考える態度を養う。</p> <p>成績評価方法(総合) 出席: 35%、授業中の態度: 5%、授業外レポート: 50%、授業内レポート: 10%で評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 教育の力で日本を変えよう, 大谷 南海男, 文芸社, 2002年</p> <p>メッセージ 日本がこれからますます発展するためには、若い人の力が必要です。日本の教育を改善して、優れた人材を育成することが課題となってきます。日本の教育、英国の教育、環境問題、世界的に見た日本の技術力について説明し、総じて、今後、日本が繁栄するためには以下にすべきであるかについて考えます。</p> <p>教官連絡先 連絡先: 山口大学 教育学部 技術教育 金属加工研究室 264号室、TEL / FAX: 083-933-5395、E-mail sawamoto@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: 毎週木曜日、10:20~11:50</p>					

系列 主題

分野 自然と科学

科目類型 包括

開設科目	生命を科学する	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(工除く)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	乾 誠				
<p>授業概要 生命現象と医学・医療が自然現象の 1 現象とその制御であることを科学的に捉えられるよう、細胞や人体の構造・機能および病気のメカニズムや治療現場について、スライドや講義を通しリアルな概説を行う。</p> <p>授業一般目標 細胞や人体の構造・機能および病気のメカニズムや治療現場について概略を理解し、生命現象と医学・医療が自然の 1 現象とその制御であることを科学的に捉え、自分の意見を理論的に述べるができる。</p> <p>成績評価方法(総合) 各回の授業の終わりの 20 分くらいで、その日の授業に関するレポート(テーマは授業担当教員の指示に従う)の作成を各自が行い、いわゆる筆記試験は行わず、毎回のレポート評価と授業態度らを総合して全体の成績評価をする。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 特になし / 参考書: 特になし</p> <p>メッセージ 筆記試験はいたしませんので、毎回のレポートをしっかりと書けるようによく授業を聞いていて下さい。</p>					

系列 主題

分野 自然と科学

科目類型 包括

開設科目	宇宙と人間	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(工除く)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6 時限
担当教官	藤澤健太				
<p>授業概要 「宇宙」は極めて大きなスケールであり、その大きさゆえに我々「人間」の生活や感覚とはなんら関係がないようにも思える。しかし我々が使う時間は天体の運行に由来するものであるし、天気予報、テレビ放送やカーナビにも人工衛星技術が使われている。我々の身体を作っている物質は恒星内部の原子核反応によって作られたものであり、そもそも我々は宇宙の中に存在している。このように考えると、「宇宙」と「人間」にはいろいろな接点があると思えてくる。両者にはどのような関係があるのか自分で追求してみる、これが講義の概要であり、同時に目標である。</p> <p>授業一般目標 講義を通じて自分で調べ、考え、発表し、それが他者の考えと相互作用をする、ことを目標としている。簡単に言えば、宇宙と人間について知る、そして考えることが目標である。</p> <p>成績評価方法(総合) 出席とレポート(随時)、および講義中の参加状況によって総合的に評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 特になし。 / 参考書: 特になし。</p> <p>メッセージ 単に聞くだけではない、ちょっと変わった講義です。</p> <p>教官連絡先 藤澤健太(理・231)083-933-5673</p>					

系列 主題

分野 自然と科学

科目類型 包括

開設科目	人間とバイオテクノロジー	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(工除く)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6 時限
担当教官	滝本晃一 他 2 名				
<p><b>授業概要</b> 生命の基礎は遺伝子です。遺伝子組み換えや遺伝子治療、遺伝子による個人の識別など遺伝子 DNA は私達の生活の中に深く関わっています。本授業では、遺伝子について概説し、遺伝子を傷つける環境要因としての紫外線について述べ、さらに遺伝子技術について概説する。我々の廻りには多種多様な食品が存在するが、それらの機能的性質や化学的特性、バイオサイエンス利用について述べる。全ての食物の基礎である植物を機能的に付加価値の高いものにするために従来から変化が加えられてきたが、それらについて紹介するとともに、植物遺伝子組み換えについて現状とその方法について開設する [ 注意 ] レポート提出など 3 名の教官全ての課題を満たすことが評価の条件。</p> <p><b>授業一般目標</b> バイオテクノロジーの背景となる生物学的知識を得、生命現象の基礎である遺伝子について理解を深め、さらに、バイオがどのように役立っているか、どのような可能性があるか、どのような問題があるかを考える素養を身につける。また、それらをもとにして我々の生活にどのように利用応用されているかを知る。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 3 名の教員がそれぞれ筆記試験をするか講義の内容についてレポートを課す。3 名の教員全ての試験受験あるいはレポート提出をした者のみにについて成績評価を行う。</p> <p><b>メッセージ</b> 3 名の教員が担当します。順序は変更することがあります、授業で注意事項やレポート・試験のことを伝えますので、出席すること。3 名の教員の試験やレポートを総合評価します。ケイタイの着信音がならないようにセットしておくこと。</p> <p>教官連絡先 電話 5868 ( 滝本 ) , 5853 ( 松富 ) , 5850 ( 松井 ) オフィスアワー 随時</p>					

系列 主題

分野 健康とスポーツ

科目類型 包括

開設科目	スポーツの医学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(看護・検査・工除く)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	日野田裕治				
<p><b>授業概要</b> スポーツの楽しさは誰もが知っていますが、医学的に見てもスポーツは健康増進と疾病予防のために大変重要です。「スポーツと医学」では、スポーツが身体に与える影響や病気との関りについて学びます。</p> <p><b>授業一般目標</b> 1 ) スポーツと身体の構造や働きとの関連について理解する。 2 ) スポーツと検査やくすりとの関連について理解する。 3 ) スポーツと病気及びその治療や予防との関連について理解する。</p>					

系列 主題

分野 健康とスポーツ

科目類型 包括

開設科目	ライフスタイルと健康	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(看護・検査・工除く)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	細井栄嗣				
<p>授業概要 人の健康状態が生活様式に左右されることは、今や広く知られている事実である。人々の意識は高齢化社会の到来に伴い、いかに長生きできるかではなく、いかに死ぬまで健康でいられるかに向けられるようになった。本講義では健康な生活を送るために欠かせないいくつかの要因について取り扱う。</p> <p>授業一般目標 栄養学の基礎、すなわちそれぞれの栄養素の働きについて理解する。運動やその他の活動と活性酸素の害との関係について正しい知識を身につける。また生活習慣病の予防法について理解する。</p> <p>成績評価方法(総合) 小テスト、レポート、期末試験で評価。出席が70%に満たない者は不可。</p> <p>教科書・参考書 教科書：五訂食品成分表 2006, 香川芳子監修, 女子栄養大学出版部, 2006年 / 参考書：プリントを配布</p> <p>メッセージ 教科書は講義中にも頻繁に使用するので必ず購入すること</p> <p>教官連絡先 E-mail hosoi@yamaguchi-u.ac.jp Tell 933-5826 研究室 農学部 126、オフィスアワー：水曜日の昼休み+ 随時</p>					

後期 - 人文科学系列

系列 人文科学

分野 哲学

科目類型 総説

開設科目	哲学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教官	岩本光悦				
<p>授業概要 この講義は、カントの『道徳形而上学原論』第一章の内容全体を概観し、カントが考察した道徳的善の特徴を主題的に解明する。</p> <p>授業一般目標 カントの倫理学とそれ以前の倫理学の相違を明らかにすることを目的とする。</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 人文科学

分野 倫理学

科目類型 総説

開設科目	倫理学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全 (生資除く)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	豊澤 一				
<p>授業概要 倫理思想の基底 どのように生活したらよいのか、どのようなありかたが望ましいのか、そもそもわたしは、人は、世界は、どういうものなのか、といった倫理学的問題は、昔からさまざまに考えられてきました。テキスト『日本人の心』を参照しつつ、私たちの心性と深い繋がりのある日本の過去の人々の倫理思想を学びます。</p> <p>授業一般目標 倫理思想の素養を深めることによって、自己の人間性をとらえかえす心を養う。</p> <p>成績評価方法 (総合) 平常の小レポートと期末試験との総合により、成績を評価します。出席が三分の二に満たない場合は、受講放棄と見なします。</p> <p>教科書・参考書 教科書：『日本人の心』(UP 選書 233), 相良亨, 東京大学出版会, 1984 年; 販売店は文栄堂。定価 ¥1,900-。 / 参考書：適宜、資料を配付します。</p> <p>メッセージ 日本の古い事柄に、わたしたちは疎くなっています。先ず出席して情報を取得してください。</p> <p>教官連絡先 toyosawa@yamaguchi-u.ac.jp / 人文学部棟 409 号研究室 オフィスアワー：木曜日 12:50 ~ 14:20</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	倫理学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(生資除く)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教官	村瀬ひろみ				
<p><b>授業概要</b> 倫理学とは、何が「善」で何が「悪」なのかということ判断するための学問であり、判断の基準や判断の方法、判断の根拠などを検討していくこととなります。現代社会は、価値観が多様化し、また、多文化主義とグローバルイゼーションがせめぎあう、非常に複雑な社会となっています。その中で生きるわたしたちは、日々判断を迫られているといえるでしょう。何が正しいか何が悪いのか大変見えにくい世の中です。この講義では、偏見や先入観に囚われることなく、倫理的価値判断のための思考について、受講生といっしょに考えていこうと思っています。抽象的な議論も出てきますので、飽かず、粘り強く、積極的に参加できる学生の受講を歓迎します。</p> <p><b>授業一般目標</b> 倫理学の概要を理解できる。現代社会における諸問題について、偏見や先入観に囚われることなく、倫理学の視点から思考できる。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 一度、レポートを出してもらいます。(受講人数によりませんが、少なければディベートができるかもしれません。)最終的には、試験があります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：講義中に指示します。また、プリントも適宜配布します。/ 参考書：マルチチユードの文法、バオロ・ヴィルノ、月曜社、2004年；ためらいの倫理学、内田樹、冬弓社、2001年；倫理学を学ぶ人のために、宇都宮芳明ほか、世界思想社、1994年；実践の倫理(新版)、ピーター・シンガー、昭和堂、1999年；自然保護を問い直す、鬼頭秀一、ちくま新書、1996年；プリント配布します。また、講義中に必読文献について指示します。本を読むのが嫌いな人には向いていない講義です。</p> <p><b>メッセージ</b> 積極的な参加を望みます。受講生自身が講義を面白くするのです。</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	生命倫理学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教官	谷田憲俊				
<p><b>授業概要</b> 医療には医学で解決できない諸問題が存在することを理解し、自らが考えて判断できる基礎を築くことを目的とする。そのため、授業では生命倫理・医療倫理に関する様々な課題を提供し、多様な視点からの議論を紹介する。学生には、それぞれについて意見を求め、討論をしながら授業を進めていく。さらに、課題についてのレポートを求め、自己の考えを整理しながら生命倫理に関する素養を修得できるようにする。</p> <p><b>授業一般目標</b> 生命倫理の諸問題について自らが考え・判断する能力を養い、真に人間的な幸福・豊かさを探求するための「礎」を築く。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 出席点 40%、レポート点 40%、試験結果 20%</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：脱稿しているインフォームド・コンセントに関する書を用います。詳細は追って知らせます。/ 参考書：幸せをよぶコミュニケーション、ジャック・サロメ、行路社、2004年；講義資料はプリントとしては用意しないが、PowerPoint ファイルとして予め学生に e メールで送付することができる。</p> <p><b>メッセージ</b> PowerPoint ファイル講義資料を希望する学生は、tanida@yamaguchi-u.ac.jp までメールすること。なお、ファイルが大きいので、大学のアドレス以外には送れない。また、さかのぼっての送付はしないし、講義終了とともに、この受付は停止するので、試験前になってから得ることはできないので留意すること。</p> <p><b>教官連絡先</b> tanida@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	日本史	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	森下徹				
<p>授業概要 都市の歴史を通して日本史の展開を学ぶ。そのさい伝統都市を都城と城下町からなるものとし、うち後者の継承・それとの相克のなかで現代都市が成立するという見通しに立つ</p> <p>授業一般目標 都市の歴史的な展開過程から日本史の特質を理解すること</p> <p>成績評価方法(総合) 毎回行う小テスト、および中間・期末テストの合計点</p> <p>メッセージ 受講制限を行うので、初回の授業には必ず出席のこと。</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	日本史	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	橋本義則				
<p>授業概要 日本古代史研究において研究の対象となる様々な史料を、それが書かれた素材別に取り上げ、それぞれの史料としての性格や史料として扱う際の問題点、特に史料としてどのようにして今日に残ったのか、あるいは残されたのかに留意しながら、それらを用いて史実を確定してゆく方法について述べる。そしてこの改訂を通じて歴史とはいかなるものであるのかにも説き及ぶことができればよいと考えている。</p> <p>授業一般目標 日本古代の史料を解釈し、当該時代の様相を復元する方法を学ぶことを通じて、歴史学の方法を学び、歴史的な考え方を理解する。</p> <p>成績評価方法(総合) 学期末に試験を行う。</p> <p>教科書・参考書 教科書：指定されたホームページにアクセスして講義レジュメをダウンロードする必要がある。/ 参考書：授業中に適宜指摘する。</p> <p>メッセージ 講義レジュメのダウンロードと受講のためにノートパソコンが必携である。</p> <p>教官連絡先 y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・木の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 人文科学

分野 歴史学

科目類型 総説

開設科目	日本史	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教官	真木隆行				
<p>授業概要 山口からみる中世の歴史            授業一般目標 身近な地域から歴史を捉える。歴史を見る目を養う。            成績評価方法(総合) 出席点、授業内レポートの内容、定期試験、それらから総合的見地に立って評価する。            備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 人文科学

分野 歴史学

科目類型 総説

開設科目	東洋史	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教官	大林洋五				
<p>授業概要 中国近・現代史(19世紀半ばから20世紀末まで)に限定して講義する。中国の半植民地化の進行と、それからの脱却をめざした中国民衆の苦闘をたどる。            授業一般目標 事実の羅列(「…があった」「…がおこった」)ではなく、「なぜ、そうしたのか」「なぜ、そうなったのか」「それは何をもたらしたか」、当事者(人、集団、国)の意図、原因、結果を考えたい。とくに、日本との関係を重視する。            成績評価方法(総合) 期末試験(小論文)を行なう。            教科書・参考書 教科書：使用しない。/ 参考書：世界史年表(簡単なものでよい)を用意してほしい。            メッセージ 講義中、講義後の質問歓迎。ノートを取ることで、大林の話の聞いて、そのロジックを理解し、疑問をもつようにしてほしい。            教官連絡先 083-924-9638(自宅)、FAXによる質問を歓迎する。            備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	東洋史	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 7・8 時限
担当教官	高木尚子				
<p><b>授業概要</b> 古代邑制国家の成立から、春秋戦国時代の大変化を経て、領域国家が成立するまでの中国は、我々にとって異文化世界であり、我々とは異なる秩序や観念によって支えられていた。しかし同時に、古代中国世界は、我々にとって身近であったはずの中華文明の原型がかたちづくられた時代でもある。そのような古代中国世界を概観するとともに、中華文明世界における「史」の到達点でもあり出発点でもある司馬遷『史記』を通して、古代中国における「史」の歴史について考える。</p> <p><b>授業一般目標</b> 「歴史」とは何だろうか。現在、我々が普通に考える「歴史」とは、History の訳語であり、我々が普通に学ぶ「歴史学」は近代ヨーロッパにおいて成立した学問である。しかし、かつての中華文明世界には、History とは別の「史」の伝統があった。司馬遷は、なぜ『史記』を書いたのだろうか。『史記』が描く時代の歴史とあわせて、中国の「史」の伝統における『史記』の位置づけを考え、「歴史とは何か」について考えるきっかけとしたい。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 期末試験により、目標の達成度を評価する。受講態度が悪い場合は、欠格とすることがある。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：なし。適宜、プリントを配布する。/ 参考書：中国文明の成立(《ビジュアル版》世界の歴史 / 板垣雄三 [ほか] 企画委員; 5), ”松丸道雄, 永田英正著”, 講談社, 1985 年; 参考書『中国文明の成立』松丸道雄・永田英正著、講談社『中国考古の重要発見』黄石林・朱乃誠著、日本エディタースクール</p> <p><b>メッセージ</b> 自ら学ぶ姿勢を求め</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	西洋史	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教官	岩崎好成				
<p><b>授業概要</b> 直接的には、なぜアウシュヴィッツの悲劇は生じたのか、との問いを軸に、「ユダヤ人」差別の歴史、特に近現代ドイツ史上のそれを分析する。が、その際に力点が置かれるのは、歴史を語る際のルールや歴史を学ぶ意義を吟味すること、更には、現代の日本に生きる「普通の人々」としての我々にも通ずる問題群を析出し、一種の教訓としてこれを考えることである。</p> <p><b>授業一般目標</b> 1. 歴史学を構成する基本(=歴史を見、語る際の方法やルール、歴史を学ぶ意味や価値など)を習得する。2. 我々の行動や考え方を分析する際に有用な概念・視角を(ホロコースト分析から)取り出し吟味することを通じて、人間・社会についての理解を深める。3. 以上から、&lt;他人事・余所事の歴史学・西洋史&gt;からの脱却をめざす。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 授業内の小テスト・小レポート(計5回程)と、期末レポートで評価する。なお、遅刻者は大幅に減点されるので注意。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：プリントを配布する。/ 参考書：授業中に指示する。</p> <p><b>メッセージ</b> 授業開始後の入室を禁ずる。受講生数の制限あり(=教室に収容可能な数か 200 名以内)。第3講以降の受講開始は認めない。</p> <p><b>教官連絡先</b> iwasaki@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 4 階</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	宗教学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教官	ジュマリ・アラム				
<p><b>授業概要</b> 宗教とは何か、その位置づけ、構図、研究方法について、各宗教の具体的な事例を見ながら考えていく。世界宗教として知られる制度化した宗教のみならず、民間信仰や自然集団としての宗教の存在と役割にも注目し、全体として宗教現象には、人間の行為、思考、生活様式、観念、規範などに関する、どのようなパターン・傾向・枠組みがあるのかを探っていく。</p> <p><b>授業一般目標</b> 宗教という言葉が、いろいろな側面、定義、解釈、見方があって理解しにくくなったいま、宗教を人間にとって普遍的な宗教心を中心に据えた一つのプロセスとして位置づけ、ダイナミックなものとして体系的・包括的に捉える、宗教学的な枠組みと視点に親しむことを目標とする。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 1. 小テストまたはレポートを3回課す(10月、11月、12月)、2. 筆記試験を学期末の試験期間中に1回行う。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：使用しない。/ 参考書：必要となった場合に適宜案内する。</p> <p><b>メッセージ</b> 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学や宗教研究に関する一定の内容や枠組みを身につけることを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の復習をする必要がある。</p> <p><b>教官連絡先</b> ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：<a href="http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/">http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/</a> / 電話(研究室)：083-933-5220 / 研究室：人文学部 413 号室</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	心理学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(生資除く)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限
担当教官	名島潤慈				
<p><b>授業概要</b> 心理学の基本的な事柄について講義する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 心理学のなかでも人格心理学・発達心理学・臨床心理学に関する講義を通して、人間の心の仕組みや不適応の機構を受講者が理解できるようにする。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 中間試験、期末試験、出席などから総合的に評価する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：学校教育相談心理学, 中山巖編著, 北大路書房, 2001 年</p> <p><b>教官連絡先</b> E-mail:najima@yamaguchi-u.ac.jp 電話：083-933-5465</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 人文科学

分野 心理学

科目類型 総説

開設科目	心理学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(生資除く)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限
担当教官	木谷秀勝				
<p>授業概要 心理学の講義では、日常の人間行動への心理学的理解を通して、人間行動の背景にある心の世界について、科学的に解明することを目的とする。</p> <p>授業一般目標 心理学を通して、自分自身や他者、あるいはさまざまな社会現象に対する多面的な視点や発想の柔軟性を習得する。</p> <p>成績評価方法(総合) 評価は、出席点、レポート、さらに平素の講義態度で行う。</p> <p>教科書・参考書 教科書：生活にいかす心理学 Ver.2, 古城和子編著, ナカニシヤ出版, 1999年 / 参考書：必要な資料は適宜紹介する</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 人文科学

分野 心理学

科目類型 総説

開設科目	心理学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	工2年	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教官	一川 誠				
<p>授業概要 経験科学としての心理学の概要について学習し、人間の心や行動の特性についての理解を深める。</p> <p>授業一般目標 心理学の基本的な知見を理解し、人間の認知機能や社会の中での個人の心理、人間と環境との関係についての洞察を深めることを目的とする。</p> <p>成績評価方法(総合) レポートと小テスト。</p> <p>教科書・参考書 教科書：心理学, 鹿取廣人, 杉本敏夫, 東大出版会, 2004年; 「心理学」東京大学出版会。 / 参考書：講義中に参考書を示す。</p> <p>メッセージ 講義中、携帯電話をオフにしておくこと</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	心理学 (心のとらえ方)	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全 (生資除く)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教官	田邊敏明				
<p><b>授業概要</b> 本講義は、心理学の概念がどのような見方から生まれたかを比喻から解説する。授業では、知覚、認知、学習などの領域ごとに概念を説明していくが、その都度、各概念がどのような比喻から成り立っているかについても触れる。心理学の比喻には、機械論や有機体論が代表的であり、最近では状況主義もある。心理学の概念は仮説構成体と呼ばれ、他の学問から借りてきたものも多い。さらにそれらの概念はその時代に流行した見方を反映している。理論をただ暗記するのではなく、その理論が導かれた背景までたどりたい。</p> <p><b>授業一般目標</b> 心理学の概念を、ただ理解するだけでなく、それが導かれてきた背景まで気づけるような授業にしたい。その方法の一つが心理学概念がどのような見方(比喻)から成り立っているかを明らかにすることである。受講生には、心の見方にもその背景があることに気づいてもらいたい。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 基本的には期末試験を重視するが、途中で行う課題の提出も重要な評価対象となる。さらに、心理学の理論や概念を理解するのはもちろんのこと、それらがどのような基本的見方から成り立っているかについての興味関心や、自分なりに理解していく姿勢が見られるかどうかも評価する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書： 比喻から学ぶ心理学：心理学理論の新しい見方、田邊敏明著、北大路書房、2000年； 比喻から学ぶ心理学 - 心理学理論の新しい見方 - (北大路書房)</p> <p><b>メッセージ</b> 受講希望者は最初の授業に必ず出席してください。今年度はテキストの残部が90冊程度しかなく、100人を目安に受講制限をせざるを得なくなりました。どうぞご了承下さい。</p> <p><b>教官連絡先</b> ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 火曜日 18:00～19:00</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	心理学 (人間はいつも論理的に思考するか)	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全 (生資除く)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教官	熊谷信順				
<p><b>授業概要</b> 人は自分の五感を通して得た情報に依存して生きている。その情報によって組み立てた心的世界は必ずしも「客観的」ではない。いわば、自分にとって都合のよい心的世界を形成している。なぜか。その方が都合がよいからだ。</p> <p><b>授業一般目標</b> 1 人間行動をにみられる心理学的現象と、これに関する心理学の基礎的概念を理解する。 2 心理学は人間をどのように理解しようとするのかを理解する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 期末定期試験 知識・理解の観点50パーセント 思考・判断の観点50パーセント</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書： 使用しない</p> <p><b>メッセージ</b> 受講者数の制限を行う(100名程度まで) 授業中の私語等によって授業の妨げを行うものの受講を認めない。</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 人文科学

分野 文学

科目類型 総説

開設科目	日本文学(万葉集を中心として)	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2単位	曜時間	火曜日7・8時限
担当教官	吉村誠				
<p>授業概要 古典文学について、知識や教養を広めることを目的とする。今回は、「万葉集」を取り上げ、概説する。</p> <p>授業一般目標 古典文学の作品世界の奥深さを感じ得るための、読解の基礎力を養うことを目指します。</p> <p>成績評価方法(総合) 出席及び、毎回意見、質問、感想などを提出する。</p> <p>メッセージ 教材は、Webを利用する。受講希望者多数の場合は初回授業時に小テストを行う。</p> <p>教官連絡先 研究室:教育学部 電話:933-5315 E-mail;y_makoto@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 人文科学

分野 文学

科目類型 総説

開設科目	漢文	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(生資・獣医除く)	単位	2単位	曜時間	水曜日3・4時限
担当教官	南部英彦				
<p>授業概要 中国の歴史・文学・思想のいずれかの領域にわたる漢文資料を選読していく。テキストの読解においては、予習してくることを前提とし、適宜発表を求める。受講者講義の第一回目に本年度に取り上げるテキストを示す。</p> <p>授業一般目標 漢文を、訓読法により読むことを通して、中国(日本)の歴史、思想、文化に対する関心を深め、更にそれを自分なりに評価・批判する態度を養おうとする。より具体的には、(1)各自の漢文訓読の力量をいささかなりとも上げる。(2)中国古典の文章や考え方、あるいは歴史に対する関心を深める。(3)漢文資料に示された内容を自分なりに批判しうる力を養う。</p> <p>成績評価方法(総合) 基本的には、授業中における発表と他の発表者に対する討議の姿勢を勘案することにより行う。場合によっては、学期末に試験か、レポートを課すことがある。</p> <p>教科書・参考書 教科書:テキストは、授業中に配布する。/ 参考書:参考書は、授業中に指示する。</p> <p>メッセージ 漢和辞典を一冊用意して下さい。</p> <p>教官連絡先 hidehiko@yamaguchi-u.ac.jp 11:50 から 12:50 まで、及び課外の時間。教育学部(4階)漢文学研究室に訪ねてきて下さい。</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	外国文学(現代英国系文学の読み方)	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2単位	曜時限	木曜日 5・6時限
担当教官	宮原一成				
<p>授業概要 1980年代以降の英国系小説の中から、現代英国系小説の特徴のうち4つを典型的に示している作品を取り上げ、解説する。映画化された作品を使い、まずその映画の抜粋を見て大まかな作品全体像をつかんでもらった上で、原書や論考を拾い読み、作品の味わい方を提示する。</p> <p>授業一般目標 文学を鑑賞する楽しさを知る。文学という文化に対するアプローチの方法論の一端を理解する。</p> <p>成績評価方法(総合) 感想小レポート(4回)と学期末レポート(1回)による。5回以上の欠席は無条件に不可評定となる。</p> <p>教科書・参考書 教科書:『ブッカー・リーダー-現代英国・英連邦小説を読む』,吉田徹夫監修,開文社出版,2005年;大学生協にて販売/参考書:適宜授業中に翻訳書等を紹介</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	言語学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2単位	曜時限	木曜日 7・8時限
担当教官	乾秀行				
<p>授業概要 世界には現在約6千の言語があると言われていています。ところが英語や日本語のような巨大言語に比べ、その多くが今後百年の間にこの地球上から消滅するという報告もあります。言語は人類の貴重な知恵が集まったものであり、我々が生きている間にその貴重な財産が永久に地球から消滅するかも知れません。この授業では、今言語の世界でどのようなことが起こっているかについて、解説します。</p> <p>授業一般目標 1.危機言語について理解を深める。2.世界言語からみた日本語や英語について理解を深める。</p> <p>成績評価方法(総合) 出席点。レポート。テスト。</p> <p>教科書・参考書 教科書:21世紀後半の世界の言語はどうなるのか-情報化・国際化のなかの言語,21世紀後半の言語シンポジウム企画班,明石書店,2005年</p> <p>メッセージ ノートパソコンを使います。</p> <p>教官連絡先 f1566@yamguchi-u.ac.jp</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	芸術史(日本近代美術史)	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2単位	曜時限	月曜日9・10時限
担当教官	菊屋吉生				
<p><b>授業概要</b> 日本の明治以降の近代日本美術史の諸問題について論じる。近年この分野では、若い研究者による観点に立った意欲的な論文、著書の発表や、あるいは各地の美術館などで、それまであまり知られなかった近代の美術動向や作品に焦点が当てられた展覧会が次々と行なわれ、飛躍的にその研究の厚みが増しつつある。この講義では、そうした近年の新しい研究成果もふまえて、とくに重要と思われるいくつかのテーマを設定しながら、日本の近代美術が抱えてきたさまざまな問題について考察してみたい。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) 近代日本美術に関する近年の問題点を理解する。(2) 明治以降の日本の美術の発達にまつわる近代の状況を、世界の動きと対比しながら考察する。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 授業のなかでレポートを書いてもらうことも考えている。試験はノートの持ち込みは認めたい。そのためノート記述はしっかりやってもらいたい。その際、授業中にその内容をふまえた上で自ら考えたことをメモしておいてもらうと役立つと思う。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：テキストはとくにないが、授業のなかでレジュメを配りたい。/ 参考書：参考書に関しては、授業のなかでその都度明示する。</p> <p><b>メッセージ</b> 授業の内容および使用教室のキャパシティの関係で、履修者を90名までとしたい。人数を越えた場合は初回に抽選を行なうので、必ず出席すること。</p> <p>教官連絡先 kikuya@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部2階 備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	芸術概論(音楽の歴史)	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2単位	曜時限	火曜日3・4時限
担当教官	池上敏				
<p><b>授業概要</b> 西洋音楽を基本にした基礎的な音楽史を講じます。当然ですが、音楽はヨーロッパのみにあるのではないのですが、なぜ西ヨーロッパの音楽が世界の音楽の主流たり得たのか、その秘密を受講生の皆さんと共に考えて行きたい。</p> <p><b>授業一般目標</b> 西洋の古典音楽を中心にした音楽史の基礎の理解。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 出席状況、講義内容の理解度、授業期間内、または時間外に科す簡単なレポートなどを総合的に評価する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 参考書：授業時間中に必要に応じ適宜紹介する。</p> <p>教官連絡先 担当教員研究室(教育学部音楽棟109研究室)、オフィスアワーは未定。 備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	芸術概論(音楽)	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2単位	曜時限	火曜日 3・4時限
担当教官	齋藤完				
<p>授業概要 「日本音楽とは何か」を考えつつ、その歴史を概観しながらそれぞれの音楽ジャンルの鑑賞をおこなう。</p> <p>授業一般目標 日本音楽の自明性を批判的に考察したのちに、日本音楽史をジャンルごとに鑑賞しながら概観する。なお、鑑賞の範囲はいわゆる「日本伝統音楽」のみならず、近代以降の「洋楽」ならびにそれに影響を受けて発生したジャンルをも対象とする。また、学期中をとおして特定のジャンルを鑑賞し続けることで、そのジャンルに対する鑑賞眼を養うこともおこなう。</p> <p>成績評価方法(総合) 第一回目の授業には必ず出席すること。不可能な場合は研究室に来室して個別に指示を受けること。なお、いずれかの週において音楽会の鑑賞をおこなう可能性がある。</p> <p>教科書・参考書 教科書：必要に応じてプリントを配布する。/ 参考書：日本の音, 小泉文夫, 平凡社; 漱石が聴いたベートーヴェン, 瀧井敬子, 中公新書; 声の国民国家・日本, 兵藤裕己, NHKブックス; ギターは日本の歌をどう変えたか, 北中正和, 平凡社; 民謡秘宝紀行, 齋藤完, 白水社; いずれも読みやすい読み物なので、日本音楽への理解を深めるために参考にして欲しい。</p> <p>メッセージ 第一回目の授業には必ず出席すること。第一回目の欠席者は原則として受講を認めない。なお、いずれかの週において音楽会の鑑賞をおこなう可能性がある。</p> <p>教官連絡先 mnsaito@yamaguchi-u.ac.jp 必ずアポイントメントをとってから来室のこと</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	芸術概論(美術)	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2単位	曜時限	水曜日 3・4時限
担当教官	福田隆真				
<p>授業概要 西洋美術の近代の表現の変遷と日本美について解説する。</p> <p>授業一般目標 西洋の近代絵画の表現様式を知る。日本美の特性について知る。</p> <p>メッセージ 出席して鑑賞して感じることを重視する。</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 人文科学

分野 芸術

科目類型 総説

開設科目	芸術実践(音楽)	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(教・生資・獣医除く)	単位	2単位	曜時間	木曜日7・8時限
担当教官	西村順子				
<p>授業概要 授業概要 ピアノ、弦楽器、声楽の演奏実践をそれぞれ同時進行で行っている授業である。それぞれ受講希望する分野のところで個々の力量に応じて、それぞれの専門の教員が指導を行う。(1分野8名まで)</p> <p>授業一般目標 各自、期末に向けて目標を立て、その目標に向けて取り組んでいく。クラシックに限らず、ポピュラーミュージックや連弾等、様々な希望もOK。</p> <p>成績評価方法(総合) (1)受講者全員での試演会により、形成評価を行う。(2)出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p>教科書・参考書 教科書：必要な楽譜を各自準備</p> <p>教官連絡先 jun_n@yamaguchi-u.ac.jp 研究室(内線5363)</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 人文科学

分野 芸術

科目類型 総説

開設科目	芸術実践(音楽)	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(教・生資・獣医除く)	単位	2単位	曜時間	木曜日7・8時限
担当教官	成川ひとみ				
<p>授業概要 ピアノ曲の演奏に取り組む。</p> <p>授業一般目標 各自の能力と目的に適したピアノ曲を選曲し、個別の実技指導を行う。</p> <p>成績評価方法(総合) 1. 公開による実技試験を行う。2. 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p>教科書・参考書 教科書：必要な楽譜を各自準備</p> <p>メッセージ 個別指導となる為、受講人数を8人程度までとする。</p> <p>教官連絡先 nr1103@yamaguchi-u.ac.jp 学内内線5364</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	芸術実践(音楽)	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(教・生資・獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教官	林満理子				
<p>授業概要 それぞれの力量に合わせた曲を教材として、体の使い方、発声、呼吸など、歌うための基本を学ぶ。</p> <p>授業一般目標 発声の基本をふまえ、教材を歌う事ができる。</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

後期 - 社会科学系列

開設科目	法学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(経除く)	単位	2 単位	曜時間	水曜日 3・4 時限
担当教官	三間地				
<p>授業概要 「法とは何か」「わが国の法制度の概要はどうなっているか」といったことを学習したのち、契約・婚姻・離婚・相続など身近な法律問題についての初歩を学ぶ。</p> <p>授業一般目標 (1) わが国の法制度の概要を理解する。(2) 市民生活を送る上で知っているとは有益だと思われるような法律に関する基礎知識を身につける。</p> <p>成績評価方法(総合) 成績評価は期末試験の結果による。ただし4回以上欠席した者には期末試験の受験を認めない(なお、課題をやってこなかった場合、授業中に居眠りした場合、授業中にメールの送受信をした場合及び授業中に他の授業の準備をした場合には欠席扱いとする。)また、授業中に以下の行為を行った者も受験資格を失う。(1) 私語(2) 飲食(3) 大学祭等のチケットを売り買いしようとする行為(4) その他ほかの受講者の受講を妨げる行為</p> <p>教科書・参考書 教科書：現時点では未定。第1回目の授業の際に指示する。/ 参考書：スタートライン債権法(第4版)、池田真朗、日本評論社、2005年；家族法読本、泉久雄、有斐閣、2005年；総則・物権総論(民法/内田貴著；1)第3版、内田貴、東京大学出版会、2005年；アクチュアル民事の訴訟、福永有利・井上治典、有斐閣、2005年</p> <p>メッセージ 受講の際には必ず六法(有斐閣・三省堂・岩波書店から刊行されているもの)を持参すること。</p> <p>教官連絡先 メールアドレスは授業の際に配布するプリントに記載する。現時点ではオフィスアワーは未定。</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	日本国憲法	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時間	木曜日 5・6 時限
担当教官	立山紘毅				
<p>授業概要 2005年秋の衆議院選挙圧勝の勢に乗って、自由民主党は日本国憲法の改正試案を発表した。もちろん、こうした出来事は今に始まったことではなく、日本国憲法は常に政権与党の改憲圧力にさらされ続けてきた、という異様な過去をもつ。もちろん、憲法の基本性格が政権担当者を法の下に拘束する、というものである以上、権力者にとっては「めの上のこぼ」に等しい存在であることは古今東西を問わない。ただ、そこには一つに政治・社会風土における日本的な特質が検出され、もう一つに戦後史の影が大きく反映されている。この講義では、昨年発表された自民党憲法改正試案を出発点として、その基本性格を分析する中から、日本国憲法の本来もつべき価値を抽出し、さらに過去へ遡って憲法改正論の推移をたどらうとするものである。</p> <p>授業一般目標 上述したとおり、憲法は生きた政治を相手にする法であるとともに、きわめて原理的な(哲学的とさえいえる)考察を必要とする法である。したがって、講義は多面的な性格をもたざるをえないが、「憲法改正論」を手がかりとして、その全貌に及ぼうとするものである。したがって、間違っても中学・高校の延長上にはない、と頭を切り替えて臨んでほしい。</p> <p>成績評価方法(総合) 私の講義では、基本的に定期試験での成績をほぼ100%として評価する。講義外でのレポートなども加味することはありうるが、夏期休業前に講義を全部終える、との制度「改変」のため、一冊分厚い書物を読んで、長いレポートをみっちり書いてもらう、という手法は事実上不可能となった(それに拍車をかけているのが「ハッピー・マンデー」とやらである。これも「法律上の制度」である)。また、実社会では、おおむね「結果すべての一発勝負」が「評価」であることや、「多面的な観点からの評価」のごときは「学校」の中での甘い言い訳に過ぎないことも十分承知しておかれない。</p> <p>教科書・参考書 教科書：特に指定しない/ 参考書：講義の展開に応じて指示する</p> <p>メッセージ 憲法、統治構造、人権、平和主義、立憲主義</p> <p>教官連絡先 オフィス・アワーは設定していないが、種々の理由から、在室は不定時なので、事前にe-mailでアポイントメントを取っていただきたい</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 社会科学

分野 法学

科目類型 総説

開設科目	日本国憲法	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教官	永山茂樹				
<p>授業概要 日本国憲法の基本事項を，立憲主義の歴史をふまえて講義する。</p> <p>授業一般目標 (1) 基本的人権の意義を知る。(2) 主権者に必要な素養を身につける。</p> <p>成績評価方法(総合) (1) 授業の中で小テストを2～3回実施する。(2) 人権に関するレポートを1回作成提出する。(3) 期末試験を実施する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：『現代憲法入門講義』(北樹出版)</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 社会科学

分野 法学

科目類型 総説

開設科目	日本国憲法	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	木曜日 9・10 時限
担当教官	永山茂樹				
<p>授業概要 日本国憲法の基本事項を，立憲主義の歴史をふまえて講義する。</p> <p>授業一般目標 (1) 基本的人権の意義を知る。(2) 主権者に必要な素養を身につける。</p> <p>成績評価方法(総合) (1) 授業の中で小テストを2～3回実施する。(2) 人権に関するレポートを1回作成提出する。(3) 期末試験を実施する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：『現代憲法入門講義』(北樹出版)</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	日本国憲法	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時間	金曜日 5・6 時限
担当教官	上杉信敬				
<p>授業概要 わが国の最高法規である憲法について考察する。その際、国民が主権者であることを踏まえて、国民主権、三権分立、人権保障、平和主義などについてみていく。</p> <p>授業一般目標 現行日本国憲法の内容について基本的なことを理解すること。</p> <p>教科書・参考書 教科書：開講時に指示する。/ 参考書：開講時に指示する。</p> <p>メッセージ 憲法が規定する重要原則—国民主権、三権分立、人権保障、平和主義、などについて考えよう。</p> <p>教官連絡先 内線 5 5 8 8</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	日本国憲法	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時間	金曜日 5・6 時限
担当教官	石 龍潭				
<p>授業概要 本講では、近代立憲主義の基本原則及び日本国憲法の保障する基本的人権の内容を理解することを目的とする。現在国会の憲法調査会を中心に“改憲”論争がなされていることから分かるように、日本国憲法は多方面から検討が加えられている。学生諸君には主体的な認識と解釈を形成してもらいたい、その素材を幅広く、具体的に提供したいと考えている。〔授業の目標〕日常生活のいたるところに憲法問題が潜んでいることを知り、そうした問題に対して憲法の基本的知識を活用してひとつおりの説明が出来るようになることを目標とする。教科書や参考書については、開講時に指示する。</p> <p>成績評価方法(総合) 筆記試験等による。</p> <p>メッセージ 日頃から新聞の政治欄・国際欄に興味を持ってもらいたい。</p> <p>教官連絡先 質問等のある学生は、気軽に私の研究室に来てください。(研究室：経済学部 A 棟 408 室)</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	日本国憲法	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	金曜日 9・10 時限
担当教官	中村美紀子				
<p>授業概要 私たちの生活と密接な関係がある法律、特にその根本原則を定めた日本国憲法を学ぶことにより、法律の存在意義を考える。講義では、できるだけわかりやすい例を挙げて解説することを心がける。</p> <p>成績評価方法(総合) 出席30%、毎回講義終了時に行う小テストの成績30%、期末試験の成績40%の配分にて評価を行う。</p> <p>教科書・参考書 教科書：毎回レジュメを配布する。/ 参考書：目で見える憲法, 初宿正典・他, 有斐閣</p> <p>メッセージ 判例付きの六法を持参することが望ましい。</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	政治学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(経・獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	纈纈厚				
<p>授業概要 政治とは何か、政治学とはどのような学問なのか、について最初解説する。そこでは現代社会が政治という手段なくしては成立しないことの理解を求めていきたい。現代を生きる私たちは、すべて「政治的人間」であることを自覚して欲しい。</p> <p>授業一般目標 他者同調型ではなく、自立した一個の人間として、「市民」として主体的な判断ができる人間としての教養を身につける</p> <p>教科書・参考書 教科書：戦争と平和の政治学, 纈纈厚, 北樹出版, 2005 年 / 参考書：現代の戦争, 纈纈厚, 岩波書店, 2003 年 ; 文民統制, 纈纈厚, 岩波書店, 2005 年</p> <p>メッセージ 君自身の言葉で時代を掴め</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	経済学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(経除く)	単位	2 単位	曜時限	
担当教官	田淵 太一				
<p><b>授業概要</b> 今日、グローバル化という流行語が示すように、経済とはすなわち世界経済そのものを表しています。そして世界経済を動かしている主役は、米国のような巨大な権力と、グローバルに展開する巨大企業です。しかし、主流派経済学の理論はこの現実を捉えきれいていません。この講義は、経済学を専門としない学生諸君のための授業ですが、通りいっぺんの入門編とせず、あえて主流派経済学の失敗を明らかにし、その反省に立って、現実の世界経済を捉えるのにはどのように考えればよいのかを問いかけます。</p> <p><b>授業一般目標</b> 主流派経済学の失敗を明らかにし、どのようにすれば現実の世界経済を分析できるかを示すことを目標とします。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 期末試験(70%)、授業内レポート(30%)、出席は欠格条件とする(3分の2以上の出席を単位要件とする)。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：1からのマーケティング(第2版)、広田章光・石井淳蔵編著、中央経済社、2004年 / 参考書：世界経済論、本山美彦編著、ミネルヴァ書房、2006年</p> <p><b>メッセージ</b> 専門外の学生にとっても平易な授業を心がけます。教科書は必ず、参考書はなるべく、用意してください。教官連絡先 初回授業時に公表する。</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	社会学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限
担当教官	高橋征仁				
<p><b>授業概要</b> この講義では、主として&lt;家族&gt;をテーマに取り上げ、その現状や歴史的変容に関する様々なアプローチやデータを検討していく。そうした作業を通じて、&lt;家族&gt;をめぐる意味の変容と日本社会の構造的変容とをリンクしていく社会学的な視座の習得を目指す。</p> <p><b>授業一般目標</b> ・自分のこれまでの家族生活を、階層や文化、時代の異なった人の視点から相対化して捉える。・家族に付きまとう理想論を一旦保留し、丹念に事実を探求し、その結果に基づいて、分析し、議論する態度を身に付ける。・家族のあり方を、近代社会というマクロな観点とのかかわりから考察する視点を持つ。・日常生活を「あたりまえ」のこととして片付けるのではなく、様々な人間の営みや制度、システムなどの観点から複眼的に再構成していく思考様式を身に付ける。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 出席レポート40点と学期末試験60点の総合点で評価する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：パラサイト社会のゆくえ、山田昌弘、ちくま新書、2004年</p> <p><b>メッセージ</b> かつてS.フロイトは、「愛することと働くこと」が大人の条件であると述べました。しかし、現代社会を生きる若者たちにとって、この二つの条件はかなり高いハードルになりつつあります。</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	社会学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教官	辰己佳寿子				
<p><b>授業概要</b> 「人は一人では生きていけない」と言われますが、どのように生きているのでしょうか？人は、家族や親族、学校、会社、地域社会、国家、国際社会の中で、直接的にせよ、間接的にせよ、社会と関わりながら生活しています。また、このような社会は刻々と変わりつつあります。社会変容の中で我々はどう生きていけばいいのでしょうか？この講義では、それら社会と個人の関係について考えるために、身近な社会の問題から海外の問題まで様々な事例を社会学的視点から分析していきます。</p> <p><b>授業一般目標</b> 社会学とは何かを理解し、社会学的な概念を用いて社会現象を理解・説明できるようにする。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 授業内レポートを数回、授業外レポートを1回行い、最後に試験を実施する。授業態度も重視する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：特に定めない。必要に応じて随時資料などを配布する。/ 参考書：社会学講義, 富永健一, 中央公論新社, 1995年; 君たちはどう生きるか, 吉野源三郎, 岩波書店, 2003年; その他、講義中に適宜紹介する。</p> <p><b>メッセージ</b> 自分を取り囲む社会へのアンテナを尖らせて、この講義に参加してください。</p> <p><b>教官連絡先</b> Tel:933-5083 E-mail:tatsumi@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	社会学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教官	山本薫子				
<p><b>授業概要</b> 社会学の代表的な理論の基礎を学ぶとともに、受講者にとって身近なテーマを事例として取り上げ、現代社会が直面しているさまざまな問題について理解を深める。</p> <p><b>授業一般目標</b> 私たちが生きる現代社会が抱える問題・矛盾を改めてとらえなおし、そのうえで私たち一人一人が「社会」とどのようにつながっているのか、理解を深めることを目標とする。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：教科書は特に定めない。必要に応じて随時、資料等を配布する。/ 参考書：『社会学と過ごす一週間』, ソシオロジスト編集委員会, 学文社, 2003年; 新睦人他『社会学のあゆみ』有斐閣、新睦人他『社会学のあゆみ パート II』有斐閣</p> <p><b>メッセージ</b> 普段の生活を通じて見えてくる社会問題に敏感な目を養ってください。新聞や本を読み、TV ニュースを見て、考えることを生活のなかに取り入れましょう。講義中の私語、携帯電話使用(含メール)は厳禁、遅刻も同様。期末試験のほかにレポート課題、出席状況などを総計して評価する。なお、レポート課題未提出者、講義への未出席者は期末試験受験の資格を持たない。</p> <p><b>教官連絡先</b> 研究室：教育学部棟 4 階 476</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	地理学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教官	貞方昇				
<p><b>授業概要</b> 古地図を通して世界像の変遷とその背景にあるものを探る。人類は自分たちの世界をどのように把握、理解し、広げてきたのだろうか。大航海時代をメインにして、各種古地図を活用しながら、時代を追って考察したい。そして私たち日本人の持つ世界像とはどのような性格を持つものか、他民族のそれと相対化しながら明らかにすることを目的とする。今日の世界各地に生起する諸問題の理解に役立てば幸いである。</p> <p><b>授業一般目標</b> 私たち日本人の持つ世界像がどのような歴史的経過を辿って形成されてきたのかを理解する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：適時配布するプリントを主な教材とする。/ 参考書：大航海時代 - 旅と発見の二世紀, ボイス・ペンローズ, 筑摩書房, 1985 年; 地図に見る日本, 海野一隆, 大修館書店, 1999 年; 地図の歴史 - 日本篇 -, 織田武雄, 講談社(現代新書); 地図の歴史 - 日本篇 -, 織田武雄, 講談社(現代新書); 近世日本の世界像, 川村博忠, ペリカン社, 2003 年</p> <p><b>教官連絡先</b> sadakata@yamaguchi-u.ac.jp、月曜日 12:00 ~ 13:00</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	民俗学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	坪郷英彦				
<p><b>授業概要</b> 民俗学は第二次大戦後の高度成長期が始まる前までの日本国内での暮らしを考える学問です。民俗学の分野は大きく有形の文化と無形の文化に分けられますが、授業では有形の分野を主に取り上げます。具体的には衣食住・生業・芸能の内容で構成します。受講するほとんどの人は高度成長期以後の環境で育った人でしょうから、できるだけ身近な話題から説き起こしたいと思います。何でもない日常的な出来事やものに庶民の考えや永い伝統を発見することができるでしょう。</p> <p><b>授業一般目標</b> 江戸時代から昭和の高度成長期までの一般庶民の暮らしやその背後にある考えを知り、現代社会を生きる上での一つの視点を示すことを目標としています。最近には特に生活環境への関心が高まる中で、工業化社会以前の暮らしに学ぼうとする動きがあり、民俗学の成果が現代に活かされつつあります。その事例も取り上げながら現在の環境やコミュニティを考える上でのヒントを示すことができればと思っています。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 期末の定期試験成績(60%)と出席率(40%)によって評価する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：教科書は用いないが、毎回資料を配付する。/ 参考書：新訂生活文化論, 中村・植田・坪郷, 源流社, 2002 年</p> <p><b>メッセージ</b> モノを取り巻く民俗(物質文化)を多く取り上げるので、モノに関心のある人はぜひ受講してほしい。受講希望者が多い場合、教室の収容人数他を勘案し受講制限をする場合がある。</p> <p><b>教官連絡先</b> E-mail &lt;hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp&gt; 電話 5239、研究室人文棟 213、オフィスアワー 木曜日 12 時 ~ 14 時</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	文化人類学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	星野 晋				
<p><b>授業概要</b> 文化人類学は、「文化」を手がかりに人間についての理解を深めようとする学問分野である。国際化が進む現在にあって、私たちはグローバルかつ普遍的な論理と民族的・地域的固有性の折り合いをいかにつけるかという大問題に直面している。文化人類学的な視点と方法は、文化的多様性とどのように付き合っていくかを考える際の一つの手がかりとなると思われる。本講義では、ある意味で普遍的、ある意味で多様な「病気と医療」というテーマについて検討することを通して、文化人類学的な「ものの見方」とはいかなるものかを学ぶことを目標とする。また本講義は、文化人類学入門であると同時に、その下位分野である医療人類学入門として聞くこともできる。</p> <p><b>授業一般目標</b> 人間を総合的に捉えようとするという文化人類学の基本的なものの見方とアプローチを理解する。文化的多様性に対する視点と態度を学び、加えて自分や身近な人の経験を文化人類学的アプローチを用いて考察できるようになる。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 出欠をかねた小レポート、定期試験</p> <p><b>教官連絡先</b> hoshino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：授業後（小串では水曜日午後）</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	教育学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全 (獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	田中理絵・杉山緑				
<p><b>授業概要</b> 本講義では、子どもの発達と教育機関（家族・地域社会・学校）との関係について概説を行う。</p> <p><b>授業一般目標</b> 教育学の基本的概念および考え方を習得する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 授業中に出される課題、中間テスト、期末テスト、出欠を総合的に評価する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：適宜、提示する。/ 参考書：適宜、提示する。</p> <p><b>メッセージ</b> 教育という身近な問題を学術的に解明する意欲・関心をもって講義に臨んで下さい。</p> <p><b>教官連絡先</b> 田中研究室（教育学部 A 棟 3 階・360）、杉山研究室（教育学部 A 棟 3 階・368）</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	教育学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6 時限
担当教官	福田修				
<p>授業概要 日本の戦後教育の歴史 現在進行している日本の教育改革の性格を、第2次世界大戦後の教育の歴史的展開から考える。</p> <p>授業一般目標 日本の教育改革の性格について考える。</p> <p>成績評価方法(総合) 課題レポートと出席状況とを総合的に判断して評価する。</p> <p>メッセージ 授業には毎回出席すること。遅刻はしないこと。携帯電話の電源は切っておくこと。ノートは自主的にとること。</p> <p>教官連絡先 内線 5 4 5 1 fukudao@yamaguchi-u.ac.jp 月曜日 9:30 - 10:15</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	産業倫理	区分	講義	開設期	後期
対象学生	機械2年	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	宮本政英				
<p>授業概要 技術者のプロフェッショナルとしての行動規範と責任を理解すること、そして技術者が直面する倫理的なジレンマとその解決方法を疑似体験する。また倫理的な想像力および分析力の必要性を認識し、このような活動を通じて道徳的な自律性を高める。</p> <p>授業一般目標 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負っている責任に関する理解を深める。</p> <p>成績評価方法(総合) 観点別成績評価法において、授業内レポートと授業外レポートの評価割合は、各40%になっているが、両者を併せて80%とする。この時、口頭で発表させることもあるが、授業内レポートの形で評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：第二版 大学講義 技術者の倫理入門, 杉本泰治・高城重厚, 丸善株式会社, 2002年</p> <p>メッセージ 授業前に、その週に行う内容に関する教科書の部分を読んでおくこと。ほぼ、毎授業において検討課題を与えて、授業内レポートを書かせる。筆記具、ノート、教科書を必ず持参すること。</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	産業倫理	区分	講義	開設期	後期
対象学生	応化3年	単位	2単位	曜時限	水曜日 7・8時限
担当教官	山本修一 佐伯隆 小淵茂寿 横田守久				
<p>授業概要 産業あるいは組織が社会と係わりを持つときに必要となる倫理について学習する。</p> <p>授業一般目標 産業あるいは組織が社会と係わりを持つときに必要となる倫理について、既存の事例を解説を通して実際の技術者の持つべき倫理について理解する。</p> <p>成績評価方法(総合) 講義には毎回出席し、毎回レポート提出が原則である。</p>					

開設科目	産業倫理	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(医学・工・獣医除く)	単位	2単位	曜時限	木曜日 9・10時限
担当教官	永崎研宣				
<p>授業概要 リコールやトラブルの隠蔽、杜撰な品質管理、甘い見通しに頼ったシステム統合のトラブルや不正な会計処理など、現在の産業社会は、様々な倫理的問題を内に抱え込んでいる。多くのケースは技術的問題と密接に関連しており、技術者にとっての工学倫理という観点から捉えられる必要がある。しかしながら、こうした問題は、同時に、政治的・経済的、その他の様々な要因を含んだものであり、しばしばそうした様々なものが複雑にからみあっている。したがってそれは、技術者のみならず、そうした問題に関わるすべての人が倫理的問題として理解していく必要がある。本講義では、産業社会におけるこうした倫理的問題について、具体的な事例をとりあげながら考えていきたい。</p> <p>授業一般目標 講義における様々な事例の検討を通じて、倫理的問題に対して用意されている様々な基準や規制、制度等についての基本的な知識を身につけ、将来直面するであろう問題に対処していける力をつけてもらう。</p> <p>成績評価方法(総合) 授業の中でレポートを課す。また、最後にも、理解度を確認するためのレポートを課す。なお、出席が所定の回数に満たない者は単位を与えない。</p> <p>教科書・参考書 教科書： はじめての工学倫理第2版、齊藤了文、坂下浩司編、昭和堂、2005年； 齋藤了文 編『はじめての工学倫理』昭和堂</p> <p>メッセージ 混み込んだ問題をきちんと整理して考えていけるような基礎力を身につけましょう。</p> <p>教官連絡先 nagasaki@yypu.jp</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	産業倫理	区分	講義	開設期	後期
対象学生	機材3年	単位	2単位	曜時限	
担当教官	今村速夫ほか				
<p><b>授業概要</b> 機能材料の開発に必須の産業倫理、材料と環境の関わり合い、材料科学に関わる危険物・毒物、廃棄物処理、リサイクル、資源問題、エネルギーなどについて、幅広い知識を教授する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 1. 産業倫理の考え方を理解し科学技術者の倫理、科学技術と社会との関わり合いを知る。2. 材料と環境の関わり合いを知る。3. 危険物・毒物の取り扱い、廃棄処理の基礎を知る。4. リサイクル、資源、エネルギー問題について考える基礎力を身に付ける。5. 5. 工学の哲学を考える力を身に付ける。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 期末試験、小テスト、宿題を総合的に評価する。出席が所定の回数に満たない者には単位を認めない。期末試験については、試験方法を事前に説明する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：マテリアルサイエンス入門、ものづくり創成実習 I,II、機能材料工学実験 I,II、等 機能材料工学科教材 CD-ROM 新版・実験を安全に行うために 正編と続編(化学同人) / 参考書：知って得する環境・エネルギー・生命の科学, 土屋晉著, 講談社, 2003年; 適宜資料を配布 土屋晉 著「知って得する環境エネルギー生命の科学」講談社サイエンティフィック</p> <p><b>メッセージ</b> 良く知り、良く考え、自分の意見を持てるようになって欲しい。機能材料工学科各教官が担当するので、先生方を知る絶好のチャンスである。積極的な授業参加を望む。</p>					

開設科目	ベンチャービジネス論	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(経・医学・獣医除く)	単位	2単位	曜時限	金曜日 5・6時限
担当教官	稲葉和也				
<p><b>授業概要</b> ベンチャー企業とは「リスクを恐れず新しい領域に挑戦する若い企業」のことを指します。従来 の新規開業企業と異なるのは、高い志や目標を持ち、起業家自身が高度な専門能力と困難に耐え 抜く忍耐力を持ち、創造的かつ才能のある人を集める事業を創業し、高収益で高成長する企業を 作り出すという点にあります。バブルが崩壊した後、グローバル化が進展し、情報ネットワーク 化の本格的な展開によって産業構造が変わり、新しい競争の段階を迎えています。このようなベンチャー企業に対する存立条件をどのように活用して、新しいビジネスチャンスを生み出していけばよいのでしょうか。日本経済が元気を取り戻すためには、国内・国外を問わず通用する高付加 価値商品を生み出し、グローバルに新市場の開拓を図ることが必要とされます。独創性・多様性・柔軟性・即応性に富んだ、旺盛な起業家精神を持つ人材を生み出す、多くのベンチャー企業 が生まれることが期待されます。</p> <p><b>授業一般目標</b> 日本企業では経営者的能力を持った人材が不足しています。企業が多角化、リストラをはかり、これまで経験したことのない新分野に出て行く時に求められるのはリーダーとしての経営能力です。この講義では経営者的人材の育成を目標としています。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 受講生の理解度、意欲を高めるために事業計画の提出、レポートを課すことがあります。試験の結果、及び出席状況、レポートを加味して評価します。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：『ベンチャー企業』日経文庫 843, 松田修一, 日本経済新聞社, 2001年</p> <p><b>メッセージ</b> 何か分からないことがありましたら遠慮なく聞きに来てください。</p> <p><b>教官連絡先</b> E-mail: inaba@tokuyama-u.ac.jp</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	社会科学概論	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(獣医除く)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教官	山下 訓				
<p>授業概要 現代社会の仕組みと現状・問題点を、環境問題、経済活動、政治などについて、資料集の多くの材料をもとに考えます。入門的な講義であり、一つ一つを深く掘り下げることはできませんが、社会において何が正しいのか、正しいこととされていることが時代と共に変化するという事を皆さんと一緒に考えていきたいと思ひます。様々な問題を提起していきたいと思ひます。</p> <p>授業一般目標 社会科学に関連する諸問題に広範囲にふれ、今後皆さんが社会の問題を考えていくための基礎知識を得ることがねらいです。</p> <p>教科書・参考書 教科書：『(テーマ学習) 資料集 現代社会 2006』&lt;一橋出版&gt; 『(豊富な資料と詳しい解説) 倫理資料集 改訂版』&lt;数研出版&gt; 上記2冊とも最新版</p> <p>教官連絡先 yamasita@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp 内線5518 参加者と相談して決める</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

後期 - 自然科学系列

開設科目	数学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	機械 (1-45)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	久田見 守				
<p>授業概要 理工系学問の基礎である微分積分学において、二変数関数の偏微分と重積分を理解させ、計算方法を習得させる。</p> <p>授業一般目標 二変数関数の微分積分学の基本的な概念を理解し、計算方法を習得する。合成関数の微分法、累次積分の公式など、微分積分学における様々な概念や手法を理解し、習熟する。さらに、それらの概念の理解をもとに、理系分野における様々な分野の問題を解決できるような応用力を養う。『機械工学の理系基礎および工学基礎分野において、特に数学に関する専門知識、問題解決に活用できる能力を身につけることを目標とする。』</p> <p>成績評価方法 (総合) 定期試験・演習で評価する。出席については欠格条件とする。</p> <p>教科書・参考書 教科書：微分積分概論, 高橋泰嗣・加藤幹雄, サイエンス社, 1998 年</p> <p>メッセージ 毎回授業の終わり 15 ~ 20 分かけて演習問題を解く時間を設ける。その日に習った内容はその日のうちに理解するように努力すること。</p> <p>教官連絡先 研究室：理学部本館南棟 1 階 1 2 9 室</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	機械 (46-)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	安藤良文				
<p>授業概要 前期の「数学 I」の理解を前提に、後期の微分積分学においては、2 変数関数の偏微分と重積分を学習させ、計算方法を習得させる。</p> <p>授業一般目標 2 変数関数の微分積分学の基礎的な概念を理解し、基本的な計算方法を習得する。合成関数の微分、累次積分など、微分積分学における基礎的な概念や基本的な計算方法を学習する。</p> <p>成績評価方法 (総合) 原則として、総授業数の 80 % 以上の出席をしている受講者を評価の対象とする。成績評価は定期試験と出席状況をもとに決定する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：前期の「数学 I」の教科書を使用。</p> <p>メッセージ 受講に際しての準備事項 1) 前期に開講されている数学 I の内容を理解していること。2) 微分積分の計算は授業をただ聞いているだけでは上達しないので、計算練習をするために各自で自分の読みやすい演習書を選んで学習すること。受講者への注意 I) 第 1 回の授業の際にシラバスについて説明するので、受講者は必ず出席すること。II) 通常、講義は 1 時間の授業に対して、2 時間の授業外の予習・復習を前提にしています。準備事項で述べたように演習書を用意する等して、各自で工夫して試験のための学習を行うこと。</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	電気 (1-45)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	笠井伸一				
<p>授業概要 前期の「数学 I」の理解を前提に、後期の微分積分学においては、2変数関数の偏微分と重積分を学習させ、計算方法を習得させる。</p> <p>授業一般目標 2変数関数の微分積分学の基礎的な概念を理解し、基本的な計算方法を習得する。合成関数の微分、累次積分など、微分積分学における基礎的な概念や基本的な計算方法を学習する。</p> <p>成績評価方法(総合) 原則として、総授業数の80%以上の出席をしている受講者を評価の対象とする。成績評価は定期試験と出席状況をもとに決定する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：微分積分概論, 高橋泰嗣・加藤幹雄, サイエンス社, 1998年; 前期の教科書。後期から初めて受講する学生は、必ず教科書を購入してください。</p> <p>メッセージ 受講に際しての準備事項 1) 前期に開講されている数学 I の内容を理解していること。2) 微分積分の計算は授業をただ聞いているだけでは上達しないので、計算練習をするために各自で自分の読みやすい演習書を選んで学習すること。受講者への注意 I) 第1回の授業の際にシラバスについて説明するので、受講者は必ず出席すること。II) 通常、講義は1時間の授業に対して、2時間の授業外の予習・復習を前提にしています。準備事項で述べたように演習書を用意する等して、各自で工夫して定期試験のための学習を行うこと。</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	電気 (46-)・看護・検査	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	柏木 孝夫				
<p>授業概要 理工系学問の基礎である微分積分学において、二変数関数の微分と積分を理解させ、計算方法を習得させる。</p> <p>授業一般目標 二変数関数の微分積分学の基本的な概念を理解し、計算方法を習得する。偏微分法・二重積分法、合成関数の偏微分法、変数変換による二重積分法など、微分積分学における様々な概念や、手法を理解し、習熟する。さらに、それらの概念の理解のもとに、理系分野における様々な分野の問題を解決できるような応用力を養う。</p> <p>成績評価方法(総合) 原則として定期試験だけで評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：微分積分概論, 高橋泰嗣・加藤幹雄, サイエンス社, 1998年; 取扱店(大学生協)/参考書：微分積分学についての各種演習書</p> <p>メッセージ わからないことは遠慮なく質問すること。適宜演習の時間をもつ。</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 数学

科目類型 総説

開設科目	数学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	工 2 年	単位	2 単位	曜時限	月曜日 11・12 時限
担当教官	西山高弘				
<p>授業概要 数学 I で学んだ 1 変数関数の微分・積分に関する知識を発展させ、多変数、主に 2 変数関数の微分（偏微分）と積分（重積分）について考える。練習問題をなるべく多く解き、理解を深めるとともに応用力を養う。</p> <p>授業一般目標 偏微分や重積分の意味を理解し、実際に自分で計算できるようになること。</p> <p>成績評価方法（総合） 中間テスト：30%、期末テスト：70% 欠席が多い場合は「不可」となる。</p> <p>教科書・参考書 教科書：特に指定しない。</p> <p>メッセージ 授業中の演習では、問題を自ら考えて解き、できなかった箇所は後日に再度解いてみるなど、積極的に授業に参加することが望ましい。</p> <p>教官連絡先 研究室：西研究棟</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 数学

科目類型 総説

開設科目	数学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教官	北本卓也・飯寄信保				
<p>授業概要 高等学校で学んだ微積分学の内容を確実に理解させる。また、応用する能力を確実に定着させる為に、演習をレポート形式で行う。</p> <p>授業一般目標 微積分学の演習が主な内容であり、演習問題が解ける様になるのが目標であるので、レポート問題を毎回出題するので、必ず次週に提出すること。</p> <p>教科書・参考書 教科書：微分と積分、岡本和夫、実教出版、1998 年</p> <p>メッセージ 基礎的な内容であるから、時間をかけて問題を解けば必ず解けるので、あきらめずに挑戦すること</p> <p>教官連絡先 E-mail tadashi@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	数理・物情	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教官	内藤博夫				
<p>授業概要 理工系学問の基礎である微分積分学，特に二変数と三変数関数の微分法と積分法を中心に講義する。</p> <p>授業一般目標 二，三変数微分積分学の基本的概念を理解し，その計算法を習得する。偏微分法・重積分法，合成関数の微分公式，累次積分の公式など，多変数微分積分学における様々な概念や手法を理解し，習熟する。さらに，それらの理解と習熟のもとに，理系分野における様々な問題への数学的解決能力を養う。</p> <p>成績評価方法（総合） 中間・期末 2 回の筆記試験（60%）と 1 回のレポート・宿題（40%）により判定する。なお，出席が所定の回数（初回時に注意）に満たない者には単位を与えない（欠格条件）。</p> <p>教科書・参考書 教科書：入門微分積分，三宅敏恒，培風館，2000 年</p> <p>メッセージ 宿題は原則として毎回あります。地道に取り組むことを期待します。</p> <p>教官連絡先 理学部 137 号室</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	生化・地球	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教官	三好哲彦				
<p>授業概要 多くの自然科学が数学、とくに微分積分学を用いて記述され、それをもとにして現象の理解や工学的な応用が行われている。微分積分学の初歩はほとんどの学生が高校で学んでいるが、それだけでは大学での自然科学や工学を学ぶには不十分である。この授業では高校で学んだ微分積分学の復習から始めて、学部専門授業の要求に耐え得る程度の微分積分学を身に付けることを目標にする。数学 I では微分学に重点を置く。</p> <p>授業一般目標 一変数、多変数の関数の積分について学ぶ。初等関数の積分、置換積分、部分積分のテクニックに習熟する。多変数関数の積分を学び、積分の変数変換の公式が自在に応用できることを目指す。</p> <p>成績評価方法（総合） 主として定期試験により評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：工学・理学を学ぶための微分積分学，三好哲彦・加藤崇雄・菊政勲，共立出版</p> <p>メッセージ（教科書序文より）大学で学ぶ数学は、理解し覚えるべき内容が質、量において高校までの数学とは決定的に異なっている。すなわち、質においては格段と精緻、量においては圧倒的である。… 初学者はこのようなことを十分念頭において勉学に取り組んでほしい。</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	医学 (1-43)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教官	柏木 孝夫				
<p>授業概要 理工系学問の基礎である微分積分学において、一変数関数・二変数関数の積分法を理解させ、計 算方法を習得させる。</p> <p>授業一般目標 一変数関数、二変数関数の積分学の基本的な概念を理解し、計 算方法を習得する。二重積分法、変数変換による二重積分法など、微分積分学における 様々な概念や、手法を理解し、習熟する。さらに、それらの概念の理解のもとに、理系分野における様々な分野の問題を解決できるような応用力を養う。</p> <p>成績評価方法 (総合) 期末試験と講義中に適宜行う問題演習の取り組み状況により、以下の割合で総合的に判 定する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：微分積分学, 三好哲彦・加藤崇雄・菊政勲, 共立出版, 2005 年; 取扱店 (大学生協) / 参考書：微分積分学についての各種演習書</p> <p>メッセージ わからないことは遠慮なく質問すること</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	医学 (44-)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教官	三好 哲彦				
<p>授業概要 多くの自然科学が数学、とくに微分積分学を用いて記述され、それをもとにして現象の 理解や工学的な応用が行われている。微分積分学の初歩はほとんどの学生が高校で学ん でいるが、それだけでは大学での自然科学や工学を学ぶには不十分である。この授業で は高校で学んだ微分積分学の復習から始めて、学部専門授業の要求に耐え得る程度 の微 分積分学を身に付けることを目標にする。数学 I では微分学に重点を置く。</p> <p>授業一般目標 一変数、多変数の関数の積分について学ぶ。初等関数の積分、置換積分、部分積分のテ クニックに習熟する。多変数関数の積分を学び、積分の変数変換の公式が自在に応用で きることを目指す。</p> <p>成績評価方法 (総合) 主として定期試験により評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：工学・理学を学ぶための 微分積分学, 三好哲彦・加藤崇雄・菊政勲, 共立出版</p> <p>メッセージ (教科書序文より) 大学で学ぶ数学は、理解し覚えるべき内容が質、量にお いて高校までの数学とは決定的に異なっている。すなわち、質においては格 段と精緻、量においては圧倒的である。… 初学者はこのようなことを十分念頭において勉学に取り組んでほしい。</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	知能 (1-50)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教官	寿恵村 泰生				
<p>授業概要 自然科学の基礎である微分積分学を講義する。特に工学系の学生は微分積分の知識は必修である。高校である程度、微分積分について学習していると思うが、復習をかねて進める。もちろん1変数の微分積分から始めるが大学の微分積分の本命は2変数関数の微分積分にある。そのためには1変数についての微積分が身につけていなければならない。</p> <p>授業一般目標 とかく、学生は数学と言えば、すぐ問題を解くことが、主題のように考えているが、これも今までの受験数学の勉強方法が身に付いて数学の本来の理解の仕方にもどってほしい。即ち、定義・定理の意味をしっかりと理解してほしい。問題を解くことは二の次である。</p> <p>成績評価方法 (総合) 基本は定期試験、小テスト(1回)レポート、出席状況も考慮する(無断欠席を5回以上すると不可)</p> <p>教科書・参考書 教科書: 独自のプリントで進める(今まで使用していたが、ぴったりしたものが無く、結局プリントになる)/参考書: 参考書を見るのも悪いことではないが、本により進め方が異なり混乱することもある。</p> <p>メッセージ あくまでも授業を理解することに専念してほしい。分からないときは質問する。</p> <p>教官連絡先 非常勤控え室</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	知能 (51-)・機材 (1-30)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教官	吉村浩				
<p>授業概要 自然科学の基礎である微分・積分(多変数)を講義する。前期の数学 I(担当: 吉村浩) で学ぶ1変数の微分・積分の基本事項を前提に講義を進めていく。</p> <p>授業一般目標 微分・積分の厳密な理論の理解より、具体的な計算を通して基本的な概念や計算方法を習得することに重点をおく。</p> <p>成績評価方法 (総合) 小テスト、中間試験、期末試験の得点の合計で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者は欠格となる。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 入門微分積分, 三宅敏恒, 培風館, 2001 年</p> <p>メッセージ 数学は、「講義の受けっぱなし」ではなかなか身につかない学問です。ともかく手を動かして数多くの計算問題を繰り返し解くことが肝要です。</p> <p>教官連絡先 研究室: 理学部 1 階 1 4 3 号室 内線 (5 6 6 2)</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 数学

科目類型 総説

開設科目	数学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	機材 (31-)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教官	宮澤康行				
<p>授業概要 2変数関数の微分、積分およびこれに関連した事項について講義する。</p> <p>授業一般目標 2変数関数の微分、積分に関して、簡単・具体的な計算を通して基礎的な概念を理解する。習得した知識を活用していろいろな計算ができる。</p> <p>成績評価方法(総合) 試験(中間・期末)の成績により判定する。出席は欠格条件として利用する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：前期の数学 I の教科書を引き続き使用する。</p> <p>教官連絡先 理学部 134 号室</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 数学

科目類型 総説

開設科目	数学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	感性	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教官	尼野一夫				
<p>授業概要 理系学生にとって必要不可欠な解析学の初歩である二変数関数の偏微分法、重積分法についてその概念の理解と計算方法を修得させる。</p> <p>授業一般目標 多変数関数特に二変数関数に関する微分積分学の基本的な概念を理解し、偏微分法、重積分法におけるさまざまな手法や応用を身につけ、正確な計算ができる能力を養う。さらに、これらを用いて、理工系各分野でのさまざまな問題を解決できる応用力を養う。</p> <p>成績評価方法(総合) 3回の試験(中間試験と期末試験)を中心として、授業内に適宜行う問題演習の取り組みを加味し、以下の割合で総合的に判定する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：数学 I の教科書を使用する。</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	応化 (1-57)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教官	大城 紀代市				
<p>授業概要 微分積分学は線形代数学とともにすべてのサイエンスの基礎数学であり、特に理工系での必須の数学である。この講義では一変数の積分の定義、基本性質、更には様々な応用について講義する。</p> <p>授業一般目標 1. 積分の基本的概念に精通し、通常関数の積分計算法を習得する。積分の様々な応用に接し、応用力を養う。2. 最終的目標は、与えられた関数の積分を自分で工夫して求めることができる解決能力を養うこと。</p> <p>教科書・参考書 参考書：微分・積分, 岩谷輝生、田中正紀, 学術図書, 1994 年</p> <p>メッセージ 十分時間をかけて復習すること</p> <p>教官連絡先 理学部本館 1 階 1 4 1 号室 E-mail: oshiro@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	数学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	応化 (58-)・社建 (1-25)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教官	重永和男				
<p>授業概要 数学 I で学んだ 1 変数関数の微分・積分に関する知識を発展させ、多変数、主に 2 変数関数の微分 (偏微分) と積分 (重積分) について考える。練習問題をなるべく多く解き、理解を深めるとともに応用力を養う。</p> <p>授業一般目標 偏微分や重積分の意味を理解し、実際に自分で計算できるようになることである。累次積分による重積分の計算ができるようになる。これらをもとに、さまざまな分野の問題解決に役立つよう応用力を養う。</p> <p>成績評価方法 (総合) 2 回の試験 (中間試験と期末試験) とレポートの状況により以下の割合で総合的に判断する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p>教科書・参考書 教科書：入門微分積分学, 小野英夫、山本喜則, アイケイコーポレーション</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 数学

科目類型 総説

開設科目	数学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	社建 (26-)	単位	2 単位	曜時間	金曜日 3・4 時限
担当教官	木内 功				
<p><b>授業概要</b> 理工系学問の基礎である微分積分学において、二変数関数の偏微分と重積分を理解させ、計算方法を習得させる。</p> <p><b>授業一般目標</b> 二変数関数の微分積分学の基本的な概念を理解し、計算方法を習得する。合成関数の微分法、累次積分の公式など、微分積分学における様々な概念や手法を理解し、習熟する。さらに、それらの概念の理解をもとに、理系分野における様々な分野の問題を解決できるような応用力を養う。この科目は以下の社会建設工学科の学習・教育目標に対応します。(A) 確かな基礎力を有する技術者を目指して以下の能力を身につける。A-1 数学、自然科学、情報処理の基礎力</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 原則として定期試験だけで評価する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：微分積分概論, 高橋泰嗣・加藤幹雄, サイエンス社, 1998 年</p> <p><b>メッセージ</b> 毎回授業の終わり 15 ~ 20 分かけて演習問題をとく時間を設ける。その日に習った内容はその日のうちに理解するように努力すること。</p> <p><b>教官連絡先</b> 研究室：理学部本館 139 号室 オフィスアワー：特に設けていない</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 物理学

科目類型 総説

開設科目	物理学 I	区分	講義	開設期	後期
対象学生	前期『物理学入門 1』及び『物理学入門 2』単位修得者 (工除く)	単位	2 単位	曜時間	火曜日 1・2 時限
担当教官	原 哲彦				
<p><b>授業概要</b> 物理学の基礎である古典力学を学びます。中心となる内容は次の 3 つです。(1) 位置、速度、加速度が微分・積分によって互いに結ばれていること。(2) 運動方程式 (微分方程式) を解くことによって物体がどのように運動するかがわかること。(3) 運動量、運動エネルギー、仕事、位置エネルギー、角運動量などの重要な物理量についての法則が運動の 3 法則から自然に導き出せること。</p> <p><b>授業一般目標</b> 運動の記述、運動の法則、基礎的な物理量について、初等的な微分・積分を使って論理的に見通しよく理解することが目標です。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：物理の基礎, 長岡洋介, 東京教学社, 2000 年</p> <p><b>メッセージ</b> 予習・復習をし、練習問題を自分で解く努力をするようにしてください。質問は歓迎します。</p> <p><b>教官連絡先</b> tetuhara@c-able.ne.jp</p> <p><b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 I	区分	講義	開設期	後期
対象学生	前期『物理学入門1』及び『物理学入門2』単位修得者(工)	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教官	中田幸男				
<p>授業概要 物理学の基礎である古典力学(ニュートン力学)を学ぶ。運動の記述, 運動の法則などについて, 微分積分やベクトルなどの数学的手段を活用して, 論理的に見通し良く理解する。また, 日常生活の中の現象や自然現象を古典力学の立場から捉え直す態度を養う。</p> <p>授業一般目標 1) 運動の三法則、およびその使い方を理解する。 2) 等速円運動、放物運動、単振動等の基本的な運動を理解する。 3) 運動量保存則、角運動量保存則、エネルギー保存則、及びその使い方を理解する。 4) 剛体運動の基礎を理解する。</p> <p>成績評価方法(総合) 基本的には、中間試験(30%)及び期末試験(70%)から評価する。ただし、期末試験が上記の評価点を上回る場合には、期末試験のみの評価点で最終評価を与える。中間試験の範囲は、1-6 週目の内容に対する基本問題である。期末試験の範囲は、全体に関連する問題である。基本問題は講義中に取上げた例題および教科書の問、演習問題[A]に相当する。試験には、筆記用具、定規、電卓(メモリ機能のないもの、携帯電話不可)を持参すること。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 改訂版基礎物理学, 原康夫, 学術図書出版社, 1996 年          教官連絡先 e-mail:nakata@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 0836(85)9341          備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	社建	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	松野好雅				
<p>授業概要 電磁気学の基本法則、及びその応用について学ぶ。講義では各法則を身近な具体例をあげながら説明し、種々の電磁現象に対する理解を深める。</p> <p>授業一般目標 1. 電気、磁気に関するガウスの法則、並びにその使い方を理解する。 2. アンペールの法則(電流のつくる磁場)、及びその使い方を理解する。 3. 電磁誘導を理解する。 4. 直流、及び交流回路の基礎を理解する、 5. 交際単位系を理解し、自在に使えるようになる。この科目は以下の社会建設工学科の学習・教育目標に対応します。</p> <p>(A) 確かな基礎力を有する技術者を目指して以下の能力を身に着ける。 A-1 数学、自然科学、情報処理の基礎力</p> <p>成績評価方法(総合) 中間試験、及び学期末試験の2回の試験で総合的に評価する。配点は各50%とする。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 改訂版基礎物理学, 原康夫, 学術図書出版社, 1996 年          メッセージ 予習、復習をきちんとやること。講義ノートをとること。          備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	医学	単位	2 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教官	原純一郎				
<p>授業概要 力学、熱力学と並んで古典的な物理学の基礎を形成する電磁気学の講義を行なう。数学的な準備を多少した後、静的な電場の記述から始まり、定常電流、電流と磁場、さらに進んで動的な電磁場について入門的解説をする。電磁気学は目に見えない「場」を扱う学問なので、初めて習う者には取り付きにくい面がある。この講義では、具体的な例題を数多く取り上げ、それを基本法則から理解する過程を丁寧に説明する。</p> <p>授業一般目標 実験事実を支えられた積分形の電磁気学の法則について学ぶ。簡単な電荷分布が作る電場や電流分布が作る磁場の様子を考察し、様々な電磁現象を基本法則にもとづき解析する力を養う。</p> <p>成績評価方法 (総合) 宿題・授業外レポートを課す。定期試験を実施する。以上と出席の状況とを、およそ下記の割合で評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：教科書は指定しない。 / 参考書：授業のはじめにいくつか紹介する。</p> <p>メッセージ 電磁気学では、微分・積分に加え、ベクトル代数やベクトル解析など数学の基礎知識が必要です。数学 II を履修すると良いでしょう。</p> <p>教官連絡先 理学部 206 室。</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	学教(教科(数・理))・情報・理・看護・検査・生機・獣医	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教官	白石清				
<p>授業概要 物理学の基礎の一つである電磁気学の初歩を講義する。これを理解するために必要な数学知識も適宜講義する。また、出来る限り多くの演習もやりたい。</p> <p>授業一般目標 電磁気学の基礎的な概念(電場、磁場、ポテンシャル)を理解し、さらに専門的な学習につなげる。</p> <p>教科書・参考書 参考書：物理の基礎, 長岡洋介著, 東京教学社, 2000 年; 絶対わかる電磁気学, 白石清, 講談社サイエンティフィク, 2006 年; 物理の基礎, 長岡洋介, 東京教学社, 2000 年 物理学 I の教科書と同じ</p> <p>教官連絡先 理 2 0 5</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	学教(教科(数・理))・情報・理・看護・検査・生機・獣医	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教官	増山 和子				
<p>授業概要 物理学は自然科学の中でも最も基礎的な学問のひとつであり、将来の専攻分野を学ぶ場合に基礎となる物理学を十分に理解しておくことが必要である。前期に「力学」を履修したことを受け、後期ではもう一つの重要な内容である「電磁気学」について、高校で物理を学ばなかった初学者向けに、初等的な事項から出発して具体的な現象と結びつけて説明し、電磁気学の基礎を講義する。</p> <p>授業一般目標 電磁気学は電気及び磁気に関する物理現象を扱っており、現代社会において、テレビ、コンピュータを初めとする電気・電子技術の基礎となるものである。電場、電流、磁場、電磁誘導などの電磁気学の概念を学び、電磁気現象に対する理解を深める。</p> <p>成績評価方法(総合) 数回の課題レポートと試験結果をもとに、以下の割合で総合的に評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p>教科書・参考書 教科書：物理の基礎, 長岡洋介, 東京教学社, 2000 年；前期の物理学 I の教科書を、引き続き使用する。/ 参考書：物理学入門, 原 康夫, 学術図書出版社, 2005 年</p> <p>メッセージ 授業に出席し、演習レポートを確実に解いて提出すること。</p> <p>教官連絡先 メールアドレス: masiyama@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	工 2 年	単位	2 単位	曜時限	水曜日 11・12 時限
担当教官	真田篤志				
<p>授業概要 物理学は現在の物質文明を支える自然科学の基礎となる大変重要な学問である。その中でも「力学」と並び様々な科学技術の基礎となる「電磁気学」について、具体的な現象と結びつけながら基礎知識を修得する。</p> <p>授業一般目標 1. 電磁気学の基本法則(クーロンの法則、ガウスの法則)について説明できる。2. コンデンサの原理を理解し、電気容量を求める事が出来る。3. 電流と磁場の関係を理解し、電流の作る磁場の強さ、および電流が磁場から受ける力の強さを求めることが出来る。4. 電磁誘導の基本原理解について説明することが出来る。5. 交流回路における抵抗(インピーダンス)の概念を理解する。</p> <p>成績評価方法(総合) 出席状況、演習および定期試験の結果をもとに、総合的に評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：改訂版基礎物理学, 原康夫, 学術図書出版社, 1996 年</p> <p>メッセージ 予習・復習を十分に行い、講義内容の理解を深めて下さい。</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	応化	単位	2 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教官	西岡道夫				
<p>授業概要 電磁気学は力学と並んで物理学の中でも最も基礎的な学問である。日常生活で経験する現象には、電磁気学の基礎知識を身につけていけば定性的・定量的に理解できるものも多い。講義では電磁気学の重要な概念・法則を丁寧に説明し、例を多く使って法則および使い方の理解を助ける。式の計算は丁寧に言い、法則・現象に適切なイメージがえがけるようにする。</p> <p>授業一般目標 1) 電場・電気力線を理解し、イメージが描けるようにする。 2) 導体と誘電体の違いを理解する。 3) 電流についてのオームの法則が使えるようにする。 4) 電流と磁場の重要な関係を深く理科いする。 5) 電磁誘導を学び、コイルの役割を理解する。 6) 簡単な交流回路の計算ができるようにする。</p> <p>教科書・参考書 教科書：改訂版基礎物理学, 原康夫, 学術図書出版社, 1996 年 備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	機械	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教官	甲斐綾子				
<p>授業概要 電磁気学は電気及び磁気に関する物理現象を扱っており、現代社会において、テレビ、コンピュータを初めとする電気・電子技術の基礎となるものである。電場、電流、磁場、電磁誘導などの電磁気学の概念を学び、電磁気現象に対する理解を深める。</p> <p>授業一般目標 機械工学の理系基礎および工学基礎分野において、特に物理学（電磁気学の基礎）に関する専門知識、問題解決に応用できる能力を身につけることを目標とする。</p> <p>成績評価方法（総合） 課題レポートと試験結果をもとに、総合的に評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：改訂版基礎物理学, 原康夫, 学術図書出版社, 1996 年；適宜プリント配付 メッセージ 教科書をよく読み、理解を深めるために演習問題を確実に解いて下さい。</p> <p>教官連絡先 kai@yamaguchi-u.ac.jp 備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	電気	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教官	真田篤志				
<p>授業概要 物理学の基礎としての「波動」「光」「熱」について解説する。我々に身近な波動、光、熱に関係した現象の物理学におけるとらえ方を理解するための考え方に重点をおく。また、波動、光、熱に関連したマクロな現象が、原子分子などのミクロな世界にどのようにつながっているかを学ばせる。</p> <p>授業一般目標 波動、光、熱についてのさまざまな現象を理解でき、またマクロな現象とそのもととなるミクロな原子分子の振る舞いととの繋がりを理解できるようなる。確かな基礎力を有する技術者を目指して数学、自然科学、情報処理の基礎力を身につける。</p> <p>成績評価方法(総合) 演習、宿題、定期試験を総合的に評価し、採点する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：基礎物理学－波動、光、熱、嶋村修二、荻原千聡、朝倉書店、2002 年</p> <p>教官連絡先 as@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：工学部応化・知情・機能・共通実験研究棟 2 階</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	知能	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教官	庄野逸				
<p>授業概要 力学に続いて電磁気学の講義を行う。古典的なクーロン力から出発し電場、磁場などの場に関する講義を中心に行う。</p> <p>授業一般目標 電場や磁場などは目に見えないが、どのような相互作用を持つかを定性的に説明し、定量的な式を理解できるようになることを目標とする。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験による評価(90%)、授業内小テスト(10%)とする。出席は欠格条件とする。</p> <p>教科書・参考書 教科書：特に指定はしない(講義内容は事前にプリント配布)/参考書：ファインマン物理学 III, ファインマン、レイトン、サンズ、岩波書店、1986 年；電磁気学の考え方、砂川重信、岩波書店、2001 年；電磁気学演習 [新訂版]、山村泰道、北川盈雄、サイエンス社、2004 年</p> <p>メッセージ 力学と異なり電磁気学は、直感的にわかりにくいといわれる学問である。頭の中にあるイメージを明確に記述できるように練習してほしい。</p> <p>教官連絡先 講義の資料は以下 URL 参照 <a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/nakahide/moodle/">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/nakahide/moodle/</a> 質問に関しては上記フォーラム、もしくは以下のメールでも受け付けます。 E-Mail: shouno@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	機材	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教官	諸橋信一				
<p>授業概要 前期の「力学」と同じく、物理学の基礎であるとともに、将来の専門分野を学ぶ際に重要となる電磁気学について説明する。</p> <p>授業一般目標 (D1) 様々な材料を作製・評価するために必要な、物理学の基礎学力を育成する。</p> <p>成績評価方法(総合) 期末試験 80%, 課題レポート 20% で評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 物理学基礎, 原 康夫, 学術図書出版社, 2004 年; 補完のためにプリントも適宜配布する。内容にあわせて、理解に必要な数学(ベクトル等)は補講という形で講義する。/ 参考書: マグロウヒル大学演習電磁気学, Joseph A. Edminister, オーム社, 2003 年; 科学者と技術者のための物理学, 松村博之 訳, 学術図書出版, 1995 年; 物理学入門, 楠川 他, 実教出版, 2002 年; やさしい基礎物理, 潮 他, 森北出版, 2005 年</p> <p>メッセージ 予習, 復習をきっちりやっているとを前提に講義します。</p> <p>教官連絡先 E-MAIL smoro@yamaguchi-u.ac.jp TEL 9610 不在および先約ないかぎり可。但し, 研究室は宇部のほうです。</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	物理学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	感性	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教官	三池秀敏				
<p>授業概要 自然科学を理解する上で物理学は基礎学問として位置付けられる。前期の物理学 I(力学)に引き続き身の回りの自然現象を科学的に理解する物の考え方を学ぶ。ここでは、熱物理学(統計物理学)の考え方をベースに、孤立系、閉じた系、および開放系という概念を理解し、その中で生じるさまざまな現象、物理状態、観測できる物理量などを議論する。</p> <p>授業一般目標 二つの状態を持つ単純な系としてモデルスピ系を取り上げ、状態数の具体的な計算、状態和、自由エネルギー、比熱、エントロピーなどの概念を学ぶ。また、熱的に平衡な系と非平衡な系を取り上げ支配する統計原理の違いを例示する。この事から、地球が宇宙という環境の中でどのような物理状態にあるかを理解させる。さらに、入力と出力の関係が線形であるか、非線形であるかによって系の振る舞いが非常に異なる事を示し、非線形な系が自発的な振動や空間パターンの形成に重要である事(自己組織化)を理解させる。</p> <p>成績評価方法(総合) 中間試験と期末試験を基本とする。演習問題等の課題は出席点として 20% 評価する</p> <p>教科書・参考書 教科書: プリント配布 / 参考書: 非線形科学, 吉川研一, 学会出版センター, 1992 年; 熱物理学, キッテル, 丸善, 1971 年; 現代熱力学, プリゴジン、コンデブディ, 朝倉書店, 2001 年</p> <p>メッセージ 毎回必ず出席すること。出席調査の目的で毎回小テストを行います。</p> <p>教官連絡先 E-mail miike@kde.yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 0836 85 9712, オフィスアワー 17:00-18:30</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 化学

科目類型 総説

開設科目	化学 I	区分	講義	開設期	後期
対象学生	前期『化学入門1』及び『化学入門2』単位修得者	単位	2 単位	曜時限	月曜日 9・10 時限
担当教官	松 浩司				
<p>授業概要 モルの概念、原子の構造、電子配置、化学結合、分子の形、化学平衡、酸・塩基、酸化・還元など物理化学の初歩の内容である。高校での化学や化学入門1とのつながりに注意を払い、専門科目に必要な基本的事項について講述する。配布演習問題や小テストなどを通じて、自学を促しながら進める。</p> <p>授業一般目標 無機化学や物理化学の基礎を習熟し、実際の身の回りの現象を化学的(科学的)に説明できることを目標とする。また専門科目への橋渡しとしての必要な概念も習得させる。</p> <p>成績評価方法(総合) 期末試験と出席状況で総合評価する。毎回小テストを行うが、これは講義内容の理解度を把握するとともに、学生への自学を促すものである。よって評価の対象とはしないが、出席状況の判断に用いる。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 大学生の化学(第2版), 大野惇吉, 三共出版, 2005年; (文栄堂大学前店で販売)/ 参考書: 物質化学の基礎, 多賀光彦・中村 博・吉田 登, 三共出版, 1993年; 化学の基礎, 竹内敬人, 岩波書店, 1996年; 化学が見えてくる, 岩本悦郎、江頭直義、柿並孝明、日色和夫、三苦好治, 三共出版, 2005年; 演習問題を配布する。</p> <p>メッセージ 化学は理科系のの学生にとっては専門科目の基礎として重要な科目であり、高校での履修及び化学入門から専門科目への橋渡しの役割をしています。よって、単なる暗記ではなく、内容をよく理解し物の本質が見抜けるような態度で取り組んでもらいたい。</p> <p>教官連絡先 ko-matsu@c-able.ne.jp</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 化学

科目類型 総説

開設科目	化学 I	区分	講義	開設期	後期
対象学生	看護・検査	単位	2 単位	曜時限	水曜日 9・10 時限
担当教官	田中経彦				
<p>授業概要 保健学科検査技術専攻学生を対象に、医療検査、基礎研究で骨格となる分析化学の原理、技術を学習する。レポート提出の形で演習する。以後の化学系教科書を読解できる基盤知識(教科書の記述に疑問が見出せるレベル)と専門での分析系実習に必要な基礎知識を与える。数学、物理の公式原理についても確認しながら説明していく。また金曜日に行われる化学実習(検査は必修)の到達度を高めるため適宜解説する。原則的にパソコンスライドで説明し、プリントを配布する。</p> <p>授業一般目標 検査技術専攻学生に必要な基礎化学知識の理解。基本的な大学の化学(有機化学を除く)は下に挙げた参考書を読めば、カバーできる。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験と小テストの点数による</p> <p>教科書・参考書 教科書: 教科書 参考資料 教科書: 分析化学新訂版 綿抜邦彦著 サイエンス社 1500 円</p> <p>メッセージ 検査を対象にします。</p> <p>教官連絡先 <a href="http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/tatehiko/po-login/index.html">http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/tatehiko/po-login/index.html</a> ここから質問とその回答を掲載したページへ行けるようにします。授業の終わりに質問を受け付けるつもりですが、不足であれば金曜日の昼休みに後日連絡する教室に質問受付のためにいます。メール連絡先: tatehiko@yamaguchi-u.ac.jp 0 8 3 6 - 2 2 - 2 8 5 7</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	化学 I	区分	講義	開設期	後期
対象学生	前期『化学入門1』及び『化学入門2』単位修得者	単位	2 単位	曜時限	木曜日 9・10 時限
担当教官	村上清文				
<p>授業概要 化学入門の履修者を対象に、化学および種々の化学現象をより深く理解するための、基礎的な内容を講義する。内容としては、物質の構造と性質、物質の状態、エネルギーと平衡を中心とする。特に、あらゆる発展領域にとって重要な化学平衡概念を具体的事例を交えて講義する。</p> <p>授業一般目標 物質の性質やその変化を物理化学的な観点から理解すること、および、より発展的な学習への導入を図ることを目標とする。基本的概念の把握に力点をおく。</p> <p>成績評価方法 (総合) 出席、中間テストおよび期末試験の結果、および、1 回または 2 回のレポートを総合して評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 『基礎化学熱力学』, E.B.Smith, 化学同人, 1992 年 / 参考書: 適宜、プリント等を配布する。</p> <p>メッセージ 段階的な理解が必要な内容なので、普段からの勉強が重要です。</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	化学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	知能	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	梶原忠彦				
<p>授業概要 有機化学の基礎を修得するために、まず最小限の基礎原理を説明する。次に、それにもとづいて各種の有機反応を理解することによって、有機化学の基礎を確かなものにする。</p> <p>授業一般目標 有機化合物の結合や構造および反応を電子、分子軌道、立体化学などのごく限られた基礎原理から理解することによって、有機化学の基礎を系統的に身につける。</p> <p>成績評価方法 (総合) (1) ショートテスト (毎回実施) およびレポート。(2) 中間テストの実施および演習。(3) 期末試験の実施。なお、出席が所定の回数に満たない者には、単位を与えない。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 教科書 教科書 テキストは、使用しない。講義、演習は、プリントおよびプロジェクターで行う。 / 参考書: 適当な参考書は 講義の中で、適宜紹介する。</p> <p>教官連絡先 E-mail: kajiwara@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	化学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	機材	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	伊原 靖二				
<p>授業概要 (1) 有機化学の基礎: 有機化学の歴史及び有機化合物の特徴を学び、有機化学の基礎概念を理解する。  (2) 有機化合物の性質: 有機化合物を炭素、酸素、窒素系列に分類し、その分子の性質、合成方法、反応について学ぶ。  (3) 有機化合物の応用: 天然有機化合物、合成高分子化合物、最近の環境化学について学び、身近で利用されている有機化合物の理解を深める。</p> <p>授業一般目標 この化学 II においては有機化学を中心に学ぶ。有機化合物は生体をはじめとして地球上に広く分布している。有機化合物を概念的に把握した上で、その分子構造及び性質にふれ、その後さらに分子レベルでの考察を行う。有機化学を通して物質の多様性と理論のすばらしさ、物質科学のおもしろさを学んでほしい。</p> <p>成績評価方法 (総合) (1) 授業の終わりに、10 回程度講義の理解度の判定のため、小テストを行う。(2) 期末試験の実施、(3) 出席点の重視、以上を下記の観点・割合で成績を総合的に判定する。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 有機化学 (ニューテック・化学シリーズ), 竹中克彦 [ほか] 著, 朝倉書店, 2000 年; ニューテック 化学シリーズ 有機化学 竹中克彦 他 朝倉書店 (生協)</p> <p>メッセージ 再試験は実施しませんので、きちんと試験の準備をしてください。</p> <p>教官連絡先 ihara@yamaguchi-pu.ac.jp</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	化学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	感性	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	選考中				
備考 工学部 JABEE 対応科目					

開設科目	化学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	生機・獣医	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	赤壁 善彦				
<p>授業概要 有機化学の基礎的な概念を述べ、化合物を官能基で分類して例を挙げながら構造，反応機構を説明する。</p> <p>授業一般目標 有機化学が、生命現象や生活環境に大きく関わりを持っていることを理解し、またそれらは全て化学反応の組み合わせであることを理解する。</p> <p>成績評価方法(総合) 試験および毎回の小テストによって評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：毎回、資料を配付する。</p> <p>教官連絡先 農学部本館 412 室 オフィスアワー：1 3 時 - 1 7 時</p>					

開設科目	化学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	応化	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教官	堤 宏守				
<p>授業概要 有機化学の基礎を体系づけて学ぶコースです。この授業ではアルカンから始まり、コンホメーション・光学異性・立体異性・求核置換反応・脱離反応などの有機化学のもっとも基礎的な範囲について学習します。また、3次元的な分子構造の理解を助けるために、分子模型を積極的な利用も行います。</p> <p>授業一般目標 コース終了時には、修了者は 1．アルカンやシクロアルカンのコンホメーションに対する正しい理解と評価が得られ、 2．光学異性体や立体異性体について、その存在と命名および3次元的な構造把握ができ 3．求核置換反応と脱離反応について反応様式とその特性を理解していることを目標とします。さらに、 4．これらの知識を利用して初歩的な有機反応に関する議論ができることで、この後の専門科目である有機化学 I に対してスムーズに橋渡しできる、ことも期待されます</p> <p>教科書・参考書 教科書：「現代有機化学(上)第4版」, ボルハルト・ショアー, 化学同人, 2004 年; 教科書のほかに HGS 分子構造模型 ・ C : 有機化学学生実習用セット, 丸善 も必須です。また授業用のプリントも配布します</p> <p>メッセージ 有機化学はそれほど難しいものではありませんが、英語などの語学の勉強とよくにしています。毎日少しずつ継続的に勉強してください。</p>					

開設科目	化学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	社建	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教官	中野 昭夫				
<p>授業概要 有機分子の構造、有機化学反応の基礎を最初に講義する。次に生命体を構成する生体物質や環境に影響を及ぼす有機分子等について学んで行く。</p> <p>授業一般目標 学問の進歩に伴い、科学の全ての分野で分子レベルでの説明が進みつつある。本講義は、有機化合物の分子構造及び有機化学反応の基礎を学ぶことにより、身の回りのさまざまな現象を分子レベルで理解して戴くことを第一の目標とする。</p> <p>成績評価方法 (総合) 期末試験の結果 (理解度) を最重要項目とするが、関心度 (毎回の小テスト、レポート) と出席状況も評価に加える。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 生活の基礎化学 増補訂正, 神谷功著者代表, 東京教学社, 2000 年 / 参考書: 図表で学ぶ化学, "大城芳樹, 平嶋恒亮著", 化学同人, 1999 年</p> <p>メッセージ 出席を重視します。最終授業でノートチェックを行います。期末試験にノート、テキスト持ち込み可とします。</p> <p>教官連絡先 Email:a-nakano@toua-u.ac.jp</p>					

開設科目	化学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	工 2 年	単位	2 単位	曜時限	木曜日 11・12 時限
担当教官	大石 勉				
<p>授業概要 現代社会の中で多くの化学物質とりわけ有機化合物が生活や先端技術を支える材料として広く用いられているだけでなく、新たな機能を求めて今なお新たに創出されています。この有機化合物を支配している原理としての「有機化学」を学ぶことにより、ただ単に有機物質の製造だけでなく生命科学、生活科学や環境科学との関わりを理解させ、化学工業が社会の中で果たしている役割の一端を示したいと考えています。</p> <p>授業一般目標 高等学校で学ぶ「化学」は物理化学、無機化学、分析化学および有機化学をまとめたものでした。その中で「有機化学」は教科書の後半部に配置されており、多くの学生諸君にとってはただ覚えるだけ (もちろん理解したうえで) の課題であったかも知れません。本講義では有機化学の基礎的概念や有機反応の面白さを学ぶことにより、「覚えるだけの有機化学」を「その面白さを楽しむ有機化学」に変換させることを目標としています。</p> <p>成績評価方法 (総合) ミニテスト、中間試験および期末試験結果と出席状況により総合的に判定する。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 大学生の有機化学, 大野惇吉, 三共出版, 2002 年 / 参考書: はじめて学ぶ大学の有機化学, 深沢義正・笛吹修治, 化学同人, 2001 年</p> <p>教官連絡先 oishi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 応用化学工学科 (工学部本館北側 2 階 246 号室) オフィス アワー: 水曜日 17:30 ~ 19:00</p>					

開設科目	化学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	学教(教科(理))・情報・数理・物情・地球・生資	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教官	石黒勝也				
<p>授業概要 有機系化学(有機化学、生化学、高分子化学、薬理学等に関する分野)の基礎を理解する。近年、多様な分野で「ナノ」が重要なキーワードとなっているように、大学で自然科学を学ぶ学生は、たとえ化学を専門としない立場であっても、近い将来、分子スケールで機能する素子について理解できる能力が必ず必要とされる。この講義では、有機化学の基礎となる分子の性質や化学反応性について、原理的な面を主に学習する。</p> <p>授業一般目標 基本的な原理を理解することにより、分子の構造や化学反応について、暗記するのではなく、考えて判断できる力を養ってほしい。</p> <p>成績評価方法(総合) 中間試験、期末試験、レポート、出席、小テストなどにより総合的に評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：講義・演習等は全てプロジェクトを用いて行い、また、プリントを配布する。資料等は Web 上で公開する。化学式の作成及び分子構造の描写等にコンピュータを使用するため、ノート型 PC を持参すること。/ 参考書：はじめて学ぶ大学の有機化学, 深沢義正・笛吹修治, 化学同人, 2001 年</p> <p>メッセージ 積極的な取り組みを期待します。</p> <p>教官連絡先 E-mail kagaku2@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 5727, 研究室 総合研究棟 208 室, オフィスアワー 木曜日 17:00 ~ 18:30</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	化学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	機械	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教官	右田耕人				
<p>授業概要 有機化合物を立体化学と酸塩基の 2 つの面から解説し、主要な有機化学反応を立体化学的な説明を行う。</p> <p>授業一般目標 有機立体化学における基礎概念を理解し、有機分子の構造の多様性について理解を深める。次に、有機化合物の酸・塩基の強さを有機電子論によって理解する。更に、典型的な有機化学反応の機構について学ぶ。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験により知識・理解目標などの到達度を評価するが、講義の中で行う小テストで段階での到達度を確認し、宿題によって内容の理解を補強する。出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p>教科書・参考書 教科書：有機化学のしくみ, 加藤明良, 鍋島達弥, 三共出版, 2001 年</p> <p>メッセージ 有機化学の楽しさを味わい、有機化学の能力をつけて欲しい。</p> <p>教官連絡先 総合研究棟 208 号室(電話 083-933-5733) migita@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：金曜日 17:00 ~ 18:30</p>					

開設科目	化学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	電気	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教官	選考中				
<p><b>授業概要</b> 多種多様な有機化合物の構造、性質や反応が、どのような考え方に基づいて体系的に理解されているのかを、構造論と反応論を中心に、なるべく身近な有機化合物を例にして説明する。各回の講義内容は、教科書の順序にしたがって下記のようにする予定である。また、一方通行になりがちな講義を補い、受講者の理解を深めるため、毎回演習問題を課し、次の週の火曜日午後5時までに解答の提出を求める。質問や感想、希望なども、この解答用紙に記入しておけば、できるだけ個別に回答する。次回の最初に、提出された答案を返却し、演習問題の略解を配布して必要な説明を加える。</p> <p><b>授業一般目標</b> 有機化合物の構造・性質・変化について、基本的な理解を深める。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 中間試験 (30 点満点) 期末試験 (50 点満点) 平常点 (毎回の演習問題への取り組みと出席状況) を総合して評価する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: 有機化学 (改訂版), 小林啓二, 裳華房, 1997 年; 山口大学生協ブックセンターにて販売 メッセージ わかりにくいところは放置せずに、研究室へ質問に来てください。</p>					

開設科目	化学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	医学	単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6 時限
担当教官	梶原忠彦				
<p><b>授業概要</b> 有機化学の基礎を修得するために、まず最小限の基礎原理を説明する。次に、それにもとづいて各種の有機反応を理解することによって、有機化学の基礎を確かなものにする。</p> <p><b>授業一般目標</b> 有機化合物の結合や構造および反応を電子、分子軌道、立体化学などのごく限られた基礎原理から理解することによって、有機化学の基礎を系統的に身につける。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> (1) ショートテスト (毎回実施) およびレポート。(2) 中間テストの実施および演習。(3) 期末試験の実施。なお、出席が所定の回数に満たない者には、単位を与えない。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: 教科書 テキストは、使用しない。講義、演習は、プリントおよびプロジェクターで行う。 参考書 講義の中で、適宜紹介する。/ 参考書: 適当な参考書は 講義の中で、適宜紹介する。</p> <p><b>教官連絡先</b> E-mail: kajiwara@yamaguchi-u.ac.jp <b>備考</b> 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	生物学 I	区分	講義	開設期	後期
対象学生	学教(教科(理))・情報・理	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	祐村恵彦				
<p>授業概要 現代生物学では、分子から生物を理解しようとしている。そのため生物を構成する分子を理解することは生物学を学ぶ上で必須であるといえる。社会問題となっている、エイズ、SARS、狂牛病、鳥インフルエンザについても分子レベルの知識が必要になる。この授業では生物を構成する分子をその構造から理解する。</p> <p>授業一般目標 生物を分子の高次な集合体としてとらえ、生物を構成する分子を構造から理解する。</p> <p>成績評価方法(総合) 小テスト、レポートを重視する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：いきものからくり、中村和行・高橋進、培風館；生化学入門、相原英孝、東京教学社</p> <p>メッセージ 分からないままにしないで、ぜひ質問してください。</p> <p>教官連絡先 総合研究棟 401 オフィスアワー月曜 12:00-13:00</p>					

開設科目	生物学 I	区分	講義	開設期	後期
対象学生	獣医	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	山本芳実				
<p>授業概要 本講義は、連続して開講される生物学 II とともに基礎的生物学を提供するものである。生物学 I では特に、生命の基本原理解、生物進化のしくみ、生物の多様性を中心に学ぶ。</p> <p>授業一般目標 地球上における生物による物質変換の概略を理解し、地球環境における生物の重要性を認識する。生物のメカニズムに精巧さに触れ、それに驚きを感じることで、生命に対する探究心を養う。生物進化の過程、現存する生物の多様性について認識を新たにし、同時にこの多様な生物が驚くべき共通性をもっていることを理解する。</p> <p>成績評価方法(総合) 各自最低 1 回の発表が義務付けられる。発表者は、同時に担当分野のレポートを提出する事。定期試験は行わないが、出席、および討論への参加は必須条件である。</p> <p>教科書・参考書 参考書：生きものからくり(改訂版)、中村・裕村・山本編、培風館、2006 年</p> <p>メッセージ 本講義は、知識の吸収とともに、プレゼンテーション能力を高めることを目的としている。</p> <p>教官連絡先 農学部獣医放射線学講座(生化学研究室)農学部 209 号室 Tel &amp; Fax: 083-933-5909 E-mail : yamataka@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：いつでも</p>					

開設科目	生物学 I	区分	講義	開設期	後期
対象学生	生資	単位	2 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教官	高橋肇				
<p><b>授業概要</b> 本講義では、生物が「生き物」としてもつ基本的特性を学び、生命現象や生物に関する理解や知識を深めることで、生命の本質を探る基礎を身につけることを目的とする。生物は、細胞を単位とし、代謝によって必要な物質やエネルギーを得て生きている。生物は、生殖によってふえ、親の形質が遺伝子によって子に伝えられる。さらに生物は、刺激に反応してからだの状態や働きを調節し、集団をつくって生活している。このような生物のもつ共通の特性を柱として生物学を学んでいく。</p> <p><b>授業一般目標</b> 高校で学習する生物学から始めて、専門教育へスムーズに移行できるだけの学力をつける。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 前週までの講義内容を習得したかどうかを確認しながら、講義をすすめていく。このため、毎週、講義開始から 15 分間の小テスト (7 点満点) を行い、これらと期末テストとの総合計点 (100 点満点) により成績を評価する。欠席・0 点以外の答案には再提出により修正箇所に対して配点の 1/2 の得点を与える。なお、小テストですべてを誤答して 0 点となった場合、あるいは欠席または遅刻により受験せずに 0 点となった場合は、レポートを提出することで小テストの満点 7 点の 1/2 の 3.5 点を与える。</p> <p><b>メッセージ</b> 小テストは、前週の講義内容から出題する。講義時間中にヒントを与える。再提出の解答方法・0 点 (欠席) に対するレポート作成方法 間違った設問についても、正しく修正されれば各回のテストが完全に修正された段階で減点された分の半分の得点を与える。解答は答案の裏面に行うこととし、記述問題では自身で横 20 文字のマス目を作成して、穴埋め問題では単語を書き込む枠と番号を作成して、その中に正解を書き込むこと。なお、再々提出は、別紙に正解・不正解に関わらずその回の小テストの問題文、解答文を含めたすべてをまるごと記述して提出する。小テストで 0 点となった場合、あるいは授業に欠席または遅刻して小テストを受験できなかった場合、レポートを作成して提出することで満点の 1/2 の得点を与える。レポートはその小テストの対象となる授業で配布されたプリントに書かれてあることすべて (図表等も含めて) を A4 の用紙に手書きにて書き写したものとす。すべてが正しく記載されていることを確認した後、得点を与える。</p> <p><b>教官連絡先</b> 連絡先: tadashit@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー 月～金曜日 7:00～8:00 月・火・木・金曜日 12:00～12:30</p>					

開設科目	生物学 I	区分	講義	開設期	後期
対象学生	生機	単位	2 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教官	滝本晃一				
<p><b>授業概要</b> 生命を形作っている物質、細胞の構造、タンパク、脂質、糖などの生体成分の基本的事項、細胞増殖、遺伝現象、DNA の構成成分、構造、遺伝における役割、遺伝子の複製、遺伝情報の取り出し、遺伝子操作技術などの基礎的事柄について概説する。予習や復習に役立つ本として特に特定のもの是指定しませんが、図書館にある本はどれも役に立つと思います。</p> <p><b>授業一般目標</b> 生物全般にわたっての基礎的理解をめざす。そのために、生命の構造やそれを構成している成分を知り、さらに生命の継続として遺伝及び遺伝物質を十分理解する。その上でそれらの知識や理解が生物機能科学科の専門科目を学ぶ上での基礎となることを目指す。遺伝現象は生命の基本であるので、DNA や遺伝子について比較的多くの時間を割く予定である。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 授業の範囲内で重要なところについて期末試験 (筆記) をします。理解の期間中に小テストをして断片的に覚えるのではなく、それぞれを関連づけて有機的に理解するようにつとめて下さい。記述を求める問題も出題します。</p> <p><b>メッセージ</b> スクリーンに文章や絵を投射して講義を進めるので、特に視力に問題がある人は前の方に座ること。マナーを守ること。授業中ケイタイの着信音が鳴らないようにしておく。授業中飲み食いしない。授業中出入りしない。遅刻しない。適宜プリントを配付するが、口頭での説明や映写図の要点をメモするよう。</p> <p><b>教官連絡先</b> 研究室 農 404, オフィスアワー 随時</p>					

開設科目	生物学 I	区分	講義	開設期	後期
対象学生	看護	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	梅田昭子				
<p><b>授業概要</b> 細胞、特に動物細胞の構造と機能を理解し、細胞はどのように生命を維持し増殖していくのかを解説する。また、動物は個々の細胞が分化して組織・臓器を形成すること、その過程は卵の分割からどの時期に行われるのか等について解説する。さらに各細胞に存在する染色体と遺伝子について理解し、遺伝の原理をメンデルの法則からヒトの遺伝子病までを理解できるよう講義するつもりである。</p> <p><b>授業一般目標</b> 各組織や臓器を形成している細胞の構造と機能を学び、発生時の細胞の分化について理解する。また、染色体と遺伝子、遺伝、遺伝子型と表現型、遺伝子発現の機構、ヒトにおける遺伝子病および遺伝子診断について理解を深めることを目的とする。</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 授業中に行う理解度を判定するための小テストおよび期末テスト、また適宜こちらから出した課題に対するレポートにより総合評価を行う。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：〈基礎固め〉生物 村松瑛子、安田正秀著 化学同人発行 ISBN4-7598-0896-5  <b>メッセージ</b> 予習と復習をよくおこなってください。</p>					

開設科目	生物学 I	区分	講義	開設期	後期
対象学生	工 2 年	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	村瀬ひろみ				
<p><b>授業概要</b> この講義では、生物学の基本を学ぶ。生物の体の仕組みや、生態系、進化について幅広くフォローする予定である。生物学は現代社会との関わりも深く、ニュースなどの話題となっている技術（クローンなど）についてもとりあげる。</p> <p><b>授業一般目標</b> 生物学の基礎がわかり、生物学に関連した先端技術についても、新聞、ニュースなどを見て理解できることを目標とする。</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 試験によります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：プリント配布。授業中に指示。 / 参考書：進化論という考え方、佐倉統、講談社現代新書、2002年；新しい生物学の教科書、池田清彦、新潮社、2001年；サル学の現在（上）（下）、立花隆、文春文庫、1996年；授業中に、他の参考文献について指示します。</p> <p><b>メッセージ</b> 積極的な参加を期待します。</p>					

開設科目	生物学 I	区分	講義	開設期	後期
対象学生	医学	単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教官	澤田知夫 他				
<p>授業概要 医学生のための生物学という観点から、専門で学ぶ解剖学・生理学・生化学の学問への導入を行うことで、ヒトの生命を維持するしくみを総合的に理解する。</p> <p>授業一般目標 ヒトの生命を維持するしくみを理解するために、器官や細胞の構成とその機能と調節、生殖と発生、さらに遺伝現象を学ぶ。</p> <p>成績評価方法 (総合) 最終試験 = 80 % 授業態度 = 20 % 出席が満たない、あるいは授業態度がきわめて不良な場合には、最終試験の受験できない。毎回、印象に残ったことを A5 用紙にまとめて出席と認める</p> <p>教科書・参考書 教科書: Essential 細胞生物学, 中村佳子・松原謙一 監訳, 南江堂, 2005 年; 指定された教科書・参考書は、専門科目においても教科書・参考書として使用される。/ 参考書: ギャノン生理学, 星猛 他訳, 丸善, 2004 年 教官連絡先 電子メール: 澤田知夫: roretzi@yamaguchi-u.ac.jp 中井 彰: anakai@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	生物学 I	区分	講義	開設期	後期
対象学生	検査	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教官	渡部省二				
<p>授業概要 本講義では生物の基本単位である細胞に焦点をあてて、その構造と機能について解説する。同時に開講されている「生化学」と密接に関連させて講義を進めるが、「生物学 I」では分子レベルのことにはあまり深くは立ち入らないで、「細胞レベル」に重きを置く。基本的には生化学、分子生物学の十分な知識がなくても、理解できるような内容にするように努めるつもりである。教科書は分子細胞生物学をひろく解説した本であるが、本講義では主に、その第 11 章以降を説明する。真核生物の細胞の構造を理解し、オルガネラの機能、タンパク質のソーティング、ホルモンの情報伝達、細胞分裂等の細胞の機能について基本的理解を得る。</p> <p>授業一般目標 *生物のメカニズムの精巧さに触れ、それに驚きを感じることで、生命に対する探究心を養う。*生物の細小単位である細胞を中心に、構成分子について物理や化学の視点を踏まえて生命への理解を深める。*真核生物の細胞の構造を理解し、オルガネラの機能、タンパク質のソーティング、ホルモンの情報伝達、細胞分裂等の細胞の機能について基本的理解を得る。</p> <p>成績評価方法 (総合) 2 回の中間試験および期末試験を行う。3 回の試験の比重は等しい。</p> <p>教科書・参考書 教科書: Essential 細胞生物学, B. Alberts 他, 南江堂, 1999 年</p> <p>メッセージ 講義の資料はホームページに掲載されているので参照すること。URL は、<a href="http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/shwatabe/po-login/menus/biology.htm">http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/shwatabe/po-login/menus/biology.htm</a> わからないことをわからないままにしておかず、すぐに質問すること。メールによる質問も可。</p> <p>教官連絡先 shwatabe@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 自然科学

分野 生物学

科目類型 総説

開設科目	生物学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	看護・検査	単位	2 単位	曜時間	月曜日 1・2 時限
担当教官	渡辺雅夫				
<p>授業概要 生理学、行動学、生態学分野のさまざまなレベルで見られる生物現象を解説する。種々の調節が行われる場での情報のあり方を考えていく。</p> <p>授業一般目標 生物のメカニズムの精巧さに触れ、それに驚きを感じることで、生命に対する探究心を養う。生物の多様性について認識を新たにし、同時にこの多様な生物が驚くべき共通性をもっていることを理解する。地球上における生物による物質変換の概略を理解し、地球環境における生物の重要性を認識する。</p> <p>成績評価方法 (総合) 授業内小テストを 2 回行い、宿題レポート課題を提示する。中間、期末の 2 回試験を行う。これらを下記の割合で、総合評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：資料プリントを配付する予定である。/ 参考書：授業中に提示する。</p> <p>教官連絡先 研究室：理学部 3 号館 113 号室 (内線 5767) オフィスアワー：月曜日 14:30 ~ 16:00</p>					

系列 自然科学

分野 生物学

科目類型 総説

開設科目	生物学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	医学	単位	2 単位	曜時間	火曜日 7・8 時限
担当教官	安溪貴子				
<p>授業概要 私たちが会おう生き物を、測定機器や電子顕微鏡ごしではなく、自分の五感をつかって 直接観察し、研究する。そんなマクロの生物学がもつ魅力を伝えたい。ア)研究方法 の特色、イ)生物の多様な生活の面白さと不思議、ウ)個体群、群落・群集、社会、生態系、生物多様性など、地球生命系全体に共通するとらえ方。エ)地球の生命がかくも多様である事実の意味を問い、いのちあるものの一員としての「わたし」の果たすべき 役割を考える。</p> <p>授業一般目標 いのちあふれる奇跡の星 = 地球に展開する生命とその死の不思議について学ぶ。そして、その現状をふまえ、生命の歴史、ヒトと自然とのかかわりの歴史にも視野をひろげ、未来についてもともに考える。</p> <p>成績評価方法 (総合) 毎回の小レポートと最後にするテストで採点</p> <p>教科書・参考書 教科書：教科書は使いません。講義中にプリントを配布します。参考書などもその時 紹介します。</p> <p>メッセージ 戸外に出たり、生き物そのものに触れたりする時間をもちます。その機会を できるだけ楽しみながら、「いのち」への感性を育ててください。</p> <p>教官連絡先 ankei@fis.ypu.jp</p>					

開設科目	生物学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	学教(教科(理))・情報・理	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教官	松村澄子				
<p>授業概要 生物はこの地球上で 20 億年以上をかけ、多くの種類に進化した。多様な生物の進化の道筋(系統)や、からだの作りの特徴、分類の基本について学ぶ。また後半では多様な生物が共に生きるしくみについて学ぶ。</p> <p>授業一般目標 1. 学名や分類の基本を理解する。2. 多様な動物を体制を元にして比較する力を身につける。3. 脊椎動物からヒトまでの進化の筋道を理解する。3. ヒトの自然界における位置について考察する。4. 生物多様性の意義を理解する。</p> <p>成績評価方法(総合) (1) 授業中に小テストを 10 回程度行なう。(2) 2~3 回重要な課題について宿題レポートを課す。字数や様式はそのつど指示する。(3) 中間、期末と 2 回の試験を実施する。以上を下記の観点、割合で評価する。なお小テストは、各時間内に設問を課し提出させるので、出席状況の確認も兼ねる。またテスト範囲は前半、後半に分割して行なうので、それぞれにおいて出席が所定の回数に満たないものには、単位を与えない。成績評価方法</p> <p>知識・理解 思考・判断 関心・意欲 態度 技能・表現 評価割合 定期試験  70% 小テスト/レポート  30% 合計 100%</p> <p>教科書・参考書 参考書: 教養の生物学, 越田豊, 培風館, 1988 年  メッセージ 遅刻者への寛容な対応は行なわない。生物学の基礎知識が十分でない人も講義は内容を反復復習しながら進めるので、まじめな履修を心がけて欲しい。  教官連絡先 E-Mail: batmatsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話: 9 3 3 - 5 7 2 3 オフィスアワー: 金曜日 3・4 時限</p>					

開設科目	生物学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	獣医	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教官	山本芳実				
<p>授業概要 本講義は、生物学 I に連続して開講される。本講義では、現代生物学の基本的考え方—分子のレベルで生命現象をみる—を様々な生命現象の理解をとおして学ぶ。</p> <p>授業一般目標 生物のメカニズムに精巧さに触れ、それに驚きを感じることで、生命に対する探究心を養う。生物の細小単位である細胞を中心に、構成分子について物理や化学の視点を踏まえて生命への理解を深める。生命活動におけるエネルギー代謝の意義を考察する。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験をおこなう。</p> <p>教科書・参考書 参考書: 生きもののからくり(改訂版), 中村・裕村・山本編, 培風館, 2006 年; 基礎生化学, Voet et al., 田宮等訳, 東京化学同人, 2004 年  教官連絡先 農学部獣医放射線学講座(生化学研究室)農学部 2 0 9 号室 Tel &amp; Fax: 083-933-5909 E-mail : yamataka@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: いつでも</p>					

系列 自然科学

分野 地球科学

科目類型 総説

開設科目	地球科学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	理	単位	2 単位	曜時限	月曜日 1・2 時限
担当教官	永尾隆志				
<p>授業概要 地球の生成や発達の歴史を学ぶための基礎知識を学ぶ。            授業一般目標 地球科学の基礎的な事項を理解し、地球の過去・現在・未来を考える。            成績評価方法(総合) (1) 授業中に小テストや授業内レポートを作成する。(2) 最後に試験を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。            教科書・参考書 教科書：基礎地球科学, 西村祐二郎ほか, 朝倉書店, 2002 年            メッセージ 講義内容に関して、自発的に学習する習慣を身につけて欲しい。            教官連絡先 研究室：理学部南棟 3 階 340 室 e-mail tnagao@yamaguchi-u.ac.jp            備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 地球科学

科目類型 総説

開設科目	地球科学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・農	単位	2 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教官	今岡 照喜				
<p>授業概要 本授業では、地球科学をほとんど学習したことのない学生を対象に、幅広い地球科学全般の基礎知識に最新の成果を織りまぜながら分かりやすく解説する。            授業一般目標 地球科学の基礎的事項について理解し、現代の地球観を理解する。            成績評価方法(総合) レポート提出、小テスト、期末テストを下記の割合で評価する。            教科書・参考書 教科書：基礎地球科学, 西村祐二郎編著, 朝倉書店, 2002 年；基礎地球科学(西村祐二郎ほか著), 朝倉書店, 2002 年出版            メッセージ 教科書は必ず購入し、毎回の授業に持参すること。            教官連絡先 imaoka@yamaguchi-u.ac.jp 総合研究棟 701 号室 オフィスアワー 金曜日 15:00~17:00</p>					

開設科目	地球科学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	看護・検査・工	単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6 時限
担当教官	千々和一豊				
<p>授業概要 地球科学の諸分野（地質、地球物理、海洋、気象、天文）の基礎的内容を取り扱う。高等学校でも地学を受講していない学生にも理解できるように平易な解説を試みる。</p> <p>授業一般目標 人類を含む地球生命体を育む地球の特徴、その地球に見られる様々な自然現象とその背景、天体の動きや宇宙の広がりなど、自然の姿を理解し、われわれの生活が自然界と密接に関係していることを認識するのが目標である。</p> <p>教科書・参考書 教科書：プリント配布 / 参考書：地学図解（最新版）、第一学習社</p>					

開設科目	数学概論	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教（情報除く）・経	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教官	柏木芳美				
<p>授業概要 高等学校と大学の数学の橋渡しを目的に 1 変数関数の微分について概説する。微分というのは関数の性質を調べるための強力な道具である。また、最大や最小を求める際に重要な凹関数、凸関数についても説明する。</p> <p>授業一般目標 微分は関数を調べる強力な道具である。その基本をしっかりと身につけて、ある程度の計算ができることがこの授業の目標である。</p> <p>成績評価方法（総合） 中間試験と期末試験の平均が 60 点以上が合格。演習問題には詳しい解説を付けてあるので毎回出す宿題をしっかりと解いておくように。解けない問題は授業又はオフィスアワーで質問すること。小テストは、周りの人と相談してもよく、授業内容の理解の確認である。遅刻・欠席をしないように心懸けること。尚、テキストの誤植指摘に最大 20 点の点数を与える。</p> <p>教科書・参考書 教科書：数学概論改訂版、柏木芳美、2004 年；生協で販売する。</p> <p>メッセージ 演習問題を解くことが一番重要。分からないところは遠慮なく質問すること。その為にオフィスアワーもある。</p> <p>教官連絡先 E-mail:kashi-y@yamaguchi-u.ac.jp、電話:933-5595、研究室:経済学部 C213。オフィスアワーは授業開始時点で伝える。</p>					

開設科目	現代化学総説	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経	単位	2 単位	曜時間	水曜日 7・8 時限
担当教官	西口 毅				
<p><b>授業概要</b> 本講では、大競争時代を生きるのに有効性を持つと同時に、「自然について学ぶことの面白さ」が伝わる授業をめざしたい。それができるためには、高いレベルを保ちつつも、高校で化学を履修していない人でも理解できる分かりやすさと、新しい発見とが必要であろう。日常的現象、生命現象、環境問題、社会的諸問題などを、「それはなぜ起こるのか」という観点から解説する。最も身近な化学反応である燃焼については、毎回行う演示実験によって学ぶ。最も身近な化学反応である燃焼については、毎回行う演示実験によって学ぶ。すべての授業はパソコンからスクリーンに出しながら行う。授業で使ったスライドは、全て Web ページ( <a href="http://www2.to/chemistry">http://www2.to/chemistry</a> )からダウンロードできるので、予習、復習に役立てて欲しい。学生諸君の質問(日頃の疑問など)にもできるだけ答えたい。電子メールによる質問にも答える。メール画面は、Web ページに付いている。</p> <p><b>授業一般目標</b> 多くの人にとって、これからの時代に必要なものは、できるだけ広い範囲の職務内容に適応できる幅広い知識と常識であろう。いま必要だと言われる「生きる力」とは何か。私は「豊かな常識+豊かな行動力」だと思う。この講義の目的も、自然科学的常識を豊かにすることである。そして、その目的を達成するには、自然科学的常識の必要性を学生諸君に納得してもらうことが必要である。授業では、授業内容に関連する練習問題を提示するので、それらを解いてみるのが望ましい。授業の終了時には、問題を出し、その答を紙に書いてもらう。授業中に理解できなかったことを、その解答用紙に書いておくと、次の授業開始時にそれについての解説が行われるであろう。この授業では、疑問を残さないようにしてもらいたい。また、学生諸君が、社会人になったときに自信をもって生きられるようにすること、つまり、自信をもって生きるために必要な能力と価値観の習得の手助けをすることが、教育でめざすべきものであると思うので、授業に時間的余裕があれば、これに関連することからについての個人的意見も話す。それらも批判的に検討してもらいたい。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 成績は、主として、期末テストの点数に基づいて評価する。希望者が過半数を超えれば中間テストも行う。中間テストを行った場合には、期末テストと中間テストの比重は 1 : 1 である。テストの成績が合否のボーダーラインに近い人には、出席点を考慮することもある。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：現代の生活と物質, 西口 毅, 化学同人, 1996 年; プリントを数種類配布する。</p> <p><b>メッセージ</b> 学生諸君にとって重要なことは、単位を取るのではなく、将来に備えることであろう。このような観点から、時間的余裕があれば、諸君が生きる時代についての私見を話すこともある。</p>					

開設科目	現代生物学総説	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経	単位	2 単位	曜時間	木曜日 5・6 時限
担当教官	祐村稔子				
<p><b>授業概要</b> ヒトを含め、すべての生物は「細胞」という共通の基本単位から構成されています。一方、「細胞」を構成する部品：細胞小器官は生体分子の集合体であり、すでに生きてはいません。このように「細胞」は、「生命」と「物質」の境界をなす「生命の最小単位」といえます。本講義ではこのような「細胞」の構造と機能について、分子レベルでの解説を行ないます。加えて、近年驚くべき進歩をみせるバイオテクノロジーの基礎知識についても、身近な話題を中心に紹介し解説します。</p> <p><b>授業一般目標</b> 「細胞」に関する分子レベルの知識は、生命を理解する上で必要不可欠な基礎知識となります。加えて今日では、医療、農業、工業とさまざまな分野にわたり、日常生活の隅々にまで浸透しつつある多くのバイオ関連技術と日常に氾濫するバイオ関連情報を、正しく理解し田植えで評価するのもにも必須です。本講義では、生命科学の進歩をいたずらに恐れる事なく、正しい知識に基づいて、何が有益で何が危険なのかを自ら考え判断し、未来を見極める知識、能力を身につけることを目標とします。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 期末試験(テキスト、ノート、プリント参照可) 80% 宿題レポート 20%</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：いきものからくり, 中村和行・高橋進, 培風館</p> <p><b>メッセージ</b> 古典的生物学にとどまらず、物理学、化学、地球科学などを含む自然科学全般の知識に基づいて生命を理解することに興味と意欲を持つみなさんの受講を希望します。</p> <p><b>教官連絡先</b> メールアドレス: <a href="mailto:discoideum@yahoo.co.jp">discoideum@yahoo.co.jp</a></p>					

開設科目	現代生物学総説	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教官	岩尾康宏				
<p><b>授業概要</b> すべての生物は細胞という共通の基本単位からできている。一方、新たな生命は1個の受精卵が分裂して多くの細胞をつくり、個体として活動できるようになる。細胞は生命と物質の境界をなす生命の最小単位であるが、生物と密接な関係をもつがそれ自身は生物とはみなされないウイルスも存在する。本講義では生殖細胞(卵と精子)から多細胞の体ができるしくみ、さらに細胞同士が協調して生命を維持しているしくみを身近な動物からヒトについて説明し、それらのバイオテクノロジーへの応用も含めて解説する。加えて、ウイルスのはたらきと病気やバイオテクノロジーでの活用を解説する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 生物の体の基本的なつくりと機能および生物とウイルスの相互関係を知ることは、生命を理解する上で必要不可欠な基礎知識である。また、それらに基づいた多くのバイオ関連新技術は、現代の医療、農業、工業などのさまざまな分野で開発されて日常生活の隅々にまで浸透しつつある。本講義では、それらの生命科学の進歩を正しい理解のもとに評価して自らの生活に生かしていく態度を養うことを目標とする。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 参考書: Essential 細胞生物学 第2版, Bruce Alberts 他, 南江堂, 2005年</p> <p><b>教官連絡先</b> 連絡先: 岩尾康宏(理学部、自然情報科学科、生物科学)総合研究棟5F507</p>					

開設科目	現代地球科学総説	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教	単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6 時限
担当教官	武田賢治				
<p><b>授業概要</b> 地震や火山の噴火に遭遇するたびに、地球がダイナミックな生き物であることを実感する。現代地球科学は、こうした地球表層の変動メカニズム、さらには地球深部のダイナミクスについても明らかにしつつある。また、137億年の宇宙の壮大なドラマの中で誕生し、46億年という長大な歴史を刻んできた地球の発展過程や生命史についての知見を飛躍的に増大させてきている。本講義では、現代地球科学が明らかにしてきた地球についての知識・理論を、地球解明の手段などを交えながら、平易に解説する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 私たちのすみかである地球について理解を深める。とくに、地学的位置よりわが国の宿命である地震や火山噴火について、その仕組みを理解するとともに、関心をもち、防災対策等に積極的に立ち向かう態度を養う。</p> <p><b>教官連絡先</b> takeda@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 教育学部4階 オフィスアワー金曜日 16:00-17:00</p>					

系列 自然科学

分野 自然科学の考え方

科目類型 総説

開設科目	数学の考え方	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生	人・教・経	単位	1 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教官	北本卓也				
<p>授業概要 数学の基礎を演習を交えながら学ぶ。</p> <p>授業一般目標 命題論理の否定を作れるようになること。</p> <p>成績評価方法 (総合) 出席 (30%)、授業内課題 (20%)、試験 (50%) により行う。</p> <p>教科書・参考書 教科書：適宜、指定する。 / 参考書：離散数学, Seymour Lipschutz, オーム社, 1995 年</p> <p>メッセージ 再試験は実施しませんので、きちんと試験の準備をしてください。</p>					

系列 自然科学

分野 自然科学の考え方

科目類型 総説

開設科目	物理学の考え方	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生	人・教・経	単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	田澤輝武				
<p>授業概要 近代物理学の模範である力学の確立に至る過程を例として、物理学の考え方または物理学の方法について説明する。</p> <p>授業一般目標 物理学は、我々の生活の隅々まで浸透している。力学の発展の歴史を例にとり、その物理学の考え方に少しでも慣れ身に付けることを目指します。</p> <p>教科書・参考書 教科書：市販の教科書は用いません。毎回プリントを配付します。 / 参考書：授業の時に示します。</p> <p>教官連絡先 理学部 217 号室</p>					

開設科目	生物学の考え方	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生	人・教・経	単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	宮川 勇				
<p>授業概要 21世紀は生命科学の時代と呼ばれており、ヒトゲノムの解読をはじめとして分子生物学の進歩は、単に学問上の問題に留まらず、社会全体のしくみにも影響を及ぼしている。このような時代になると、様々な社会現象を理解するためにも、理系文系を問わず、一定の生物学の知識が必要になる。この授業では、細胞という生命の最小単位をキーワードとして、生物学の発展の歴史において研究者がどのように研究を進めてきたかについて、文系の人にも興味をもってもらえるように講義したい。</p> <p>授業一般目標 この講義を通して、生命の基本最小単位である細胞に興味をもってもらい、さらには細胞のしくみの解明が、究極的には病気、老化、生殖、遺伝、クローンや多様な生物社会の理解につながるということを認識してもらいたい。</p> <p>成績評価方法(総合) レポート、出席を総合的に評価する。</p> <p>メッセージ 積極的に質問してほしい。</p> <p>教官連絡先 宮川 勇 (総合研究棟703号室、電話: 933-5716, E-mail: miyakawa@yamaguchi-u.ac.jp)</p>					

開設科目	地球科学の考え方	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生	人・教・経	単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	永尾隆志				
<p>授業概要 地球で起きているいくつかの現象を例に、地球科学の考え方を学び、さらに地球の将来について考える。</p> <p>授業一般目標 地球で起こっている現象について、興味をもち、説明できるような基礎的な力を身につける。</p> <p>成績評価方法(総合) (1) 授業の内容に関するレポートの提出を求め、それを評価する(2) 試験。以上を下記の観点・割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たないものには単位を与えない。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 特に指定しない。必要におうじてプリントを配布する。/ 参考書: 授業の中で紹介する。</p> <p>教官連絡先 理学部 340 号室, e-mail: tnagao@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 自然科学

分野 自然科学実験

科目類型 総説

開設科目	物理学実験A	区分	実験・実習	開設期	後期
対象学生	物情・生化・生資	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6・7・8 時 限
担当教官	野崎浩二/長谷部勝彦				
<p>授業概要 力学、光学、熱力学、電磁気学等の分野に渡って設定された基礎的な実験テーマについて、自らの手で実験を行い、測定結果の処理、解析をし、その結果について考察を加え、実験レポートを作成する力を養うことを目指している。実験は原則として二人一組で行い、また、実験は授業計画の所に記したA～Mの13テーマをローテーション表(ガイダンス後に掲示)に従い、毎回1テーマずつ行うという形で実施する。</p> <p>授業一般目標 ・様々な物理現象を実験的に検証することを通して、物理学に対する基礎知識を習得し、深く物理現象を理解する。 ・実験に必要な基礎的な技術や解析方法を修得し、レポートにまとめて報告する力を養う。</p> <p>成績評価方法(総合) 単位の認定は、出席率が80%以上であること、実施したテーマの全レポートが提出されていること。出席していてもレポートが提出されなければ、そのテーマは欠席と見なす。授業態度・授業への参加度は、実験中の見回り及び当日の実験結果の報告等を通して判断する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：実験テキストを販売する。販売方法は学期初めに掲示するので、ガイダンスまでに必ず購入しておくこと。</p> <p>メッセージ 次のテーマについての予習を必ずしておき、手際よく実験を行うこと。</p> <p>教官連絡先 野崎浩二；理学部 236 号室，nozaki@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー随時</p>					

系列 自然科学

分野 自然科学実験

科目類型 総説

開設科目	物理学実験B	区分	実験・実習	開設期	後期
対象学生	医学	単位	1 単位	曜時限	木曜日 5・6・7・8 時 限
担当教官	笠野裕修、山本惺史				
<p>授業概要 力学、光学、熱力学、電磁気学等の分野に渡って設定された基礎的な実験テーマについて、自らの手で実験を行い、測定結果の処理、解析をし、その結果について考察を加え、実験レポートを作成する力を養うことを目指している。実験は原則として二人一組で行い、また、実験は授業計画の所に記したA～Kの11テーマをローテーション表(ガイダンス後に掲示)に従い、毎回1テーマずつ行うという形で実施する。</p> <p>授業一般目標 ・様々な物理現象を実験的に検証することを通して、物理学に対する基礎知識を習得し、深く物理現象を理解する。 ・実験に必要な基礎的な技術や解析方法を修得し、レポートにまとめて報告する力を養う。</p> <p>成績評価方法(総合) 単位の認定は、出席率が80%以上であること、実施したテーマの全レポートが提出されていること。出席していてもレポートが提出されなければ、そのテーマは欠席と見なす。授業態度・授業への参加度は、実験中の見回り及び当日の実験結果の報告等を通して判断する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：実験テキストを販売する。販売方法は学期初めに掲示するので、ガイダンスまでに必ず購入しておくこと。</p> <p>メッセージ 実験テーマについて必ず予習をしておき、手際よく実験を行うこと。</p> <p>教官連絡先 理学部本館239号室 月曜日9:30～11:30</p>					

系列 自然科学

分野 自然科学実験

科目類型 総説

開設科目	物理学実験B	区分	実験・実習	開設期	後期
対象学生	知能・機材・電気・看護・検査	単位	1 単位	曜時間	金曜日 5・6・7・8 時 限
担当教官	佐伯壮一				
<p><b>授業概要</b> 物理学実験と化学実験は対になっている。6回ずつ物理学実験と化学実験を交互に行う。物理学実験では、高等学校俺ベルの物理学の知識をもとに、力学・熱力学・光学・電磁気学などの基礎分野から6テーマの実験を行って、実験データの解析とレポートの作成を行う。</p> <p><b>授業一般目標</b> 物理学実験では、力学・熱力学・光学・電磁気学の分野における基本トけいな物理現象や原理・概念を説明できるようにするとともに、「ものづくり」のための基礎技術と初歩的な技術作文の書き方を身につけることを目標とする。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 成績は実験の出席とレポートで評価する。単位修得の必要最低条件は、すべての実験に出席し、すべてのレポートを提出することである。病氣入院などの事情により欠席せざるを得ない場合は、事前にその旨を申し出ること。無断欠席した場合は、不合格とする。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：オリエンテーション時にて説明を行う。  <b>メッセージ</b> 物理学実験ホームページ <a href="http://w-phys.liberal.cc.yamaguchi-u.ac.jp/">http://w-phys.liberal.cc.yamaguchi-u.ac.jp/</a>  <b>教官連絡先</b> 連絡先は、共通教育事務室まで</p>					

系列 自然科学

分野 自然科学実験

科目類型 総説

開設科目	化学実験A	区分	実験・実習	開設期	後期
対象学生	生化	単位	2 単位	曜時間	木曜日 5・6・7・8 時 限
担当教官	村上良子, 西口毅, 梶原忠彦				
<p><b>授業概要</b> 本実験では、有機化学実験、分析化学実験Ⅰ・Ⅱ、物理化学実験および総合実験の5つの実験から指定された4つを行う。1つの実験は各々3日間で行う。有機化学実験では化粧石けん、色素、ピニロン等の合成を、分析化学実験ではセミクロ定性分析法による金属陽イオン分析を、物理化学実験ではコンピュータを用いた計算とグラフや分子構造の図形表示を行う。総合実験では身のまわりにある物質の化学的性質や反応を調べる。</p> <p><b>授業一般目標</b> 化学実験における試薬や器具の扱い方を体験し、実験操作の意味や化学反応の背後にある化学の考え方に対する理解を深める。また、実験開始までに準備しておくべきこと(フローチャートの作成や問いの答えの記入など)、実験中の心がまえ、および、実験報告書の書き方を学ぶ。文献調査も必須である。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 宿題/授業外レポート = 60% 授業態度や授業への参加度 = 30% 受講者の発表(プレゼン)や授業内での製作作業(作品) = 10% 出席 = 欠格条件(理由のいかんを問わず、3回以上の欠席で不可とする)</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：化学実験テキスト(2006年度)を共通教育売店で販売します。なお毎年更新しますのでガイドンス時までには必ず購入してください。/ 参考書：現代の生活と物質(4刷)、西口毅著、化学同人、2000年；ライフサイエンス基礎化学、青島均、右田たい子著、化学同人、2000年；セミクロ無機定性分析、林謙次郎、中間碩一郎、鈴木光泰著、東京化学社、1981年；無機半微量分析(分析ライブラリー/日本分析化学会編；1)第2版、松浦二郎、西川勝、栗村芳実著、東京化学同人、1978年；毎回問題を課しますから、図書館などで調べて回答してください。</p> <p><b>メッセージ</b> 実験には多くの労力とお金をかけています。実験は社会で働くときと同じように、準備、作業、調査、報告を含んでいます。毎回きちんと予習をして実験に臨み、期限までにレポートや課題を提出してください。その際、参考書の貸し出しも行っていますのでぜひ活用してください。自分自身でやることにより、社会に出たときの力となります。いやいややるのではなく、苦しい中にも喜びを見い出しながら取り組んでください。なお、他人のレポートを写すなどした場合は、両者とも不可とします。</p> <p><b>教官連絡先</b> 谷誠治 / E-mail ; stani@yamaguchi-u.ac.jp / 電話 ; 083-933-5737 / 研究室 ; 理学部本館 433 号室・随時(講義や会議などの用事がない限りいつでも OK です)</p>					

開設科目	化学実験A	区分	実験・実習	開設期	後期
対象学生	生資	単位	2 単位	曜時間	金曜日 5・6・7・9 時 限
担当教官	藤原勇				
<p><b>授業概要</b> 本実験では、有機化学実験、分析化学実験、物理化学実験、および総合実験から指定された二つの実験を行う。有機化学実験では化粧石けん等の合成を、分析化学実験では金属陽イオンの分析を、物理化学実験ではコンピュータを用いた計算とグラフや分子構造の図形表示を、そして、総合実験では身のまわりにある物質の化学的性質や反応を調べる。</p> <p><b>授業一般目標</b> 化学実験における試薬や器具の扱い方など基礎的実験法を習得し、実験を通じて操作の意味や化学反応の背後にある化学の考え方に対する理解を深める。また、フローチャートの作成、実験中の心がまえ、実験報告書の書き方を学ぶ。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 「出席」と知識・理解の目安となる「課題(予習など)およびレポート」を重視するが、関心・意欲・技能・技術をはかる「実験態度」も評価する。課題やレポートは期限までに提出すること。提出しない場合は欠席として処理する。3回以上の欠席者は不適格とする。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：教科書名：化学実験テキスト(2006年度)販売店：共通教育講義棟売店 / 参考書：セミミクロ無機化学定性分析, 林・中間・鈴木, 東京化学社, 1981年; 無機半微量分析第2版, 松浦・西川・栗村, 東京化学同人, 1978年; 現代の生活と物質, 西口 毅, 化学同人, 1996年; ライフサイエンス基礎化学, 青島均・右田たい子, 化学同人, 2000年</p> <p><b>メッセージ</b> 上記以外にも多数の参考書が用意されているので、予習・復習に十分活用して欲しい。</p> <p><b>教官連絡先</b> 青島均/E-mail:aoshima@yamaguchi-u.ac.jp/電話:083-933-5762/研究室:理学部本館4階403号室/オフィスアワー:随時</p>					

開設科目	化学実験B	区分	実験・実習	開設期	後期
対象学生	医学	単位	1 単位	曜時間	木曜日 5・6・7・8 時 限
担当教官	谷誠治, 松崎浩司				
<p><b>授業概要</b> 本実験では、有機化学実験、分析化学実験I・II、物理化学実験および総合実験の5つの実験から指定された2つを行う。1つの実験は各々3日間で行う。有機化学実験では化粧石けん、色素、ピニロン等の合成を、分析化学実験ではセミマイクロ定性分析法による金属陽イオン分析を、物理化学実験ではコンピュータを用いた計算とグラフや分子構造の図形表示を行う。総合実験では身のまわりにある物質の化学的性質や反応を調べる。</p> <p><b>授業一般目標</b> 化学実験における試薬や器具の扱い方を体験し、実験操作の意味や化学反応の背後にある化学の考え方に対する理解を深める。また、実験開始までに準備しておくべきこと(フローチャートの作成や問いの答えの記入など)、実験中の心がまえ、および、実験報告書の書き方を学ぶ。文献調査も必須である。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 宿題/授業外レポート = 60% 授業態度や授業への参加度 = 30% 受講者の発表(プレゼン)や授業内での製作作業(作品) = 10% 出席 = 欠格条件(理由のいかんを問わず、3回以上の欠席で不可とする)</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：化学実験テキスト(2006年度版)を共通教育売店で販売します。なお毎年更新しますのでガイドンス時までには必ず購入してください。 / 参考書：セミマイクロ無機化学定性分析, 林・中間・鈴木, 東京化学社, 1981年; ライフサイエンス基礎化学, 青島均・右田たい子, 化学同人, 2000年; 現代の生活と物質(4刷), 西口 毅, 化学同人, 2000年; 無機半微量分析(分析ライブラリー / 日本分析化学会編; 1) 第2版, 松浦二郎, 西川勝, 栗村芳実, 東京化学同人, 1978年; 毎回問題を課しますから、図書館などで調べて回答してください。</p> <p><b>メッセージ</b> 実験には多くの労力とお金をかけています。実験は社会で働くときと同じように、準備、作業、調査、報告を含んでいます。毎回きちんと予習をして実験に臨み、期限までにレポートや課題を提出してください。その際、参考書の貸し出しも行っていきますのでぜひ活用してください。自分自身でやることにより、社会に出たときの力となります。いやいややるのではなく、苦しい中にも喜びを見い出しながら取り組んでください。なお、他人のレポートを写すなどした場合は、両者とも不可とします。</p> <p><b>教官連絡先</b> 谷誠治 / E-mail ; stani@yamaguchi-u.ac.jp / 電話 ; 083-933-5737 / 研究室 ; 理学部本館 433 号室・随時(講義や会議などの用事がない限りいつでも OK です)</p>					

系列 自然科学

分野 自然科学実験

科目類型 総説

開設科目	化学実験B	区分	実験・実習	開設期	後期
対象学生	電気・機材・看護・検査	単位	1 単位	曜時限	金曜日 5・6・7・8 時 限
担当教官	青島均, 吉本憲正, 中邑義則, 岡本浩明				
<p><b>授業概要</b> 本実験では、有機化学実験、分析化学実験、物理化学実験、および総合実験から 指定された二つの実験を行う。有機化学実験では化粧品けん等の合成を、分析化学実験 では金属陽イオンの分析を、物理化学実験ではコンピュータを用いた計算とグラフや分子構造の図形表示を、そして、総合実験では身のまわりにある物質の化学的性質や反応を調べる。</p> <p><b>授業一般目標</b> 化学実験における試薬や器具の扱い方など基礎的実験法を習得し、実験を通じて操作の意味 や化学反応の背後にある化学の考え方に対する理解を深める。また、フローチャートの 作成、実験中の心がまえ、実験報告書の書き方を学ぶ。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 「出席」と知識・理解の目安となる「課題(予習など)およびレポート」を重視するが、関心・意欲・技能・技術をはかる「実験態度」も評価する。課題やレポートは期限までに提出すること。提出しない場合は欠席として処理する。2 回以上の欠席者は不適格とする。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：教科書名：化学実験テキスト(2006 年度)販売店：共通教育講義棟売店 / 参考書：セミミクロ無機化学定性分析, 林・中間・鈴木, 東京化学社, 1981 年; 無機半微量分析第 2 版, 松浦・西川・栗村, 東京化学同人, 1978 年; 現代の生活と物質, 西口 毅, 化学同人, 1996 年; ライフサイエンス基礎化学, 青島均・右田たい子, 化学同人, 2000 年</p> <p><b>メッセージ</b> 上記以外にも多数の参考書が用意されているので、予習・復習に十分活用して欲しい。</p> <p><b>教官連絡先</b> 青島均/E-mail:aoshima@yamaguchi-u.ac.jp/電話:083-933-5762/研究室:理学部本館 4 階 403 号室/オフィスアワー:随時</p>					

系列 自然科学

分野 自然科学実験

科目類型 総説

開設科目	生物学実験	区分	実験・実習	開設期	後期
対象学生	生機	単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6・7・8 時 限
担当教官	宮田浩文、右田たい子、横山和平、松井健二、真野純一、阿座上弘行、外山英明、滝本晃一、内海俊彦				
<p><b>授業概要</b> 生物に関わる学問分野では様々な生き物を教育研究に使い、それを通じて地球上の生命 全体に関わる学問の進展に寄与している。諸君がこれから教育をうけていく学問分野の 多くは、実験をして確かめ新たな問題点を発見していく実証の科学である。これから生 物学・農学教育を受けていくにあたって、基礎となる事項について、農学部生物機能科 学科の教官が解説・指導する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 本実験は、生物の形態、発育、体内成分、代謝生理及び分子遺伝の教育を受けるのに必 要な基本的実験手法および結果のまとめ方を修得し、この実験を通じて生命現象の科学 的アプローチの仕方を会得することを目的とする。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 実験中の態度とレポートの総合評価</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：テーマ毎にテキストを配布する。</p> <p><b>メッセージ</b> 時間厳守</p> <p><b>教官連絡先</b> 代表 宮田(農学部 4 1 9 ) 月曜日午前中</p>					

系列 自然科学

分野 自然科学実験

科目類型 総説

開設科目	生物学実験	区分	実験・実習	開設期	後期
対象学生	獣医	単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8・9・10 時限
担当教官	利部聡, 音井威重, 宇根智, 森本将弘, 佐藤晃一, 加藤大智, 奥田優				
<p>授業概要 獣医師を目指すものとして、動物の取り扱い法をはじめとして、基礎的な事項を実際の動物で学ぶ。最初の5回は全員を対象として実験を行い、以後班に別れ実験計画を立案するところから主体的に取り組む。さらに、成果を学会形式で発表する。</p> <p>授業一般目標 生きている動物を用いて、麻酔・剖検・観察ができるようになること。適切な研究テーマを探し出し、実験計画を立て、結果を出し、それから導き出される結論を考察する態度を培う。</p> <p>メッセージ 生きている実験動物を扱うので、命を粗末にするようなことのないように。</p> <p>教官連絡先 利部 聡(かがぶ さとし) 電話：083-933-5910 居室：農学部北ウイング 211 号室 オフィスアワー：金曜日 11 時から 12 時。在室時は随時</p>					

系列 自然科学

分野 自然科学実験

科目類型 総説

開設科目	地球科学実験	区分	実験・実習	開設期	後期
対象学生	地球	単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8・9・10 時限
担当教官	今岡照喜・福地龍郎 福地龍郎				
<p>授業概要 地球科学研究の基礎となる、地形図や航空写真の読み方を習得するとともに、野外において実践的にそれらを活用できる能力を養う。また、実験室で天然の鉱物や岩石を観察し、その成果をレポートとしてまとめる。また、巡検においては、地質について現地で詳しい説明を聞くと共に、露頭を観察したり化石を採集したりし、地質観察力を養成する。</p> <p>授業一般目標 地形図や航空写真が正しく読めること、諸岩石・鉱物を識別する力、野外で岩石のいろいろな産状を正しく把握し、それを正確に記述する力、偏光顕微鏡下で鉱物識別する力を涵養する。</p> <p>成績評価方法(総合) 秋吉台・秋芳洞巡検(土曜日に実施)は実験2回分にカウントします。レポートにより判定します。2回以上欠席した場合は、単位を認めません。</p> <p>教科書・参考書 教科書：必要に応じてプリントを配布します。</p> <p>教官連絡先 今岡( imaoka@yamaguchi-u.ac.jp ) 福地( fukuchi@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp ), オフィスアワー：時間のあるときはいつでも</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

後期 - 応用科学系列

系列 応用科学

分野 統計学

科目類型 総説

開設科目	社会科学のためのやさしい統計学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・平成 17 年度以前入学者の経	単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教官	森田充				

系列 応用科学

分野 統計学

科目類型 総説

開設科目	理工学のための統計学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・農	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教官	笹井理恵				

**授業概要** 統計及び統計的資料の偶然性を含む数字から必然性を見出す統計学は、経済学、社会学、医学、理学、工学、経営学等殆どの分野で応用される。この講義では、統計学の入門として確率の理論と、それによってデータから必然性を見出す手法の基礎を学ぶ。

**授業一般目標** 観測された統計あるいは統計的資料が、なんらかの確率的法則性に従う現象確率変数の 1 つの実現値であるとみなすことによって、このような数値の分析を具体的な例題によって実習する。

**成績評価方法 (総合)** 各回の出席, 小テストの成績, レポートの評価, 期末試験の成績の総合点による。

**教科書・参考書** 教科書: 概説 確率統計, 前園 宣彦 著, サイエンス社, 2003 年; 販売店: 大学前文栄堂

**メッセージ** 授業には統計計算ができる電卓を用意すること。

**備考** 理学部 JABEE 対応科目

開設科目	医学のための統計学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	医学	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教官	市原清志				
<p><b>授業概要</b> バイオサイエンスにおける統計学の役割と使い方を、身近な例題を解きながら学習する。医学における実験的研究において、その結果の判定で重要となる統計的仮説検定法（有意差検定法）を中心に解説する。検定法は、データの形式によって多種多様であるが、その原理は共通である。それらを分類すると、大きくパラメトリック法とノンパラメトリック法に分かれる。それぞれの原理と使い分けをわかりやすく解説する。また様々な現象の背景となる要因を分析する上で重要となる、分散分析法および相関・回帰分析法の基本的な考え方についても学習する。授業は、さいころや色玉を使った標本抽出実験とコンピュータ・シミュレーションをふんだんに取り入れることで、統計の数理を感覚的に把握できるようにすると共に、多数の演習問題を実際に解いてゆくことで、即実践力が身に付くように工夫している。</p> <p><b>授業一般目標</b> ・医学研究における統計学の役割が分かる ・仮説（有意差）検定の原理が分かる ・パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の違いとその使い分けが分かる ・クロス集計結果の検定とその解釈をできる ・相関係数と回帰直線を求められ、分析結果を解釈できる。 ・統計量の分布型を分析でき、基準範囲を設定できる ・統計データの偏りとその原因・解消法を理解している</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：バイオサイエンスの統計学, 市原清志, 南江堂 / 参考書：解説・実験・演習プリントを適時配布、講師が開発した汎用統計ソフト StatFlex を利用</p> <p><b>メッセージ</b> 1 2 月に希望者には補講を一度行います。再試験は行いませんが、定期試験前の小テスト（1 回を予定）で成績不良の場合には補講を行います。</p> <p><b>教官連絡先</b> E-mail: ichihara@yamaguchi-u.ac.jp Tel/Fax: 0836-22-2884 ( 大学 ) 9:00 ~ 18:30</p>					

開設科目	医学のための統計学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	看護・検査	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教官	市原清志				
<p><b>授業概要</b> バイオサイエンスにおける統計学の役割と使い方を、身近な例題を解きながら学習する。医学における実験的研究において、その結果の判定で重要となる統計的仮説検定法（有意差検定法）を中心に解説する。検定法は、データの形式によって多種多様であるが、その原理は共通である。それらを分類すると、大きくパラメトリック法とノンパラメトリック法に分かれる。それぞれの原理と使い分けをわかりやすく解説する。また様々な現象の背景となる要因を分析する上で重要となる、分散分析法および相関・回帰分析法の基本的な考え方についても学習する。授業は、さいころや色玉を使った標本抽出実験とコンピュータ・シミュレーションをふんだんに取り入れることで、統計の数理を感覚的に把握できるようにすると共に、多数の演習問題を実際に解いてゆくことで、即実践力が身に付くように工夫している。</p> <p><b>授業一般目標</b> ・医学研究における統計学の役割が分かる ・仮説（有意差）検定の原理が分かる ・パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の違いとその使い分けが分かる ・クロス集計結果の検定とその解釈をできる ・相関係数と回帰直線を求められ、分析結果を解釈できる。 ・統計量の分布型を分析でき、基準範囲を設定できる ・統計データの偏りとその原因・解消法を理解している</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：バイオサイエンスの統計学, 市原清志, 南江堂 / 参考書：解説・実験・演習プリントを適時配布、講師が開発した汎用統計ソフト StatFlex を利用</p> <p><b>メッセージ</b> 1 2 月に希望者には補講を一度行います。再試験は行いませんが、定期試験前の小テスト（1 回を予定）で成績不良の場合には補講を行います。</p> <p><b>教官連絡先</b> E-mail: ichihara@yamaguchi-u.ac.jp Tel/Fax: 0836-22-2884 ( 大学 ) 8:30 ~ 18:30</p>					

開設科目	情報処理概論	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・経・工	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教官	市川哲彦				
<p>授業概要 コンピュータを利用した情報処理について概観する。特に、そもそも情報とは何か、情報を処理するとはどういうことなのか、という基本的な事柄と、処理するためのコンピュータの歴史や仕組みはどうなっているのか、について解説する。</p> <p>授業一般目標 情報の定義、情報処理の定義を理解する。コンピュータの基本的な仕組みを理解する。情報処理の歴史を知り、これまでの発展の経緯を理解する。</p> <p>成績評価方法 (総合) 出席および試験によって行う。</p> <p>教官連絡先 メディア基盤センター小串センター 内線: 2956 (外線からは 0836-85-2956) E-mail: ichikay@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: 特に設けないので随時必要に応じて訪ねて下さい。山口キャンパスでは、火曜日の 13:30-14:30 の間、メディア教育棟 に居るようにします。事前に連絡をしてもらえると確実です。</p>					

開設科目	介護論	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生	教・経・医・工・獣医	単位	1 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教官	西村 洋子				
<p>授業概要 「介護」は比較的新しい用語である。昭和 62 年に「社会福祉士及び介護福祉士法」が制定され、介護(福祉)の専門職が誕生、更に高齢者人口の増加に伴い、平成 12 年 4 月より介護保険制度が実施され、介護サービスの社会化、在宅介護サービスのためのサービス提供機関等の整備、ケアマネジメント等が推進されている。介護サービスにかかわるシステムを理解するために必要な 1. 介護の概念 2. 介護の方法 3. 各分野における介護サービスの実態等について学ぶ。</p> <p>授業一般目標 (1) 介護の概念について関連領域との関係で理解する。(2) 介護サービスに関する制度・施策を理解し、その諸問題を把握する。(3) 高齢者・障害者(児)の介護ニーズに関心をもつ。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 授業開始前に使用教科書を掲示する。/ 参考書: 国民の福祉の動向(厚生の指標臨時増刊)、厚生統計協会編、厚生統計協会; 財団法人厚生統計協会「国民の福祉の動向」2003 年</p> <p>メッセージ (1) 教科書を必ず購入すること。(2) 履修希望者が初回に 150 名を超えた場合、抽選を行う。</p> <p>教官連絡先 yokoni@f7.dion.ne.jp</p>					

開設科目	発達心理学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・経・医・工・獣医	単位	2 単位	曜時限	木曜日 9・10 時限
担当教官	清 俊夫				
<p>授業概要 年齢の変化に伴う心や行動の変化を発達というが、従来は、出生から青年期が終わるまでの上昇方向への変化を、主として発達とみなしてきた。しかしながら、高齢化社会の到来と、急激な社会変動に伴い、人間の一生涯の変化を発達として捉える生涯発達心理学の考え方が優勢となってきた。この生涯発達の段階を、この授業では 10 段階に区別し、それぞれの発達現象を記述するとともに、発達の危機とその克服をもあわせて理解することを目指す。</p> <p>授業一般目標 乳児期から幼児期、児童期、青年期、成人期を経て、老年期に至りまでの発達現象を理解するとともに、各段階での危機とその克服に関する基本的考え方を理解し、援助を必要とする人の理解と援助のための基礎を作る。</p> <p>成績評価方法(総合) 期末試験 50%、小テスト 40%、出席 10%(3 回以上欠席したものは 0 点、遅刻 1 回につき -1 点)</p> <p>教科書・参考書 教科書：パーソナリティ発達論 - 生涯発達と心の危機管理 -, 岡堂哲雄, 金子書房, 2000 年 / 参考書：”Life-Span Development, 6th ed.”, J. W. Santrock, McGraw-Hill, 1997 年</p> <p>メッセージ 発達心理学が必修の者を除き、前期に心理学の単位を修得済みの者以外は、この授業を履修できない。必修のものも、前期に心理学を履修し、期末試験を受けていなければ、この授業を履修できない。</p> <p>教官連絡先 seitoshi-ygc@umin.ac.jp office phone:0836-22-2802 office hours:月曜日から金曜日まで随時(授業、会議等の時間を除く)</p>					

開設科目	医療心理学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	看護・検査 3 年	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教官	山田治, 清俊夫				
<p>授業概要 現在の医療は、医の倫理、患者の権利、インフォームドコンセント(説明と同意)に始まり、臓器移植、遺伝子治療、リハビリテーション、終末期医療、脳死、まで幅広い領域で多くの問題を抱えている。本講義では、これらの基盤となる患者に生じる心理的問題を考察し、患者理解・支援に必要なコミュニケーションの取り方を明らかにする。具体的には、傾聴技法を A.E.Ivey らのマイクロカウンセリング技法を講義で説明しながら演習を行う。</p> <p>授業一般目標 医療従事者として患者との関わりを持つためには、まず、自分の性格を知る必要がある。自分の性格を理解した上で、患者とのコミュニケーション上どのような関わり方が有効であるかを考察する。とくに病気で苦しむ患者の気持ちや患者を取りまく環境を知るためには、傾聴技法がとくに有効であることを理解する。傾聴技法を中心とした「基本的な関わり技法」をビデオや演習を通じて理解・体得することを目標とする。</p> <p>成績評価方法(総合) (1)授業中に小テストを 2 回行う。(2)「行動変容をおこすためにはどうすればよいか?」について用紙 5 枚以上で作成し、提出する。(3)試験を期末の 1 回実施する。以上を、下記の観点、割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には、単位を与えない。</p> <p>教科書・参考書 教科書：マイクロカウンセリング, Allen E. Ivey, 福原真知子, 椋山喜代子他訳, 川島書店, 1985 年; 演習に関しては教科書を事前に必ず読んでおくこと。</p> <p>メッセージ 質問は積極的に発言して下さい。</p> <p>教官連絡先 居るときはいつでもどうぞ、入室時には専攻と氏名を名乗って下さい。</p>					

開設科目	科学史	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教官	川崎勝				
<p><b>授業概要</b> 本講義では、われわれが知る形での「科学技術」が形成されていった歴史を、時代的・国家的文脈を重視しながら概観します。主な舞台となるのは、18世紀末から現代にかけての西洋社会です。それ以前と比較したとき、この時代・地域の最大の特徴は、それまでごく一部の特権層でのみ享受されていた自然に関する知識が公共化かつ制度化し、技術と結びついたことです。これにより、科学は経済的にも軍事的にも現代社会において支配的な力を発揮するようになり、最終的に国家の支柱となっていきます。このプロセスに関して、国別の社会的文脈に留意しながら、なぜそのようなことが生じたのかに重点をおいて授業を進めていきます。</p> <p><b>授業一般目標</b> 高度科学技術社会（ハイテク社会）で主体的な生活者として生きていくために、現代の科学技術が成立する経緯に関する必須の基本知識を習得し、主体的かつ客観的に考察する態度を涵養する。さらには、歴史に対して「なぜ」という疑問を発することができる能力を養うこと、近未来の科学技術社会への洞察力を養うことが全体を通じての影の大きな目標である。</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 学期末に行う論述式の筆記試験がメインとなりますが、「質問・感想カード」の内容を元にして「参加点」を加味します。また、任意提出のレポート課題を出します。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：科学の社会史（増訂版）、古川安、南窓社、2000年 / 参考書：ハイテク社会を生きる、調麻佐志・川崎勝他、北樹出版、2003年</p> <p><b>メッセージ</b> 歴史は決して「暗記物」ではありません。むしろ「想像力」の学問です。人工的な文理の壁を越え、歴史好きな方を歓迎します。なお、もし受講希望者が100名を超えた場合には、「受講動機」などの簡単なレポートに基づくセレクションを行いますので、受講希望者は必ず初回に参加してください。授業に関する情報を随時Web上の「kawasaki's room」(<a href="http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/kawasaki/index.html">http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/kawasaki/index.html</a>)に掲載します。参照してください。</p> <p><b>教官連絡先</b> <a href="mailto:kawasaki@yamaguchi-u.ac.jp">mailto:kawasaki@yamaguchi-u.ac.jp</a>（上記アドレスにメールを送る際には、できるだけケイタイからのメールは避けてください。また、適切な件名を付けるとともに、自分が誰であるのかを名乗ってください）研究室 医学部（小串キャンパス）時間帯は相談に乗りますので、上記アドレスにメールをお送り下さい。</p>					

開設科目	技術概論	区分	講義	開設期	後期
対象学生	工・生資	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	合田公一				
<p><b>授業概要</b> 主要工業製品において最多使用される鉄と鋼の製法技術史について概観するとともに、近代産業の発展において果たした製鉄、製鋼技術の役割について触れる。さらに、鋼の性質について冶金学的および材料力学的観点から講述する。また、技術の発展にともなう地球環境問題についても概観する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 製鋼技術について理解するとともに、技術発展が地球環境問題といかように関連するかについて考察できることを目指す。</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 出席点、レポート点および試験結果から総合的に判定する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：教科書は使わない。資料を配布する。</p> <p><b>教官連絡先</b> 電子メール：<a href="mailto:goda@yamaguchi-u.ac.jp">goda@yamaguchi-u.ac.jp</a></p>					

開設科目	生命科学概論	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(理・看護・検査除く)	単位	2単位	曜時間	木曜日1・2時限
担当教官	山本芳実, 和田直己				
<p>授業概要 本授業は、農学部2人の講師により、現代生命科学をそれぞれの側面から論じる。受講者は、いきもの好きであることを希望する。なお、昨年度は、受講制限を行った。</p> <p>授業一般目標 新聞やテレビ等で目にし、耳にする生命科学の様々なニュースに対して、自分なりの判断が出来るようになることが目標である。</p> <p>教科書・参考書 参考書：生きものからくり(改訂版)、中村・裕村・山本共編、培風館、2006年；山本は下記の参考書を用いる。「生きものからくり(改訂版)」中村・裕村・山本共編、培風館 2006</p> <p>教官連絡先 山本芳実 農学部獣医放射線学講座(生化学研究室)農学部209号室 Tel &amp; Fax: 083-933-5909 E-mail : yamataka@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：いつでも</p>					

開設科目	環境学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(数理・物情・工除く)	単位	2単位	曜時間	金曜日3・4時限
担当教官	宇都宮宏				
<p>授業概要 ~食料科学~ 生物環境の中で、人類の生命や生活に潤いを与える食料を対象にして、食糧生産と環境について解説する。 検索キーワード 環境、食料科学、食糧生産、農業領域におけるバイオテクノロジー</p> <p>授業一般目標 本授業は、食糧生産に関する農耕の歴史的発達過程・食糧生産過程とその方法・環境条件・優良品種の育成と開発・安全な肥料と農薬・分子生物学及びバイオテクノロジー技術の利用等を理解する。また食と農の安全・安心に関わる環境問題を認識する。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験により、知識・理解目標の到達度を評価するが、小テストやレポートにより基礎知識等を加味して評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：適宜プリントを配布する。</p> <p>メッセージ 授業中は携帯電話をオフにすること。</p> <p>教官連絡先 uh@yamaguchi-u.ac.jp 研究室農学部1階 オフィスアワー木曜日13:00~15:00</p>					

系列 応用科学

分野 応用科学

科目類型 総説

開設科目	社会と医療 (心とその座)	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全 (理・農除く)	単位	2 単位	曜時間	金曜日 7・8 時限
担当教官	渡邊義文				
<p>授業概要 新書版程度の教科書を用い、医学部を主とした各学部教官による専門領域を反映した講義で構成する。</p> <p>授業一般目標 科学としての医学と実際に行われる医療が、人間社会の中でどのような意味を持ち、将来の課題を有しているかを理解する。狭い範囲の医学と医療に限定せず、生命や発達、人の心や行動、社会システムなど学際的な関連領域を含めて学習対象とする。取り上げた学習対象について、その概要、社会における現状と課題について考察を深め、引き続きそれぞれの分野における専門教育への幅広い視点を持った学習動機付けに寄与できることを目標とする。</p> <p>成績評価方法 (総合) 授業中に提出したレポート、出席を含めた授業への参加状況によってコーディネータが総合的に評価する。・レポート内容 40～60%、出席・参加状況 40～60%の重みで評価する。各講義分担当教官は提出されたレポートの内容を5点満点(5～0点)で評価する。評語 優 : 総合評価 80 点以上 良 : 総合評価 70 点以上 可 : 総合評価 60 点以上 不可 : 総合評価 60 点未満、または出席のみでレポート未提出 知識・理解、思考・判断を測定するレポートを主とし、関心・意欲、態度を測定する授業への参加度を従とする。出席は欠格事項として扱う。</p> <p>教科書・参考書 教科書 : 検討中</p>					

系列 応用科学

分野 応用科学

科目類型 総説

開設科目	社会と医療 (日本の医療)	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全 (理・農除く)	単位	2 単位	曜時間	金曜日 7・8 時限
担当教官	原田規章				
<p>授業概要 新書版程度の教科書を用い、医学部を主とした各学部教官による専門領域を反映した講義で構成する。</p> <p>授業一般目標 科学としての医学と実際に行われる医療が、人間社会の中でどのような意味を持ち、将来の課題を有しているかを理解する。狭い範囲の医学と医療に限定せず、生命や発達、人の心や行動、社会システムなど学際的な関連領域を含めて学習対象とする。取り上げた学習対象について、その概要、社会における現状と課題について考察を深め、引き続きそれぞれの分野における専門教育への幅広い視点を持った学習動機付けに寄与できることを目標とする。</p> <p>成績評価方法 (総合) 授業中に提出したレポート、出席を含めた授業への参加状況によってコーディネータが総合的に評価する。・レポート内容 40～60%、出席・参加状況 40～60%の重みで評価する。各講義分担当教官は提出されたレポートの内容を5点満点(5～0点)で評価する。評語 優 : 総合評価 80 点以上 良 : 総合評価 70 点以上 可 : 総合評価 60 点以上 不可 : 総合評価 60 点未満、または出席のみでレポート未提出 知識・理解、思考・判断を測定するレポートを主とし、関心・意欲、態度を測定する授業への参加度を従とする。出席は欠格事項として扱う。</p> <p>教科書・参考書 教科書 : "日本の医療 : 統制とバランス感覚", "池上直己, J.C. キャンベル著", 中央公論社, 1996 年 ; 池上直己他、日本の医療、中公新書 (予定)</p>					

開設科目	社会と医療 (いのちと発達)	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全 (理・農除く)	単位	2 単位	曜時限	金曜日 7・8 時限
担当教官	岡野こずえほか				
<p><b>授業概要</b> 科学としての医学と実際に行われる医療が、人間社会の中でどのような意味を持ち、将来の課題を有しているかを理解する。狭い範囲の医学と医療に限定せず、生命や発達、人の心や行動、社会システムなど学際的な関連領域を含めて学習対象とする。取り上げた学習対象について、その概要、社会における現状と課題について考察を深め、引き続きそれぞれの分野における専門教育への幅広い視点を持った学習動機付けに寄与できることを目標とする。</p> <p><b>授業一般目標</b> 日本の医学・医療の現状あるいは問題を実際に医学・医療の現場に従事している医師あるいは医学・医療の従事者の話から明らかにしてもらい、それを通して、医学・医療の問題に今後いかに接していくのかとか、「いのち」と発達の問題などについて考える機会になれば目標を達成できたと考えたい。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 授業中に提出したレポート、出席を含めた授業への参加状況によってコーディネータが総合的に評価する。・各講義分担当教官は提出されたレポートの内容を5点満点(5~0点)で評価する・評語 優 : 総合評価 80 点以上 良 : 総合評価 70 点以上 可 : 総合評価 60 点以上 不可 : 総合評価 60 点未満、または出席のみでレポート未提出 知識・理解、思考・判断を測定するレポートを主とし、関心・意欲、態度を測定する授業への参加度を従とする。出席は欠格事項として扱う。”</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書 : 医の現在, 高久史磨編, 岩波書店, 1999 年 ; 医の現在, 高久史磨 編, 岩波新書, 2001 年</p>					

開設科目	運動健康科学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・理・医・農	単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	森田俊介				
<p><b>授業概要</b> 中高年者に多く発症する心臓病・糖尿病・脳卒中などの成人病は、別名生活習慣病とも言われ、青年期から中年期にかけての運動不足・偏った食事・過度のストレスなどの生活習慣がその原因の1つとして考えられている。したがって学生諸君が生涯にわたって健康を保持・増進していくためには、適度な運動・バランスのとれた食事・十分な休養に配慮した生活習慣を学生時代から身につけておかなければならない。この授業では、健康づくりのための運動の基本的な考え方とその実践方法を中心に教授する。</p> <p><b>授業一般目標</b> この授業では、健康づくりのための運動の基本的な考え方とその実践方法を学習し、在学中及び卒業後もそれらを活用できるようになることを目標とする。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 定期試験(50%)・レポート成績(50%)・出席状況によって総合的に評価する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 参考書 : 新版 運動処方, 池上晴夫, 朝倉書店, 1997 年 ; 必要に応じて授業中にプリントを配布する。</p> <p><b>メッセージ</b> 例年通り、授業開始後の入室を認めない。</p> <p><b>教官連絡先</b> 電話 933-5385</p>					

開設科目	運動健康科学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・理・医・農	単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	丹信介				
<p><b>授業概要</b> この授業では、生活習慣病(成人病)に影響を及ぼす生活習慣の中で、主に身体活動(運動)不足を取り上げ、生活習慣病と身体活動(運動)との関わりや生活習慣病予防を中心とした健康の維持増進のための身体活動(運動)の具体的実践方法、留意点について解説する。また、食生活のあり方も生活習慣病を引き起こす一因となるので、この点についても授業の中で取り上げる。</p> <p><b>授業一般目標</b> 生活習慣病予防のための身体活動(運動)、食生活の意義、重要性について理解する。また、生活習慣病予防を中心とした健康の維持増進のための身体活動(運動)が具体的に実践できるよう、その方法に関する基本的な知識を身につける。さらに、健康の維持増進のために運動を行う際の留意点についての知識を身につける。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 定期試験(中間試験と期末試験) = 60~80% / 小テスト/授業内レポート = 欠格条件 宿題/授業外レポート = 20~40% 授業態度や授業への参加度 = 欠格条件 出席 = 欠格条件</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: 授業時にプリントを配布する。</p> <p><b>メッセージ</b> 授業では、講義形式だけでなく、適宜、演習や実習も行います。その中には、運動を行うこともあります。</p> <p><b>教官連絡先</b> 丹 信介 Email: tan@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp 電話: 933-5388 研究室: 教育学部 436-2 オフィスアワー: 月 12:50~14:20</p>					

開設科目	運動健康科学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・理・医・農	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	杉浦崇夫				
<p><b>授業概要</b> 労働や日常生活が機械化されたことにより、我々の生活は便利かつ快適になった。その反面、身体活動の減少により、さまざまな運動不足の弊害が見られるようになった。このような現状において、その対策として日常生活において積極的に運動することの重要性が認識されている。しかしながら、運動はそのやり方によっては事故(最悪の場合、死)を引き起こす可能性もあることを忘れてはいけない。本講義では、身体運動時の生理・生化学的変化を概説し、健康の保持増進のためのプログラムについて紹介する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 本講義では、健康の保持増進のための身体運動の意義を生理・生化学的に理解するとともに、健康の保持増進のために運動を実践する際に必要な基本的考え方ならびに具体的方法について理解修得することを目的とする。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> (1) 毎回の授業においてレポートを課す。(2) 期末試験を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。なお、欠席が5回以上の者には単位を与えない。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: プリント等を配布/参考書: 講義中に指示する。</p> <p><b>メッセージ</b> 授業中は、他人に迷惑になる行為は絶対に行わない。</p> <p><b>教官連絡先</b> E-mail takahito@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 0839335387, 研究室 教育学部 484-1, オフィスアワー 在室時は、いつでも</p>					

開設科目	運動健康科学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・理・医・農	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	宮田浩文				
<p>授業概要 近代化に伴う生活様式の省力化・機械化は、運動不足状態を作りだし、その健康への影響が心配されるようになっている。本講義では、運動生理学、バイオメカニクス等の研究成果を、なるべく学生諸君の健康の保持・増進のための実践的な知識となるよう解説する。</p> <p>授業一般目標 体の基本的構造機能を理解し、それぞれに対する運動や食事の影響を考える。また、どの程度の運動や食事が必要であるかについて、実生活に即して考えられるようにする。</p> <p>成績評価方法(総合) 学期末試験の結果と授業中の小レポートの内容を主な評価の対象とする。</p> <p>教科書・参考書 教科書：複数のテキストから抜粋した資料を毎時間配布する。</p> <p>メッセージ 遅刻、私語、飲食は厳禁。</p> <p>教官連絡先 月曜日午前中</p>					

開設科目	運動健康科学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	学教・商教	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教官	曾根涼子				
<p>授業概要 現代社会では省力化、機械化や自動化によって、日常生活の中で十分なエネルギーの消費、体力を維持するだけの運動量を得ることが難しくなっています。日常的な運動不足がもたらす弊害には、体力の低下や肥満症、心筋梗塞、高血圧症、ノイローゼなどの運動不足病があげられます。これらを予防するためには、適度な運動を生活習慣の中にとり入れて定期的に行うことが必要ですが、このような運動の実施に当たっては、正しい理論に基づいた運動の実践が必要です。そこで、この授業では、健康に対する身体活動の意義、健康の維持増進のために運動を実践する際の基本的考え方とその具体的実践方法および実践能力を習得することを目的としています。また、実生活における運動と食事の調査を行い、それをもとに健康にとってより望ましいライフスタイルのあり方を考えるとともに、その確立を促します。</p> <p>授業一般目標 健康に対する身体活動の意義、健康の維持増進のために運動を実践する際の基本的考え方とその具体的実践方法および実践能力を習得する。また、実生活における運動と食事の調査の結果を踏まえて、健康にとってより望ましいライフスタイルの確立を目指す。</p> <p>教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。</p> <p>メッセージ 授業開始後 20 分以上して入室した場合は、欠席扱いとします。授業時には、携帯電話の電源は切ってください。電卓を使用することがあります。 単位認定の最低必要条件：2/3 以上出席</p> <p>教官連絡先 連絡先：教育学部 101-1 あるいは 101-2 (083-933-5389) sone@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日 9 時～12 時</p>					

開設科目	運動健康科学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	実践・総文	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教官	上田真寿美				
<p><b>授業概要</b> 健康問題は、今や国民の最大の関心事である。健康の維持・増進のため、また QOL(生活の質)を向上するために、運動・スポーツをどのように行えばよいのだろうか。この授業では、現代生活における健康と運動の意味、運動と心身の関連および健康生活のための運動の意義について概説する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 現代社会における健康問題について理解し、現代生活における健康と運動の意義、運動と身体や心の健康の関係、健康な生活を送るための運動について説明できるようになる。また、具体的な運動の実践方法についても説明し、実施できるようになることを目標とする。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 1. 授業内レポートを数回行う。2. 関心のある健康問題や運動に関するレポートを宿題をして課す。3. 最後に試験を実施する。以上から評価する。出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：必要に応じてプリントを配付</p> <p><b>メッセージ</b> 履修者が多い場合は抽選を行うことがあるので、初回は必ず出席のこと。遅刻は他学生へも迷惑がかかるので厳禁とする。皆さんの習熟度によっては授業内容を変更することもある。</p> <p><b>教官連絡先</b> E-mail: masumi-u@yamaguchi-u.ac.jp 通常は宇部キャンパス(医学部医学科医療環境学講座)にいます。</p>					

開設科目	運動健康科学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	情報・健康	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教官	曽根文夫				
<p><b>授業概要</b> 近代化に伴う生活様式の省力化・機械化は、運動不足状態を作りだし、その健康への影響が心配されるようになっている。本講義では、運動生理学等の研究成果を、なるべく学生諸君の健康の保持・増進のための実践的な知識となるよう解説する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 健康の保持増進のために、適度な運動は必要な要件の1つである。運動することによって生体諸機能にどのような変化が生じ、環境ストレスや病気に対して抵抗性をもつようになるかを理解する。健康のための運動処方の理論を理解し、安全対策を施しながら、個人毎の運動プログラムを作成できる。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 学期末試験の結果と授業中の小レポートの内容を主な評価の対象とする。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：複数のテキストから抜粋した資料を毎時間配布する。/ 参考書：運動生理学 20 講(第2版)、勝田茂編著；大石康晴 [ほか] 著、朝倉書店、1999 年；運動生理学 20 講義(朝倉書店)等のテキストが図書館にある。参考にすること。</p> <p><b>メッセージ</b> 遅刻、私語、飲食は厳禁。</p> <p><b>教官連絡先</b> 教育学部 スポーツ健康科学研究室</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (ショートテニス)	区分	実験・実習	開設期	後期
対象学生	全 (教除く)	単位	1 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教官	池田恵子				
<p><b>授業概要</b> 本授業では、ニュースポーツのひとつであるショートテニスの実習を行う。ショート テニスとは、グリップの短い硬式用テニスラケット、室内テニス用スポンジボール、軽 量かつ固定性に優れたネットポストを用いて行うものである。また本スポーツは、屋内 コートで行うスポーツの安全性に留意して開発され、かつバドミントン・コートなどの 既存の施設を利用して行うことを特徴としている。また手のひら感覚で打球・返球が容 易に行えるので、テニスの初心者に適している。なお、ショートテニスと同様にバドミントン・コートを利用して行うニュースポーツにインディアカがあり、本授業では、受 講人数が用具定員数を上回る場合、インディアカの併設コートを準備し、スポーツ運動 実習として受講者全員に適度な運動量が保証され、効率的に授業に参加できるよう配慮 する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 本授業では、軽スポーツの理念とニュースポーツについて、およびニュースポーツが 生まれた歴史的背景を理解し、安全かつ創造的にスポーツに取り組む能力を修得する。 同時に将来にわたって、スポーツを楽しみ、硬式テニスなどのより高度なスポーツ実践 にも率先して取り組める基礎技術の修得に努める。具体的には、設備の準備・収 納、ゲ ームの実践、審判、観客の役割を実習することにより、基礎技術・戦略の習熟に加えて、本スポーツの文化規範を包括的に理解する。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> (1) 毎時、実習記録表を提出。(2) 軽スポーツの理念に関するレポートの提出。(3) 本授業でとりあげたゲームのルールに関する小テストの実施。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 参考書：『やわらかいスポーツへの招待 - 軽スポーツを科学する - 』, 奈良女子大学文学部スポーツ科学教室編, 同和書院, 1998 年; ニュースポーツ事典, 遊戯社</p> <p><b>メッセージ</b> 硬式テニスを始めてみたいけれど、テニスに苦手意識のある人、室内テニスに挑戦したい人に最適の授業内容です。</p> <p><b>教官連絡先</b> 池田恵子 : E-mail kikeda@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 5381, 研究室 176</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (硬式テニス)	区分	実験・実習	開設期	後期
対象学生	全 (教除く)	単位	1 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教官	塩田正俊				
<p><b>授業概要</b> テニスは技術 (ラケット・ワーク) 体力 (フット・ワーク) そして精神力 (ヘッド・ワーク) を要求される、かなりタフなスポーツである。しかし、老若男女をとわず体力、年齢に応じて楽しめるスポーツである。生涯スポーツとして、健康の保持増進に十分寄与するスポーツである。この授業では、基本技術をマスターし、ゲームおよびゲーム進行 (審判法) を学習する。また、テニス特有のマナーなどについても学習する。</p> <p><b>授業一般目標</b> テニスは生涯スポーツとして、健康の保持増進に十分寄与するスポーツである。テニス技術は一見簡単にマスターできるように見えるが、実際コートにたつてプレーをしてみるとなかなか思いどおりにならない。まずは基本的な技術をマスターすることから始め、最終的には楽しくゲームができるまでをねらいに行う。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 欠席 4 回以上は評価しない。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：必要に応じてプリントを配付</p> <p><b>メッセージ</b> 天候や皆さんの習熟度に応じて授業内容を変更することがあります。</p>					

系列 応用科学

分野 応用科学

科目類型 総説

開設科目	スポーツ運動実習(空手)	区分	実験・実習	開設期	後期
対象学生	全(教除く)	単位	1単位	曜時限	水曜日 1・2時限
担当教官	上地広昭				
<p><b>授業概要</b> 本講では、沖縄空手道(上地流)の稽古を行う。講義内容は、礼儀作法、基本動作、型、ミットトレーニング、および護身術を中心に行う。本講は、初心者向けに構成されているため、受講生の性別、運動経験、および空手歴は一切問わない。</p> <p><b>授業一般目標</b> 沖縄空手道を通して、礼儀作法、基本動作、および護身術を習得することを目標とする。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 出席状況により評価する(3回以上の欠席は不可とする)。</p> <p><b>メッセージ</b> 服装は、動きやすい服装ならば、空手衣でなくても構わない。ただし、安全面から、金具の付いている服装(金属のファスナーは可)や、ピアス・指輪を付けての練習は禁ずる。爪は各自切っておく。</p> <p><b>教官連絡先</b> メールアドレス: uechi@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 応用科学

分野 応用科学

科目類型 総説

開設科目	スポーツ運動実習(フィットネス)	区分	実験・実習	開設期	後期
対象学生	全(教除く)	単位	1単位	曜時限	水曜日 1・2時限
担当教官	河合洋祐				
<p><b>授業概要</b> フィットネスとは健康で活動的に行動できる能力を表す言葉である。適切な身体運動を継続していると運動に対して身体が適応し、フィットネスが向上する。フィットネスを高めるための適切な身体運動は個人の身体的条件によって異なる。本実習ではフィットネスを高め、ゆとりある日常生活を送るために必要なトレーニングの基本的考え方と個人の身体的条件に適した運動の実施方法を実技を通して習得する。また、トレーニング機器を安全かつ効果的に使用する方法を紹介する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 本実習ではフィットネスを高め、ゆとりある日常生活を送るために必要なトレーニングの基本的考え方を理解し、個人の身体的条件に適したトレーニングの実施方法を実技を通して習得するとともに、トレーニング機器の安全かつ効果的な使用方法を学ぶ。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 欠席3回以内で、トレーニングの記録とレポートを提出することが単位認定の条件である。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: 適宜プリントを配布する。/ 参考書: 授業の中で紹介する。</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (硬式テニス)	区分	実験・実習	開設期	後期
対象学生	全 (教除く)	単位	1 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教官	三好洋二				
<p><b>授業概要</b> テニスというスポーツの楽しさは、その発生から考えてラリーを続けることにある。この授業では、初心者及び初級者を中心に、ラリーを続けるという楽しみを味わいながら、ゲームに必要な技術を習得し、テニスというスポーツの実践能力を養います。</p> <p><b>授業一般目標</b> 本授業では、テニスの基本的な個人的技能(グラウンド・ストローク、ボレー、サーブ、スマッシュ、)応用的な技能、ゲームに必要なフォーム・ポジション、基本的ルールを学習・習得するとともに、生涯にわたってスポーツを实践する態度を養う。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 技能の習熟度、授業態度及び授業への出席状況から評価する。なお、欠席が4回以上の者には単位を与えない。</p> <p><b>メッセージ</b> 授業の性格からして、きちんと出席し実践することが大切です。それによって初めてスポーツの楽しさ、おもしろさを感じ取ることができます。</p> <p><b>教官連絡先</b> ymiyoshi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部162番室 オフィスアワ - 金曜日 15：00～18：00</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (バスケットボール)	区分	実験・実習	開設期	後期
対象学生	全 (教除く)	単位	1 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教官	友定保博				
<p><b>授業概要</b> バスケットボールはアメリカで生まれたポピュラーなスポーツです。5人対5人のオールコートでの攻防は早くて激しく、初心者が自分以外の9人の動きを見て合わせることは大変むずかしい。そこでゴール1つ、ハーフコート、3人対3人という、ストリートバスケットやハーフコートバスケットなどで楽しむ人も多くなっています。本実習では3on3を基本に、グループ学習を進めることで、バスケットボールの楽しみ方を共有してほしい。</p> <p><b>授業一般目標</b> 将来、スポーツをいろいろな場で実施し、みんなで楽しめるようにすることが目標です。具体的な目標は、1.グループメンバーの知性を結集して有効なフォーメーションプレーをつくる、2.作戦の成功のため協力して練習内容を創意工夫をする、3.ルールの理解を図り、みんなでバスケットボールのゲームを楽しめるようになる。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 評価は、グループごとの戦術づくりや練習計画・実施の状況などを中心に、以下の観点・方法で評価する。出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p><b>メッセージ</b> 3on3で、バスケットボールの醍醐味を楽しもう！</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (バレーボール)	区分	実験・実習	開設期	後期
対象学生	全 (教除く)	単位	1 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教官	海野勇三				
<p><b>授業概要</b> ここでは、バレーボールを教材に、チームを編成して共同的な学習を展開していく。リーグ戦を中心として、チームごとに練習計画に沿った活動を進めていき、ゲームを分析しながら、戦術理解とチーム力を高めていきたい。また、スポーツとしてのバレーボールの発生と発展の歴史についても学習する。</p> <p><b>授業一般目標</b> チームでの役割分担に基づいて、共同的な学習活動を展開することができる。また、練習とゲーム分析を通じて、攻撃と防御の技能を向上させ、戦術理解を深めることができる。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 出席状況、課題レポート、およびグループでの共同的な取り組みの状況等をもとに総合的に評価する。</p> <p><b>メッセージ</b> グループで共同しながら、自主的な運営のもとに練習とゲームを進めていきます。</p> <p><b>教官連絡先</b> メールアドレス: yunno@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	スポーツ運動実習 (フィットネス・トレーニング [含ソフトバレーボール])	区分	実験・実習	開設期	後期
対象学生	全 (教除く)	単位	1 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教官	曽根文夫				
<p><b>授業概要</b> フィットネスの概念は、アメリカで生まれ、ただ単に病気がない状態ばかりではなしに、日常の生活が活動的に行われることを想定して、その能力を表す言葉として用いられてきた。定期的に身体運動を繰り返していると、その運動刺激に対して身体が適応していく。本コースでは、この身体の適応性を利用してフィットネスを高めていくためのトレーニング、いわゆるフィットネストレーニングを実際に行いながら、その原則、方法などについて学習する。</p> <p><b>授業一般目標</b> フィットネスを高めていくためのトレーニング、いわゆるフィットネストレーニングを実際に行いながら、その原則、方法などについて学び、実践能力を修得してもらうことを目標とする。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 出席が 4 回以上の者には単位を与えない。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: 資料および記録用紙を配付する。</p> <p><b>メッセージ</b> 授業開始時の出席確認時に不在の場合、欠席として扱う。形態・体力測定があります。</p> <p><b>教官連絡先</b> 教育学部 スポーツ健康科学研究室</p>					

開設科目	気象学概論	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(数理・物情・医学除く)	単位	2単位	曜時間	水曜日 3・4時限
担当教官	早川誠而, 鈴木賢士				
<p><b>授業概要</b> 私たちの生活は日々の天気変化のみならず、気象災害、凶作、大気環境、気候変動などに大きく左右される。気象と気象現象に関わる基礎的な知識、理論に加え、新たな見地や今日的なテーマを含めて解説し、気象予報士試験レベルの演習を行う。</p> <p><b>授業一般目標</b> 私たちの生活に関わる気象現象を身近なものとして感じ、さらには、それらをさまざまな時間・空間スケールの現象として捉え、物理法則の数式表現という手段を用いて理解することを目標とする。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> (1) 定期試験を行う。(2) レポートを提出する。(3) 授業内外で演習を行う。以上を下記の観点・割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 参考書：一般気象学, 小倉義光, 東京大学出版会, 1999年</p> <p><b>メッセージ</b> 履修希望者が100名を超えた場合には抽選を行うので初回に必ず出席すること。</p> <p><b>教官連絡先</b> kenjis@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：農学部 3階 325号室, オフィスアワー：在室中随時 hayakawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：総合研究棟 205号室, オフィスアワー：随時</p>					

開設科目	デザイン工学入門	区分	講義	開設期	後期
対象学生	全(理・医学・農除く)	単位	2単位	曜時間	水曜日 3・4時限
担当教官	木下武志				
<p><b>授業概要</b> 現在、様々な分野で曖昧なまま使われている「デザイン＝モダン・デザイン」という語句について、産業革命に端を発する問題解決手法としての形象化行為であり、「芸術(アート)」とは異なる産業技術であることを理解する。実技課題(色彩・平面構成)表現実践を軸に展開し、課題制作の上で必要となる関連分野(構成理論, 色彩学, デザイン論)の解説と連携させていくので、体験的に内容を理解してもらいたい。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) デザイン行為に求められる色彩の基礎について理解する。(2) 色彩構成・平面構成課題作成の表現技術の基礎を知る。(3) 錯視図形についての基本を理解する。(4) 平面における図学について基本を理解する。本科目は、確かな基礎力を有するデザイン関連の職能者を目指して、構成学およびベーシックデザインの基盤となる専門知識・技術の能力を身につける</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> (1) 授業の中で錯視図形と図学の作図を各7回行う。(2) ホームワークで平面構成と色彩構成の表現実践課題を5回作成し、提出する。(3) 教科書の内容に関するレポートを1600字程度で作成し、提出する。(4) 期末テストを実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：美の構成学 パウハウスからフラクタルまで, 三井秀樹, 中公新書, 1996年 / 参考書：JAGDA 教科書 VISUAL DESIGN volume1 平面・色彩・立体構成, (社)日本グラフィックデザイナー協会教育委員会編纂, 六耀社, 1997年</p> <p><b>メッセージ</b> 設定されたレベル以上の制作物を期限内に仕上げるのが肝要である。授業時間の制約から、課題作品の制作やレポート等はホームワークとなり、授業内では課題内容の説明や中間チェック、講評のみとする。表現実践にポスターカラー用の彩色画材・用具一式が必要となる。</p> <p><b>教官連絡先</b> kino1020@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

後期 - 初期教育系列

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	後期
対象学生	教(ノートPC未購入者)	単位	2単位	曜時限	月曜日 9・10時限
担当教官	鷹岡亮				
<p>授業概要 情報活用能力を身につけるために演習や発表を行う。            教科書・参考書 教科書：授業内で教科書を指示する。/ 参考書：参考書は、授業時間内や授業HPで適時紹介する。            メッセージ 皆さんには演習を中心に、積極的に手と頭を動かしてもらいます。連絡には授業HPを利用します。  <a href="http://www.cai.edu.yamaguchi-u.ac.jp/ryo/Lecture/04IT">http://www.cai.edu.yamaguchi-u.ac.jp/ryo/Lecture/04IT</a>            教官連絡先 連絡先：ryo@yamaguchi-u.ac.jp (E-mail)</p>					

開設科目	情報処理演習	区分	演習	開設期	後期
対象学生	経	単位	2単位	曜時限	水曜日 3・4時限
担当教官	木下 真				
<p>授業概要 パソコンの初歩的な使い方からやや応用的な使い方まで、実用面を中心に修得する。            授業一般目標 (1) 自分のパソコンを適切に使用・管理できること (2) 基本的なドキュメンテーションやプレゼンテーションに必要なソフトの操作に慣れること (3) コミュニケーションに必要なソフト(メーラ等)に慣れること (4) 簡単なプログラム(マクロ等)を書けるようになること            成績評価方法(総合) レポート            メッセージ ・毎回出席してください・わからないところはいつでも気軽に質問してください            教官連絡先 随時 mail: kdev@yamaguchi-u.ac.jp 共通教育棟 2F(学務係の真上)</p>					

系列 初期教育

分野 日本事情

科目類型 総説

開設科目	日本事情中級B	区分	講義	開設期	後期
対象学生	外国人留学生	単位	2 単位	曜時限	月曜日 1・2 時限
担当教官	今井新悟				
<p>授業概要 日本の社会・文化について理解し、異文化に対して、バランスの取れた感覚をもって対応できるように、情報を集め、資料を読み、理解し、自分の意見を述べ、参加者と意見交換します。</p> <p>授業一般目標 現代の日本事情、現代日本社会の風俗・習慣、日本人の行動様式について、その理解を深めます。山口の地域固有の文化・社会についての情報を収集し、その理解を深め、収集した資料をまとめ報告する力を身につけます。日本や自国の文化学習を通して、地球社会の多様な文化を相対的に見なす能力を培い、グローバルなコミュニケーションができる能力を養います。</p> <p>成績評価方法(総合) 小テスト、中間・期末試験、出席</p> <p>教科書・参考書 教科書：日本事情入門、佐々木瑞枝、アルク、2001年</p> <p>教官連絡先 共通教育棟 325号室、Tel. (083)933-5088 オフィスアワー 月曜日 13:00-14:00</p>					

系列 初期教育

分野 日本事情

科目類型 総説

開設科目	日本事情上級B	区分	講義	開設期	後期
対象学生	外国人留学生	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	門脇 薫				
<p>授業概要 日本文化・社会について日本語を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場を視聴し、日本語の文法・表現も学びます。</p> <p>授業一般目標 *日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較し、考察する。*様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できる。*映画に出てくる自然な日本語を聞き、文法・表現・言葉についての知識を増やす。</p> <p>成績評価方法(総合) *各テーマについての課題 *各テーマについての発表 *各テーマについてのレポート *最終レポート</p> <p>教科書・参考書 教科書：映画でジャパニーズ、窪田守弘、南雲堂フェニックス、2004年 / 参考書：日本事情ハンドブック、水谷修他、大修館書店、1995年</p> <p>教官連絡先 kkaoru@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	日本事情上級B	区分	講義	開設期	後期
対象学生	外国人留学生	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教官	渡辺淳一				
<p>授業概要 現代の日本事情、現代社会の風俗・習慣、日本人の行動様式について、その理解を深めます。</p> <p>授業一般目標 1. 現代の日本文化・社会を観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較し、考察します。 2. 現代の日本社会の風俗・習慣、日本人の行動様式を理解します。 3. 日本社会の中に積極的に入り、文化・社会体験を深めます。</p> <p>成績評価方法(総合) 与えられたテーマに基づいてレポートを提出していただきます。そのレポートの評価によって学期の成績の評価をします。</p> <p>教科書・参考書 教科書：日本への招待, 近藤安月子他,, 東京大学出版会, 2001 年</p> <p>教官連絡先 メールアドレス: junichiw@yamaguchi-u.ac.jp 電話番号: 9 3 3 - 5 9 8 4</p>					

後期 - 外国語教育系列 ( 英語 )

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	尊田 望				
<p><b>授業概要</b> TOEIC スコア 200 点台の学生を対象とする。TOEIC スコアを上げるための特訓クラスで、TOEIC 準備コースを引き継ぐコースである。TOEIC のパート 1, 2, 5, 6 に焦点を置きつつ、全パートを復習する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 1. Part 1 が 60 % 以上理解できるようになる。2. Part 2 が 50 % 以上理解できるようになる。3. Part 3 が 40 % 以上理解できるようになる。4. Part 4 が 30 % 以上理解できるようになる。5. Part 5 が 50 % 以上理解できるようになる。6. Part 6 が 40 % 以上理解できるようになる。7. Part 7 が 30 % 以上理解できるようになる。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 1. 出席 + 課題 + 参加態度 (=90 %, それぞれ 3 分の 1 ずつ) + その他 (10 %) 2. TOEIC 点数 (最終的にはこちらが優先します)</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Circuit Training for the TOEIC Test, Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2004 年 / 参考書: 英検 3 級全問題集, 旺文社, 旺文社, 2005 年</p> <p><b>メッセージ</b> 中学生までの英語力で基本的な英語のコミュニケーション能力は身につきます。もちろん、TOEIC スコアも 400 点前後可能です。要点は、役に立つ道具と思って英語に触れること。訓練は当然必要です。</p> <p><b>教官連絡先</b> 連絡先: 尊田 望 TEL (083)932-0038 FAX (083)932-0089 携帯 (090) 4654-8264 個人メール: <a href="mailto:sonda_nozomu@ybb.ne.jp">sonda_nozomu@ybb.ne.jp</a></p> <p><b>備考</b> 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	河野庸二				
<p><b>授業概要</b> このクラスは「基礎指導充実」のためのクラスである。したがってもっとも初歩向きのテキストを使用してリスニングの訓練と基礎英文法の基礎力の養成を行う。英文法に関しては課外での予習を元に授業を進める。学生の実力に合わせた説明や進め方の工夫をする。正しい聞き取りのためには、自らの正しい音読練習も基本となるため、できる限りの音読指導も取り入れる。</p> <p><b>授業一般目標</b> リスニング力の向上、基礎文法力の養成、正しい音読の訓練を目標とし、基礎学力の充実をめざす。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 出席率、予習の度合いを加味する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Over the TOEIC Bridge TEST, 水本篤他, 桐原書店, 2006 年</p> <p><b>教官連絡先</b> 個人的な質問に関しては、授業の直後に申し出てもらえれば、対応できる。</p> <p><b>備考</b> 理学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 基礎

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	倉増泰弘				
<p>授業概要 TOEIC のスコアを高めるための指導をする。主に、TOEIC のパート 1 , 2 , 5 , 6 を中心に演習を行うが、必要に応じて他のパートの演習も行う。</p> <p>授業一般目標 TOEIC で 350 点以上の成績を収める。</p> <p>成績評価方法 (総合) TOEIC のスコア (合格基準点 350 点) に基づき、算出する。</p> <p>教科書・参考書 教科書: TOEIC 準備のテキスト。必要に応じてプリント配布。</p> <p>メッセージ 出された課題はきちんとこなし、授業は集中して受けましょう。</p> <p>教官連絡先 yasu_kura0707@yahoo.co.jp</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 基礎

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	高橋 博美				
<p>授業概要 TOEIC テストで 350 点に到達しなかった学生を対象とする。TOEIC テストの問題に準じて、リスニング力と読解力を養う。また、必要に応じて、英文法の基本的事項についても理解を徹底させる。</p> <p>授業一般目標 TOEIC テストで、350 点以上のスコアを獲得することを目標とする。</p> <p>成績評価方法 (総合) TOEIC のスコアに基づき算出する。ただし、授業での学習状況も加味する。</p> <p>教科書・参考書 教科書: プリント配布 / 参考書: プリント配布</p> <p>メッセージ 英語の学習を通して、理解力や想像力を深めて下さい。</p> <p>教官連絡先 hiromi.t@c-able.ne.jp</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 基礎

開設科目	TOEIC 指導 B	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	中村 幸士郎				

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 基礎

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	島 越郎				
<p>授業概要 TOEIC のスコアを高めるための指導を行う。</p> <p>授業一般目標 TOEIC で 350 点以上の成績を収める。</p> <p>教科書・参考書 教科書：TOEIC テスト最短最速攻略テク, 山根和明, 二見書房, 2005 年；補助プリントを配付します。</p> <p>教官連絡先 eshima@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	山根和明				
<p>授業概要 TOEIC のスコアを高めるための指導を行う。特に、パート 1, 2, 5, 6 及び 7 に重点を置いた演習を行う。</p> <p>授業一般目標 TOEIC の基準点 ( 300, 350, 400 ) の獲得。</p> <p>成績評価方法 (総合) TOEIC の基準点 ( 300, 350, 400 ) の獲得が必須。出席率、提出物、授業への参加度を加味する。</p> <p>メッセージ 予習と課題を必ずしてください。Smart-HTML という e-learning ソフト (『英文法徹底トレーニング』など) で予習・復習を行って下さい。</p> <p>教官連絡先 bld10@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	尊田 望				
<p>授業概要 TOEIC350 点未満で、以下の学部生を対象とする：医学部・経済学部・人文学部・工学部 (昼間)・農学部 (生物機能科学科・獣医学科)・理学部 (化学・地球学科)。TOEIC スコアを上げるための特訓クラスで、TOEIC 準備コースを引き継ぐコースである。TOEIC のパート 1, 2, 5, 6 に焦点を置きつつ、全パートを復習する。</p> <p>授業一般目標 1. Part 1 が 80 % 以上理解できるようになる。2. Part 2 が 70 % 以上理解できるようになる。3. Part 3 が 60 % 以上理解できるようになる。4. Part 4 が 50 % 以上理解できるようになる。5. Part 5 が 70 % 以上理解できるようになる。6. Part 6 が 60 % 以上理解できるようになる。7. Part 7 が 50 % 以上理解できるようになる。</p> <p>成績評価方法 (総合) 1. 出席 + 課題 + 参加態度 (=90 %、それぞれ 3 分の 1 ずつ) + その他 (10 %) 2. TOEIC 点数 (最終的にはこちらが優先します)</p> <p>教科書・参考書 教科書：Circuit Training for the TOEIC Test, Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2004 年 / 参考書：Get Score 450, Larry Knipfing, 創育, 1997 年；TOEIC テスト 450 点对策攻略本, Park Deuk-Woo &amp; Choi Byong-Gil, 旺文社, 2004 年；TOEIC テスト・パーフェクト模試 600 問, アンドレア・マイヤーズ &amp; オリブカンパニー, ナガセ, 2000 年；英検準 2 級 全問題集, 旺文社, 2005 年</p> <p>メッセージ 課題をきちんとこなし、授業には毎回出てください。</p> <p>教官連絡先 TEL(083)932-0038 FAX(083)932-0089 E-mail: sonda_nozomu@yahoo.co.jp</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	河野庸二				
<p><b>授業概要</b> TOEIC 形式の演習問題を載せたテキストを使って TOEIC 受験のための英語の実力を養成する。英語特有の音声、速読、および文法項目について演習問題を解きながら解説してゆく。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) 英語の音声に慣れ、リスニングの力をつける。(2) 日本語に訳すことなく英文を出来るだけ速く読めるようにする。(Thinking in English の訓練) (3) 英文法の知識を身につける。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> TOEIC のスコアに基づき評価する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Total Strategy for the TOEIC Test, 石井隆之他, 成美堂, 2006 年</p> <p><b>メッセージ</b> TOEIC においては、自学自習こそが何より肝心であることを肝に銘じてほしい。</p> <p><b>教官連絡先</b> 個人的な質問に関しては、授業終了直後に申し出てもらえば対応できる。</p> <p><b>備考</b> 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	倉増泰弘				
<p><b>授業概要</b> TOEIC のスコアを高めるための指導をする。主に、TOEIC のパート 1, 2, 5, 6 を中心に演習を行うが、必要に応じて他のパートの演習も行う。</p> <p><b>授業一般目標</b> TOEIC で 350 点以上の成績を収める。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> TOEIC のスコア (合格基準点 350 点) に基づき、算出する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: TOEIC 準備のテキスト。必要に応じてプリント配布。</p> <p><b>メッセージ</b> 出された課題はきちんとこなし、授業は集中して受けましょう。</p> <p><b>教官連絡先</b> yasu_kura0707@yahoo.co.jp</p> <p><b>備考</b> 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 B	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	池園宏				
<p>授業概要 TOEIC のリーディングパートを中心に、基本的な語彙・文法・読解演習を行う。</p> <p>授業一般目標 TOEIC スコア 300 点以上をとる力を身につける。</p> <p>成績評価方法(総合) 原則として TOEIC のスコアによる。宿題や授業への参加度を加味することがある。</p> <p>教科書・参考書 教科書：TOEIC Test Basics Checkbook 1, Christofer Bullsmith 他, 南雲堂, 2006 年 / 参考書：講義の中で紹介する。</p> <p>メッセージ 毎回出欠確認をするので、欠席や遅刻をしないこと。</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生	医・工 2 年	単位	1 単位	曜時限	月曜日 11・12 時限
担当教官	堤 千佳子				
<p>授業概要 この授業では、単位認定の必要要件となっている TOEIC テスト 350 点を達成できなかった学生諸君が満を持して再チャレンジすることができるよう指導を行っていくことを目的としている。しかし、TOEIC テストを受験するのはあくまでも学生諸君なので、この授業を受講しながら、自らの努力でなとかしようにする意欲的な学習の姿勢が大切であることはいうまでもない。したがって、ただ漫然と受動的に授業を受けるのではなく、積極的な授業参加が必須である。また、なんとか 350 点をとって必要要件をクリアすればよいという目標の立て方ではなく、400 点・450 点に果敢に挑戦して頂きたい。</p> <p>授業一般目標 (1)TOEIC テストで 350 点を達成する。(2)この学習を通じて真の英語力を身につける。(3)この授業ではとくにリスニングの訓練および口語英語についての知識を深めることと、速読力の上 達を最重要の課題とする。(4)TOEIC テストの特徴をつかみ、学生諸君が実力を十分に発揮できるよう指導を行う。</p> <p>成績評価方法(総合) TOEIC のスコアに基づき算出する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：Power-Up English &lt; Basic &gt;, JACET リスニング研究会, 南雲堂, 2004 年</p> <p>メッセージ 必ず予習をして 授業に臨んでください。授業の最初にリスニングの問題をしますので、遅刻しないこと。</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 基礎

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	高橋 俊章				
<p>授業概要 TOEIC のスコアを高めるための指導を行う。特に、パート 1, 2, 5, 6 及び 7 に重点を置いた演習を行う。</p> <p>授業一般目標 TOEIC の基準点 ( 300, 350, 400 ) の獲得。</p> <p>成績評価方法 (総合) TOEIC の基準点 ( 300, 350, 400 ) の獲得が必須。出席率、提出物、授業への参加度を加味する。</p> <p>メッセージ 予習と課題を必ずしてください。Smart-HTML という e-learning ソフト (『英文法徹底トレーニング』など) で予習・復習を行って下さい。</p> <p>教官連絡先 bld10@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 基礎

開設科目	TOEIC 指導 B	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	石井由理				
<p>授業概要 TOEIC350 点取得を目標に、基本的な単語の学習と TOEIC reading section 形式の練習問題の課題を毎回課し、その解答、解説を中心に授業を進める。</p> <p>授業一般目標 TOEIC350 点取得に必要とされる基本的な単語を修得する。TOEIC の練習問題を通して、基本的な文法事項を学習する。TOEIC の練習問題を通して、英語の文章の読み取り能力を向上させる。</p> <p>成績評価方法 (総合) TOEIC350 点以上を合格とする。それ以外の評価は、課題に対する取り組み状況による。</p> <p>教科書・参考書 教科書：練習問題を適宜プリントで配布する。</p> <p>教官連絡先 教育学部 200 - 1 室 オフィスアワーは初回授業時に指示</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 B	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生	医・工 (平成 14・15 年度入学者)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 11・12 時限
担当教官	唐下笑美子				
<p>授業概要 トーイックのパート1からパート7までの模擬練習問題を一步一步細かく分析しながら慣れるまでトレーニングを行っていく。特にパート7に重点を置く。</p> <p>授業一般目標 トーイックに必要な語彙や文法の知識の強化を図るとともに、リスニングと読解問題に慣れることを目標とする。</p> <p>成績評価方法 (総合) トーイックのスコア、出席、授業内の小テストによる。</p> <p>教科書・参考書 教科書: Hello!! TOEIC Test, Masanao Ikeuchi, 朝日出版社, 2006 年</p> <p>メッセージ 授業には必ず出席してください。予習復習して積極的に目標に向かってください。</p> <p>教官連絡先 emikotg@nifty.com</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	尊田 望				
<p>授業概要 TOEIC350点未満で、以下の学部生を対象とする：医学部・経済学部・人文学部・工学部(昼間)・農学部(生物機能科学科・獣医学科)・理学部(化学・地球学科)。TOEICスコアを上げるための特訓クラスで、TOEIC準備コースを引き継ぐコースである。TOEICのパート1, 2, 5, 6に焦点を置きつつ、全パートを復習する。</p> <p>授業一般目標 1. Part 1が80%以上理解できるようになる。2. Part 2が70%以上理解できるようになる。3. Part 3が60%以上理解できるようになる。4. Part 4が50%以上理解できるようになる。5. Part 5が70%以上理解できるようになる。6. Part 6が60%以上理解できるようになる。7. Part 7が50%以上理解できるようになる。</p> <p>成績評価方法 (総合) 1. 出席+課題+参加態度(=100%、それぞれ3分の1ずつ) 2. TOEIC点数(最終的にはこちらが優先します)</p> <p>教科書・参考書 参考書: Get Score 450, Larry Knipfing, 創育, 1997年; TOEICテスト450点対策攻略本, Park Deuk-Woo &amp; Choi Byong-Gil, 旺文社, 2004年; TOEICテスト・パーフェクト模試600問, アンドレア・マイヤーズ&amp;オリブカンパニー, ナガセ, 2000年; 英検準2級 全問題集, 旺文社, 2005年</p> <p>教官連絡先 TEL (083)932-0038 FAX (083)932-0089 携帯 (090) 4654-8264 メール: sonda_nozomu@ybb.ne.jp</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 基礎

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	河野庸二				
<p>授業概要 TOEIC 準備の段階を終了した者に対して、難易度の最も低いテキストを使って、引き続き TOEIC スコアを上げるための特訓を行なう。</p> <p>成績評価方法 (総合) TOEIC のスコアに基づき算出される。</p> <p>教科書・参考書 教科書: Over the TOEIC Bridge TEST, 水本篤他, 桐原書店, 2006 年</p> <p>メッセージ 毎回の授業におけるトレーニングがすべてであるので、皆勤をめざしてほしい。</p> <p>教官連絡先 個人的な質問に関しては授業終了直後に申し出てもらえれば、対応できる。</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 基礎

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	倉増泰弘				
<p>授業概要 TOEIC のスコアを高めるための指導をする。主に、TOEIC のパート 1, 2, 5, 6 を中心に演習を行うが、必要に応じて他のパートの演習も行う。</p> <p>授業一般目標 TOEIC で 350 点以上の成績を収める。</p> <p>成績評価方法 (総合) TOEIC のスコア (合格基準点 350 点) に基づき、算出する。</p> <p>教科書・参考書 教科書: TOEIC 準備のテキスト。必要に応じてプリント配布。</p> <p>メッセージ 出された課題はきちんとこなし、授業は集中して受けましょう。</p> <p>教官連絡先 yasukura0707@yahoo.co.jp</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 基礎

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	高橋 博美				
<p>授業概要 TOEIC テストで 350 点に到達しなかった学生を対象とする。英文法の基本的事項について理解を徹底させることに重点を置く。また、TOEIC テストの問題に準じて、リスニング力と読解力を養う。</p> <p>授業一般目標 TOEIC テストで、350 点以上のスコアを獲得することを目標とする。</p> <p>成績評価方法 (総合) TOEIC のスコアに基づき算出する。ただし、授業での学習状況も加味する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：プリント配布 / 参考書：プリント配布</p> <p>メッセージ 英語の学習を通して、理解力や想像力を深めて下さい。</p> <p>教官連絡先 hiromi.t@c-able.ne.jp</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 基礎

開設科目	TOEIC 指導 B	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	中村 幸士郎				

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時間	月曜日 7・8 時限
担当教官	唐下笑美子				
<p>授業概要 TOEIC のスコアを高めるための指導を行う。特に、パート 1, 2, 5, 6 及び 7 に重点を置いた演習を行う。</p> <p>授業一般目標 TOEIC の基準点 ( 300, 350, 400 ) の獲得。</p> <p>成績評価方法 (総合) TOEIC の基準点 ( 300, 350, 400 ) の獲得が必須。出席率、提出物、授業への参加度を加味する。</p> <p>メッセージ 予習と課題を必ずしてください。Smart-HTML という e-learning ソフト (『英文法徹底トレーニング』など) で予習・復習を行って下さい。</p> <p>教官連絡先 bld10@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時間	月曜日 7・8 時限
担当教官	尊田 望				
<p>授業概要 TOEIC350 点未満で、以下の学部生を対象とする：医学部・経済学部・人文学部・工学部 (昼間)・農学部 (生物機能科学科・獣医学科)・理学部 (化学・地球学科)。TOEIC スコアを上げるための特訓クラスで、TOEIC 準備コースを引き継ぐコースである。TOEIC のパート 1, 2, 5, 6 に焦点を置きつつ、全パートを復習する。</p> <p>授業一般目標 1. Part 1 が 80 % 以上理解できるようになる。2. Part 2 が 70 % 以上理解できるようになる。3. Part 3 が 60 % 以上理解できるようになる。4. Part 4 が 50 % 以上理解できるようになる。5. Part 5 が 70 % 以上理解できるようになる。6. Part 6 が 60 % 以上理解できるようになる。7. Part 7 が 50 % 以上理解できるようになる。</p> <p>成績評価方法 (総合) 1. 出席 + 課題 + 参加態度 (=100 %、それぞれ 3 分の 1 ずつ) 2. TOEIC 点数 (最終的にはこちらが優先します)。</p> <p>教科書・参考書 教科書：Circuit Training for the TOEIC Test, Mitsuyasu Miyazaki, Seibido, 2004 年；,,,2004 年,,,1997 年,, 旺文社,2004 年,, ナガセ,2000 年 全問題集,, 旺文社,2005 年 / 参考書：Get Score 450, Larry Knipfing, 創育, 2004 年；TOEIC テスト 450 点対策攻略本, Park Deuk-Woo &amp; Choi Byong-Gil, 旺文社, 1997 年；TOEIC テスト・パーフェクト模試 600 問, アンドレア・マイヤーズ &amp; オリーブカンパニー, ナガセ, 2004 年；英検準 2 級全問題集,, 旺文社, 2005 年</p> <p>教官連絡先 TEL (083)932-0038 FAX (083)932-0089 携帯 (090) 4654-8264 個人メール：sonda_nozomu@ybb.ne.jp</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 基礎

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	倉増泰弘				
<p>授業概要 英語の基礎的語彙・文法の学習、平易な英文や会話文の聞き取り練習などを通じて、TOEIC の設問を解答するための基礎力の習得を目指した指導をする。また理解度などに応じて、実際に TOEIC の設問を解くといった演習を行う。</p> <p>授業一般目標 TOEIC で 350 点以上の成績を収める。</p> <p>成績評価方法 (総合) TOEIC のスコア (合格基準点 350 点) に基づき、算出する。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 初回に指示する。</p> <p>メッセージ 出された課題はきちんとこなし、積極的に授業に参加してください。</p> <p>教官連絡先 yasukura0707@yahoo.co.jp</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 基礎

開設科目	TOEIC 指導 B	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	河野庸二				
<p>授業概要 TOEIC 受験対策を行う</p> <p>授業一般目標 TOEIC 目標スコアに到達する力をつける</p> <p>成績評価方法 (総合) TOEIC スコア</p> <p>教科書・参考書 教科書: Total Strategy for the TOEIC Test, 石井隆之他, 成美堂, 2006 年</p> <p>教官連絡先 個人的な質問に関しては、授業終了直後に申し出てもらえれば対応できる。</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生	医・工 2 年	単位	1 単位	曜時限	月曜日 11・12 時限
担当教官	堤 千佳子				
<p><b>授業概要</b> この授業では、単位認定の必要要件となっている TOEIC テスト 350 点を達成できなかった学生諸君が満を持して再チャレンジすることができるよう指導を行っていくことを目的としている。しかし、TOEIC テストを受験するのはあくまでも学生諸君なので、この授業を受講しながら、自らの努力でなにかしよとする意欲的な学習の姿勢が大切であることはいうまでもない。したがって、ただ漫然と受動的に授業を受けるのではなく、積極的な授業参加が必須である。また、なんとか 350 点をとって必要要件をクリアすればよいという目標の立て方ではなく、400 点・450 点に果敢に挑戦して頂きたい。</p> <p><b>授業一般目標</b> 1)TOEIC テストで 350 点を達成する。(2) この学習を通じて真の英語力を身につける。(3) この授業ではとくにリスニングの訓練および口語英語についての知識を深めることと、速読力の上 達を最重要の課題とする。(4)TOEIC テストの特徴をつかみ、学生諸君が実力を十分に発揮できるよう指導を行う。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> TOEIC のスコアに基づき算出する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：Power-Up English &lt; Basic &gt; , JACET リスニング研究会, 南雲堂, 2004 年</p> <p><b>メッセージ</b> 必ず予習をして 授業に臨んでください。授業の最初にリスニングの問題をするので、遅刻しないこと。</p>					

開設科目	TOEIC 指導 A	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	正宗 聡				
<p><b>授業概要</b> TOEIC テストのパート 4 と 7 の得点アップ強化。</p> <p><b>授業一般目標</b> TOEIC のスコアアップを目指す。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> TOEIC スコアによる</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：TOEIC テスト 最短最速攻略テク, 山根和明, 二見書房, 2005 年 ; 授業開始時まで、このテキストを購入し、付属の CD を何回も聞いておくこと。</p> <p><b>備考</b> 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	TOEIC 指導 B	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生		単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	猫田和明				
<p>授業概要 TOEIC の PART1,2,5,6 を中心に、リスニング演習と基本的な語彙・文法演習を行う。</p> <p>授業一般目標 TOEIC300 点以上をとれる力をつける。</p> <p>成績評価方法(総合) 原則として TOEIC のスコアによる。宿題や授業への参加度を加味することがある。</p> <p>教科書・参考書 教科書：「TOEIC 準備」の教科書及びその他のプリント教材を用いる。</p> <p>教官連絡先 nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 933-5417 研究室(教育 A354)</p>					

開設科目	TOEIC 指導 B	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生	医・工(平成 14・15 年度入学者)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 11・12 時限
担当教官	前田満				
<p>授業概要 この授業では、単位認定の必要要件となっている TOEIC テスト 350 点を達成できなかった学生諸君が満を持して再チャレンジすることができるよう指導を行っていくことを目的としている。しかし、TOEIC テストを受験するのはあくまでも学生諸君なので、この授業を受講しながら、自らの努力でなんとかしようとする意欲的な学習の姿勢が大切であることはいうまでもない。したがって、ただ漫然と受動的に授業を受けるのではなく、積極的な授業参加が必須である。また、なんとか 350 点をとって必要要件をクリアすればよいという目標の立て方ではなく、400 点・450 点に果敢に挑戦して頂きたい。</p> <p>授業一般目標 (1)TOEIC テストで 350 点を達成する。(2)この学習を通じて真の英語力を身につける。(3)この授業ではとくにリスニングの訓練および口語英語についての知識を深めることと、速読力の上 達を最重要の課題とする。(4)TOEIC テストの特徴をつかみ、学生諸君が実力を十分に発揮できるよう指導を行う。</p> <p>成績評価方法(総合) TOEIC のスコアに基づき算出する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：固定したテキストを用いずに、プリント等の配布により授業を進める。</p>					

開設科目	英語基礎文法	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	田中晉				
<p>授業概要 基本的文法事項の理解，語彙力の強化を目的とします。授業では，統一テキスト『英語基礎』を用いて，文法の基本事項の総まとめをします。宿題は復習です。授業で習った文法事項について，練習問題を解き，e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また，毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と，英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので，これらもどんどん活用してテストに備えてください。 e-learning は，外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります ( <a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a> ) が，URL が長いので，山口大学トップページから，「在学生の方へ」，「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。 授業では，文法と単語のテストを実施します。</p> <p>授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>成績評価方法 (総合) 文法テストが 1300 点 (13 回) 単語テストが 400 点 (10 回) です。 『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 300 点とし、これらの合計 2000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p>教科書・参考書 教科書：『英語基礎』，山口大学共通教育英語部会編，開拓社，2004 年</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	猫田和明				
<p>授業概要 基本的文法事項の理解，語彙力の強化を目的とします。授業では，統一テキスト『英語基礎』を用いて，文法の基本事項の総まとめをします。宿題は復習です。授業で習った文法事項について，練習問題を解き，e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また，毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と，英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので，これらもどんどん活用してテストに備えてください。 e-learning は，外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります ( <a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a> ) が，URL が長いので，山口大学トップページから，「在学生の方へ」，「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。 授業では，文法と単語のテストを実施します。</p> <p>授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>成績評価方法 (総合) 文法テストが 1300 点 (13 回) 単語テストが 400 点 (10 回) です。 『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 300 点とし、これらの合計 2000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p>教科書・参考書 教科書：『英語基礎』，山口大学共通教育英語部会編，開拓社，2004 年</p> <p>教官連絡先 nekoda@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時間	火曜日 5・6 時限
担当教官	岡 紘一郎				
<p><b>授業概要</b> 基本的文法事項の理解，語彙力の強化を目的とします。授業では，統一テキスト『英語基礎』を用いて，文法の基本事項の総まとめをします。宿題は復習です。授業で習った文法事項について，練習問題を解き，e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また，毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と，英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので，これらもどんどん活用してテストに備えてください。e-learning は，外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります (<a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a>) が，URL が長いので，山口大学トップページから，「在学生の方へ」，「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。授業では，文法と単語のテストを実施します。</p> <p><b>授業一般目標</b> 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 文法テストが 1300 点 (13 回) 単語テストが 400 点 (10 回) です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 300 点とし、これらの合計 2000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p><b>教科書・参考書 教科書：</b>『英語基礎』，山口大学共通教育英語部会編，開拓社，2004 年</p> <p><b>備考</b> 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時間	火曜日 5・6 時限
担当教官	増田 勉				
<p><b>授業概要</b> 基本的文法事項の理解，語彙力の強化を目的とします。授業では，統一テキスト『英語基礎』を用いて，文法の基本事項の総まとめをします。宿題は復習です。授業で習った文法事項について，練習問題を解き，e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また，毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と，英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので，これらもどんどん活用してテストに備えてください。e-learning は，外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります (<a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a>) が，URL が長いので，山口大学トップページから，「在学生の方へ」，「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。授業では，文法と単語のテストを実施します。</p> <p><b>授業一般目標</b> 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 文法テストが 1300 点 (13 回) 単語テストが 400 点 (10 回) です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 300 点とし、これらの合計 2000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p><b>教科書・参考書 教科書：</b>『英語基礎』，山口大学共通教育英語部会編，開拓社，2004 年</p> <p><b>メッセージ</b> 座席は固定とします (初回の授業で決めます)。2つのテストを終えて退出する場合は (やむを得ぬ理由ででない限り) その回の2つのテストの得点を0点とします。授業中居眠りをしている場合は欠席扱いとします。授業途中で無断退出する人は欠格とします (単位を認定しません)。授業には辞書を持参してください。</p> <p><b>教官連絡先</b> 教育学部 2 階増田研究室 電話 933-5425 火曜日 16:00-17:00</p> <p><b>備考</b> 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	矢野 紀子				
<p>授業概要 基本的文法事項の理解，語彙力の強化を目的とします。授業では，統一テキスト『英語基礎』を用いて，文法の基本事項の総まとめをします。宿題は復習です。授業で習った文法事項について，練習問題を解き，e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また，毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と，英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので，これらもどんどん活用してテストに備えてください。 e-learning は，外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります ( <a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a> ) が，URL が長いので，山口大学トップページから，「在学生の方へ」，「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。 授業では，文法と単語のテストを実施します。</p> <p>授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>成績評価方法 (総合) 文法テストが 1300 点 (13 回) 単語テストが 400 点 (10 回) です。 『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 300 点とし、これらの合計 2000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p>教科書・参考書 教科書：『英語基礎』，山口大学共通教育英語部会編，開拓社，2004 年</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	太田聡				
<p>授業概要 基本的文法事項の理解，語彙力の強化を目的とします。授業では，統一テキスト『英語基礎』を用いて，文法の基本事項の総まとめをします。宿題は復習です。授業で習った文法事項について，練習問題を解き，e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また，毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と，英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので，これらもどんどん活用してテストに備えてください。 e-learning は，外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります ( <a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a> ) が，URL が長いので，山口大学トップページから，「在学生の方へ」，「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。 授業では，文法と単語のテストを実施します。</p> <p>授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>成績評価方法 (総合) 文法テストが 1300 点 (13 回) 単語テストが 400 点 (10 回) です。 『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 300 点とし、これらの合計 2000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p>教科書・参考書 教科書：『英語基礎』，山口大学共通教育英語部会編，開拓社，2004 年</p> <p>備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	石井 由理				
<p>授業概要 基本的文法事項の理解，語彙力の強化を目的とします。授業では，統一テキスト『英語基礎』を用いて，文法の基本事項の総まとめをします。宿題は復習です。授業で習った文法事項について，練習問題を解き，e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また，毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と，英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので，これらもどんどん活用してテストに備えてください。e-learning は，外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります (<a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a>) が，URL が長いので，山口大学トップページから，「在学生の方へ」，「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。授業では，文法と単語のテストを実施します。</p> <p>授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>成績評価方法(総合) 文法テストが1300点(13回)単語テストが400点(10回)です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を300点とし、これらの合計2000点満点を100点満点に換算して成績評価します。</p> <p>教科書・参考書 教科書：『英語基礎』，山口大学共通教育英語部会編，開拓社，2004年            教官連絡先 教育学部 200 - (1) 石井研究室 オフィスアワーは初回授業時に指示。            備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	武井 暁子				
<p>授業概要 基本的文法事項の理解，語彙力の強化を目的とします。授業では，統一テキスト『英語基礎』を用いて，文法の基本事項の総まとめをします。宿題は復習です。授業で習った文法事項について，練習問題を解き，e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また，毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と，英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので，これらもどんどん活用してテストに備えてください。e-learning は，外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります (<a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a>) が，URL が長いので，山口大学トップページから，「在学生の方へ」，「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。授業では，文法と単語のテストを実施します。</p> <p>授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>成績評価方法(総合) 文法テストが1300点(13回)単語テストが400点(10回)です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を300点とし、これらの合計2000点満点を100点満点に換算して成績評価します。</p> <p>教科書・参考書 教科書：『英語基礎』，山口大学共通教育英語部会編，開拓社，2004年            教官連絡先 akitagei@yamaguchi-u.ac.jp 水曜昼休み 上記以外面談希望はアポイントメントを取る            備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	岩部浩三				
<p>授業概要 基本的文法事項の理解，語彙力の強化を目的とします。授業では，統一テキスト『英語基礎』を用いて，文法の基本事項の総まとめをします。宿題は復習です。授業で習った文法事項について，練習問題を解き，e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また，毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と，英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので，これらもどんどん活用してテストに備えてください。 e-learning は，外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります ( <a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a> ) が，URL が長いので，山口大学トップページから，「在学生の方へ」，「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。 授業では，文法と単語のテストを実施します。</p> <p>授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>成績評価方法 (総合) 文法テストが 1300 点 (13 回) 単語テストが 400 点 (10 回) です。 『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 300 点とし、これらの合計 2000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p>教科書・参考書 教科書：『英語基礎』，山口大学共通教育英語部会編，開拓社，2004 年            教官連絡先 iwabe@yamaguchi-u.ac.jp            備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	皆尾 麻弥				
<p>授業概要 基本的文法事項の理解，語彙力の強化を目的とします。授業では，統一テキスト『英語基礎』を用いて，文法の基本事項の総まとめをします。宿題は復習です。授業で習った文法事項について，練習問題を解き，e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また，毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と，英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので，これらもどんどん活用してテストに備えてください。 e-learning は，外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります ( <a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a> ) が，URL が長いので，山口大学トップページから，「在学生の方へ」，「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。 授業では，文法と単語のテストを実施します。</p> <p>授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>成績評価方法 (総合) 文法テストが 1300 点 (13 回) 単語テストが 400 点 (10 回) です。 『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 300 点とし、これらの合計 2000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p>教科書・参考書 教科書：『英語基礎』，山口大学共通教育英語部会編，開拓社，2004 年            備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	島 越郎				
<p>授業概要 基本的文法事項の理解，語彙力の強化を目的とします。授業では，統一テキスト『英語基礎』を用いて，文法の基本事項の総まとめをします。宿題は復習です。授業で習った文法事項について，練習問題を解き，e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また，毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と，英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので，これらもどんどん活用してテストに備えてください。 e-learning は，外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります ( <a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a> ) が，URL が長いので，山口大学トップページから，「在学生の方へ」，「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。 授業では，文法と単語のテストを実施します。</p> <p>授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>成績評価方法 (総合) 文法テストが 1300 点 (13 回) 単語テストが 400 点 (10 回) です。 『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 300 点とし、これらの合計 2000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p>教科書・参考書 教科書：『英語基礎』，山口大学共通教育英語部会編，開拓社，2004 年            教官連絡先 eshima@yamaguchi-u.ac.jp            備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	倉増 泰弘				
<p>授業概要 基本的文法事項の理解，語彙力の強化を目的とします。授業では，統一テキスト『英語基礎』を用いて，文法の基本事項の総まとめをします。宿題は復習です。授業で習った文法事項について，練習問題を解き，e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また，毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と，英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので，これらもどんどん活用してテストに備えてください。 e-learning は，外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります ( <a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a> ) が，URL が長いので，山口大学トップページから，「在学生の方へ」，「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。 授業では，文法と単語のテストを実施します。</p> <p>授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>成績評価方法 (総合) 文法テストが 1300 点 (13 回) 単語テストが 400 点 (10 回) です。 『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 300 点とし、これらの合計 2000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p>教科書・参考書 教科書：『英語基礎』，山口大学共通教育英語部会編，開拓社，2004 年            備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	武井 暁子				
<p>授業概要 基本的文法事項の理解，語彙力の強化を目的とします。授業では，統一テキスト『英語基礎』を用いて，文法の基本事項の総まとめをします。宿題は復習です。授業で習った文法事項について，練習問題を解き，e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また，毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と，英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので，これらもどんどん活用してテストに備えてください。 e-learning は，外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります ( <a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a> ) が，URL が長いので，山口大学トップページから，「在学生の方へ」，「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。 授業では，文法と単語のテストを実施します。</p> <p>授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>成績評価方法 (総合) 文法テストが 1300 点 (13 回) 単語テストが 400 点 (10 回) です。 『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 300 点とし、これらの合計 2000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p>教科書・参考書 教科書：『英語基礎』，山口大学共通教育英語部会編，開拓社，2004 年            教官連絡先 iwabe@yamaguchi-u.ac.jp            備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	岡 紘一郎				
<p>授業概要 基本的文法事項の理解，語彙力の強化を目的とします。授業では，統一テキスト『英語基礎』を用いて，文法の基本事項の総まとめをします。宿題は復習です。授業で習った文法事項について，練習問題を解き，e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また，毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と，英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので，これらもどんどん活用してテストに備えてください。 e-learning は，外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります ( <a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a> ) が，URL が長いので，山口大学トップページから，「在学生の方へ」，「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。 授業では，文法と単語のテストを実施します。</p> <p>授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>成績評価方法 (総合) 文法テストが 1300 点 (13 回) 単語テストが 400 点 (10 回) です。 『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 300 点とし、これらの合計 2000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p>教科書・参考書 教科書：『英語基礎』，山口大学共通教育英語部会編，開拓社，2004 年            メッセージ 毎日のたゆみない学習しか学力を充実させる方法はない。毎回出席すること。お互いに勉強しよう。            備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法	区分	講義	開設期	後期
対象学生	2年	単位	2単位	曜時限	火曜日 9・10時限
担当教官	前田 満				
<p><b>授業概要</b> 基本的文法事項の理解，語彙力の強化を目的とします。授業では，統一テキスト『英語基礎』を用いて，文法の基本事項の総まとめをします。宿題は復習です。授業で習った文法事項について，練習問題を解き，e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また，毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と，英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので，これらもどんどん活用してテストに備えてください。e-learning は，外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります (<a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a>) が，URL が長いので，山口大学トップページから，「在学生の方へ」，「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。授業では，文法と単語のテストを実施します。</p> <p><b>授業一般目標</b> 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 文法テストが 1300 点（13 回）単語テストが 400 点（10 回）です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 300 点とし、これらの合計 2000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p><b>教科書・参考書 教科書：</b>『英語基礎』，山口大学共通教育英語部会編，開拓社，2004 年</p>					

開設科目	英語基礎文法	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2単位	曜時限	火曜日 9・10時限
担当教官	池田 守				
<p><b>授業概要</b> 基本的文法事項の理解，語彙力の強化を目的とします。授業では，統一テキスト『英語基礎』を用いて，文法の基本事項の総まとめをします。宿題は復習です。授業で習った文法事項について，練習問題を解き，e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また，毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と，英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので，これらもどんどん活用してテストに備えてください。e-learning は，外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります (<a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a>) が，URL が長いので，山口大学トップページから，「在学生の方へ」，「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。授業では，文法と単語のテストを実施します。</p> <p><b>授業一般目標</b> 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 文法テストが 1300 点（13 回）単語テストが 400 点（10 回）です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 300 点とし、これらの合計 2000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p><b>教科書・参考書 教科書：</b>『英語基礎』，山口大学共通教育英語部会編，開拓社，2004 年</p> <p><b>備考</b> 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法	区分	講義	開設期	後期
対象学生	医・工 2 年	単位	2 単位	曜時間	火曜日 11・12 時限
担当教官	内海 俊祐				
<p><b>授業概要</b> 基本的文法事項の理解，語彙力の強化を目的とします。授業では，統一テキスト『英語基礎』を用いて，文法の基本事項の総まとめをします。宿題は復習です。授業で習った文法事項について，練習問題を解き，e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また，毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と，英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので，これらもどんどん活用してテストに備えてください。e-learning は，外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります (<a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a>) が，URL が長いので，山口大学トップページから，「在学生の方へ」，「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。授業では，文法と単語のテストを実施します。</p> <p><b>授業一般目標</b> 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 文法テストが 1300 点 (13 回) 単語テストが 400 点 (10 回) です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 300 点とし、これらの合計 2000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p><b>教科書・参考書 教科書：</b>『英語基礎』，山口大学共通教育英語部会編，開拓社，2004 年</p>					

開設科目	英語基礎文法〔1〕	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生	3 年	単位	1 単位	曜時間	火曜日 5・6 時限
担当教官	高橋 俊章				
<p><b>授業概要</b> 基本的文法事項の理解，語彙力の強化を目的とします。授業では，統一テキスト『英語基礎』を用いて，文法の基本事項の総まとめをします。宿題は復習です。授業で習った文法事項について，練習問題を解き，e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また，毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と，英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので，これらもどんどん活用してテストに備えてください。e-learning は，外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります (<a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a>) が，URL が長いので，山口大学トップページから，「在学生の方へ」，「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。授業では，文法と単語のテストを実施します。</p> <p><b>授業一般目標</b> 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 文法テストが 700 点 (7 回) [「英語基礎文法 (1)」のみを受講する者に対しては、600 点 (6 回)] 単語テストが 200 点 (5 回) です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 100 点 [あるいは 200 点] とし、これらの合計 1000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p><b>教科書・参考書 教科書：</b>『英語基礎』，山口大学共通教育英語部会編，開拓社，2004 年</p> <p><b>メッセージ</b> なし</p> <p><b>教官連絡先</b> bld10@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p><b>備考</b> 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法〔 2 〕	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生	3 年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	高橋 俊章				
<p><b>授業概要</b> 基本的文法事項の理解，語彙力の強化を目的とします。授業では，統一テキスト『英語基礎』を用いて，文法の基本事項の総まとめをします。宿題は復習です。授業で習った文法事項について，練習問題を解き，e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また，毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と，英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので，これらもどんどん活用してテストに備えてください。e-learning は，外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります (<a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a>) が，URL が長いので，山口大学トップページから，「在学生の方へ」，「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。授業では，文法と単語のテストを実施します。</p> <p><b>授業一般目標</b> 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 文法テストが 600 点 (6 回) 単語テストが 200 点 (5 回) です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 200 点とし、これらの合計 1000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：『英語基礎』，山口大学共通教育英語部会編，開拓社，2004 年</p> <p><b>メッセージ</b> なし</p> <p><b>教官連絡先</b> bld10@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p><b>備考</b> 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法〔 1 〕	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生	3 年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	尊田望				
<p><b>授業概要</b> 基本的文法事項の理解，語彙力の強化を目的とします。授業では，統一テキスト『英語基礎』を用いて，文法の基本事項の総まとめをします。宿題は復習です。授業で習った文法事項について，練習問題を解き，e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また，毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と，英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので，これらもどんどん活用してテストに備えてください。e-learning は，外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります (<a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a>) が，URL が長いので，山口大学トップページから，「在学生の方へ」，「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。授業では，文法と単語のテストを実施します。</p> <p><b>授業一般目標</b> 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 文法テストが 700 点 (7 回) [「英語基礎文法 (1)」のみを受講する者に対しては、600 点 (6 回)] 単語テストが 200 点 (5 回) です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 100 点 [あるいは 200 点] とし、これらの合計 1000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：『英語基礎』，山口大学共通教育英語部会編，開拓社，2004 年</p> <p><b>備考</b> 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法〔2〕	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生	3年	単位	1単位	曜時限	火曜日 7・8時限
担当教官	尊田望				
<p><b>授業概要</b> 基本的文法事項の理解，語彙力の強化を目的とします。授業では，統一テキスト『英語基礎』を用いて，文法の基本事項の総まとめをします。宿題は復習です。授業で習った文法事項について，練習問題を解き，e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また，毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と，英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので，これらもどんどん活用してテストに備えてください。e-learning は，外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります (<a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a>) が，URL が長いので，山口大学トップページから，「在学生の方へ」，「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。授業では，文法と単語のテストを実施します。</p> <p><b>授業一般目標</b> 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 文法テストが 600 点 (6 回) 単語テストが 200 点 (5 回) です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 200 点とし、これらの合計 1000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p><b>教科書・参考書 教科書：</b>『英語基礎』，山口大学共通教育英語部会編，開拓社，2004 年</p> <p><b>備考</b> 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法〔1〕	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生	3年生	単位	1単位	曜時限	火曜日 9・10時限
担当教官	鴨川 啓信				
<p><b>授業概要</b> 基本的文法事項の理解，語彙力の強化を目的とします。授業では，統一テキスト『英語基礎』を用いて，文法の基本事項の総まとめをします。宿題は復習です。授業で習った文法事項について，練習問題を解き，e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また，毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と，英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので，これらもどんどん活用してテストに備えてください。e-learning は，外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります (<a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a>) が，URL が長いので，山口大学トップページから，「在学生の方へ」，「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。授業では，文法と単語のテストを実施します。</p> <p><b>授業一般目標</b> 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 文法テストが 700 点 (7 回) [「英語基礎文法 (1)」のみを受講する者に対しては、600 点 (6 回)] 単語テストが 200 点 (5 回) です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 100 点 [あるいは 200 点] とし、これらの合計 1000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p><b>教科書・参考書 教科書：</b>『英語基礎』，山口大学共通教育英語部会編，開拓社，2004 年</p> <p><b>教官連絡先</b> e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 経済 A207</p> <p><b>備考</b> 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法〔 2 〕	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生	3 年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限
担当教官	鴨川 啓信				
<p>授業概要 基本的文法事項の理解，語彙力の強化を目的とします。授業では，統一テキスト『英語基礎』を用いて，文法の基本事項の総まとめをします。宿題は復習です。授業で習った文法事項について，練習問題を解き，e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また，毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と，英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので，これらもどんどん活用してテストに備えてください。 e-learning は，外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります ( <a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a> ) が，URL が長いので，山口大学トップページから，「在学生の方へ」，「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。 授業では，文法と単語のテストを実施します。</p> <p>授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>成績評価方法 (総合) 文法テストが 600 点 (6 回) 単語テストが 200 点 (5 回) です。 『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 200 点とし、これらの合計 1000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p>教科書・参考書 教科書：『英語基礎』，山口大学共通教育英語部会編，開拓社，2004 年            教官連絡先 e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 経済 A207            備考 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎文法〔 1 〕	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生	医・工 3 年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限
担当教官	唐下 笑美子				
<p>授業概要 基本的文法事項の理解，語彙力の強化を目的とします。授業では，統一テキスト『英語基礎』を用いて，文法の基本事項の総まとめをします。宿題は復習です。授業で習った文法事項について，練習問題を解き，e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また，毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と，英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので，これらもどんどん活用してテストに備えてください。 e-learning は，外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります ( <a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a> ) が，URL が長いので，山口大学トップページから，「在学生の方へ」，「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。 授業では，文法と単語のテストを実施します。</p> <p>授業一般目標 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p>成績評価方法 (総合) 文法テストが 700 点 (7 回) [「英語基礎文法 (1)」のみを受講する者に対しては、600 点 (6 回)] 単語テストが 200 点 (5 回) です。 『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 100 点 [あるいは 200 点] とし、これらの合計 1000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p>教科書・参考書 教科書：『英語基礎』，山口大学共通教育英語部会編，開拓社，2004 年            メッセージ なし            教官連絡先 emikotg@nifty.com</p>					

開設科目	英語基礎文法〔2〕	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生	医・工3年	単位	1単位	曜時限	火曜日 9・10時限
担当教官	唐下 笑美子				
<p><b>授業概要</b> 基本的文法事項の理解，語彙力の強化を目的とします。授業では，統一テキスト『英語基礎』を用いて，文法の基本事項の総まとめをします。宿題は復習です。授業で習った文法事項について，練習問題を解き，e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また，毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と，英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので，これらもどんどん活用してテストに備えてください。e-learning は，外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります (<a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a>) が，URL が長いので，山口大学トップページから，「在学生の方へ」，「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。授業では，文法と単語のテストを実施します。</p> <p><b>授業一般目標</b> 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 文法テストが 600 点 (6 回) 単語テストが 200 点 (5 回) です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 200 点とし、これらの合計 1000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：『英語基礎』，山口大学共通教育英語部会編，開拓社，2004 年</p> <p><b>メッセージ</b> なし</p> <p><b>教官連絡先</b> emikotg@nifty.com</p>					

開設科目	英語基礎〔1〕	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生	3年	単位	1単位	曜時限	火曜日 7・8時限
担当教官	尊田望				
<p><b>授業概要</b> 基本的文法事項の理解，語彙力の強化を目的とします。授業では，統一テキスト『英語基礎』を用いて，文法の基本事項の総まとめをします。宿題は復習です。授業で習った文法事項について，練習問題を解き，e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また，毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と，英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので，これらもどんどん活用してテストに備えてください。e-learning は，外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります (<a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a>) が，URL が長いので，山口大学トップページから，「在学生の方へ」，「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。授業では，文法と単語のテストを実施します。</p> <p><b>授業一般目標</b> 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 文法テストが 700 点 (7 回) [「英語基礎文法 (1)」のみを受講する者に対しては、600 点 (6 回)] 単語テストが 200 点 (5 回) です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 100 点 [あるいは 200 点] とし、これらの合計 1000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：『英語基礎』，山口大学共通教育英語部会編，開拓社，2004 年</p> <p><b>備考</b> 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎〔2〕	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生	3年	単位	1単位	曜時間	火曜日 7・8時限
担当教官	尊田望				
<p><b>授業概要</b> 基本的文法事項の理解，語彙力の強化を目的とします。授業では，統一テキスト『英語基礎』を用いて，文法の基本事項の総まとめをします。宿題は復習です。授業で習った文法事項について，練習問題を解き，e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また，毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と，英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので，これらもどんどん活用してテストに備えてください。e-learning は，外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります (<a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a>) が，URL が長いので，山口大学トップページから，「在学生の方へ」，「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。授業では，文法と単語のテストを実施します。</p> <p><b>授業一般目標</b> 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 文法テストが 600 点 (6 回) 単語テストが 200 点 (5 回) です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 200 点とし、これらの合計 1000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p><b>教科書・参考書 教科書：</b>『英語基礎』，山口大学共通教育英語部会編，開拓社，2004 年</p> <p><b>備考</b> 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎〔1〕	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生	3年	単位	1単位	曜時間	火曜日 5・6時限
担当教官	高橋 俊章				
<p><b>授業概要</b> 基本的文法事項の理解，語彙力の強化を目的とします。授業では，統一テキスト『英語基礎』を用いて，文法の基本事項の総まとめをします。宿題は復習です。授業で習った文法事項について，練習問題を解き，e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また，毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と，英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので，これらもどんどん活用してテストに備えてください。e-learning は，外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります (<a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a>) が，URL が長いので，山口大学トップページから，「在学生の方へ」，「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。授業では，文法と単語のテストを実施します。</p> <p><b>授業一般目標</b> 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 文法テストが 700 点 (7 回) [「英語基礎文法 (1)」のみを受講する者に対しては、600 点 (6 回)] 単語テストが 200 点 (5 回) です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 100 点 [あるいは 200 点] とし、これらの合計 1000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p><b>教科書・参考書 教科書：</b>『英語基礎』，山口大学共通教育英語部会編，開拓社，2004 年</p> <p><b>メッセージ</b> なし</p> <p><b>教官連絡先</b> bld10@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p><b>備考</b> 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎〔2〕	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生	3年	単位	1単位	曜時限	火曜日 5・6時限
担当教官	高橋 俊章				
<p><b>授業概要</b> 基本的文法事項の理解，語彙力の強化を目的とします。授業では，統一テキスト『英語基礎』を用いて，文法の基本事項の総まとめをします。宿題は復習です。授業で習った文法事項について，練習問題を解き，e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また，毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と，英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので，これらもどんどん活用してテストに備えてください。e-learning は，外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります (<a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a>) が，URL が長いので，山口大学トップページから，「在学生の方へ」，「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。授業では，文法と単語のテストを実施します。</p> <p><b>授業一般目標</b> 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 文法テストが 600 点 (6 回) 単語テストが 200 点 (5 回) です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 200 点とし、これらの合計 1000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：『英語基礎』，山口大学共通教育英語部会編，開拓社，2004 年</p> <p><b>メッセージ</b> なし</p> <p><b>教官連絡先</b> bld10@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p><b>備考</b> 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎〔1〕	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生	3年生	単位	1単位	曜時限	火曜日 9・10時限
担当教官	鴨川 啓信				
<p><b>授業概要</b> 基本的文法事項の理解，語彙力の強化を目的とします。授業では，統一テキスト『英語基礎』を用いて，文法の基本事項の総まとめをします。宿題は復習です。授業で習った文法事項について，練習問題を解き，e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また，毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と，英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので，これらもどんどん活用してテストに備えてください。e-learning は，外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります (<a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a>) が，URL が長いので，山口大学トップページから，「在学生の方へ」，「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。授業では，文法と単語のテストを実施します。</p> <p><b>授業一般目標</b> 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 文法テストが 700 点 (7 回) [「英語基礎文法 (1)」のみを受講する者に対しては、600 点 (6 回)] 単語テストが 200 点 (5 回) です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 100 点 [あるいは 200 点] とし、これらの合計 1000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：『英語基礎』，山口大学共通教育英語部会編，開拓社，2004 年</p> <p><b>教官連絡先</b> e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 経済 A207</p> <p><b>備考</b> 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎〔2〕	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生	3年	単位	1単位	曜時限	火曜日 9・10時限
担当教官	鴨川 啓信				
<p><b>授業概要</b> 基本的文法事項の理解，語彙力の強化を目的とします。授業では，統一テキスト『英語基礎』を用いて，文法の基本事項の総まとめをします。宿題は復習です。授業で習った文法事項について，練習問題を解き，e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また，毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と，英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので，これらもどんどん活用してテストに備えてください。 e-learning は，外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります ( <a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a> ) が，URL が長いので，山口大学トップページから，「在学生の方へ」，「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。 授業では，文法と単語のテストを実施します。</p> <p><b>授業一般目標</b> 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 文法テストが 600 点 (6 回) 単語テストが 200 点 (5 回) です。 『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 200 点とし、これらの合計 1000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：『英語基礎』，山口大学共通教育英語部会編，開拓社，2004 年  <b>教官連絡先</b> e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 経済 A207  <b>備考</b> 理学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	英語基礎〔1〕	区分	講義	開設期	後期前半期
対象学生	医・工 3 年 (平成 14・15 年度入学者)	単位	1 単位	曜時限	火曜日 11・12 時限
担当教官	池田 守				
<p><b>授業概要</b> 基本的文法事項の理解，語彙力の強化を目的とします。授業では，統一テキスト『英語基礎』を用いて，文法の基本事項の総まとめをします。宿題は復習です。授業で習った文法事項について，練習問題を解き，e-learnig ソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また，毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と，英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので，これらもどんどん活用してテストに備えてください。 e-learning は，外国語センターの WBT 教材のページにまとめてあります ( <a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a> ) が，URL が長いので，山口大学トップページから，「在学生の方へ」，「WBT 教材」とリンクをたどることもできます。 授業では，文法と単語のテストを実施します。</p> <p><b>授業一般目標</b> 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 文法テストが 700 点 (7 回) [「英語基礎 (1)」のみを受講する者に対しては、600 点 (6 回)] 単語テストが 200 点 (5 回) です。 『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を 100 点 [あるいは 200 点] とし、これらの合計 1000 点満点を 100 点満点に換算して成績評価します。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：『英語基礎』，山口大学共通教育英語部会編，開拓社，2004 年  <b>メッセージ</b> なし</p>					

開設科目	英語基礎〔2〕	区分	講義	開設期	後期後半期
対象学生	医・工3年(平成14・15年度入学者)	単位	1単位	曜時限	火曜日11・12時限
担当教官	池田 守				
<p><b>授業概要</b> 基本的文法事項の理解、語彙力の強化を目的とします。授業では、統一テキスト『英語基礎』を用いて、文法の基本事項の総まとめをします。宿題は復習です。授業で習った文法事項について、練習問題を解き、e-learningソフト『英文法徹底トレーニング』の指定された箇所を学習してください。また、毎週50語程度の単語を覚えて来てください。テキストの練習問題解説と、英単語について興味深い話が聞ける音声ファイルも用意していますので、これらもどんどん活用してテストに備えてください。e-learningは、外国語センターのWBT教材のページにまとめてあります(<a href="http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm">http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/bld10/lc/layer1/lc_wbt.htm</a>)が、URLが長いので、山口大学トップページから、「在学生の方へ」;「WBT教材」とリンクをたどることもできます。授業では、文法と単語のテストを実施します。</p> <p><b>授業一般目標</b> 基本的な英語の語彙・文法知識を身につける。英語の学習に積極的に取り組み、継続的な学習習慣を身につける。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 文法テストが600点(6回)単語テストが200点(5回)です。『英文法徹底トレーニング』の学習状況、あるいは担当教員独自の課題等の教員裁量点を200点とし、これらの合計1000点満点を100点満点に換算して成績評価します。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書:『英語基礎』,山口大学共通教育英語部会編,開拓社,2004年 メッセージ なし</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2単位	曜時限	月曜日5・6時限
担当教官	渡辺朱実				
<p><b>授業概要</b> この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1)身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2)WBTを利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書:武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p><b>メッセージ</b> 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要とします。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p><b>教官連絡先</b> HP:<a href="http://www.eigodaigaku.com">http://www.eigodaigaku.com</a>でのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時間	月曜日 7・8 時限
担当教官	FARRAR, DAVID HANSON				

授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。

授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。

成績評価方法 (総合) ・4回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(4回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。

教科書・参考書 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。

メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気とします。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。

教官連絡先 HP:<http://www.eigodaigaku.com>でのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時間	月曜日 7・8 時限
担当教官	HICKS, CRAIG ROBERT				

授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。

授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。

成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。

教科書・参考書 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。

メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気とします。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。

教官連絡先 HP:<http://www.eigodaigaku.com>でのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生	医・工2年	単位	2単位	曜時限	月曜日 9・10時限
担当教官	TIMOTHYROLAND SCOTT TAKEMOTO				

授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。

授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身に付ける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身に付ける。

成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。

教科書・参考書 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。

メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。

教官連絡先 tim@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：経済4階,HP:<http://www.eigodaigaku.com>でのウェブカムを見てチャットルームも訪問してください。

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2単位	曜時限	水曜日 5・6時限
担当教官	渡辺朱実				

授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。

授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身に付ける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身に付ける。

成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。

教科書・参考書 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。

メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。

教官連絡先 HP:<http://www.eigodaigaku.com>でのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教官	HICKS, CRAIG ROBERT				
<p><b>授業概要</b> この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行っていただきます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身に付ける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身に付ける。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p><b>教科書・参考書 教科書:</b> 武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p><b>メッセージ</b> 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声をだし、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気を必要とします。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p><b>教官連絡先</b> HP:<a href="http://www.eigodaigaku.com">http://www.eigodaigaku.com</a> でのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教官	渡辺朱実				
<p><b>授業概要</b> この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行っていただきます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身に付ける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身に付ける。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p><b>教科書・参考書 教科書:</b> 武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p><b>メッセージ</b> 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声をだし、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気を必要とします。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p><b>教官連絡先</b> HP:<a href="http://www.eigodaigaku.com">http://www.eigodaigaku.com</a> でのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教官	渡辺朱実				
<p><b>授業概要</b> この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p><b>教科書・参考書 教科書:</b> 武本ティモシー著、仮題『English Speaking ー山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p><b>メッセージ</b> 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気を必要とします。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p><b>教官連絡先</b> HP:<a href="http://www.eigodaigaku.com">http://www.eigodaigaku.com</a> でのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教官	CHRIST, Alan Robert				
<p><b>授業概要</b> この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってまいります。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p><b>教科書・参考書 教科書:</b> 武本ティモシー著、仮題『English Speaking ー山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p><b>メッセージ</b> 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気を必要とします。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p><b>教官連絡先</b> HP:<a href="http://www.eigodaigaku.com">http://www.eigodaigaku.com</a> でのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	水曜日 9・10 時限
担当教官	HICKS, CRAIG ROBERT				

授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行っていただきます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。

授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。

成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBT による自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。

教科書・参考書 教科書: 武本ティモシー著、仮題『English Speaking ー山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。

メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声をだし、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気とします。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。

教官連絡先 HP:<http://www.eigodaigaku.com> でのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6 時限
担当教官	SONDA, Nozomu				

授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行っていただきます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。

授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。

成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBT による自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。

教科書・参考書 教科書: 武本ティモシー著、仮題『English Speaking ー山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。

メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声をだし、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気とします。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。

教官連絡先 連絡先: 尊田 望 TEL (083)932-0038 FAX (083)932-0089 携帯 (090) 4654-8264 個人メール: [sonda\\_nozomu@ybb.ne.jp](mailto:sonda_nozomu@ybb.ne.jp) HP:<http://www.eigodaigaku.com> でのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6 時限
担当教官	KAMEL, MAURICE				

授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行っていただきます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。

授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。

成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。

教科書・参考書 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking ー山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。

メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気とします。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。

教官連絡先 HP:<http://www.eigodaigaku.com>でのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6 時限
担当教官	Jim, Rebstock				

授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行っていただきます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。

授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。

成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。

教科書・参考書 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking ー山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。

メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気とします。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。

教官連絡先 HP:<http://www.eigodaigaku.com>でのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	金曜日 7・8 時限
担当教官	KAMEL, MAURICE				

授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行っていただきます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。

授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。

成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。

教科書・参考書 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking ー山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。

メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気とします。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。

教官連絡先 HP:<http://www.eigodaigaku.com>でのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	金曜日 7・8 時限
担当教官	CHRIST, Alan Robert				

授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行っていただきます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。

授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。

成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。

教科書・参考書 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking ー山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。

メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気とします。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。

教官連絡先 HP:<http://www.eigodaigaku.com>でのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	金曜日 7・8 時限
担当教官	GARDNER, Stephen				

授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行っていただきます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。

授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。

成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。

教科書・参考書 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking ー山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。

メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気とします。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。

教官連絡先 HP:<http://www.eigodaigaku.com>でのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	金曜日 7・8 時限
担当教官	Jim, Rebstock				

授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行っていただきます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。

授業一般目標 (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。

成績評価方法 (総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。

教科書・参考書 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking ー山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。

メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気とします。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。

教官連絡先 HP:<http://www.eigodaigaku.com>でのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	金曜日 7・8 時限
担当教官	SONDA, Nozomu				
<p><b>授業概要</b> この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBT による自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p><b>教科書・参考書 教科書:</b> 武本ティモシー著、仮題『English Speaking ー山大学生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p><b>メッセージ</b> 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p><b>教官連絡先</b> HP:<a href="http://www.eigodaigaku.com">http://www.eigodaigaku.com</a> でのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。 TEL (083)932-0038 FAX (083)932-0089 携帯 (090) 4654-8264 個人メール: <a href="mailto:sonda_nozomu@ybb.ne.jp">sonda_nozomu@ybb.ne.jp</a></p>					

開設科目	実践総合英語	区分	講義	開設期	後期
対象学生	医・工3年(平成14・15年度入学者)	単位	2 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限
担当教官	内海俊祐				
<p><b>授業概要</b> TOEIC 受験に有益となるように英語のリスニングとリーディングの方法論を中心に授業を展開する。英語特有の音の法則を解説し、関連する音のディクテーションを行うことによって英語の音声に慣れてもらう。また、平易な文章を速読する指導を行う。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) 英語特有の音の連結や脱落の法則を理解すること。(2) 日本語に訳すことなく英文を理解すること。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 出席率(20%)レポート・小テスト(20%)定期試験(60%)を点数化し総合評価する。</p> <p><b>教科書・参考書 教科書:</b> Top of the Pops Listening 「ポップソングで楽しく学ぶ実用リスニング」、熊井信弘 他、マクミランランゲージハウス、2005年</p> <p><b>メッセージ</b> 紙の辞書または電子辞書に係らず、自分にあった辞書を使いこなすことに心がけてください。なお、試験は辞書持込可とします。</p>					

開設科目	実践総合英語	区分	講義	開設期	後期
対象学生	3年(平成14・15年度入学者)	単位	2単位	曜時間	木曜日5・6時限
担当教官	細木 孝雄				
<p><b>授業概要</b> Students will work on the four skills of speaking, listening, reading and writing in English. Attention will be given to vocabulary, grammar and reading comprehension.</p> <p><b>授業一般目標</b> Students will learn various reading skills such as skimming, scanning and vocabulary enhancement techniques.</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> class participation (10%), assignment (30%), final exam (60%)</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: When Cultures Collide, Tsuneo Takahashi, Nan'un-do, 2004年</p> <p><b>メッセージ</b> Let's study English just for fun!</p>					

開設科目	英語リーディング	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2単位	曜時間	月曜日5・6時限
担当教官	鴨川 啓信				
<p><b>授業概要</b> サイバーパンク SFの旗手とも呼ばれる William Gibson の短編を読む。使用する教科書に取り上げられているのは、"Johnny Mnemonic" と "Burning Chrome" の2編である。共に翻訳が存在するが、サイバーパンクの特異な世界観・イメージを描き出す表現は、翻訳の際に変更されたり省略されたりしている。授業では、元の英語表現に触れることで、Gibson の描く世界を直接体験する。</p> <p><b>授業一般目標</b> まとまった物語を英語で読むことにより、語学力の向上と同時に、自分の英語力に自信を持つことを目指す。また何より、物語を楽しむことを目標とする。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 授業参加度+小テスト+定期試験、で評価する。それぞれの点数配分の詳細は、授業内で提示する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: William Gibson's Best Cyberpunk Stories, 林 和仁 編注, 英宝社, 1993年 / 参考書: クローム襲撃, ウィリアム・ギブスン, 早川書房, 1987年</p> <p><b>教官連絡先</b> e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 経済 A207</p>					

開設科目	英語リーディング	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	岡 紘一郎				
<p>授業概要 意外な筋の展開を特徴とする短編を読み、筋の展開を楽しみながら、精読、大意の要約等読解力を養成する。テープを聴いて、耳からも理解する。</p> <p>授業一般目標 精読、大意要約、行間を読む等、読解力を高める。文法の力をつける。リスニング力を高める。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験、出席率、授業への参加度、中間試験等で総合的に評価する。出席日数が所定に達しなければ、受験できない。</p> <p>教科書・参考書 教科書： Completely unexpected Tales, Roald Dahl, 太陽社, 1993 年 / 参考書： 授業中に紹介メッセージ できるだけ大きい辞書を使って十分に予習をして授業に臨むこと。毎回授業に出席すること。出席日数が足りないと受験できない。</p> <p>教官連絡先 学務係が授業の前後に連絡すること。</p>					

開設科目	英語リーディング	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	前出泰司				
<p>授業概要 リーディング能力を養成することを目的とする。特に速読力の向上に力を入れる。</p> <p>授業一般目標 やや平易な英文を既習の文法項目を復習しながら読んでいく。受講者は必ず毎回1時間程度の予習をすることを要求される。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験90% レポート5% 出席5%</p> <p>教科書・参考書 教科書： 現代の地球・社会を映す, R. Young, 成美堂, 2006 年 / 参考書： 授業中に指示するメッセージ コツコツ頑張りましょう。</p> <p>教官連絡先 E-mail:maede@ube-c.ac.jp</p>					

開設科目	英語リーディング	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	岡本 嶺男				
<p>授業概要 食材という日常生活に深く結びついたテーマについて書かれた英文を読むことによって英文の読解に興味をもち読解力を向上させる。3週に一回 Review Test を行い理解度を確認しながら確実に英文を理解する力を養う。</p> <p>授業一般目標 英語読解能力の向上をめざす。英語の背景にある伝統・文化を深く理解することにより知的・教養的能力の向上をはかる。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験 80 出席 10 小テスト 10</p> <p>教科書・参考書 教科書: Food in Tradition and Culture, M. Heather Kotake 他, 成美堂</p>					

開設科目	英語リーディング	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	宮原一成				
<p>授業概要 現代科学を一般読者向けに紹介する英文を使い、読解力と大意要約力を錬成します。各回およそ 800-900 語の英文を自宅で読んできて、それを 150 字程度の日本語に大意要約したものを授業の初めに提出してもらいます。その後授業では、内容に関する英語の質問に英語で答える練習も行います。それから、当該英文の構文や意味のわかりにくいところについて、受講生に確認したり質問に答えたりする形で解説します。これを毎回繰り返します。</p> <p>授業一般目標 英文読解力と(日本語での)文章要約力の錬成。</p> <p>成績評価方法(総合) 毎回提出する日本語要約文レポート(70%) 英問英答の出来(20%) 授業内での積極的な質問(10%) 5回以上の欠席は無条件で不可評定とします。学期末の筆記試験は行いません。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 『The Edge of the Unknown』, James Trefil 著, 開文社出版, 1999年; 大学生協で販売 / 参考書: 英和辞典は電子辞書ではなく、紙媒体のものが望ましい。お薦めは、大修館書店の『ジーニアス』、旺文社の『レクシス』、三省堂の『ウィズダム』のうちいずれか肌に合うものを。</p> <p>メッセージ 毎回小レポート提出で日本語文章力も錬成します。そのチェック作業の都合上、受講生数を60以下に定員制限します。初回の授業で定員を超えた場合は、その場で何らかの選抜を行います。また、授業では英和辞典必携。</p> <p>教官連絡先 初回の授業時に連絡します。</p>					

開設科目	英語リーディング	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	正宗 聡				
<p>授業概要 リーディングの力を養うとともに、「映像」についての様々な問題について考える。</p> <p>授業一般目標 英文を読む作業について、練習を積むこと。</p> <p>成績評価方法(総合) 成績評価は出席率・授業発表・期末試験等を総合して行なう。(出席率を重視する。5回以上欠席したら単位は認定しない。遅刻3回を欠席1回とみなす。指名して予習不十分と判明した場合はマイナス評価する。授業中の自発発表はプラス評価する。期末試験を行なう。小テストを行なった場合はそれをも成績評価に加味する。)</p> <p>教科書・参考書 教科書: 毎回、コピーを配布します。/ 参考書: 授業で少し紹介する予定です。</p> <p>メッセージ 予習を前提として授業を進める。辞書(電子式でも書籍版でも構わない)は必ず持参すること。</p>					

開設科目	英語リーディング	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	田中晋				
<p>授業概要 現代イギリス演劇界で高く評価された John B. Priestley の戯曲『警部の来訪』を読む。一人の貧しい女性の死に関連して、Birling 家の婚約祝賀パーティに忽然と現れる Inspector とは何者なのか、読者を最後まで引きつけて離さない傑作である。せりふは俗語の少ない平易明快な英語で書かれているので、口語表現を学ぶうえでも役立つであろう。</p> <p>授業一般目標 戯曲においては、すべてが登場人物の会話によって進行するのであるから、立体的な読み方が読者に要求されることになる。英語の学習と共に、行間にひそむ人間関係、最も日常的な表現の奥に登場人物の心理を見る目を養うことを目指す。</p> <p>成績評価方法(総合) 期末試験の結果に平常点(出席、受講態度等)を加味する。全授業を通じ出席が2/3を下回るものは受験資格なし。</p> <p>教科書・参考書 教科書: An Inspector Calls, John B. Priestley, 成美堂, 1971 年</p>					

開設科目	英語リーディング	区分	講義	開設期	後期
対象学生	医・工 2 年	単位	2 単位	曜時限	月曜日 9・10 時限
担当教官	堤 千佳子				
<p>授業概要 この授業では TOEIC 400 点以上を取得した学生を対象に、リーディング能力を養成する。読解力を高めるための英文法の涵養も併せて目標とする。内容理解の確認、リスニング、ヴォキャブラリーに関するエクササイズをこなしていくことで、多角的なアプローチを取る。</p> <p>授業一般目標 (1) 読解力の向上 (2) 企業を取り上げたテキストを用いることで、日本経済の状況などについての知識を得る。(3) TOEIC 関連の問題の学習</p> <p>成績評価方法 (総合) 1/3 以上の欠席は失格。出席率、授業への参加度、適宜課する小テスト、定期試験の組み合わせにより総合的に評価を行なう。</p> <p>教科書・参考書 教科書: Front-runners in the 21st Century, Brenda Hayashi, 松柏社, 2006 年</p> <p>メッセージ 1/3 以上の欠席は失格となります。遅刻は厳禁です。必ず予習をして、授業に臨んでください。予習の段階で音読を必ず試みてください。</p>					

開設科目	英語リーディング	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	島越郎				
<p>授業概要 様々な英文を精読することにより、英文解釈力を高める。</p> <p>授業一般目標 英文の意味を形式的側面と内容的側面の両方から理解できるようにする。</p> <p>成績評価方法 (総合) 中間テストと期末テストの合計点で判断する。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 一回目の授業の時に、プリントを配付する。</p> <p>メッセージ 英和辞書を毎回持参すること。</p> <p>教官連絡先 eshima@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	英語リーディング	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	皆尾麻弥				
<p>授業概要 アメリカ詩を英語で読む。</p> <p>授業一般目標 ロバート・フロスト、エミリー・ディキンソンなど、アメリカを代表する詩人の作品を原文で読む。詩を朗読し、言葉の響きとリズムを身体で感じることによって自然に豊かな表現を身につける。</p> <p>成績評価方法(総合) 期末試験に平常点を加味する。出席が所定の回数に満たない者には受験資格を与えない。</p> <p>教科書・参考書 教科書：Six American Poets: An Anthology., , Vintage Books</p> <p>メッセージ アメリカ詩を原語で読むという機会はこの先なかなか訪れないのではないのでしょうか。この授業では、専門的な解釈等にこだわらず、詩を純粹に楽しむことを第一の目標にしています。一週間に2編ほどの優れた英語詩を読むことによって美しい英語の音とリズムに触れるということは、楽しい英語の学習法ではないのでしょうか。皆さんがこの授業の中で、一生心に残るような詩と出会ってくださるといいなと思っています。</p>					

開設科目	英語リーディング	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	高橋 博美				
<p>授業概要 英米の短編小説を教材として、語彙を豊かにし、英文を正確に読むことを学習する。また、その内容理解を通して、思考力と想像力を養う。</p> <p>授業一般目標 言葉の意味を考え、英文を正確に読むことを目標とする。また、英文読解を通して、文学に親しみ、思考力と想像力を高める。</p> <p>成績評価方法(総合) 期末試験、小テスト、課題、授業態度、出席状況等で総合評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：プリント配布 / 参考書：プリント配布</p> <p>メッセージ 予習を必ずして下さい。</p> <p>教官連絡先 hiromi.t@c-able.ne.jp</p>					

開設科目	英語リーディング	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	猫田和明				
<p><b>授業概要</b> 読むこともコミュニケーションです。この授業ではそのつもりで、英語を読むということがどういうコミュニケーションであるか、そのためには、英語をどのように読んだらよいか、読めるようになるためにはどのようにしたらよいかを扱います。読むことは、決して暗い孤独な行為ではないこと、読めば自分の外的世界、内面の世界が広がる楽しみがあることを体験する授業を考えます。そして、その楽しみを、プレゼンテーションという形式を取って参加者に知らせます。プレゼンテーションは読む人の世界の広がりを示してくれます。そして、グループで議論をして、学生中心の授業形態を取</p> <p><b>授業一般目標</b> ・読むための語彙力をつける。 ・読むための文構造の理解を深める。 ・和訳を通さなくて読む習慣を付ける。 ・プレゼンテーションの仕方を知る。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・プレゼンテーション・ハンドアウトの評価 ・授業への参加度 ・出席 4 回以上欠席したら不可とする ・学期試験</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書： Reading CoolChicken Soup for the Soul, Canfield, J. &amp; Hansen, M.V, Health Communications, Inc.,, 1993 年</p> <p><b>メッセージ</b> ・英英辞典を多用してください。 ・中途半端に受講する人はこの授業は遠慮してください。</p> <p><b>教官連絡先</b> mmiy@yamaguchi-u.ac.jp 経済 A323</p>					

開設科目	英語リーディング	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	谷國 晶洋				
<p><b>授業概要</b> 過去において人々の心を感動させたスピーチや、歴史に名を残す哲学者の言葉など、様々な文体で書かれた英文を題材に、精密な英文読解を行う。</p> <p><b>授業一般目標</b> 英文講読を通して読解力を高めるとともに、様々なテーマに対して知的好奇心を刺激し、問題意識を持つきっかけとしたい。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 授業への参加度 (出席 2/3 以上・発表点) 及び、定期試験による総合評価。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書： Read and Think: Inspiring Messages., 岩永道子 他, 朝日出版社, 2006 年</p> <p><b>メッセージ</b> 辞書をしっかり引いて、予習を十分にしておいて来て下さい。</p> <p><b>教官連絡先</b> blakist@ezweb.ne.jp</p>					

開設科目	英語リーディング	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時間	水曜日 5・6 時限
担当教官	谷國 晶洋				
<p>授業概要 グローバルな問題から身近な問題まで様々な社会問題について書かれた エッセイを題材に、精密な英文読解を行う。</p> <p>授業一般目標 英文講読を通して読解力を高めるとともに、様々な社会問題に対する問題意識を高めたい。</p> <p>成績評価方法(総合) 授業への参加度(出席2/3以上・発表点)及び、定期試験による総合評価。</p> <p>教科書・参考書 教科書: Your Future, Your Society., John Tilmant 他, 成美堂, 2006 年</p> <p>メッセージ 辞書をしっかりと引いて、予習を十分にしておいて下さい。</p> <p>教官連絡先 blakist@ezweb.ne.jp</p>					

開設科目	英語リーディング	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時間	水曜日 5・6 時限
担当教官	渡辺朱実				
<p>授業概要 リーディングの力を養うには、多読、速読が大切であることは言うまでもない。しかし、英文構造(文法)が理解できていなければ、これは単なる「勘」に終始する。そこで、この授業では、もっと基本に重点を絞り、英文法の復習・確認、さらに、その知識を使っての正しい精読をねらいとする。素材として、300語程度の英語(英検2級レベル)で書かれたエッセイ、新聞記事を扱う。毎回、違ったトピックを読みながら、その章で扱う文法事項の確認問題、パラグラフの内容把握問題を実施する。</p> <p>授業一般目標 ・ 英文法の再整理、復習を行なうこと。 ・ 培った文法知識を実際のリーディングに活かすこと。 ・ 正しい精読により、より深い英文解読に結びつけること。</p> <p>成績評価方法(総合) ・ 出席(欠格条件とする。4回以上欠席の場合、単位は認定しない。) ・ 授業への参加度、参加態度 ・ 小テスト、授業内/外レポート、宿題 ・ 学期末試験(注:出席が規定に満たない者は受験できない。)</p> <p>教科書・参考書 教科書: Ins &amp; Outs - Reading Focusing on Grammar Skills, 山内信幸、北林利治、金星堂、2006 年</p> <p>メッセージ 予習・復習を前提として授業を進める。本気で英文法を復習し、英語で長文を読めるようになりたい、という学生に来ていただきたい。</p>					

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 展開1

開設科目	英語リーディング	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限
担当教官	松田 理				
<p>授業概要 本授業では E.Caldwell の短編小説をとりあげ、英文解釈を通して論理的な思考力と鋭敏な感受性を身につけるための訓練を行う。</p> <p>授業一般目標 人間理解や異文化理解のための読解力と論理性を身につけ、感受性を鋭くする。</p> <p>成績評価方法(総合) 5回以上欠席した学生の成績は不可となる。また担当を割り当てられているにもかかわらず無断で当日欠席した場合も不可となる。演習 20%、期末試験 80%の割合で評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書: Warm River and Other Stories, E.Caldwell, 南雲堂, 1984年; 文栄堂で販売 メッセージ 毎回出席をとる。私語は許さない。</p>					

系列 外国語教育

分野 英語

科目類型 展開1

開設科目	英語ライティング	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	月曜日 1・2 時限
担当教官					

開設科目	英語ライティング	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	中村幸士郎				
<p><b>授業概要</b> 日本人の英作文で共通に犯しやすい誤りを、語彙、文法、語法、発想、表現の諸点から学び、実践英作文の実力を高める。上記の視点から、多くの文例の正誤比較、誤文訂正、平易な基礎英作文、やや高度な英作文を、毎回の授業で演習の形で訓練する。数回自由英作文のレポート提出を課す。</p> <p><b>授業一般目標</b> 1. 英作文上の犯しやすい基本的な誤りに気づき、克服する。 2. 英語らしい発想と適切な表現法の基礎を身につける。 3. 自由に進んで英作文を楽しみながら書けるようにする。 4. 総合的に実践的英作文の能力の向上を図る。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 出席・課題提出・授業への貢献・テストの総合評価。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書： Common Errors in English Writing(4th Ed.), 木塚、R. Northridge, マクミラン ランゲージハウス, 2006 年</p> <p><b>メッセージ</b> 1. 英作文の共通した基本的誤りを克服しよう。 2. 楽しい英作文から楽しい会話へ進めよう。 3. 毎日の生活の中で楽しく英語を学ぶ方法を身につけよう。</p> <p><b>教官連絡先</b> 非常勤控室、授業直後、ishinkouen@yahoo.co.jp</p>					

開設科目	英語ライティング	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	倉増泰弘				
<p><b>授業概要</b> 英語のライティングで一番肝心なのは「内容」である。まずは自分が伝えたい内容があり、それを英語でどこまで表現できるかということが重要と言える。この授業では、書く用途に合わせた語彙や文法についても学習するが、とにかく自分の思うことを書いてみるということを授業のスタンスとする。様々なテーマで実際に英文を書き、その英文をもとにより良い英文を書くためにはどうすべきかをディスカッションなどを通じて考える。</p> <p><b>授業一般目標</b> 平易な語彙・文法を用いながら、自分の伝えたいことが英文で書ける。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> ・期末テスト・小テスト・授業内外の課題・授業への参加・出席 以上の総合評価</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書： 初回授業時に指示する。</p> <p><b>メッセージ</b> 与えられた課題をきちんとこなし、授業に積極的に参加しましょう。</p> <p><b>教官連絡先</b> yasukura0707@yahoo.co.jp</p>					

開設科目	英語ライティング	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教官	尊田 望				
<p>授業概要 アカデミックな英文ライティングの技能を養成する。まずはパラグラフの書き方のプロセスを紹介し、次にエッセイの書き方を示す。同時に、高校までの英語文法を復習する。</p> <p>授業一般目標 300-400 単語程度の英文パラグラフを容易に書けるようになる。次のステップとして導入・本体・結論から成るエッセイを書く基礎を身につける。</p> <p>成績評価方法(総合) 授業内の課題、演習活動参加、宿題 = 60 % 試験 = 40 %</p> <p>教科書・参考書 教科書: Writing Academic English, Alice Oshima &amp; Ann Hogue, Longman, 1991 年</p>					

開設科目	英語ライティング	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教官	松田理				
<p>授業概要 適切な英語で自己表現ができるよう、文章作成能力を養成する。</p> <p>授業一般目標 日常生活で実際に使用できる英語を用いた、現実的文章作成能力を身につける。</p> <p>成績評価方法(総合) 5 回以上欠席した学生の成績は不可となる。演習 20 %、期末試験 80 % の割合で評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書: A New Way to English Writing, 斉藤 ほか, 誠美堂, 1982 年; 文栄堂書店で販売</p> <p>メッセージ 私語は許さない。</p>					

開設科目	英語特別演習	区分	演習	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	池園宏				
<p><b>授業概要</b> 戯曲 Twelve Angry Men を読む。この作品は映画化されて日本でも人気となったが、授業で扱うのはそのテレビ版である。洗練され、臨場感溢れる台詞を味読したい。作品中に用いられた日常的な会話表現は、受講者の英語コミュニケーション能力を高めるのに役立つであろう。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) 作品を丹念に音読、解釈することにより、英語のリーディング力を身につける。(2) 作品中に用いられた日常的な会話表現を学ぶことにより、英語のコミュニケーション能力を身につける。(3) 英文法力や英文解釈力を身につける。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> (1) 試験は学期末に 1 回実施する。(2) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書： Twelve Angry Men, Reginald Rose, 開文社, 1995 年 / 参考書： 授業の中で紹介する。</p> <p><b>メッセージ</b> 辞書を必ず持参すること。毎回出欠確認をするので、欠席や遅刻をしないこと。</p>					

開設科目	英語特別演習	区分	演習	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	増田 勉				
<p><b>授業概要</b> 知っているようで知らない世界状況を、質のいい英文エッセイと日本語解説、ヴァライアティに富む練習問題を通じて学ぶ。</p> <p><b>授業一般目標</b> 時事問題を扱った英語の読解力を養う。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 授業時発表、授業態度、小テストを行なった場合はその得点、出席状況、期末試験得点を総合して評価する。4 回欠席したらその時点で欠格とする(単位は認定しない)。授業時の居眠りは欠席扱いとする。授業時無断退席は即欠格とする。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書： New Issues for Global Change and Challenges, W. M. Balsamo, 原田典子, 金星堂, 2006 年 / 参考書： 今がわかる 時代がわかる 世界地図, 2005 年版, 成美堂出版, 2005 年; 「図解」世界なるほど地図帳, 世界博学倶楽部, PHP 研究所, 2004 年; 知恵蔵なっとく世界地図, 朝日新聞社, 2005 年</p> <p><b>メッセージ</b> 予習を前提として授業を進めます(予習してくる気のない人は受講を遠慮してください)。出席していても、居眠りをしている場合は欠席扱いとします。授業中無断で教室を退出する人は欠格とします(単位を認定しません)。辞書は必ず持参してください。</p> <p><b>教官連絡先</b> 教育学部 2 階研究室 TEL.933-5425 火曜日 16:00-17:00</p>					

開設科目	英語特別演習	区分	演習	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	矢野 紀子				
<p>授業概要 2006 年の 5 月からリニューアルされる新しい TOEIC の問題形式への試験対策に焦点を当てる。テキストが CD つきのため、自学学習でリスニングセクションを補強してゆく。</p> <p>授業一般目標 毎回の授業で、TOEIC のリスニングセクションとリーディングセクションを合わせて学習し、TOEIC の試験様式に慣れてゆく。またそれぞれの課で文法の基本事項の確認があるため、英文の構造に対する理解度を高めてゆく。</p> <p>成績評価方法 (総合) 小テスト、定期試験、レポート、出席状況などを合わせた総合評価。</p> <p>教科書・参考書 教科書: Kick Off for the TOEIC Test, 松岡 昇, 金星堂, 2006 年 / 参考書: なし</p> <p>メッセージ 初回の授業からテキストに入るので、受講する学生は事前に書店で購入してから出席すること。また注意を要する単語、イディオム等は授業の中で確認してゆくため、辞書を必ず持参すること。(電子辞書も可) 英語に苦手意識のある人でもひとつひとつ確実に内容を押さえてゆけば、結果はついてくるので、主体的に授業に臨んでください。</p>					

開設科目	英語特別演習	区分	演習	開設期	後期
対象学生	医・工 2 年	単位	2 単位	曜時限	火曜日 11・12 時限
担当教官	JOHNSONJUDITHANN				
<p>授業一般目標 1) Students will understand the basics of making a clear and well-organized presentation. 2) Students contribute creatively and regularly, in English, to collaborative in-class activities. 3) Students will use the necessary knowledge, skills and confidence to design and make a clear and well-organized presentation on a science or technical topic, in English.</p> <p>成績評価方法 (総合) In-class participation; Individual and group assignments; Oral presentations</p> <p>メッセージ Bring your dictionary to EVERY CLASS. Anyone with more than 3 absences WILL NOT pass this course.</p>					

開設科目	英語特別演習	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教官	石井由理				
<p>授業概要 TOEIC400 点以上取得者を対象に、英語の文章を聞いて内容のポイントをまとめ、その文章を読んで内容に関する質問に答え、理由を説明するという作業を、できるだけ日本語に頼らずに行います。受講者数によって、理由の説明を英語による記述もしくは口頭で行います。毎回宿題を出し、それをやってきたことを前提に授業を進めます。</p> <p>授業一般目標 長い文章を聞いて、およその要点をつかめる。長い文章を読んで内容に関する質問に答えることができる。自分の答えの正当性を主張できる。</p> <p>成績評価方法(総合) 毎回宿題で出した文章について小テストを行う 学期末に筆記試験を行う</p> <p>教科書・参考書 教科書: The Powerful Reader Basic, B.M.Pacheco,J.Y.Gregg, Macmillan, 2001 年</p> <p>教官連絡先 教育学部 200 - 1 研究室 初回授業時に指示</p>					

開設科目	英語特別演習	区分	演習	開設期	後期
対象学生		単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教官	高橋 博美				
<p>授業概要 英字新聞や映画を教材にして、英文読解とリスニングの演習を行う。</p> <p>授業一般目標 日常生活で実際に使われている英語を聞いたり、読んだりすることを目標とする。また、内容を理解することによって、様々な事柄についての理解を深め、思考力や想像力を高める。</p> <p>成績評価方法(総合) 期末試験、小テスト、課題、授業態度、出席状況等で総合評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書: プリント配布 / 参考書: プリント配布</p> <p>メッセージ 予習を必ずして下さい。</p> <p>教官連絡先 hiromi.t@c-able.ne.jp</p>					

開設科目	Comprehensive English Fundamental	区分		講義		開設期		後期	
対象学生		単位	2 単位	曜時限				月曜日 5・6 時限	
担当教官	EDWARDS NATHANIEL TYLER								
<p><b>授業概要</b> This course is for students with a TOEIC score of more than 400. Students with a TOEIC score of more than 450 are allowed to take Comprehensive English Pre-Intermediate courses, but are free to take this course if they wish. 1) Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills. 2) Students will broaden their understanding of the world and their responsibility to society. 3) Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national and global problems. 4) Students will also work on and improve their pronunciation though working with a special text designed specifically for Japanese university students.</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> Final Evaluation (50 % of total grade): Speaking: 40 %; Listening: 20 %; Writing: 20 %; Content: 10 %; Pronunciation (Sound Approach): 10 %. Internal/External Criteria (50 % of total grade): Group/class work (classroom assignment, on-line quizzes, or activity scores): 35 %; Class Participation: 20 %; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35 %; Attendance: 10 %.</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Comprehensive English Fundamental B, Johnson &amp; Higgins, MacMillan Language House, 2004 年; The Sound Approach Pronunciation Workbook, Higgins &amp; Shima, International Educational Initiatives, Inc., 2005 年; Comprehensive English Fundamental Course Book A, by Johnson &amp; Higgins Sound Approach Revised Pronunciation Book, by Higgins</p> <p><b>メッセージ</b> This course also requires students to be on-line for some of their homework and for 4 on-line quizzes.</p> <p><b>教官連絡先</b> canada1@yamaguchi-u.ac.jp</p>									

開設科目	Comprehensive English Fundamental	区分		講義		開設期		後期	
対象学生		単位	2 単位	曜時限				月曜日 5・6 時限	
担当教官	HIGGINSMICHAELLEO								
<p><b>授業概要</b> This course is for students with a TOEIC score of more than 400. Students with a TOEIC score of more than 450 are allowed to take Comprehensive English Pre-Intermediate courses, but are free to take this course if they wish. 1) Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills. 2) Students will broaden their understanding of the world and their responsibility to society. 3) Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national and global problems. 4) Students will also work on and improve their pronunciation though working with a special text designed specifically for Japanese university students.</p> <p><b>授業一般目標</b> Students will improve their English communication skills.</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> Final Evaluation (50 % of total grade): Speaking: 40 %; Listening: 20 %; Writing: 20 %; Content: 10 %; Pronunciation (Sound Approach): 10 %. Internal/External Criteria (50 % of total grade): Group/class work (classroom assignment, on-line quizzes, or activity scores): 35 %; Class Participation: 20 %; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35 %; Attendance: 10 %.</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Comprehensive English Fundamental Course B, Johnson and Higgins, Macmillan LanguageHouse, 2004 年; Sound Approach Revised Pronunciation Book, Higgins, Higgins, Shima, IEI, Inc., 2005 年 / 参考書: Please try to use an English-English dictionary if you can, but always have a dictionary with you.</p> <p><b>メッセージ</b> This course also requires students to be on-line for some of their homework and for 4 on-line quizzes.</p> <p><b>教官連絡先</b> My office hours are Monday from 2:30 to 4:00. My office is room 304 in the 研究 1 号館.</p>									

開設科目	Comprehensive English Fundamental	区分		講義		開設期		後期	
対象学生		単位	2 単位	曜時限		月曜日 7・8 時限			
担当教官	EDWARDS NATHANIEL TYLER								
<p><b>授業概要</b> This course is for students with a TOEIC score of more than 400. Students with a TOEIC score of more than 450 are allowed to take Comprehensive English Pre-Intermediate courses, but are free to take this course if they wish. 1) Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills. 2) Students will broaden their understanding of the world and their responsibility to society. 3) Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national and global problems. 4) Students will also work on and improve their pronunciation though working with a special text designed specifically for Japanese university students.</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> Final Evaluation (50 % of total grade): Speaking: 40 %; Listening: 20 %; Writing: 20 %; Content: 10 %; Pronunciation (Sound Approach): 10 %. Internal/External Criteria (50 % of total grade): Group/class work (classroom assignment, on-line quizzes, or activity scores): 35 %; Class Participation: 20 %; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35 %; Attendance: 10 %.</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Comprehensive English Fundamental B, Johnson &amp; Higgins, MacMillan Language House, 2004 年; The Sound Approach Pronunciation Workbook, Higgins &amp; Shima, International Educational Initiatives, Inc., 2005 年; Comprehensive English Fundamental Course Book B, by Johnson &amp; Higgins Sound Approach Revised Pronunciation Book, by Higgins</p> <p><b>メッセージ</b> This course also requires students to be on-line for some of their homework and for 4 on-line quizzes.</p> <p><b>教官連絡先</b> canada1@yamaguchi-u.ac.jp</p>									

開設科目	Comprehensive English Fundamental	区分		講義		開設期		後期	
対象学生	医・工2年	単位	2 単位	曜時限		火曜日 11・12 時限			
担当教官	Gardner, Steven								
<p><b>授業概要</b> This course is for students with a TOEIC score of more than 400. Students with a TOEIC score of more than 450 are allowed to take Comprehensive English Pre-Intermediate courses, but are free to take this course if they wish. 1) Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills. 2) Students will broaden their understanding of the world and their responsibility to society. 3) Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national and global problems. 4) Students will also work on and improve their pronunciation though working with a special text designed specifically for Japanese university students.</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> Final Evaluation (50 % of total grade): Speaking: 40 %; Listening: 20 %; Writing: 20 %; Content: 10 %; Pronunciation (Sound Approach): 10 %. Internal/External Criteria (50 % of total grade): Group/class work (classroom assignment, on-line quizzes, or activity scores): 35 %; Class Participation: 20 %; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35 %; Attendance: 10 %.</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Comprehensive English Fundamental Course Book B, by Johnson &amp; Higgins Sound Approach Revised Pronunciation Book, by Higgins</p> <p><b>メッセージ</b> This course also requires students to be on-line for some of their homework and for 4 on-line quizzes.</p>									

開設科目	Comprehensive English Fundamental	区分		講義		開設期		後期	
対象学生		単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限				
担当教官	GARDNER, Stephen								
<p><b>授業概要</b> This course is for students with a TOEIC score of more than 400. Students with a TOEIC score of more than 450 are allowed to take Comprehensive English Pre-Intermediate courses, but are free to take this course if they wish. 1) Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills. 2) Students will broaden their understanding of the world and their responsibility to society. 3) Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national and global problems. 4) Students will also work on and improve their pronunciation though working with a special text designed specifically for Japanese university students.</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> Final Evaluation (50 % of total grade): Speaking: 40 %; Listening: 20 %; Writing: 20 %; Content: 10 %; Pronunciation (Sound Approach): 10 %. Internal/External Criteria (50 % of total grade): Group/class work (classroom assignment, on-line quizzes, or activity scores): 35 %; Class Participation: 20 %; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35 %; Attendance: 10 %.</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Comprehensive English Fundamental Course Book B, by Johnson &amp; Higgins Sound Approach Revised Pronunciation Book, by Higgins</p> <p><b>メッセージ</b> This course also requires students to be on-line for some of their homework and for 4 on-line quizzes.</p>									

開設科目	Comprehensive English Fundamental	区分		講義		開設期		後期	
対象学生		単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限				
担当教官	SONDA, Nozomu								
<p><b>授業概要</b> This course is for students with a TOEIC score of more than 400. Students with a TOEIC score of more than 450 are allowed to take Comprehensive English Pre-Intermediate courses, but are free to take this course if they wish. 1) Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills. 2) Students will broaden their understanding of the world and their responsibility to society. 3) Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national and global problems. 4) Students will also work on and improve their pronunciation though working with a special text designed specifically for Japanese university students.</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> Final Evaluation (50 % of total grade): Speaking: 40 %; Listening: 20 %; Writing: 20 %; Content: 10 %; Pronunciation (Sound Approach): 10 %. Internal/External Criteria (50 % of total grade): Group/class work (classroom assignment, on-line quizzes, or activity scores): 35 %; Class Participation: 20 %; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35 %; Attendance: 10 %.</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Comprehensive English Fundamental Course Book B, by Johnson &amp; Higgins Sound Approach Revised Pronunciation Book, by Higgins</p> <p><b>メッセージ</b> This course also requires students to be on-line for some of their homework and for 4 on-line quizzes.</p> <p><b>教官連絡先</b> TEL (083)932-0038 FAX (083)932-0089 携帯 (090) 4654-8264 個人メール: sonda.nozomu@ybb.ne.jp</p>									

開設科目	Comprehensive English Fundamental	区分		講義		開設期		後期	
対象学生		単位	2 単位	曜日	曜時限	木曜日	3・4 時限		
担当教官	Hicks, Craig								
<p><b>授業概要</b> This course is for students with a TOEIC score of more than 400. Students with a TOEIC score of more than 450 are allowed to take Comprehensive English Pre-Intermediate courses, but are free to take this course if they wish. 1) Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills. 2) Students will broaden their understanding of the world and their responsibility to society. 3) Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national and global problems. 4) Students will also work on and improve their pronunciation though working with a special text designed specifically for Japanese university students.</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> Final Evaluation (50 % of total grade): Speaking: 40 %; Listening: 20 %; Writing: 20 %; Content: 10 %; Pronunciation (Sound Approach): 10 %. Internal/External Criteria (50 % of total grade): Group/class work (classroom assignment, on-line quizzes, or activity scores): 35 %; Class Participation: 20 %; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35 %; Attendance: 10 %.</p> <p><b>教科書・参考書 教科書</b> : Comprehensive English Fundamental Course Book B, by Johnson &amp; Higgins Sound Approach Revised Pronunciation Book, by Higgins</p> <p><b>メッセージ</b> This course also requires students to be on-line for some of their homework and for 4 on-line quizzes.</p>									

開設科目	Comprehensive English Pre-Intermediate	区分		講義		開設期		後期	
対象学生	医・工2年	単位	2 単位	曜日	曜時限	火曜日	9・10 時限		
担当教官									

開設科目	Comprehensive English Pre-Intermediate	区分		講義		開設期		後期	
対象学生		単位	2 単位	曜時限		水曜日 3・4 時限			
担当教官	Higgins, Michael Leo								
<p><b>授業概要</b> This course is open to students with a TOEIC score of over 450 but is especially recommended for students who have a TOEIC score of 500 or higher or who have completed the Comprehensive English Fundamental Course. 1) Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills. 2) Students will broaden their understanding of the world and their responsibility to society. 3) Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national and global problems. 4) Students will also work on and improve their pronunciation though working with a special text designed specifically for Japanese university students.</p> <p><b>授業一般目標</b> To improve the student's English communication skills.</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> Final Evaluation (50 % of total grade): Speaking: 40 %; Listening: 20 %; Writing: 20 %; Content: 10 %; Pronunciation (Sound Approach): 10 %. Internal/External Criteria (50 % of total grade): Group/class work (classroom assignment, on-line quizzes, or activity scores): 35 %; Class Participation: 20 %; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35 %; Attendance: 10 %.</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Comprehensive English Lower Intermediate Course Book B, by Johnson &amp; Higgins; Sound Approach Revised Pronunciation Book, by Higgins / 参考書: Try to use an English-English dictionary if you can, but always have a dictionary with you</p> <p><b>メッセージ</b> This course also requires students to be on-line for certain homework assignments and for 4 on-line quizzes.</p> <p><b>教官連絡先</b> My office hours are Monday from 2:30 to 4:00. My office is room 304 in the 研究 1 号館.</p>									

開設科目	Comprehensive English Pre-Intermediate	区分		講義		開設期		後期	
対象学生		単位	2 単位	曜時限		水曜日 7・8 時限			
担当教官	GARDNER, Stephen								
<p><b>授業概要</b> This course is open to students with a TOEIC score of over 450 but is especially recommended for students who have a TOEIC score of 500 or higher or who have completed the Comprehensive English Fundamental Course. 1) Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills. 2) Students will broaden their understanding of the world and their responsibility to society. 3) Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national and global problems. 4) Students will also work on and improve their pronunciation though working with a special text designed specifically for Japanese university students.</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> Final Evaluation (50 % of total grade): Speaking: 40 %; Listening: 20 %; Writing: 20 %; Content: 10 %; Pronunciation (Sound Approach): 10 %. Internal/External Criteria (50 % of total grade): Group/class work (classroom assignment, on-line quizzes, or activity scores): 35 %; Class Participation: 20 %; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35 %; Attendance: 10 %.</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Comprehensive English Lower Intermediate Course Book B, by Johnson &amp; Higgins; Sound Approach Revised Pronunciation Book, by Higgins / 参考書: Try to use an English-English dictionary if you can, but always have a dictionary with you</p> <p><b>メッセージ</b> This course also requires students to be on-line for certain homework assignments and for 4 on-line quizzes.</p>									

開設科目	Comprehensive English(By Native Speakers[1])	区分	講義	開設期	後期
対象学生	3年(平成14・15年度入学者)	単位	2単位	曜時限	月曜日 3・4時限
担当教官	Higgins, Michael Leo				
<p><b>授業概要</b> This course is for students with a TOEIC score of between 300-395. 1) Students will increase their English vocabulary through high-interest readings that are grouped thematically. The readings will provide the grammatical basis for improving their listening, speaking, and writing skills. 2) Students will broaden their understanding of the world and their responsibility to society. 3) Students will consider and propose changes that need to be made to eliminate local, national and global problems. 4) Students will also work on and improve their pronunciation through working with a special text designed specifically for Japanese university students.</p> <p><b>授業一般目標</b> To improve the student's English communication skills.</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> Final Evaluation (50 % of total grade): Speaking: 40 %; Listening: 20 %; Writing: 20 %; Content: 10 %; Pronunciation (Sound Approach): 10 %. Internal/External Criteria (50 % of total grade): Group/class work (classroom assignment, quizzes, or activity scores): 35 %; Class Participation: 20 %; Homework (essays/outlines/grammar exercises): 35 %; Attendance: 10 %.</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Comprehensive English New Volume One, Johnson and Higgins, IEL, Inc., 2003年; Sound Approach Pronunciation Book, Higgins, Higgins, Shima, IEL, Inc., 2005年 / 参考書: Please try to use an English-English dictionary if you can, but always have a dictionary with you.</p> <p><b>メッセージ</b> This course also requires students to be on-line for some homework and for 4 on-line quizzes.</p> <p><b>教官連絡先</b> My office hours are Monday from 2:30 to 4:00. My office is room 304 in the 研究1号館.</p>					

開設科目	海外語学研修(英語)	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	4単位	曜時限	
担当教官	国際センター、英語分科会、事前研修担当者				
<p><b>授業概要</b> 約4週間の英語圏(リジャイナ[カナダ]、あるいはニュー・カッスル[オーストラリア])での語学研修プログラム(研修費等は受講者が負担)に参加して、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。また同時に、滞在先の人々との交流を通じて、異文化理解を深める。この科目の単位を取得するためには、海外研修出発前に学内での事前研修(7コマ分)を受講しなければならない。(注意!事前研修を受講しなければ、語学研修プログラムに参加しても、単位は認められません。)海外語学研修プログラムは、リジャイナ、ニュー・カッスル共に夏と春に実施される。それぞれ5月頃、10月頃に国際センター主催の説明会が開かれるので、プログラムの詳細はそちらを参照すること。事前研修は語学研修プログラムに合わせて8月上旬、2月上旬に集中講義形式で開講される。詳しい開講時期等の情報は、掲示にて連絡する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 海外(英語圏)での語学研修プログラムで学習することにより、また現地での生活の中で、実践的英語コミュニケーション能力を身に付ける。滞在先の地域文化に触れ、現地の人々との交流を通じて、国際的な視野を広める。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 事前研修での出席状況、授業態度、英語習熟度と、海外語学研修プログラムでの成績評価を合わせて、総合的に評価する。</p> <p><b>メッセージ</b> 海外短期語学研修プログラム説明会の案内や、事前研修の開講案内は、掲示等にて行います。履修希望者は注意しておいて下さい。</p> <p><b>教官連絡先</b> 海外短期語学研修プログラムについては国際センターに問い合わせる。事前研修については共通教育係に問い合わせる。</p> <p><b>備考</b> 集中授業</p>					

開設科目	海外語学研修(英語)	区分	講義	開設期	後期
対象学生		単位	4 単位	曜時限	
担当教官	国際センター、英語分科会、事前研修担当者				
<p><b>授業概要</b> 約4週間の英語圏(リジャイナ[カナダ]、あるいはニュー・カッスル[オーストラリア])での語学研修プログラム(研修費等は受講者が負担)に参加して、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。また同時に、滞在先の人々との交流を通じて、異文化理解を深める。この科目の単位を取得するためには、海外研修出発前に学内での事前研修(7コマ分)を受講しなければならない。(注意!事前研修を受講しなければ、語学研修プログラムに参加しても、単位は認められません。)海外語学研修プログラムは、リジャイナ、ニュー・カッスル共に夏と春に実施される。それぞれ5月頃、10月頃に国際センター主催の説明会が開かれるので、プログラムの詳細はそちらを参照すること。事前研修は語学研修プログラムに合わせて8月上旬、2月上旬に集中講義形式で開講される。詳しい開講時期等の情報は、掲示にて連絡する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 海外(英語圏)での語学研修プログラムで学習することにより、また現地での生活の中で、実践的英語コミュニケーション能力を身に付ける。滞在先の地域文化に触れ、現地の人々との交流を通じて、国際的な視野を広める。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 事前研修での出席状況、授業態度、英語習熟度と、海外語学研修プログラムでの成績評価を合わせて、総合的に評価する。</p> <p><b>メッセージ</b> 海外短期語学研修プログラム説明会の案内や、事前研修の開講案内は、掲示等にて行います。履修希望者は注意しておいて下さい。</p> <p><b>教官連絡先</b> 海外短期語学研修プログラムについては国際センターに問い合わせる。事前研修については共通教育係に問い合わせる。</p> <p><b>備考</b> 集中授業</p>					

開設科目	海外語学研修(英語)	区分	講義	開設期	後期
対象学生	医・工2年	単位	4 単位	曜時限	
担当教官	国際センター、英語分科会、事前研修担当者				
<p><b>授業概要</b> 約4週間の英語圏(リジャイナ[カナダ]、あるいはニュー・カッスル[オーストラリア])での語学研修プログラム(研修費等は受講者が負担)に参加して、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。また同時に、滞在先の人々との交流を通じて、異文化理解を深める。この科目の単位を取得するためには、海外研修出発前に学内での事前研修(7コマ分)を受講しなければならない。(注意!事前研修を受講しなければ、語学研修プログラムに参加しても、単位は認められません。)海外語学研修プログラムは、リジャイナ、ニュー・カッスル共に夏と春に実施される。それぞれ5月頃、10月頃に国際センター主催の説明会が開かれるので、プログラムの詳細はそちらを参照すること。事前研修は語学研修プログラムに合わせて8月上旬、2月上旬に集中講義形式で開講される。詳しい開講時期等の情報は、掲示にて連絡する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 海外(英語圏)での語学研修プログラムで学習することにより、また現地での生活の中で、実践的英語コミュニケーション能力を身に付ける。滞在先の地域文化に触れ、現地の人々との交流を通じて、国際的な視野を広める。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 事前研修での出席状況、授業態度、英語習熟度と、海外語学研修プログラムでの成績評価を合わせて、総合的に評価する。</p> <p><b>メッセージ</b> 海外短期語学研修プログラム説明会の案内や、事前研修の開講案内は、掲示等にて行います。履修希望者は注意しておいて下さい。</p> <p><b>教官連絡先</b> 海外短期語学研修プログラムについては国際センターに問い合わせる。事前研修については共通教育係に問い合わせる。</p> <p><b>備考</b> 集中授業</p>					

開設科目	医学英語 1 a	区分	講義	開設期	後期
対象学生	医学 2 年	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	谷田憲俊				
<p>授業概要 医学・生命科学に関する英文の著書や論文などを読解し、討論して医学の基礎知識を習得し、英語力を高めるとともに最新の医学研究成果を学ぶ。</p> <p>授業一般目標 英文の著書や論文などから基本的な医学用語や生命科学用語を学び医学英語の語彙数、読解力、作文力を高めるとともに、最新の医学情報を得て医学・生命科学に対する知識及び理解を深め、それらの学習した知識を基盤として、さらには会話能力の向上にも繋がり国際感覚を身につけられるような指導を目標とする。</p> <p>成績評価方法 (総合) 小テスト・授業内レポート = 20～40 % 授業態度や授業への参加度 = 20～40 % 受講生の発表 (プレゼン) や授業内での製作作業 (作品) = 20～40 % 出席 = 20～40 % 観点別成績評価法は主な視点を示し、評価割合は上記のそれぞれから適宜合計して成績とする。なお、出席は欠格条件である。</p> <p>教科書・参考書 参考書：医学英和大辞典, 加藤 勝治, 南山堂, 2000 年; Words of Science, ,</p> <p>メッセージ 原則、全回出席のこと。英和辞典・医学英語辞典を持参のこと。継続は力なり、頑張りましょう。英語で話すことを恐れずに、積極的に参加しよう。</p>					

開設科目	医学英語 2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	医学 5 年	単位	2 単位	曜時限	月曜日 9・10 時限
担当教官					

開設科目	基礎医療英会話	区分	講義	開設期	後期
対象学生	看護 (1-40, 編入学者 1-5) 3年	単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6 時限
担当教官	S. テュラーリ				
<p><b>授業概要</b> Professional nurses are expected to be able to respond to the needs of all their patients, and this includes English speaking patients who may enter the Japanese health care system. This class prepares nurses to communicate in simple terms with such people so that care needs are attended to as to reduce confusion and distress for foreigners.</p> <p><b>授業一般目標</b> Students will learn to communicate in English, simply and effectively, with English speaking patients, their family members or significant others.</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> The Responsibilities of Students: 1. This is an English conversation course, so all students are expected to actively converse in English. 2. Every student is expected to study the weekly lesson reading(s) from the required text and from the CD before each class (see schedule over page). 3. Progressive learning in this course is important, so an emphasis will be placed on weekly quizzes of the previous week 's work to aid student learning. 4. Students are expected to attend all classes: Absences of five (5) or more days will result in automatic Fail Grade (D); Absences of four (4) days or less require emergency or medical reasoning. Gratings: A: 80-100 %, B: 70-79 %, C: 60-69 %, and D: Fail Grade Below 60 % If you fail this course the decision to give one compensatory examination rests with the Professor teaching the course. It is not automatic that a compensatory examination is given. Students will be Assessed by: Verbal and written quizzes x 10 40 % Role plays x 2 20 % Final Exam 40 %</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Christine 's Easy English Conversation for Nurses by Christine Lee Chinen (2004 Edition) which has 12 Units of study, and an accompanying CD. / 参考書: English-Japanese /Japanese-English dictionary, either book or electronic translator.</p> <p><b>教官連絡先</b> E-mail address: sturale@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	基礎医療英会話	区分	講義	開設期	後期
対象学生	看護 (41-, 編入学者 6-) 3年	単位	2 単位	曜時限	金曜日 5・6 時限
担当教官	ハドロック				
<p><b>授業概要</b> Students will develop skills to communicate simply and effectively with non-Japanese speaking patients and family members.</p> <p><b>授業一般目標</b> At the end of the course, the student will be able to: I. Carry on a simple conversation in English, in pairs or small groups, about a health care/nursing practice issue II. Correctly define, spell and pronounce English terms relating to nursing and health care practice. III. Understand and translate verbal English words and phrases.</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> Written assignments 25 % Role Play performance 25 % Participation in class exercises/activities 30 % Final exam 20 %</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: クリスティーンのやさしい看護英会話, 知念クリスティーン他, 医学書院 / 参考書: Any good, comprehensive, portable English-Japanese-English dictionary 辞書, paper or electronic.</p> <p><b>メッセージ</b> Student responsibilities: 1- Since this is a course in English conversation, it is expected that students will converse, in English. Active verbal participation in the classroom is essential. 2- Brief written assignments are to be turned in by the end of class the following week. They must be legible and use correct grammar and spelling. 3- Students are expected to read the weekly lesson prior to the beginning of class each week. 抜き打ち テスト may be given at any time.</p> <p><b>教官連絡先</b> tana@yic.ac.jp</p>					

開設科目	医療英会話	区分	講義	開設期	後期
対象学生	看護・検査3,4年	単位	2単位	曜時限	木曜日1・2時限
担当教官	Amy Azuma				
<p><b>授業概要</b> Students will learn to communicate in English simply and affectively with non-Japanese patients and their family members</p> <p><b>授業一般目標</b> The student will be able to: 1. Converse in English, in pairs or groups, about a health care/nursing practice issue. 2. Correctly define, spell, and pronounce English terms relating to nursing and health care issue. 3. Understand and translate English words and phrases.</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 1. Ask question right away when you don't understand something, maybe a good half of your classmates don't understand it also. 2. This is an English conversation class, students must converse in English actively. 3. Students are required to turn in their original written assignments at the beginning of each class. All assignments must be legible and use correct grammar and spelling. Late works result in zero point Weekly Homework and Do It Yourself. 4. Students are required to read the weekly unit and do the weekly homework before each sessions. 5. 5 absences result in an automatic Fail (D) grade, 4 absences required medical / emergency excuses. Weekly Homework and Do It Yourself (5 points x 10 = 50 points) 25 % Translations of medical history forms (10 points x 2 = 20 points) 10 % Role play ( 10 points) 5 % midterm ( 40 points) 20 % Final exam ( 80 points) 40 % (観点別) Method for evaluating results (classified by specific points)</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: Christine's Level-Up English Conversation for Nurses text and CD, Christine's Level-Up English Conversation for Nurses text and CD by Christine Lee Chinen,</p>					

後期 - 外国語教育系列（初習外国語）

開設科目	ドイツ語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	坂本貴志				
<p>授業概要 前期のドイツ語入門1から継続して、ドイツ語の最も基本的な文法と語彙を学び、併せてごく初歩的なドイツ語実用能力の訓練を行う。</p> <p>授業一般目標 ドイツ語の最も基本的な文法と語彙を身につけ、そしてそれらの基礎の上に、ごく初歩的なドイツ語を聞き、話し、読み、書けるようにする。</p> <p>成績評価方法(総合) 小テスト、課題(宿題) 期末テストの点数により評価する。出席は欠格事項としてのみ扱う。</p> <p>教科書・参考書 教科書: コピーを配布する。/ 参考書: 独和辞典は必ず一冊購入してください。(出版社は指定しません。電子辞書でも可。)</p> <p>メッセージ 教育テレビや教育ラジオのドイツ語講座も録画、録音して利用することをお勧めします。(語学学習は反復して聞くことが大変重要です。)</p>					

開設科目	ドイツ語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	田野 武夫				
<p>授業概要 前期に引き続き、ドイツ語の学習を行う。詳細は前期のシラバスを参照。</p> <p>授業一般目標 基本的な文法項目と日常表現に習熟することが第一の目標である。またドイツ社会一般に関する理解を深め、旅行、留学など実際にドイツに触れる意欲を高めることも目標とする。 また前学期でドイツ語検定4級、後期でドイツ語検定3級程度のドイツ語力を目安とする。</p> <p>成績評価方法(総合) 授業毎の小テスト(50%) 期末試験(50%)</p> <p>教科書・参考書 教科書: Deutschlernen durch Konversation スケッチで学ぶドイツ語, リヒター・山田・識名, 同学社, 2006年 / 参考書: 新アポロン独和辞典, 根本、恒吉他, 同学社, 2000年</p> <p>メッセージ 前期受講者を受講資格とします。(後期のみの受講は受け付けません。)</p> <p>教官連絡先 授業中に提示します。</p>					

開設科目	ドイツ語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	坂本貴志				
<p>授業概要 前期のドイツ語入門1から継続して、ドイツ語の最も基本的な文法と語彙を学び、併せてごく初歩的なドイツ語実用能力の訓練を行う。</p> <p>授業一般目標 ドイツ語の最も基本的な文法と語彙を身につけ、そしてそれらの基礎の上に、ごく初歩的なドイツ語を聞き、話し、読み、書けるようにする。</p> <p>成績評価方法(総合) 小テスト、課題(宿題) 期末テストの点数により評価する。出席は欠格事項としてのみ扱う。</p> <p>教科書・参考書 教科書: コピーを配布する。</p> <p>メッセージ 教育テレビや教育ラジオのドイツ語講座も録画、録音して利用することをお勧めします。(語学学習は反復して聞くことが大変重要です。)</p>					

開設科目	ドイツ語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	田野 武夫				
<p>授業概要 前期に引き続き、ドイツ語の学習を行う。詳細は前期のシラバスを参照。</p> <p>授業一般目標 基本的な文法項目と日常表現に習熟することが第一の目標である。またドイツ社会一般に関する理解を深め、旅行、留学など実際にドイツに触れる意欲を高めることも目標とする。 また前学期でドイツ語検定4級、後期でドイツ語検定3級程度のドイツ語力を目安とする。</p> <p>成績評価方法(総合) 授業毎の小テスト(50%) 期末試験(50%)</p> <p>教科書・参考書 教科書: Deutschlernen durch Konversation スケッチで学ぶドイツ語, リヒター・山田・識名, 同学社, 2006年 / 参考書: 新アポロン独和辞典, 根本、恒吉他, 同学社, 2000年</p> <p>メッセージ 前期受講者を受講資格とします。(後期のみの受講は受け付けません。)</p> <p>教官連絡先 授業中に提示します。</p>					

開設科目	ドイツ語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教官	Felicitas Dobra				
<p>授業概要 ドイツ語の初級文法の習得をめざす。文法を中心とした練習問題をこなすとともに、発音、聞き取り、話すこと、語彙力、作文力、読解力をつける。CDを活用し、パートナー練習を加えて、簡単な会話に挑戦する。</p> <p>授業一般目標 ドイツ語の初級文法を学習する。初歩的なドイツ語読解力を身につける。ドイツ語圏の文化についても知識を深める。</p> <p>成績評価方法(総合) 出席、中間試験、定期試験によって、評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書: Spass an Deutsch, Kohei Nakamura/ Masaki Tsukada, Ikubundo, 2006年; ドイツ語大好き! / CD付き / 中村 浩平 / 塚田真幸 / 東京: 郁文堂、2006、ISBN4-261-01216-2 2,500円</p> <p>メッセージ ドイツ語勉強を楽しんで。</p> <p>教官連絡先 山口 (吉田)研究1号館 303(3F)火曜日/水曜日/木曜日 電話番号:(083)933-5077 メ-ル: dobra@yamaguchi-u.ac.jp OFFICE HOUR: 水曜日13:00時~14:00時 宇部 (南小串 1-1-1 医学部)月曜日と金曜日 電話番号:(0836)22-2187 メ-ル: dobra@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	ドイツ語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	能木敬次				
<p>授業概要 前期概要の記述内容を参照してもらいたい。「読み」「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想・文学を紹介する。</p> <p>授業一般目標 近年、ドイツの世界経済・政治における役割の増大には目をみはるものがある。工業技術や医療技術、また福祉政策や環境政策においてドイツは世界をリードしている。近代日本の政治・教育文化・科学技術の発展におけるドイツの貢献度の大きさは言うまでもない。本講義はドイツ語文を「読む」ための第一段階の知識を提供する。将来、英語とともに第二の情報収集手段として、また研究の為にドイツ語文献の読解に役立ててほしい。</p> <p>成績評価方法(総合) 1)受講態度 2)出席 3)小テスト 4)定期テスト 全てを考慮する。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 『ミステリアスなドイツ文法』, 荻野蔵平 / Andrea Raab, 朝日出版社, 2006年 / 参考書: 新アポロン独和辞典(第4版), 根本道也 [ほか] 編集執筆, 同学社, 2003年; 『新アポロン独和辞典』根本他著, 周学社 (辞書は他のものでも構わないが必携のこと。)</p>					

開設科目	ドイツ語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	Dobra Felicitas				
<p><b>授業概要</b> 本授業は、まず第一に基礎的なコミュニケーション能力を身につけさせることを目的とする。文型が提示される。これらの文型は、学生によって練習され、学生の生活に関連する 文例によって補強される。教科書の文章は、ドイツ事情を伝える内容である。各課の終わりに、日本語による文法の説明がある。</p> <p><b>授業一般目標</b> 学生は提示された文型に従って、簡単な会話を行える程度の知識を習得することができる。話すことと発音練習がこの授業の重点である。文法は授業の目的ではないが、目標に 到達するために通らねばならぬ道である。したがって、各課の文法も教授され、習得されたかどうか吟味される。文法は、コミュニケーションに有意義な練習を通じて伝えられる。学生は教科書の中に描写されたいくつかのシチュエーションによって、文化間の相違を確認することができる。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書： Szenen integriert 1, Shuko Sato/ Kyoko Shimoda/Heike Papenthin/Gesa Oldehaver, Sanshusha, 2006 年； CD 付き スシェネン 1 場面で学ぶドイツ語 Szenen integriert 1 佐藤修子/伊藤佑紀子 東京：三修社, 2006 年。ISBN4-384-12244-6 C1084 2.900 円 ISBN4-384-12223-3 C1084 ¥2900E / 参考書： 授業中に紹介します。</p> <p><b>教官連絡先</b> 授業のあといつでもいいです / dobra@yamaguchi-u.ac.jp 宇部医学部の研究室の電話番号：( 月 / 金 ( 0 8 3 6 ) 2 2 - 2 1 8 7 山口吉田研究室：水曜日 1 2 : 3 0 時 ~ 1 4 : 0 0 時</p>					

開設科目	ドイツ語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	能木敬次				
<p><b>授業概要</b> 前期概要の記述内容を参照してもらいたい。「読み」「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想・文学を紹介する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 近年、ドイツの世界経済・政治における役割の増大には目をみはるものがある。工業技術 や医療技術、また福祉政策や環境政策においてドイツは世界をリードしている。近代日本 の政治・教育文化・科学技術の発展におけるドイツの貢献度の大きさは言うまでもない。本講義はドイツ語文を「読む」ための第一段階の知識を提供する。将来、英語とともに第二の情報収集手段として、また研究の為のドイツ語文献の読解に役立ててほしい。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 受講態度・出席率・小テスト・定期テスト等全てを考慮に入れる。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書： 『ミステリアスなドイツ文法』、荻野蔵平 / Andrea Raab, 朝日出版社, 2006 年 / 参考書： 新アポロン独和辞典 (第 4 版), 根本道也 [ほか] 編集執筆, 同学社, 2003 年； 『新アポロン独和辞典』根本道也他著, 同学社 (辞書は他のものでも構わないが必携のこと。)</p>					

開設科目	ドイツ語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時間	水曜日 5・6 時限
担当教官	野口達人				
<p>授業概要 本授業ではドイツ語を話したり、聴いたりする基礎的な能力を養成する。そのために、基本的な文法事項を説明し、実際の会話の練習、パートナー練習、聴き取り練習、学習した文法事項についての練習などを課す。</p> <p>授業一般目標 話法の助動詞、分離動詞、現在完了形などを習得することにより、ドイツ語の文構造の基本を理解する。さらに重要単語や表現を覚えて、簡単なドイツ語を話したり、聴いたりすることができるようになる。</p> <p>成績評価方法(総合) (1)各課の練習問題を口頭または板書にて行い、これを演習として評価。(2)授業の中で小テストを随時行う。(3)筆記試験を定期試験期間中に行う。以上を下記の観点・割合で評価する。なお、総授業数の80%以上の出席を必須要件とする。</p> <p>教科書・参考書 教科書: アクティブに使うドイツ語, 三宅恭子, Michaela Koch, 三修社, 2006 年</p> <p>メッセージ 授業への積極的な参加と自主的な反復練習が要求される。授業には必ず独和辞典を携行すること。</p>					

開設科目	ドイツ語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時間	水曜日 7・8 時限
担当教官	野口達人				
<p>授業概要 本授業ではドイツ語を話したり、聴いたりする基礎的な能力を養成する。そのために、基本的な文法事項を説明し、実際の会話の練習、パートナー練習、聴き取り練習、学習した文法事項についての練習などを課す。</p> <p>授業一般目標 話法の助動詞、分離動詞、現在完了形などを習得することにより、ドイツ語の文構造の基本を理解する。さらに重要単語や表現を覚えて、簡単なドイツ語を話したり、聴いたりすることができるようになる。</p> <p>成績評価方法(総合) (1)各課の練習問題を口頭または板書にて行い、これを演習として評価。(2)授業の中で小テストを随時行う。(3)筆記試験を定期試験期間中に行う。以上を下記の観点・割合で評価する。なお、総授業数の80%以上の出席を必須要件とする。</p> <p>教科書・参考書 教科書: アクティブに使うドイツ語, 三宅恭子, Michaela Koch, 三修社, 2006 年</p> <p>メッセージ 授業への積極的な参加と自主的な反復練習が要求される。授業には必ず独和辞典を携行すること。</p>					

開設科目	ドイツ語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	工2年	単位	2単位	曜時間	木曜日5・6時限
担当教官	江波 昌子				
<p><b>授業概要</b> 前期に引き続き、この授業では、基礎的なドイツ語を読み、書き、話し、聞く力を養う。そのために、基礎的な文法事項を説明する。また、くり返しドイツ語を聞いて、発音やイントネーション、言葉のリズムを身につけ、基本的な表現を覚えて実際に使えるように、練習問題や暗唱など様々な課題を与える。</p> <p><b>授業一般目標</b> 前期に引き続き、ドイツ語の発音の基本を習得する。分離動詞、助動詞等の品詞の理解を通して、ドイツ語文法の基礎構造を認識する。また、いろいろなフレーズを覚えて、簡単な日常会話が表現できると同時に、平易なドイツ語を聞き取れるようになる。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 1.出席と小テストを含めた平常点を50%とし、定期試験の50%と合わせて評価する。2.宿題は授業中に成果を発表することで、平常点として評価する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：新・問いかけるドイツ語 改訂版, 大谷弘道他著, 三修社, 2006年 / 参考書：「自分にとって使いやすい」と思う独和辞典を用意すること。出版社は特に指定しない。</p> <p><b>メッセージ</b> 語学を学ぶということは、新しい世界を知ることです。楽しく学習しましょう。辞書は毎回、必ず持参して下さい。</p>					

開設科目	ドイツ語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2単位	曜時間	金曜日1・2時限
担当教官	Watanabe-Berger, Angelika				
<p><b>授業概要</b> 英語を話せて当たり前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、日本以外の国に関心を持って、色んなメディアを通じて”ドイツ”を体験し、身近に感じてもらうのが狙いです。</p> <p><b>授業一般目標</b> ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習して、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：Keikos praktikum in M・nchen, 矢羽々崇著, 朝日出版社, 2003年; ドイツ語一年生・ケイコのミュンヘン(2500円+税) / 参考書：プリント等配布</p> <p><b>メッセージ</b> 毎回ドイツへ行った気分で、恥ずかしがらずに会話や歌、ロールプレイ etc. に挑戦しましょう。</p> <p><b>教官連絡先</b> E-mail: palette@c-able.ne.jp</p>					

開設科目	ドイツ語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時間	金曜日 3・4 時限
担当教官	Watanabe-Berger, Angelika				
<p>授業概要 英語を話せて当たり前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をA B Cから学び、日本以外の国に関心を持って、色々なメディアを通じて”ドイツ”を体験し、身近に感じてもらうのが狙いです。</p> <p>授業一般目標 ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習して、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。</p> <p>教科書・参考書 教科書：Keikos praktikum in M・nchen, 矢羽々崇著, 朝日出版社, 2003年；ドイツ語一年生・ケイコのミュンヘン(2500円+税) / 参考書：プリント等配布</p> <p>メッセージ 毎回ドイツへ行った気分で、恥ずかしがらずに会話や歌、ロールプレイ etc. に挑戦しましょう。</p> <p>教官連絡先 E-mail: palette@c-able.ne.jp</p>					

開設科目	フランス語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時間	火曜日 1・2 時限
担当教官	Emde Angelika				
<p>授業概要 このコースではフランス語の根本的な構造を理解し、自力で簡単な文書を作り、日常的な会話をこなせることがねらいです。入門2のコースは、入門1に基づいていることに注意してください。</p> <p>授業一般目標 様々なコミュニケーションの場面に応じて、基本的なパターンを練習します。必要な文法を説明し、多くの例を応用しながら、身に付けます。語彙はそれぞれの分野に合わせて導入し、段階的に増やします。聞く力や発音を特に鍛えます。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験(中間・期末試験) 50%、小テスト・授業内レポート 20%、宿題・授業外レポート 20%、授業態度・授業への参加態度 10%</p> <p>教科書・参考書 教科書：教材のプリントを授業で配付します。</p>					

開設科目	フランス語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教官	ボシィール ジャン・クロード				
<p>授業概要 この授業では、会話を取り入れながらフランス語の基本的な文法事項を学習します。毎回授業の終わりには「フランス雑学コーナー」を設けてシャンソン、漫画、フランス映画等を紹介します。授業は主に日本語で行います。</p> <p>授業一般目標 簡単な挨拶から徐々に基礎フランス語を習得し会話を中心に総合的なレベルアップを目指します。</p> <p>成績評価方法(総合) 授業の出席状況、授業態度、試験の成績で総合的に評価します。</p> <p>教科書・参考書 教科書：SALUT, YASUKO TANABE その他, SURUGADAI</p>					

開設科目	中国語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	苞山武義				
<p>授業概要 前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。</p> <p>授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験の成績：70% 小テスト・授業内レポート：20% 授業態度・授業への参加度：10% 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>教科書・参考書 教科書：スリム版 表現する中国語、楊凱榮・張麗群、白帝社、2005年</p>					

開設科目	中国語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	月曜日 9・10 時限
担当教官	苞山武義				
<p>授業概要 前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。</p> <p>授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>成績評価方法 (総合) 定期試験の成績：70 % 小テスト・授業内レポート：20 % 授業態度・授業への参加度：10 % 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>教科書・参考書 教科書：スリム版 表現する中国語, 楊凱榮・張麗群, 白帝社, 2005 年</p>					

開設科目	中国語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教官	梁蕾				
<p>授業概要 前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。</p> <p>授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>成績評価方法 (総合) 定期試験の成績：70 % 小テスト・授業内レポート：20 % 授業態度・授業への参加度：10 % 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>教科書・参考書 教科書：スリム版 表現する中国語, 楊凱榮・張麗群, 白帝社, 2005 年</p>					

開設科目	中国語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	陳鳳展				
<p>授業概要 前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。</p> <p>授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>成績評価方法 (総合) 定期試験の成績：70 % 小テスト・授業内レポート：20 % 授業態度・授業への参加度：10 % 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>教科書・参考書 教科書：スリム版 表現する中国語, 楊凱榮・張麗群, 白帝社, 2005 年</p>					

開設科目	中国語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	李海英				
<p>授業概要 前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。</p> <p>授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>成績評価方法 (総合) 定期試験の成績：70 % 小テスト・授業内レポート：20 % 授業態度・授業への参加度：10 % 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>教科書・参考書 教科書：スリム版 表現する中国語, 楊凱榮・張麗群, 白帝社, 2005 年</p>					

開設科目	中国語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限
担当教官	苞山武義				
<p>授業概要 前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。</p> <p>授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験の成績:70% 小テスト・授業内レポート:20% 授業態度・授業への参加度:10% 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>教科書・参考書 教科書:スリム版 表現する中国語, 楊凱栄・張麗群, 白帝社, 2005年</p>					

開設科目	中国語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教官	宇芳				
<p>授業概要 前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。</p> <p>授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験の成績:70% 小テスト・授業内レポート:20% 授業態度・授業への参加度:10% 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>教科書・参考書 教科書:スリム版 表現する中国語, 楊凱栄・張麗群, 白帝社, 2005年</p>					

開設科目	中国語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教官	李海英				
<p>授業概要 前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。</p> <p>授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>成績評価方法 (総合) 定期試験の成績：70 % 小テスト・授業内レポート：20 % 授業態度・授業への参加度：10 % 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>教科書・参考書 教科書：スリム版 表現する中国語, 楊凱榮・張麗群, 白帝社, 2005 年</p>					

開設科目	中国語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	水曜日 9・10 時限
担当教官	宇芳				
<p>授業概要 前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。</p> <p>授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>成績評価方法 (総合) 定期試験の成績：70 % 小テスト・授業内レポート：20 % 授業態度・授業への参加度：10 % 出席が 2/3 に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>教科書・参考書 教科書：スリム版 表現する中国語, 楊凱榮・張麗群, 白帝社, 2005 年</p>					

開設科目	中国語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	医・工2年	単位	2単位	曜時限	木曜日5・6時限
担当教官	李海英				
<p>授業概要 前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。</p> <p>授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験の成績:70% 小テスト・授業内レポート:20% 授業態度・授業への参加度:10% 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>教科書・参考書 教科書:スリム版 表現する中国語, 楊凱栄・張麗群, 白帝社, 2005年</p>					

開設科目	中国語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2単位	曜時限	木曜日7・8時限
担当教官	杉本知栄子				
<p>授業概要 前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。</p> <p>授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験の成績:70% 小テスト・授業内レポート:20% 授業態度・授業への参加度:10% 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>教科書・参考書 教科書:スリム版 表現する中国語, 楊凱栄・張麗群, 白帝社, 2005年</p>					

開設科目	中国語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	木曜日 9・10 時限
担当教官	秋山淳				
<p>授業概要 前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。</p> <p>授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験の成績：70% 小テスト・授業内レポート：20% 授業態度・授業への参加度：10% 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>教科書・参考書 教科書：スリム版 表現する中国語, 楊凱榮・張麗群, 白帝社, 2005年</p>					

開設科目	中国語入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	金曜日 9・10 時限
担当教官	張玲				
<p>授業概要 前期の同名称、同曜日時限、同一担当教員の授業の続きである。前期に引き続き同じテキストを用いて、表現、文型の学習を積み重ね、中国語の運用能力を高めていく。</p> <p>授業一般目標 中国語の基本的な表現を理解し、簡単な日常生活会話を習得する。あわせて中国に関する基本的知識の理解を進める。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験の成績：70% 小テスト・授業内レポート：20% 授業態度・授業への参加度：10% 出席が2/3に満たない者は、定期試験を受けられない</p> <p>教科書・参考書 教科書：スリム版 表現する中国語, 楊凱榮・張麗群, 白帝社, 2005年</p>					

開設科目	ハンゲル入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教官	和田学				
<p>授業概要 前期の内容に基づき、多様な表現を学び、簡単な文章の読み書き、簡単な会話ができるようにします。毎回、授業の内外での課題を課します。</p> <p>授業一般目標 基本的な文法事項を理解し、正確に使用できるようにします。簡単な会話程度ができるようにします。</p> <p>成績評価方法(総合) (1) 定期試験と(2) 不定期の小テストで成績を評価します。(3) 欠席、宿題未提出が所定の回数を超えた場合には、単位は与えません。</p> <p>教科書・参考書 教科書: コスモス朝和辞典, 菅野裕臣他, 白水社, 1988年; 「聞いて覚える初級朝鮮語」, 河村光雅・田星姫, 白水社, 2002年</p> <p>教官連絡先 連絡先: wadagaku@yamaguchi-u.ac.jp、研究室: 人文棟2階、オフィスアワー: 木曜日 10:00-17:00</p>					

開設科目	ハンゲル入門2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	教・理・医・工・農	単位	2 単位	曜時限	木曜日 1・2 時限
担当教官					
<p>授業概要 前期の内容に基づき、多様な表現を学び、簡単な文章の読み書き、簡単な会話ができるようにします。毎回、授業の内外での課題を課します。</p> <p>授業一般目標 基本的な文法事項を理解し、正確に使用できるようにします。簡単な会話程度ができるようにします。</p> <p>成績評価方法(総合) (1) 定期試験と(2) 不定期の小テストで成績を評価します。(3) 欠席、宿題未提出が所定の回数を超えた場合には、単位は与えません。</p> <p>教科書・参考書 教科書: コスモス朝和辞典, 菅野裕臣他, 白水社, 1988年; 「聞いて覚える初級朝鮮語」, 河村光雅・田星姫, 白水社, 2002年</p> <p>教官連絡先 連絡先: wadagaku@yamaguchi-u.ac.jp、研究室: 人文棟2階、オフィスアワー: 木曜日 10:00-17:00</p>					

開設科目	ドイツ語初級2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限 木曜日 3・4 時限
担当教官	Hintereder-Emde Franz				
<p>授業概要 後期は、前期に基づいて進める。語彙目標は650語である。自宅の常に練習をさらに効果的にやってもらうことである。週2回コースなので以下の内容は週毎(2コマ)に記されている。</p> <p>授業一般目標 ドイツ語の基本的な初級レベルを目標にする。簡単な会話や文章理解に必要な文法や語彙を習得する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：問題発見のドイツ語、Modelle 1, Riessland / 藁谷 / 木村 / 平高, 三修社, 2005年 / 参考書：授業で紹介する。</p> <p>メッセージ 外国語は一言一言自分の身に付かないかぎり、成果はない。最初の授業に人数が多すぎると、人数を調整することがある。</p> <p>教官連絡先 メール: emde@yamaguchi-u.ac.jp tel/fax: 933-5287 オフィスアワー: 木曜日 3・4 (10:20~11:50)</p>					

開設科目	ドイツ語初級2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限 水曜日 3・4 時限
担当教官	小粥良				
<p>授業概要 ドイツ語の初歩を丁寧に学ぶ。文法を体系的に学ぶ。ビデオ等を用いて、ドイツの文化についても紹介する。</p> <p>授業一般目標 ドイツ語の初級文法を一通り学習するとともに基礎語彙を習得し、そしてそれらの基礎の上に初歩的なドイツ語読解力を身につける。またドイツ語圏の国々の文化等について知識を深める。</p> <p>成績評価方法(総合) レポート、期末テストの点数により評価する。出席は欠格事項としてのみ扱い、全授業の3分の2以上の出席を必要とする。</p> <p>教科書・参考書 教科書：身につくドイツ語・初級, 前田良三、高木葉子, 郁文堂, 2006年 / 参考書：独和辞典は必携。電子辞書でも可。</p> <p>メッセージ 予習・復習をしっかりと行ってください。教科書付属のCDを家でもよく聞くようにしてください。できれば、NHK ラジオ第二放送のドイツ語講座をタイマー録音して聞くようにしてください。</p> <p>教官連絡先 小粥研究室(教育学部2階200-4号室) 木曜日 16:00-17:00</p>					

開設科目	ドイツ語初級2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限 金曜日 5・6 時限
担当教官	本田義昭				
<p>授業概要 本授業では、現代ドイツ語を読み、書き、話すことができるための基礎的な能力を養います。そのために、発音を身につけ、骨組みとなる文法を学びながら、語彙をつけて、実際に運用できるよう様々な練習を行ないます。EU（ヨーロッパ連合）の牽引車の一つであるドイツの言語を学んで、国際的な視野を広げましょう。</p> <p>授業一般目標 現代ドイツ語の発音の基本を習得する。名詞の変化・動詞の現在形などの文法項目を学習することで、ドイツ語の基礎構造を認識する。さらに、平易な表現を憶えて、簡単な日常会話ができるようになる。</p> <p>成績評価方法（総合） 中間試験（35%）+ 期末試験（35%）+ 授業への積極的な参加度（30%）で評価します。出席率が8割未満の場合は失格とします。</p> <p>教科書・参考書 教科書：CD付き 自己表現のためのドイツ語1, 板山真由美, 三修社, 2004年 メッセージ こつこつ頑張れば、誰でもかなりのレベルに到達します。継続は力なり！将来はドイツ留学も夢ではありません。</p> <p>教官連絡先 honda@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	ドイツ語初級2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限 木曜日 5・6 時限
担当教官	下寄正利				
<p>授業概要 ドイツ語文法の初歩を勉強します。</p> <p>授業一般目標 ドイツ語の初歩を身につけている。</p> <p>成績評価方法（総合） 授業中の演習、中間テスト、期末テストを総合して成績をつけます。</p> <p>教科書・参考書 教科書：親切的ドイツ文法, 橋本郁夫, 和田達宜, 伊藤真, 第三書房</p>					

開設科目	ドイツ語初級2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限 金曜日 7・8 時限
担当教官	河中正彦				
<p>授業概要 ドイツ語初級2は、ドイツ語初級1を受講した人が受講できます。前期の成果を踏まえてさらに力をつけていきます。受講者は必ず、火曜日7・8時限 金曜日7・8時限の両方を受講してください。各課の終わりに練習問題・読章がついているからそれをレポートで提出してもらい、レポート点を100点のなかの20点に換算して評価します。試験は中間と期末の2回で、40点ずつです。受講者は上限60名とします。</p> <p>授業一般目標 ドイツ語の発音を習得する。各品詞の活用に習熟し、ドイツ語の基礎構造を認識する。簡単な文章を読み書き、話せるようになる。</p> <p>成績評価方法(総合) 課の終わりに練習問題をレポートで提出してもらい、レポート点を100点のなか20点に換算して評価します。試験は中間と期末の2回で、40点ずつです。</p> <p>教科書・参考書 教科書：ドイツ語自遊自在, JTB編集部, JTB, 2002年; ドイツ語とのランデヴー, 河中正彦, 郁文堂, 2001年; 教科書は文栄堂で販売。/ 参考書：ゼロから始めるドイツ語, 在間 進, 三修社, 2002年; 参考書は希望者のみ購入。</p> <p>メッセージ 初習外国語は一度でも欠席するとダメージは大きいので、全出席のつもりで始めてください。週2回課題をレポートで出してもらいます。これはかなりきついで、覚悟しておいてください。</p> <p>教官連絡先 研究室：研究1号館3階。オフィスアワー：水曜日 9・10時限 kawanaka@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	ドイツ語会話2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	DobraFelicitas				
<p>授業概要 本授業は、まず第一に基礎的なコミュニケーション能力を身につけさせることを目的とする。文型が提示される。これらの文型は、学生によって練習され、学生の生活に関連する文例によって補強される。教科書の文章は、ドイツ事情を伝える内容である。各課の終わりに、日本語による文法の説明がある。</p> <p>授業一般目標 学生は提示された文型に従って、簡単な会話を行える程度の知識を習得することができる。話すことと発音練習がこの授業の重点である。文法は授業の目的ではないが、目標に到達するために通らねばならぬ道である。したがって、各課の文法も教授され、習得され たかどうか吟味される。文法は、コミュニカティブに有意義な練習を通じて伝えられる。教科書では、文法事項は「Bausteine」という見出しの下に現れる。学生は教科書の中に描写されたいくつかのシチュエーションによって、文化間の相違を確認することができる。次年度にも更にドイツ語を継続して学習することを希望している学生のために、次年度には同じ教科書の第二部を使用することを指摘しておく。</p> <p>教科書・参考書 教科書：CD付き 自己表現のためのドイツ語1, 板山真由美, 三修社, 2004年; 『自己表現のためのドイツ語2』CD付き: 板山真由美/潮路ウルスラ/本河裕子/吉みつたか子三修社, 2003年 ISBN4-384-13074-0 C1084、2700円/ 参考書：Farbkasten Deutsch 2.-Situationen/ Informationen, Mayumi ITAYAMA/Ursula SHIOJI/Yuko MOTOKAWA/ Takako Yoshimitsu, Sanshusha, 2003年; CD付き/自己表現のためのドイツ語 2 / 板山真由美 / 潮路ウルスラ / 本河裕子 / 吉みつたか子 / 東京 : 三修社, 2003 / 2.700円/ ISBN4-384-13074-0 C1084</p> <p>教官連絡先 宇部：医学部：月曜日と金曜日 / 電話：(0836)22-2187 オフィスアワー：金曜日：12：30時～14：00時 吉田研究室：火曜日 / 水曜日 / 木曜日 オフィスアワー：水曜日：12：30時～14：00時 e-mail:dobra@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	ドイツ語中級2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教2年	単位	2単位	曜時限	火曜日5・6時限
担当教官	DobraFelicitas				
<p><b>授業概要</b> 本授業は、まず第一に基礎的なコミュニケーション能力を身につけさせる、言い換えれば、一年目に学んだことを復習し、確かなものにするを目的とする。文型は、より意識的に応用されなければならない。これらの文型は、学生によってパートナー練習やグループ練習の中で練習され、学生の生活やさまざまなコミュニケーションの状況に関連する文例によって補強される。教科書の文章は、ドイツ事情を伝える内容である。各課の終わりに、日本語による文法の説明がある。</p> <p><b>授業一般目標</b> 学生は提示された文型に従って、簡単な会話を行える程度の知識を習得することができる。話すことと発音練習がこの授業の重点である。文法は授業の目的ではないが、目標に到達するために通らねばならぬ道である。したがって、各課の文法も教授され、習得されたかどうか吟味される。文法は、コミュニケーションに有意義な練習を通じて伝えられる。学生は教科書の中に描写されたいくつかのシチュエーションによって、文化間の相違を確認することができる。授業の重点は、教科書の題名に示唆されている「問題発見」にある。学生は、これまでに学んできたことを思い出しながら、世界についての自己の知識を活用して、比較的最近に学んだ新しい言語で言い表すことができる。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 定期試験：筆記試験(45分)、会話試験(Lektion 6-10)(定期試験期間中に実施)</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：Szenen：場面で学ぶドイツ語、”佐藤修子、伊藤祐紀子著”，三修社，2004年；スシェネン2場面で学ぶドイツ語ニューパ・シオン・CD付き 佐藤修子/下田恭子/ハイケパベンチン/ゲザオルデハ・ベル ISBN4-384-13078-3 C1084 2900円/参考書：Szenen：場面で学ぶドイツ語；1-2(改訂版)，”佐藤修子、伊藤祐紀子著”，三修社，2002年；佐藤修子/下田恭子/ハイケパベンチン/ゲザオルデハベル/スシェネン2場面で学ぶドイツ語.CD付き.Sanshusha:2004 ISBN4-384-13078-3 C1084.2900円</p> <p><b>教官連絡先</b> 授業のあといつでもいいです / dobra@yamaguchi-u.ac.jp 宇部医学部の研究室の電話番号：(月/金(0836)22-2187 山口吉田研究室：水曜日12：30～13時～：30時</p>					

開設科目	フランス語初級2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	4単位	曜時限	月曜日3・4時限 木曜日7・8時限
担当教官	平山豊				
<p><b>授業概要</b> 現代フランス語を読み、書き、話すことができるようになるための基礎的な能力を養います。そのために文法の諸規則を説明し、発音やイントネーションを身につけ、基本単語の語彙や語形変化を憶えて実際に運用できるよう様々な練習を課します。</p> <p><b>授業一般目標</b> 動詞の現在形を用いた挨拶や日常の簡単な会話ができる基礎固めをします。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 定期試験70%、宿題10%、授業参加20%</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：アミカルマン(改訂版)、澤田直之、ほか、駿河台出版社、2005年；補助教材をプリント配布</p>					

開設科目	フランス語初級2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限 木曜日 5・6 時限
担当教官	武本雅嗣				
<p>授業概要 後期は、週2回、フランスの地方を舞台にしたビデオ教材を使って「読み・書き・聴き・話す」能力を高めていきます。1年間勉強すれば、フランスの文化やフランス人の習慣がかなり把握できているはずです。フランス語と英語はいわばいとこ同士の間柄ですが、両言語の間には実に多くの共通点があります。ですから、英語の知識を活用して、英語との異同に注意しながらフランス語を勉強していくのが効率的です。英語以外の外国語を学ぶと、言語や文化の多様性と共通性が少しずつ見えてきます。様々な発見の喜びが得られるような授業を行いたいと思っています。</p> <p>授業一般目標 フランス語の文法体系を習得し、基本的なフランス語運用能力を身につけることを目標とします。</p> <p>成績評価方法(総合) 期末試験:60% 小テスト:20% 出席:20%</p> <p>教科書・参考書 教科書:『彼女は食いしん坊!2』,藤田裕二,朝日出版;1年間履修する人は、前期(フランス語初級1)のテキスト『彼女は食いしん坊!』も必要です。4月に大学会館の生協で、あらかじめ合わせて2冊購入しておいて下さい。/参考書:『クラウン仏和辞典』,天羽均,三省堂(紀伊国屋にて販売);『ディコ仏和辞典』,中條屋進,白水社;”『プチ・ロワイヤル仏和辞典』”,田村毅,旺文社;大学会館の生協にて販売。</p> <p>メッセージ ほぼ毎回宿題を課すので、休まず出席すること。</p> <p>教官連絡先 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 3:00-4:30</p>					

開設科目	フランス語初級2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	月曜日 9・10 時限 木曜日 3・4 時限
担当教官	井上三朗				
<p>授業概要 フランス語初級1に同じ。</p> <p>授業一般目標 フランス語初級1に同じ。</p> <p>成績評価方法(総合) 試験は定期試験をふくめて、2度おこないたいと思っている。その試験の点数と平常点との総合で、成績評価をおこなう。</p> <p>教科書・参考書 教科書:新フランス文法要説,石井洋二郎,朝日出版社,2004年;ミニ・ボンジュール・パリ,中山真彦・杉山利恵子,白水社,2005年</p> <p>メッセージ 授業への積極的な参加を望む</p> <p>教官連絡先 月曜日 14:30 - 16:00 . 人文学部 613 研究室。</p>					

開設科目	フランス語会話 2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教官	エムデ・アンゲリカ				
<p><b>授業概要</b> この授業では会話が中心です。日常的な場面を簡単な言い方や文法のパターンで訓練します。授業に定期的に参加することが必要です。フランスの音楽、映画や生活文化も紹介します。</p> <p><b>授業一般目標</b> 様々なコミュニケーションの場面に応じて、基本的なパターンを練習します。必要な文法を説明し、多くの例を応用しながら、身に付けます。語彙はそれぞれの分野に合わせて導入し、段階的に増やします。聞く力や発音を特に鍛えます。</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 試験やテストは行いませんが、定期的な出席と積極的な参加により評価します。出席：50%、参加や授業への貢献：20%、宿題・授業外レポート：30%。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：教材のプリントを授業で配布します。 メッセージ 出席は非常に大事で、積極的な参加は、成功へのカギです。</p>					

開設科目	フランス語中級 2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教 2 年	単位	2 単位	曜時限	月曜日 9・10 時限
担当教官	末松壽				
<p><b>授業概要</b> フランス語中級 I をうけて、文法を復習しさらに理解をふかめつつ、フランス語文の読みにむけての「橋渡し」をめざす。</p> <p><b>授業一般目標</b> そのために初学者のために書かれた痛快な読み物を読みつつフランス語の文法や文章法を学ぶ。主な事項としては 1. 命令法、2. 代名動詞、3. 強調構文、4. 単純過去、5. 時制の構造、6. 条件法、7. 接続法</p> <p><b>成績評価方法 (総合)</b> 平素の成績、暗記、期末筆記試験など。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：Le hollandais sans peine, Marie-Aude Murail, l'école des loisirs, 1989 年; Le petit Nicolas, Sampe-Gosciny, Denoel, 1960 年</p>					

開設科目	中国語初級 2 a	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	苞山武義				
<p>授業概要 前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。</p> <p>授業一般目標 ・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。 ・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価</p> <p>教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編), 齊藤匡史、何曉毅、田梅, 白帝社, 2003 年</p>					

開設科目	中国語初級 2 a	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	齊藤匡史				
<p>授業概要 前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。</p> <p>授業一般目標 ・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。 ・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価</p> <p>教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編), 齊藤匡史、何曉毅、田梅, 白帝社, 2003 年</p>					

開設科目	中国語初級 2 a	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	月曜日 9・10 時限
担当教官	富平美波				
<p>授業概要 前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。</p> <p>授業一般目標 ・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。 ・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価</p> <p>教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編), 斉藤匡史、何曉毅、田梅, 白帝社, 2003 年</p>					

開設科目	中国語初級 2 a	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	富平美波				
<p>授業概要 前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。</p> <p>授業一般目標 ・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。 ・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価</p> <p>教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編), 斉藤匡史、何曉毅、田梅, 白帝社, 2003 年</p>					

開設科目	中国語初級 2 a	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	苞山武義				
<p>授業概要 前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。</p> <p>授業一般目標 ・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。 ・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価</p> <p>教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編), 斉藤匡史、何曉毅、田梅, 白帝社, 2003 年</p>					

開設科目	中国語初級 2 a	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限
担当教官	更科慎一				
<p>授業概要 前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。</p> <p>授業一般目標 ・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。 ・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価</p> <p>教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編), 斉藤匡史、何曉毅、田梅, 白帝社, 2003 年</p>					

開設科目	中国語初級 2 a	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教官	一木達彦				
<p>授業概要 前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。</p> <p>授業一般目標 ・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。 ・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価</p> <p>教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編), 斉藤匡史、何曉毅、田梅, 白帝社, 2003 年</p>					

開設科目	中国語初級 2 a	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教官	一木達彦				
<p>授業概要 前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。</p> <p>授業一般目標 ・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。 ・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価</p> <p>教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編), 斉藤匡史、何曉毅、田梅, 白帝社, 2003 年</p>					

開設科目	中国語初級 2 a	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	水曜日 9・10 時限
担当教官	一木達彦				
<p>授業概要 前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。</p> <p>授業一般目標 ・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。 ・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価</p> <p>教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編), 斉藤匡史、何曉毅、田梅, 白帝社, 2003 年</p>					

開設科目	中国語初級 2 a	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教官	杉本知栄子				
<p>授業概要 前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。</p> <p>授業一般目標 ・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。 ・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価</p> <p>教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編), 斉藤匡史、何曉毅、田梅, 白帝社, 2003 年</p>					

開設科目	中国語初級 2 a	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教官	根ヶ山徹				
<p>授業概要 前期に引き続いて、現代中国語の基礎を習得する。</p> <p>授業一般目標 前期の学習を踏まえ、より高度な表現を学ぶ。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験の成績を 100 %として評価を行う。出席は欠格条件。</p> <p>教科書・参考書 教科書：北京の風(改訂版)、木村英樹・小野秀樹・陳蓉、白帝社、2002 年</p>					

開設科目	中国語初級 2 a	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教官	秋山淳				
<p>授業概要 前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。</p> <p>授業一般目標 ・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。 ・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価</p> <p>教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編)、斉藤匡史、何曉毅、田梅、白帝社、2003 年</p>					

開設科目	中国語初級 2 a	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	木曜日 5・6 時限
担当教官	杉本知栄子				
<p>授業概要 前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。</p> <p>授業一般目標 ・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。 ・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価</p> <p>教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編), 斉藤匡史、何曉毅、田梅, 白帝社, 2003 年</p>					

開設科目	中国語初級 2 a	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教官	更科慎一				
<p>授業概要 前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。</p> <p>授業一般目標 ・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。 ・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価</p> <p>教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編), 斉藤匡史、何曉毅、田梅, 白帝社, 2003 年</p>					

開設科目	中国語初級 2 a	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教官	秋山淳				
<p>授業概要 前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。</p> <p>授業一般目標 ・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。 ・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価</p> <p>教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編), 斉藤匡史、何曉毅、田梅, 白帝社, 2003 年</p>					

開設科目	中国語初級 2 a	区分	講義	開設期	後期
対象学生	医・工 2 年	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教官	李海英				
<p>授業概要 前期に引き続き、テキストに沿って入門期に必要な学習を進め、同時にさらに中国理解を深める。</p> <p>授業一般目標 ・中国語の基本文型を学習し、中国語運用能力を高める。 ・中国事情を理解し、単なることばの習得だけに終わらないようにする。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験と小テスト、受講態度などによる総合評価</p> <p>教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(文型・表現編), 斉藤匡史、何曉毅、田梅, 白帝社, 2003 年</p>					

開設科目	中国語初級 2 b	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	呉 靱				
<p>授業概要 前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の理解に努める。</p> <p>授業一般目標 初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価</p> <p>教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(コミュニケーション編), 何曉毅 ほか, 白帝社, 2005 年 / 参考書：辞書</p> <p>メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある</p>					

開設科目	中国語初級 2 b	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	月曜日 5・6 時限
担当教官	呉 靱				
<p>授業概要 前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の理解に努める。</p> <p>授業一般目標 初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価</p> <p>教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(コミュニケーション編), 何曉毅 ほか, 白帝社, 2005 年 / 参考書：辞書</p> <p>メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある</p>					

開設科目	中国語初級 2 b	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	月曜日 7・8 時限
担当教官	呉 勲				
<p>授業概要 前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の理解に努める。</p> <p>授業一般目標 初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価</p> <p>教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(コミュニケーション編), 何曉毅 ほか, 白帝社, 2005 年 / 参考書：辞書</p> <p>メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある</p>					

開設科目	中国語初級 2 b	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	火曜日 3・4 時限
担当教官	陳鳳展				
<p>授業概要 前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の理解に努める。</p> <p>授業一般目標 初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価</p> <p>教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(コミュニケーション編), 何曉毅 ほか, 白帝社, 2005 年 / 参考書：辞書</p> <p>メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある</p>					

開設科目	中国語初級 2 b	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	火曜日 5・6 時限
担当教官	李海英				
<p>授業概要 前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の理解に努める。</p> <p>授業一般目標 初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価</p> <p>教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(コミュニケーション編), 何曉毅 ほか, 白帝社, 2005 年 / 参考書：辞書</p> <p>メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある</p>					

開設科目	中国語初級 2 b	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	火曜日 7・8 時限
担当教官	陳鳳展				
<p>授業概要 前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の理解に努める。</p> <p>授業一般目標 初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価</p> <p>教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(コミュニケーション編), 何曉毅 ほか, 白帝社, 2005 年 / 参考書：辞書</p> <p>メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある</p>					

開設科目	中国語初級 2 b	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教官	張玲				
<p>授業概要 前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の理解に努める。</p> <p>授業一般目標 初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価</p> <p>教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(コミュニケーション編), 何曉毅 ほか, 白帝社, 2005 年 / 参考書：辞書</p> <p>メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある</p>					

開設科目	中国語初級 2 b	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教官	陳鳳展				
<p>授業概要 前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の理解に努める。</p> <p>授業一般目標 初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価</p> <p>教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(コミュニケーション編), 何曉毅 ほか, 白帝社, 2005 年 / 参考書：辞書</p> <p>メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある</p>					

開設科目	中国語初級 2 b	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限
担当教官	李海英				
<p>授業概要 前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の理解に努める。</p> <p>授業一般目標 初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価</p> <p>教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(コミュニケーション編), 何曉毅 ほか, 白帝社, 2005 年 / 参考書：辞書</p> <p>メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある</p>					

開設科目	中国語初級 2 b	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教官	田梅				
<p>授業概要 前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の理解に努める。</p> <p>授業一般目標 初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価</p> <p>教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(コミュニケーション編), 何曉毅 ほか, 白帝社, 2005 年 / 参考書：辞書</p> <p>メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある</p>					

開設科目	中国語初級 2 b	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	水曜日 9・10 時限
担当教官	張玲				
<p>授業概要 前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の理解に努める。</p> <p>授業一般目標 初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価</p> <p>教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(コミュニケーション編), 何曉毅 ほか, 白帝社, 2005 年 / 参考書：辞書</p> <p>メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある</p>					

開設科目	中国語初級 2 b	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教官	梁蕾				
<p>授業概要 前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の理解に努める。</p> <p>授業一般目標 初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価</p> <p>教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(コミュニケーション編), 何曉毅 ほか, 白帝社, 2005 年 / 参考書：辞書</p> <p>メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある</p>					

開設科目	中国語初級 2 b	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時間	木曜日 5・6 時限
担当教官	梁蕾				
<p>授業概要 前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の理解に努める。</p> <p>授業一般目標 初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価</p> <p>教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(コミュニケーション編), 何曉毅 ほか, 白帝社, 2005 年 / 参考書：辞書</p> <p>メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある</p>					

開設科目	中国語初級 2 b	区分	講義	開設期	後期
対象学生	医・工 2 年	単位	2 単位	曜時間	木曜日 5・6 時限
担当教官	田梅				
<p>授業概要 前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の理解に努める。</p> <p>授業一般目標 初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価</p> <p>教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(コミュニケーション編), 何曉毅 ほか, 白帝社, 2005 年 / 参考書：辞書</p> <p>メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある</p>					

開設科目	中国語初級 2 b	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	木曜日 7・8 時限
担当教官	何暎毅				
<p>授業概要 前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の理解に努める。</p> <p>授業一般目標 初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価</p> <p>教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(コミュニケーション編), 何暎毅 ほか, 白帝社, 2005 年 / 参考書：辞書</p> <p>メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある</p>					

開設科目	中国語初級 2 b	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	2 単位	曜時限	金曜日 7・8 時限
担当教官	張玲				
<p>授業概要 前期に引き続き、テキストの沿って中国語の基本的な表現に習熟し、あわせて中国文化、中国事情の理解に努める。</p> <p>授業一般目標 初級段階で必要な表現を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験、授業内小テスト、受講態度による総合評価</p> <p>教科書・参考書 教科書：中国語スタンダード(コミュニケーション編), 何暎毅 ほか, 白帝社, 2005 年 / 参考書：辞書</p> <p>メッセージ 毎回出席すること。声を出して発声すること。授業外の復習予習は大事。繰り返し練習は上達の秘訣。なお、このシラバスはあくまで予定であり、受講者の修得度などを考慮して進度を調整することがある</p>					

開設科目	中国語初級会話 2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教	単位	2 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限
担当教官	宇 芳				
<p>授業概要 1 中国語の発音とアクセント 2 基本的な文型パターン 3 簡単な日常会話</p> <p>授業一般目標 前期に習得した発音、基礎的な会話文型及び基本文法等に基づいて学習を進め、聞き取ることと話すことの訓練によって、より豊かな表現と初歩的なコミュニケーションができるようになることを目標とする。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験(中間試験と期末試験) = 60~80% 小テスト/授業内レポート = 10%未満 宿題/授業外レポート = 10%未満 授業態度や授業への参加度 = 10%未満 出席 = 10~20%</p> <p>教科書・参考書 教科書: 中国語はじめの一步, 尹景春 竹島 毅, 白水社, 2005年 / 参考書: 講談社中日辞典(第2版), 相原茂編集, 講談社, 2002年; 講談社 中日辞典 第二版, 相原茂, 講談社, 2002年</p> <p>メッセージ 必ず予習、復習してください。出席 70%未満の者に対して成績評価を与えません。再試験は実施しませんので、きちんと試験の準備をしてください。</p>					

開設科目	中国語中級 2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教 2 年	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	一木達彦				
<p>授業概要 中級レベルの中国語を学習する。</p> <p>授業一般目標 中級レベルの中国語の総合的な習得を目指す、特に読解力を身につけることに重点を置いて習得する。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験の成績を 80%、小テストの成績を 20%として成績評価を行う。小テストによる評価は、教員の裁量により、宿題や授業への参加度(与えられた課題に対する解答など)による評価によって替えることができる。出席は欠格事項とする</p> <p>教科書・参考書 教科書: 授業中にプリント等を配布 / 参考書: 中日辞典</p> <p>メッセージ この授業を受講するためには、中日辞典を準備する必要があります。</p> <p>教官連絡先 yimu@yahoo.co.jp</p>					

系列 外国語教育

分野 中国語

科目類型 展開1

開設科目	中国語中級会話2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教2年	単位	2単位	曜時限	水曜日7・8時限
担当教官	張玲				
<p>授業概要 前期に引き続き、中国語の理解能力を高める。中国語で表現する能力を身につける。日常会話から、様々な文化事象まで教える。</p> <p>授業一般目標 話す能力と聞く能力を向上させる。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験及び小テスト、受講態度により総合評価</p> <p>教科書・参考書 教科書：新版 中国語さらなる一歩、尹景春など、白水社、2002年</p> <p>メッセージ 予習復習が必要です。単語と文型を覚え、そして繰り返し練習する。</p> <p>教官連絡先 zhangling414@ybb.ne.jp</p>					

系列 外国語教育

分野 中国語

科目類型 展開1

開設科目	中国語閲読2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教2年	単位	2単位	曜時限	月曜日9・10時限
担当教官	高木智見				
<p>授業概要 前期に同じ</p> <p>授業一般目標 前期に同じ</p> <p>成績評価方法(総合) 前期に同じ</p> <p>教科書・参考書 教科書：前期に同じ / 参考書：前期に同じ</p> <p>メッセージ 前期に同じ</p> <p>教官連絡先 前期に同じ</p>					

系列 外国語教育

分野 ハングル

科目類型 総説

開設科目	ハングル初級2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	火曜日 1・2 時限 金曜日 1・2 時限
担当教官	和田学				
<p>授業概要 本授業では、前期で習得した基礎知識を更に発展させ、より多様な構文を習得します。様々な状況に対応した会話能力や基礎語彙(約 200)を身に付けます。そのために、授業の内外での練習を毎回課します。</p> <p>授業一般目標 この言語を使って、基本的な会話、読解、作文ができるようになる。</p> <p>成績評価方法(総合) 1) 定期試験、2) 不定期の小テスト。欠席、宿題の不提出は欠格条件。</p> <p>教科書・参考書 教科書:「聞いて覚える初級朝鮮語」, 河村光雅・田星姫, 白水社, 2002 年</p>					

系列 外国語教育

分野 ハングル

科目類型 総説

開設科目	ハングル初級2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限 木曜日 5・6 時限
担当教官	桂林春				
<p>授業概要 本授業では、前期で習得した基礎知識を更に発展させ、より多様な構文を習得します。様々な状況に対応した会話能力や基礎語彙(約 200)を身に付けます。そのために、授業の内外での練習を毎回課します。</p> <p>授業一般目標 この言語を使って、基本的な会話、読解、作文ができるようになる。</p> <p>成績評価方法(総合) 1) 定期試験、2) 不定期の小テスト。欠席、宿題の不提出は欠格条件。</p> <p>教科書・参考書 教科書:「聞いて覚える初級朝鮮語」, 河村光雅・田星姫, 白水社, 2002 年</p>					

系列 外国語教育

分野 ハングル

科目類型 総説

開設科目	ハングル初級2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	水曜日 5・6 時限 木曜日 5・6 時限
担当教官	山田寛人				
<p>授業概要 本授業では、前期で習得した基礎知識を更に発展させ、より多様な構文を習得します。様々な状況に対応した会話能力や基礎語彙(約 200)を身に付けます。そのために、授業の内外での練習を毎回課します。</p> <p>授業一般目標 この言語を使って、基本的な会話、読解、作文ができるようになる。</p> <p>成績評価方法(総合) 1) 定期試験、2) 不定期の小テスト。欠席、宿題の不提出は欠格条件。</p> <p>教科書・参考書 教科書:「聞いて覚える初級朝鮮語」, 河村光雅・田星姫, 白水社, 2002 年</p>					

系列 外国語教育

分野 ハングル

科目類型 総説

開設科目	ハングル初級2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教・経・工	単位	4 単位	曜時限	水曜日 7・8 時限 木曜日 7・8 時限
担当教官	山田寛人				
<p>授業概要 本授業では、前期で習得した基礎知識を更に発展させ、より多様な構文を習得します。様々な状況に対応した会話能力や基礎語彙(約 200)を身に付けます。そのために、授業の内外での練習を毎回課します。</p> <p>授業一般目標 この言語を使って、基本的な会話、読解、作文ができるようになる。</p> <p>成績評価方法(総合) 1) 定期試験、2) 不定期の小テスト。欠席、宿題の不提出は欠格条件。</p> <p>教科書・参考書 教科書:「聞いて覚える初級朝鮮語」, 河村光雅・田星姫, 白水社, 2002 年</p>					

開設科目	ハングル初級会話2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教	単位	2単位	曜時限	水曜日7・8時限
担当教官	桂林春				
<p>授業概要 本授業では、日常生活用語を用いた基礎会話を学習（発音に重点）していきます。</p> <p>授業一般目標 'ハングル'の学習と韓国語でのコミュニケーション能力を身に付けること、そして、それらを通じて近隣国、韓国に関する知識を修得することが目的です。</p> <p>成績評価方法(総合) 期末試験・小テスト・出席による総合評価。</p> <p>教科書・参考書 教科書：「使える朝鮮語」、曾我祐典・池 貞姫, 白水社, 2006年 / 参考書：授業中紹介。</p> <p>メッセージ 真の国際人、隣国の言葉位は必需?!かも!</p> <p>教官連絡先 gyelc0926@yahoo.co.jp</p>					

開設科目	ハングル中級2	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教2年	単位	2単位	曜時限	木曜日7・8時限
担当教官	和田学				
<p>授業概要 前期の内容を基に、多様な構文を習得し、語彙を身に付ける。毎回、授業の内外で課題を課します。</p> <p>授業一般目標 更に多様な構文、語彙を習得し、辞書なしで、多様な文章の読解、作文ができることを目指すと共に、様々な状況で会話ができるようになります。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験と小テスト。欠席、宿題の不提出は欠格条件。</p> <p>教科書・参考書 教科書：韓国語中級, 李昌圭, 白帝社, 2000年</p> <p>教官連絡先 wadagaku@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	日本語上級B	区分	講義	開設期	後期
対象学生	外国人留学生	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	杉原道子				
<p>授業概要 大学での講義を聞き、勉学や研究を行うための言語活動に必要な日本語能力を養う。講義を聞く、資料を読むなどの「受信型スキル」を伸ばすだけでなく、発表やディスカッションを通して「発信型スキル」を獲得する。</p> <p>授業一般目標 1. 課題文や語彙の表現を理解する。 2. テーマに関する資料を収集し、問題点を指摘できる。 3. 自ら選択したテーマに関してプレゼンテーションができる。</p> <p>成績評価方法 (総合) 期末試験、授業外レポート、プレゼンテーション等で総合的に評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：上級教科書文化へのまなざし, 近藤安月子 丸山千歌, 東京大学出版会, 2005 年</p> <p>教官連絡先 水曜日 16:00~17:30、木曜日 16:00~17:30 TEL:083-933-5985 e-mail:michikos@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	日本語中級B	区分	講義	開設期	後期
対象学生	外国人留学生	単位	2 単位	曜時限	月曜日 3・4 時限
担当教官	門脇薫				
<p>授業概要 本授業では、日本語の中級前半レベルの総合的な能力を養う。特に読解練習を中心に行い、中級前半レベルの語彙・文法事項を習得し、運用できるような様々な4技能の練習も行う。</p> <p>授業一般目標 日本語の中級前半レベルの語彙・文法事項を習得し、日常生活・大学生活において運用できる。様々なテーマの文章を読み、内容や書き言葉について理解ができる。それぞれのテーマについて考え、自分の考えを日本語で表現できるようになる。</p> <p>成績評価方法 (総合) 小テスト、定期テストで習ったことを習得しているかを評価する。「書く」タスクは宿題として提出する。4技能に関する様々な練習やタスクを課し、演習として評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：ニューアプローチ中級日本語基礎編(改訂版), 日本語研究者教材開発室, 日本語研究社, 2005 年</p> <p>教官連絡先 kkaoru@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	日本語中級B	区分	講義	開設期	後期
対象学生	外国人留学生	単位	2 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限
担当教官	今井新悟				
<p>授業概要 論理的な文章の書き方の基本的なルールを学び、課題作文を通して、論理的な文章の書き方を身に着けます。</p> <p>授業一般目標 句読点・記号などの規則を学びます。段落や論理性などの文章作成のルールについて学びます。文章を読み、論理性を検証します。自分でたくさんの文章を書きます。他の人の文章を批判的に検証します。文章を推敲します。</p> <p>成績評価方法(総合) 総合的に判断して成績評価をする。</p> <p>教科書・参考書 教科書：留学生のための論理的な文章の書き方、二通信子、佐藤不二子、スリーエーネットワーク、2001年</p> <p>教官連絡先 電話番号：083-933-5088 オフィスアワー：月曜日 13：00-14：00</p>					

開設科目	日本語上級B	区分	講義	開設期	後期
対象学生	外国人留学生	単位	2 単位	曜時限	水曜日 3・4 時限
担当教官	赤木弥生				
<p>授業概要 初めにテーマ別にさまざまな問題について話し合い、問題意識を持ち意見を出し合う。その後、本文のテーマを聞いた後で、内容を推測し、理解を深める。テーマごとの語彙表現や文法について学ぶ。また段落ごとに読み進めるリーディング・ストラテジーを使つての読解練習および段落を構成して書くパラグラフ・ライティングの練習をする。また、会話表現について学び、場面や状況に応じた表現方法の違いを知り、日本語での判断能力を養成する。</p> <p>成績評価方法(総合) 出席 筆記試験 面接試験</p> <p>教科書・参考書 教科書：テーマ別上級で学ぶ日本語、阿部佑子ほか、研究社、2001年；島倉保美 2003年『論理的な文章が自動的に書ける！』(日本実業出版社)から必要な箇所をプリントにして配布する。/参考書：のた、二通、スリーエーネットワーク、2003年</p> <p>メッセージ 講義を理解するための日本語を「聞く、話す、読む、書く」のすべて総合的に伸ばすため、課題や要求が高くなるが、講義を理解するための日本語学習の最終段階なのでがんばりましょう。</p> <p>教官連絡先 赤木弥生 オフィスアワー：木曜日午後 14 時 30 分 電話(宇部)：0836 - 85 - 9037 E-mail: yayoia@yamaguchi-u.ac.jp 赤木弥生 オフィスアワー：木曜日午後 14 時 30 分 電話(宇部)：0836 - 85 - 9037 E-mail: yayoia@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	日本語上級B	区分	講義	開設期	後期
対象学生	外国人留学生	単位	2 単位	曜時限	木曜日 3・4 時限
担当教官	杉原道子				
<p><b>授業概要</b> 本授業では大学で求められる基礎的な書く(レポート、論文を書く)力を養う。書き言葉や説明的な文章の構成について、読解練習と組み合わせて説明を行なう。練習問題及び「書く」課題を課し、それについてのフィードバックを与える。</p> <p><b>授業一般目標</b> 説明的な文章を読み、内容や文章の構成について考察する。文章の展開方法を理解し、構成に気を付けて自分の考えが日本語で書ける。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 各課の課題、最終レポート</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：改訂版 留学生のための論理的な文章の書き方、二通信子、スリーエーネットワーク、2003年 教官連絡先 kkaoru@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	日本語中級B	区分	講義	開設期	後期
対象学生	外国人留学生	単位	2 単位	曜時限	金曜日 3・4 時限
担当教官	渡辺淳一				
<p><b>授業概要</b> この授業は「漢字」と「文章の書き方」の二つの部分からできています。「漢字」では、日本語中級レベルの漢字の書き方と読み方を学び、その漢字を使った熟語とその意味と使い方を学びます。「文章の書き方」では、レポートの書き方の基本的なルールを学び、実際に書かれた文章例を読み、レポートの書き方を練習します。</p> <p><b>授業一般目標</b> 「漢字」では、中級レベルの基礎漢字 500 字の書き方、読み方を身につけ、漢字熟語の意味・使い方を理解します。「文章の書き方」では、様々な文体の違い、句読点・各種記号の使い方、段落や起承転結などの文章作成のルールについて学び、具体的な文章例を読みそのルールの検証を行い、自分でレポートを書き、提出します。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 期末試験、漢字クイズ、提出作文評価、出席等を総合的に判断して成績評価をする。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：『基礎漢字 500』、加納千恵子他、凡人社、1989年；『留学生のための論理的な文章の書き方』、二通信子・佐藤不二子、スリーエーネットワーク、2000年</p> <p><b>教官連絡先</b> メールアドレス：junichiw@yamaguchi-u.ac.jp 電話番号：9 3 3 - 5 9 8 4 TEL:083-933-5985 e-mail:michikos@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

後期 - 一般系列

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	パソコンSOS2	区分	その他	開設期	後期
対象学生	人・教2年，経・理3年	単位	2単位	曜時限	月曜日 11・12時限
担当教官	糸長雅弘，西口毅				
<p><b>授業概要</b> 大学教育の問題点の一つは，学生自らが「発見し，はぐくみ，かたちにする」機会の乏しさである。受身の授業だけでは，問題探求・解決能力を育てることができない。本授業では，学生がパソコンSOSセンターにおけるパソコンユーザ支援に主体的に取り組み，その活動を通して「発見し，はぐくみ，かたちにする」ことを実体験する。</p> <p><b>授業一般目標</b> パソコンSOSセンターの学生スタッフとしての活動・体験を通して，パソコンのスキルを向上させ，問題解決能力，文書作成能力，自己表現力を身に付ける。また「パソコンSOS1」の既修得者はSA（ステューデントアシスタント）として，履修者の指導を行い，指導能力を身に付ける。</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 出席率80%未満を欠格条件とし，毎回のレポート作成と学期末の報告書作成を総合的に評価する。</p> <p><b>メッセージ</b> パソコン相談員として活動するので，誰でも受講できるというわけではありません。受講希望者に対して，初回に能力診断テストを行い，パソコンに関するスキルが一定の水準以上の学生に履修を認めます。「パソコンSOS1」の既修得者については，無条件に履修を認めます。パソコンのトラブルなどで悩んでいる人の役に立ちたいという意欲を持つ学生を歓迎します。なお，授業の性格から，パソコン相談を行うことが授業への出席となります（曜日は希望に応じて決定）。</p> <p><b>教官連絡先</b> E-mail: itonaga@yamaguchi-u.ac.jp，電話: 083-933-5350，研究室: 教育学部 224号室，オフィスアワー: 水曜 10:20 - 11:50</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	やまぐち学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教2年，経・理・農3年	単位	2単位	曜時限	火曜日 3・4時限
担当教官	山本薫子				
<p><b>授業概要</b> 教育学部の教官を中心にしたオムニバス形式の授業です。各教官の取り上げるトピックスは異なりますが，「やまぐち」という共通したテーマを設定します。</p> <p><b>授業一般目標</b> 私たちの暮らす「やまぐち」をキーワードに様々の方向・学問領域からのアプローチを試みます。</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 各教官がそれぞれの担当の範囲で評点したものを合算して評価する。</p> <p><b>教官連絡先</b> 教育学部 社会科教育教室 山本薫子（研究室 教育学部棟 476）</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	科学・技術と人間社会	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教2年，経・理・農3年	単位	2単位	曜時間	火曜日3・4時限
担当教官	田頭昭二				
<p>授業概要 科学・技術の人間社会との関わりについて、環境問題、先端技術、食料問題、バイオサイエンスなどの現代科学について技術をささえる基礎的科学原理および社会への応用技術について様々な観点からオムニバス形式の講義により解説する。</p> <p>授業一般目標 科学的原理に基づいた応用技術の人間社会への寄与について理解を深める。</p> <p>成績評価方法(総合) 毎回のレポートあるいは演習、出席態度により総合的に判断する。</p> <p>教科書・参考書 参考書：適宜プリント等を配布する</p> <p>メッセージ 講義の順番は変更する事がありますが、意欲的に取り組んでください。</p> <p>教官連絡先 理学化学教室 田頭昭二(理学部436室、電話5734)</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	生命と倫理	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教2年，経・理・農3年	単位	2単位	曜時間	火曜日3・4時限
担当教官	利部 聰ほか12名				
<p>授業概要 人は、たった1匹の精子と、数百万個のうちの1個の卵子が会って長い人生を開始する。せつかくこの世に生を受けた命も、光を見ることなく闇から闇に葬り去られたり、生まれてこなかったほうがよかったと、治療停止をされたりする新生障害児もいる。成長しても、いじめに会って命を奪われ、戦争でも殺される。人の命を支えるために殺される家畜や実験動物の命はどうか。私達は、こういった問題をどのように考えたらよいのだろう。命を取りまく問題をいろいろな角度から取りあげ、「命」と「倫理(人の道)」をともに考え、講義する。</p> <p>授業一般目標 皆さんの知的欲求を刺激し、大学で身に付けなければならない自己学習能力(理解能力・計画能力・情報能力)を養うことも目的とします。</p> <p>成績評価方法(総合) 授業に出席し、4000字程度の感想文を提出してください。おもにこの2点で評価いたします。</p> <p>メッセージ 山口で考えられる最高の講師に依頼しました。「いのち」をさまざまな切り口から論じ、みんなで考えてみませんか。毎回講師が変わり、「いのち」というテーマがこれほどまでに奥深いと実感させられます。後期は就職活動・教育実習等で受講できないことがあると思います。相談に応じます。順番は講師の都合で変わることがあります。</p> <p>教官連絡先 利部 聰(かがぶ さとし) 電話：083-933-5910 居室：農学部北ウイング211号室 オフィスアワー：金曜日11時から12時。在室時は随時</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	クローズアップ・ドイツ	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教2年, 経・理・農3年	単位	2単位	曜時限	水曜日3・4時限
担当教官	Hintereder-Emde Franz 他				
<p><b>授業概要</b> 山口大学やその他の機関でドイツにかかわる研究をしているいろいろな人々が、ドイツでの生活体験や自分の研究分野に基づいて、「ドイツの映画」「ドイツの絵画」「ドイツの経済や日常生活」「ドイツの社会保障制度」「ドイツの映画」「ドイツの飲食文化」「ドイツと環境」といった視点から、ドイツについての情報を提供する。基本的には一人の講師が2回にわたって講義する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 2004年5月1日に10カ国が新たに加入し、現在25カ国からなっている「EU」が現代の世界で果たしている役割は計り知れないし、中東情勢が依然として不安定な現在その存在意義が今後一層高まることは確実である。この授業の目標は、ドイツ語の履修を問わずに、学生に、「EU」の中で中心的な役割を果たしているドイツの真の姿を様々な角度から伝えることで、ドイツをより身近に感じようになってもらいたいというところにある。対象学生は、2年生以降となっているが、1年生も奮って聞いていただきたい。異文化理解や外国語へのオリエンテーションにもつながると思われる。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 授業内レポート=30%未満。各担当教官ごとに課題を出し、100点満点で成績をつける。マネージャーがそれを取りまとめ、計算し最終成績とする。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：各担当者が適宜教材を配布する。</p> <p><b>メッセージ</b> 各担当教官の講義一週目に「質問の時間」をもうけるので、「二週目に聞きたいこと」があれば、口頭ないしは文書で申し入れるべく準備しておくこと。講義で紹介されるのはドイツの一面にすぎない。その他の事柄についても出来るだけ自分で興味を持って調べようようにしてほしい。</p> <p><b>教官連絡先</b> 人文学部独仏語文化論コース：ヒンターエーダー=エムデ・フランツ tel/fax: 933-5287, mail: emde@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー：木曜日 3・4(10:20~11:50)</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	現代経営学事情	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教2年, 経・理・農3年	単位	2単位	曜時限	水曜日3・4時限
担当教官	藤田健				
<p><b>授業概要</b> この授業では、経営学に関するオムニバス方式の講義をおこなう。経済学部経営学科の各教員が専門領域の基礎知識と最新のトピック・研究内容について、学生にわかりやすく説明する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 経営学で議論されている問題に関心を持ち、問題の所在や内容を知る。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 1. 学期末レポート(60%): 各教員がそれぞれ担当した領域から課題を出す。受講者はその課題の中から一つの課題を選択し、レポートを作成して提出する。2. 小レポート(40%): 各トピックの関心事・感想等を出席カードに記入し、提出する。3. 出席(欠格条件): 8割以上の出席を必須とする。出席回数が開講回数の8割に満たない場合、単位を認めない。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：経営学をやさしく学ぶ、山口大学経済学部経営学科、中央経済社、2005年</p> <p><b>メッセージ</b> 授業の順番・内容は変更になることがあります。</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	キャリアと就職	区分	講義	開設期	後期
対象学生	工3年	単位	2単位	曜時限	水曜日 3・4時限
担当教官	平尾元彦				
<p><b>授業概要</b> キャリアとは、職業経験、働く力。仕事にかかわる人生経路を意味する言葉である。学生は皆、大学を卒業（あるいは大学院を修了）して新たな活躍のステージへと移行するが、自分自身の将来のキャリアを考えて進路選択をすることが望ましい。その最初の活動が大学生の就職活動であり、大学院への進学を含む進路選択活動である。本講義は、「自分のキャリアは自分で考える」ための考え方を理解するとともに、働くための基礎知識を得ることを目的とするものであり、経済・社会、会社、そして自己理解のための理論および現実を学ぶことで、将来のキャリア選択や、現実問題として直面する就職活動に役立つ知識と方法論の習得をめざす。技術者としてのキャリア形成の考え方や大学院で学ぶことの意義、工学部学生の就職活動の進め方など工学部独自のメニューを盛り込みながら講義を進める。授業は講義形式で行うが、一人一人が自分の問題としてキャリアを考えることができるように、宿題レポートを多数とり入れた実践的な講義をめざしている。学んだことは自分の就職活動にいかしてほしい。なお、本講義は山口県若者就職支援センターの協力により実施する</p> <p><b>授業一般目標</b> 自分のキャリアを考えることの重要性を理解し、その方法論習得する 働く前に知っておくべき経済・社会・企業に関する基礎知識を習得する キャリア意識を高め、学業ならびに就職活動への意欲を増す</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 毎回提出を求めるミニレポートのほか、課題レポート（宿題）にて評価する。レポートは「キャリアインタビュー」「キャリアシート」「キャリアモデル」「企業研究きらり発見」「技術人材インタビュー」「キャリアプラン」の6回を予定している</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：講義中に資料を配布する / 参考書：講義中に紹介する</p> <p><b>メッセージ</b> 総合科目「キャリアと就職」は、前期火曜日3・4限、火曜日5・6限、水曜日5・6限の3コマを吉田キャンパスで開講、後期は常盤キャンパスで水曜日3・4限、水曜日5・6限の2コマ開講する。基本的には同じ内容であり、履修できるのはいずれか一つである。第一回目の講義で希望をとるので必ず出席すること。なお、受講者多数の場合は上学年を優先する。</p> <p>教官連絡先 e-mail:hirao@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	観光と経済	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教2年，経・理・農3年	単位	2単位	曜時限	水曜日 5・6時限
担当教官	油納健一ほか				
<p><b>授業概要</b> 平成17年4月、全国の国立大学に先駆けて、本学経済学部にて観光政策学科が設立されました。この新学科は山口県、ひいては日本の観光政策をリードする研究・教育拠点になっていく存在として、全国から注目を浴びています。本講義は「経済学によって観光を科学する」とはどういうことなのかを初心者・一般向けに解説する授業です。リレー講義の中で、観光が世界経済に及ぼす影響、観光産業の現状や展望、観光が地域経済や自然環境に及ぼす影響、等々を考察していきます。観光経済を初めて勉強する人のためのテキスト『観光経済学入門』を使って講義を行ないます。</p> <p><b>授業一般目標</b> 「経済学によって観光を科学する」ことの意義を学び、わが国や山口県における観光産業の現状や将来を考察するための基礎知識を身につけます。『観光経済学入門』というテキストを用い、一コマに一つの章を学習するペースで講義を進めます。また、リレー講義ですので、一コマごとに教員が交代します。</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 毎回、講義終了時に通知される課題にたいして、次回の講義のはじめに、800字のレポートを提出してもらいます。このレポートの合計点により成績評価を行ないます。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：『観光経済学入門』、J・マック、日本評論社、2005年 / 参考書：必要に応じて授業中に指示する。</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	キャリアと就職	区分	講義	開設期	後期
対象学生	工3年	単位	2単位	曜時限	水曜日 5・6時限
担当教官					
<p><b>授業概要</b> キャリアとは、職業経験、働く力。仕事にかかわる人生経路を意味する言葉である。学生は皆、大学を卒業（あるいは大学院を修了）して新たな活躍のステージへと移行するが、自分自身の将来のキャリアを考えて進路選択をすることが望ましい。その最初の活動が大学生の就職活動であり、大学院への進学を含む進路選択活動である。本講義は、「自分のキャリアは自分で考える」ための考え方を理解するとともに、働くための基礎知識を得ることを目的とするものであり、経済・社会、会社、そして自己理解のための理論および現実を学ぶことで、将来のキャリア選択や、現実問題として直面する就職活動に役立つ知識と方法論の習得をめざす。技術者としてのキャリア形成の考え方や大学院で学ぶことの意義、工学部学生の就職活動の進め方など工学部独自のメニューを盛り込みながら講義を進める。授業は講義形式で行うが、一人一人が自分の問題としてキャリアを考えることができるように、宿題レポートを多数とり入れた実践的な講義をめざしている。学んだことは自分の就職活動にかかしてほしい。なお、本講義は山口県若者就職支援センターの協力により実施する</p> <p><b>授業一般目標</b> 自分のキャリアを考えることの重要性を理解し、その方法論習得する 働く前に知っておくべき経済・社会・企業に関する基礎知識を習得する キャリア意識を高め、学業ならびに就職活動への意欲を増す</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 毎回提出を求めるミニレポートのほか、課題レポート（宿題）にて評価する。レポートは「キャリアインタビュー」「キャリアシート」「キャリアモデル」「企業研究きらり発見」「技術人材インタビュー」「キャリアプラン」の6回を予定している</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：講義中に資料を配布する / 参考書：講義中に紹介する</p> <p><b>メッセージ</b> 総合科目「キャリアと就職」は、前期火曜日3・4限、火曜日5・6限、水曜日5・6限の3コマを吉田キャンパスで開講、後期は常盤キャンパスで水曜日3・4限、水曜日5・6限の2コマ開講する。基本的には同じ内容であり、履修できるのはいずれか一つである。第一回目の講義で希望をとるので必ず出席すること。なお、受講者多数の場合は上学年を優先する。</p> <p><b>教官連絡先</b> e-mail:hirao@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	メディア情報処理	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教2年，経・理・農3年	単位	2単位	曜時限	木曜日 3・4時限
担当教官	熊谷武洋				
<p><b>授業概要</b> 本講義は Adobe 社の Illustrator というソフトを利用し、コンピュータを用いたグラフィックデザインを行う。初心者を対象としているが、単に操作方法だけにとどまらず画像情報処理の基本原理やデザイン理論についても言及する。テキストは以下を用いる。 <a href="http://mis.edu.yamaguchi-u.ac.jp/kaiset/note_text_2003/13/index.html">http://mis.edu.yamaguchi-u.ac.jp/kaiset/note_text_2003/13/index.html</a></p> <p><b>授業一般目標</b> 本講義は、簡単なグリーンカードやサークル勧誘ポスター、CD ジャケットなどを制作できる程度の操作方法を修得し画像情報処理における基本的な概念を理解することを目標としている。</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 提出された課題制作について、その制作過程、完成度についてそれぞれ総合的に評価する</p> <p><b>教官連絡先</b> E-mail:kumagai@yamaguchi-u.ac.jp 電話:083-933-5403</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	言語とコミュニケーション	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教2年, 経・理・農3年	単位	2単位	曜時限	木曜日 3・4時限
担当教官	林伸一、添田建治郎、岩部浩三、富平美波、太田聡、下寄正利、磯部佳宏、武本雅嗣、更科慎一				
<p>授業概要 言語とそれを用いたコミュニケーションについて、様々な観点から9名の教員がリレー講義を行います。</p> <p>授業一般目標 言語や言語学に関する知見を広めるとともに、それらに対する興味を高める。</p> <p>成績評価方法(総合) それぞれの講師がそれぞれの観点で採点し、それを合計します。</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	平川地域研究入門	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教2年, 経・理・農3年	単位	2単位	曜時限	木曜日 7・8時限
担当教官	外山英昭				
<p>授業概要 平川の自然・文化・暮らしについてまず地域の方の話を聞き、つづいて各担当教員が説明をする。その上でグループを結成し、グループごとに現地調査をした上で、報告をまとめ、全体の場で発表する。また、調査結果をレポートとしてまとめ提出する。</p> <p>授業一般目標 平川の自然・文化・暮らしについて講義を受け、平川の歴史および現状を知ることができる。自然・文化・暮らしの中からテーマを選び、地域調査をし発表することができる。</p> <p>教科書・参考書 参考書：平川文化散歩(増補版), 石川卓美著, 山口市平川公民館, 1990年; 石川卓美『増補 平川文化散歩』(山口市平川公民館発行)</p> <p>メッセージ 外山以外の担当教官については開講時に紹介します。受講生は40人以下とします。</p> <p>教官連絡先 教育学部社会科教育教室 外山(内線 5323)</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	学問の真髄 - 私の「テキスト」解釈 -	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教2年, 経・理・農3年	単位	2単位	曜時限	金曜日 3・4時限
担当教官	高木智見				
<p><b>授業概要</b> 学問研究の出発点は、テキストの解釈にある。この授業では、西洋哲学、日本倫理思想、中国哲学、宗教学とそれぞれ専門を異にする7名の教員が、日頃研究しているテキストに基づき、いかにして独自の解釈を行い、自らの主張を形作っているのか、その手の内をすべて公開して、人文的学問のありかたを提示する。</p> <p><b>授業一般目標</b> 哲学や宗教、思想というものを対象にした学問のあり方を具体的に示す。</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 7名の教員がそれぞれ課題を出し、それらの成績を総合して評価する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：それぞれの教員が必要に応じて指示する / 参考書：それぞれの教員が必要に応じて指示する</p> <p><b>メッセージ</b> 毎回テーマが異なるので、全体を受講すること</p> <p><b>教官連絡先</b> satakagi@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

系列 一般

分野 一般総合

科目類型 包括

開設科目	実践的現代芸術・文化論	区分	講義	開設期	後期
対象学生	人・教2年, 経・理・農3年	単位	2単位	曜時限	金曜日 9・10時限
担当教官	奥津・貞方・藤川・中野・菊屋・堀家・H.E. フランツ				
<p><b>授業概要</b> 山口という場で行われている現代芸術およびその支援活動の姿を体験的に学習する。実際の芸術実践者をお招きしての作品紹介・意見交換、イギリスなどとの芸術・文化交流活動の実践例、グローバルな芸術・文化史についての研究者の報告、さらには芸術イベント探訪をも織り込んで、知られざる地域の文化活動を学ぶ。</p> <p><b>授業一般目標</b> 長い活動の歴史とグローバルな規模を持って展開する山口の現代芸術・文化活動を学び、地域に根ざしつつ、世界と結びつく人間活動のあり方を考えることを目標とする。</p> <p><b>成績評価方法（総合）</b> 毎回の授業の内容について、その関心や理解の度合いを問う課題回答を求める。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：多くの授業実施者からなるので、その都度配付するプリント類によって授業を行う。 / 参考書：授業の報告者・話題提供者によって、その都度、適切な文献等が指示される。</p> <p><b>メッセージ</b> 山口の芸術・文化振興 NPO 活動に関心のある人も来てください。</p> <p><b>教官連絡先</b> kokutsu@mac.com sadakata@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	知的財産権論	区分	講義	開設期	後期
対象学生	工(夜)2年,工(昼)3年	単位	2単位	曜時限	水曜日1・2時限(夜間)
担当教官	木村友久,望月信介,山本豪紀,高海克彦,原田直幸,中村秀明,福代和宏,堤 宏守				
<p>授業概要 特許、実用新案、意匠、商標、著作権など知的財産権についての知識を実例を交えて講義する。また、特許調査などは、各自の専門分野を基礎とした実践的な演習を行う。</p> <p>授業一般目標 (1)特許、実用新案、意匠、商標、著作権など知的財産権についての基本的な知識を習得する。(2)特許調査などの演習を通じて、特許活用の実践的なスキルを習得する。</p> <p>成績評価方法(総合) 特許調査、活用プランニングなどの演習で作成したレポートを、(1)知的財産権の基礎知識、(2)思考力、(3)特許調査のスキルの3つの観点から評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：知的財産教本,山口大学知的財産本部,EMEパブリッシング,2004年</p> <p>メッセージ 現在、社会のあらゆる場所で、知的創造活動の成果を守り、活用することが要求されています。本講義を通して知的財産権についての知識を深めてください。なお、受講人数によっては特許情報検索演習の都合から受講制限する場合があります。また、詳細な授業計画は、講義開始時に指示しますので受講希望者は、初回に必ず出席して下さい。</p>					

## 前期 - 夜間主コース

開設科目	哲学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工(夜)2年	単位	2単位	曜時限	火曜日3・4時限(夜間)
担当教官	村田貴信				
<p>授業概要 歴史や自然、社会や世界、そしてなによりもまず自分自身について、立ち止まって見つめなおしてみる機縁になるように、以下の二点を基軸に据えて講義を展開する。(1) 自己と世界とにともに関わる人知の精髓を哲学史の展開のなかに探る。(2) ものごとを広く(多面的に)深く(根源的に)考えることの意味と意義とを理解する。</p> <p>授業一般目標 (1) 哲学の根本問題について考えてみる。(2) 哲学の対象と方法とにかんする基礎的な理解を得る。</p> <p>教科書・参考書 教科書：初回授業時に指示する。</p> <p>教官連絡先 0836-88-4521 kisin@ed.yama.tus.ac.jp</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	日本史	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工(夜)2年	単位	2単位	曜時限	
担当教官	河原剛				
<p>授業概要 テーマ：日本史 本講義では、日本史の中でもとりわけ考古学に関する講義を行う。そのため、発掘調査等で年々明らかにされてきている日本の歴史を取り扱うことにする。まず講義の前半では考古学の概説について、そして後半では個別具体的なテーマを取り上げていく。</p> <p>授業一般目標 ・考古学の歴史および基礎的な要素を概観しつつ、自らの視点で歴史に関心を抱き、それを考察し理解する姿勢を養う。 ・昔の人々の使った道具や作った遺構を現代との比較という視点で捉える姿勢を養う。</p> <p>成績評価方法(総合) 学期末試験は論述形式。 期末試験 85%、出席 15%。</p> <p>教科書・参考書 教科書：テキストは特に指定しない。資料プリントを毎回配付する。</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 社会科学

分野 法学

科目類型 総説

開設科目	日本国憲法	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工2年	単位	2単位	曜時限	
担当教官					
備考 工学部 JABEE 対応科目					

系列 社会科学

分野 文化人類学

科目類型 総説

開設科目	文化人類学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工(夜)	単位	2単位	曜時限	木曜日1・2時限(夜間)
担当教官	星野 晋				
<p>授業概要 文化人類学は、「文化」を手がかりに人間についての理解を深めようとする学問分野である。国際化が進む現在にあって、私たちはグローバルかつ普遍的な論理と民族的・地域的固有性の折り合いをいかにつけるかという大問題に直面している。文化人類学的な視点と方法は、文化的多様性とどのように付き合っていくかを考える際の一つの手がかりとなると思われる。本講義では、ある意味で普遍的、ある意味で多様な「病気と医療」というテーマについて検討することを通して、文化人類学的な「ものの見方」とはいかなるものを学ぶことを目標とする。また本講義は、文化人類学入門であると同時に、その下位分野である医療人類学入門として聞くこともできる。</p> <p>授業一般目標 人間を総合的に捉えようとするという文化人類学の基本的なものの見方とアプローチを理解する。文化的多様性に対する視点と態度を学び、加えて自分や身近な人の経験を文化人類学的アプローチを用いて考察できるようになる。</p> <p>成績評価方法(総合) 出欠をかねた小レポート、定期試験</p> <p>教官連絡先 hoshino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：授業後(小串では水曜日午後)</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 数学

科目類型 基礎

開設科目	数学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	工(夜), 工(昼) 2年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 13・14 時限
担当教官	柳原 宏				
<p>授業概要 この講義は、昨年度に数学入門の履修が不可になった方がもう一度勉強するためのものです。</p> <p>授業一般目標 大学での数学教育の準備として、一変数の関数に関する微分、積分の基礎的な概念を理解し、微分、積分におけるさまざまな手法や応用を身につけ、正確な計算ができる能力を養う。</p> <p>成績評価方法(総合) 数学入門2とあわせて2回の試験(中間試験と期末試験)を中心として、授業内に適宜行う問題演習の取り組みを加味し、以下の割合で総合的に判定する。</p> <p>メッセージ 毎回プリントを配布して演習形式で行います。日々の努力を怠らないこと。</p> <p>教官連絡先 hiroschi@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 数学

科目類型 基礎

開設科目	数学入門2	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	工(夜) 1年, 工(昼) 2年	単位	1 単位	曜時限	水曜日 9・10 時限
担当教官	柳原 宏				
<p>授業概要 この講義は、昨年度に数学入門の履修が不可になった方がもう一度勉強するためのものです。</p> <p>授業一般目標 大学での数学教育の準備として、一変数の関数に関する微分、積分の基礎的な概念を理解し、微分、積分におけるさまざまな手法や応用を身につけ、正確な計算ができる能力を養う。</p> <p>成績評価方法(総合) 数学入門1とあわせて2回の試験(中間試験と期末試験)を中心として、授業内に適宜行う問題演習の取り組みを加味し、以下の割合で総合的に判定する。</p> <p>メッセージ プリントを配布して演習形式で行います。日々の努力を怠らないこと。</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 数学

科目類型 総説

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工(夜)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 1・2 時限(夜間)
担当教官	栗山 憲				
<p>授業概要 1変数の微分、積分法の講義、演習。</p> <p>授業一般目標 1変数の微積分について、基本的な概念を理解し、計算が確実にできること。将来専門科目で使うことを考えて、簡単な応用問題が解けること。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験、授業時間内の小テストの総合評価。出席は欠格条件です。(所定の回数に達しないと、自動的に不合格)</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 数学

科目類型 総説

開設科目	数学 I	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	同一曜日・時限『数学入門1』及び『数学入門2』単位修得者	単位	2 単位	曜時限	火曜日 13・14 時限 水曜日 9・10 時限
担当教官	柳原 宏				
<p>授業概要 この講義は、昨年度に数学入門の履修が不可になった方がもう一度勉強するためのものです</p> <p>授業一般目標 1変数の微積分の基本的な概念を理解し、計算方法を習得する。微分の定義・意味、合成関数の微分法、逆関数の微分法、微積分の基本定理、部分積分の公式などを理解し、習熟する。また、理工学の実験で生ずる問題を解決できるような応用力を養う。</p> <p>成績評価方法(総合) ・定期試験(中間・期末試験)で70%、宿題・授業外レポートで15%、授業内の演習において15%の成績評価をする。なお、5回以上(5回も含む)欠席したものは、定期試験を受ける資格がない。すなわち、5回以上欠席したものは、本科目の単位は得られない。</p> <p>教科書・参考書 教科書：微分積分学概論，高橋泰嗣 加藤幹雄，サイエンス社，1998年</p> <p>教官連絡先 hiroschi@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 物理学

科目類型 基礎

開設科目	物理学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	工(夜), 工(昼) 2年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限
担当教官	末岡 修				
<p>授業概要 高校での物理学の学習やその理解が不十分であることを考慮して、高校物理の要点と大学での物理はどのように理解すればよいのかを中心に講義を進める。身近にある現象や器物から物理を考えることに努め、できるだけ例に挙げて取り上げていく。毎時間、理解に必要な所について小テストを行う。また、簡単な宿題も課す。微分と積分の簡単なものは出来るものとする。</p> <p>授業一般目標 位置 &amp; # 8226; 速度 &amp; # 8226; 加速度の関係を表し、簡単な例題が解けるようになる。放物運動が解けるようになる。これらの過程で、ベクトルとその成分の関係を理解し、各成分の運動が独立であることを理解する。正規の講義 "物理学" が理解できるようになる。</p> <p>成績評価方法 (総合) 中間試験 + 小テストなどの平常点を総合して決める</p> <p>教科書・参考書 教科書: 2 「新物理学」, シップマン著, 学術図書出版社, 2002 年 / 参考書: 基礎物理学 (改訂版), 原康夫著, 学術図書出版, 1996 年; 「改訂版 基礎物理学」原康夫 著 学術図書出版社 1996</p> <p>教官連絡先 非常勤のため E-mail mqpbm353@yahoo.co.jp にて対応する</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 物理学

科目類型 基礎

開設科目	物理学入門2	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	工(夜), 工(昼) 2年	単位	1 単位	曜時限	火曜日 9・10 時限
担当教官	末岡 修				
<p>授業概要 高校での物理学の学習やその理解が不十分であることを考慮して、高校物理の要点と大学での物理はどのように理解すればよいのかを中心に講義を進める。身近にある現象や器物から物理を考えることに努め、できるだけ例に挙げて取り上げていく。毎時間、理解に必要な所について小テストを行う。また、簡単な宿題も課す。微分と積分の簡単なものは出来るものとする。</p> <p>授業一般目標 電気力・電場・電位・電気的エネルギーの関係を学ぶ。オームの法則が自由に使えるようになる。</p> <p>成績評価方法 (総合) 期末試験 + 小テストなどの平常点を総合して決める</p> <p>教科書・参考書 教科書: 2 「新物理学」, シップマン著, 学術図書出版社, 2002 年 / 参考書: 基礎物理学 (改訂版), 原康夫著, 学術図書出版, 1996 年; 「改訂版 基礎物理学」原康夫 著 学術図書出版 1996</p> <p>教官連絡先 非常勤のため E-mail mqpbm353@yahoo.co.jp にて対応する</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 化学

科目類型 基礎

開設科目	化学入門1	区分	講義	開設期	前期前半期
対象学生	工(夜)2年,工(昼)2年	単位	1単位	曜時限	月曜日9・10時限
担当教官	松崎浩司				
<p>授業概要 工学を学ぶ学生を対象として、化学に関する理解が不十分な学生に対して、工学を学ぶ学生にその専門にかかわらず化学の基礎知識の重要性を認識させるとともに将来的に化学について関係しなければならなくなった時に勉強するための初歩の知識について、身のまわりの現象などと関連付けながらやさしく解説する。</p> <p>授業一般目標 大学で工学を学ぶ者にとって、化学の基礎知識の重要性を認識すること。化学を勉強するに当たって特に化学Iを学ぶ前提としての導入的な初歩の知識を理解すること。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験および講義中の演習レポートにより総合的に評価する。演習を重視するので、必然的に出席が非常に重要になる。</p> <p>教科書・参考書 教科書：化学入門,大野幸一、妹尾学、今任稔彦、高木誠、福田豊、池田功、共立出版,1997年/ 参考書：やりなおし高校の化学,斎藤勝裕,ナツメ社,2005年</p> <p>メッセージ よく復習をすること。</p> <p>教官連絡先 ko-matsu@c-able.ne.jp</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 化学

科目類型 基礎

開設科目	化学入門2	区分	講義	開設期	前期後半期
対象学生	工(夜)2年,工(昼)2年	単位	1単位	曜時限	月曜日9・10時限
担当教官	松崎浩司				
<p>授業概要 工学を学ぶ学生を対象として、化学に関する理解が不十分な学生に対して、工学を学ぶ学生にその専門にかかわらず化学の基礎知識の重要性を認識させるとともに将来的に化学について関係しなければならなくなった時に勉強するための初歩の知識について、身のまわりの現象などと関連付けながらやさしく解説する。</p> <p>授業一般目標 大学で工学を学ぶ者にとって、化学の基礎知識の重要性を認識すること。化学を勉強するに当たって特に化学IIを学ぶ前提としての導入的な初歩の知識を理解すること。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験および講義中の演習レポートにより総合的に評価する。演習を重視するので、必然的に出席が非常に重要になる。</p> <p>教科書・参考書 教科書：視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録(新課程用),数研出版編集部,数研出版,2003年; 化学入門,,大野幸一、妹尾学、今任稔彦、高木誠、福田豊、池田功,立出版,1997年/ 参考書：やりなおし高校の化学,斎藤勝裕,ナツメ社,2005年</p> <p>メッセージ よく復習をすること。</p> <p>教官連絡先 ko-matsu@c-able.ne.jp</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

系列 自然科学

分野 自然科学実験

科目類型 総説

開設科目	物理学実験B	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	工(夜)2年	単位	1単位	曜時限	金曜日3・4・5時限 (夜間)
担当教官	荻原千聡				
<p><b>授業概要</b> 種々の分野にわたる基本的な物理学実験をグループに分けて実施させ、物理学実験一般に関する基礎知識、実験器具操作法、報告書作成要領等を修得させる。</p> <p><b>授業一般目標</b> 各種測定機器の動作原理、使用法、計算機によるプログラミングと計算実行の手順など、実験的な研究を行う上で必要となる知識を身につける。適切な測定法の選択、測定上の工夫を実行でき、データの適切な解析と図表化、正しい誤差の取り扱いができ、十分な考察に基づく報告書を書けるようになる。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> (1) 実験を終了したグループは、実験の内容と結果について担当教官に報告し完了のチェックを受け、その際に授業への参加度としての得点が記録される。通常は合否のみの判定であるが、マナー、参加度の不良が認められる場合は減点する。(2) 実験ノートを授業時にチェックし、最後の授業の1週間後に提出する。必要事項が記載されているか、図表化が適切か、考察の内容は十分かどうかを中心に採点する。なお、与えられた6テーマの実験を完了し、かつノートを提出した者以外には単位を与えない。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：実験テキストを使用する。「応用物理学実験(物理学実験B)」(山口大学工学部共通講座編著)過去の年度の履修者ですでに入手済みなら新規購入は不要。過去に入手していない学生、紛失した学生には第1回授業(ガイダンス)もしくは掲示により通知する。</p> <p><b>メッセージ</b> この科目の常盤キャンパスでの開講は平成19年度以降は予定していません。必修科目なので単位取得できるように教員側もできる限りの努力をするので途中で放棄しないように。ただし、単位取得のためには必要回数の実験が不可欠ですので無断欠席だけはどうにもなりません。もし今回単位取得できなければ、昼間に山口キャンパスでの受講が必要になることが予想されます。</p> <p><b>教官連絡先</b> 荻原 0836-85-9811、月9-10時限</p>					

系列 応用科学

分野 応用科学

科目類型 総説

開設科目	技術概論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工(昼・夜)4年	単位	2単位	曜時限	月曜日1・2時限(夜間)
担当教官	古川浩平, 田村洋一, 濱田純夫				
<p><b>授業概要</b> 本講義は、建設技術の基礎を英語で習得するためのものである。</p> <p><b>授業一般目標</b> この講義は土木工学の概観ばかりでなく、社会・環境との連繋の有り方を学ぶことを目標とする。</p> <p>(C) 実務への応用力と倫理観のある技術者を目指して以下の能力を身につける。・C-1 実務上の問題点や課題を理解し、適切に対応する能力・C-2 土木技術者の関与するプロジェクトが社会や自然環境に及ぼす影響を理解する能力(技術者倫理・環境倫理)(D) 豊かな教養と多面的な視点を持つ技術者を目指して以下の能力を身につける。・D-1 技術、人類、文明、地域、自然の相互の係わりを理解する能力・D-2 基礎的な国際コミュニケーション能力</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 全回出席を条件とする。ただし、やむを得ない事情があった場合には、次回の講義までに必ず担当教官に届け出る。毎回レポートを課すので、必ず全て提出すること。評価は、最終的に課したレポートの内容により判定する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書：プリント配布 / 参考書：プリント配布</p> <p><b>メッセージ</b> 18年度は濱田・関根が講義を行う。テキストはプリントとする。また、文章は英語で記述されている。</p> <p><b>教官連絡先</b> 濱田純夫：E-mail shamada@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 0836-85-9347, 研究室 施設材料工学</p>					

開設科目	生命科学概論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工(夜)2年, 工(昼)2年	単位	2単位	曜時限	木曜日 11・12時限
担当教官	中村和行・篠田晃・柳井章江・藤永竜太郎・中村彰治・坂田義行				
<p>授業概要 クローン人間や遺伝子工学など生命科学の知識はよく耳にするようになりました。21世紀は生命科学の時代といわれ、社会生活を行う上で必須の常識となりつつあります。そこで、生命の誕生から病気や死に至るまでの種々の生命現象を取り上げ、様々な角度から科学的に検討し、学生諸君の新しい視点の構築の助けとなることを目指します。</p> <p>授業一般目標 複雑な生命現象や医学的問題のうちトピックスをとりあげ、科学的にどのようにして解析され、どこまで解明されているかについて理解する。</p> <p>成績評価方法(総合) 出席40%、授業態度や授業への参加度10~20%、小テスト10~20%、課題レポート20~40%程度で、総合評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 必要に応じて資料の配付を行う。/ 参考書: 生きもののからくり(改訂版), 中村和行他, 培風館, 2006年</p> <p>メッセージ 授業中は携帯電話の電源を切る(又はマナーモード)。自分の頭で考えよう。関連ホームページ:  <a href="http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/legal/">http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/legal/</a></p> <p>教官連絡先 医学部生化学第一教室 中村和行 (e-mail:nakamura@yamaguchi-u.ac.jp)</p>					

開設科目	環境学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工(夜)3年	単位	2単位	曜時限	月曜日 3・4時限(夜間)
担当教官	三好, 只友, 羽野, 小柳				
<p>授業概要 1) ビジネスにおける環境学について考える。2) 電磁波の人体への影響について述べる。3) エネルギーと環境の関係について説明する。</p> <p>授業一般目標 1) ビジネスと環境問題の現状を認識する。2) 電磁波が人体に及ぼす影響を知る。3) 各種エネルギー利用と環境の関係を認識する。</p> <p>成績評価方法(総合) 1) レポート(小テスト形式を含む)を3回提出する。2) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p>教科書・参考書 参考書: 現代エネルギー・環境論, 新田義孝編, 電力新報社, 1999年; 物理・化学から考える環境問題, 白鳥紀一編, 藤原書店, 2004年; 電気の暮らしと健康不安, 電気学会電磁界生体影響問題調査特別委員会編, 電気学会, 2001年; 身の周りの電磁界と人の健康への影響, 電気学会電磁界生体影響問題調査特別委員会編, 電気学会, 2003年</p> <p>メッセージ 授業担当者は、第1週~第2週 三好、第3週~第6週 只友、第7週~第10週 羽野、第11週~第14週 小柳</p> <p>教官連絡先 三好 E-mail tmiyoshi@yamaguchi-u.ac.jp 電話番号 0836-85-9450 研究室 電気電子棟 A708 オフィスアワー 研究室入口に表示</p>					

系列 応用科学

分野 応用科学

科目類型 総説

開設科目	人間環境論	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工(夜)2年	単位	2単位	曜時限	木曜日1・2時限(夜間)
担当教官	三好正毅ほか				
<p>授業概要 1) エントロピーと物質循環の概念について解説する。2) 環境問題の現実の諸様相にこの概念を適用する。</p> <p>授業一般目標 1) エントロピーと物質循環の概念を理解する。2) この概念を軸として、環境問題を考える。</p> <p>成績評価方法(総合) 1) レポートによって評価する。2) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 物理学に基づく環境の基礎理論, 勝木 渥著, 海鳴社, 1999年 / 参考書: 物理・化学から考える環境問題, 白鳥紀一編, 藤原書店, 2004年</p> <p>教官連絡先 E-mail tmiyoshi@yamaguchi-u.ac.jp 電話番号 0836-85-9450 研究室 電気電子棟 A708 オフィスアワー 研究室入口に表示</p>					

系列 応用化学

分野 応用化学

科目類型 総説

開設科目	運動健康科学	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工(夜)2年	単位	2単位	曜時限	月曜日1・2時限(夜間)
担当教官	高見京太				
<p>授業概要 健康づくりにおける、運動の果たす役割は大きくなってきている。しかし、実際に運動を健康づくりに用いるには、正しい知識に基づいて実施しなければ、効果がないばかりか、かえって障害を引き起こす原因にもなる。そこで、本授業では「健康」の観点から運動と身体との関わりを講義する。</p> <p>授業一般目標 1. 健康の維持増進に運動の果たす役割を理解する。2. 健康に関連する運動生理学の基礎的な知識を身につける。</p> <p>成績評価方法(総合) 定期試験によって評価する。ただし、授業内レポートや授業への取り組みも加味する。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 教科書は使用しない / 参考書: 健康運動プログラムの基礎, 北川薫 編, 市村出版, 2005年; 年齢に応じた運動のすすめ, 宮下充正, 杏林書院, 2004年</p> <p>備考 隔年開講</p>					

開設科目	スポーツ運動実習	区分	実験・実習	開設期	前期
対象学生	工(夜)2年	単位	1単位	曜時間	月曜日3・4時限(夜間)
担当教官	池田恵子				
<p>授業概要 心身の健康や生活の質の向上において、運動・スポーツの実践は重要な役割を果たす。最近では比較的ルールや技術の平易なニュースポーツが、生涯スポーツとして幅広い年齢層で行われている。そこで本授業では、ニュースポーツに分類されるスポーツ種目を実践し、これらのルールやゲームの進め方、また楽しみ方を身につける。</p> <p>授業一般目標 生涯にわたって、楽しくスポーツ実践ができるようになることを目標とする。</p> <p>成績評価方法(総合) 試験(筆記、実技ともに)は行わない。成績の評価には出席状況を最重要視する。また、毎回終了時に簡単な反省等を記載する授業記録カードと、授業への参加態度も加味する。</p> <p>教科書・参考書 参考書：ニュースポーツ事典、北川勇人、遊戯社、1991年</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工(夜)	単位	2単位	曜時間	月曜日1・2時限(夜間)
担当教官	KAMAR, Katherine				
<p>授業概要 この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p>授業一般目標 (1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。</p> <p>成績評価方法(総合) ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p>教科書・参考書 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p>メッセージ 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p>教官連絡先 HP:<a href="http://www.eigodaigaku.com">http://www.eigodaigaku.com</a>でのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	前期
対象学生	工(夜)	単位	2 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限(夜間)
担当教官	FARRAR, DAVID HANSON				

**授業概要** この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。

**授業一般目標** (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。

**成績評価方法(総合)** ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。

**教科書・参考書** 教科書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。

**メッセージ** 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。

**教官連絡先** HP:<http://www.eigodaigaku.com> でのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。

## 後期 - 夜間主コース

開設科目	数学 II	区分	講義	開設期	後期
対象学生	工(夜)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 1・2 時限(夜間)
担当教官	西山高弘				
<p>授業概要 数学 I で学んだ 1 変数関数の微分・積分に関する知識を発展させ、多変数、主に 2 変数関数の微分(偏微分)と積分(重積分)について考える。練習問題をなるべく多く解き、理解を深めるとともに応用力を養う。</p> <p>授業一般目標 偏微分や重積分の意味を理解し、実際に自分で計算できるようになること。</p> <p>成績評価方法(総合) 中間テスト: 30%、期末テスト: 70% 欠席が多い場合は「不可」となる。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 特に指定しない。</p> <p>メッセージ 授業中の演習では、問題を自ら考えて解き、できなかった箇所は後日に再度解いてみるなど、積極的に授業に参加することが望ましい。</p> <p>教官連絡先 研究室: 西研究棟</p> <p>備考 工学部 JABEE 対応科目</p>					

開設科目	理工学のための統計学	区分	講義	開設期	後期
対象学生	工(夜) 2 年	単位	2 単位	曜時限	金曜日 1・2 時限(夜間)
担当教官	久井守				
<p>授業概要 この授業では、統計学で扱われる内容の中から、重要と思われる事項をトピックス的に取り上げて解説する。できれば理工学分野の話題または応用例のいくつかを紹介したい。ただし体系的な解説は専門科目の「確率統計」にゆずりたい。</p> <p>授業一般目標 1) 統計資料の集計や分析の方法を理解する。 2) 確率分布、特に正規分布とその応用方法を理解する。 3) 区間推定の考え方とその方法を理解する。 4) 仮説検定の考え方とその方法を理解する。 5) 公式を機械的に適用するのではなく根本的な考え方を理解する。</p> <p>成績評価方法(総合) 中間試験 60 点、期末試験 100 点、演習 20 点、宿題 20 点、合計 200 点中 120 点以上で合格。ただし欠席と遅刻は厳しくチェックする。遅刻 2 回で欠席 1 回とカウントし、欠席 5 回以上になれば期末試験の受験資格を失う。</p> <p>教科書・参考書 教科書: 新統計入門, 小寺平治著, 裳華房, 2004 年 / 参考書: 統計学に関する図書は無数にあります。まずは図書館で調べてみて下さい。しかし最初は教科書をよく読んで下さい。そしてもっと詳しく勉強したいときに図書館で調べるとよいでしょう。高校の「確率統計」の教科書があればそれも参考になるかもしれません。</p> <p>メッセージ 教科書に従って授業を進めます。したがって教科書は必ず購入して下さい。教科書がないと単位をとるのは困難です。毎回の授業で簡単な演習を行います。十分に予習復習をして下さい。遅刻や欠席をしないようにして下さい。そうでないと授業についていけなくなる可能性大です。</p> <p>教官連絡先 TEL: 0836-85-9533 オフィスアワー: 木曜日 17:00 ~ 18:30 (予定) これ以外の時間でも結構です。気軽にドアをノックして下さい。</p>					

開設科目	English Speaking	区分	講義	開設期	後期
対象学生	工(夜)	単位	2 単位	曜時限	月曜日 1・2 時限(夜間)
担当教官	KAMAR, Katherine				
<p><b>授業概要</b> この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさを乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1) 身近なことからについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> ・2回以上(欠席届による公欠を含フクむ)欠席した学生の成績は不可となる。 ・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる(2回課題を提出しなかった場合は不可となる)。 ・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A)授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B)WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: 武本ティモシー著、仮題『English Speaking ー山大学生が自分を英語で表現するためのテキスト』という統一教科書。</p> <p><b>メッセージ</b> 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気が必要です。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。</p> <p><b>教官連絡先</b> HP:<a href="http://www.eigodaigaku.com">http://www.eigodaigaku.com</a> でのウェブカムを見てチャットルームを訪問してください。</p>					

開設科目	知的財産権論	区分	講義	開設期	後期
対象学生	工(夜)2年, 工(昼)3年	単位	2 単位	曜時限	水曜日 1・2 時限(夜間)
担当教官	木村友久, 望月信介, 山本豪紀, 高海克彦, 原田直幸, 中村秀明, 福代和宏, 堤 宏守				
<p><b>授業概要</b> 特許、実用新案、意匠、商標、著作権など知的財産権についての知識を実例を交えて講義する。また、特許調査などは、各自の専門分野を基礎とした実践的な演習を行う。</p> <p><b>授業一般目標</b> (1)特許、実用新案、意匠、商標、著作権など知的財産権についての基本的な知識を習得する。(2)特許調査などの演習を通じて、特許活用の実践的なスキルを習得する。</p> <p><b>成績評価方法(総合)</b> 特許調査、活用プランニングなどの演習で作成したレポートを、(1)知的財産権の基礎知識、(2)思考力、(3)特許調査のスキルの3つの観点から評価する。</p> <p><b>教科書・参考書</b> 教科書: 知的財産教本, 山口大学知的財産本部, EME パブリッシング, 2004年</p> <p><b>メッセージ</b> 現在、社会のあらゆる場所で、知的創造活動の成果を守り、活用することが要求されています。本講義を通して知的財産権についての知識を深めてください。なお、受講人数によっては特許情報検索演習の都合から受講制限する場合があります。また、詳細な授業計画は、講義開始時に指示しますので受講希望者は、初回に必ず出席して下さい。</p>					

フレッシュマンセミナー（新入生合宿）